

上越新幹線國係
埋藏文化財発掘調査報告

第 9 集

田端遺跡

(第 2 分冊)

1988

群馬県教育委員会
（助）群馬県埋藏文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第9集

田端遺跡

(第2分冊)

1988

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社

目 次

第V章 遺構と遺物

第4節 奈良平安時代の住居跡1

1 概 要	325
2 田端地区 A 区	326
3 田端地区 B 区	338
遺物観察表	551
写真図版	

分 冊 目 次

- 第1分冊 第I章 調査に至る経過
第II章 調査の方法と経過
第III章 遺跡の立地
第IV章 土 層
第V章 遺構と遺物
 第1節 遺構の概要
 第2節 現代～近代
 第3節 近世～中世
- 第3分冊 第V章 第5節 奈良平安時代の住居跡2
 第6節 奈良平安時代の溝・土坑・その他
- 第4分冊 第V章 第7節 古墳時代の住居跡
 第8節 古墳時代の溝・土坑・その他
 第9節 縄文時代の遺構と遺物
- 第5分冊 第VI章 考 察
 第1節 田端遺跡の変遷
 第2節 田端廃寺の推定—瓦類—
 第3節 田端遺跡出土の人骨
 第4節 田端遺跡出土の獣歯・獣骨
 第5節 田端遺跡出土の鉄滓分析
 第6節 田端遺跡出土の陶・磁器
 第7節 心洞寺と木部城
 第8節 遺構と家並み
- 結 語

図 版 目 次

本 文
対 照 頁

図版 72	田端地区 A 区第 2 面全景 (東から)	326
	1～3 号溝 (北から)	326
図版 73	田端地区 A 区 1 号住居跡 (1) (西から)	326
	田端地区 A 区 1 号住居跡 (2) カマド	326
図版 74	田端地区 A 区 2 号住居跡	336
図版 75	田端地区 B 区 71km 240m 付近全景 (1) (北西から)	325
	田端地区 B 区 71km 240m 付近全景 (2) (北から)	325
図版 76	田端地区 B 区 71km 240m 付近全景 (3) (南西から)	325
	71km 250～290m 付近調査風景 (東から)	325
図版 77	田端地区 B 区 71km 250～290m 付近 (西から)	325
図版 78	田端地区 B 区 71km 250～290m 付近 (東から)	325
図版 79	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (1) (東から)	325
	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (2) (東から)	325
図版 80	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (3) (東から)	325
	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (4) (東から)	325
図版 81	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (1) (西から)	325
	田端地区 B 区 71km 250m 付近 (2) (西から)	325
図版 82	田端地区 B 区 71km 285～315m 付近 (西から)	325
図版 83	田端地区 B 区 71km 285m 付近南側 (1) (西から)	325
	田端地区 B 区 71km 285m 付近南側 (2) (西から)	325
図版 84	田端地区 B 区 71km 285m 付近中央 (1) (西から)	325
	田端地区 B 区 71km 285m 付近中央 (2) (西から)	325
図版 85	田端地区 B 区 71km 285m 付近北側 (1) (西から)	325
	田端地区 B 区 71km 285m 付近北側 (2) (西から)	325
図版 86	田端地区 B 区 71km 285～315m (東から)	325
図版 87	田端地区 B 区 71km 285m 付近北側 (1) (東から)	325
	田端地区 B 区 71km 285m 付近南側 (2) (東から)	325
図版 88	田端地区 B 区 2 号住居跡 (西から)	338
	3 号住居跡及び住居下土坑 (西から)	338
図版 89	田端地区 B 区 3 号住居跡カマド (西から)	338
	4 A 号住居跡	342
図版 90	田端地区 B 区 4 B 号住居跡 (西から)	346
	5 号住居跡 (西から)	349
図版 91	田端地区 B 区 6 号住居跡 (西から)	350
	7 A・7 B 号住居跡 (1) (西から)	352
図版 92	田端地区 B 区 7 A・7 B 号住居跡 (2)	352
	田端地区 B 区 7 A・7 B 号住居跡 (3)	352
図版 93	田端地区 B 区 9 号住居跡 (西から)	359
	10 号住居跡 (1) カマド遺物出土状態	361
図版 94	田端地区 B 区 10 号住居跡 (2) (西から)	361
	田端地区 B 区 10 号住居跡 (3) カマド	361
図版 95	田端地区 B 区 11 号住居跡 (西から)	364
	12 号住居跡 (西から)	365
図版 96	田端地区 B 区 13 号住居跡 (西から)	370
	14・15 号住居跡 (西から)	373・375
図版 97	田端地区 B 区 16 号住居跡 (西から)	376
	17 号住居跡 (1) (西から)	378
図版 98	田端地区 B 区 17 号住居跡 (2) カマド	378
	19 号住居跡 (西から)	380
図版 99	田端地区 B 区 20 号住居跡 (西から)	383
	21 号住居跡カマド (西から)	384
図版 100	田端地区 B 区 22 号住居跡 (西から)	386
	23 号住居跡 (1) (西から)	386
図版 101	田端地区 B 区 23 号住居跡 (2) カマド	386
	24 号住居跡 (西から)	391
図版 102	田端地区 B 区 25 号住居跡 (西から)	394

	田端地区B区26号住居跡(1)(西から)	394
図版103	田端地区B区26号住居跡(2)カマド	394
	27号住居跡(西から)	397
図版104	田端地区B区29・31号住居跡(西から)	401・406
	29号住居跡カマド	401
図版105	田端地区B区30号住居跡(西から)	402
	31号住居跡(2)(南西から)	406
図版106	田端地区B区32号住居跡(1)(西から)	410
	田端地区B区32号住居跡(2)	410
図版107	田端地区B区33号住居跡(西から)	412
	35号住居跡(1)(西から)	416
図版108	田端地区B区35号住居跡(2)カマド前	416
	36号住居跡(西から)	421
図版109	田端地区B区37号住居跡(1)(西から)	421
	田端地区B区37号住居跡(2)カマド	421
図版110	田端地区B区38号住居跡(西から)	425
	40号住居跡(1)(西から)	428
図版111	田端地区B区40号住居跡(2)カマド	428
	41号住居跡(北から)	432
図版112	田端地区B区43号住居跡(西から)	434
	44号住居跡(西から)	439
図版113	田端地区B区45号住居跡(1)(西から)	439
	田端地区B区45号住居跡(2)カマド	439
図版114	田端地区B区46号住居跡(西から)	440
	47号住居跡(1)(南西から)	445
図版115	田端地区B区47号住居跡(2)カマド	445
	48号住居跡(1)(西から)	447
図版116	田端地区B区48号住居跡(2)Bカマド	447
	田端地区B区48号住居跡(3)Aカマド	447
図版117	田端地区B区52号住居跡(南西から)	453
	53号住居跡(南西から)	454
図版118	田端地区B区54号住居跡カマド	454
	55号住居跡(1)(西から)	457
図版119	田端地区B区55号住居跡(2)カマド	457
	56号住居跡(南から)	458
図版120	田端地区B区57号住居跡(西から)	462
	59号住居跡(西から)	464
図版121	田端地区B区60号住居跡(西から)	465
	61号住居跡(西から)	466
図版122	田端地区B区62号住居跡(北西から)	466
	63号住居跡(1)(西から)	467
図版123	田端地区B区63号住居跡(2)カマド	467
	64号住居跡(西から)	470
図版124	田端地区B区65号住居跡(西から)	471
	66号住居跡(1)(南西から)	472
図版125	田端地区B区66号住居跡(2)カマド	472
	67号住居跡(西から)	473
図版126	田端地区B区68号住居跡(西から)	474
	69号住居跡(1)(西から)	476
図版127	田端地区B区69号住居跡(2)カマド	476
	72号住居跡(西から)	480
図版128	田端地区B区71号住居跡(1)(南西から)	479
	田端地区B区71号住居跡(2)カマド	479
図版129	田端地区B区74号住居跡(南西から)	485
	77号住居跡(南西から)	486
図版130	田端地区B区78号住居跡(西から)	486
	80号住居跡(1)(北西から)	489
図版131	田端地区B区80号住居跡(2)カマド	489
	81・92号住居跡(西から)	491

図版132	田端地区B区87号住居跡（西から）	495
	89号住居跡（1）（西から）	495
図版133	田端地区B区89号住居跡（2）カマド	495
	95号住居跡カマド（西から）	496
図版134	田端地区B区98号住居跡（1）（西から）	500
	田端地区B区98号住居跡（2）カマド	500
図版135	田端地区B区99号住居跡（西から）	501
	100号住居跡（西から）	503
図版136	田端地区B区101号住居跡（南西から）	504
	102号住居跡（1）（北から）	509
図版137	田端地区B区102号住居跡（2）カマド	509
	103号住居跡（南西から）	511
図版138	田端地区B区104号住居跡（1）（南西から）	511
	田端地区B区104号住居跡（2）カマド	511
図版139	田端地区B区105号住居跡（1）（南西から）	516
	田端地区B区105号住居跡（2）カマド	516
図版140	田端地区B区107号住居跡（西から）	519
	109号住居跡（南西から）	520
図版141	田端地区B区110号住居跡（西から）	523
	111号住居跡（1）（西から）	528
図版142	田端地区B区111号住居跡（2）カマド	528
	112号住居跡（西から）	530
図版143	田端地区B区113号住居跡（1）（西から）	532
	田端地区B区113号住居跡（2）カマド	532
図版144	田端地区B区114号住居跡（西から）	533
	115号住居跡（南西から）	539
図版145	田端地区B区116号住居跡（南東から）	539
	118号住居跡（北から）	543
図版146	田端地区B区119号住居跡（南東から）	545
	120号住居跡（西から）	546
図版147	田端地区A区1号住居跡出土遺物（1）	329
図版148	田端地区A区1号住居跡出土遺物（2）	330
図版149	田端地区A区1号住居跡出土遺物（3）	331
図版150	田端地区A区1号住居跡出土遺物（4）	332
図版151	田端地区A区1号住居跡出土遺物（5）	333
図版152	田端地区A区1号住居跡出土遺物（6）	334
図版153	田端地区A区1号住居跡出土遺物（7）	335
図版154	田端地区A区2号住居跡出土遺物	337
	田端地区B区2号住居跡出土遺物	339
	3号住居跡出土遺物	341
図版155	田端地区B区4A号住居跡出土遺物（1）	344
図版156	田端地区B区4A号住居跡出土遺物（2）	345
図版157	田端地区B区4B号住居跡出土遺物	348
図版158	田端地区B区7号住居跡出土遺物	352
図版159	田端地区B区6号住居跡出土遺物・8号住居跡出土遺物	350・355
	10号住居跡出土遺物	363
図版160	田端地区B区9号住居跡出土遺物	361
図版161	田端地区B区11号住居跡出土遺物	366
	12号住居跡出土遺物（1）	368
図版162	田端地区B区12号住居跡出土遺物（2）	369
	13号住居跡出土遺物	372
図版163	田端地区B区14号住居跡出土遺物	374
図版164	田端地区B区16号住居跡出土遺物・17号住居跡出土遺物	377・379
	19号住居跡出土遺物	382
図版165	田端地区B区20号住居跡出土遺物	384
	23号住居跡出土遺物（1）	389
図版166	田端地区B区23号住居跡出土遺物（2）	390
図版167	田端地区B区24号住居跡出土遺物・25号住居跡出土遺物	392・395
図版168	田端地区B区26号住居跡出土遺物・27号住居跡出土遺物	397・399

図版168	田端地区B区28号住居跡出土遺物	401
図版169	田端地区B区29号住居跡出土遺物(1)	404
図版170	田端地区B区29号住居跡出土遺物(2)	405
	30号住居跡出土遺物(1)	407
図版171	田端地区B区30号住居跡出土遺物(2)・31号住居跡出土遺物	408・409
	32号住居跡出土遺物	411
図版172	田端地区B区33号住居跡出土遺物(1)	414
図版173	田端地区B区33号住居跡出土遺物(2)	415
図版174	田端地区B区34号住居跡出土遺物	417
	35号住居跡出土遺物(1)	419
図版175	田端地区B区35号住居跡出土遺物(2)	420
図版176	田端地区B区37号住居跡出土遺物	424
図版177	田端地区B区38号住居跡出土遺物	427
	40号住居跡出土遺物(1)	430
図版178	田端地区B区40号住居跡出土遺物(2)	431
	41号住居跡出土遺物・42号住居跡出土遺物	433・434
図版179	田端地区B区43号住居跡出土遺物(1)	437
図版180	田端地区B区43号住居跡出土遺物(2)	438
	44号住居跡出土遺物	440
図版181	田端地区B区45号住居跡出土遺物・46号住居跡出土遺物	443・444
	47号住居跡出土遺物	448
図版182	田端地区B区48号住居跡出土遺物(1)	451
図版183	田端地区B区48号住居跡出土遺物(2)	452
図版184	田端地区B区53号住居跡出土遺物・54号住居跡出土遺物	455・457
	55号住居跡出土遺物	459
図版185	田端地区B区56号住居跡出土遺物・57号住居跡出土遺物	461・463
	65号住居跡出土遺物	472
図版186	田端地区B区63号住居跡出土遺物	469
図版187	田端地区B区64号住居跡出土遺物・66号住居跡出土遺物	471・473
	67号住居跡出土遺物・68号住居跡出土遺物	474・475
図版188	田端地区B区69号住居跡出土遺物・71号住居跡出土遺物	478・482
図版189	田端地区B区73号住居跡出土遺物・78号住居跡出土遺物	484・489
	80号住居跡出土遺物	491
	81号住居跡出土遺物(1)	493
図版190	田端地区B区81号住居跡出土遺物(2)・89号住居跡出土遺物	493・498
図版191	田端地区B区92号住居跡出土遺物・95号住居跡出土遺物	493・501
図版192	田端地区B区98号住居跡出土遺物・100号住居跡出土遺物	503・507
図版193	田端地区B区101号住居跡出土遺物	509
図版194	田端地区B区102号住居跡出土遺物・103号住居跡出土遺物	511・514
図版195	田端地区B区104号住居跡出土遺物	516
	105号住居跡出土遺物(1)	518
図版196	田端地区B区105号住居跡出土遺物(2)	519
	109号住居跡出土遺物(1)	522
図版197	田端地区B区109号住居跡出土遺物(2)	523
	110号住居跡出土遺物(1)	526
図版198	田端地区B区110号住居跡出土遺物(2)	527
	111号住居跡出土遺物(1)	529
図版199	田端地区B区111号住居跡出土遺物(2)	529
	112号住居跡出土遺物(1)	532
図版200	田端地区B区112号住居跡出土遺物(2)	533
	114号住居跡出土遺物	538
図版201	田端地区B区113号住居跡出土遺物・115号住居跡出土遺物	535・539
図版202	田端地区B区116号住居跡出土遺物	541
図版203	田端地区B区118号住居跡出土遺物	545

挿 図 目 次

第302図	田端地区B区調査前の様子・写真	323
第303図	田端地区A区1号住居跡遺物・写真	326
第304図	田端地区A区1号住居跡(1)	327
第305図	田端地区A区1号住居跡(2)	328
第306図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(1)	329
第307図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(2)	330
第308図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(3)	331
第309図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(4)	332
第310図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(5)	333
第311図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(6)	334
第312図	田端地区A区1号住居跡出土遺物(7)	335
第313図	田端地区A区2号住居跡・写真	336
第314図	田端地区A区2号住居跡	336
第315図	田端地区A区2号住居跡出土遺物	337
第316図	田端地区B区2号住居跡カマド・写真	337
第317図	田端地区B区2号住居跡・写真	338
第318図	田端地区B区2号住居跡	339
第319図	田端地区B区2号住居跡出土遺物	339
第320図	田端地区B区3号住居跡	340
第321図	田端地区B区3号住居跡・写真	341
第322図	田端地区B区3号住居跡出土遺物	341
第323図	田端地区B区4A号住居跡・写真	342
第324図	田端地区B区4A号住居跡	343
第325図	田端地区B区4A号住居跡出土遺物(1)	344
第326図	田端地区B区4A号住居跡出土遺物(2)	345
第327図	田端地区B区4B号住居跡	346
第328図	田端地区B区4B号住居跡・写真	347
第329図	田端地区B区5号住居跡・写真	347
第330図	田端地区B区4B号住居跡出土遺物	348
第331図	田端地区B区5号住居跡	349
第332図	田端地区B区5号住居跡出土遺物	350
第333図	田端地区B区6号住居跡・写真	350
第334図	田端地区B区6号住居跡	351
第335図	田端地区B区6号住居跡出土遺物	352
第336図	田端地区B区7A・7B号住居跡・写真	353
第337図	田端地区B区7A・7B号住居跡(1)	354
第338図	田端地区B区7A・7B号住居跡(2)	355
第339図	田端地区B区7A・7B号住居跡出土遺物(1)	356
第340図	田端地区B区7A・7B号住居跡出土遺物(2)	357
第341図	田端地区B区8A・8B号住居跡・写真	357
第342図	田端地区B区8A・8B号住居跡	358
第343図	田端地区B区8A・8B号住居跡出土遺物	358
第344図	田端地区B区9号住居跡・写真	359
第345図	田端地区B区9号住居跡	360
第346図	田端地区B区9号住居跡出土遺物	361
第347図	田端地区B区10号住居跡	362
第348図	田端地区B区10号住居跡・写真	363
第349図	田端地区B区10号住居跡出土遺物	363
第350図	田端地区B区11号住居跡・写真	364
第351図	田端地区B区11号住居跡	365
第352図	田端地区B区11号住居跡出土遺物	366
第353図	田端地区B区12号住居跡・写真	366
第354図	田端地区B区12号住居跡	367
第355図	田端地区B区12号住居跡出土遺物(1)	368
第356図	田端地区B区12号住居跡出土遺物(2)	369

第357图	田端地区B区13号住居跡・写真	370
第358图	田端地区B区13号住居跡	371
第359图	田端地区B区13号住居跡出土遺物	372
第360图	田端地区B区14号住居跡	373
第361图	田端地区B区14号住居跡出土遺物	374
第362图	田端地区B区15号住居跡	375
第363图	田端地区B区16号住居跡	376
第364图	田端地区B区17号住居跡・写真	377
第365图	田端地区B区16号住居跡出土遺物	377
第366图	田端地区B区17号住居跡	378
第367图	田端地区B区17号住居跡出土遺物	379
第368图	田端地区B区18号住居跡	379
第369图	田端地区B区19号住居跡・写真	380
第370图	田端地区B区19号住居跡	381
第371图	田端地区B区19号住居跡出土遺物	382
第372图	田端地区B区20号住居跡	383
第373图	田端地区B区20号住居跡出土遺物	384
第374图	田端地区B区21号住居跡	384
第375图	田端地区B区21号住居跡出土遺物	385
第376图	田端地区B区22号住居跡	385
第377图	田端地区B区22号住居跡出土遺物	386
第378图	田端地区B区23号住居跡遺物出土状態・写真	387
第379图	田端地区B区23号住居跡遺物出土状態・写真	387
第380图	田端地区B区23号住居跡	388
第381图	田端地区B区23号住居跡出土遺物(1)	389
第382图	田端地区B区23号住居跡出土遺物(2)	390
第383图	田端地区B区24号住居跡	391
第384图	田端地区B区24号住居跡出土遺物	392
第385图	田端地区B区24号住居跡・写真	393
第386图	田端地区B区24号住居跡・写真	393
第387图	田端地区B区25号住居跡・写真	394
第388图	田端地区B区25号住居跡	395
第389图	田端地区B区25号住居跡出土遺物	395
第390图	田端地区B区26号住居跡・写真	396
第391图	田端地区B区26号住居跡	396
第392图	田端地区B区26号住居跡出土遺物	397
第393图	田端地区B区27号住居跡	398
第394图	田端地区B区27号住居跡・写真	399
第395图	田端地区B区27号住居跡出土遺物	399
第396图	田端地区B区28号住居跡	400
第397图	田端地区B区28号住居跡出土遺物	401
第398图	田端地区B区29号住居跡	402
第399图	田端地区B区29号住居跡・写真	403
第400图	田端地区B区29号住居跡・写真	403
第401图	田端地区B区29号住居跡出土遺物(1)	404
第402图	田端地区B区29号住居跡出土遺物(2)	405
第403图	田端地区B区30号住居跡	406
第404图	田端地区B区30号住居跡出土遺物(1)	407
第405图	田端地区B区31号住居跡・写真	408
第406图	田端地区B区30号住居跡出土遺物(2)	408
第407图	田端地区B区31号住居跡	409
第408图	田端地区B区31号住居跡出土遺物	409
第409图	田端地区B区32号住居跡	410
第410图	田端地区B区32号住居跡・写真	411
第411图	田端地区B区32号住居跡出土遺物	411
第412图	田端地区B区33号住居跡	412
第413图	田端地区B区33・34号住居跡・写真	413
第414图	田端地区B区33号住居跡カマド・写真	413
第415图	田端地区B区33号住居跡出土遺物(1)	414

第416回	田端地区B区33号住居跡出土遺物(2)	415
第417回	田端地区B区34号住居跡	416
第418回	田端地区B区35号住居跡・写真	417
第419回	田端地区B区34号住居跡出土遺物	417
第420回	田端地区B区35号住居跡	418
第421回	田端地区B区35号住居跡出土遺物(1)	419
第422回	田端地区B区35号住居跡出土遺物(2)	420
第423回	田端地区B区36号住居跡	421
第424回	田端地区B区37号住居跡	422
第425回	田端地区B区37号住居跡・写真	423
第426回	田端地区B区37号住居跡・写真	423
第427回	田端地区B区37号住居跡出土遺物	424
第428回	田端地区B区38号住居跡・写真	425
第429回	田端地区B区38号住居跡	426
第430回	田端地区B区38号住居跡出土遺物	427
第431回	田端地区B区40号住居跡・写真	428
第432回	田端地区B区40号住居跡	429
第433回	田端地区B区40号住居跡出土遺物(1)	430
第434回	田端地区B区40号住居跡出土遺物(2)	431
第435回	田端地区B区41号住居跡・写真	432
第436回	田端地区B区41号住居跡	433
第437回	田端地区B区41号住居跡出土遺物	433
第438回	田端地区B区42号住居跡	434
第439回	田端地区B区42号住居跡出土遺物	434
第440回	田端地区B区43号住居跡(1)	435
第441回	田端地区B区43号住居跡・写真	436
第442回	田端地区B区43号住居跡(2)	436
第443回	田端地区B区43号住居跡出土遺物(1)	437
第444回	田端地区B区43号住居跡出土遺物(2)	438
第445回	田端地区B区44号住居跡	439
第446回	田端地区B区44号住居跡出土遺物	440
第447回	田端地区B区45号住居跡(1)	441
第448回	田端地区B区45号住居跡(2)	442
第449回	田端地区B区45号住居跡出土遺物	443
第450回	田端地区B区46号住居跡	444
第451回	田端地区B区46号住居跡出土遺物	444
第452回	田端地区B区47号住居跡・写真	445
第453回	田端地区B区47号住居跡(1)	446
第454回	田端地区B区47号住居跡(2)	447
第455回	田端地区B区47号住居跡・写真	448
第456回	田端地区B区47号住居跡出土遺物	448
第457回	田端地区B区48号住居跡カマド・写真	449
第458回	田端地区B区48号住居跡カマド・写真	449
第459回	田端地区B区48号住居跡	450
第460回	田端地区B区48号住居跡出土遺物(1)	451
第461回	田端地区B区48号住居跡・写真	452
第462回	田端地区B区48号住居跡出土遺物(2)	452
第463回	田端地区B区50号住居跡	453
第464回	田端地区B区51号住居跡	453
第465回	田端地区B区52号住居跡	454
第466回	田端地区B区53号住居跡	455
第467回	田端地区B区53号住居跡出土遺物	455
第468回	田端地区B区54号住居跡・写真	456
第469回	田端地区B区54号住居跡	456
第470回	田端地区B区54号住居跡出土遺物	457
第471回	田端地区B区55号住居跡	458
第472回	田端地区B区55号住居跡・写真	459
第473回	田端地区B区55号住居跡出土遺物	459
第474回	田端地区B区56号住居跡	460

第475图	田端地区B区56号住居跡・写真	461
第476图	田端地区B区56号住居跡出土遺物	461
第477图	田端地区B区57号住居跡	462
第478图	田端地区B区57号住居跡出土遺物	463
第479图	田端地区B区58号住居跡	463
第480图	田端地区B区59号住居跡	464
第481图	田端地区B区59号住居跡出土遺物	464
第482图	田端地区B区60号住居跡	465
第483图	田端地区B区61号住居跡	466
第484图	田端地区B区61号住居跡出土遺物	466
第485图	田端地区B区63号住居跡・写真	467
第486图	田端地区B区62号住居跡	467
第487图	田端地区B区63号住居跡	468
第488图	田端地区B区63号住居跡出土遺物	469
第489图	田端地区B区64号住居跡	470
第490图	田端地区B区64号住居跡出土遺物	471
第491图	田端地区B区65号住居跡	471
第492图	田端地区B区65号住居跡出土遺物	472
第493图	田端地区B区66号住居跡	473
第494图	田端地区B区66号住居跡出土遺物	473
第495图	田端地区B区67号住居跡	474
第496图	田端地区B区67号住居跡出土遺物	474
第497图	田端地区B区68号住居跡	475
第498图	田端地区B区68号住居跡出土遺物	475
第499图	田端地区B区69号住居跡・写真	476
第500图	田端地区B区69号住居跡	477
第501图	田端地区B区69号住居跡出土遺物	478
第502图	田端地区B区72号住居跡・写真	479
第503图	田端地区B区70・72号住居跡	480
第504图	田端地区B区72号住居跡出土遺物	480
第505图	田端地区B区71号住居跡	481
第506图	田端地区B区71号住居跡・写真	482
第507图	田端地区B区71号住居跡出土遺物	482
第508图	田端地区B区71号住居跡・写真	483
第509图	田端地区B区73号住居跡	483
第510图	田端地区B区73号住居跡出土遺物	484
第511图	田端地区B区74号住居跡	485
第512图	田端地区B区74号住居跡出土遺物	486
第513图	田端地区B区77号住居跡	486
第514图	田端地区B区78号住居跡(1)	487
第515图	田端地区B区78号住居跡・写真	488
第516图	田端地区B区78号住居跡(2)	488
第517图	田端地区B区80号住居跡・写真	489
第518图	田端地区B区78号住居跡出土遺物	489
第519图	田端地区B区80号住居跡	490
第520图	田端地区B区80号住居跡出土遺物	491
第521图	田端地区B区81・92号住居跡・写真	492
第522图	田端地区B区81・92号住居跡	492
第523图	田端地区B区81・92号住居跡出土遺物	493
第524图	田端地区B区84号住居跡	494
第525图	田端地区B区85号住居跡	495
第526图	田端地区B区87号住居跡	496
第527图	田端地区B区89号住居跡	497
第528图	田端地区B区89号住居跡出土遺物	498
第529图	田端地区B区89号住居跡・写真	499
第530图	田端地区B区95号住居跡・写真	499
第531图	田端地区B区95号住居跡	500
第532图	田端地区B区95号住居跡出土遺物	501
第533图	田端地区B区98号住居跡	502

第534図	田端地区B区98号住居跡出土遺物	503
第535図	田端地区B区99号住居跡	504
第536図	田端地区B区100号住居跡・写真	505
第537図	田端地区B区99号住居跡出土遺物	505
第538図	田端地区B区100号住居跡	506
第539図	田端地区B区100号住居跡出土遺物	507
第540図	田端地区B区101号住居跡・写真	508
第541図	田端地区B区101号住居跡	508
第542図	田端地区B区101号住居跡出土遺物	509
第543図	田端地区B区102号住居跡カマド・写真	510
第544図	田端地区B区102号住居跡	510
第545図	田端地区B区102号住居跡出土遺物	511
第546図	田端地区B区103号住居跡・写真	512
第547図	田端地区B区103号住居跡・写真	512
第548図	田端地区B区103号住居跡	513
第549図	田端地区B区103号住居跡出土遺物	514
第550図	田端地区B区104号住居跡カマド・写真	515
第551図	田端地区B区104号住居跡	515
第552図	田端地区B区104号住居跡出土遺物	516
第553図	田端地区B区105号住居跡・写真	517
第554図	田端地区B区105号住居跡	517
第555図	田端地区B区105号住居跡出土遺物(1)	518
第556図	田端地区B区107号住居跡・写真	519
第557図	田端地区B区105号住居跡出土遺物(2)	519
第558図	田端地区B区107号住居跡	520
第559図	田端地区B区107号住居跡出土遺物	520
第560図	田端地区B区109号住居跡・写真	521
第561図	田端地区B区109号住居跡	521
第562図	田端地区B区109号住居跡出土遺物(1)	522
第563図	田端地区B区109号住居跡出土遺物(2)	523
第564図	田端地区B区110号住居跡・写真	524
第565図	田端地区B区110号住居跡・写真	524
第566図	田端地区B区110号住居跡	525
第567図	田端地区B区110号住居跡出土遺物(1)	526
第568図	田端地区B区110号住居跡出土遺物(2)	527
第569図	田端地区B区111号住居跡・写真	528
第570図	田端地区B区111号住居跡	528
第571図	田端地区B区111号住居跡出土遺物	529
第572図	田端地区B区112号住居跡カマド・写真	530
第573図	田端地区B区112号住居跡	531
第574図	田端地区B区112号住居跡出土遺物(1)	532
第575図	田端地区B区112号住居跡出土遺物(2)	533
第576図	田端地区B区113号住居跡・写真	534
第577図	田端地区B区113号住居跡	534
第578図	田端地区B区113号住居跡出土遺物	535
第579図	田端地区B区113号住居跡・写真	536
第580図	田端地区B区114号住居跡	536
第581図	田端地区B区114号住居跡・写真	537
第582図	田端地区B区114号住居跡・写真	537
第583図	田端地区B区114号住居跡出土遺物	538
第584図	田端地区B区115号住居跡	538
第585図	田端地区B区115号住居跡出土遺物	539
第586図	田端地区B区116号住居跡	540
第587図	田端地区B区116号住居跡出土遺物(1)	541
第588図	田端地区B区116号住居跡出土遺物(2)	542
第589図	田端地区B区118号住居跡	543
第590図	田端地区B区116号住居跡・写真	544
第591図	田端地区B区118号住居跡・写真	544
第592図	田端地区B区118号住居跡出土遺物	545

第593图	田端地区B区119号住居跡	546
第594图	田端地区B区120号住居跡・写真	547
第595图	田端地区B区120号住居跡	547
第596图	田端地区B区120号住居跡出土遺物	547

第V章 第4節

奈良平安時代の住居跡 1



第302図 田端地区B区調査前の様子

第4節 奈良平安時代の住居跡1

1 概 要

本分冊では田端地区A区の住居跡、田端地区B区の住居跡を報告する。両地区とも古墳時代の住居跡を検出していない。B区の乗る微高地はA区付近から高まりをもち始め、B区西半付近で再び落ち込んでゆく。A区とB区との境とした道路の下部には奈良時代ころの溝である20号溝があったとみられる。この溝は台地の縁辺を区切る溝で、中世以降には埋没して道路になっていた可能性がある。A区で1号石敷遺構としたものは、後日の側道調査によってB区16号溝の一部であったと考えられるようになった。16号溝で多量に出土した瓦と似ているものが、田端地区住居のカマド構築材の一部を構成している。瓦の葺かれた建物は、このころすでにその機能を失っていたと考えられる。

田端地区A区

2軒の住居跡を検出している。1号住居跡は多量の土器とともに、カマド内から瓦の破片・須恵器大型甕破片、凝灰岩を出土した。遺物は比較的まとまった時期を示している。2号住居跡はやや新しく、11世紀代とみられる。

田端地区B区

B区では欠番とした住居も含めて162軒の住居跡を検出し、奈良～平安時代には本地区が居住地として住み継がれたことを示している。重複の激しい地区であるため、番号を付けたものが、調査の進行に伴って欠番とされたり、住居の大半を後世の破壊によって失い、詳細不明の遺構もある。ごくおおざっぱに言えば、調査は東から西へ向かって進めたため、番号の若い住居は東寄りに位置し、より大きい番号の住居は西寄りに位置する。逆に比較的古い8世紀代～9世紀代の住居は西寄りに検出し、10世紀代～11世紀代の住居は東寄りに位置する。このことは、本微高地の居住者たちが次第に東側の低地に向かって進出したことを思わせる。この低地は下部に水田跡を遺存している可能性が高く、心洞寺の台地の西端に位置する田端地区E区の平安時代の住居分布と対照的である。

なお、本分冊では2号～120号までを報告する。120号で区切るのは、単に報告書の厚さという物理的な事情によるものである。

2 田端地区A区

田端A区第1号住居跡（第303～312図、図版73・147～153）

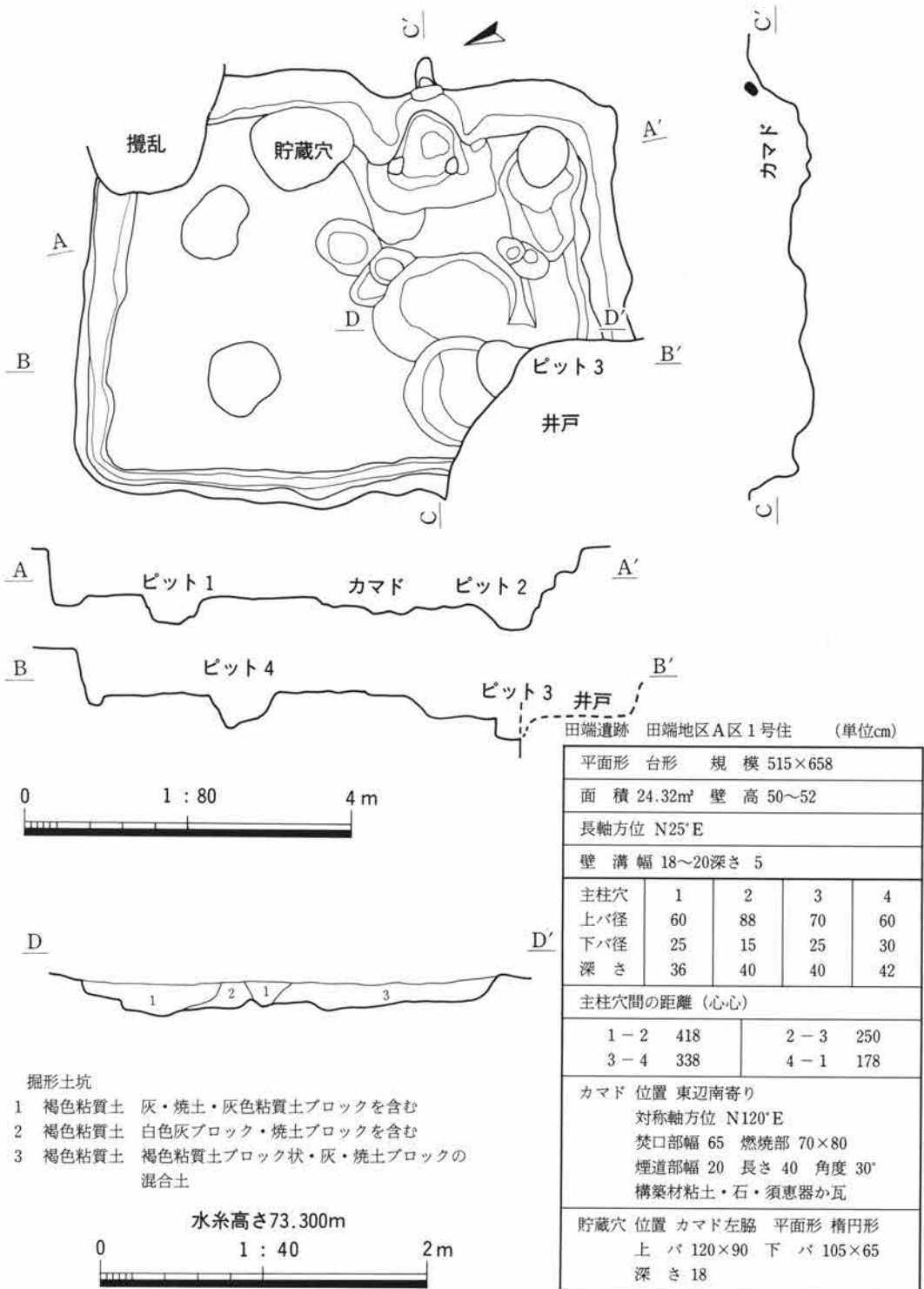
Nライン・71km205m付近で検出した。B区の台地縁より東の低地へ30mほどのところに位置し、やや大形である。確認面は第6層である。1号井戸と重複しており、1号井戸調査のさい発見した。本住居が旧である。覆土は自然に堆積しているが、水性堆積の細砂土・粘質土がみられる。埋没の過程で小規模な水害、あるいは湿地化があったと考えられる。壁はほぼ垂直にたちあがり、現状で70cmである。東辺から南東隅・南辺にかけては、一段ステップをもつ。上屋構造や室内の機能を考えるうえで参考にしたい。床面はカマド前を中心とした南東部から住居中央部にかけてわずか高まり、堅い面が確認できた。周辺部は軟弱であった。支柱穴はピット1～4で南東の柱は住居隅に寄る。壁溝は北辺と西辺で確認できた。カマドは東辺やや南よりに位置する。左右の袖をつくりだして燃烧部の奥壁と東辺外側がそろう。燃烧部奥に凝灰岩の切り石を据えて煙道としている。煙道は角度が急で、引き出しは短いタイプである。カマド内から前部にかけて川原石・凝灰岩切り石・須恵器大甕片・布目瓦（丸瓦）が散布した。煙道を含むカマド構築材として使用したものであろう。貯蔵穴はカマド左側にあり、浅い楕円形である。掘形は南辺に溝状の土坑、中央から南にかけて円形で浅い土坑が検出できた。

遺物はカマド・貯蔵穴を中心にして全体に散布した状態であった。須恵器甕・瓶・杯・椀・皿、土師器甕（コの字状口縁）・内黒椀、灰釉陶器椀、布目瓦、土錘、刀子等鉄製品が出土している。全体に遺物量が多く、土錘・鉄製品が多いことが注意をひく。

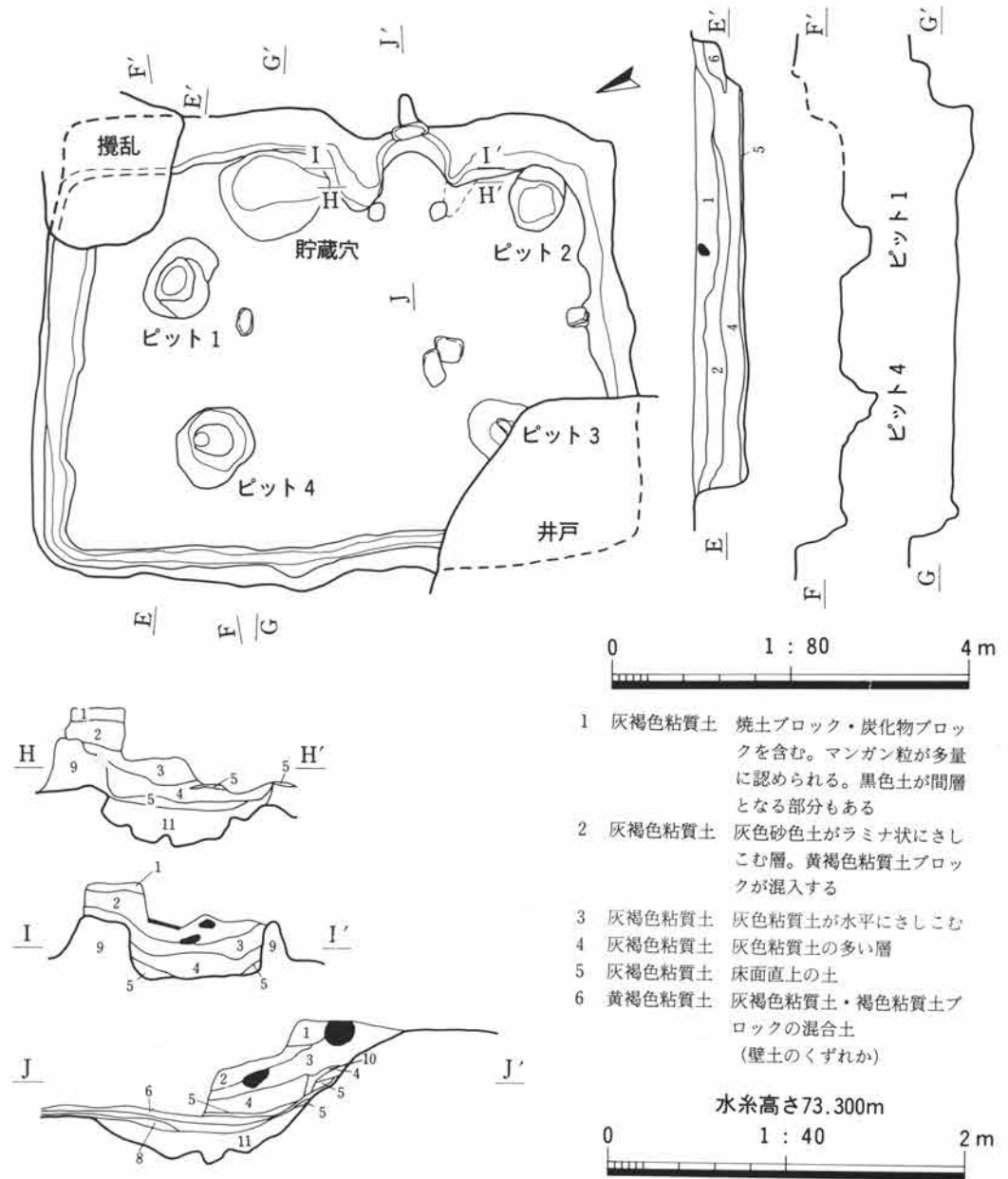
時期は遺物からみて9世紀中頃と考える。



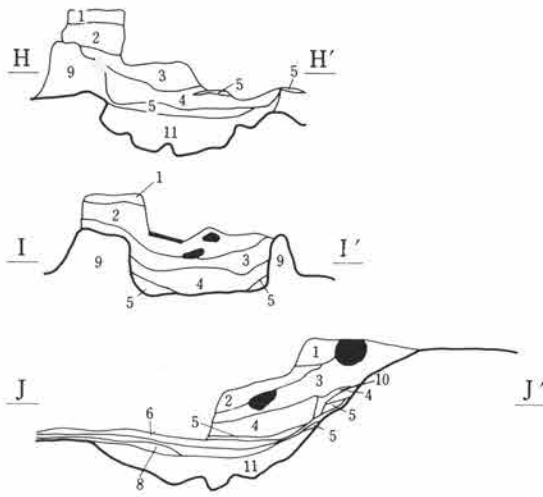
第303図 田端地区A区1号住居跡遺物



第304図 田端地区A区1号住居跡 (1)



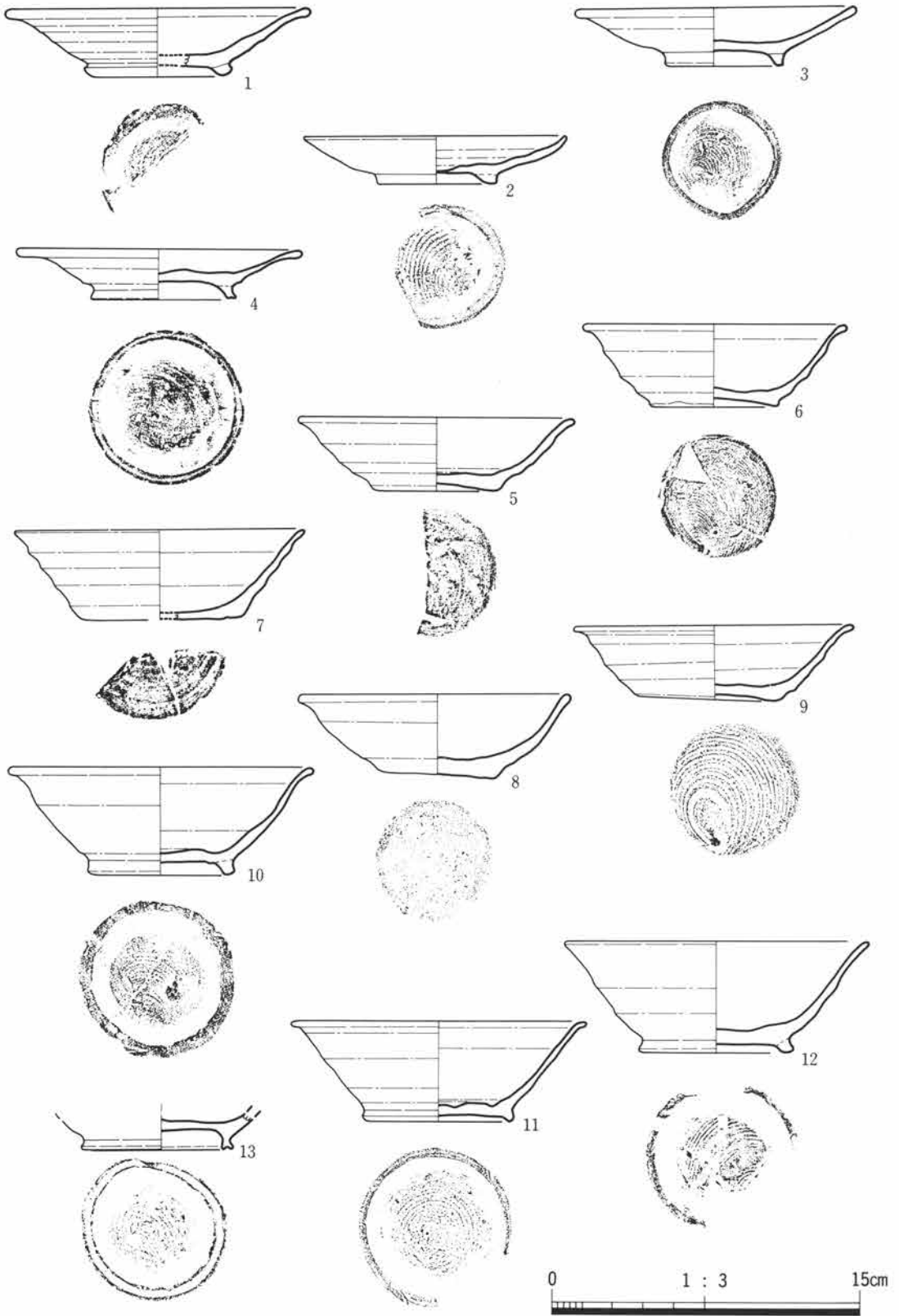
- 1 灰褐色粘質土 焼土ブロック・炭化物ブロックを含む。マンガン粒が多量に認められる。黒色土が間層となる部分もある
- 2 灰褐色粘質土 灰色砂色土がラミナ状にさしこむ層。黄褐色粘質土ブロックが混入する
- 3 灰褐色粘質土 灰色粘質土が水平にさしこむ
- 4 灰褐色粘質土 灰色粘質土の多い層
- 5 灰褐色粘質土 床面直上の土
- 6 黄褐色粘質土 灰褐色粘質土・褐色粘質土ブロックの混合土
(壁土のくずれか)



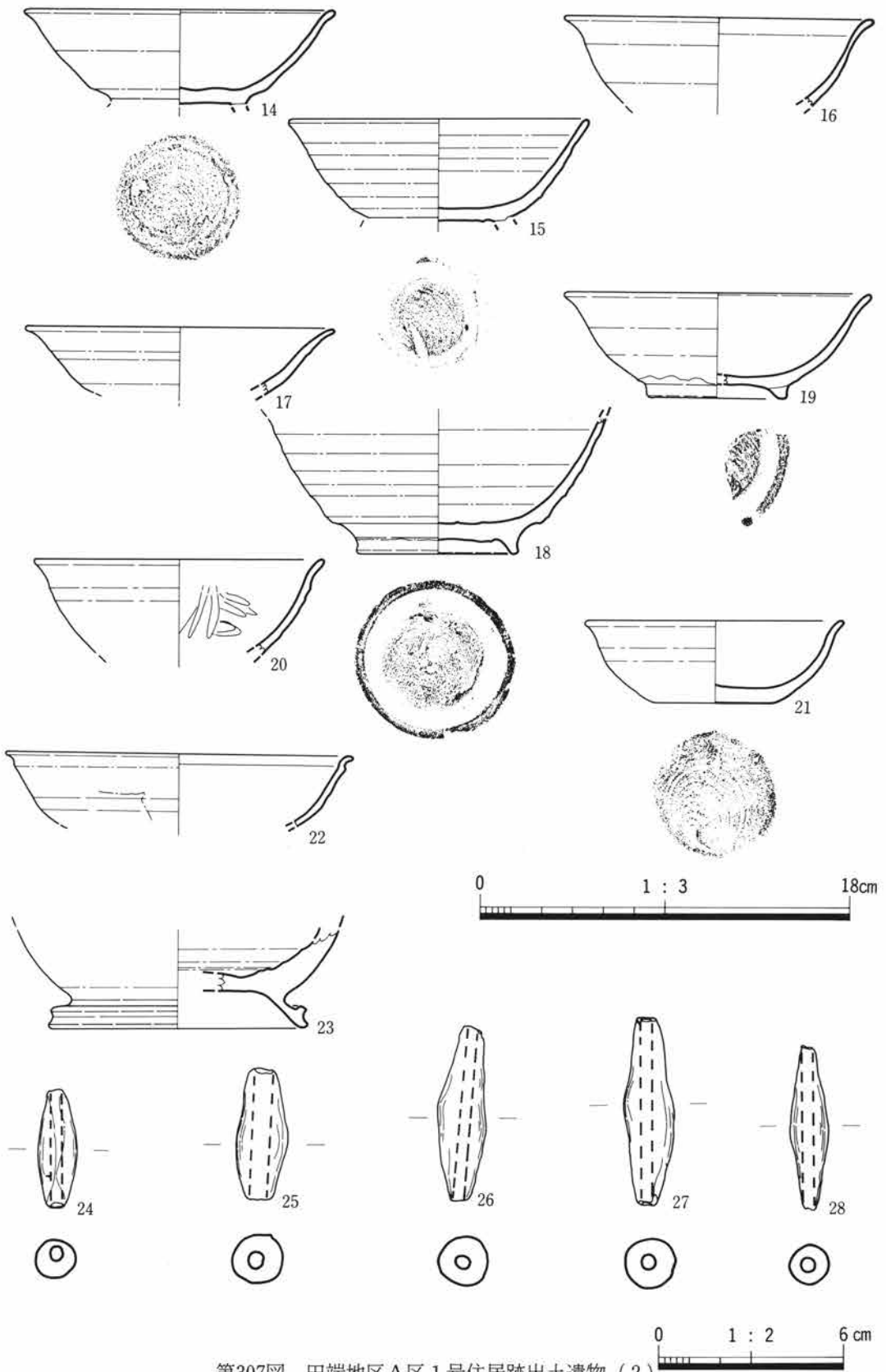
カマド

- 1 灰黄褐色粘質土 黄褐色粘質土(鉄分の層)ブロックが多く混入する。炭化物・焼土ブロックを含む
- 2 灰褐色粘質土 暗褐色粘質土・黄褐色粘質土・炭化物・焼土ブロックを含む
- 3 灰褐色粘質土 暗褐色粘質土・明褐色粘質土・焼土ブロックの多い層
- 4 明灰褐色粘質土 炭化物・灰・焼土を多く含む層
- 5 灰・炭化物・焼土ブロックの層
- 6 黄褐色土 ロームブロック・灰・炭化物の混合土をたたいた層・上の床面・ハリ床部分
- 7 黄褐色土 第2床面の土
- 8 黄褐色土 第3床面の土
- 9 暗褐色粘質土 チョコレート色の土。カマド袖
- 10 灰褐色粘質土ブロック
- 11 灰褐色粘質土 第4床面の土。および掘形の土(明褐色粘質土・焼土・灰・炭化物の混合土)

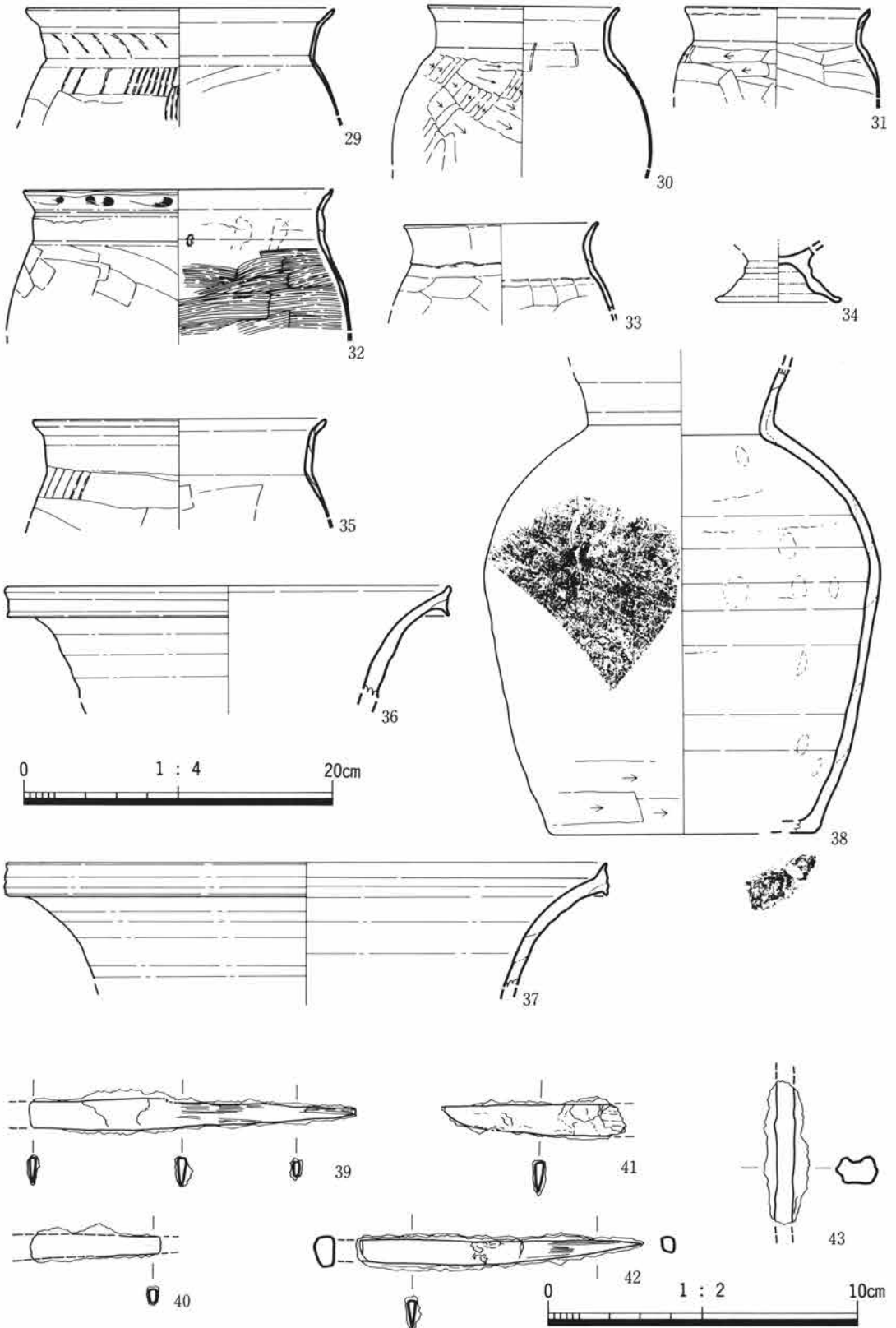
第305図 田端地区A区1号住居跡(2)



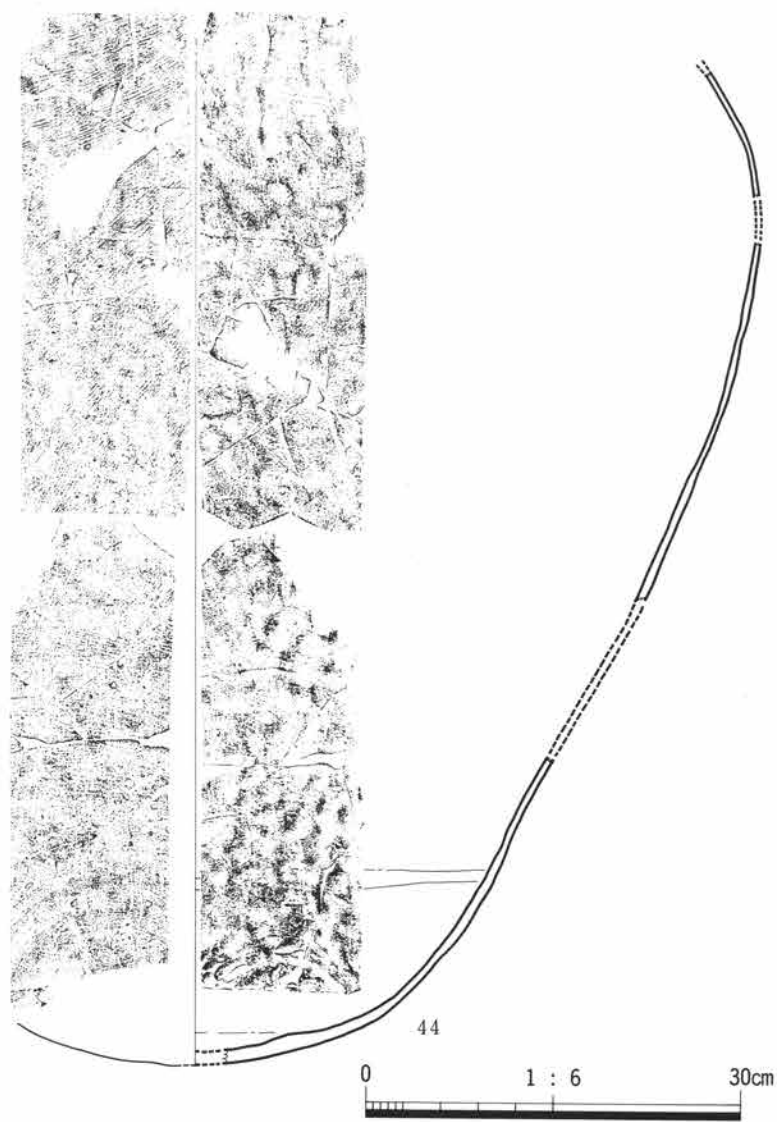
第306図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(1)



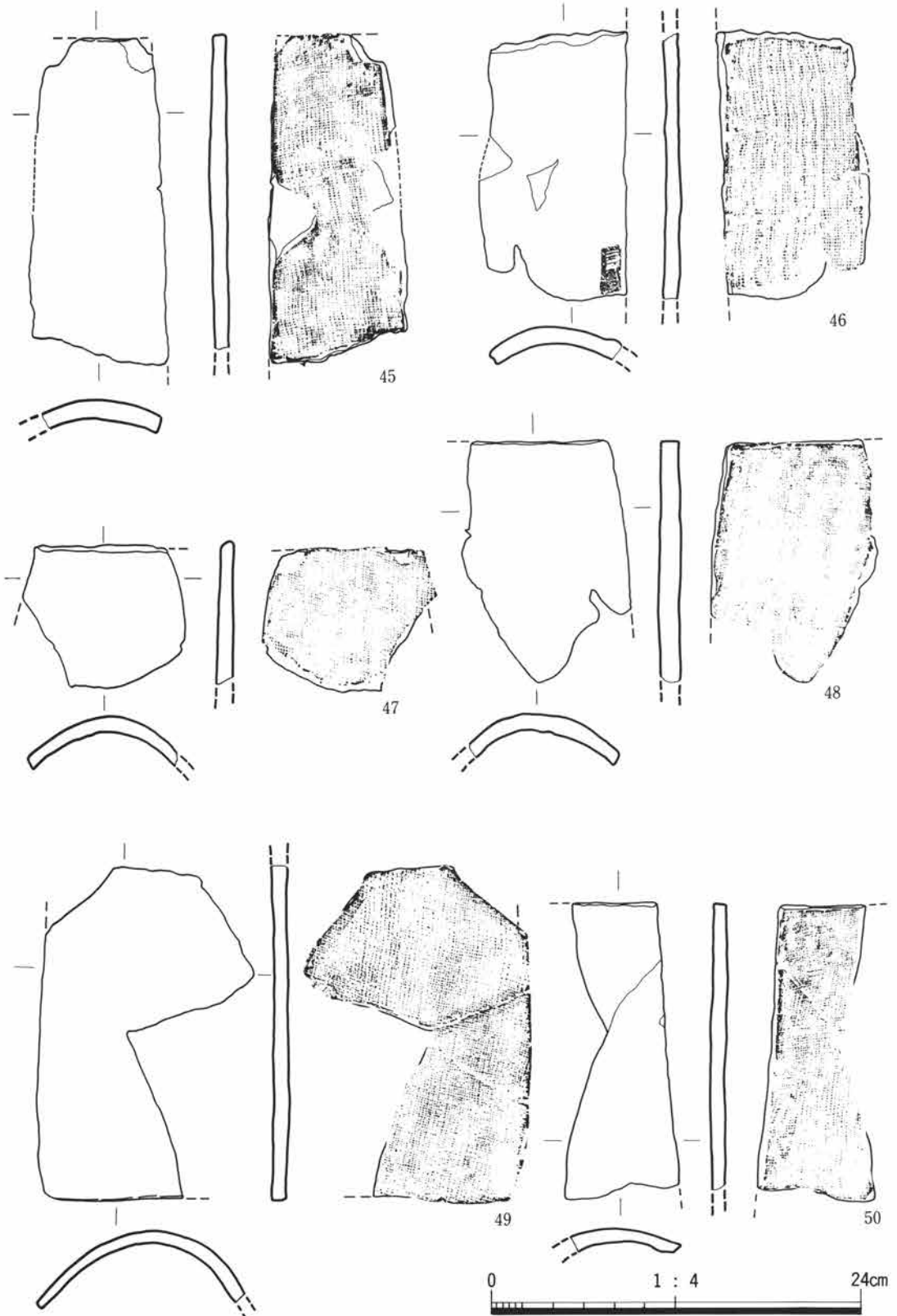
第307図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(2)



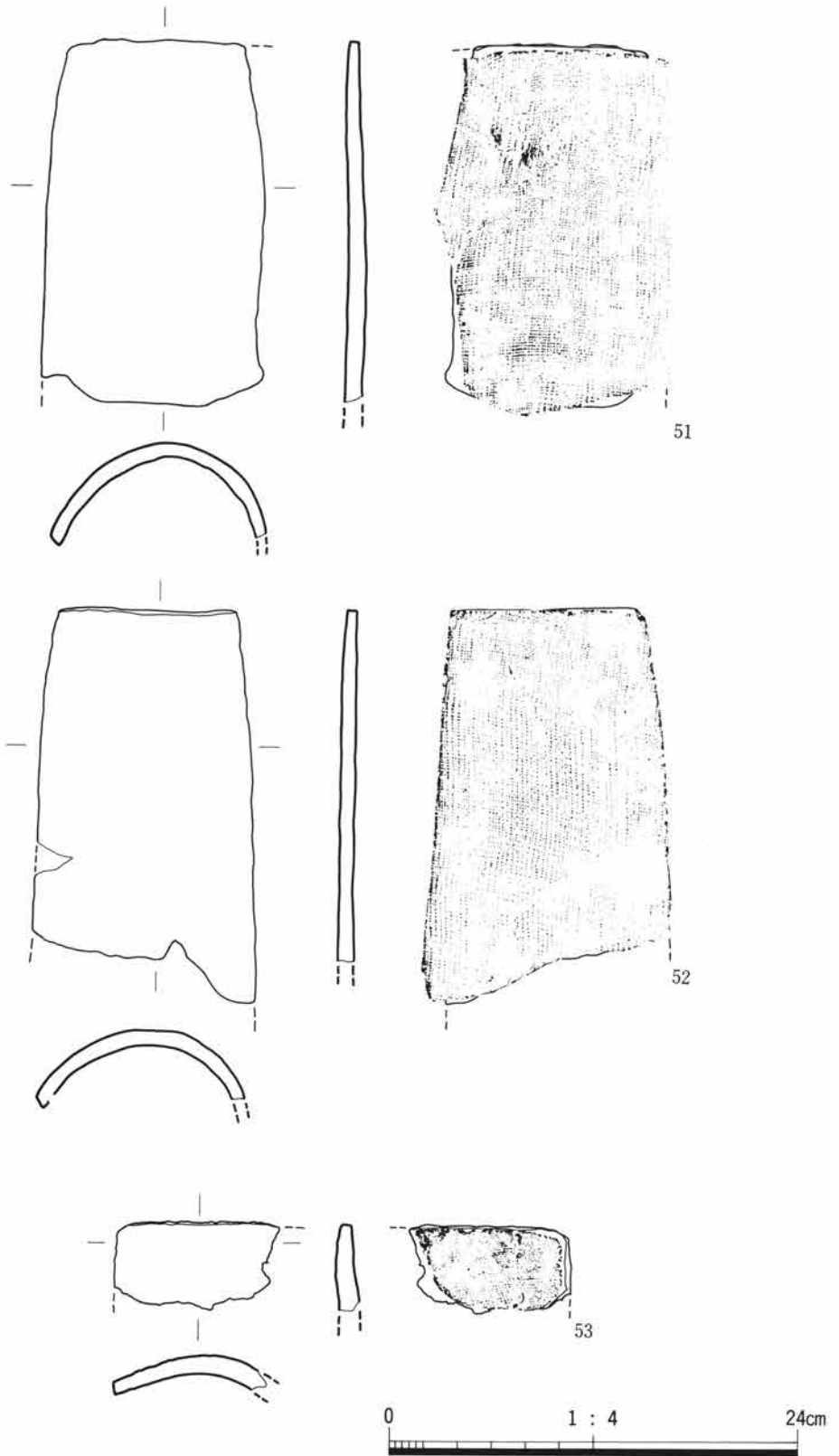
第308図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(3)



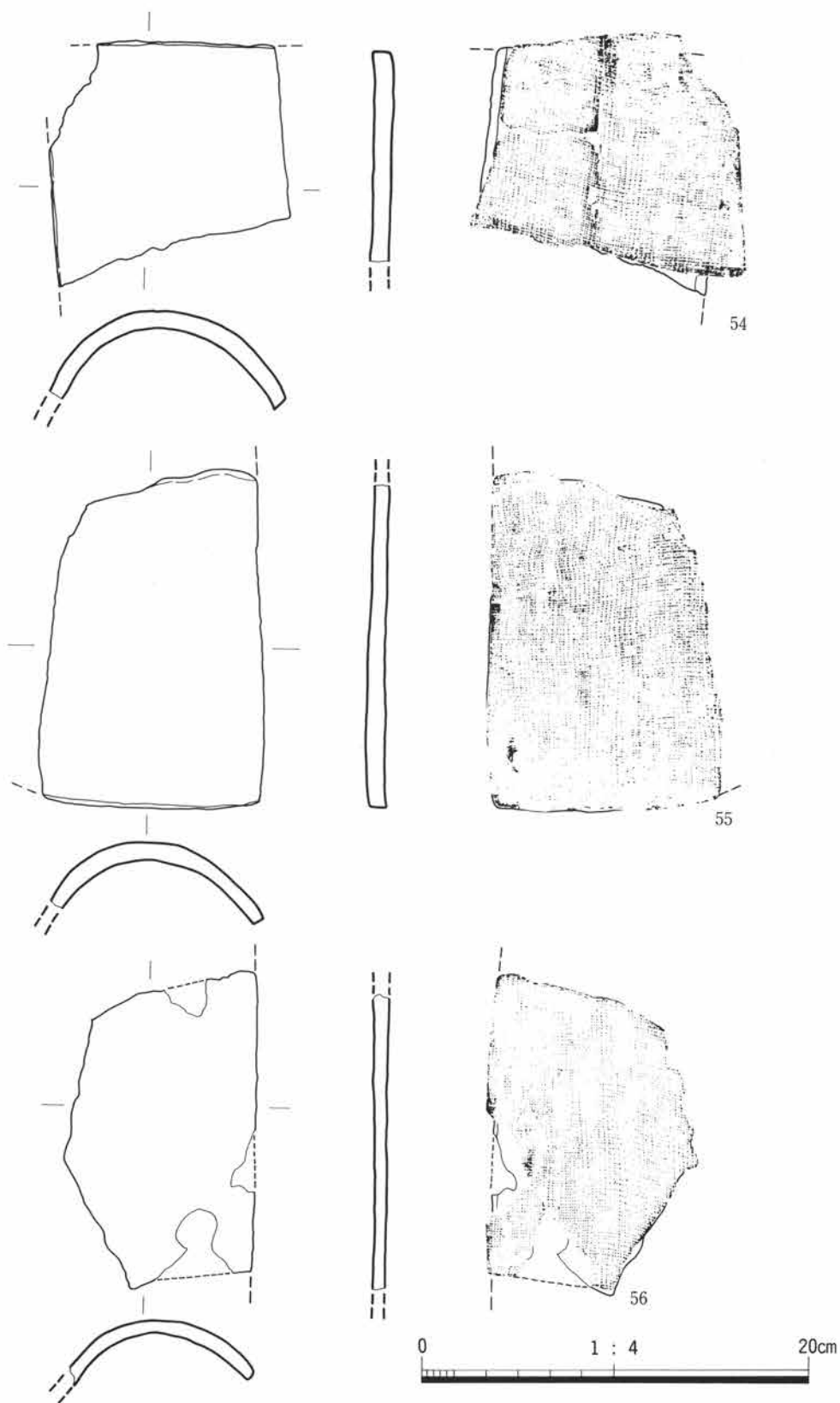
第309図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(4)



第310図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(5)



第311図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(6)



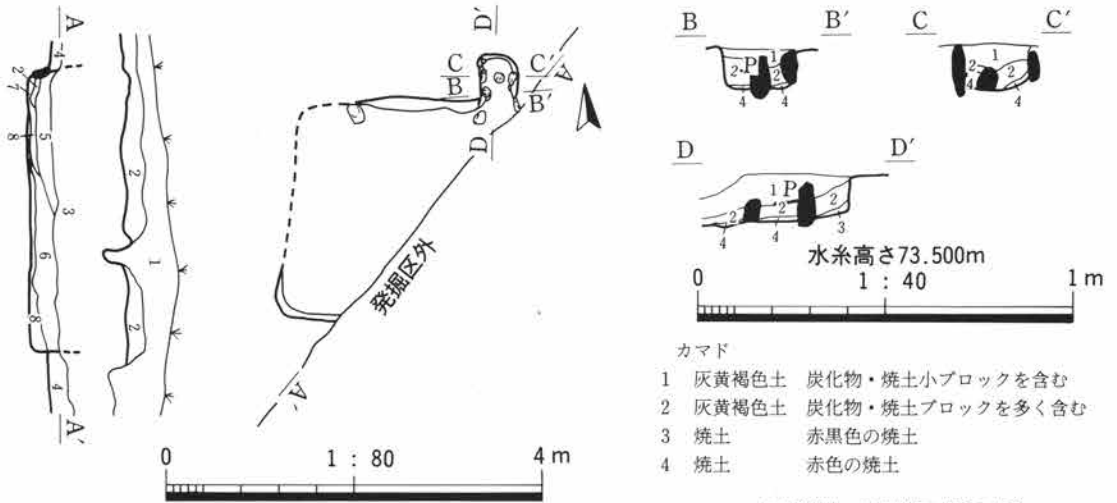
第312図 田端地区A区1号住居跡出土遺物(7)

田端A区第2号住居跡 (第313~316図、図版74・154)

Jライン・71km213m付近で検出した。確認面は第6層である。西の台地から東の低地へ20mほど下った位置に単独で検出されている。上面は水性堆積の砂利と細かい砂・やや粘性をもつ褐色土が覆っている。住居内の覆土は南から北へ傾斜をもって堆積し、自然の流入をしめしている。壁はほぼ直角に



第313図 田端地区A区2号住居跡



- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|------------------------|
| 1 表土 | 浅間A軽石を含む耕作土 | 5 褐色粘質土 | 細砂土を含む。黄褐色砂ブロックを含む |
| 2 明茶褐色土 | 浅間B軽石を含む | 6 褐色粘質土 | 黄褐色砂ブロックを多く含む層 |
| 3 褐色土 | 粘性土・細砂土・砂利層に分離できる。グレイ粘性土ブロックの混入する層 | 7 褐色粘質土 | 細砂土・黄褐色砂ブロック・焼土・炭化物を含む |
| 4 褐色土 | グレイ粘性土を含む。細砂土層(住居フク土) | 8 褐色粘質土 | 炭化物・焼土ブロックの層 |
| | | 9 褐色粘質土 | 黒色味の強い粘性土。炭化物を若干含む |

- カマド
- 1 灰黄褐色土 炭化物・焼土小ブロックを含む
 - 2 灰黄褐色土 炭化物・焼土ブロックを多く含む
 - 3 焼土 赤黒色の焼土
 - 4 焼土 赤色の焼土

田端遺跡 田端地区A区2号住 (単位cm)

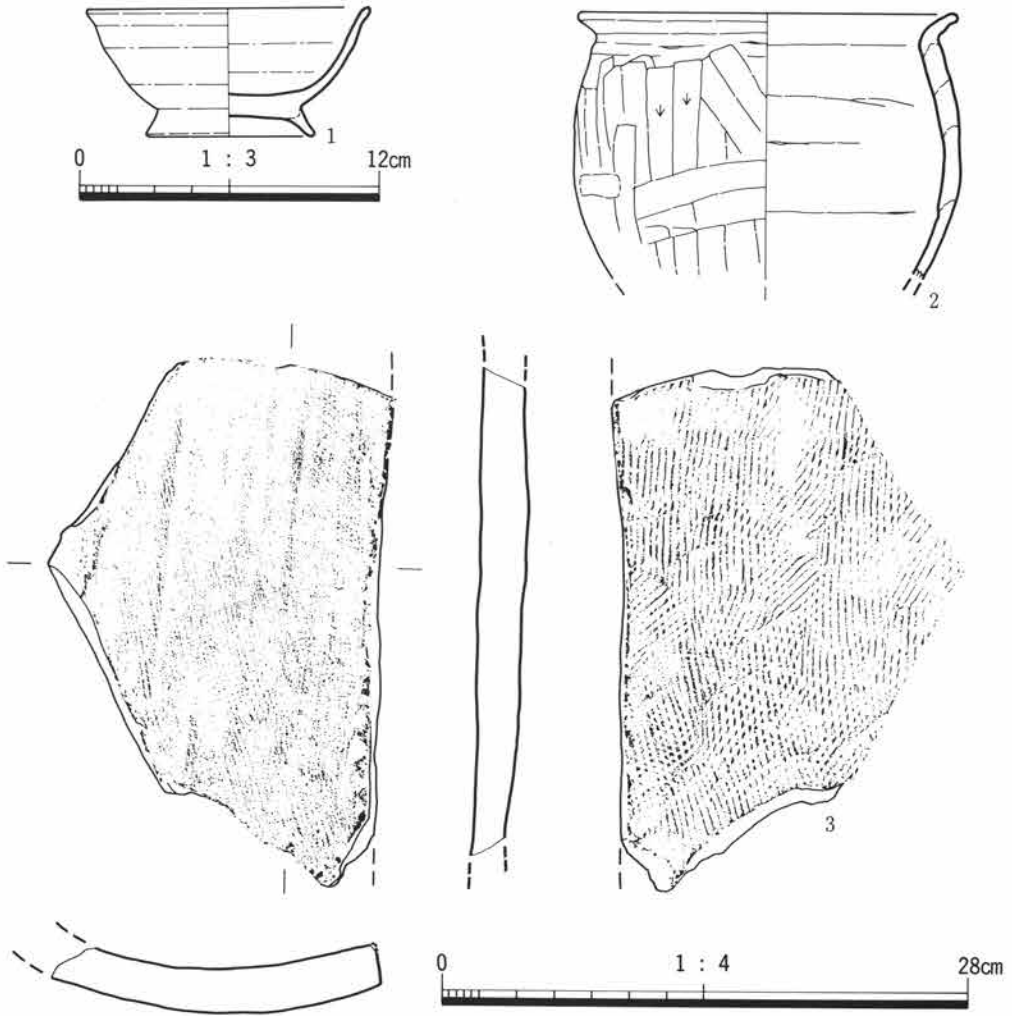
平面形	長方形か	規模	227×
面積	—	壁高	20~23
長軸方位	N98°E		
カマド位置	北辺		
対称軸方位	N3°E		
焚口部幅	40	燃焼部	40×55
構築材	粘土・石		
支脚	石		

第314図 田端地区A区2号住居跡

立ち上がっている。床面はカマド前を中心に堅い面が確認できた。周辺部は軟弱であるが、炭化物のひろがりをもつ。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認できなかった。カマドは北辺にあり、燃焼部を壁外に作り出している。カマドは袖部、壁周辺に川原石をすえ、支脚にも石を使用している。焚口の鳥居状部分には瓦を張り付けたとおもわれる。

遺物はカマド内とカマド前部から羽釜・土釜・土師質椀・布目瓦が出土している。

時期は遺物よりみて11世紀前半に含まれる。



第315図 田端地区A区2号住居跡出土遺物



第316図 田端地区B区
2号住居跡カマド

3 田端地区B区

田端B区第2号住居跡（第317～319図、図版88・154）

Pライン・71km245m付近で検出した。確認面は第4層である。北東隅と南辺に土坑状の遺構が重複する。南辺の土坑は明らかに本住居より新しく、攪乱としてとらえた。北東隅の落ち込みとの関係は確認できなかった。覆土は自然堆積を示しており、上面に浅間B軽石を含む褐色土層が認められている。主部分の平面形はほぼ正方形で、南辺には床面より3cm程高いステップ状の張り出しが認められた。当初は別土坑の重複かと考えたが、断面観察により住居付属施設とした。入り口状のものと考えたい。床面はカマド前部を中心として堅い平坦面があり、周辺部はやや低い。カマドは東辺中央よりやや南寄り、壁外に突出させて作りつけている。カマド焚口部前には、大きな川原石が散在した。燃烧部は半円形を呈し、左側壁には川原石を貼付している。川原石をカマド構築の芯材としたものである。煙出しの施設は燃烧部奥中央に段を持ち、斜め上方にあがる。煙道としては短く、急激に上方にあげるタイプである。土坑は南隅に円形、東隅部分に長円形の二基があり、双方とも貯蔵穴であろう。覆土中の灰・焼土層よりみて、南隅が古く、東隅は新といえる。

遺物は羽釜・甑・杯椀類、灰釉陶器椀が出土した。杯にはロクロ成整形による酸化焙焼成の小型杯がある。本住居跡の時期は、11世紀前半代と考える。

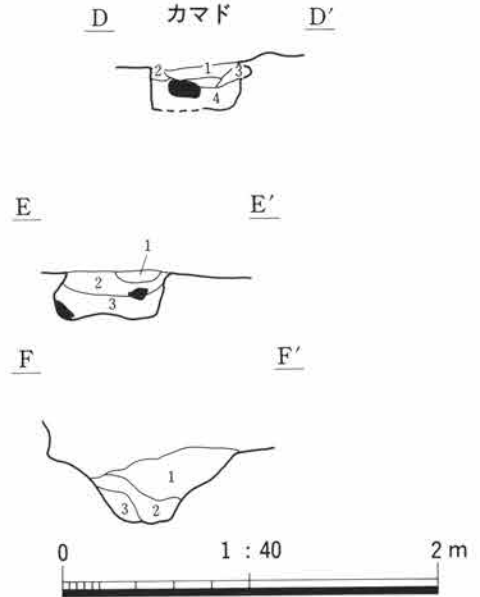
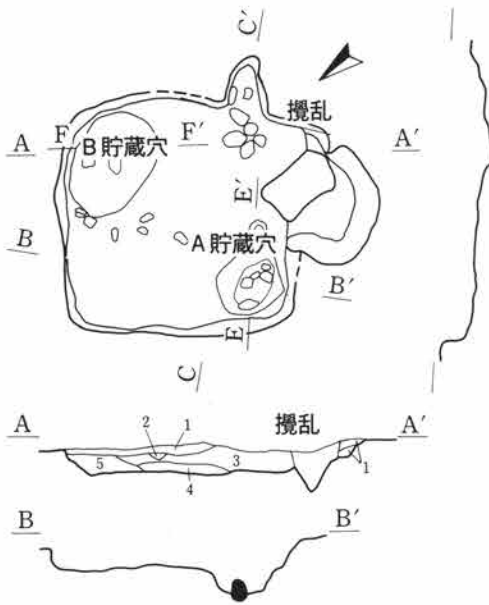
田端B区第3号住居跡（第320～322図、図版88・89・154）

Pライン・71km252m付近で検出された。確認面は第4層である。住居中央から南西にかけて、大型の土坑（3号住居跡下土坑）が重複し、北東部分にも長方形の土坑が重複している。新旧関係は大型土坑→3号住居→方形土坑の順に新しい。床面・住居プランの確認が不十分で同時に掘りあげたため、断面図から床面と住居範囲の推定を行った。従って、出土遺物についても出土地点と出土レベルによって所属遺構を決定した。



第317図

田端地区B区2号住居跡

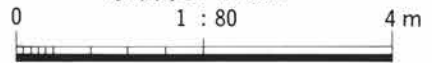


- 1 褐色土 浅間B軽石を含む
 - 2 褐色土 粘質土・ロームブロック・軽石を含む
 - 3 褐色土 粘質土・ロームブロックを含む
 - 4 黒褐色土 粘性をもつ土
 - 5 黒褐色土 ロームブロックを多く含む
- カマド
- 1 褐色土 浅間B軽石を含む
 - 2 褐色土 粘性あり、軽石・ローム粒・焼土・炭化物を含む
 - 3 褐色土 ロームブロックを含む
 - 4 褐色土 粘性あり、炭・灰・焼土・ロームブロックを含む
- A貯蔵穴
- 1 黒色土 ロームブロックを含む
 - 2 灰黒色土 灰・焼土・炭化物を含む
 - 3 黒色土 ロームブロックを多く含む
- B貯蔵穴
- 1 褐色土 炭化物・焼土・灰を多く含む
 - 2 黒褐色土 粘性あり、焼土・灰・炭化物を含む
 - 3 灰 炭化物層

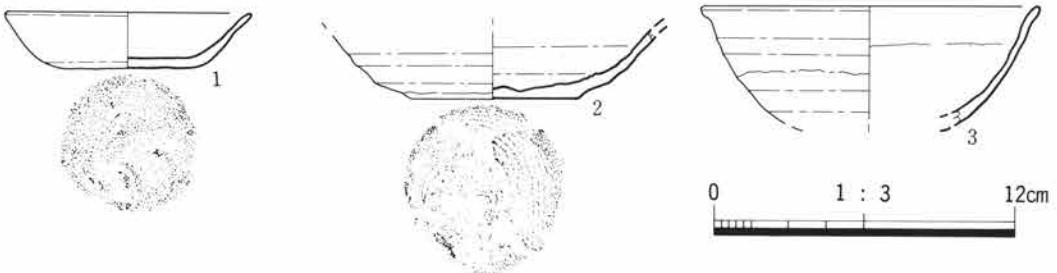
田端遺跡 田端地区B区2号住 (単位cm)

平面形	方形	規模	270×253
面積	5.6m ²	壁高	22~27
長軸方位	N-41°E		
カマド	位置	東辺南寄り	
	対称軸方位	N134°E	
	焚口部幅	45	燃焼部 45×40
	煙道部幅	—	長さ — 角度 16°
	構築材	粘土・石	
貯蔵穴	位置	南西隅	平面形 円形
A	上バ	73×65	下バ 63×35
	深さ	21	
貯蔵穴	位置	北東隅	平面形 楕円形
B	上バ	117×80	下バ 50×35
その他	南辺に張り出し部あり、入口状施設とする。		

水系高さ74.700m



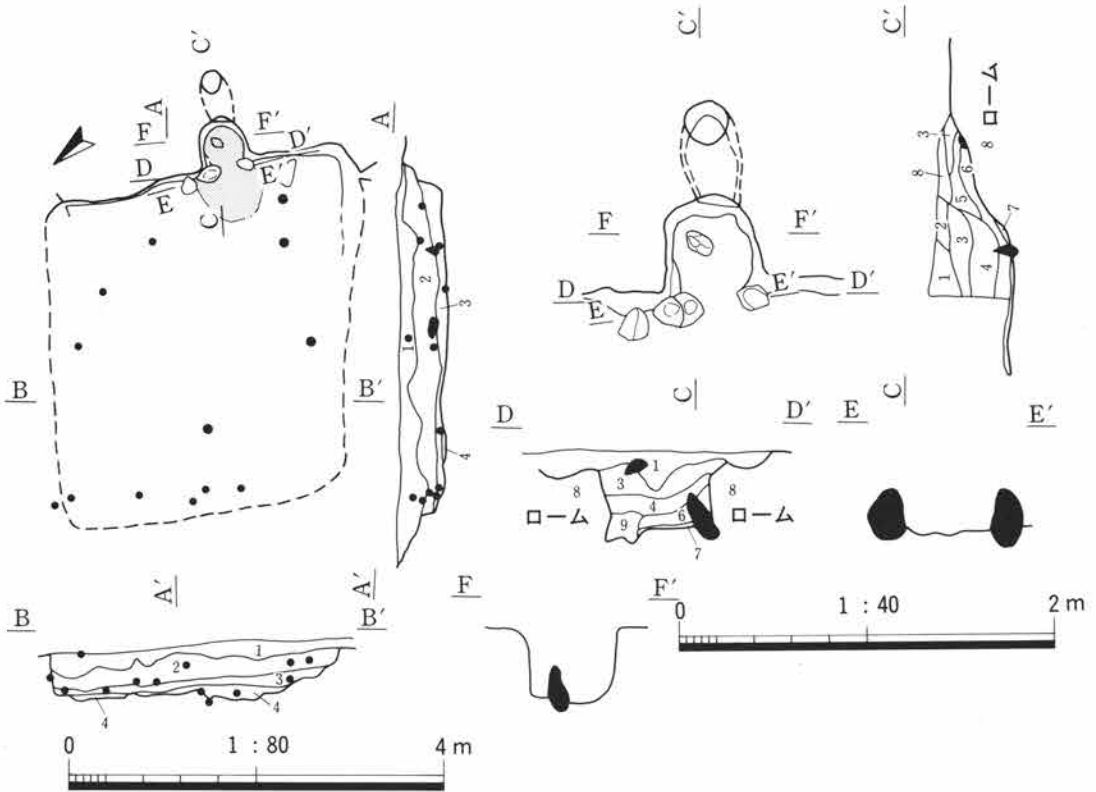
第318図 田端地区B区2号住居跡



第319図 田端地区B区2号住居跡出土遺物

覆土は自然堆積を示している。本住居跡は、平面やや長方形で、カマドを東辺中央南寄りに設置している。カマド燃焼部は半円状で煙道は燃焼部奥に一段高く作り、ゆるい角度で斜めに上がる。遺存状態が比較的良く煙道天井部も残存していた。焚口部分の左右袖石には川原石を使用したと思われる。右側が原形をとどめ、左側には袖石の掘形が認められている。支脚として細長い川原石の頭部を平坦に調整したものを使用している。床面はカマド前部を中心に堅く、断面観察によると貼床を行っている。貯蔵穴、壁溝、柱穴は不明である。

遺物は羽釜、高台付椀、片口鉢、灰釉陶器皿、布目瓦片が出土した。本住居跡の時期は、10世紀前半代と考える。



水糸高さ75.000m

- 1 褐色土 白色軽石粒・ロームブロックを含む
 - 2 褐色土 黒色味の強い粘質土・炭化物・焼土を含む
 - 3 褐色土 多量の炭化物・焼土ブロックを含む
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む層。貼床の土
- カマド
- 1 褐色土 白色軽石粒を多く含む
 - 2 褐色土 ロームブロックの混入した層
 - 3 褐色土 粘質土・焼土・炭化物粒・ロームブロックを含む
 - 4 褐色土 粘質土・焼土ブロックを多く含む
 - 5 褐色土 ローム粒混入。焼土も含む
 - 6 褐色土 粘質土で焼土・炭化物・灰を多く含む
 - 7 灰層
 - 8 ローム(地山) 使用による焼土化顕著

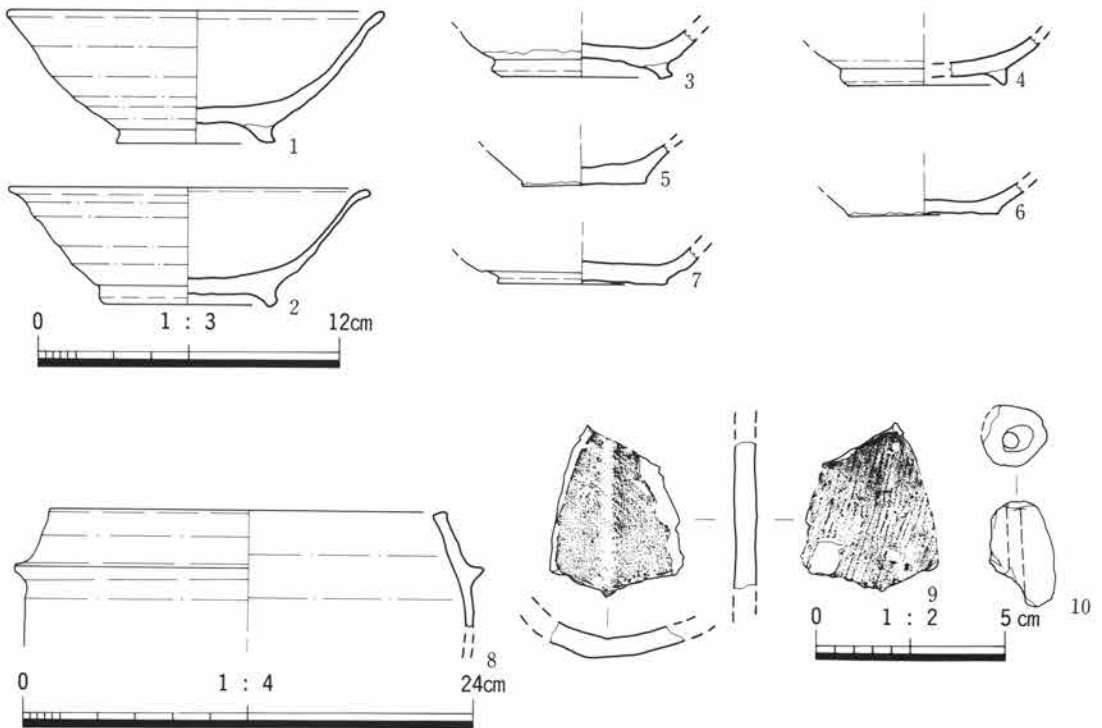
田端遺跡 田端地区B区3号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	(370×330)
面積	12.2m ² 壁高 42		
長軸方位	N125°E		
カマド位置	東辺中央		
対称軸方位	N114.5°E		
焚口部幅	47	燃焼部	47×55
煙道部幅	25	長さ	70 角度 19°
構築材	粘土・石		
支脚	石		

第320図 田端地区B区3号住居跡



第321図 田端地区B区3号住居跡



第322図 田端地区B区3号住居跡出土遺物

田端B区第4A号住居跡（第323～326図、図版89・155・156）

○ライン・71km255m付近で検出した。鉄器製作にかかわる住居である（小鍛冶）。確認面は第4層である。4B号住居、3号・4号土坑と重複し、3号・4号土坑との新旧関係は不明である。住居は4B→4A号の順に新しい。平面形は東辺ほぼ中央にカマドをもつ横長方形で、覆土の堆積は自然の埋没状態を示しているが、上層は近世以降の耕作その他により浅間A軽石の混入をみる。中層～下層には、川原石が混入していた。床面は中央に作業用土坑があるため狭い感じを与えるが、カマド前と貯蔵穴周辺を含めて強く踏み固められている。北隅～西辺にかけては柔らかい。カマドは燃焼部をすべて壁外に作り出し、東辺壁際に石を設置して袖としている。燃焼部中央には川原石の片端を欠いて支脚とし、煙道は底面より一段高く平坦に壁外へ導いている。柱穴はみとめられなかったが、壁溝は西辺～南辺にかけて検出した。貯蔵穴は南東隅にわずかにはみだして作り、北西部縁に川原石を横に並べて他と区切っている。中央土坑は大小4個認められているが、南側の小振りのものからは炭・灰が多量に検出され、また周辺からは鉄滓、炉体に付着したフィゴ羽口も出土しており、炉と考えている。北側に接しているやや大振りの土坑は、作業用のものであろう。

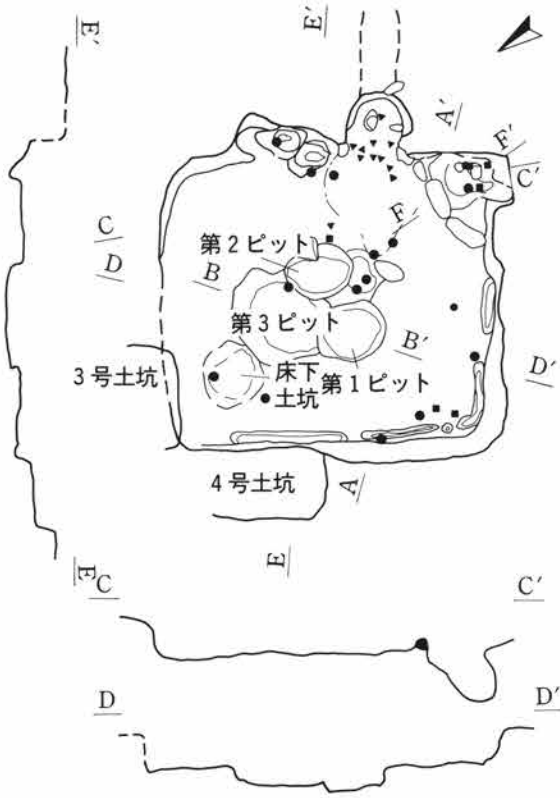
遺物は、羽釜、甑、土釜、須恵器平底杯・椀・皿、高台付椀、小型平底杯（いわゆる土師質土器）が出土し、特に鉄滓・フィゴ羽口が多く見られることが本住居の性格を示している。なお、フィゴ羽口には二つのタイプ（No.14・18）が見られる。また、床下土坑からは石帯の丸柄が出土しており注目される。

時期は、11世紀前半と考えたい。



第323図 田端地区B区4A号住居跡

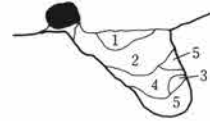
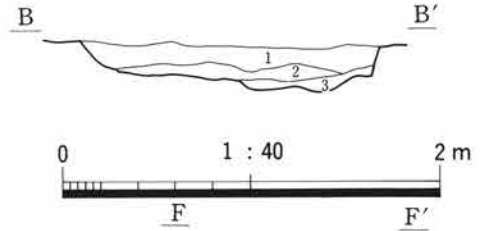
第4節 奈良平安時代の住居跡1



- 1 褐色土 粘性をもつ。浅間A軽石・ロームブロックを含む
- 2 褐色土 粘質土。多量の軽石を含む。黄色粘質土及び小ブロックを含む
- 3 褐色土 黒色味が強い粘質土。ロームブロックを多く含む
- 4 褐色土 さらに黒色味が強い粘質土。床面を覆う土

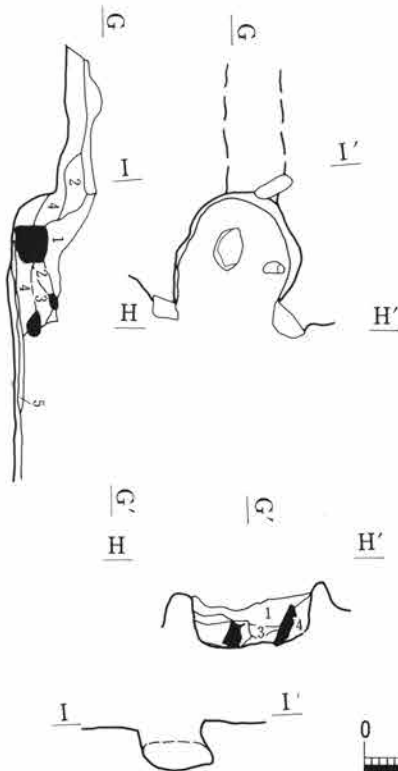
中央土坑

- 1 褐色粘質土 強く締った土。ロームブロック・炭・灰・焼土粒を含む
- 2 褐色粘質土 やわらかいロームブロックを多く含む層
- 3 炭・灰層

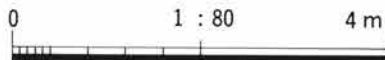


貯蔵穴

- 1 褐色粘質土 強くしまつた土・灰を多量に含む
- 2 褐色粘質土 灰・炭・焼土が混入する
- 3 褐色粘質土 ロームブロックの混合土層
- 4 褐色粘質土 粘性強く、やわらかい灰・炭化物・焼土を少量含む
- 5 暗褐色土 柔らかく粘性あり、ロームブロック・炭化物・焼土を含む



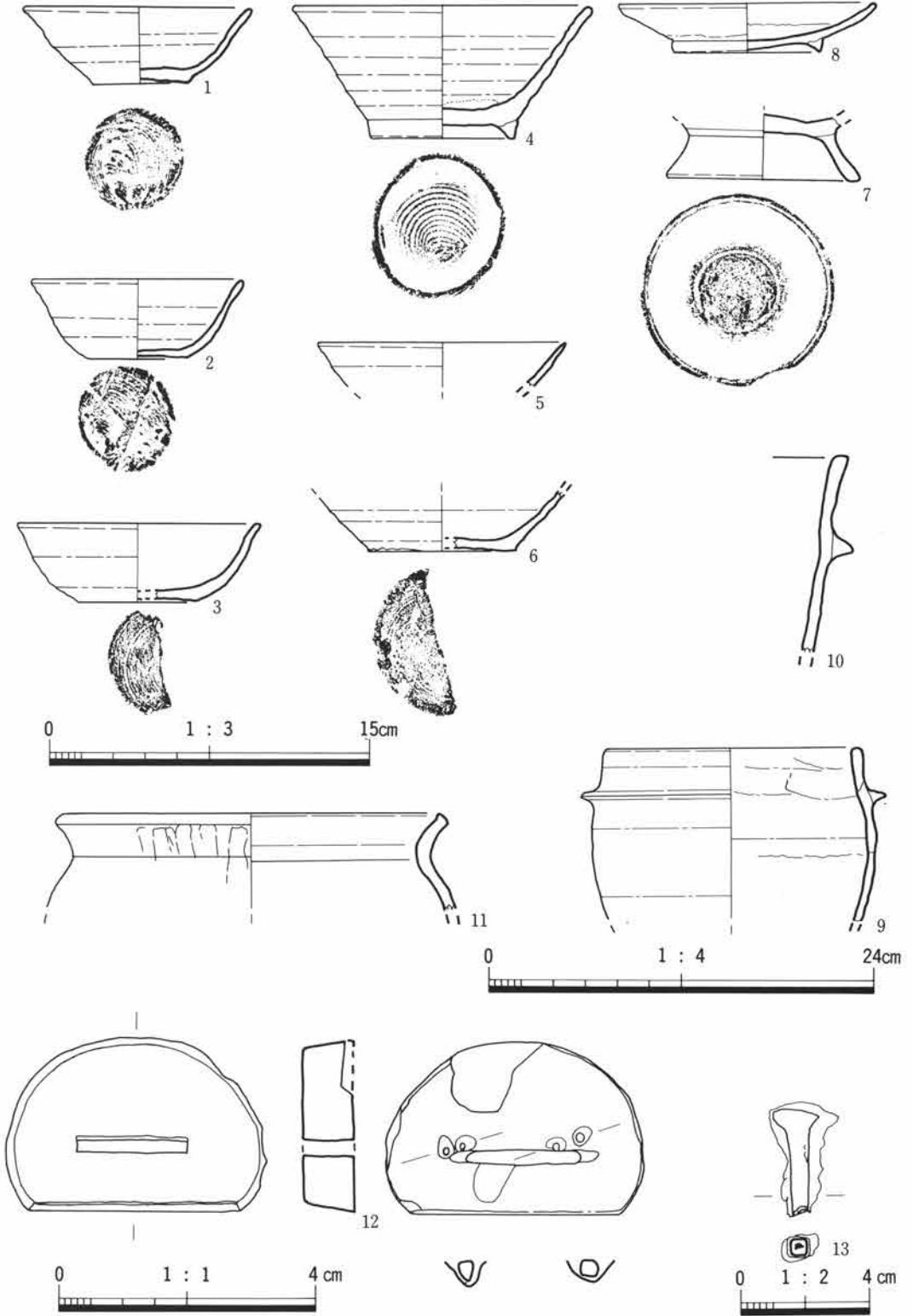
水糸高さ75.100m



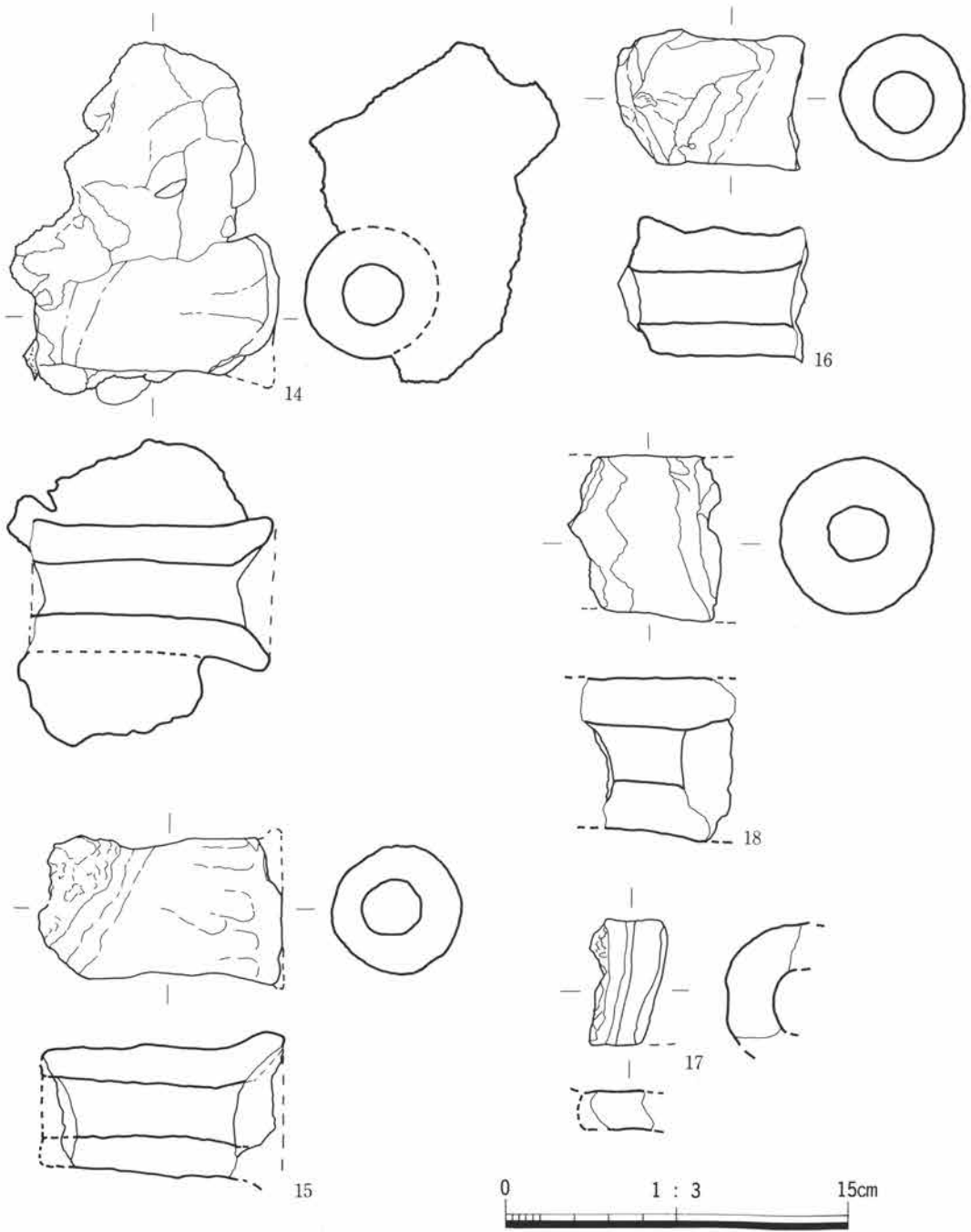
田端遺跡 田端地区B区4A号住 (単位cm)

平面形	横長方形	規模	340×310
面積	10.3m ²	壁高	48
長軸方位	N 8° E		
壁溝幅	13	深さ	2
カマド	位置	東辺南寄り	
	対称軸方位	N 101° E	
	焚口部幅	50	燃燒部 60×73
	煙道部幅	30	長さ 80 角度 5°
	構築材	粘土・石	
	支脚	石	
貯蔵穴	位置	南東隅	平面形 方形
	上バ	65×60	下バ 30×25
	深さ	46	
その他	第1ピット	円形	65×70×23
	第2ピット	楕円形	75×60×15
	第3ピット	円形	90×90×16
	床下土坑	円形	65×65×12

第324図 田端地区B区4A号住居跡



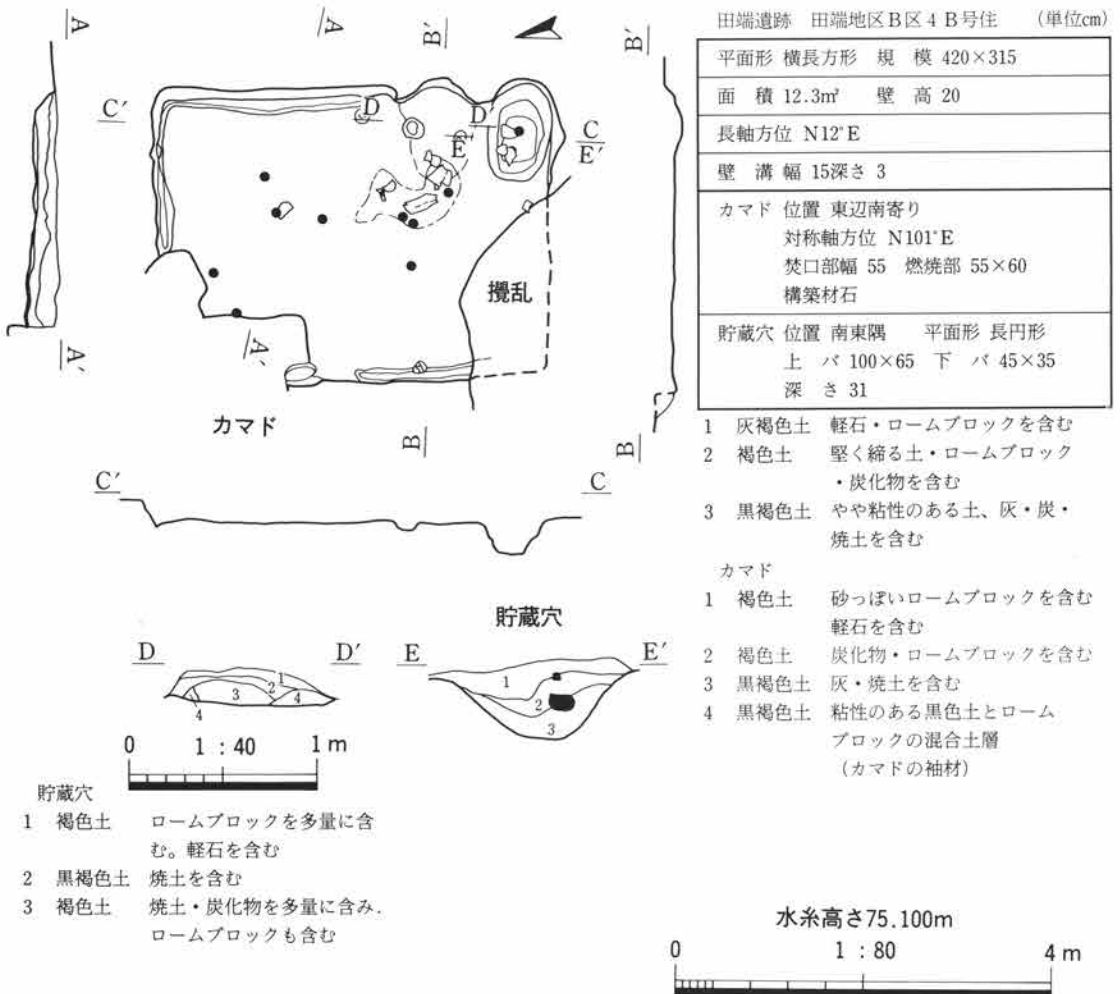
第325図 田端地区B区4A号住居跡出土遺物(1)



第326図 田端地区B区4A号住居跡出土遺物(2)

田端B区第4B号住居跡 (第327・328・330図、図版90・157)

Oライン・71km255m付近で検出した。確認面は第4層である。住居北西隅で4A号住居と重複し、4B→4A号の順に新しい。同じく南辺は攪乱の土坑によって一部壊されている。平面形は東辺南よりにカマドをもつ横長の方形である。覆土の堆積は自然であるが、4A号と同じように後世の耕作による削平を受け、上層は浅間A軽石を多量に含む。確認面から床面までが浅く、壁の状態は明確でない。床面はカマド前を中心に堅く良好である。カマドはおそらくその大部分を住居外につくりつけるタイプであろう。燃焼部周辺には角石が3～4個据えられており、カマド構築材である。東壁より少し前部にカマド袖石位置と思われる小さなピットが2個あく。住居中央および貯蔵穴には、長方形に切り出した凝灰岩が加熱の痕跡をとどめて散在する。カマド焚口天井部の材としたものであろう。柱穴は不明で、壁溝は遺存する各辺に認められている。貯蔵穴は南東隅にあり、東側に突出する隅丸方形である。



第327図 田端地区B区4B号住居跡

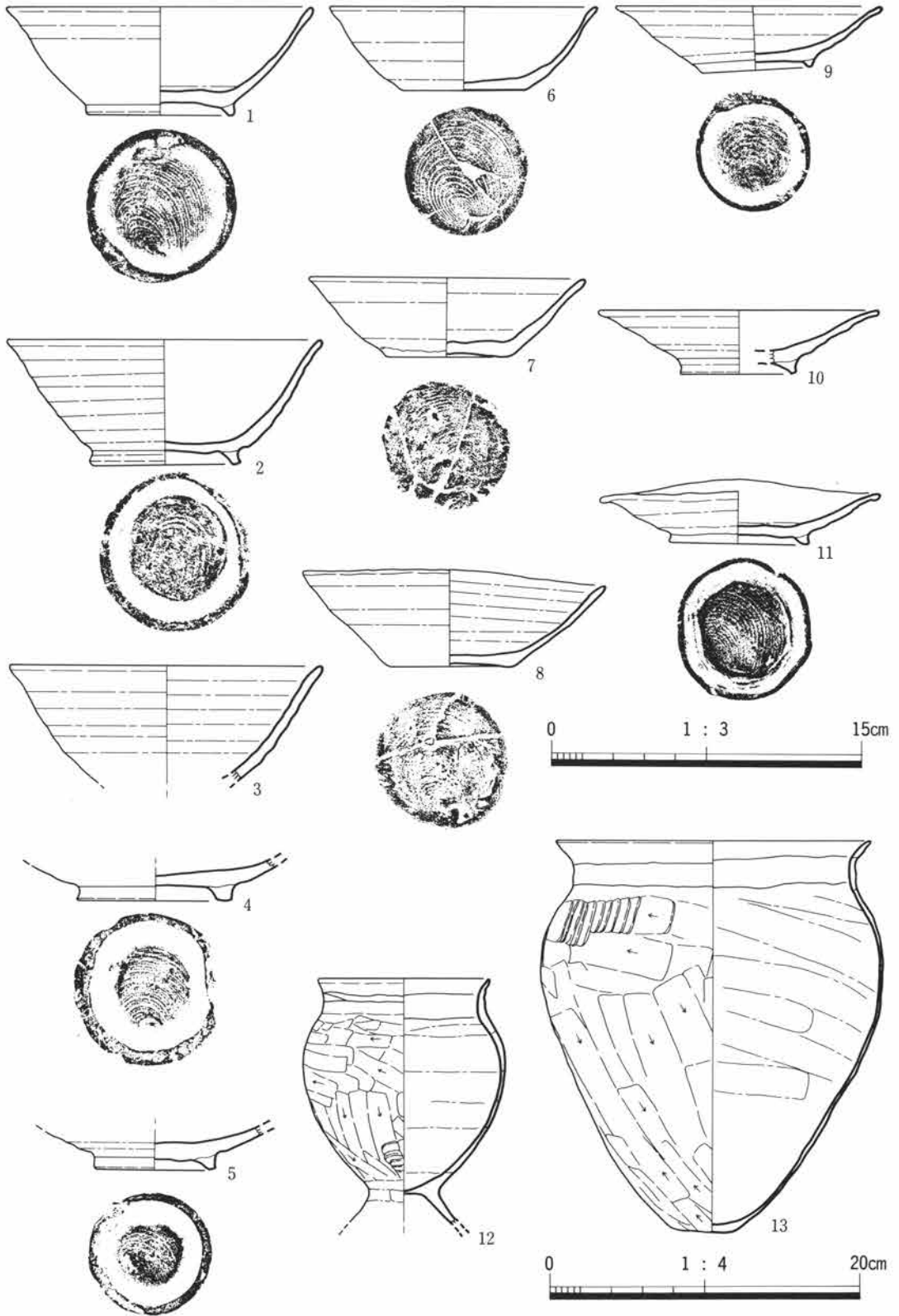
遺物は土師器甕・小型台付甕、須恵器杯・椀・皿が出土している。土師器の甕は、コの字状口縁のケズリ甕で、器肉の調整がかなり発達した段階のものである。須恵器高台付椀・皿の類は、口縁部を強く外側に引き出し、体部をわずかに内湾させ、薄手で還元～半還元、焼締まりなくやや軟質という特徴をもつ。これらの一群は灰釉陶器椀・皿類の模倣であると考えている。これらの遺物の特徴から、本住居の時期は9世紀後半と考えられる。



第328図 田端地区B区4B号住居跡



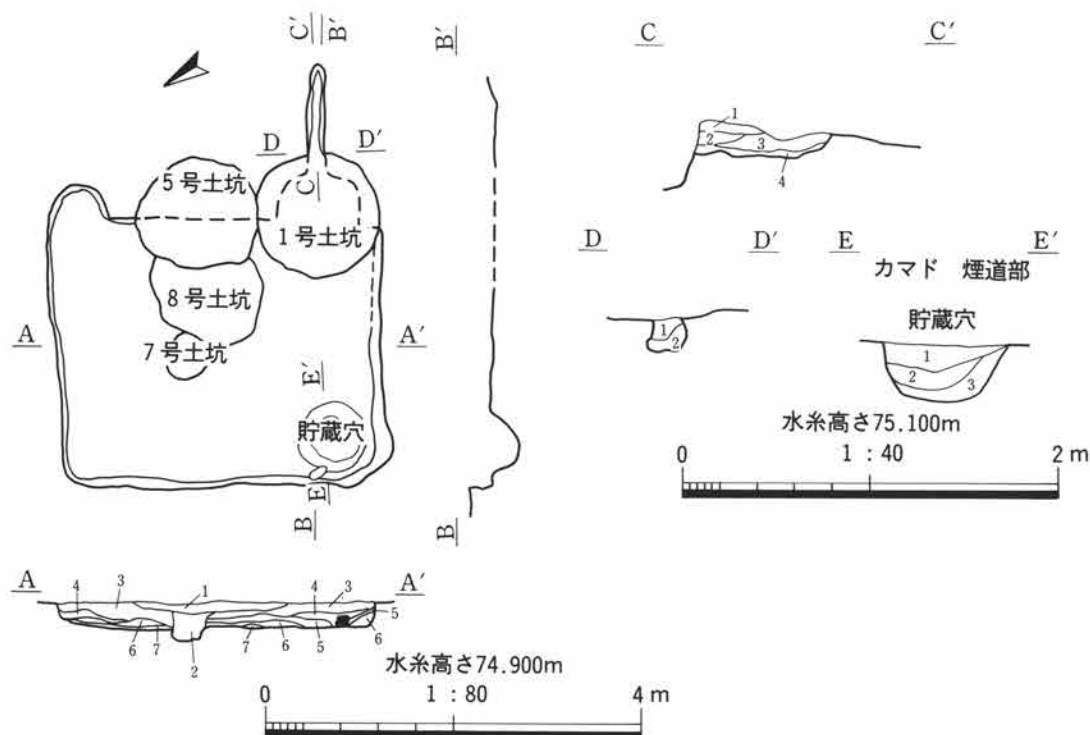
第329図 田端地区B区5号住居跡



第330図 田端地区B区4B号住居跡出土遺物

田端B区第5号住居跡 (第329・331・332図、図版90)

Mライン・71km245m付近で検出した。住居東辺及び中央部分に1・5・6・7・8・10号土坑が重複している。新旧関係はすべて土坑が新である。覆土は自然の堆積状態をしめしており、堅く締まった褐色土に軽石を含む土層が主体である。平面形は東北隅に張り出しをもつ横長の方形で、東辺南隅にカマド施設を持っていたことが煙道の残りぐあいから推測できる。床面はカマド前部から住居中央にかけて堅く、全体的に灰黒色土が薄く覆う。カマドは煙道部分のみが残存していた。柱穴、壁溝は検出していない。貯蔵穴は円形で、カマド対辺の南西隅に位置する。そのほか、北西隅に長方形の掘形



- 1 灰色粘質土 ロームブロック・炭化物・浅間A軽石を含む
- 2 褐色土 ロームブロック・浅間A軽石を含む (7号土坑フク土)
- 3 暗褐色土 ロームブロック・炭化物・軽石粒を含む
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む
- 5 褐色土 粘性のある堅く締まった土、ロームブロックを含む
- 6 灰黒褐色土 粘性のある土、炭化物を含む
- 7 灰黒色土 炭化物を含む。床面直上の土

カマド

- 1 灰褐色土 焼土・炭化物・軽石を含む
- 2 灰黒褐色土 灰・炭化物・焼土を含むやわらかい土
- 3 灰黒褐色土 ロームブロックを含む
- 4 灰黒色土 灰を多く含む

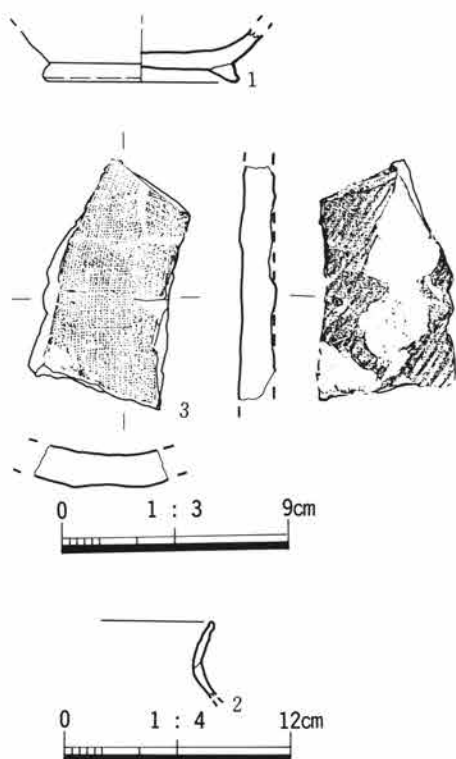
貯蔵穴

- 1 褐色土 ロームブロック・灰・焼土を含む
- 2 灰黒褐色土 粘性のある土、灰を含む
- 3 灰黒褐色土 ロームブロックを多く含む

田端遺跡 田端地区B区5号住 (単位cm)

平面形	方形	規模	357×284
面積	8.9m ²	壁高	22
長軸方位	—		
カマド位置	南東隅	対称軸方位	—
煙道部幅	15	長さ	95
角度	—		
貯蔵穴位置	南西隅	平面形	円形
上バ	80×75	下バ	45×55
深さ	32		
その他	掘形土坑	北西隅	方形 108×75×13
		北東隅	張り出し部あり

第331図 田端地区B区5号住居跡



第332図 田端地区B区5号住居跡出土遺物

土坑が認められた。

遺物は土師器甕、羽釜、須恵器甕・椀、鉄製品が出土したが、新土坑の重複による攪乱のため良好な出土状態ではない。図化しなかったが、須恵器甕は外面平行タタキメ、内面無文のあて具痕のやや大形のものである。いぶし焼成の椀、土師器甕の形態（器肉調整の後退、口縁部の鈍化）、羽釜との共存などが本住居時期を推定させうる。

時期は上記遺物の所見により、9世紀末～10世紀前半と考える。

田端B区第6号住居跡

(第333～335図、図版91・159)

Mライン・71km250m付近で検出した。確認面は第4層である。

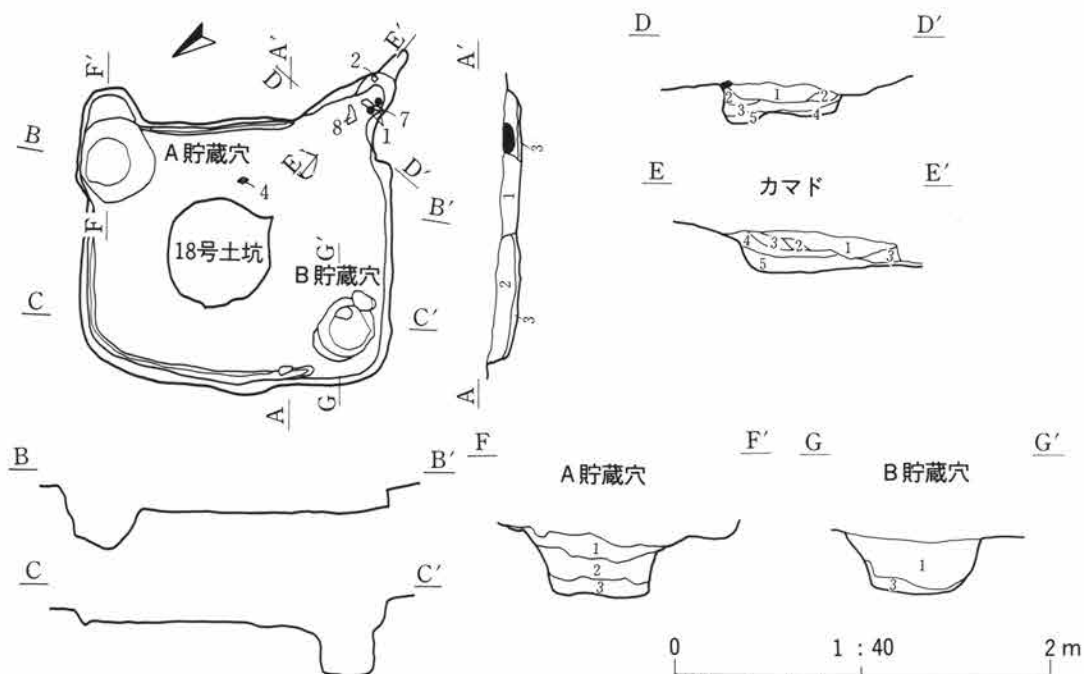
住居中央部分に18号土坑が重複し、6号住居→18号土坑の順に新しい。なお、接近して5・7・10号住居を検出している。覆土の堆積は自然の状態を示しており、若干軽石を含む褐色土が主体をしめる。平面形は東北隅が張り出す横長の方形で、カマドを東南隅に斜



第333図 田端地区B区6号住居跡

めに作り出すタイプである。床面はカマド前を中心にして東側、南側が強く、西北部にかけてはやや軟弱であった。カマドは燃烧部を壁外に作り出し、煙道は斜め上方にのぼりあげる。袖とおもわれる位置に、小さいピットが対になってみとめられている。川原石を使用したものか。柱穴は認められなかった。壁溝は南側を除いて、三方に認められた。貯蔵穴は西南隅と東北隅に2基認められた。両者とも円形である。

遺物は、羽釜、甑、土釜、椀・杯類が出土した。羽釜にはロクロ整形のものと、非ロクロ整形の土師質で粗雑なものがある。杯は身の浅い小型杯でスの付着からみて灯明皿とおもわれる。椀には



田端遺跡 田端地区B区6号住 (単位cm)

平面形	方形	規模	335×295
面積	9.0㎡	壁高	22
長軸方位	N28.0°E		
壁溝幅	10	深さ	3
カマド	位置	南東隅	
	対称軸方位	N161.5°E	
	焚口部幅	35	燃烧部 55×60
	煙道部幅	—	長さ 20 角度 17°
	構築材	粘土・石	
貯蔵穴	位置	北東隅	平面形 円形
A	上バ	70×65	下バ 50×45
	深さ	39	
貯蔵穴	位置	南西隅	平面形 円形
B	上バ	60×55	下バ 45×40
	深さ	45	
その他	北東隅、張り出し部あり		

- 1 灰褐色土 灰色粘質土・ロームブロック・小石を含む (18号土坑フク土)
- 2 褐色土 粘性のある土、軽石・ロームブロック・炭化物を含む
- 3 暗褐色土 粘性のある土、炭化物多く、ロームブロックも含む
- A・B貯蔵穴
- 1 褐色土 強く締る土、ローム粒を含む
- 2 褐色土 強く締る土、軽石粒・炭化物・ロームブロックを含む
- 3 褐色土 粘性のある土、ロームブロックを含む
- カマド
- 1 褐色土 軽石・ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 ゼラゼラした土、焼土・炭化物・ロームを含む
- 3 褐色土 粘性のある土、焼土・灰・ロームブロックを含む
- 4 灰黒褐色土 粘性のある土、焼土・灰・炭化物・ロームブロックを含む
- 5 灰黒褐色土 粘性のある土、炭化物・灰を多く含む

第334図 田端地区B区6号住居跡

水米高さ75.100m

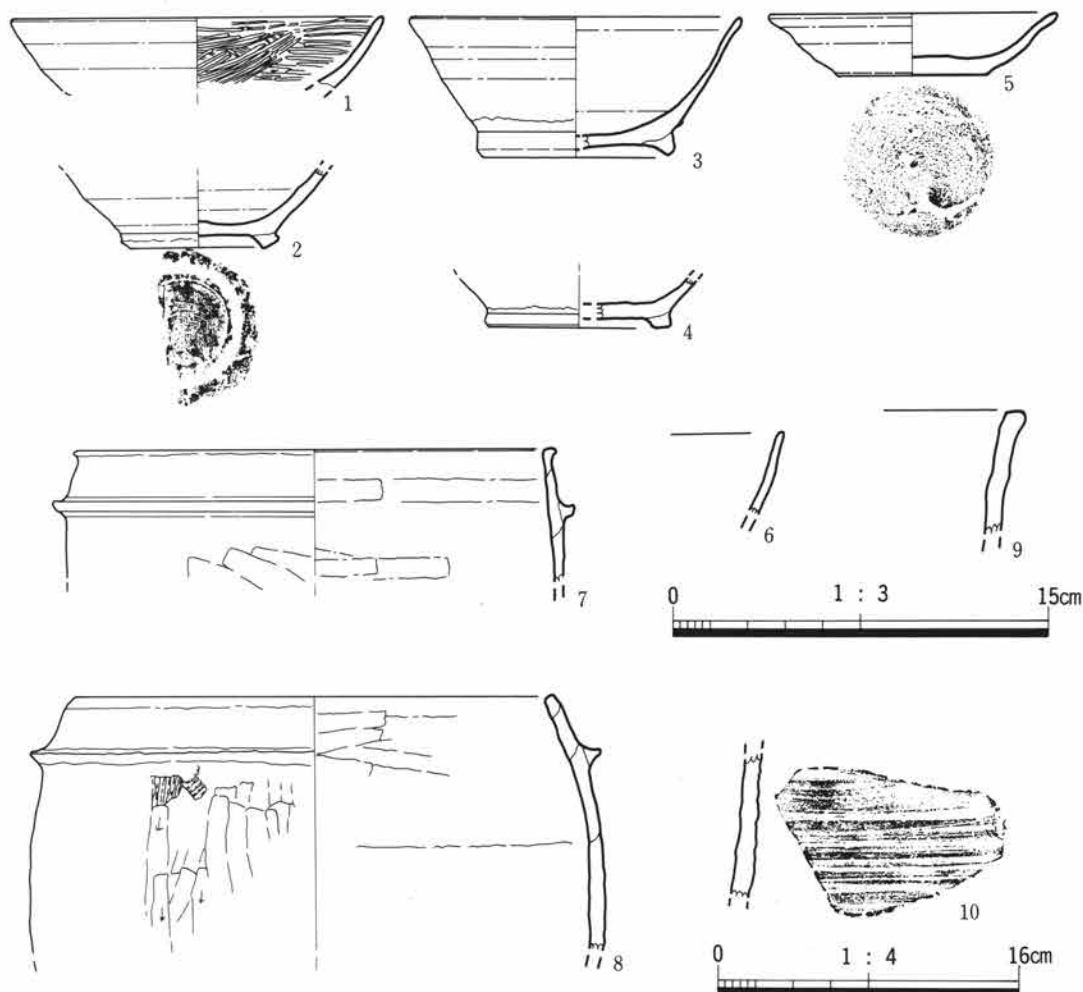
須恵器系統のものと土師器の内黒碗とがある。

本住居の時期は遺物の所見により、11世紀中頃と考えられる。

田端B区第7A・7B号住居跡（第336～340図、図版91・92・158）

Lライン・71km245m付近で検出した。確認面は第4層である。12・13・14・15・16・17号土坑と重複する。すべて土坑が新である。調査当初は1軒のなかに2つのカマドをもつ住居としてとらえていたが、整理作業のなかで分離しようと判断した。両者とも東辺にカマドを設置した長方形プランであり、7B号が7A号をきって構築している。すなわち、7A→7B号の順に新しい。

7A号 7B号によって住居の大部分をきられているため、カマドと東側の一部分が遺存するのみである。北東部分は土坑が重複し全体の規模は不明であるが、北辺は7B住の北辺と重なるとおもわれる。覆土は自然の堆積状態を示している。壁はほぼ垂直で直下に浅い壁溝をめぐらせる。床面はカ



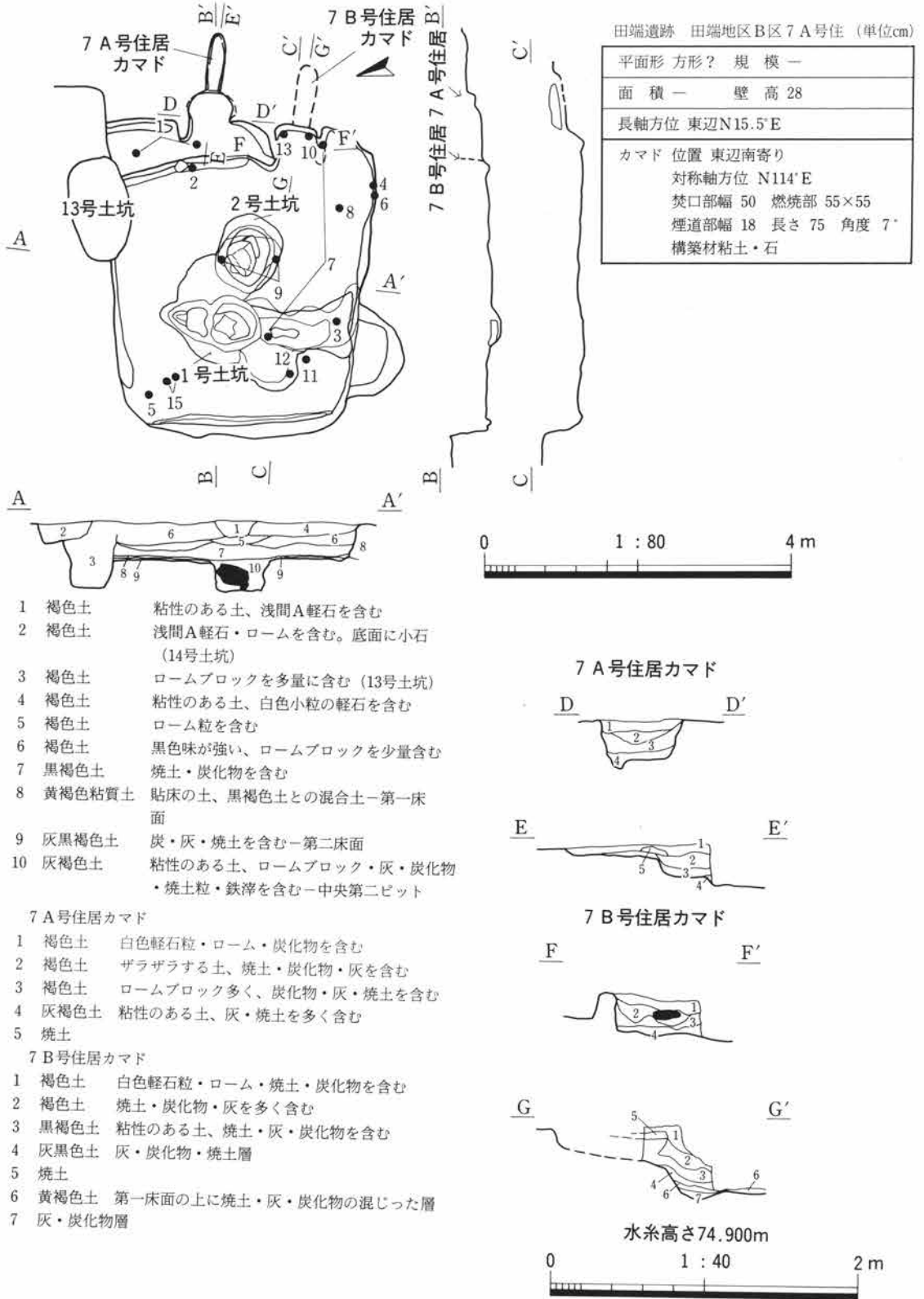
第335図 田端地区B区6号住居跡出土遺物

マド前を中心にして堅く良好である。柱穴・貯蔵穴については不明である。カマドは燃烧部を壁外に作り出すタイプで、壁体が上方に向かってやや内傾する。煙道は燃烧部底面より20cmほどあがって東へ長く導かれている。カマド内から川原石が出土している。遺物は床面から小型高台付碗、内黒高台付碗が出土した。時期は10世紀末と考えられる。

7B号 鍛冶工房跡である。東辺南寄りにカマドをもち、東南隅が張り出し、南辺西寄りにも一段高くなる半円状の張り出しがあり、西辺よりも東辺の幅がやや広い台形のプランである。覆土は自然の堆積状態を示しており、全体に炭・灰・焼土が混入する。壁はやや斜めに立ち上がり、壁溝は東辺と西辺に検出している。床面は中央土坑部分を中心に堅く、東南隅～南辺は軟弱である。全体に上下2枚の床面がみとめられた。カマドは燃烧部を壁外に作り出すタイプである。煙道は大部分を12号土坑によって壊されているが、東側に長く導かれている。カマド前部には灰層が薄くひろがっているが、床面が他の住居に比べて軟弱であり、カマド内壁の焼けぐあいも弱い。中央には円形の土坑（第2土坑）があり、中に大きな川原石が下にいくつかの石をかませ、平坦面を上にして据えられている。土坑下半部は石を安定させるために埋められていたと思われる水平の堆積を示す。底面にも石の上面にもやや細かい鉄滓が多量に認められた。底面の鉄滓は突き込まれたものであろう。川原石の上面は床面より低く据えられていることに注目したい。第2土坑西側に、碗状にくぼむ円形土坑が2基（第3・第1土坑）南北に並び、南には壁ぎわまでびっしりと鉄滓・フイゴ羽口のはいりこんだ長円形の土坑（第4土坑）がある。第1土坑は炭・灰・焼土・鉄滓が覆うような状態であった。鉄滓を取り除くと



第336図 田端地区B区7A・7B号住居跡



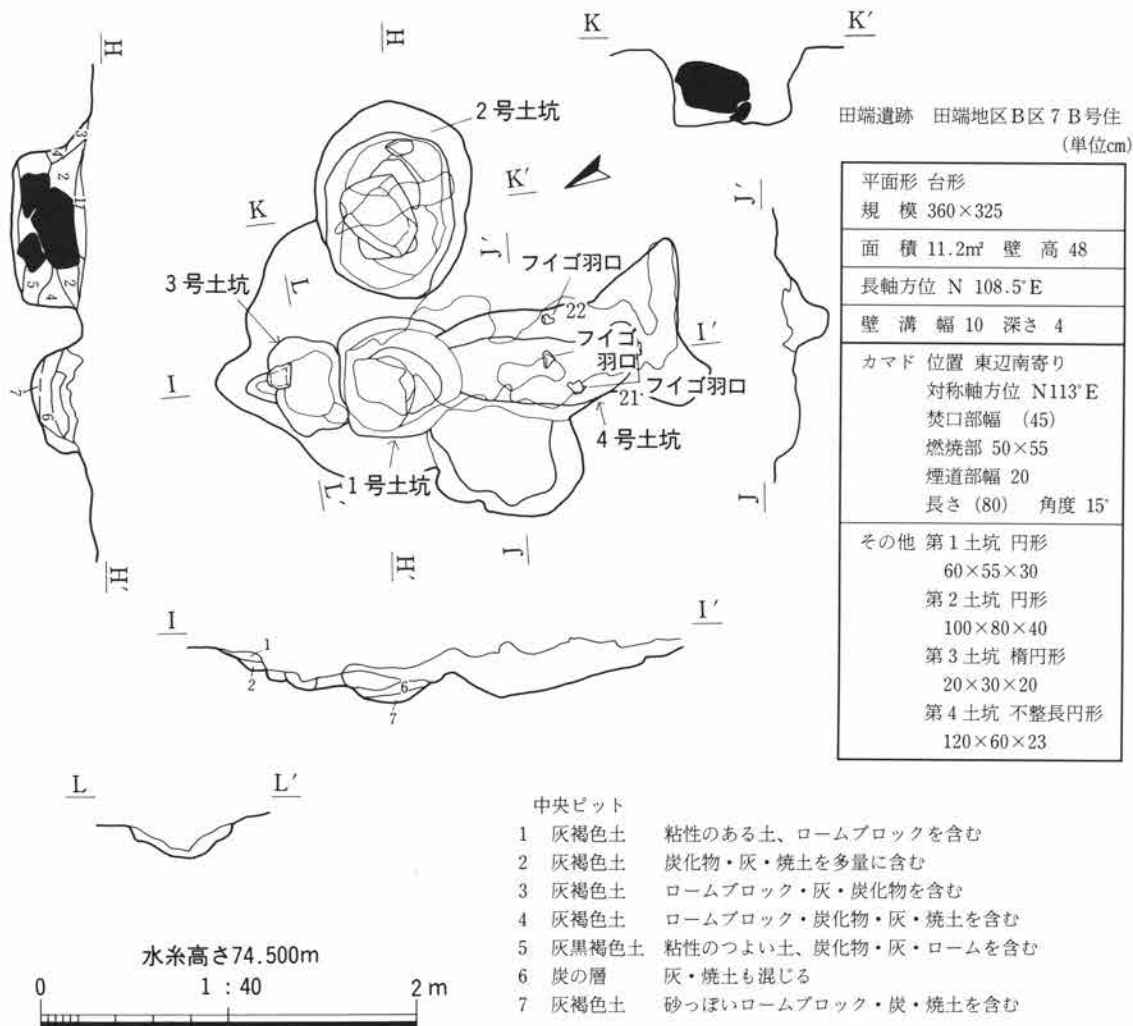
第337図 田端地区B区7A・7B号住居跡(1)

焼けた粘土があり、さらに下には炭の層が見られた。土坑縁辺はぐると火を受けて焼土化している。北側の第3土坑はやや小さめで、底面に焼土化した粘土があり、縁辺は焼土がめぐる。第1土坑はその形状および焼けた粘土の存在から、製鉄の炉跡と考えている。第3土坑は第1土坑によって一部壊されており、同形態の炉跡であろう。炉跡が新旧2基存在し、床面も2枚あることから、2回にわたって炉の造り替えが行われたとしたい。

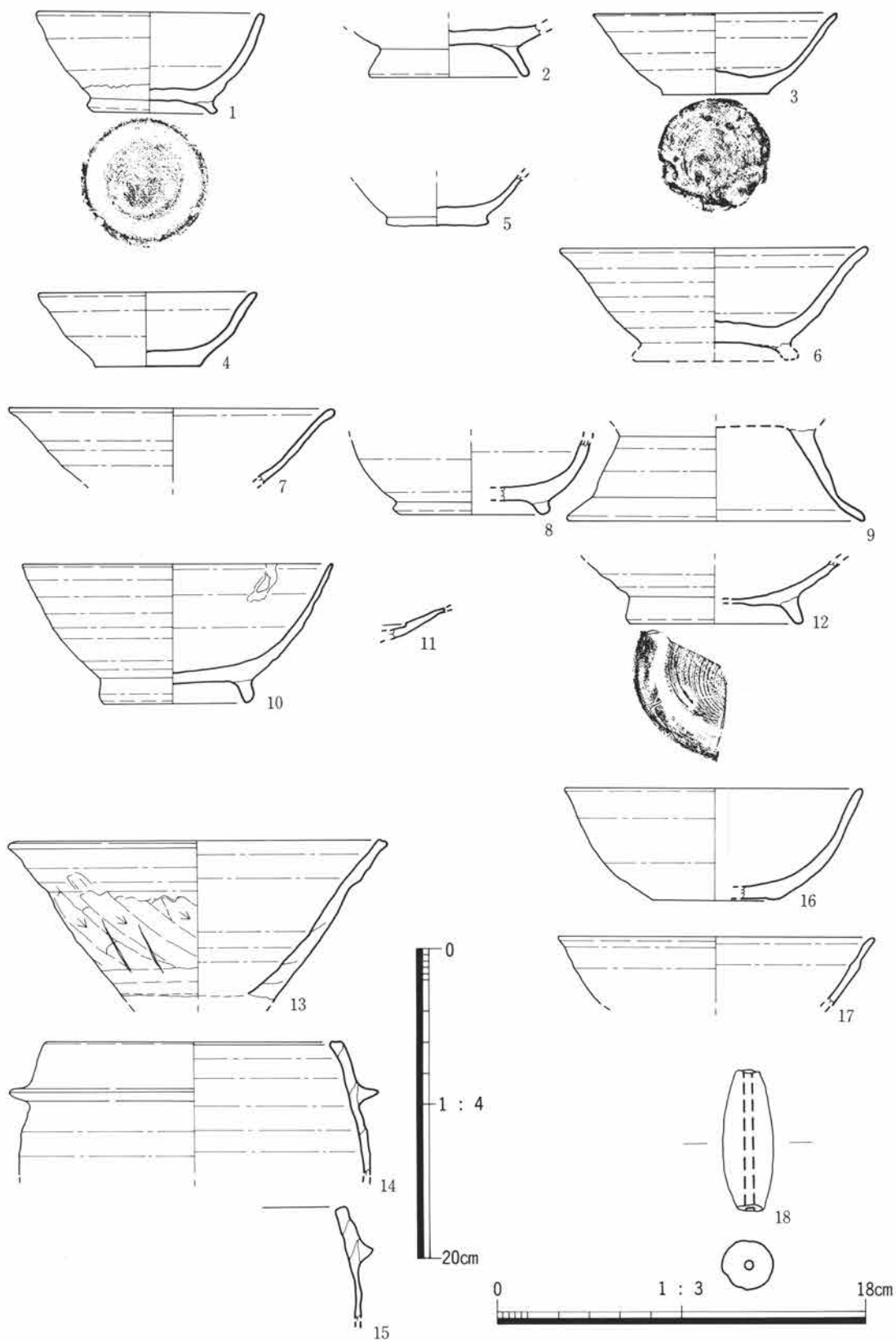
遺物は羽釜、鉢、小型平底の杯、高台付椀、灰釉陶器椀、フイゴ羽口、鉄製品が出土している。本遺構の時期は、遺物により10世紀末～11世紀初めと考えている。

田端B区第8A・8B号住居跡（第341～343図、図版159）

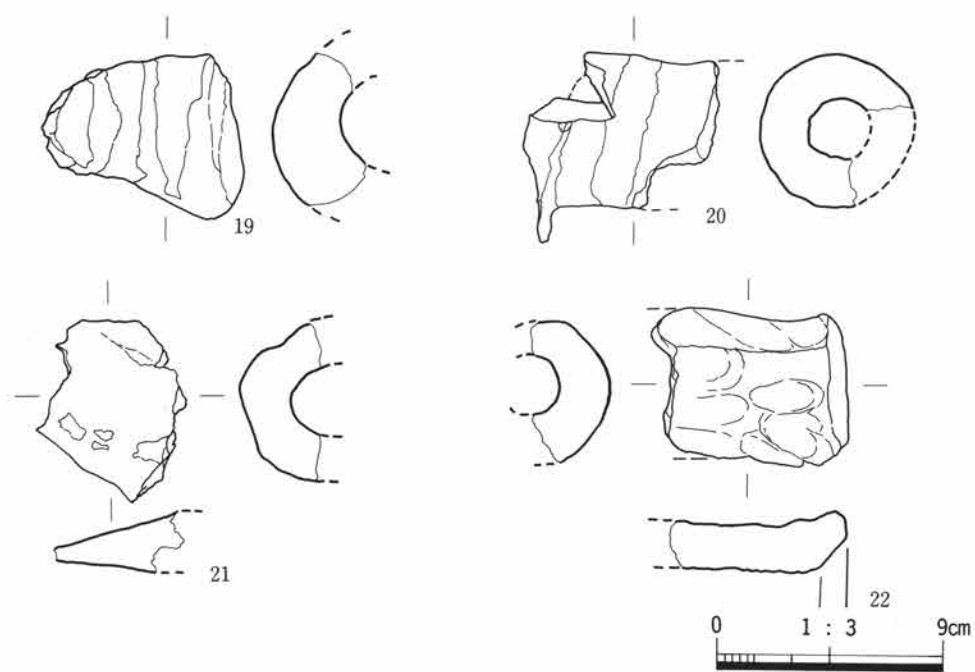
Lライン・71km243m付近で検出した。確認面は第4層である。8A・8B号の2軒重複で、全体の $\frac{1}{3}$ にあたる北東部分が後世の攪乱によって壊されている。8A号は南東隅にカマドをもつ横長の平面形で、8B号は東辺南寄りにカマドをもつ縦長の平面形である。両住居は東辺で重なっており、8Aが8Bのカマド及び覆土をきって構築されていることが確認できた。従って8A号が新である。



第338図 田端地区B区7A・7B号住居跡（2）



第339図 田端地区B区7A・7B号住居跡出土遺物(1)

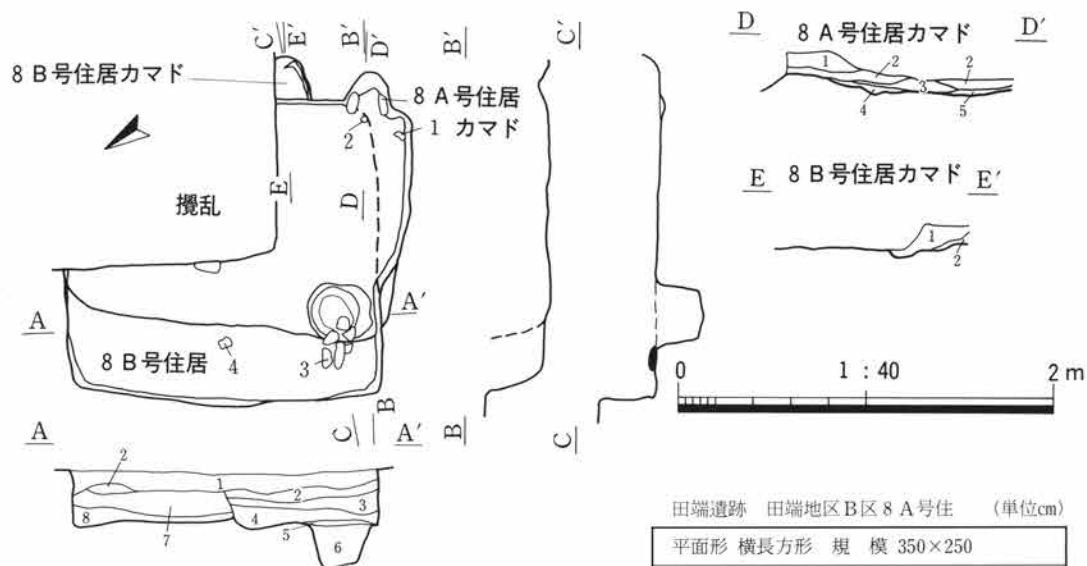


第340図 田端地区B区7A・7B号住居跡出土遺物(2)



第341図 田端地区B区8A・8B号住居跡

8 A号 覆土は自然の堆積を示している。壁は南辺で遺存状態が良く、ほぼまっすぐに立ち上がる。西辺でも断面観察により、同様な立ち上がり方を認めた。床面はカマド前部を中心に堅く、南側一帯に灰・炭がひろがる。柱穴は認められなかった。壁溝は南辺に一部分と西辺の断面でみられた。カマドは上部のほとんどが壊されており、下部構造のみ遺存する。東辺際に袖石を設置したと思われる浅いピットがあり、本カマドは壁外に燃烧部を作り出し、煙道も東側に長くひきだすタイプである。貯蔵ピットがあり、本カマドは壁外に燃烧部を作り出し、煙道も東側に長くひきだすタイプである。貯蔵



- 1 褐色土 黄褐色粘質土ブロック・白色軽石粒を含む
 - 2 褐色土 ロームブロック多く、炭化物・焼土を含む
 - 3 褐色土 粘性のある土、白色軽石粒少ない
 - 4 褐色土 粘性の強い土、暗い色調。炭化物焼土を多く含む
 - 5 褐色土 灰色粘質土を含む
 - 6 貯蔵穴フク土
 - 7 褐色土 ザラつく土、灰青色砂質土ブロックを含む
 - 8 褐色土 やや粘性をもつ、灰色粘質土を多く含む
- 8 A号住居カマド

- 1 褐色土 焼土・炭化物・ロームブロック小粒を含む
- 2 暗褐色土 灰・炭化物・焼土・ロームブロックを含む
- 3 焼土ブロック 灰・炭化物を含む
- 4 灰の層
- 5 黒褐色土 ロームブロックを含む

8 B号住居カマド

- 1 暗褐色土 焼土・灰・炭化物粒を含む
- 2 焼土層

水糸高さ74.500



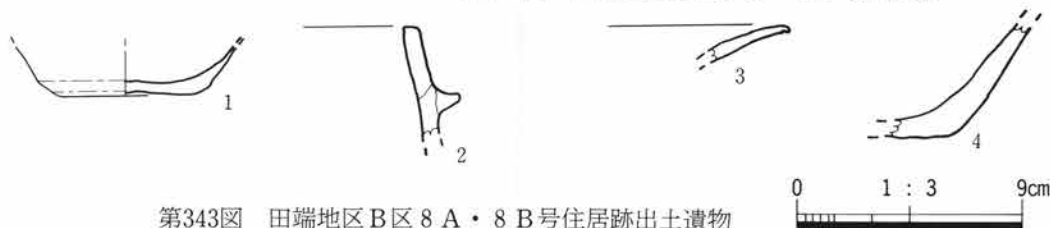
田端遺跡 田端地区B区8 A号住 (単位cm)

平面形 横長方形 規模 350×250
面積 8.8㎡ 壁高 56
長軸方位 N39°E
カマド 位置 南東隅 対称軸方位 N121°E 焚口部幅 40 燃烧部 40×50 構築材石
貯蔵穴 位置 南西隅 平面形 円形 上バ 50×60 下バ 40×30 深さ 44

田端遺跡 田端地区B区8 B号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 310×335
面積 10.0㎡ 壁高 55
長軸方位 N120°E
カマド 位置 東辺南寄り 対称軸方位 — 焚口部幅 — 燃烧部 —×40

第342図 田端地区B区8 A・8 B号住居跡



第343図 田端地区B区8 A・8 B号住居跡出土遺物

穴は円形で南西隅にあり、西側から編石状の石が数個落ち込む状態で検出されているが、8B号からの流れ込みと考える。遺物は羽釜・小型平底の杯が出土しており、本住居跡の時期は10世紀末～11世紀と考える。

8B号 8A号によってその大部分が壊されており、西辺と東側カマド部分のみが遺存する。壁の立ち上がりは垂直に近い。床は平坦である。壁溝、柱穴は検出できなかった。カマドは下部構造のみ遺存する。壁外に燃焼部をつくりだすタイプである。

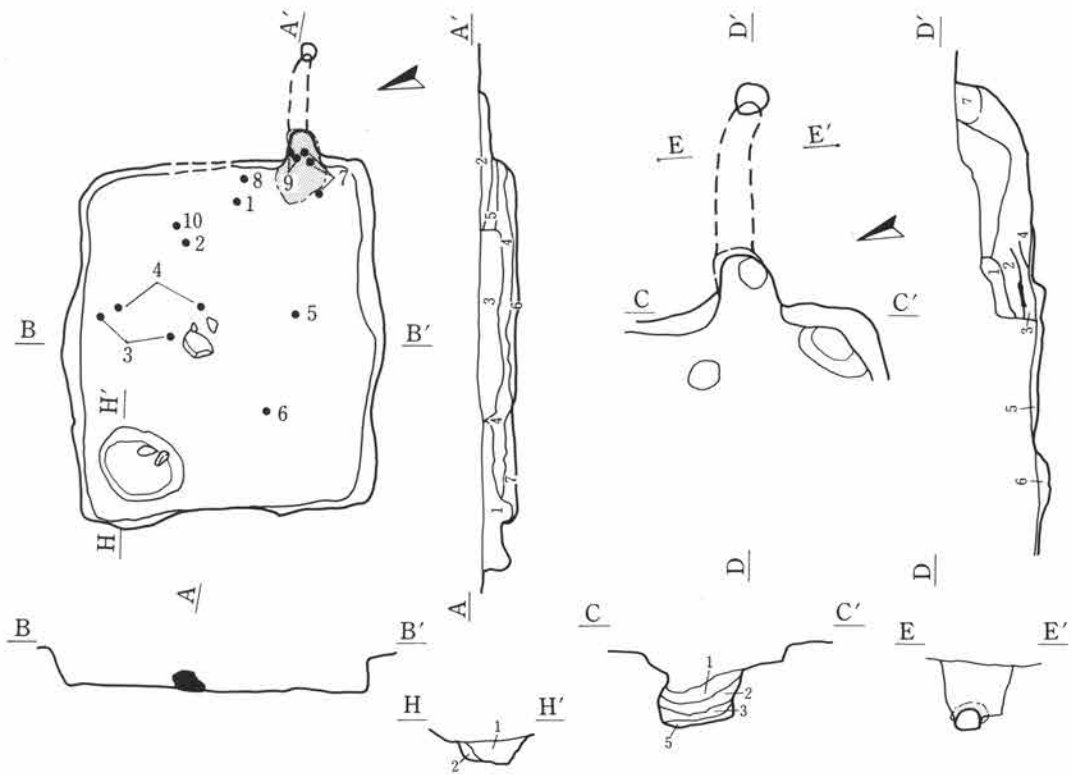
遺物には羽釜、灰釉陶器皿があり、時期は8A号と近い10世紀末ごろと考える。

田端B区第9号住居跡（第344～346図、図版93・160）

Kライン・71km247m付近で検出した。確認面は第4層である。19・20・21号土坑と重複するが、すべて土坑が新である。覆土は自然の堆積を示しているが、上部は後世の攪乱が多く、浅間A軽石の混入する層がみられる。壁はほぼ垂直に近い立ち上がりを見せる。床面はカマド前を中心にして明黄褐色の堅い面がひろがるが、西側は黄褐色ロームに、南側は暗黄褐色砂質土となる。柱穴および壁溝は検出できなかった。カマドは東辺南隅にあり、焚き口部分は壊されていて不明確だが、壁外に作り出している燃焼部がややちいさめであること、カマドと壁との境部分にわずかにたかまりが残り、北側には浅いピットが認められていることから、袖部分は東辺より手前に設置したものであろう。煙道は遺存状態が良好で、燃焼部奥に底面より一段上がって東側に長くひきだしている。断面は底面が平坦で上部が丸くなるカマボコ型である。貯蔵穴は浅い円形で、北西隅にある。中央部には上面平らな大形の



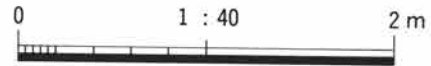
第344図 田端地区B区9号住居跡



田端遺跡 田端地区B区9号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 345×365
面積 11.0m ² 壁高 40
長軸方位 N107°E
カマド 位置 東辺南寄り 対称軸方位 N110°E 焚口部幅 40 燃烧部 30×60 煙道部幅 15 長さ 90 角度 24°
貯蔵穴 位置 北西隅 平面形 楕円形 上バ 75×95 下バ 55×70 深さ 21

- 1 暗灰褐色土 浅間A軽石・礫を含む(20号土坑フク土)
- 2 明褐色土 パサパサした土、浅間A軽石粒・礫を含む(21号土坑フク土)
- 3 明褐色土 粒子は細かく堅く締る。白色軽石粒・小礫を含む(攪乱)
- 4 明褐色土 粒子は細かく非常に軽く締った土。白軽石色粒を多く含む
- 5 褐色土 粒子は細かく、やや軟質。白石粒は極少量含む
- 6 褐色土 粒子はやや粗く、ローム微粒子を含む。やや粘性あり
- 7 暗褐色土 粘性あり、黄褐色ロームブロックを多く含む

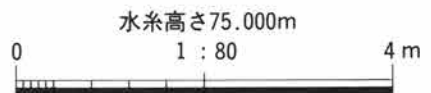


カマド

- 1 灰褐色土 白色軽石粒・ロームブロックを含む
- 2 灰褐色土 粘性をもつ。焼土・灰・ロームブロックを含む
- 3 灰褐色土 粘性土・灰・焼土・炭化物の混合土
- 4 灰褐色土 焼土の多い層
- 5 灰・炭化物層
- 6 灰黄褐色土 砂質土で灰・炭化物を多く含む
- 7 褐色土 堅く締った土・白軽石色粒・炭化物・焼土を含む

貯蔵穴

- 1 暗茶褐色土 粒子は粗く、堅く締る土・小石を含む
- 2 黄褐色ローム ブロック状に褐色土・砂質土が混入する



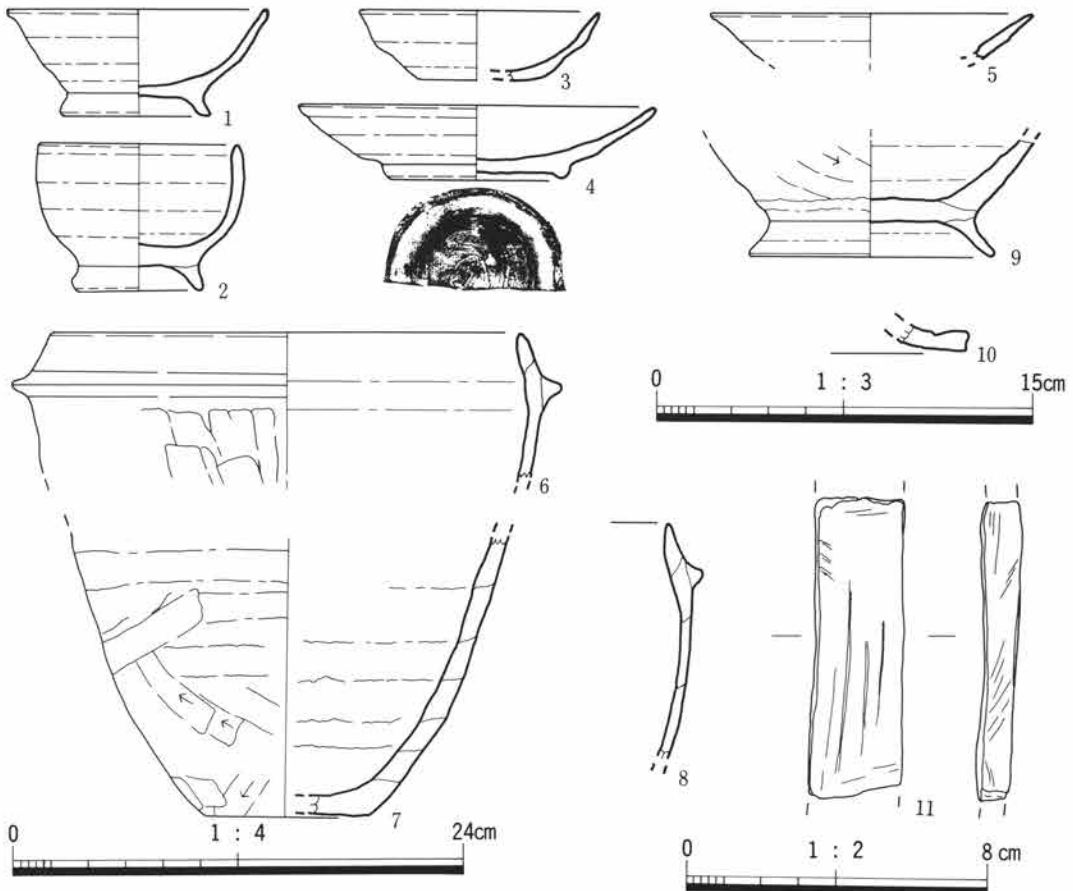
第345図 田端地区B区9号住居跡

川原石があり、下部には掘形土坑をもち、石の下には小石をかませて安定させている。作業台と考えている。

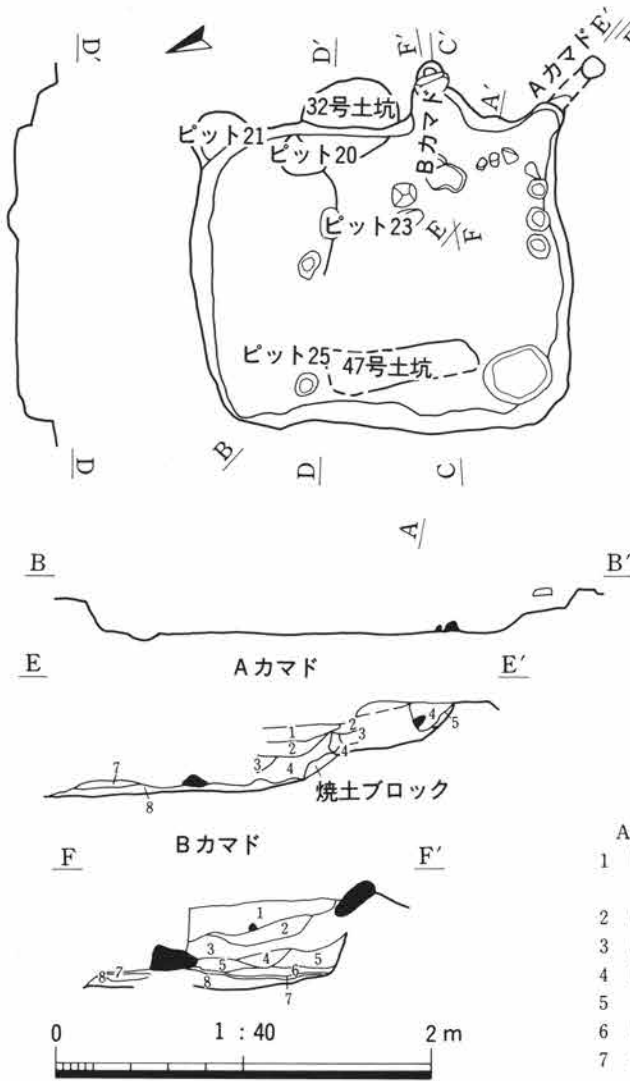
遺物は、羽釜、甑、小型平底の杯、高台付椀、高台付鉢、灰釉陶器段皿、皿(虎溪山期)、小型砥石が出土している。第346図9の高台付鉢は全体形状が不明だが、7B号第339図14の鉢と似ている。成整形技法・焼成が羽釜と同様であるこうした器種は、他遺跡であまり類例を聞いていない。注目したい遺物である。時期は遺物よりみて10世紀末とする。

田端遺跡B区10号住居跡 (第347~349図、図版93・94・159)

Mライン・71km255m付近で検出した。確認面は第4層である。32・33・47号土坑と重複する。33号土坑との前後関係は不明だが32・47号の両者は本住居跡よりも新しい。覆土は自然に堆積しているが、土坑の周辺は乱されている。壁は外方に開いて立ち上がる。床面は細かい凹凸をもつがおおむね平坦である。支柱穴と考えられるピットは認定できず、壁溝も検出できなかった。カマドは東辺に2基検出し、南側をAカマド、北側をBカマドとした。Aカマドは住居の南東隅から南側へ向けて構築され、煙道はトンネル状に約50cmほど遺存していた。内側の床面に割れた石が数個散乱して発見されており、構築材の一部と考えられる。Bカマドは東壁中央やや南寄りに構築され、35×20cmほどの石を天井部



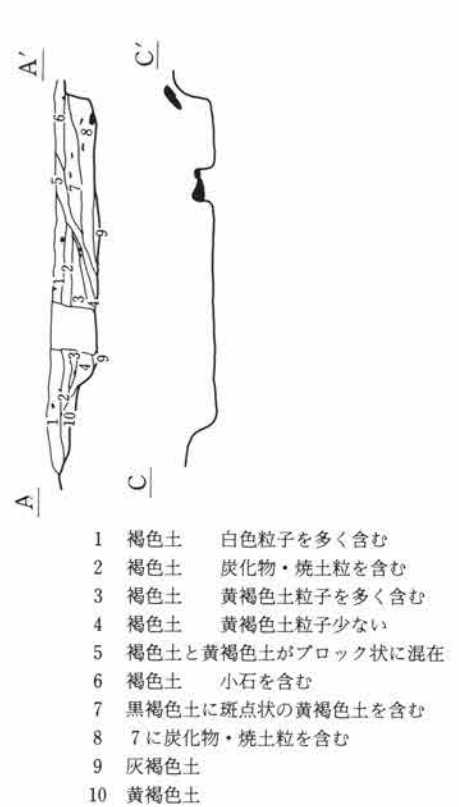
第346図 田端地区B区9号住居跡出土遺物



田端遺跡 田端地区B区10号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	398×309
面積	10.5m ²	壁高	20~26
長軸方位	N22°E		
A	位置	東南隅	
カマド	対称軸方位	N27.5°W	
	焚口部幅	45前後	燃焼部 30×35
	煙道部幅	18	長さ 48 角度 30°
	構築材	粘土・石	
B	位置	東壁南寄り	
カマド	対称軸方位	N101°E	
	焚口部幅	65	燃焼部 —
	煙道部幅	43	長さ 43 角度 7°
	構築材	粘土・石	
貯蔵穴	位置	南西隅	平面形 楕円形
	上バ	71×64	下バ 58×44
	深さ	31	

第349図 田端地区B区10号住居跡出土遺物

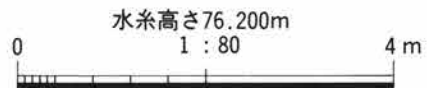


Aカマド

- 1 暗褐色土 白色粒子・黄褐色土・焼土・炭化物ブロックを含む
- 2 暗褐色土 灰褐色土を含む
- 3 灰褐色土 暗褐色土を少し含む。焼土・炭化物あり
- 4 暗褐色土 灰・炭化物多い
- 5 3に似るが焼土・炭化物少ない
- 6 灰褐色土に炭化物・灰を多く含む。焼土粒多い
- 7 黄褐色土 ブロック

Bカマド

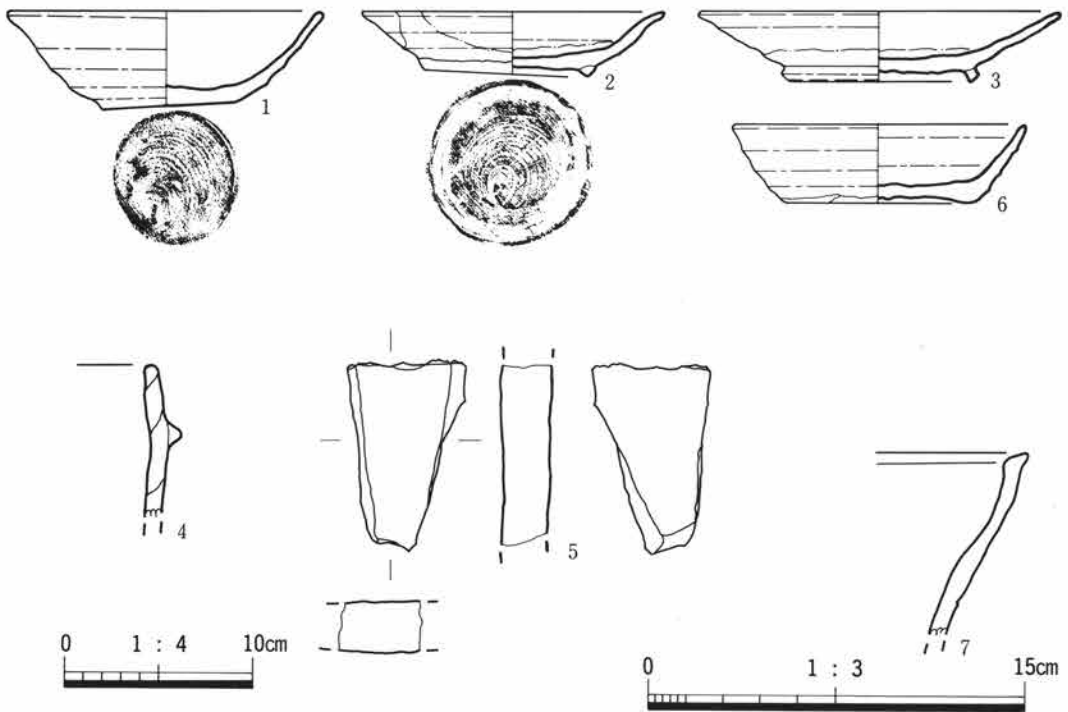
- 1 褐色土 白色粒子・黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒を含む
- 2 褐色土 1よりも黒味強い
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック大きい
- 4 灰褐色土
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック小さい
- 6 灰褐色土 暗褐色土・焼土のブロック含む
- 7 黄褐色土 カマド底面
- 8 灰褐色土 灰・炭化物を多く含む



第347図 田端地区B区10号住居跡



第348図 田端地区B区10号住居跡



第349図 田端地区B区10号住居跡出土遺物

としている。煙道はこの石の外方へ三角形を呈して8cmほどのび、途切れてしまう。上方へ延びてゆくと考えられる。このBカマドの前面にも15~40cm大の石が割れて散乱していた。正面の大きめの石の表面は滑らかであり、作業台等に使われた可能性がある。貯蔵穴は南西隅に検出できた。床面に接する上端は10~20cm大の石と粘土で固めていた。底面は凸レンズ状にくぼんでいる。その他南辺近くの床面に径20cm大・深さ10cmほどのピットが3個並んで検出されている。

遺物は少なく、床面近くのもの数は数点である。Bカマドの覆土からは完形の灰釉陶器皿、須恵器杯が出土している。A・Bのカマドはその遺存状況から、Bカマドのほうが新しいと考えられ、Bカマド内出土の遺物を参考にすれば、住居跡の時期は10世紀後半以後と考えられる。

田端B区11号住居跡（第350~352図、図版95・161）

Jライン・71km250m付近で検出した。確認面は第4層である。23・24・25号土坑と重複し、いずれも土坑の方が新しい。カマドと23号土坑との間の土坑状の掘り込み、および南西隅にかかる掘り込みはともに新しいゴミ穴状の攪乱である。覆土は自然に堆積しているが土坑・攪乱の周辺は乱されている。カマド覆土に浅間B軽石を含む層の堆積がある。壁は外方に開いて立ち上がる。床面は比較的平坦である。北西側のピットは径30~35cm・深さ7cm程で、ともに支柱穴と認定できなかった。壁溝はない。カマドは東辺中央に検出し、燃烧部が壁外に突き出るように構築されている。カマドの底面は床面よりもやや掘りくぼめられている。南側では粘土で構築された袖の基部を検出したが、北側では検出できなかった。南西隅に検出したピットは断面すり鉢状を呈しており、貯蔵穴と考えられる。

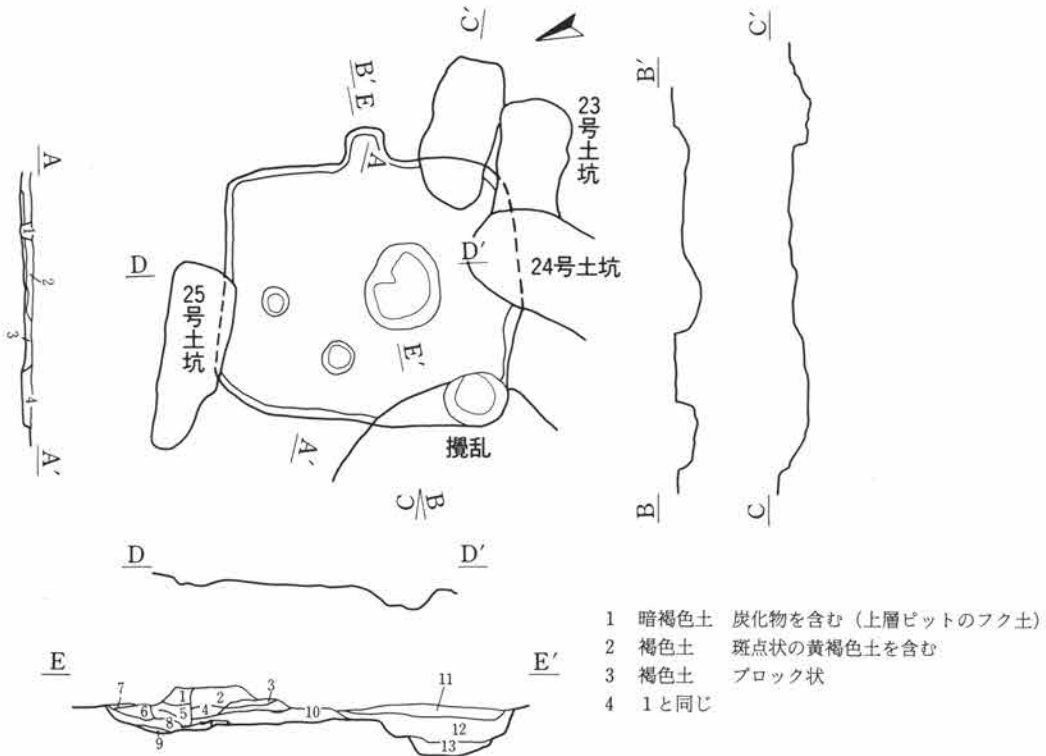
遺物は少なく、カマド周辺で土器片が数点発見されている。フィゴ羽口は覆土中の出土である。カマド内出土および覆土中の遺物を参考にすれば、住居跡の時期は11世紀代と考えられる。



第350図 田端地区B区11号住居跡

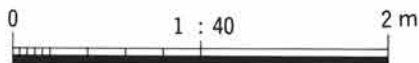
田端B区12号住居跡 (第353～356図、図版95・161・162)

Nライン・71km257m付近で出土した。確認面は第4層である。51・52号土坑と重複する。52号土坑との関係は不明だが、51号土坑は本住居跡よりも新しい。覆土は自然に堆積している。壁はカマド両脇および南西隅で検出したのみで、浅く斜めに立ち上がる。床面は中央部がややくぼみ、カマド前は右脇に深い部分がある。支柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝は不明。カマドは東辺に検出し、煙道は壁と直角をなさずに壁外へ延びている。燃焼部中央に石が発見されており、支脚と考えられる。カマド左脇に110～120cm程の円形土坑があり、内部のカマド寄りに深い掘り込みが検出



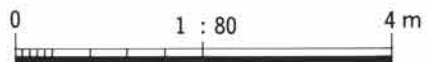
田端遺跡 田端地区B区11号住 (単位cm)

平面形 (台形)	規模 (277×319)
面積 (7.7) m ²	壁高 6～12
長軸方位 (N22°E)	
カマド 位置 東辺 対称軸方位 (N70°W)	焚口部幅 45前後 燃焼部 28×(30)
構築材粘土	
貯蔵穴 位置 南西隅 平面形 楕円形	上バ 69×57 下バ 43×43
深さ 36	
その他 中央に92×82・深さ25の円形の土坑がある	

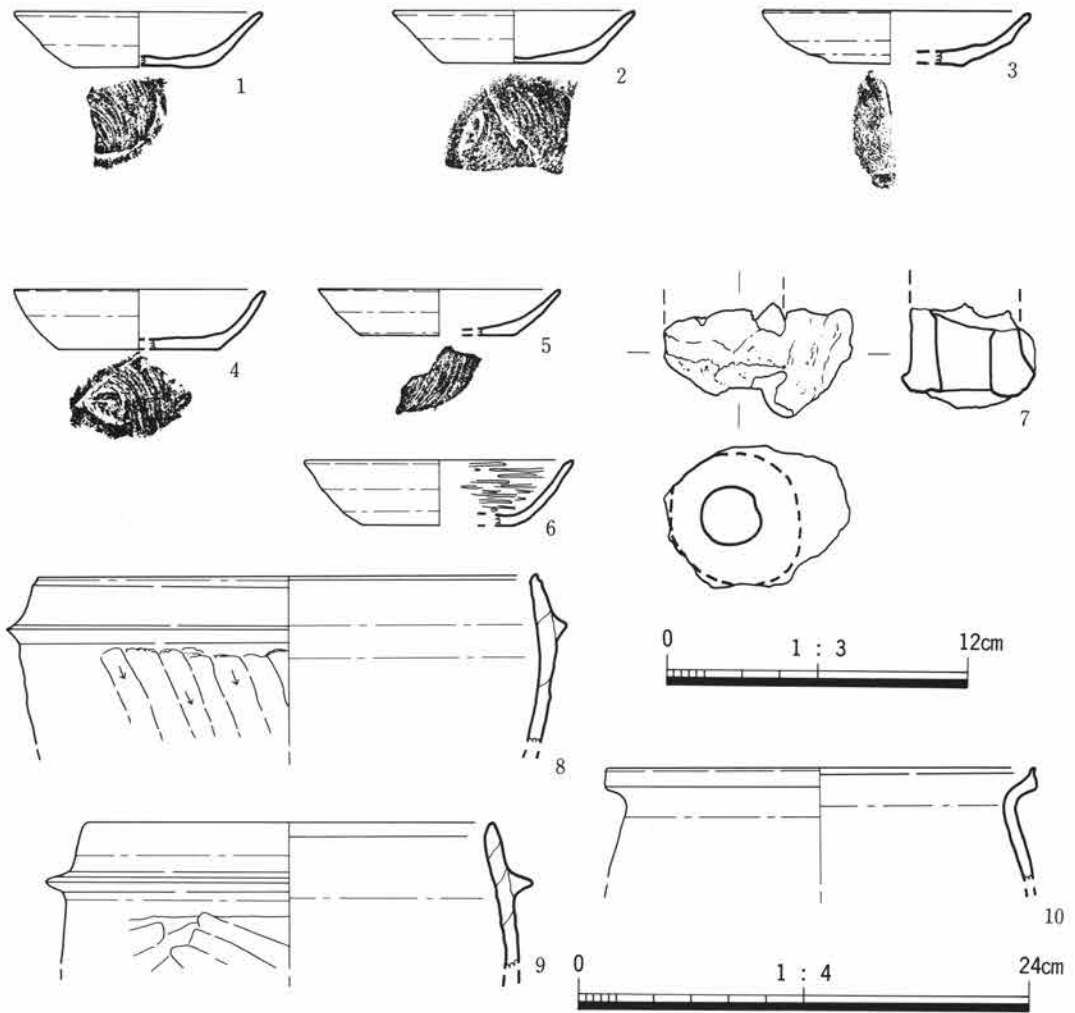


カマド・土坑

- 1 褐色土
- 2 褐色土 炭化物粒子・小石・B軽石を含む
- 3 褐色土 黄褐色土混じる
- 4 褐色土 炭化物混じる
- 5 褐色土 炭化物・焼土混じる
- 6 4と同じ
- 7 1と同じ
- 8 黒褐色土 炭化物・焼土混じる
- 9 黒褐色土 炭化物・焼土ブロック混入
- 10 8と同じ
- 11 2と同じ
- 12 黒褐色土 ブロック状の黄褐色土・炭化物混入
- 13 黄褐色土 ブロック状の黒褐色土混入



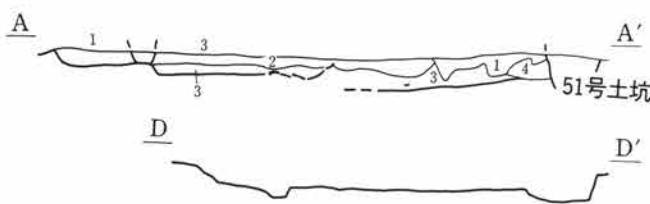
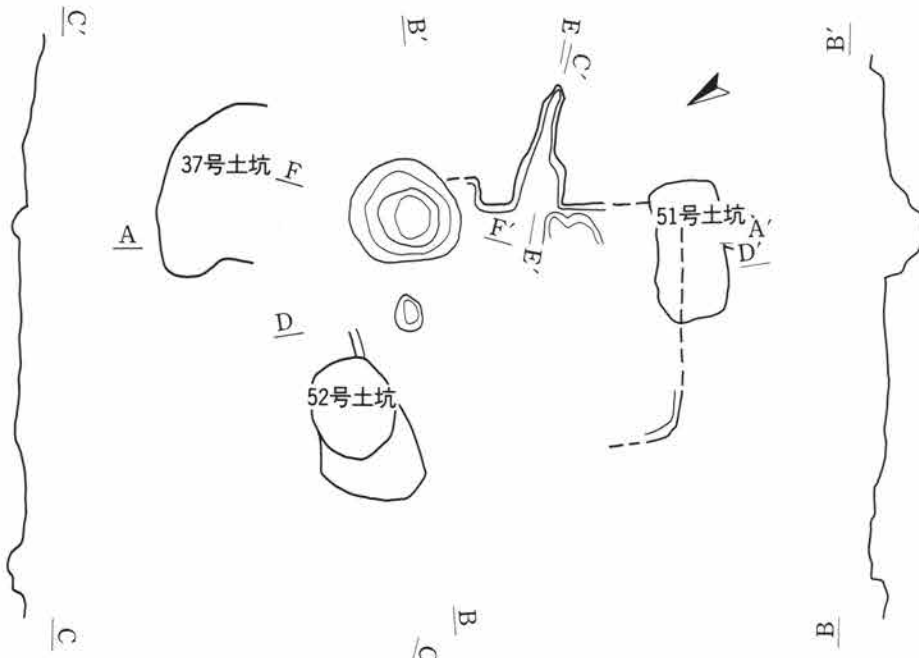
第351図 田端地区B区11号住居跡



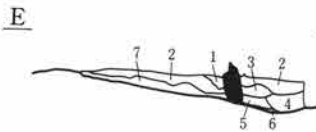
第352図 田端地区B区11号住居跡出土遺物



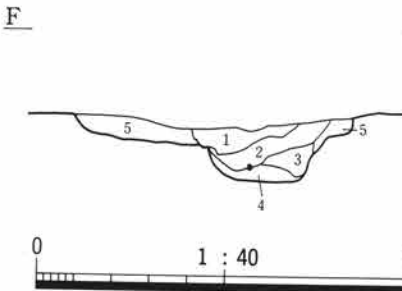
第353図 田端地区B区12号住居跡



- 1 褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 褐色土 1よりも黒味あり、白色小粒子を含む
- 3 褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 4 褐色土 黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む



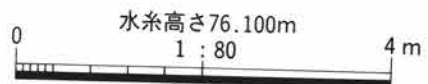
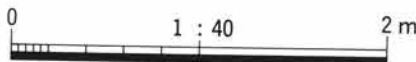
- カマド
- 1 攪乱 浅間A軽石を含む
 - 2 褐色土 砂・焼土ブロックを含む
 - 3 褐色土 焼土を多く含む。黒褐色土ブロックを含む
 - 4 褐色土 灰黄褐色土を多く含む
 - 5 灰黄褐色土+暗褐色土
 - 6 灰・炭化物
 - 7 黄褐色土+灰黄褐色土



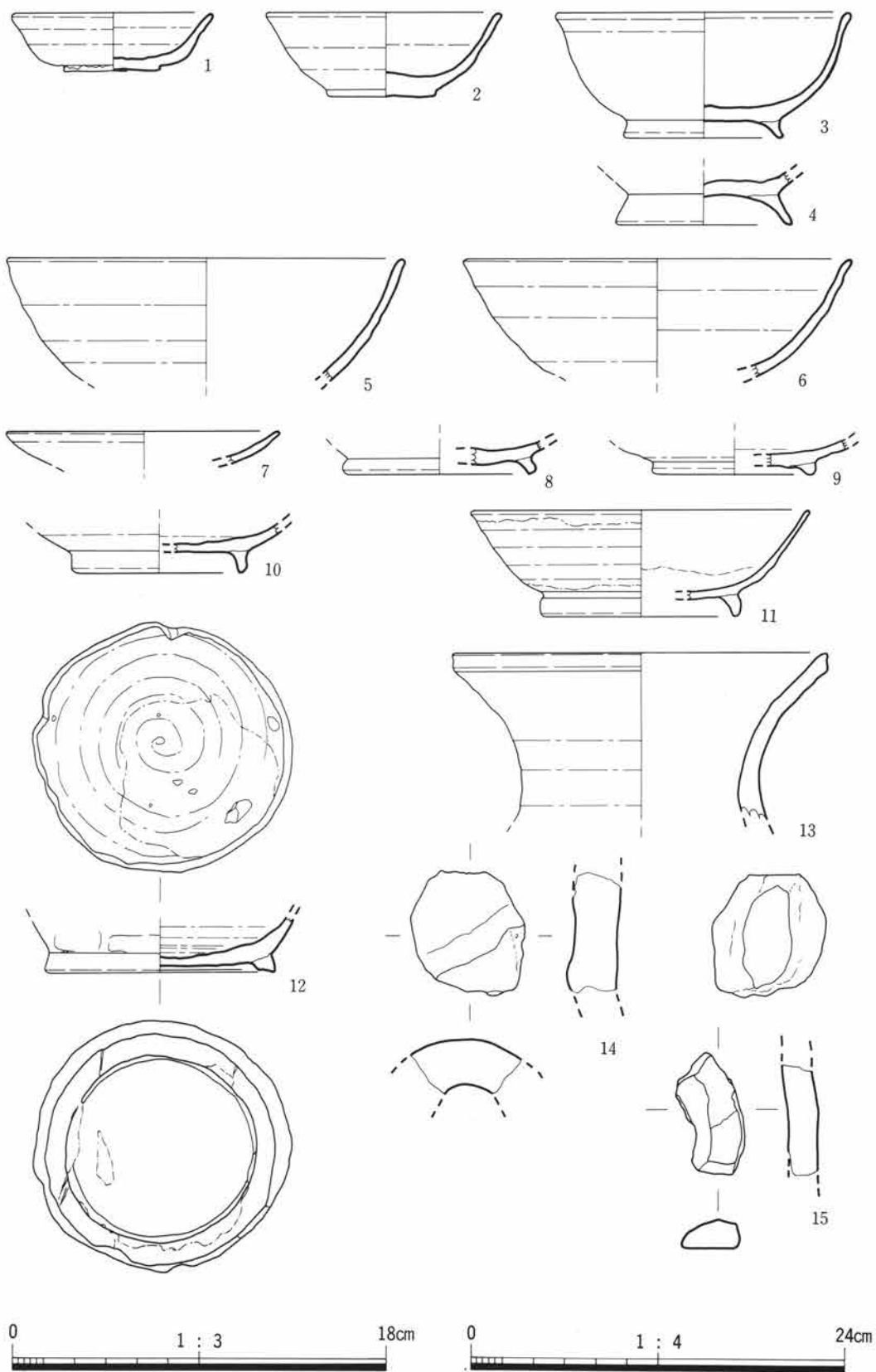
- 貯蔵穴
- 1 灰褐色土 黄褐色土粒子炭化物粒子含む
 - 2 褐色土 黒色土・黄褐色土ブロック・炭化物混入
 - 3 褐色土 2よりも黒味強く、黄褐色土ブロック大
 - 4 灰褐色土 3が混入
 - 5 4に似るが砂を多く含む

田端遺跡 田端地区B区12号住 (単位cm)

平面形	長方形?	規模	(250×)
面積	—	壁高	3~14
長軸方位	—		
カマド位置	東辺		
	対称軸方位 N131°E		
	焚口部幅	45	燃烧部 35×50
	煙道部幅	7~17	長さ 80 角度 8°
	構築材粘土 支 脚立石		
貯蔵穴位置	北東隅		
	下段 平面形 不整形 (2段)		
	上バ	67×60	
	下バ	45×37	
	深さ	37	
その他	南西隅検出		



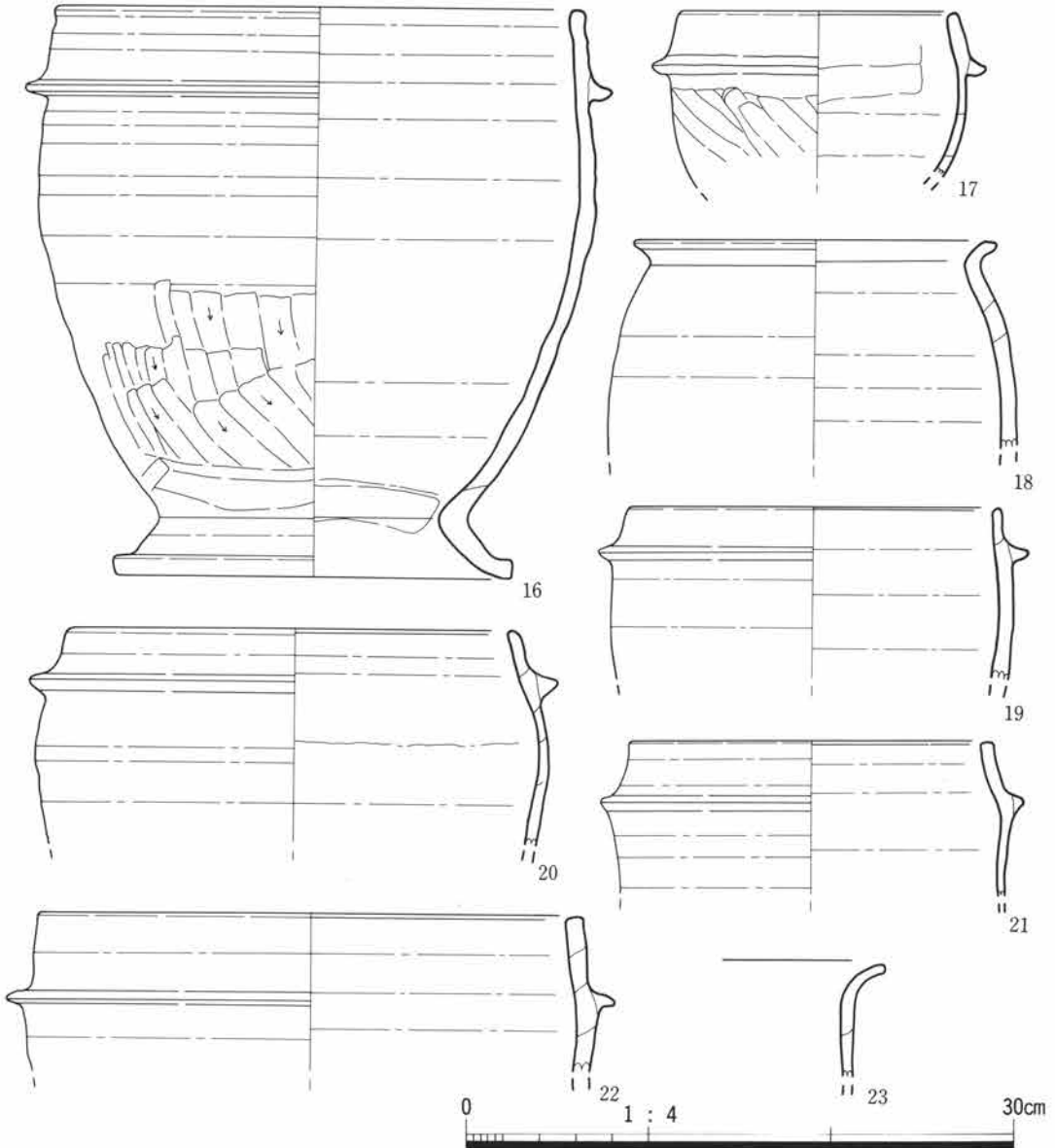
第354図 田端地区B区12号住居跡



第355図 田端地区B区12号住居跡出土遺物(1)

された。内部からは土器片が出土しており、貯蔵穴と考えられる。52号土坑の東側に長さ30cmほど壁状を呈する立ち上がりがみられ、本住居跡の北辺の一部である可能性がある。

遺物は貯蔵穴の上部から37号土坑にかけて、およびカマド周辺から比較的多く出土した。主な器種として鐙つきの甕、小型の羽釜、小型の杯、灰釉陶器碗・壺、口縁部が短く・強く外反する甕等がある。これらの遺物からみると住居跡の時期は10世紀後半～11世紀と推定される。



第356図 田端地区B区12号住居跡出土遺物(2)

田端B区13号住居跡（第357～359図、図版96・162）

N-Oライン・71km260m付近で検出した。確認面は第4層である。43号土坑、4号溝と重複しており、4号溝→本住居跡→43号土坑の順に新しい。覆土は自然に堆積している。壁は外方に開いて立ち上がるが、検出した壁高は低い。床面はほぼ平坦であるが、東側のカマド前面はやや低くなっている。支柱穴と考えられるピットは認定できなかった。壁溝はない。カマドは東辺に2基検出した。カマドの前後関係は不明である。ともに人頭大の川原石を構築材の一部とし、南カマドでは支脚に石を用いていた。北カマドの奥壁はほぼ直に立ち上がるが、南カマドの奥壁は斜めに立ち上がる。貯蔵穴と考えられるピットはカマド周辺では検出されず、住居内2号土坑が貯蔵穴の可能性が高い。住居内1号土坑の南西部は他の部分に比べてやや深く、底面に凹凸があり、本住居跡北東隅の一部とも考えられる。

遺物はカマド周辺と住居内1・2号土坑から出土している。土師質の杯・羽釜、灰釉陶器碗、黒色土器碗の小片、瓦、砥石が出土した。いずれも床面からやや浮いた状態で出土している。小型の杯、羽釜を参考にすると、本住居跡の時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

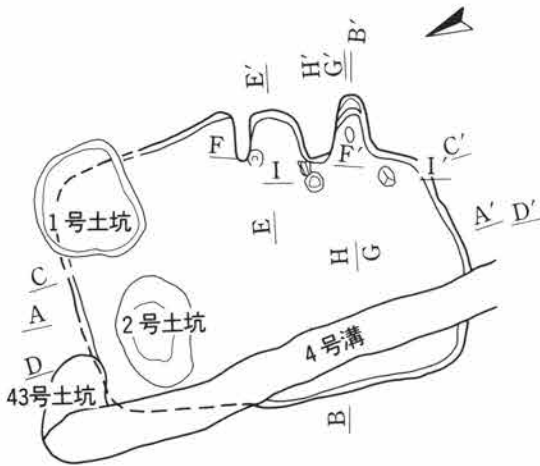


第357図 田端地区B区13号住居跡

田端遺跡 田端地区B区13号住

(単位cm)

平面形	長方形	規模	410×315
面積	12.9㎡	壁高	4~10
長軸方位	N 8° E		
北	位置	東辺南寄り	
カマド	対称軸方位	N105°E	
	焚口部幅	42	
	燃焼部	40×50	
	構築材石		
南	位置	南東隅近く	
カマド	対称軸方位	N116°	
	焚口部幅	48	
	燃焼部	33×45	
	煙道部幅	—	
	長さ	— 角度 53°	
	構築材石		
	支脚石		
貯蔵穴	位置	北西隅近く (2号土坑?)	
	平面形	楕円形	
	上バ	120×62	
	下バ	65×48	
	深さ	52	



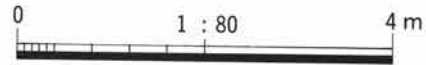
- 1 褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 褐色土 黒褐色土ブロック・白色小粒子を含む
- 3 褐色土 2よりも白色小粒子少ない
- 4 黒褐色土 炭化物を含む
- 5 黒褐色土 褐色土ブロックを含む
- 6 黄褐色土 褐色土ブロックを多く含む

北カマド



北カマド

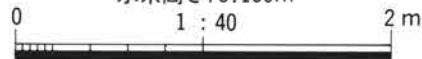
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・白色小粒子・炭化物を含む
- 2 褐色土 A軽石を含む
- 3 暗褐色土 1に似るが、焼土を含む
- 4 褐色土 黄褐色土ブロック・白色小粒子を含む
- 5 暗褐色土 灰・炭化物・焼土を含む
- 6 灰・炭化物
- 7 褐色土 炭化物・黄褐色土ブロックを含む



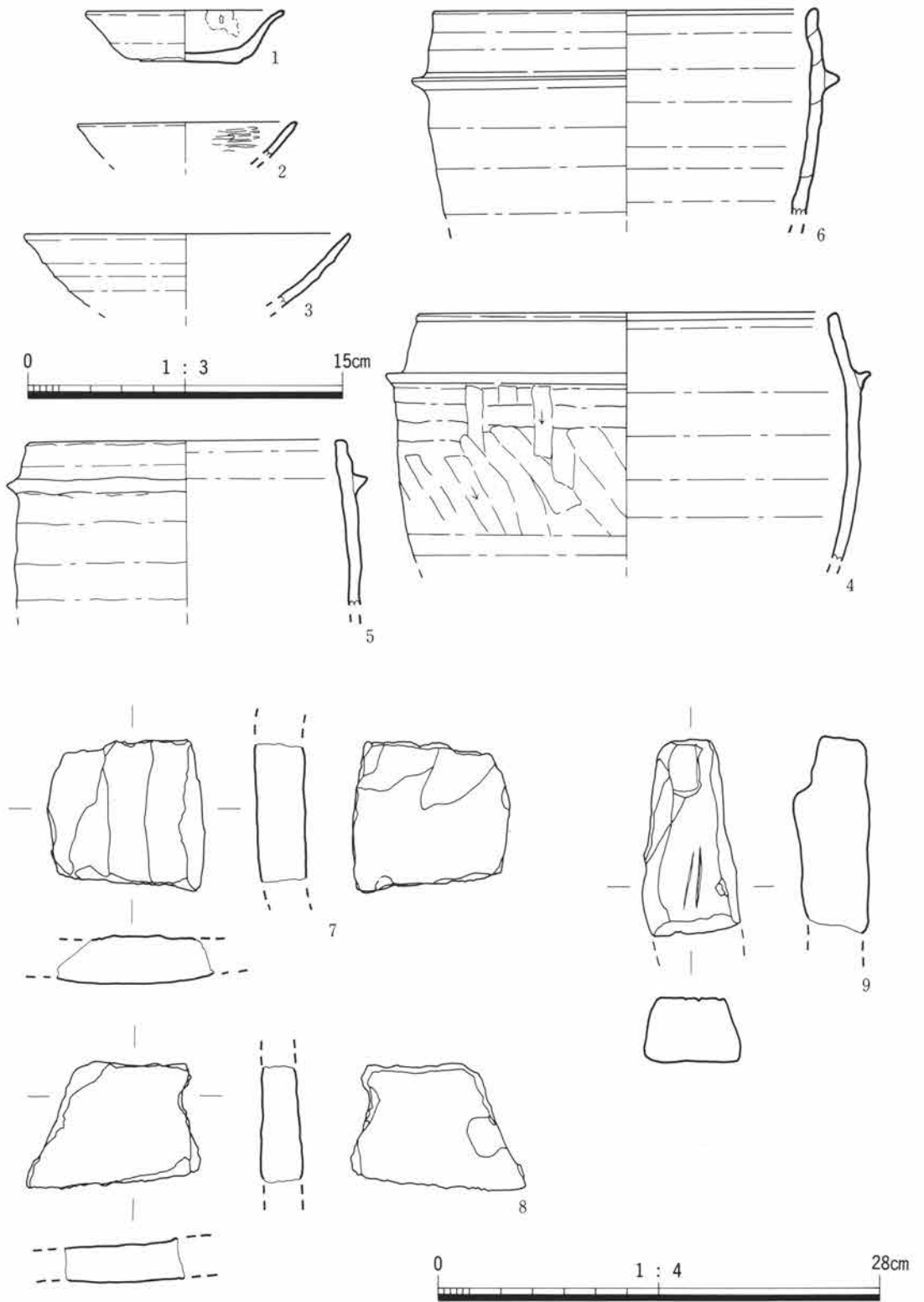
南カマド

- 1 褐色土 浅間A軽石を多く含む
- 2 褐色土 浅間A軽石・青灰色土ブロックを含む
- 3 褐色土 炭化物・白色小粒子を含む
- 4 褐色土 3に似るが黒味強く、焼土含む
- 5 褐色土 4よりも大形の焼土ブロックを含む
- 6 褐色土 炭化物を含む
- 7 炭化物・焼土

水系高さ76.100m



第358図 田端地区B区13号住居跡



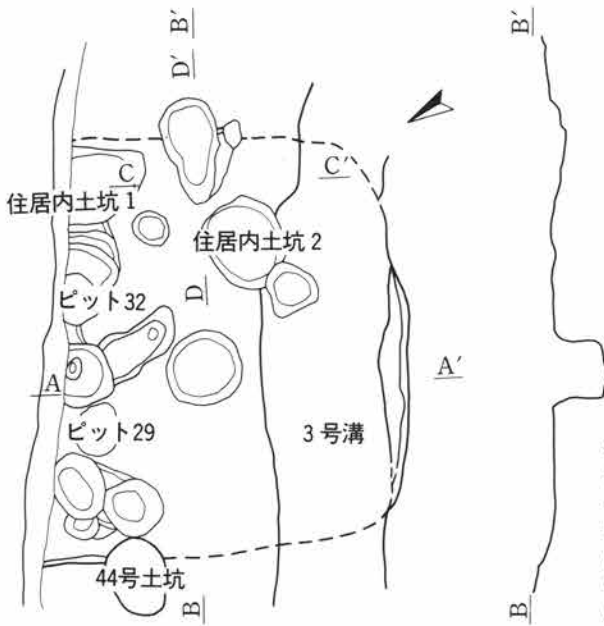
第359図 田端地区B区13号住居跡出土遺物

田端B区14号住居跡（第360～361図，図版96・163）

P-Qライン・71km262m付近で検出した。確認面は第4層である。3号溝・44号土坑と重複し、いずれも本住居跡の方が古い。また、29・32号ピットのほか、30～50cmほどの掘り込みによって床面が乱れており、辛うじてカマドと西辺の一部・南辺の一部を確認したのみである。東辺のカマド両袖も確認できなかった。住居内土坑1の上部（発掘区境界壁）にカマドの煙道を検出しているが、本住居確認の時点ですでに削平してしまった。遺存していた床面はほぼ平坦である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は不明である。カマドは殆ど削平されており、焼土・炭化物を検出したのみである。

遺物は44号土坑の南側の壁で杯が、カマド内から羽釜片が出土し、覆土からは陶磁器が比較的多く出土している。陶磁器は重複する3号溝のものか。

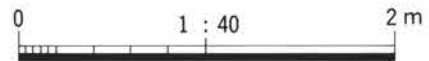
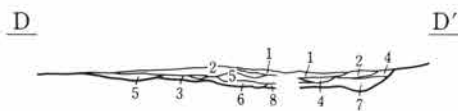
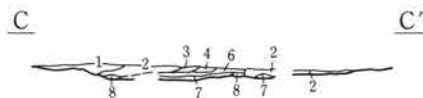
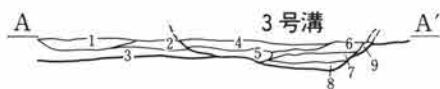
本住居跡の時期は杯・羽釜を参考にすれば、10世紀後半以降と考えられる。



田端遺跡 田端地区B区14号住 (単位cm)

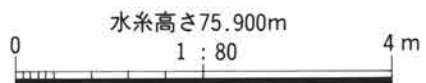
平面形	方形または長方形	規模	430×
面積	—	壁高	2～15
長軸方位	—		
カマド位置	東辺	対称軸方位	N120°E
その他	カマド詳細不	貯蔵穴不	

- 1 褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 褐色土 白色粒子・炭化物・焼土ブロックを含む
- 3 黒褐色土 褐色土ブロックを含む
- 4 褐色土 浅間A軽石を含み、1よりも黒色味強い
- 5 褐色土 白色粒子を含む
- 6 黒褐色土 砂質、ザラザラする
- 7 褐色土 黒褐色土ブロックを含む
- 8 黒褐色土 3と同じ
- 9 黒褐色土 3と同じ

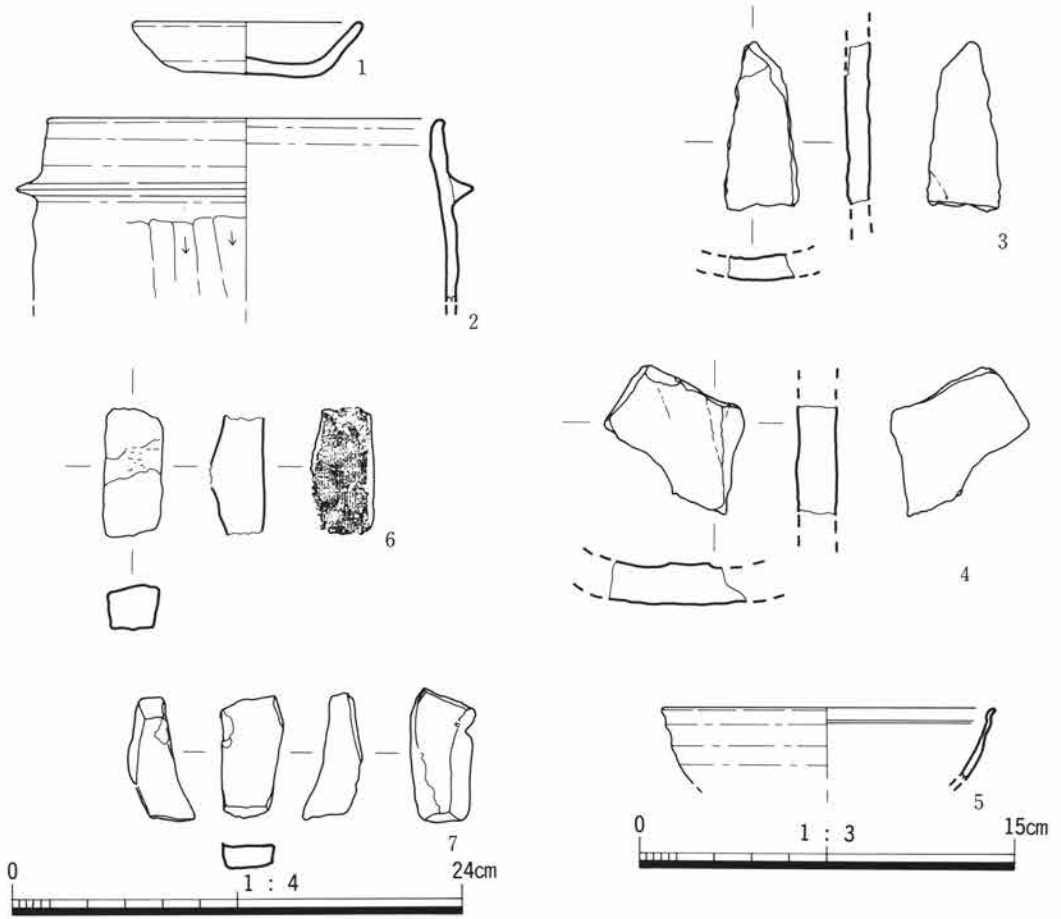


カマド

- 1 褐色土 白色小粒・黄褐色土ブロックを含む
- 2 褐色土 1に炭化物・焼土粒を含む
- 3 焼土
- 4 黄褐色土 褐色土混入
- 5 褐色土 炭化物・焼土粒・黄褐色土ブロックを含む
- 6 灰・炭化物
- 7 黄褐色土
- 8 黄褐色土 4に似る



第360図 田端地区B区14号住居跡



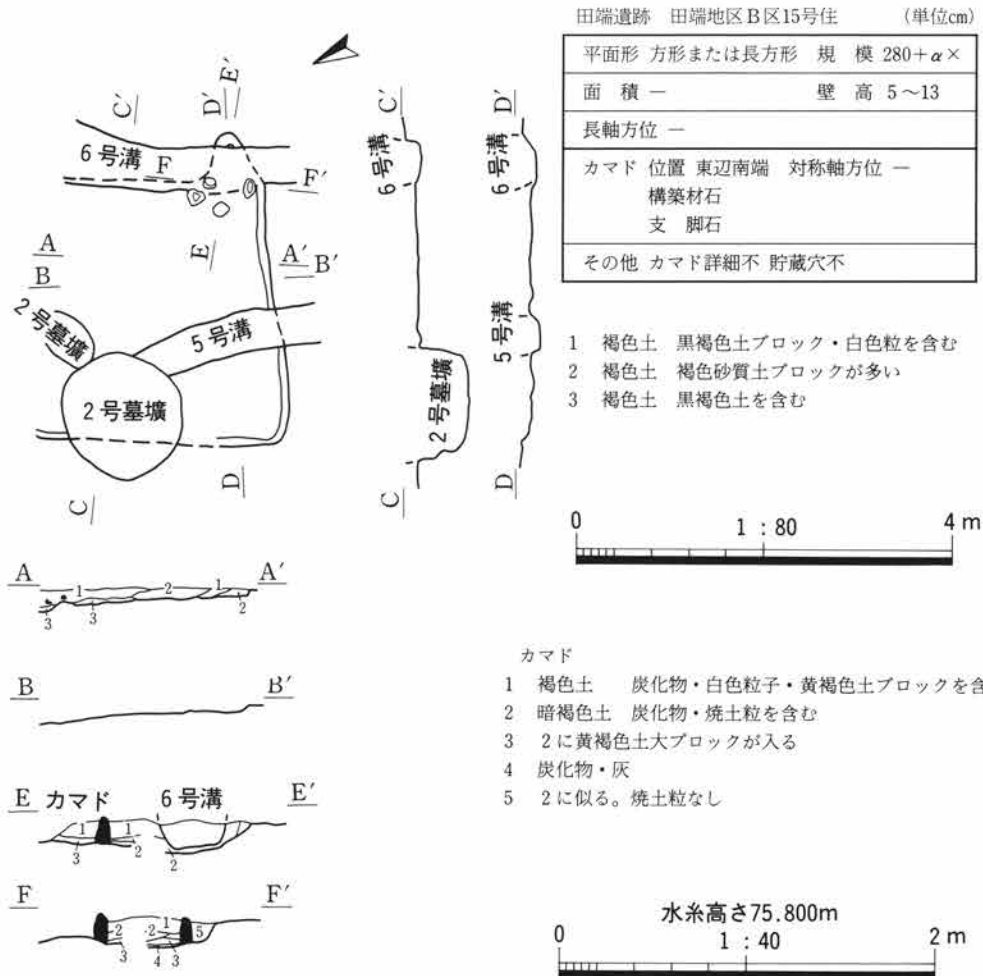
第361図 田端地区B区14号住居跡出土遺物

田端B区15号住居跡（第362図、図版96）

Qライン・71km270m付近で検出した。確認面は第4層である。2号・2'号墓墳、5・6号溝と重複し、いずれも本住居跡の方が古い。6号溝はカマド本体を破壊している。南辺の一部・南西隅・西辺の一部を検出したのみで、東辺は6号溝に破壊され、北辺は発掘区外である。

覆土は自然に堆積している。床面はほぼ平坦だが、北へ向かってやや低くなる。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出できなかった。カマドは6号溝によって壊されていたが、袖石と支脚が遺存していた。また、煙道の一部は6号溝の東側で検出した。北西部は後世の破壊が著しく、詳細は不明である。

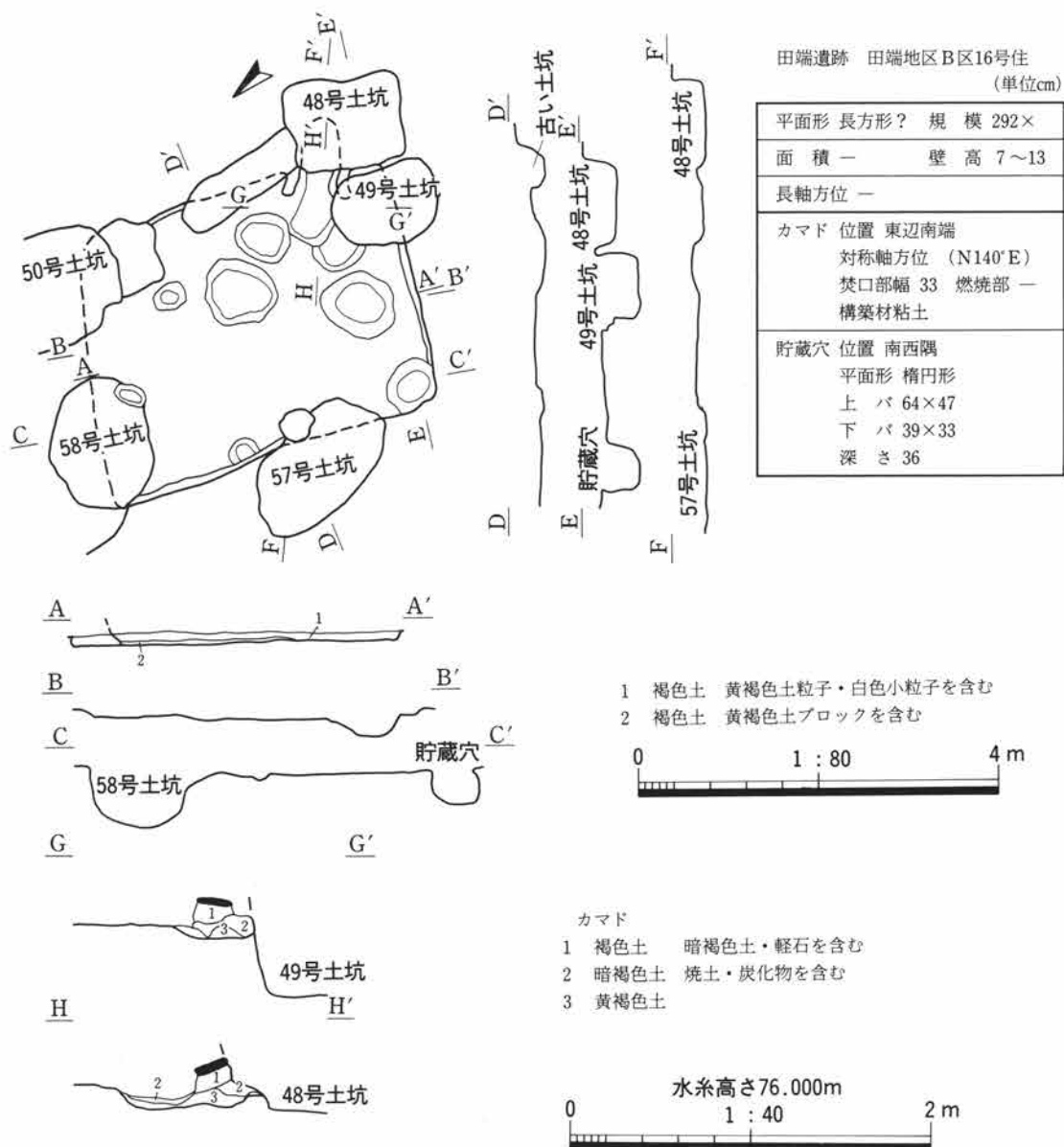
遺物は中央部床面近くで羽釜の体部片が出土したほか、覆土中から9片の土師器・須恵器が出土したのみで、図示できるものはない。本住居跡は6号溝、2号・2'号墓墳以前に限定できるが、上限を求める材料が不足している。10世紀後半～11世紀としておく。



第362図 田端地区B区15号住居跡

田端B区16号住居跡 (第363・365図、図版97・164)

O-Pライン・71km267m付近で検出した。確認面は第4層である。48・49・50・57・58号土坑、6号溝と重複する。土坑はいずれも本住居跡よりも新しい。6号溝と本住居跡との前後関係は不明だが、6号溝-58号土坑は6号溝が古い。48号土坑の北側にある溝状の土坑は、本住居跡のカマド袖下から検出しており、本住居跡よりも古いものである。覆土は浅く、自然に堆積している。壁は東辺・南辺・西辺のそれぞれ一部を検出したが、北辺は検出できなかった。遺存範囲の床面はほぼ平坦である。柱穴・壁溝は検出できなかった。カマドは袖の一部を検出したが、大半は48号土坑によって破壊されて



第363図 田端地区B区16号住居跡

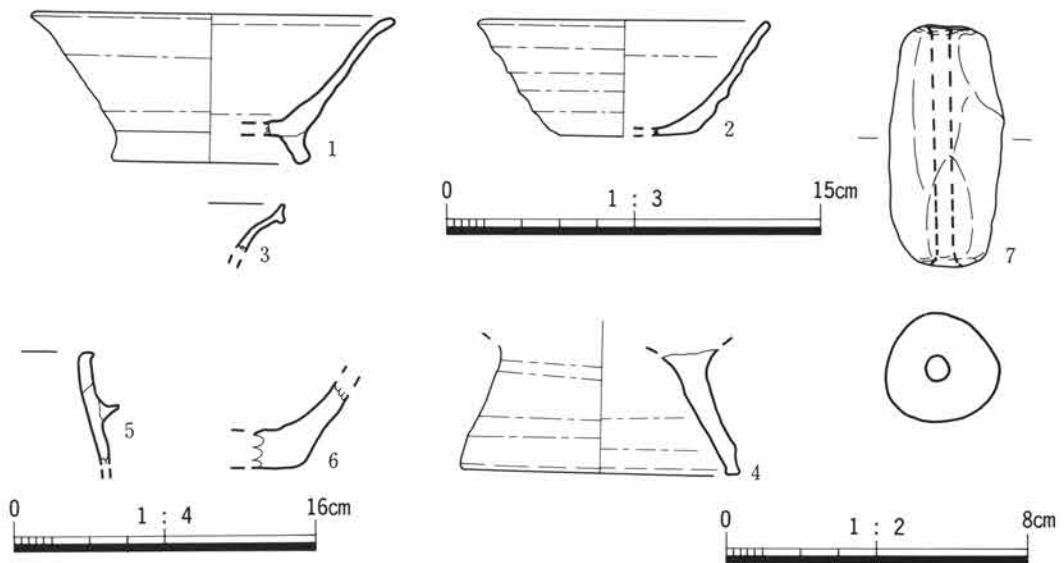
いたため詳細は不明である。貯蔵穴は南西隅で検出したピットと考えられる。住居中央部の浅いピットは上層からの攪乱である。

遺物は中央部床面とカマド付近で発見されている。第365図4の脚部は本体不明だが、大型の壺・鉢等が考えられる。

遺構の時期は椀・羽釜・杯等から10世紀代とみられる。



第364図 田端地区B区17号住居跡

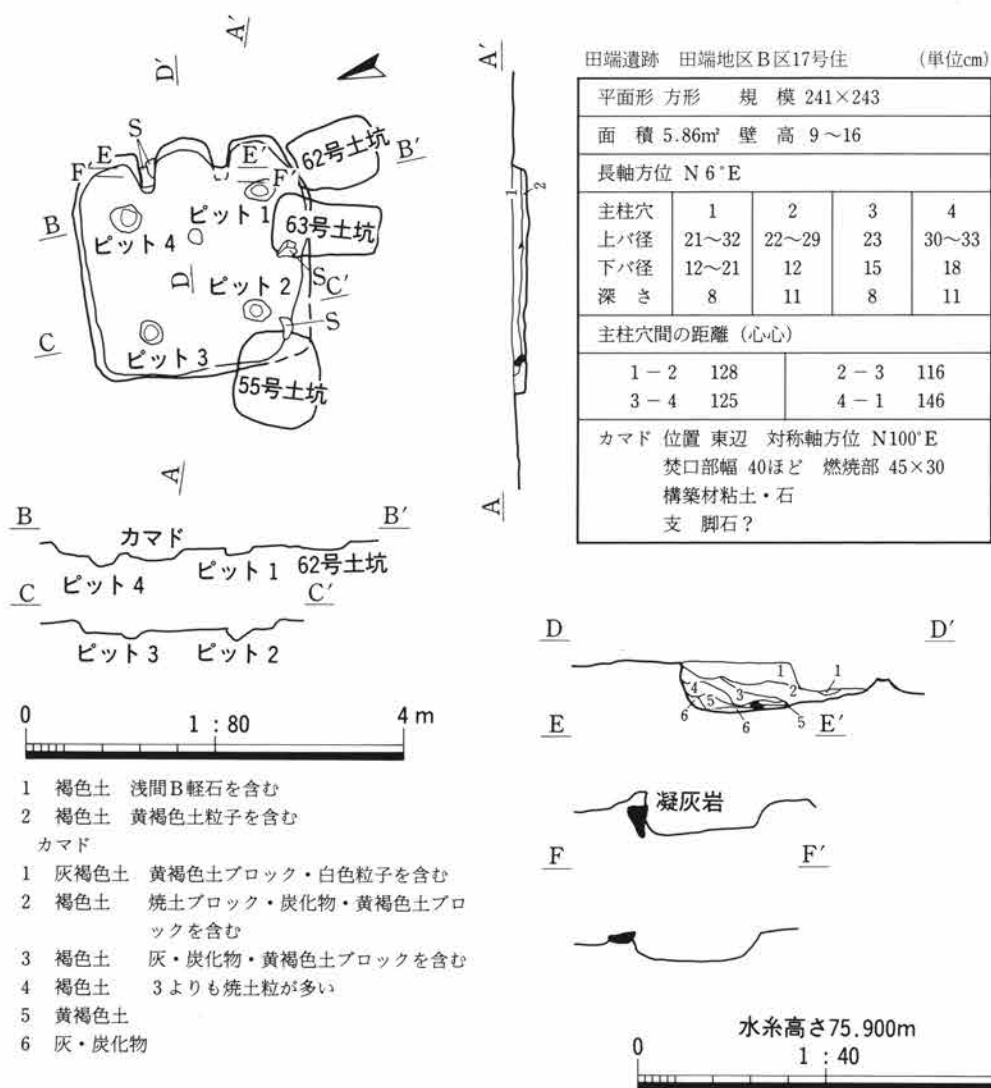


第365図 田端地区B区16号住居跡出土遺物

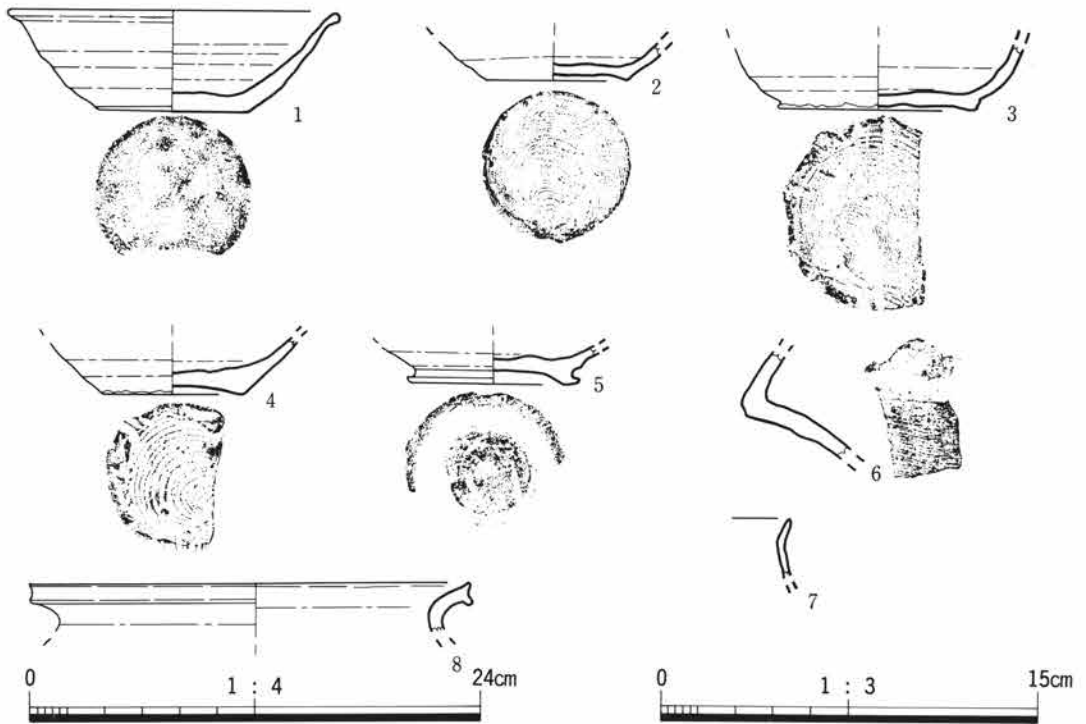
田端B区17号住居跡 (第364・366・367図、図版97・98・164)

Nライン・71km270m付近で検出した。確認面は第4層である。19号住居跡、55・62・63・132号土坑と重複している。19号住居跡・132号土坑は本住居跡よりも古く、他の土坑は本住居跡よりも新しい。132号土坑は床面下からの検出である。覆土は水平近くに堆積している。壁は斜めに立ち上がり、低い。南西隅を除き、ほぼ全周を検出した。床面はほぼ平らだが、南側がやや高い。支柱穴と考えられるピットは4本検出した。いずれも深さ10cm程で浅く、径も20~30cmである。壁溝はない。カマドは東辺中央で検出した。左袖基部には凝灰岩が据えられていた。カマド前面は浅くくぼんでおり、その中央部寄りに床面から浮いた状態で15cm大の石が出土している。また、南西隅では半月形に割れた偏平な石が出土している。貯蔵穴は発見できなかった。

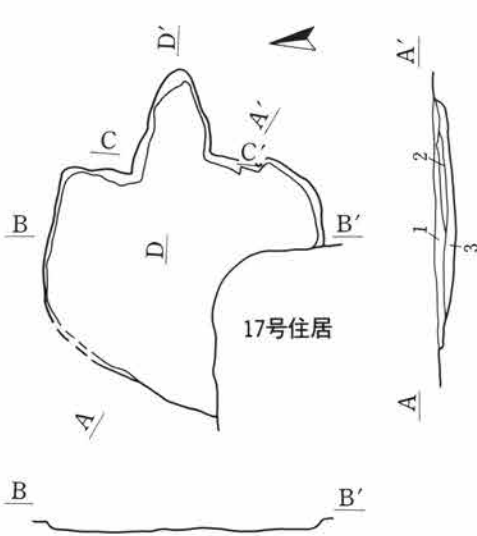
遺物はカマド内、その前面、北辺・西辺・南辺の壁際から出土している。杯・小型甕、鉢?、碗等がある。時期は9世紀後半から10世紀初頭が考えられる。



第366図 田端地区B区17号住居跡



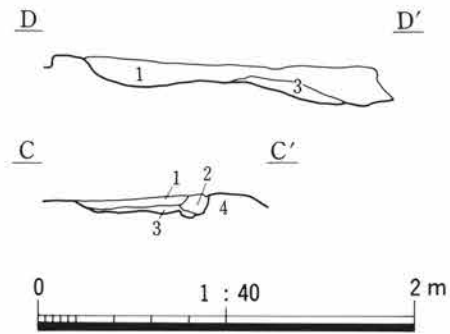
第367図 田端地区B区17号住居跡出土遺物



17号住居

田端遺跡 田端地区B区18号住 (単位cm)

平面形	台形	規模	290×240
面積	7.0㎡	壁高	13
長軸方位	N19.5°E		
カマド 位置	東辺中央		
対称軸方位	N103°E		
焚口部幅	55	燃焼部	48×80

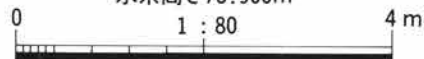


- 1 褐色土 白色小粒子・ロームブロック・炭化物・焼土を含む
- 2 褐色土 堅く締る土、白色小粒子・黄褐色粘質土を含む
- 3 暗褐色土 粘性のある土、白色小粒子・炭化物粒を多く含む

カマド

- 1 褐色土 白色小粒子・ローム粒・炭化物・灰を含む
- 2 褐色土 白色小粒子・黄褐色粘質土・やや白っぽい土
- 3 褐色土 堅くたたいた土、ロームブロックを含む
- 4 褐色土 住居壁の土

水糸高さ75.900m



第368図 田端地区B区18号住居跡

田端B区第18号住居跡（第368図）

Nライン・71km268m付近で検出した。確認面は第4層である。17号、19号、20号住居と重複し、100、127、132号土坑とも重複する。本住居は17号住居より古く、19号、20号住居より新しい。土坑はすべて住居より旧である。覆土は確認面から床面までが浅く、堆積状態の観察が十分にできないがほぼ自然堆積とみられる。壁の立ち上がりも僅かで、西辺南寄りの部分は明確に出来なかった。床面の状態も不明確で、カマド前部を中心にして平坦面がひろがる。柱穴、壁溝、貯蔵穴は検出できなかった。カマドは東辺中央にあり、壁外に作り出す燃焼部の底面のみが遺存している。

遺物は土師器の小片のみであった。

時期は重複関係により9世紀後半のなかにおさまると考えている。

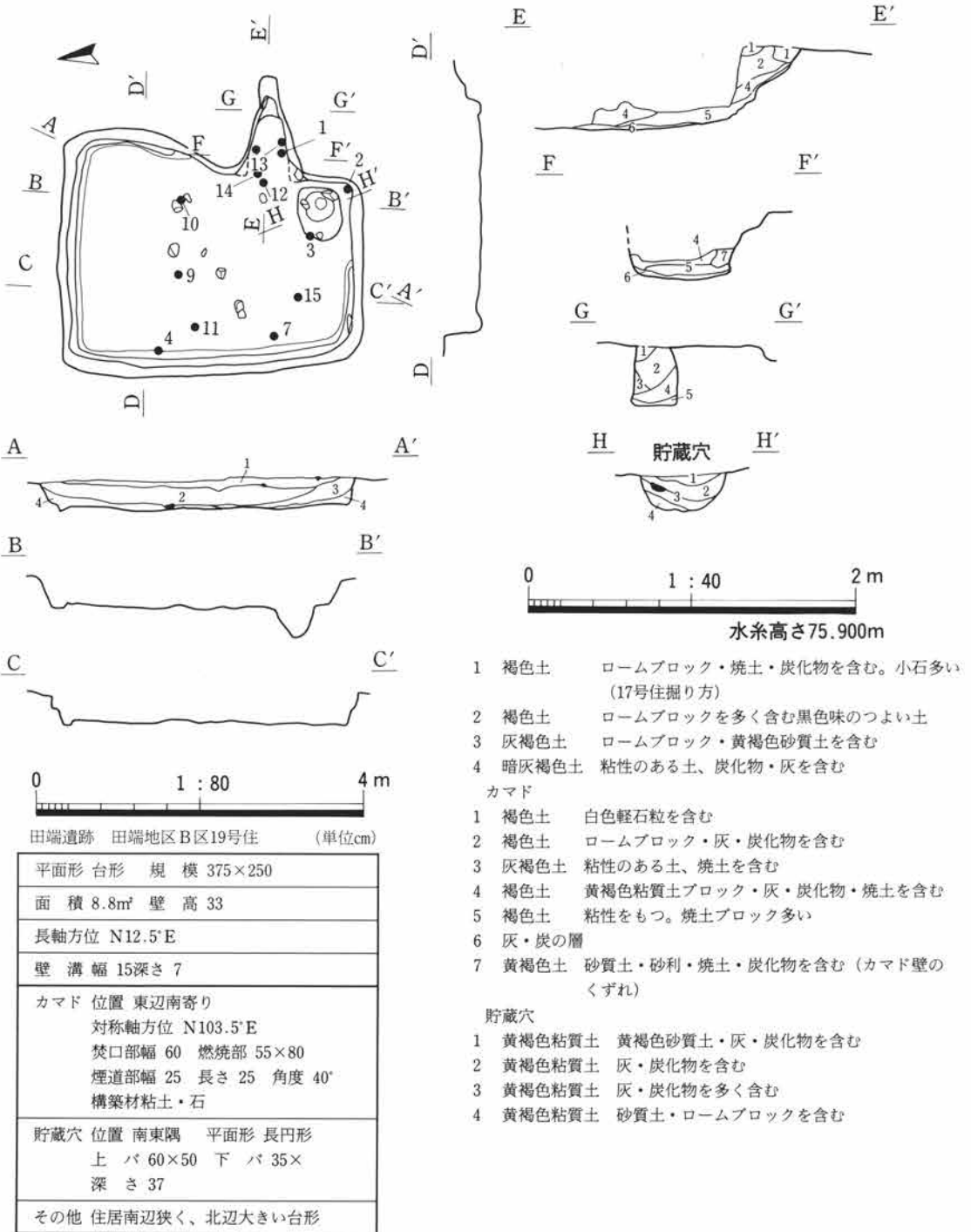
田端B区第19号住居跡（第369～371図、図版98・164）

Nライン・71km268m付近で検出した。確認面は第4層である。17号、18号住の下部から検出され、55、132号土坑と重複する。17号、18号住、55号土坑が新しく、132号土坑は本住居より旧である。平面形は、北辺と南辺の長さが著しく違い、東辺が大きく歪んで台形となる。覆土は自然の堆積状態をしめしている。壁はやや斜めに立ち上がり、壁溝が南辺中央から西辺、北辺、東辺カマド脇までぐるりとめぐり、床面はカマド前部を中心に堅く、全体に平坦で良好である。柱穴は検出していない。カマドは東辺南寄りにあり、燃焼部・煙道を壁外につくりつけるタイプである。燃焼部の奥行きがやや長めで、煙道は急に昇りあげるようにつくられている。底面と両側面は箱状でおそらく四角い断面であったろう。貯蔵穴は南東隅、カマド右脇にある。

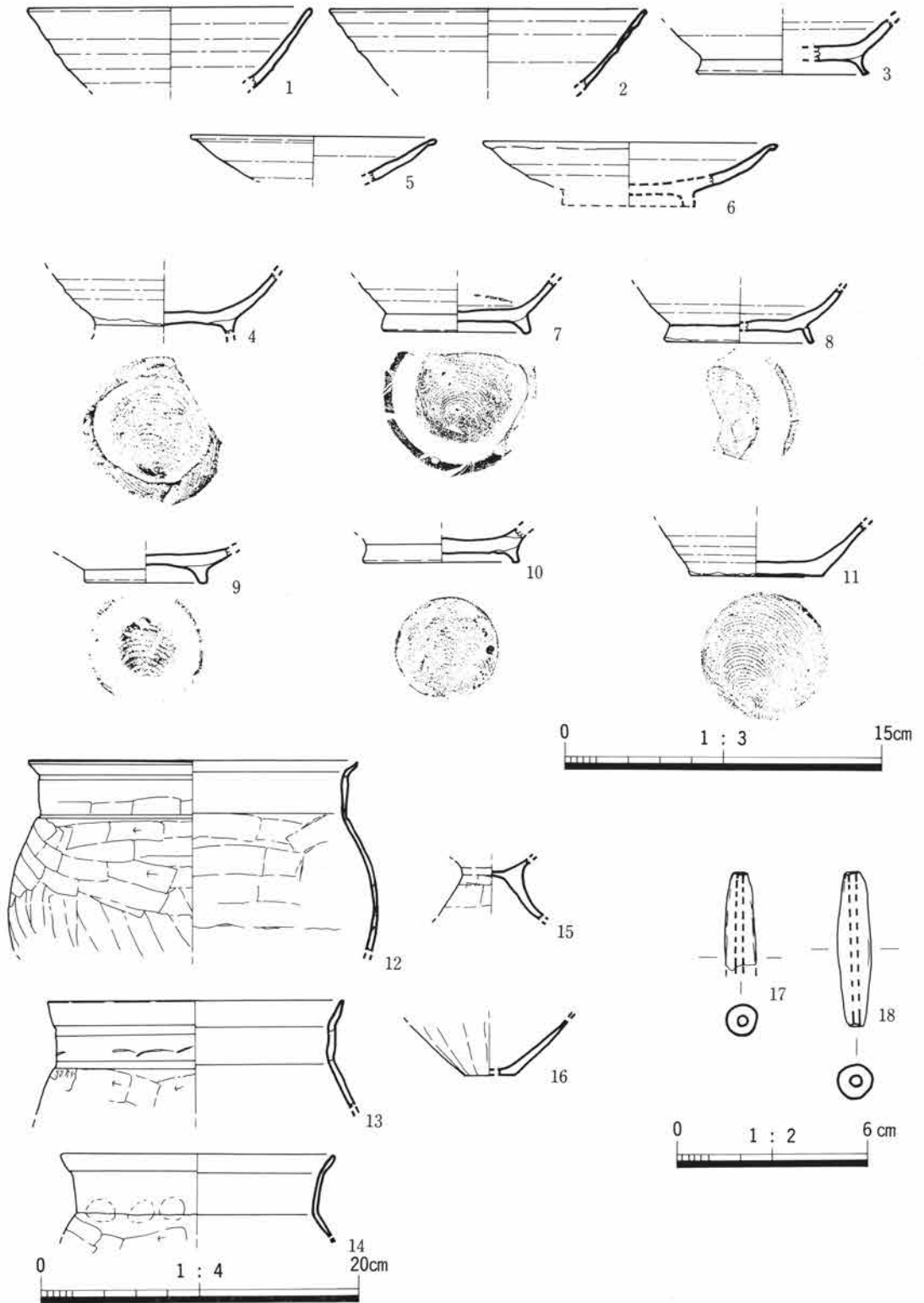


第369図 田端地区B区19号住居跡

遺物は、土師器コの字口縁の甕、高台付椀、皿、土錘が出土している。本住居の時期は、9世紀後半と考える。



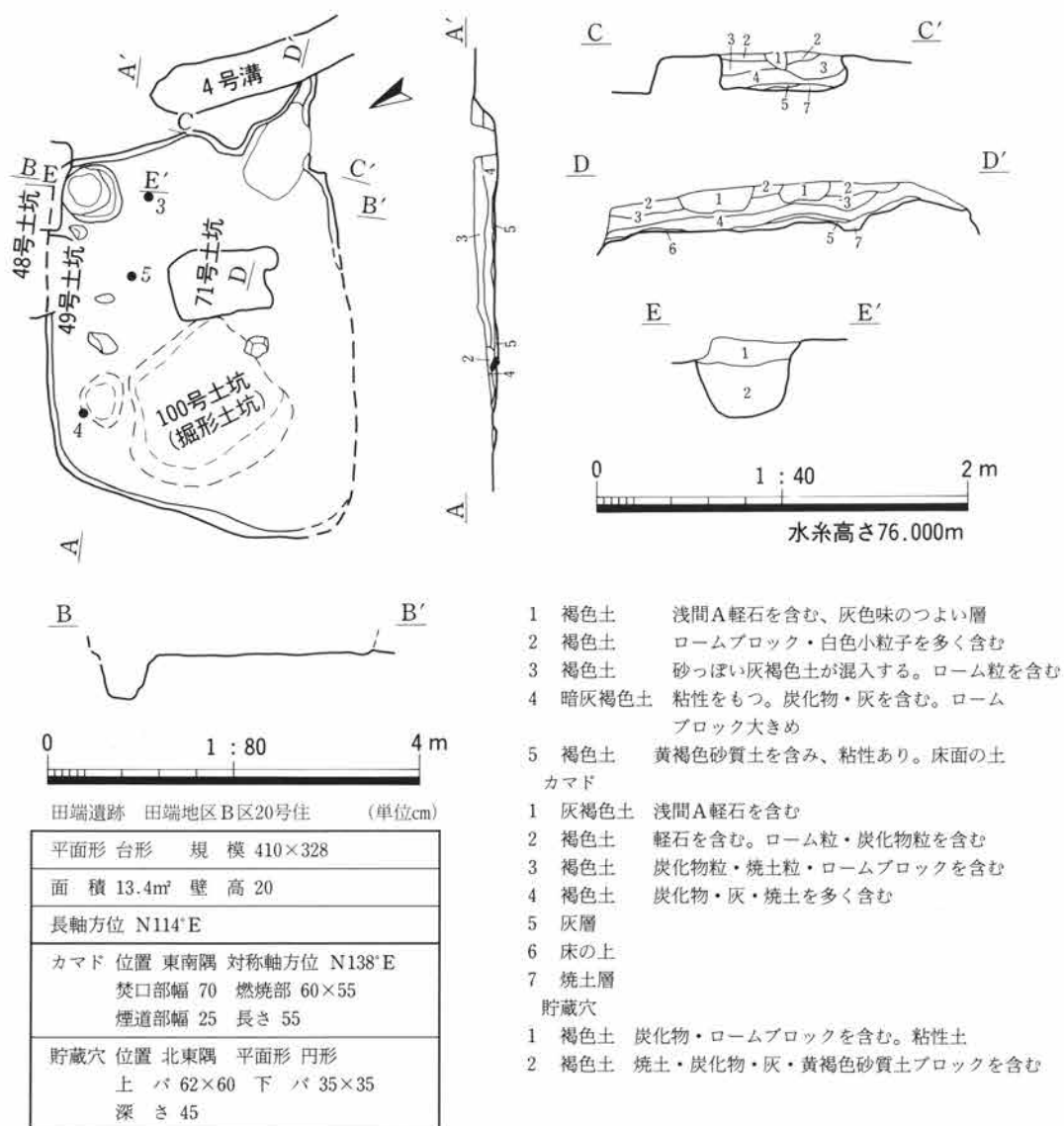
第370図 田端地区B区19号住居跡



第371図 田端地区B区19号住居跡出土遺物

田端B区第20号住居跡（第372・373図、図版99・165）

Oライン・71km265m付近で検出した。確認面は第4層である。16号、13号住居跡と接し、当初18号住居跡とした土坑状落ち込みに南西部分をきられている。また、48、49、60、71、100、127号土坑、4号溝も重複する。100号土坑は本住居の掘形土坑と考えた。127号土坑は20号住居より古く、他の土坑及び溝はすべて新しい。覆土は自然の堆積をしめしている。壁は北辺が比較的良好で、やや斜めに立ち上がる。床面は中央部分を71号土坑によって壊されているが、カマド前から中央部分が平坦で、北辺から西辺にかけてわずかに低くなる。柱穴、壁溝は、検出できなかった。カマドは南東隅にあり、燃焼部をすべて壁外に作り出している。煙道は燃焼部奥から一段あがって作られているが、大部分を



第372図 田端地区B区20号住居跡

4号溝によって壊されていて詳細は不明である。貯蔵穴は北東隅にあり、中段をもつ。100号とした土坑は不整形円で浅いすり鉢状を呈し、掘形土坑とした。

遺物は出土量が少なく、小片のみである。土師器甕、須恵器椀、灰釉陶器椀、羽釜片等が出土している。

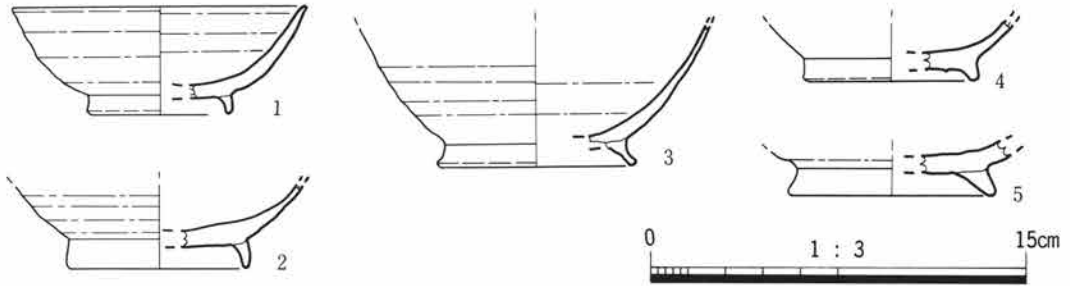
時期は、住居形態及び遺物の観察から10世紀も新しい部分かと考えている。

田端B区第21号住居跡 (第374・375図、図版99)

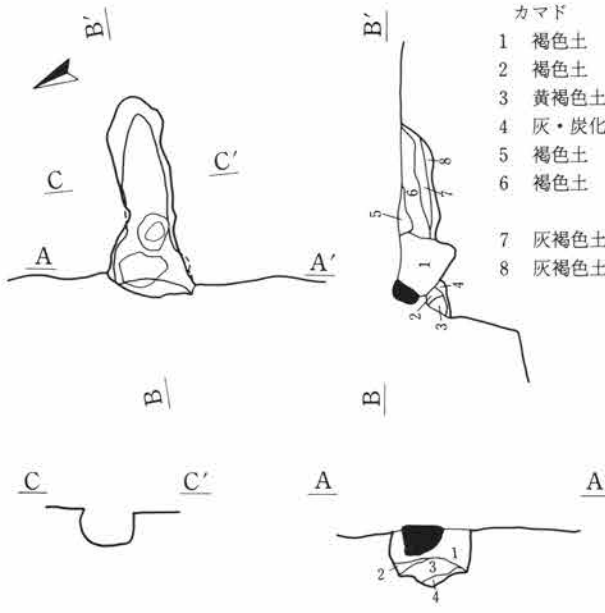
Pライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。西側を攪乱によって失い、カマド煙道のみ調査した。煙道も上層から一部破壊されていたが、深さ18cmほど遺存していた。詳細は不明である。

遺物はカマド覆土から土師器杯・須恵器杯が出土している。

時期は8世紀代が考えられる。



第373図 田端地区B区20号住居跡出土遺物

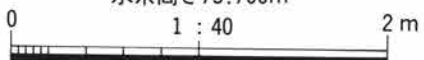


- カマド
- 1 褐色土 黄褐色土ブロック・白色小粒子を含む
 - 2 褐色土 黄褐色土ブロック・灰・炭化物多い
 - 3 黄褐色土 粘質。焼土多い
 - 4 灰・炭化物
 - 5 褐色土 下部に焼土あり
 - 6 褐色土 黄褐色土・焼土ブロック・炭化物・白色小粒子多い
 - 7 灰褐色土 黄褐色土・炭化物・焼土ブロック多い
 - 8 灰褐色土 7よりも焼土・炭化物少ない

田端遺跡 田端地区B区21号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	—
長軸方位	—		
カマド位置	— 対称軸方位 N106°E		
煙道部幅	26	長さ	98
角度	8°		
構築材	粘土		

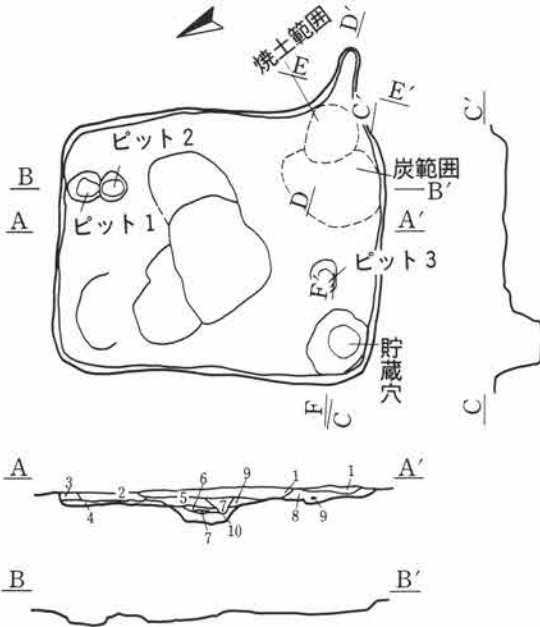
水糸高さ75.700m



第374図 田端地区B区21号住居跡

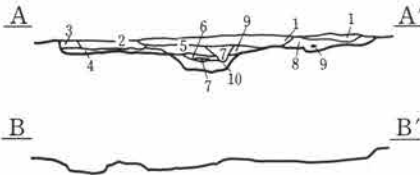


第375図 田端地区B区21号住居跡出土遺物

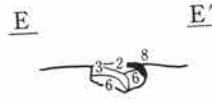
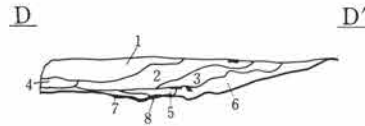


田端遺跡 田端地区B区22号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	281×346
面積	9.7m ²	壁高	5~10
長軸方位	N24°E		
カマド	位置 南東隅 対称軸方位 N129°E 煙道部 幅 20 長さ 60 角度17° 構築材 粘土・石		
貯蔵穴	位置 南西隅 平面形 楕円形 上バ 71×58 下バ 32×35 深さ 40		
その他	貯蔵穴底部に石あり		

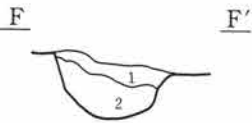


- 1 褐色土 炭化物・白色小粒子を含む
- 2 褐色土 黒色味強い
- 3 褐色土 1と同じ
- 4 褐色土 褐色粘質土ブロックを多く含む
- 5 褐色土 粘質土
- 6 灰・焼土ブロック・炭化物・褐色土がブロック状に混入
- 7 褐色土 黒褐色土ブロックを含む
- 8 褐色土 4と同じ
- 9 褐色土 5と同じ
- 10 褐色土 黒色味強い。炭化物ブロック・焼土ブロック含む



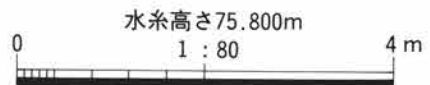
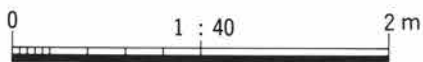
カマド

- 1 黄褐色土 炭化物・灰・焼土を含む
- 2 灰褐色土 炭化物・灰・焼土ブロック含む
- 3 黄褐色土 1に似る
- 4 灰褐色土 焼土・炭化物を含む
- 5 灰褐色土 炭化物・焼土ブロック多く含む
- 6 炭化物・焼土・灰ブロック状混入
- 7 灰・炭
- 8 焼土



貯蔵穴

- 1 灰褐色土 炭化物・灰・焼土ブロックを多く含む
- 2 褐色土 黒褐色土ブロックを含む



第376図 田端地区B区22号住居跡

田端B区第22号住居跡（第376・377図、図版100）

○ライン・71km270m付近で検出した。確認面は第4層である。23号住居跡とわずかに重複し、当住居跡のほうが新しい。ピット84・86は住居跡上層からの掘り込みであるが、ピット85は住居跡床面下からの検出である。ピット85は掘形の一部と考えられる。覆土はほぼ水平に堆積している。壁は斜めに立ち上がり、10cmほどで低い。全周を検出した数少ない例である。床面はほぼ平らだが、南側がやや高い。支柱穴と考えられるピットはないが、ピット1・2・3は柱穴かもしれない。壁溝はない。カマドは南東隅で検出した。南辺際のカマド寄り10～15cm大の石が出土しており、カマド構築材の一部と考えられる。カマド前床面には30cmほどの範囲で焼土が分布し、その西側には炭化物が分布する。貯蔵穴は南西隅で検出し、底部から15×10cmほどの石が発見された。

遺物はカマド周辺、ピット85から出土しているがいずれも小片で、覆土出土である。

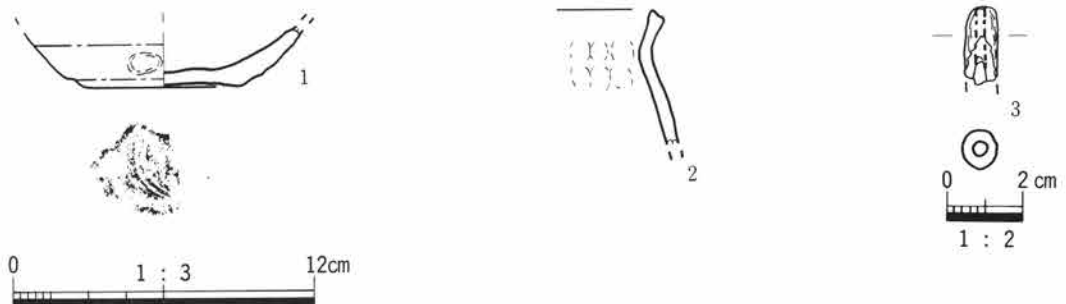
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第23号住居跡（第378～382図、図版100・101・165・166）

○ライン・71km275m付近で検出した。確認面は第4層である。22号住居跡とわずかに重複しており、当住居跡の方が古い。覆土は自然に堆積していた。壁は70°～90°ほどの角度で立ち上がり、高さ40cm前後が遺存していた。床面はほぼ平坦だが、南側がやや低い。支柱穴と考えられるピットは、ピット1～ピット4の4本を検出した。ピット3は他に比べてやや小さい。壁溝はない。カマドの焚口は凝灰岩の切り石を構造材として、粘土で固めていたと考えられる。石材は天井部が8×16×50cm、左袖部が8×17×14cm以上、右袖部が8×14×18cm以上で、両袖部の上端は欠損し、天井部は向かって左側1/3ほどの部分で折れた状態で発見した。天井部はカマド燃焼部側へ落ち込んでいた。貯蔵穴と考えられる掘り込みは住居跡プランの南東隅に検出した。掘り込みはスリ鉢状を呈する。住居ほぼ中央のピット5は上バ径17～20cm、下バ径11cm、深さ10cmである。住居南半の掘形は不整形で、深さ9～17cmを測り、比較的平坦である。

遺物は住居中央～南辺、カマド前面とカマド中に多く遺存していた。とくにカマド前面では甕類の出土が多く、第382図15の台付甕はカマド燃焼部から出土している。杯・椀類は南辺付近の出土が比較的多い。第381図14の不明石製品はピット5の上方29cmの覆土出土である。

時期は甕・杯椀類の形態、高台付皿のあることなどから、9世紀後半と考えたい。



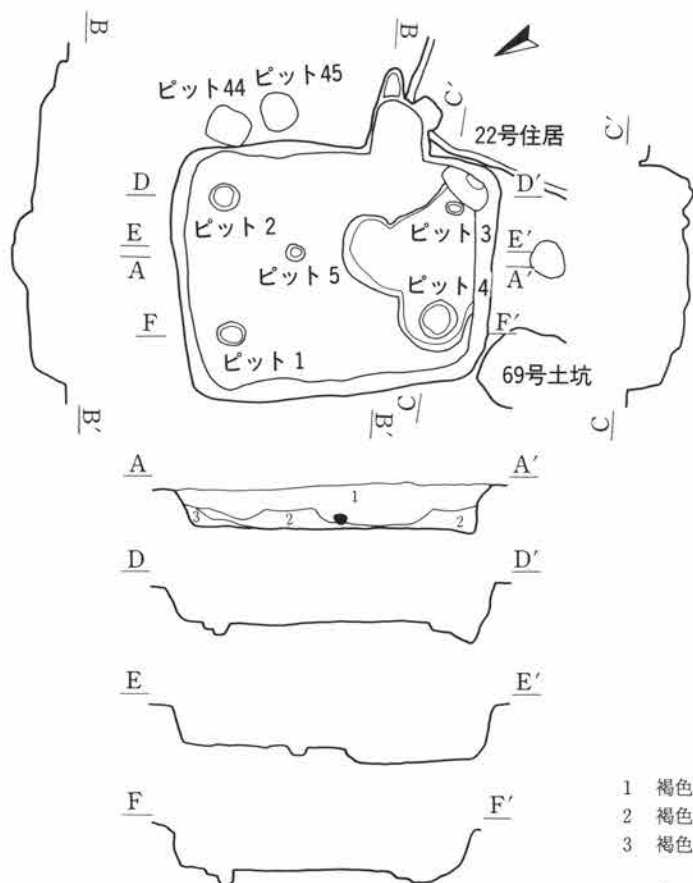
第377図 田端地区B区22号住居跡出土遺物



第378図 田端地区B区23号住居跡遺物出土状態



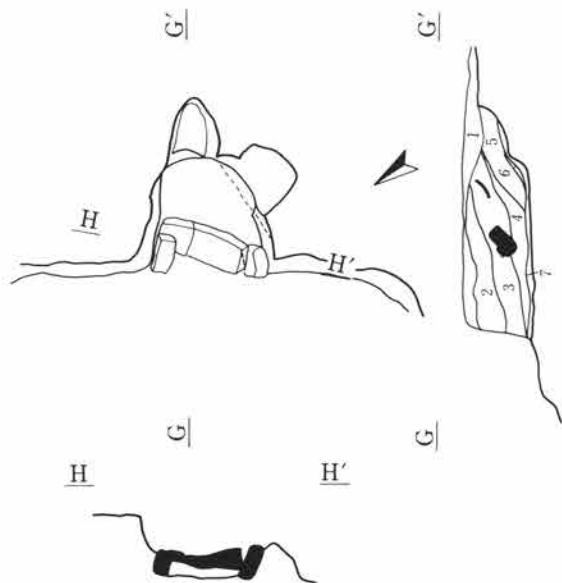
第379図 田端地区B区23号住居跡遺物出土状態



田端遺跡 田端地区B区23号住 (単位cm)

平面形	台形	規模	337×263				
面積	8.9㎡					壁高	32~54
長軸方位 N3°E							
支柱穴	1	2	3	4			
上バ径	27	30	16	38			
下バ径	19	21	10	28			
深さ	15	14	6	5			
支柱穴間の距離 (心心)							
1-2	148	2-3	246				
3-4	118	4-1	220				
カマド	位置 東辺南寄り						
	対称軸方位 N97°E						
	焚口部幅 40 燃焼部 52×45						
	煙道部幅 24 長さ29 角度15°						
	構築材粘土・石						
貯蔵穴	位置 南東隅 平面形 楕円形						
	上バ 57×31 下バ 22×10						
	深さ 27						
その他	カマド構築材は凝灰岩切石を組み合わせる						

- 1 褐色土 黒褐色土ブロック・白色小粒を含む
- 2 褐色土 黒褐色土ブロックを多く含む
- 3 褐色土 黒褐色土ブロック・炭化物ブロックを含む

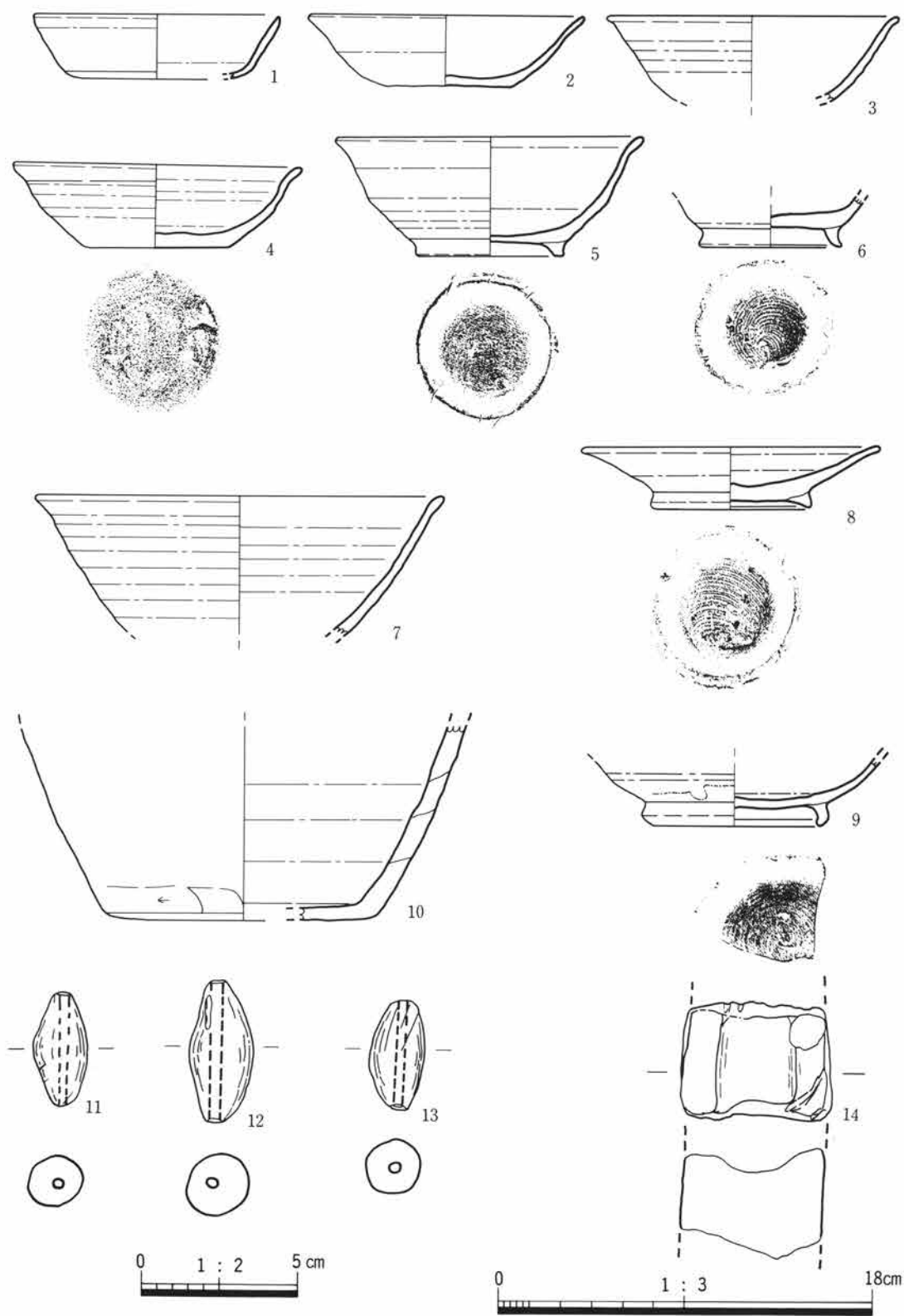


カマド

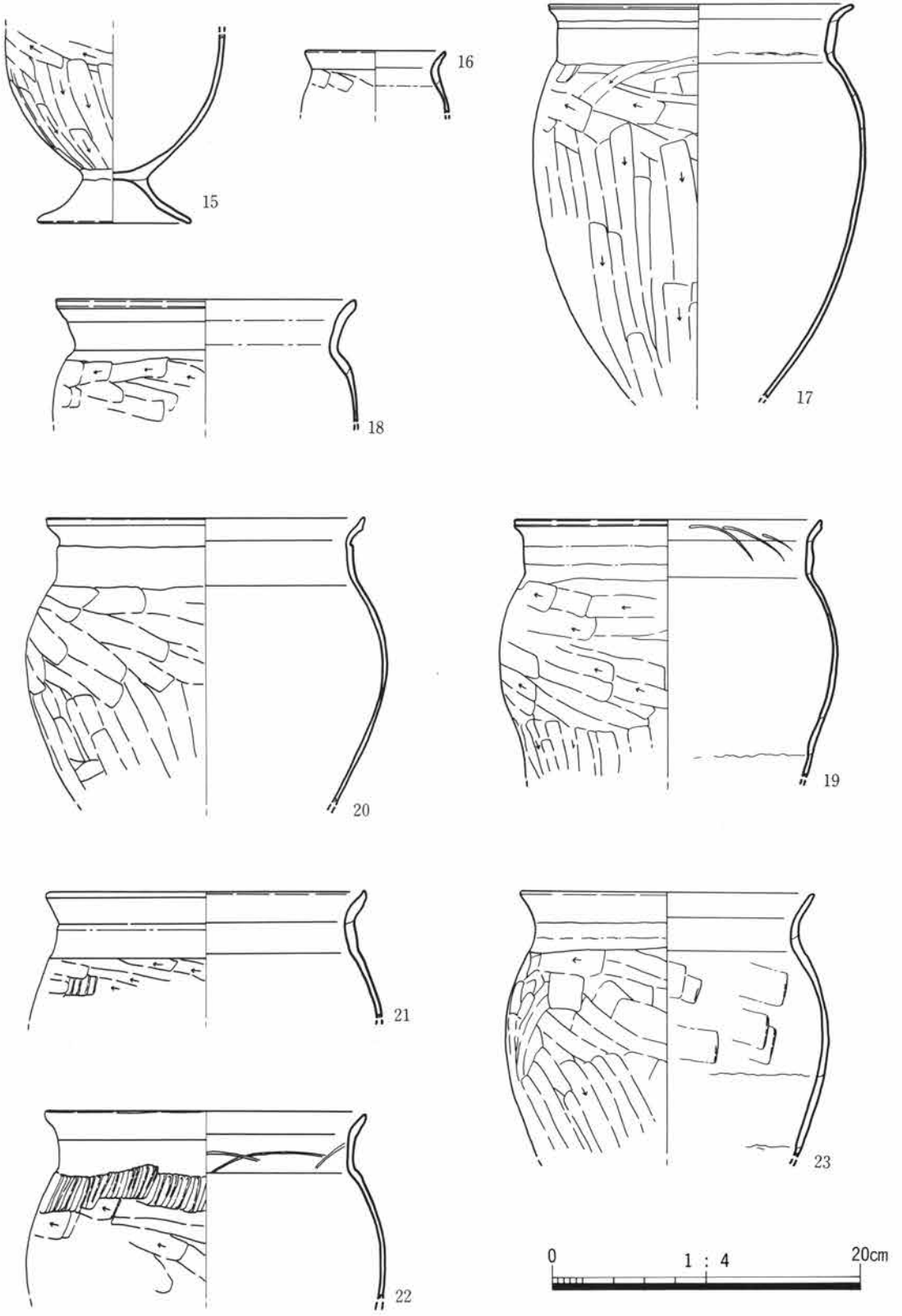
- 1 褐色土 黄褐色土ブロック・白色小粒を多く含む
- 2 黒褐色土 焼土・灰・炭化物・黄褐色土ブロックを含む
- 3 褐色土 焼土・灰・炭化物・黄褐色土ブロックを含む
- 4 灰褐色土 焼土・灰・炭化物を含む
- 5 黄褐色土 砂質。灰・炭化物を含む
- 6 3と同じ
- 7 灰・炭化物



第380図 田端地区B区23号住居跡



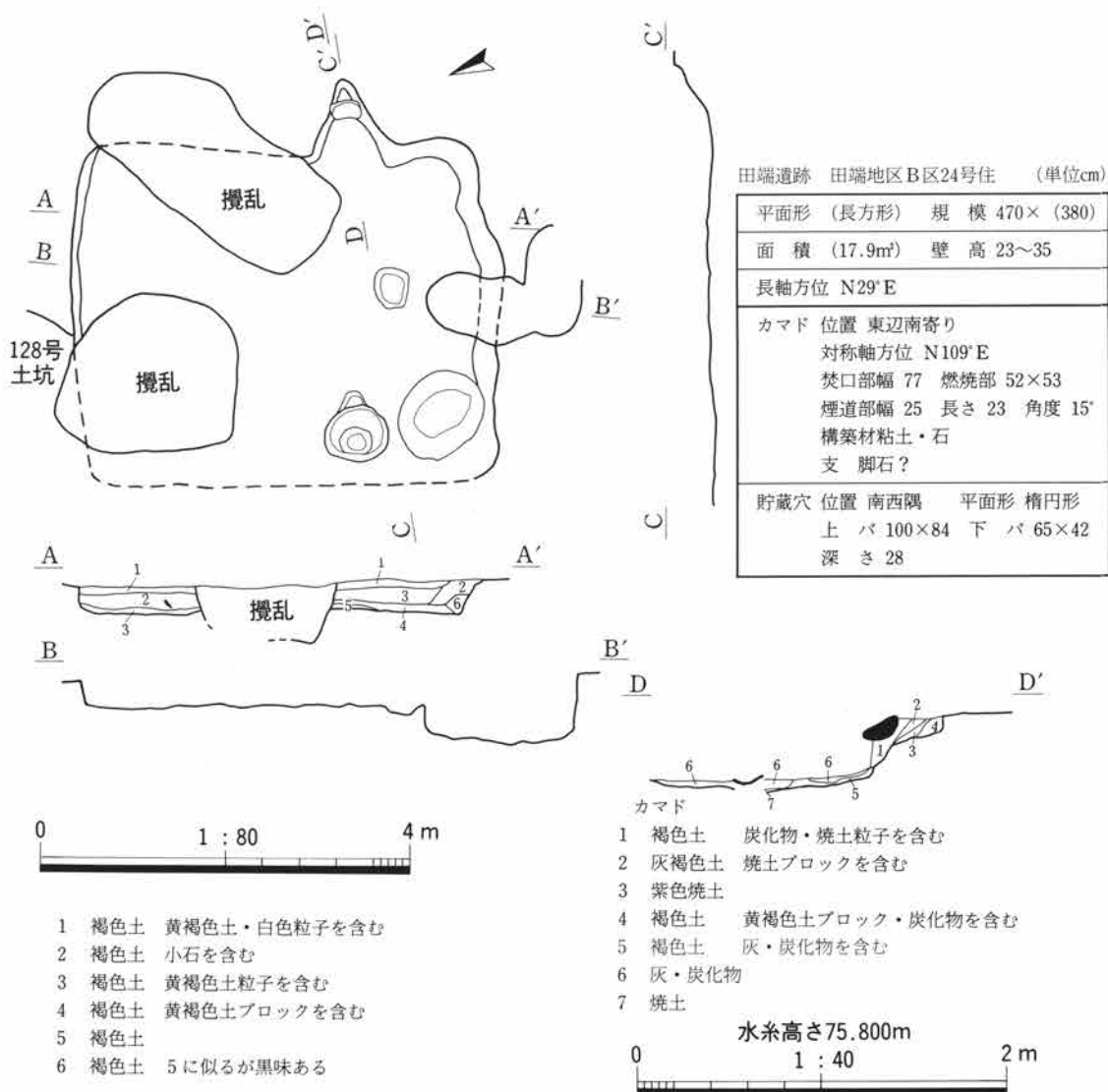
第381図 田端地区B区23号住居跡出土遺物(1)



第382図 田端地区B区23号住居跡出土遺物(2)

田端B区第24号住居跡（第383～386図、図版101・167）

Nライン・71km275m付近で検出した。確認面は第4層である。25・45号住居跡と重複しているが、北西隅付近のプランは検出できなかった。45→25→24号の順に新しい。住居内は後世のゴミ穴による攪乱を大きく受けている。覆土は自然の堆積を示している。壁は遺存の良いところで30cmほどあり、約75°に立ち上がる。床面はほぼ平坦だが、北側がやや低い。主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝はない。カマドの左袖部と右袖部、およびその中間から20～30cm大の石が出土しており、カマドの構築材に石を使った可能性がある。また、カマド前面の床面から長さ25cm、径13cmほどの石が出土し、カマドの支脚に使われたと考えられる。カマドは燃烧部が住居プランから外方に突出するタイプで、燃烧部と煙道との境には長さ35cm、幅19cm、厚さ9cmの楕円形をした偏平な石が設置されて

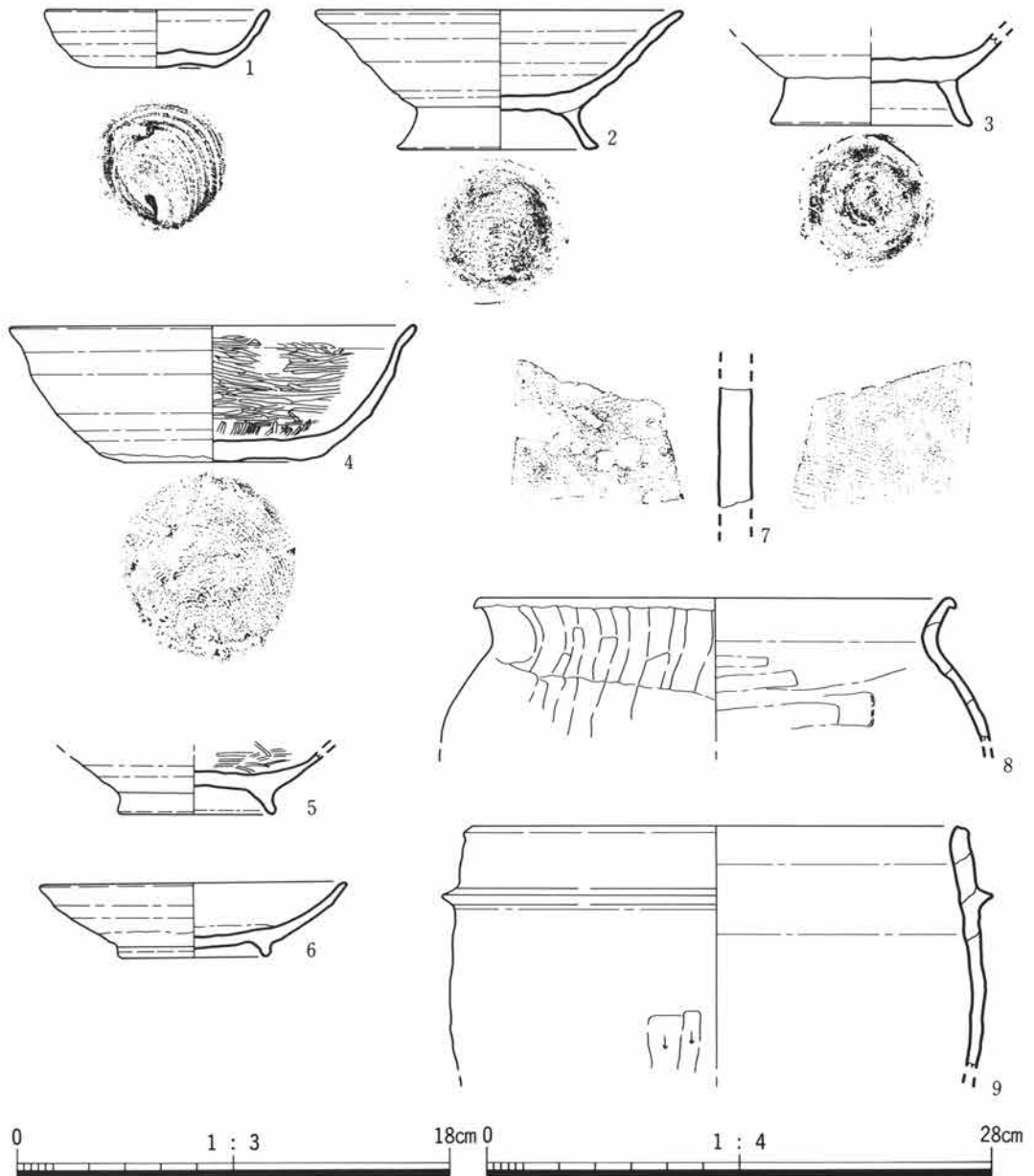


第383図 田端地区B区24号住居跡

いた。煙道は長さ25cmで上方に立ち上がる。貯蔵穴と考えられるピットは住居の南西部に検出し、底面近くから土器片が、底面から20cmほど浮いた状態で径15cm大の偏平な丸石が出土した。貯蔵穴の北側では不整形の二段掘りのピットが検出されている。

遺物はほぼ全面から出土したが、カマド前～南東隅・住居中央部に集中している。第384図1は北辺中央壁際床面から、2はカマド前床直上から正立の状態、4の黒色土器は西辺寄りの床面から伏せた状態で、8の甕は貯蔵穴から、9の羽釜はカマド右袖部からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第384図 田端地区B区24号住居跡出土遺物



第385図 田端地区B区24号住居跡



第386図 田端地区B区24号住居跡

田端B区第25号住居跡（第387～389図、図版102・167）

Nライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。24・45号住居跡と重複し、45→25→24号の順に新しい。覆土は自然に堆積している。壁は浅い。床面はほぼ平らだが、細かい凹凸がある。支柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝はない。焼土の分布する範囲を二カ所発見したが、どちらも破壊されていた。北側の焼土部分からは人頭大の石が割れた状態で出土しており、カマド構築材の一部と考えられる。貯蔵穴は焼土範囲に西接して検出した。最深部は南辺寄りにあり、東西方向に長い楕円形を呈する。貯蔵穴の西にあるピットはいずれも10cmほどの深さである。

遺物は全面から出土しているが、カマド周辺・中央西寄りからの破片出土が多い。図示したもののほか、西辺寄りの床面直上から高台付の黒色土器底部片が出土している。また小石の出土がやや目立つ。

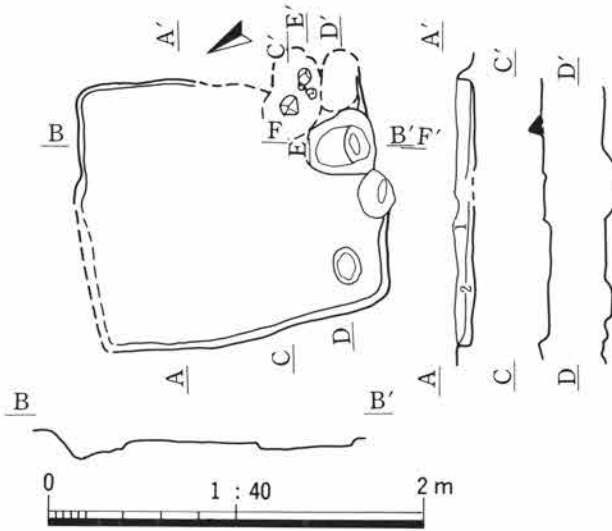
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第26号住居跡（第390～392図、図版102・103・168）

Mライン・71km265m付近で検出した。確認面は第4層である。42号住居・9号溝・80号土坑と重複し、カマド前は後世の掘り込みによって攪乱されている。80号土坑→26号住居、9号溝→26号住居→42号住居の順に新しい。覆土は自然に堆積している。壁はほぼ直に立ち上がるが浅い。床面はやや凹凸が

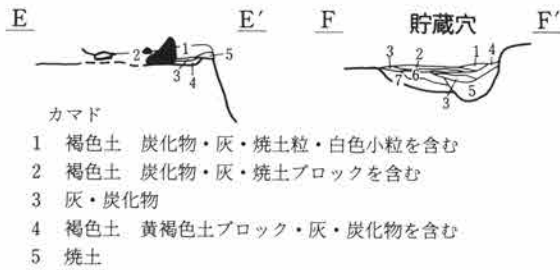


第387図 田端地区B区25号住居跡



田端遺跡 田端地区B区25号住 (単位cm)

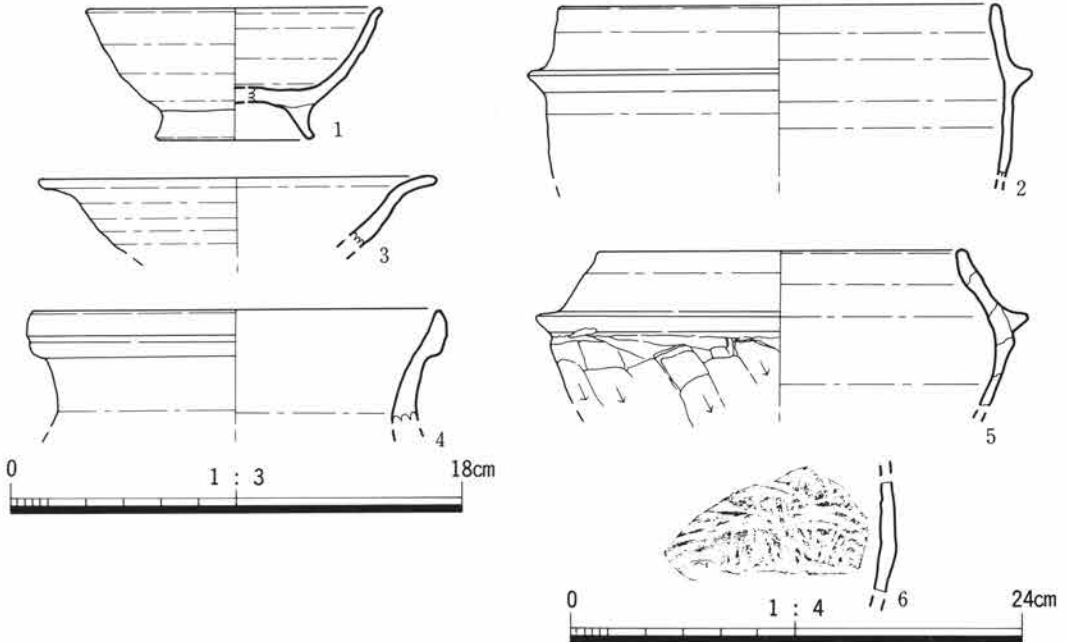
平面形	台形	規模	(280×330)
面積	(9.2) m ²	壁高	3~12
長軸方位	N22°E		
カマド	位置	東辺南寄り	
	対称軸方位	(N123°E)	
	構築材	粘土・石	
	支脚	石?	
貯蔵穴	位置	南東隅	平面形 不整形
	上バ	74×70	下バ 38×25
	深さ	18	



- 1 暗褐色土 炭化物・焼土粒子・小石を含む
 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒子を含む
 貯蔵穴
 1 褐色土 灰・炭化物を含む
 2 黄褐色土 ブロック状
 3 灰・炭化物
 4 褐色土 灰・炭化物を含む
 5 褐色土 灰・炭化物・黄褐色土ブロックを含む
 6 褐色土 5に似る。黄褐色土ブロック多い
 7 褐色土 5に似る。黄褐色土ブロック少ない

水糸高さ76.000m

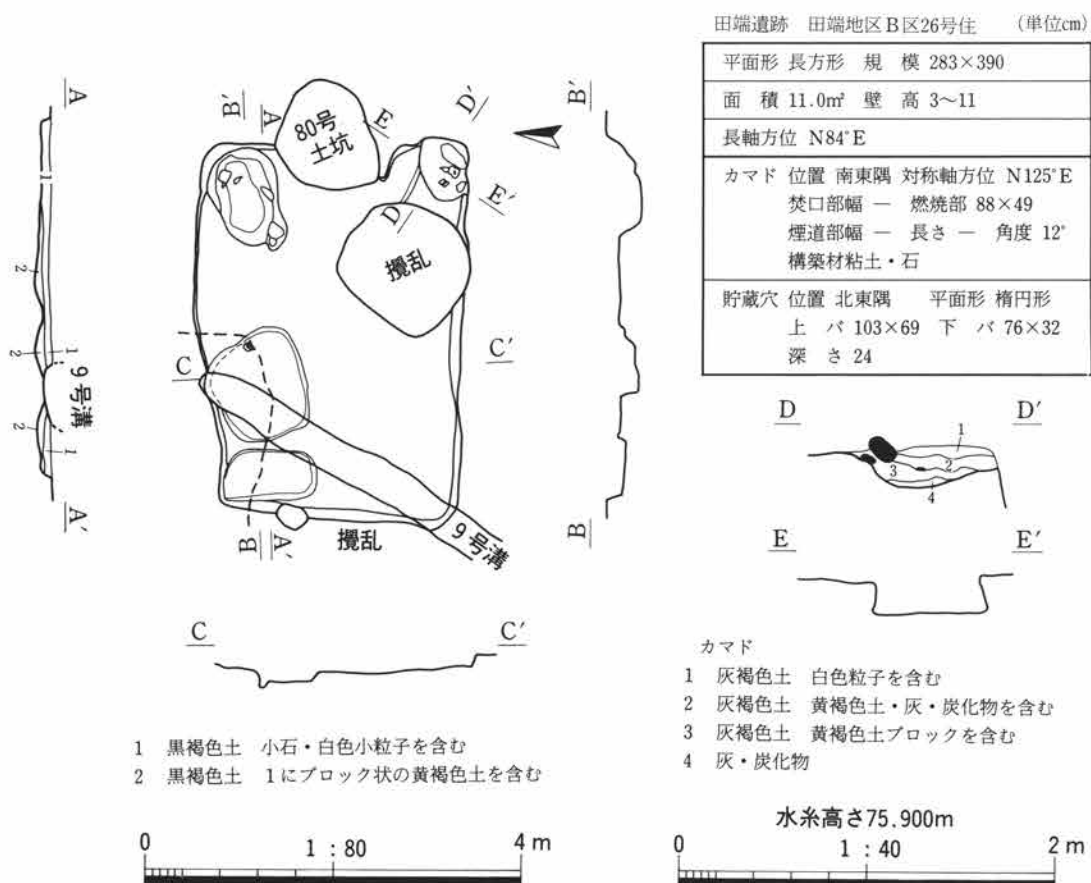
第388図 田端地区B区25号住居跡



第389図 田端地区B区25号住居跡出土遺物



第390図 田端地区B区26号住居跡



第391図 田端地区B区26号住居跡

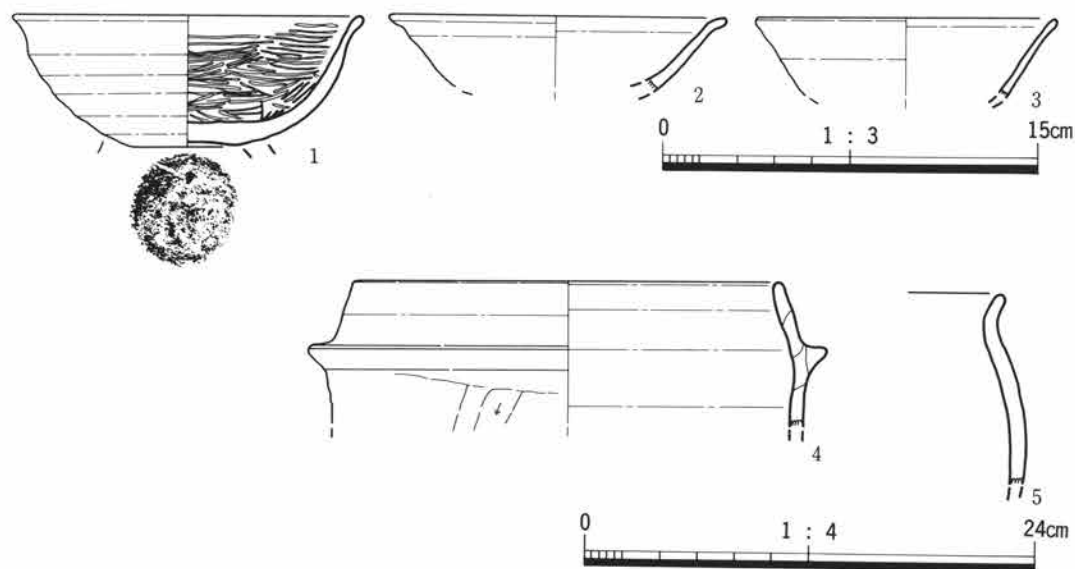
あり、住居中央がややくぼむ。主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝はない。カマドは南東隅に設置され、住居プランの対角線延長方向に向かっている。燃烧部と煙道との境に長さ35cm、幅15cm、厚さ9cm程の石が据えられていた。カマド前面は攪乱により破壊されている。貯蔵穴は北東隅に検出した。周辺と内部から5~20cm大の石が出土している。北西部の土坑はいずれも10cmほどの深さである。

遺物はカマド内出土のものが殆どである。第392図1はカマド内の石の脇から正立の状態出土した。4・5もカマド内出土の破片である。

時期は10世紀後半~11世紀と考えられる。

田端B区第27号住居跡（第393~395図、図版103・168）

Lライン・71km275m付近で検出した。確認面は第4層である。28・29・32号住居、83・87・88・170号土坑と重複しており、27→28→29号住居、32→27号住居、170号土坑→27号住居の順に新しく、83・87・88号土坑は27号住居よりも新しい。27号住居の南辺は土層断面上で確認することができた。覆土は自然に堆積しているが、上層からの細かい攪乱がいくらか認められた。北辺の壁は比較的高く遺存しており、約75°で立ち上がる。床面は平坦であるが、南側がやや低い。主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝はない。カマドは左右の袖部に立石を使い、それらの上に長さ41cm、幅21cm、厚さ15cm程の石を乗せて焚口を作っていた。燃烧部には長さ20cm、径8cmの細長い石が約70°に傾いて遺存していた。また、左右の袖石はそれぞれ65°に内傾して出土した。貯蔵穴と考えられるピットは南西隅で検出した。底面から浮いた状態で石が2つ出土している。二段掘りになっており、底面はすり鉢状を呈する。北西部の床面からは下部が床下に入った状態で15×8cmの石（上面平坦）が出土している。



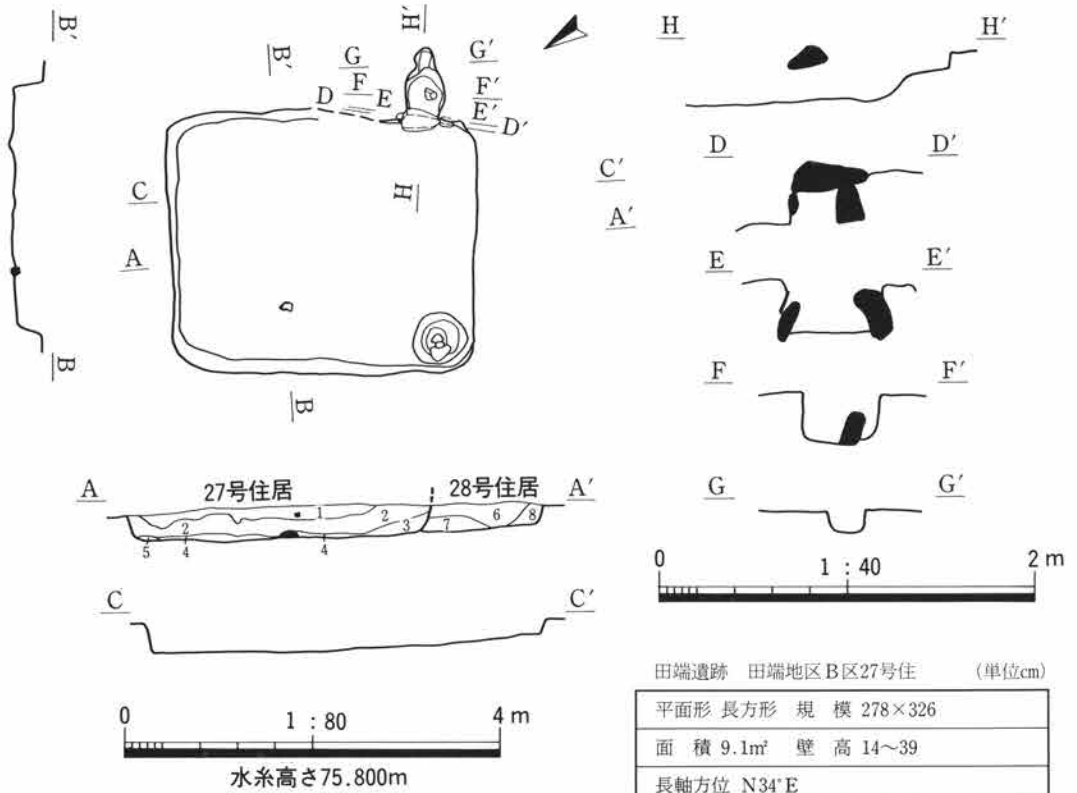
第392図 田端地区B区26号住居跡出土遺物

遺物は北西隅を除きほぼ全面から出土した。第395図1～3・5・6・8はいずれもカマド周辺から、7は北東隅床面から、土錘は北西部床面の石の北東50cmからそれぞれ出土した。このほか図示できなかったが、カマド内から灰釉陶器の瓶類の破片が出土している。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第28号住居跡（第396・397図、図版168）

Lライン・71km275m付近で検出した。確認面は第4層である。27・29号住居、83・87・88号土坑と重複し、27→28→29号住居の順に新しい。土坑はいずれも本住居跡より新である。覆土は自然に堆積している（第393図）。床面は北へ向かって低くなるが、27号住居に切られて北半の状況は不明である。支柱穴と考えられるピットは検出していない。壁溝はない。カマドは第396図のように、S1～S6の6個の石が遺存していた。焚口天井部とみられる石は発見していない。図のS1・S2はカマド袖部

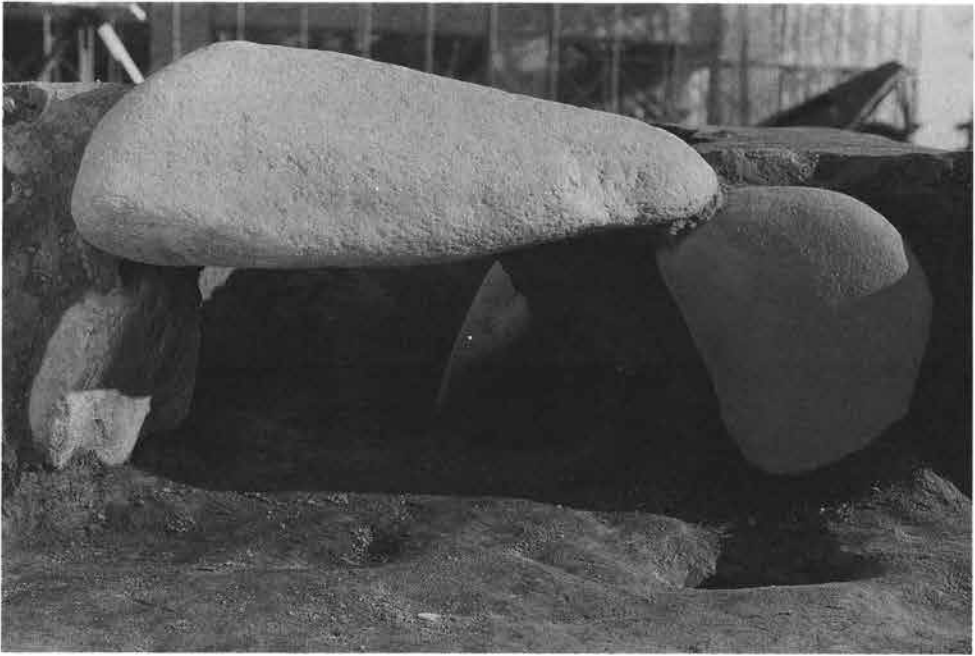


- 1 黒褐色土 白色小粒子を含む
- 2 褐色土 やや粘質
- 3 褐色土 黒味強い
- 4 褐色土 黒色土ブロック・炭化物・焼土を含む
- 5 炭化物
- 6 褐色土 明るい。粘質
- 7 褐色土 粘質。ブロック状
- 8 褐色土 砂質

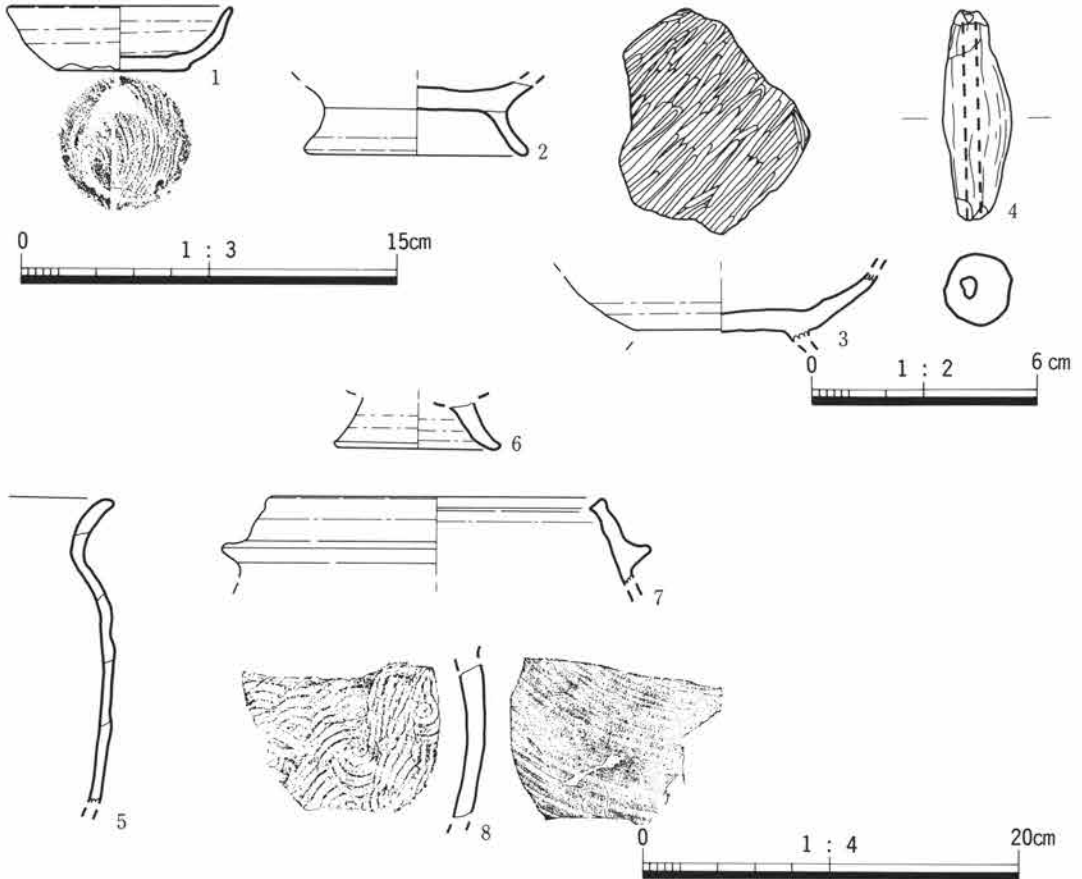
田端遺跡 田端地区B区27号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	278×326
面積	9.1m ²	壁高	14～39
長軸方位 N34°E			
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N126°E 焚口部幅 41 燃焼部 36×45 煙道部幅 19 長さ 21 角度 11° 構築材粘土・石 支 脚石		
貯蔵穴	位置	南西隅	平面形 円形
	上	バ 59×52	下 バ 30×23
	深さ	36	

第393図 田端地区B区27号住居跡



第394図 田端地区B区27号住居跡

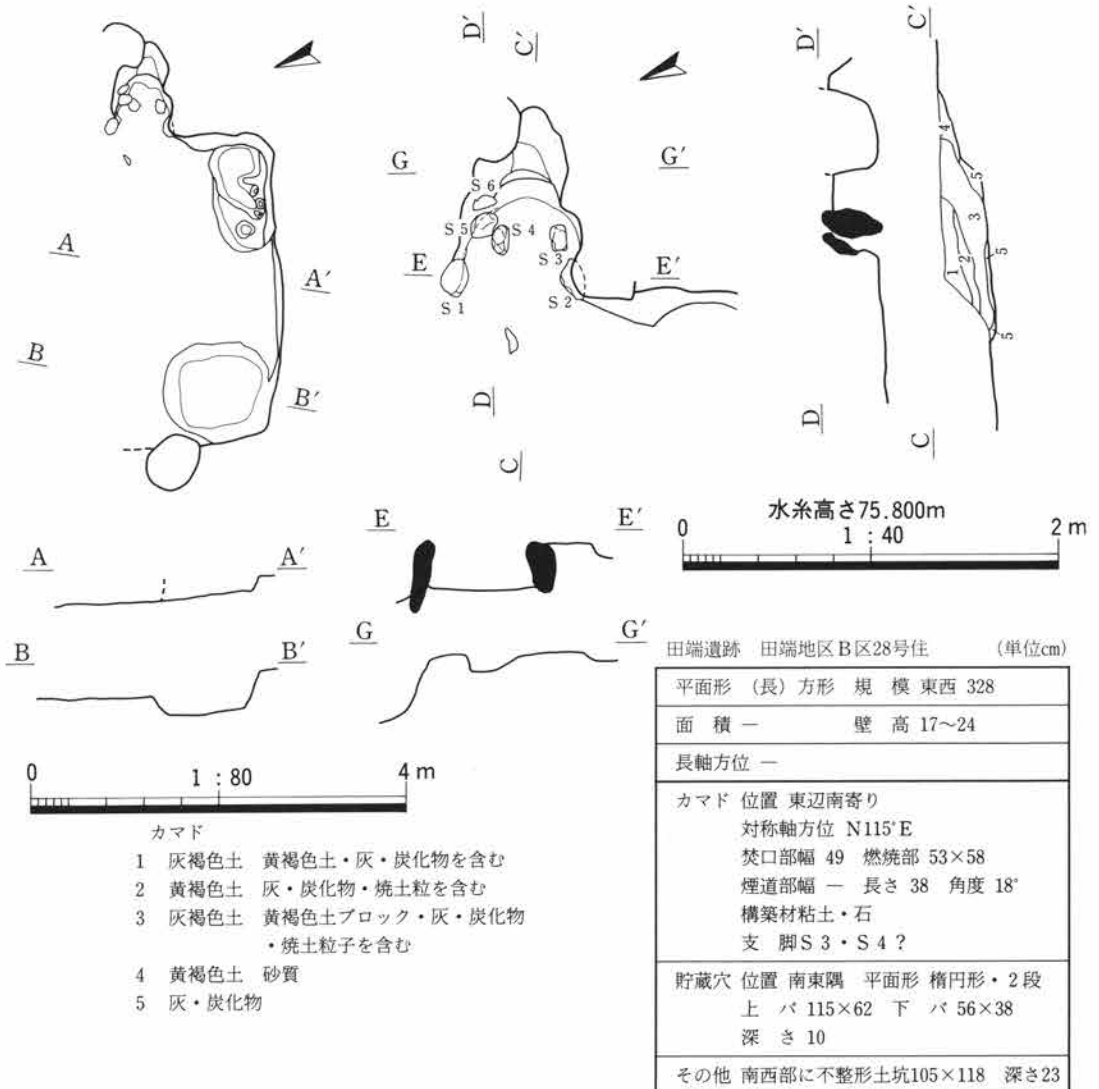


第395図 田端地区B区27号住居跡出土遺物

の構造材、S5・S6は燃焼部下部の構造材と考えると、S3・S4は二つの石によって支脚の機能を果たしていたと推定したい。S3・S4がともに細長い立石であることにより、上記の推定をしたものである。S3-S4の最短距離は、発掘時点で21cmである。S1・S2はいずれも約80°に内傾している。貯蔵穴と考えられるピットはカマド右脇の東南隅に検出した。西側はテラス状を呈し、径20cm、深さ10cmのピットがある。東側は二つの部分に分けられ、その中間に突出した「仕切り」状の部分をもつ。「仕切り」の西側には3個の小さなピットがあり、東側は全体の中でもっとも低い。南西隅には底面の平らな径1mほどの掘り込みを検出した。機能・用途は不明である。

遺物はカマド周辺、貯蔵穴上部～不明土坑東端の上部で発見した。第397図1は貯蔵穴西端で正立の状態、4は不明土坑東側の床面から、5は貯蔵穴上方と不明土坑上方出土の破片が接合して、7はカマドの石S1の右脇の床面から出土した。

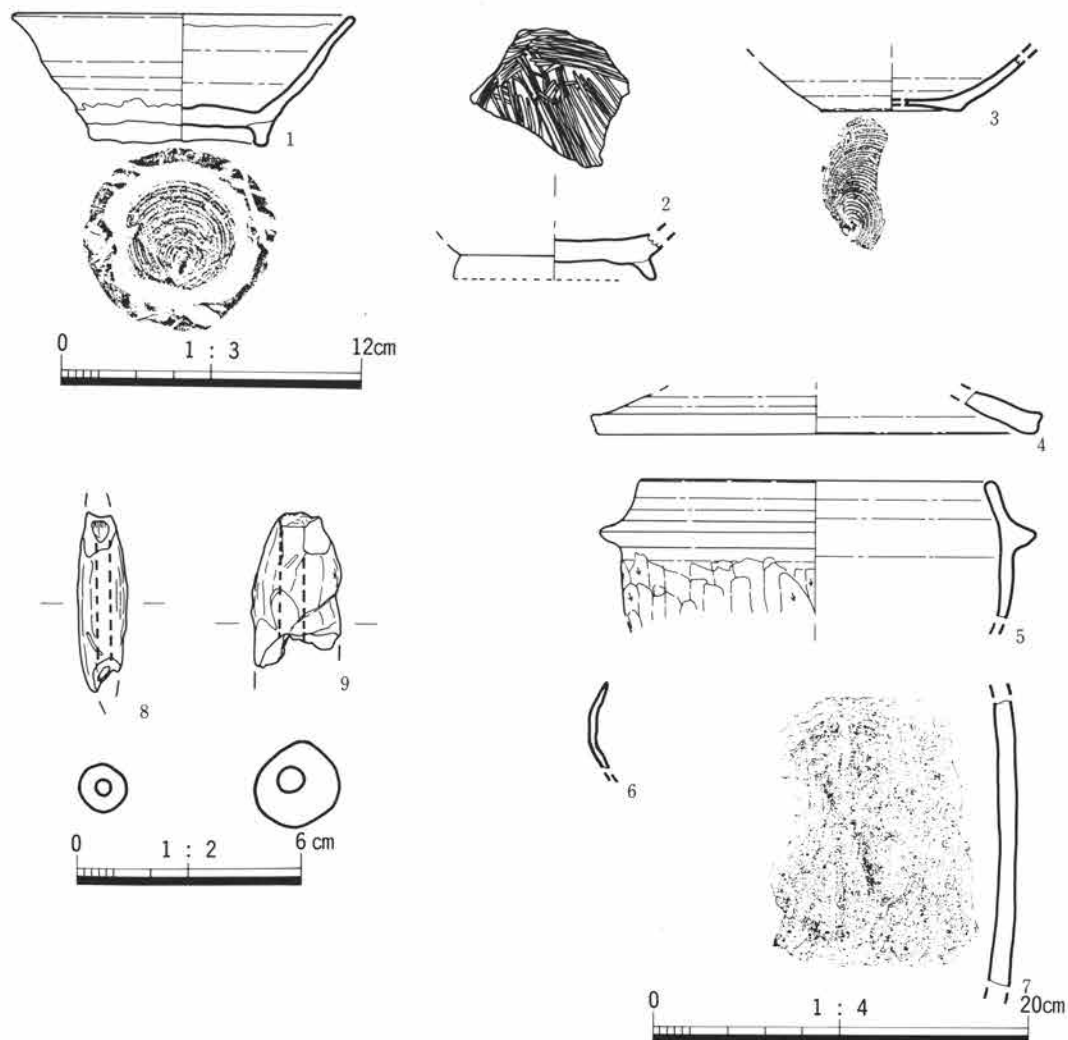
時期は9世紀後半～10世紀初めと考えられる。



第396図 田端地区B区28号住居跡

田端B区第29号住居跡（第398～402図、図版104・169・170）

Lライン・71km273m付近で検出した。確認面は第4層である。27・28・31・32・38号住居跡、78・81・82・83・142・143号土坑と重複し、31・32・38号住居→27→28→29?号住居の順に新しい。土坑はすべて本住居跡よりも新である。調査着手時点では、初め北辺中央部付近を本住居の東辺と考えていたが、調査を進めて行くうちに床面がさらに東方向へ延びることが判明し、焼土の分布と貯蔵穴の位置から第398図のようにプランを推定した。覆土は自然に堆積している。壁は70～75°で立ち上がる。床面はほぼ平坦だが、北西部に向かってやや低くなる。支柱穴と考えられるピットは検出できなかった。壁溝は北辺から西辺にかけて「L」字状に検出した。カマドは東辺南寄りに検出したが、上部の構造は破壊されて不明である。南北にずれて2基が重複しており、北側のカマドの方が古い。貯蔵穴と考えられるピットはカマドの右側、東南隅に検出した。南西隅の土坑は床下から検出し、その底面は凹凸がある。その外、北辺寄りにいくつかのピットを検出しているが、いずれも5～15cmで浅い。



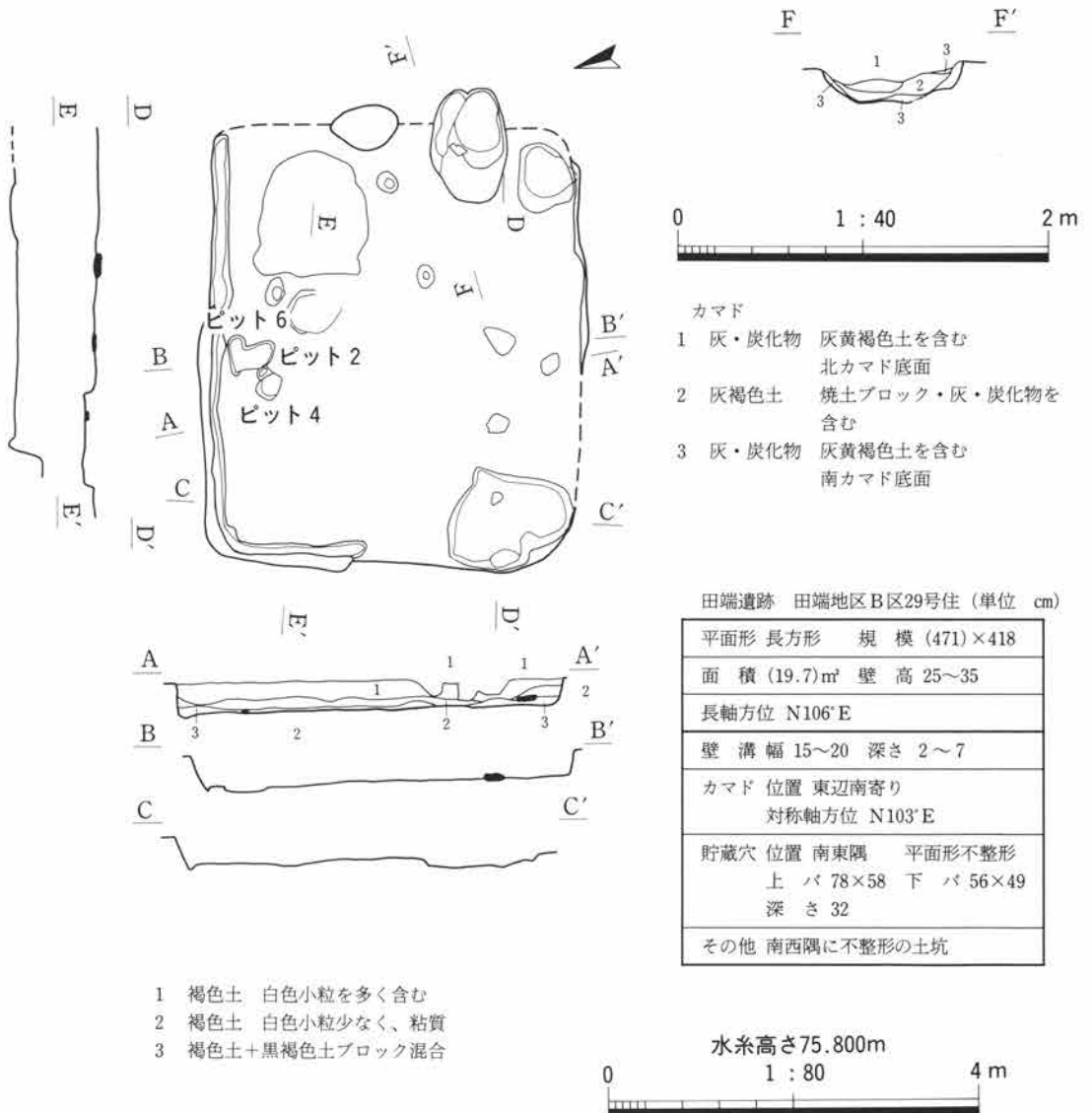
第397図 田端地区B区28号住居跡出土遺物

遺物は全面から出土したが、カマドから南辺にかけて集中している。第401・402図1・2・7・10・16～18・22は貯蔵穴の中から集中して出土した。また、南辺寄りに20～35cmほどの石が床面近くから出土している。

時期は貯蔵穴・カマド周辺・床面出土の遺物から、9世紀後半と考えられる。

田端B区第30号住居跡 (第403・404・406図、図版105・170・171)

Mライン・71km270m付近で検出した。確認面は第4層である。31・41・42号住居、131・148号土坑と重複している。31・42号住居はいずれも本住居よりも古く、41号住居との前後関係は確認できなかった。土坑はともに本住居よりも新しい。覆土は自然の堆積を示している。壁は約80'前後で立ち上がる。床面はほぼ平坦だが西側に向かって低くなる。支柱穴と考えられるピットは検出していない。壁溝も



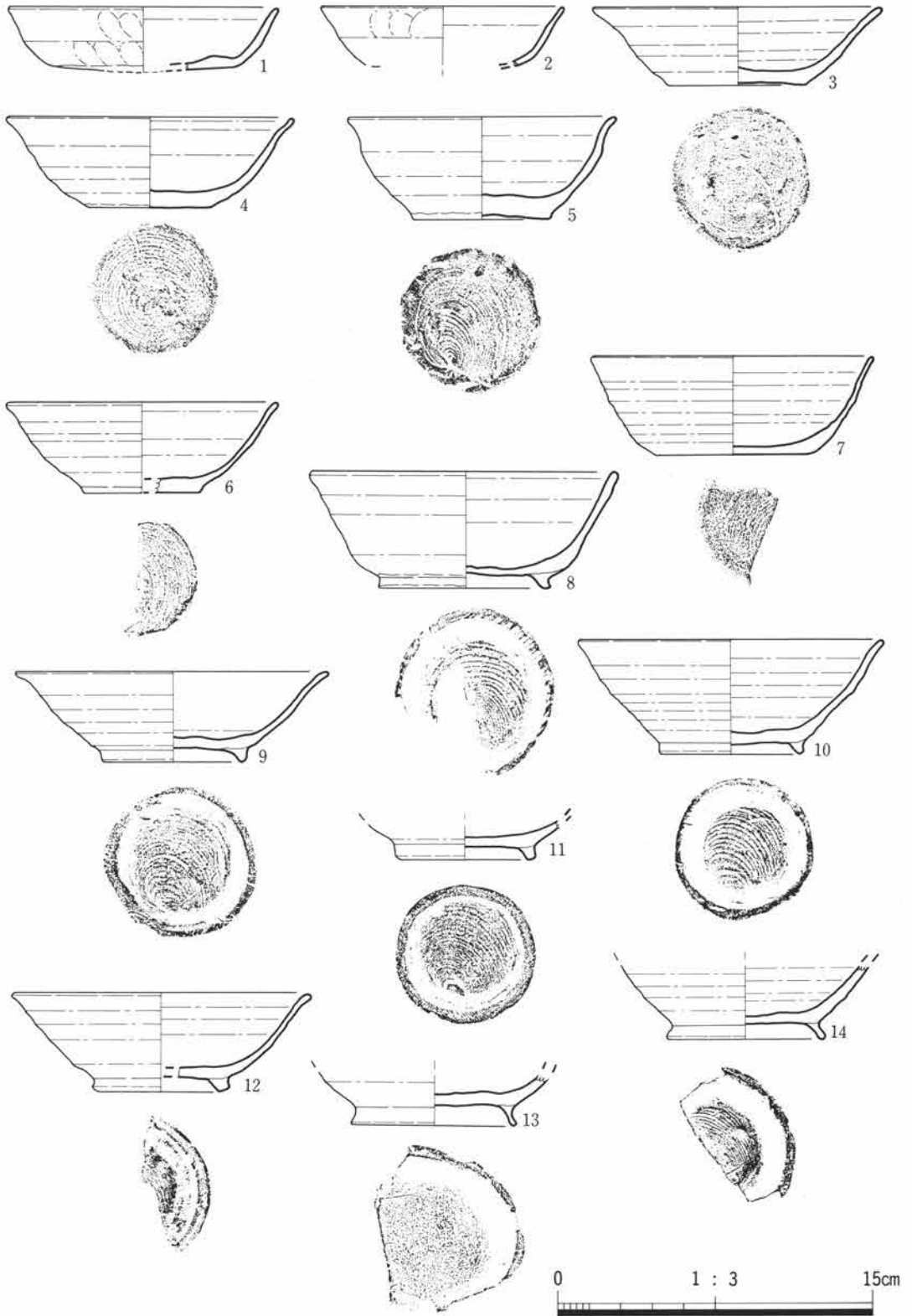
第398図 田端地区B区29号住居跡



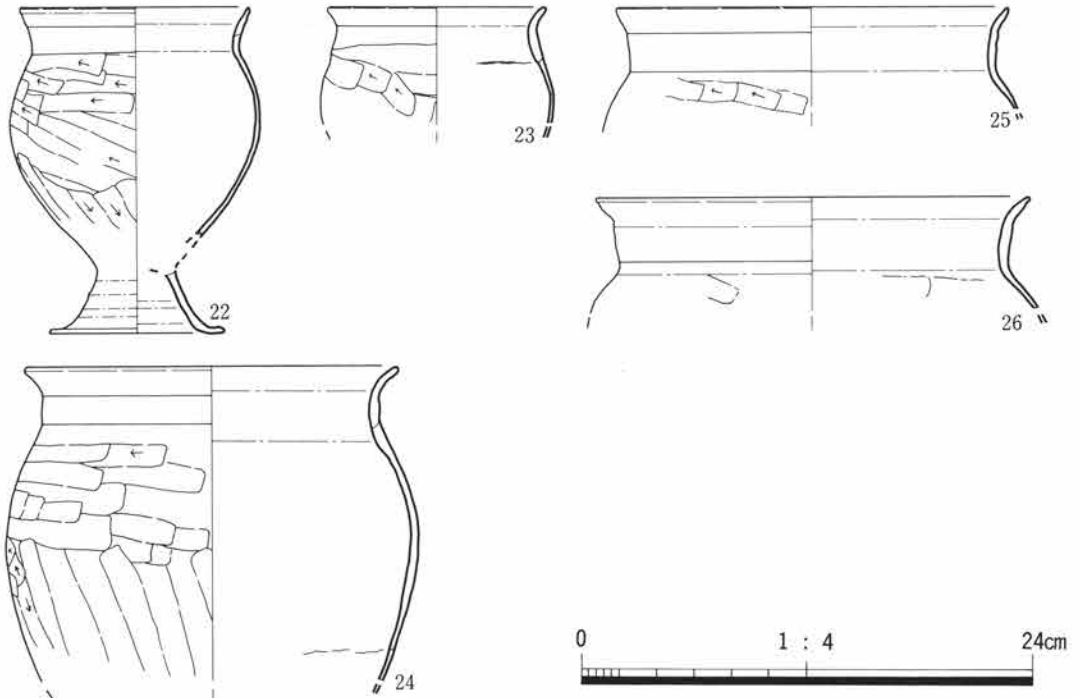
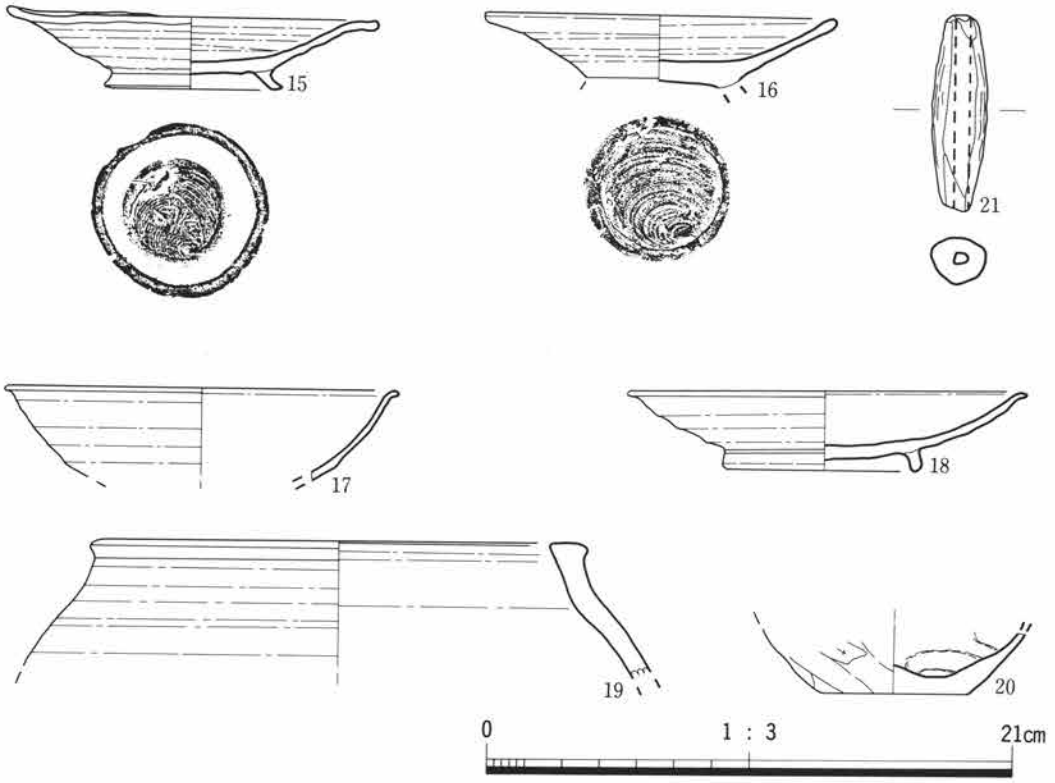
第399図 田端地区B区29号住居跡



第400図 田端地区B区29号住居跡



第401図 田端地区B区29号住居跡出土遺物(1)



第402図 田端地区B区29号住居跡出土遺物(2)

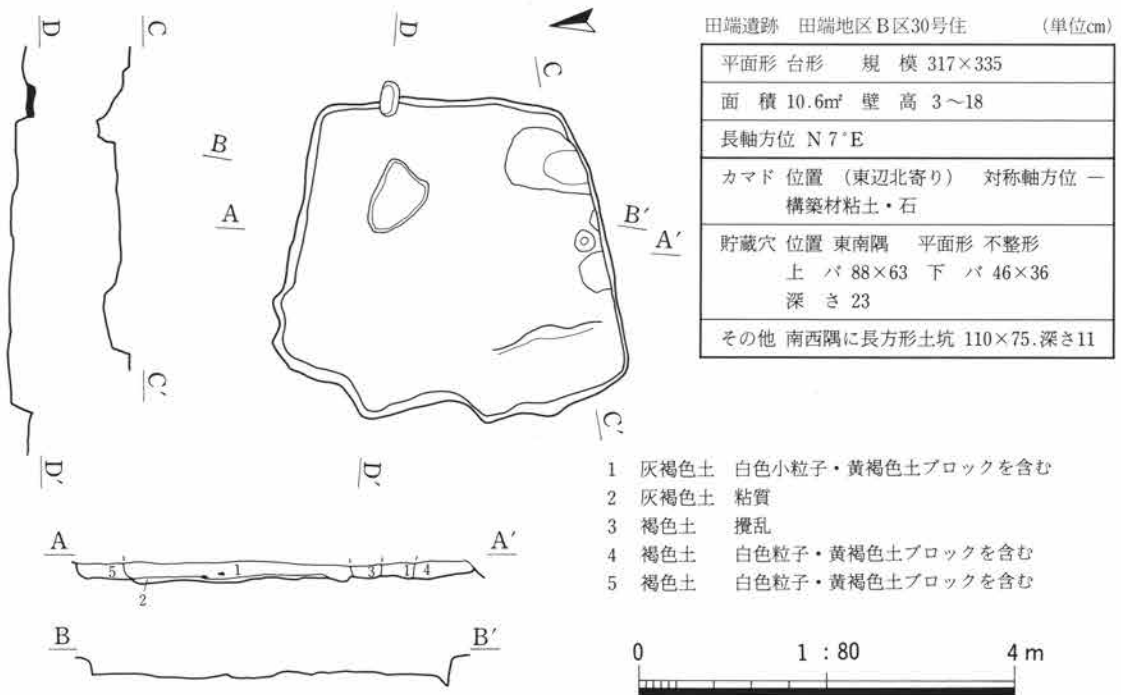
認められなかった。カマドは東辺北寄りの石の付近に推定したが、破壊されており、詳細は不明である。貯蔵穴は南東隅に検出した。南辺の壁をそのまま貯蔵穴の壁としている。

遺物は貯蔵穴内部とその周辺から多く出土している。第404図10の鉄製鎌は、北西隅の北辺際から、第406図11の甑は貯蔵穴西側の床面から出土した。6・7・9は覆土の出土である。13は大型の須恵器甕の破片で、14とともに東辺北寄りの壁外（石に接する東側）から出土した。カマドをこの位置に推定できるので、これらの破片はカマドの構造材に使われた可能性があるが、東側の41号住居跡に属する遺物かもしれない。

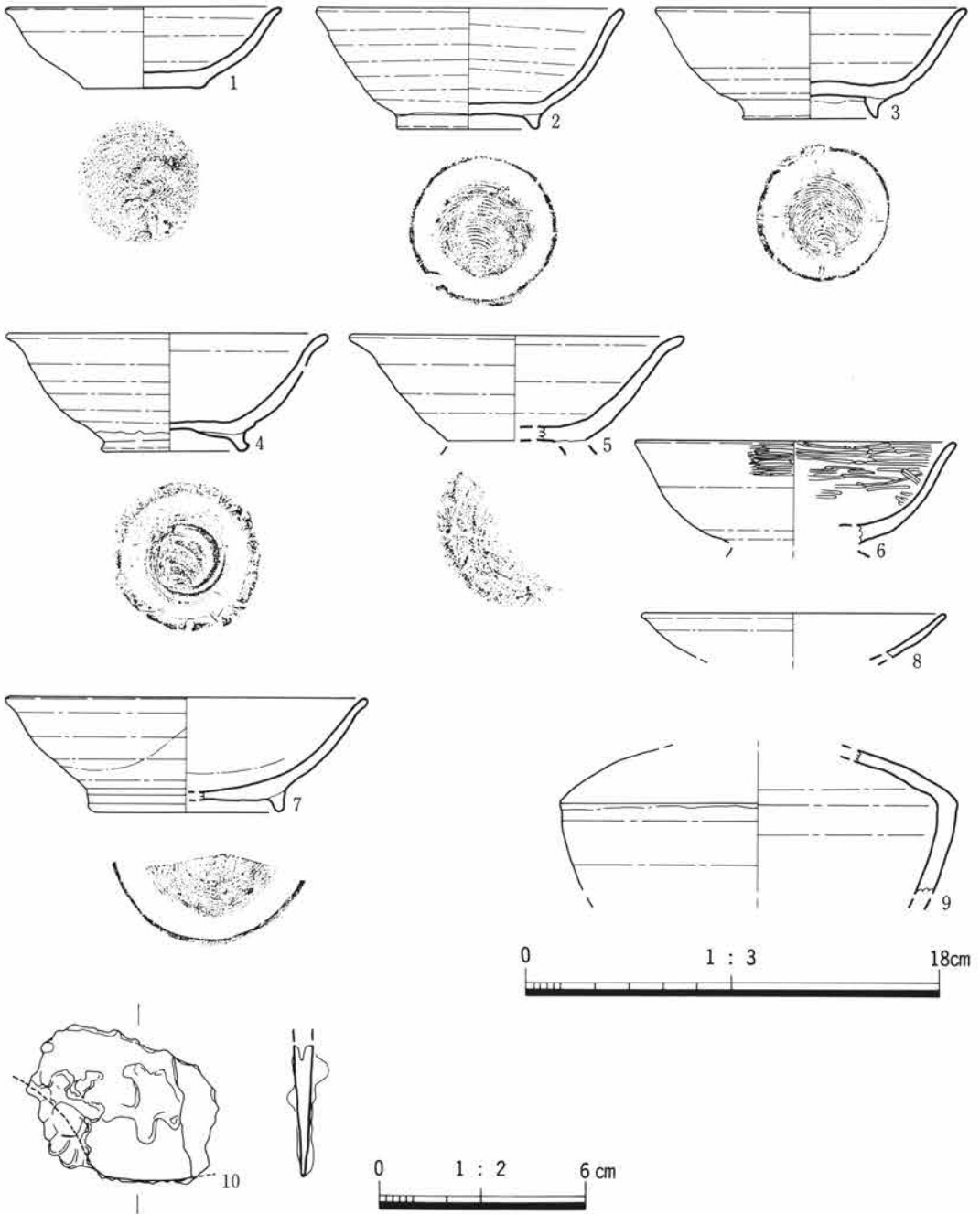
時期は、貯蔵穴出土の椀やその西側床面から出土した甑等から、9世紀後半と考えられる。

田端B区第31号住居跡（第405・407・408図、図版104・105・171）

Mライン・71km274m付近で検出した。確認面は第4層である。29・30号住居、95・77・142号土坑と重複しており、いずれも本住居よりも新しい。覆土は自然に堆積している。壁は約70°で立ち上がるが、南西隅～南辺は重複遺構によって破壊されている。床面は中央部がやや高く、周辺に向かって低くなる。支柱穴と考えられるピットは検出していない。壁溝はない。カマドは東辺中央に検出したが、30号住居・131号土坑によって殆ど破壊されており、左袖石を検出したのみである。貯蔵穴は南東隅に検出した。略方形を呈し、住居内側は二段に掘られている。



第403図 田端地区B区30号住居跡



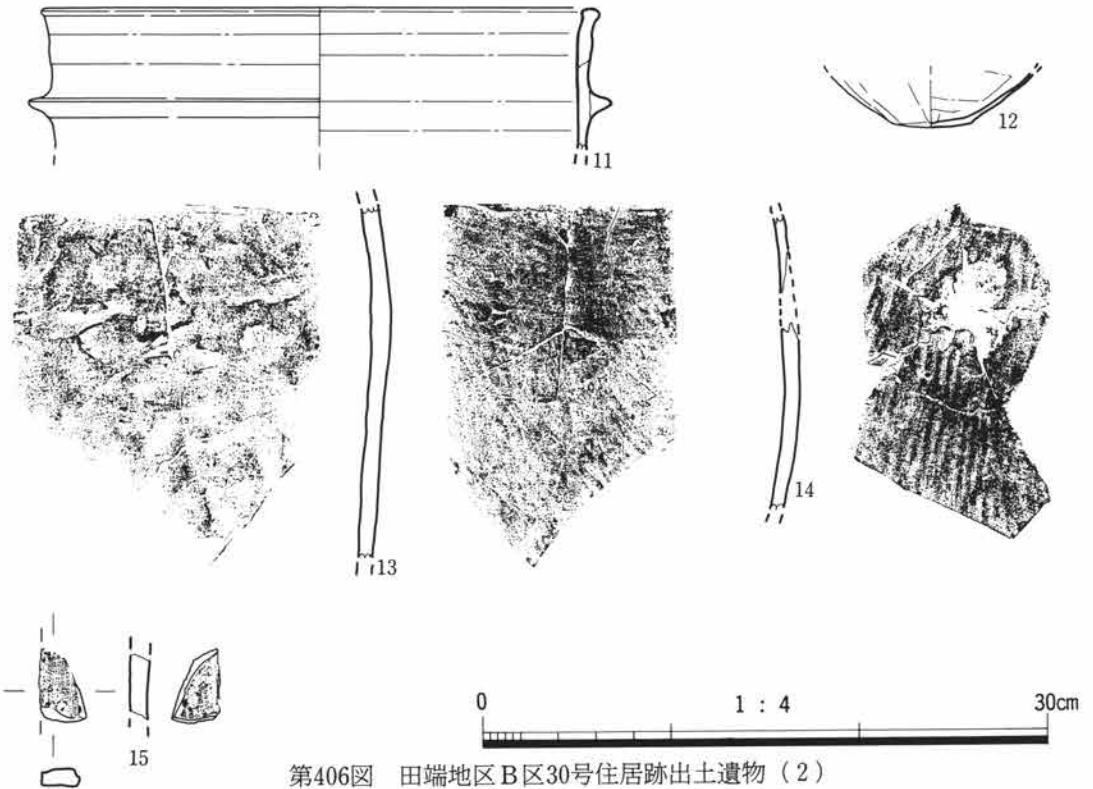
第404図 田端地区B区30号住居跡出土遺物(1)

遺物は少なく、カマド周辺から小破片が4点、貯蔵穴内から第408図1が出土している。2は覆土出土の参考遺物である。

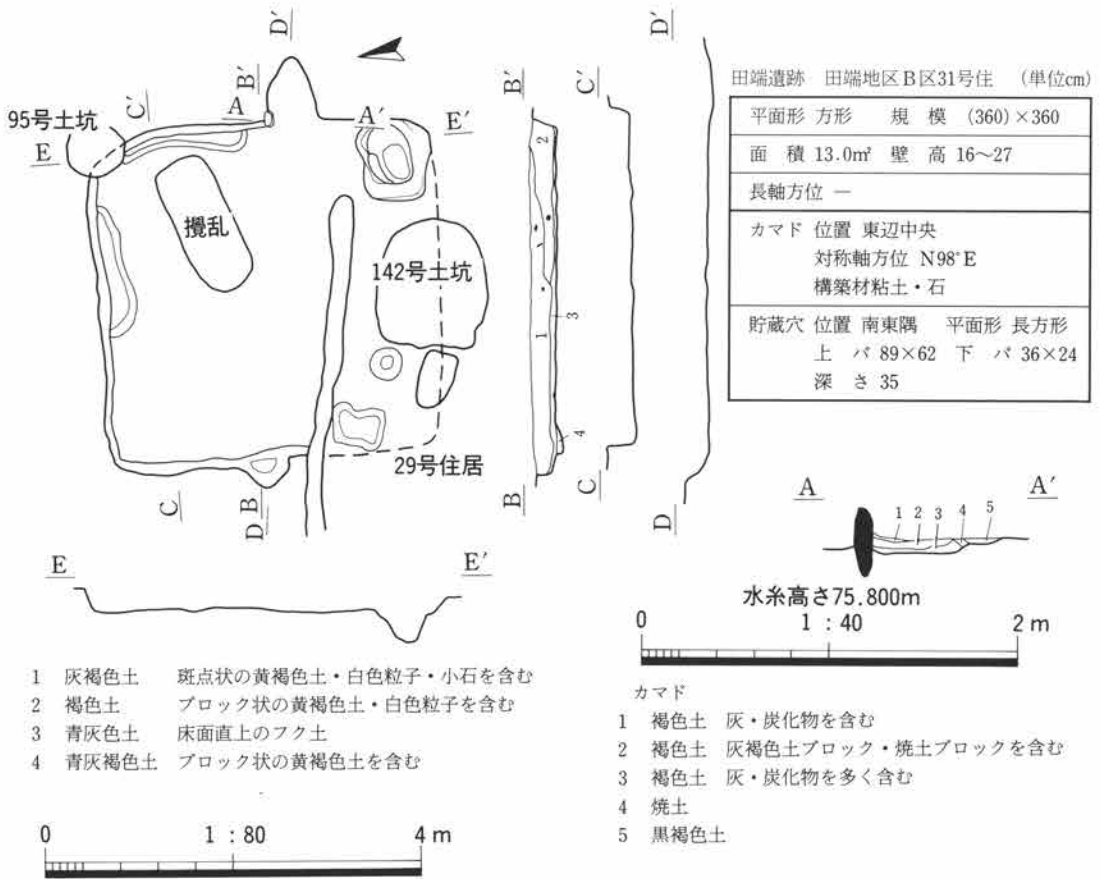
時期は9世紀代と考えられる。



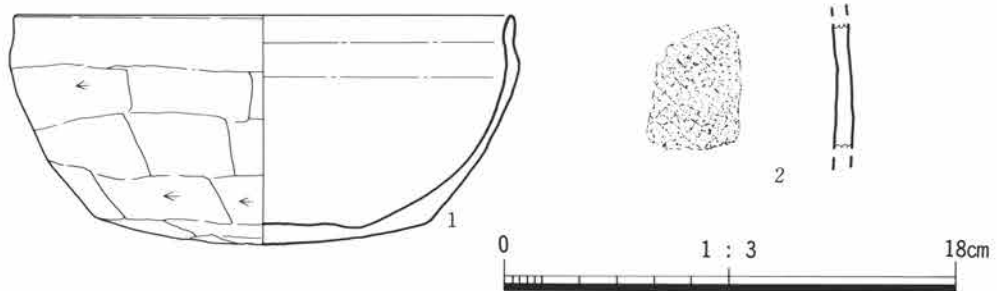
第405図 田端地区B区31号住居跡



第406図 田端地区B区30号住居跡出土遺物（2）



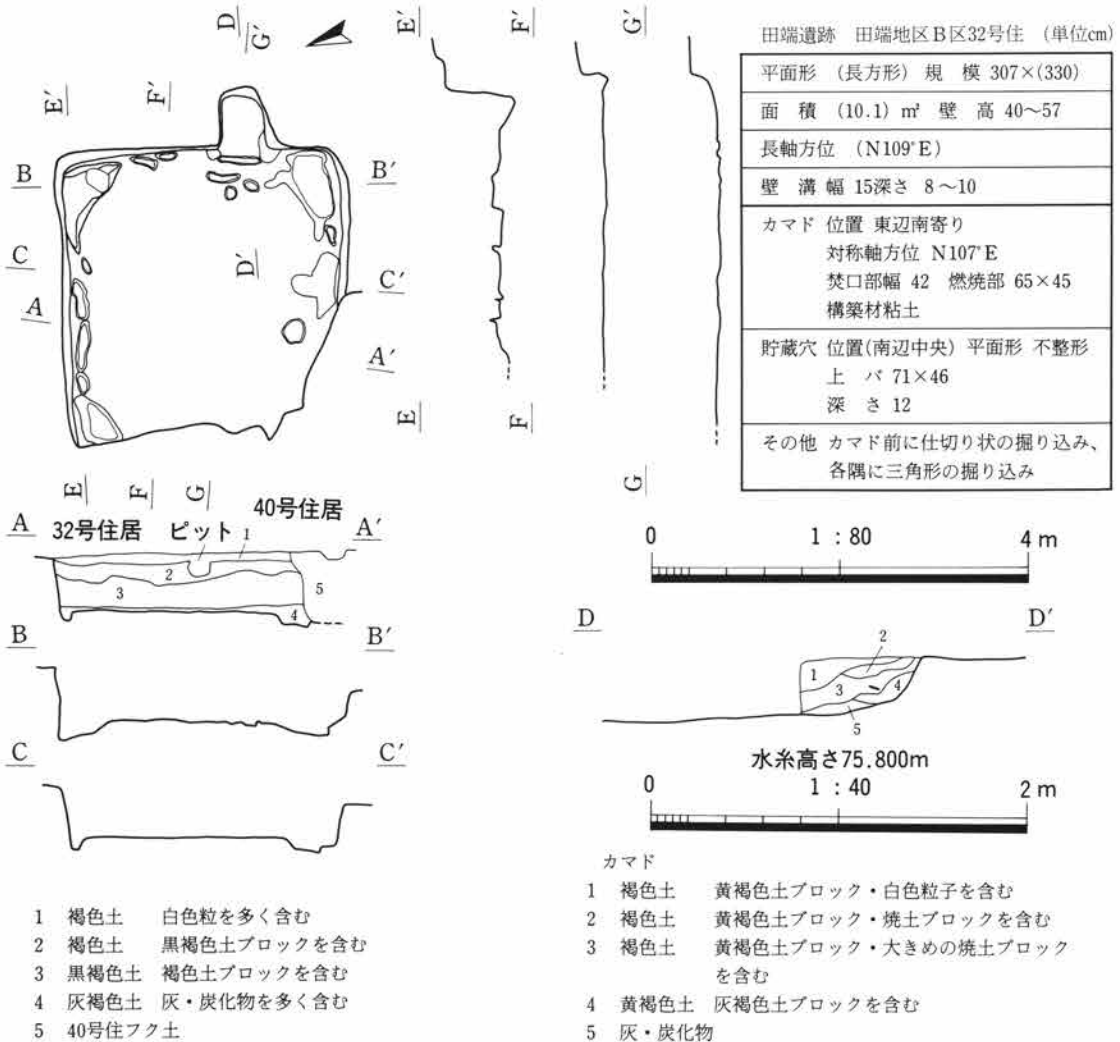
第407図 田端地区B区31号住居跡



第408図 田端地区B区31号住居跡出土遺物

田端B区第32号住居跡 (第409~411図、図版106・171)

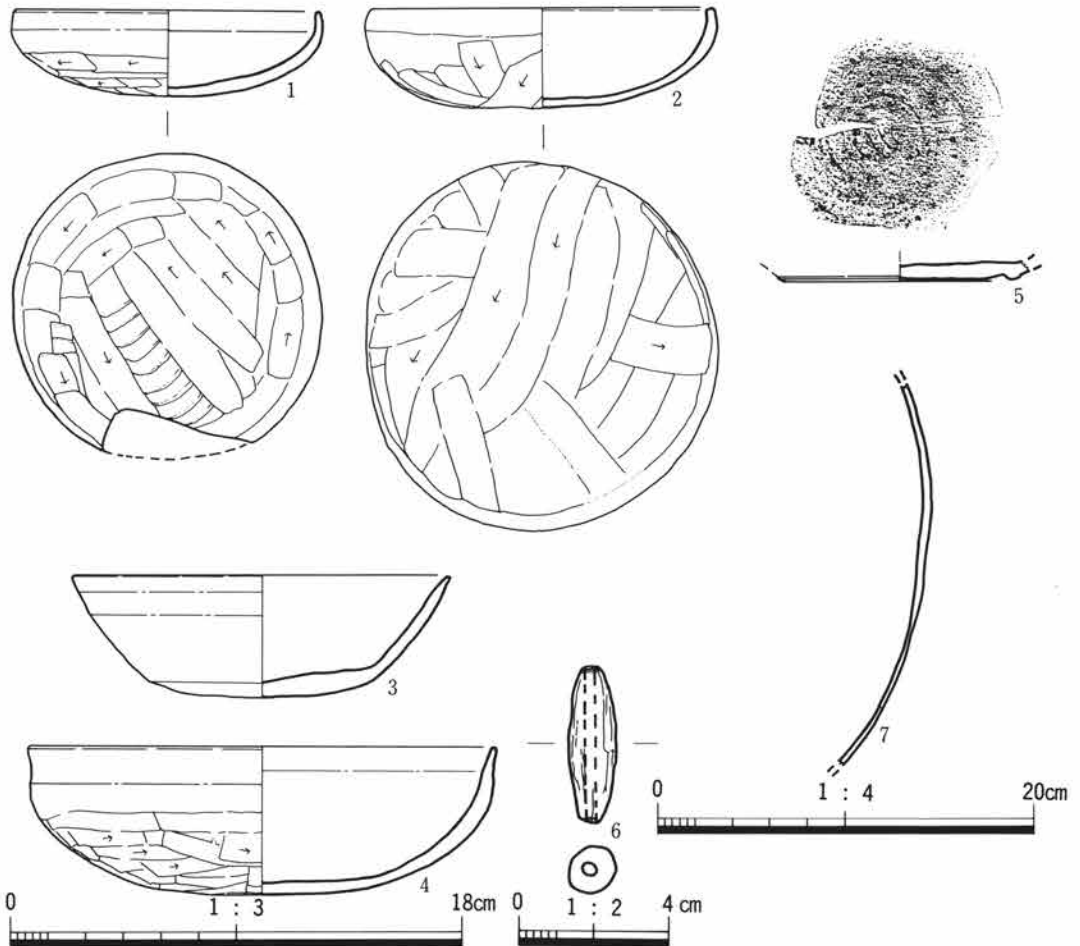
Lライン・71km278m付近で検出した。27・29・40号住居、78・79・123・124号土坑と重複しているが、いずれも本住居よりも新しい。西辺～南西隅は40号住居に切られてプランは不明であるが、北西部がほぼプランの北西隅に相当すると考えられる。本住居は29号住居の床面・床下を精査する段階でカマドを検出し、住居跡の存在を確認したものである。覆土は自然に堆積している。壁は他に比べて高く、約80°ほどで立ち上がる。床面は中央がやや高く、周辺に向かって低くなる。支柱穴と考えられるピットは検出していない。北辺の壁下に沿って深さ10cmほどの細長いピットが並び、北東隅・北西隅・南東隅には略三角形の掘り込みを検出した。各隅になんらかの施設が推定できる。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部がプランの外方へ突出するタイプである。また、焚口部に仕切り状の圧痕を認めたが、これも用途は不明である。貯蔵穴と考えられるピットは南辺中央に検出した。「凸」形を呈しており、深さ10cm前後である。



第409図 田端地区B区32号住居跡



第410図 田端地区B区32号住居跡

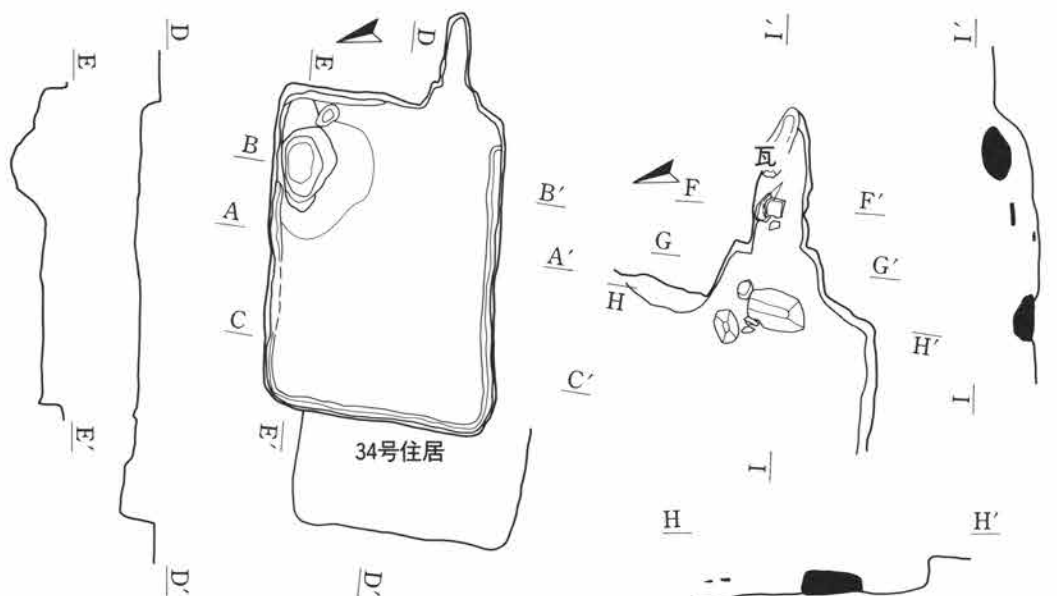


第411図 田端地区B区32号住居跡出土遺物

遺物は西辺寄りと南辺寄りに出土が多かったが、西辺の遺物は重複する40号住居跡に所属するものと混在しているため、これらを除いた南辺の遺物が本住居のものと考えられる。第411図1～4・7は南辺中央の貯蔵穴上の床面から重なり合って出土した土器である。5は参考遺物で、内底中央に同心円の当て具痕がみられ、外底に左回転のヘラケズリを施し、高台は削り出し状を呈する須恵器である。時期は8世紀後半と考えられる。

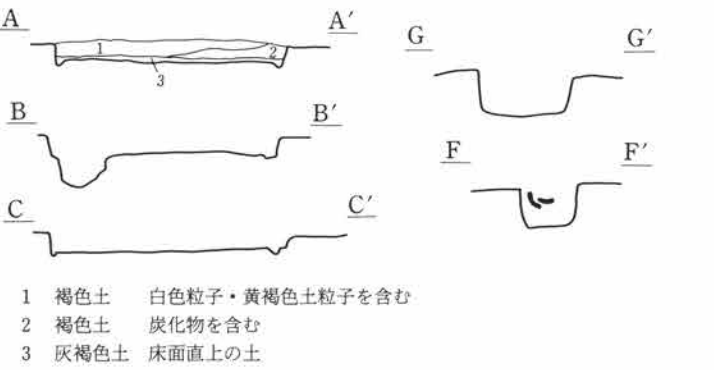
田端B区第33号住居跡 (第412～416図、図版107・172・173)

N-Oライン・71km283m付近で検出した。確認面は第4層である。34・45・56・60号住居跡、136号土坑と重複している。33号住居跡→136号土坑の順に新しく、4軒の住居よりも本住居のほうが新しい。

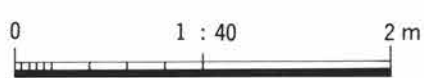
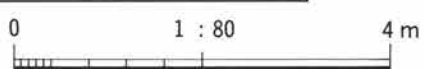


田端遺跡 田端地区B区33号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 342×244
面積 8.3m ² 壁高 17～23
長軸方位 N109°E
壁溝幅 12～17 深さ 2～7
カマド 位置 東辺南寄り 対称軸方位 N109°E 焚口部幅 — 燃烧部 51×33 煙道部幅 30 長さ 73 角度 32° 構築材粘土・石・瓦
貯蔵穴 位置 北辺東寄り 平面形 不整形 上バ 57×89 下バ 27×42 深さ 33



- 1 褐色土 白色粒子・黄褐色土粒子を含む
- 2 褐色土 炭化物を含む
- 3 灰褐色土 床面直上の土



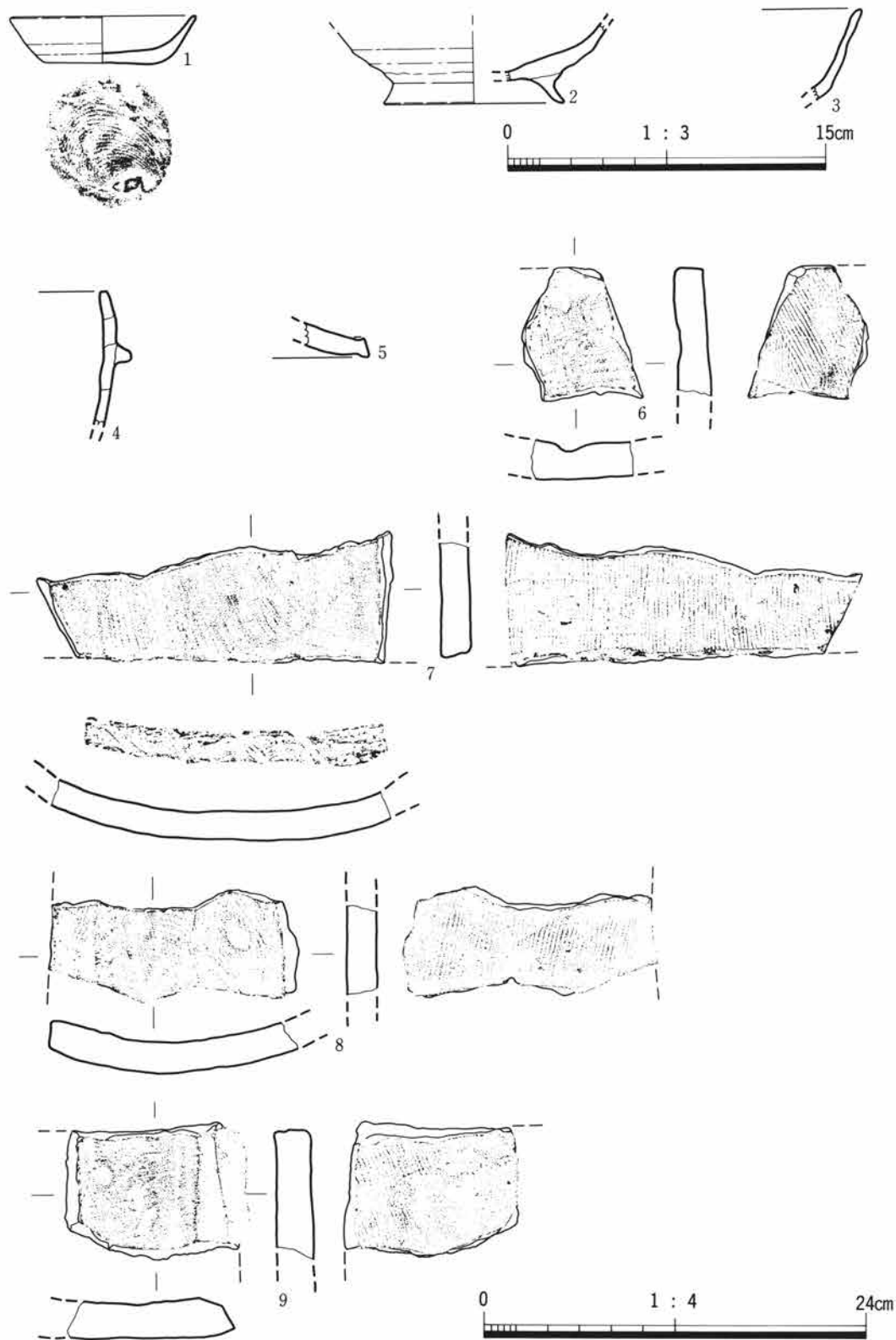
第412図 田端地区B区33号住居跡



第413図 田端地区B区33・34号住居跡

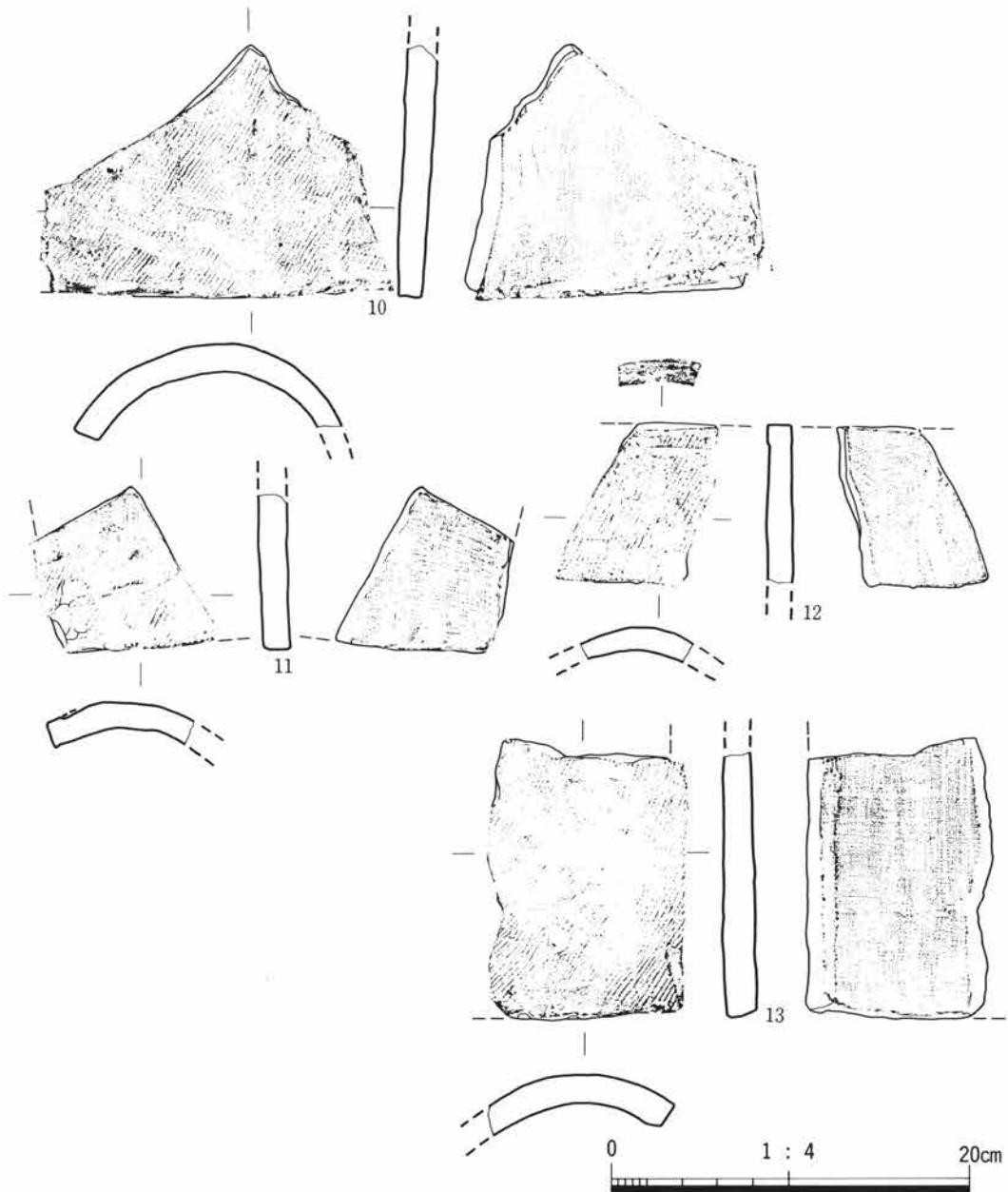


第414図 田端地区B区33号住居跡カマド



第415図 田端地区B区33号住居跡出土遺物(1)

覆土は自然に堆積している。壁はほぼ直に立ち上がる。床面は中央部がやや高い。主柱穴と考えられるピットは検出していない。壁溝はカマド前～貯蔵穴付近を除き巡っている。東辺北寄りの壁と貯蔵穴との間には18×50cm程の石があり、この付近は壁からなだらかに低くなっている。カマドは東辺南寄りに構築され、その対称軸は住居の長軸と同じである。カマドの前面は破壊されていたが、焚口の天井部とみられる石が燃焼部をふさぐような状態で床面から出土し、左袖部相当位置からは10cm大の石の破片と土器片が出土した。また、煙道部先端には長さ40cmの石が縁にかかるような状態で出土し、煙道内部からは丸瓦の破片が出土した。貯蔵穴周辺の床面には粘土が貼ってあり、他の床面よりも一



第416図 田端地区B区33号住居跡出土遺物(2)

段高くなっている。貯蔵穴の内部は楕円形を呈し、二段に掘り込まれている。

遺物はほぼ全面から出土したが、東辺のカマド周辺からの出土が多い。第415図1は東辺中央壁際(カマド左脇)の床面から、2は中央西寄りの床面から出土した。第415図6～第416図13の瓦はカマド内、床面、貯蔵穴内出土のもので、8は貯蔵穴底面出土破片とカマド内出土破片とが接合している。再利用の瓦とみられる。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第34号住居跡 (第417・419図、図版174)

N-Oライン・71km286m付近で検出した。確認面は第4層である。33・56・60・85・87号住居、136号土坑と重複し、60→56→34→33号住居、34→136号土坑の順に新しい。85・87号住居との関係は不明である。覆土は自然の堆積を示す。壁は北東隅付近で深さ約30cmほどを検出した。東側の大部分を33号住居跡によって破壊されており、床面を検出したのは西側の一部である。支柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴等は不明である。

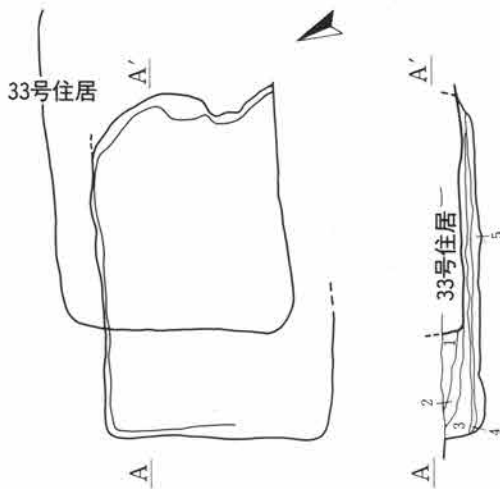
遺物は少ない。第419図1は北半の床面から、5は北辺壁際の床面直上から出土した。南半では石の出土が目立つ。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第35号住居跡 (第418・420～422図、図版107・108・174・175)

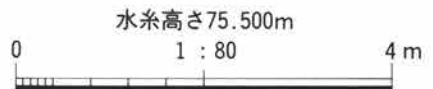
Oライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。45号住居、151・167号土坑と重複し、45号→35号→151・167号の順に新しい。覆土は自然に堆積している。壁は25cmほど遺存しており、70°～80°で立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、中央部がやや高く周辺に向かって低くなる。支柱穴と

- 1 褐色土 白色粒子・黄褐色土粒子を含む
- 2 褐色土 白色粒子・炭化物を含む
- 3 褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を含む
- 4 灰褐色土 黄褐色土粒子を含む。床面直上の土
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物を含む。床下の土



田端遺跡 田端地区B区34号住 (単位cm)

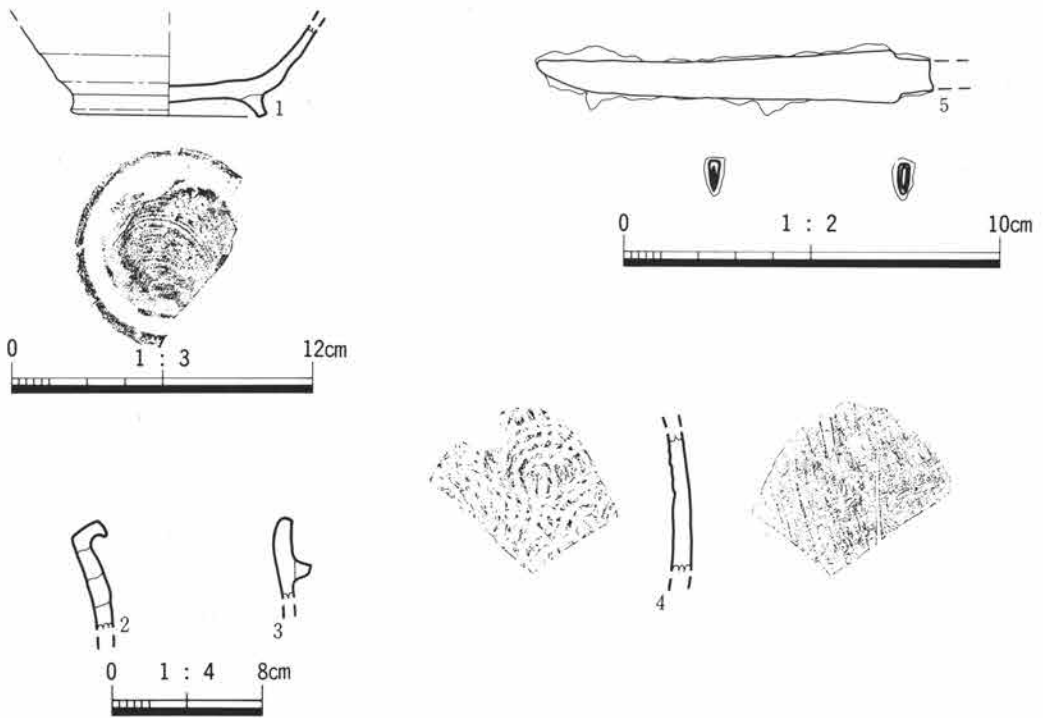
平面形 (長方形)	規模 240×
面積	壁高 30
長軸方位 (N115°E)	



第417図 田端地区B区34号住居跡

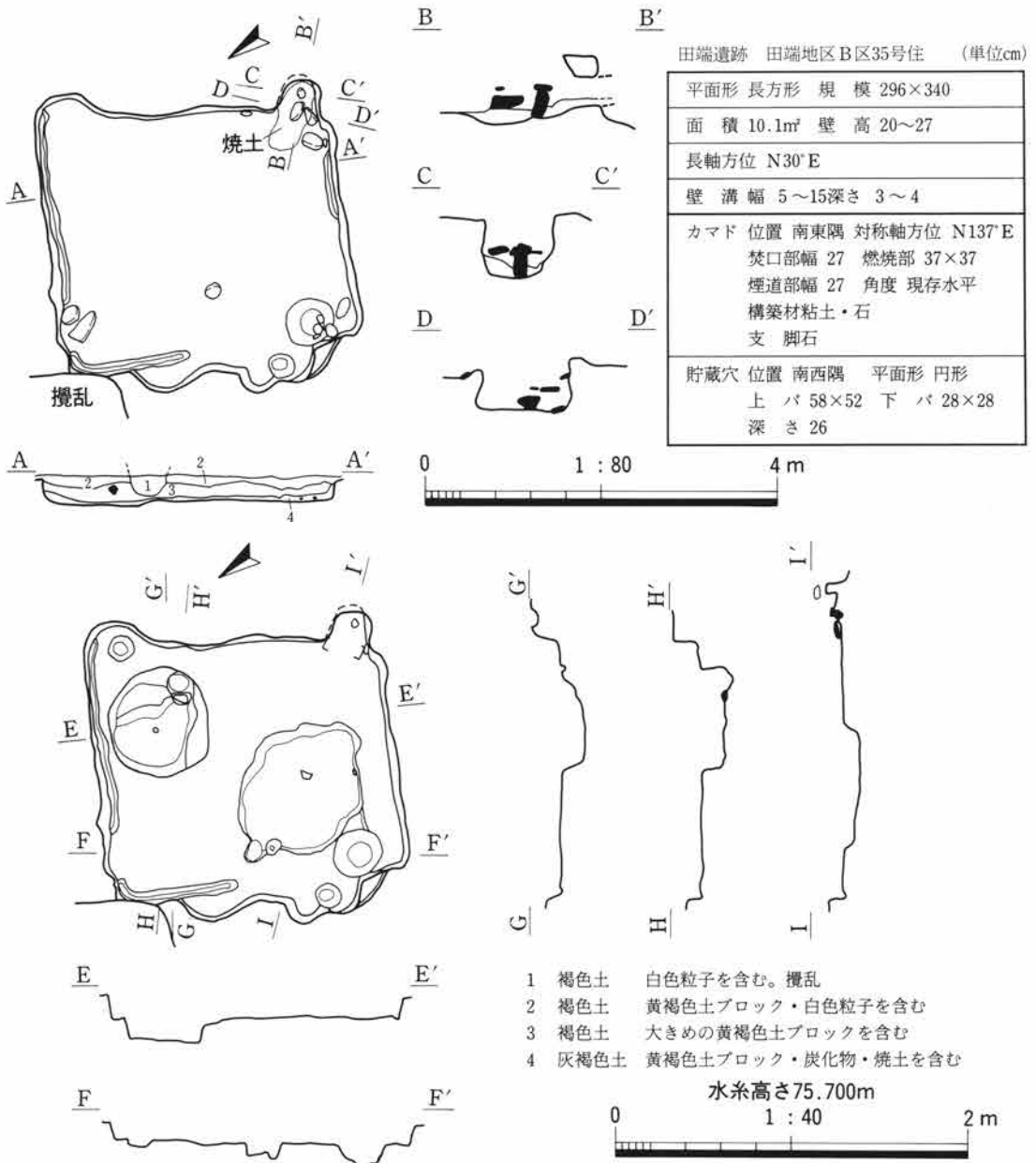


第418図 田端地区B区35号住居跡

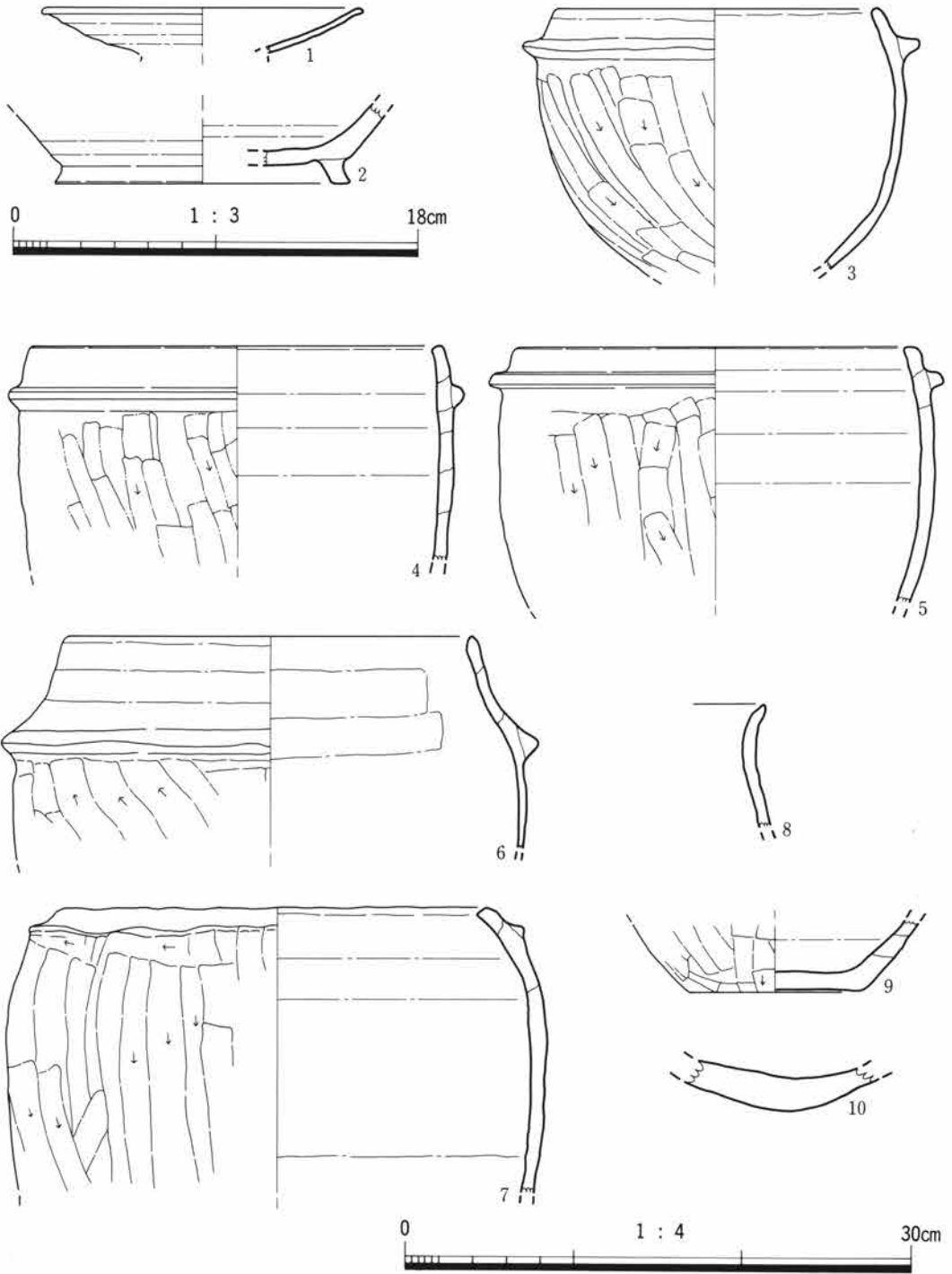


第419図 田端地区B区34号住居跡出土遺物

考えられるピットは検出していない。壁溝は北辺～西辺の半分と南辺の東半で検出した。カマドは南東隅に設置され、煙道は斜めに延びる。カマド前と燃烧部に石が出土しており、カマドの構築材の一部と考えられる。燃烧部には高さ16cm、径8cmの石が立てられたまま出土し、さらにその上に厚さ3cmの扁平な石が乗せられていた。支脚と考えられる。煙道は167号土坑に向かって延び、土坑の西壁には煙道の断面を観察することができた。遺存していた部分でみると、煙道はほぼ水平に延び、その断面は天地17cm、左右27cmの楕円形を呈している。また、左右の袖部と推定する位置で「[]」状のスタンプを検出しており、凝灰岩の切り石を据えた痕跡とみられる。カマド内からはこのほかに瓦の破片が

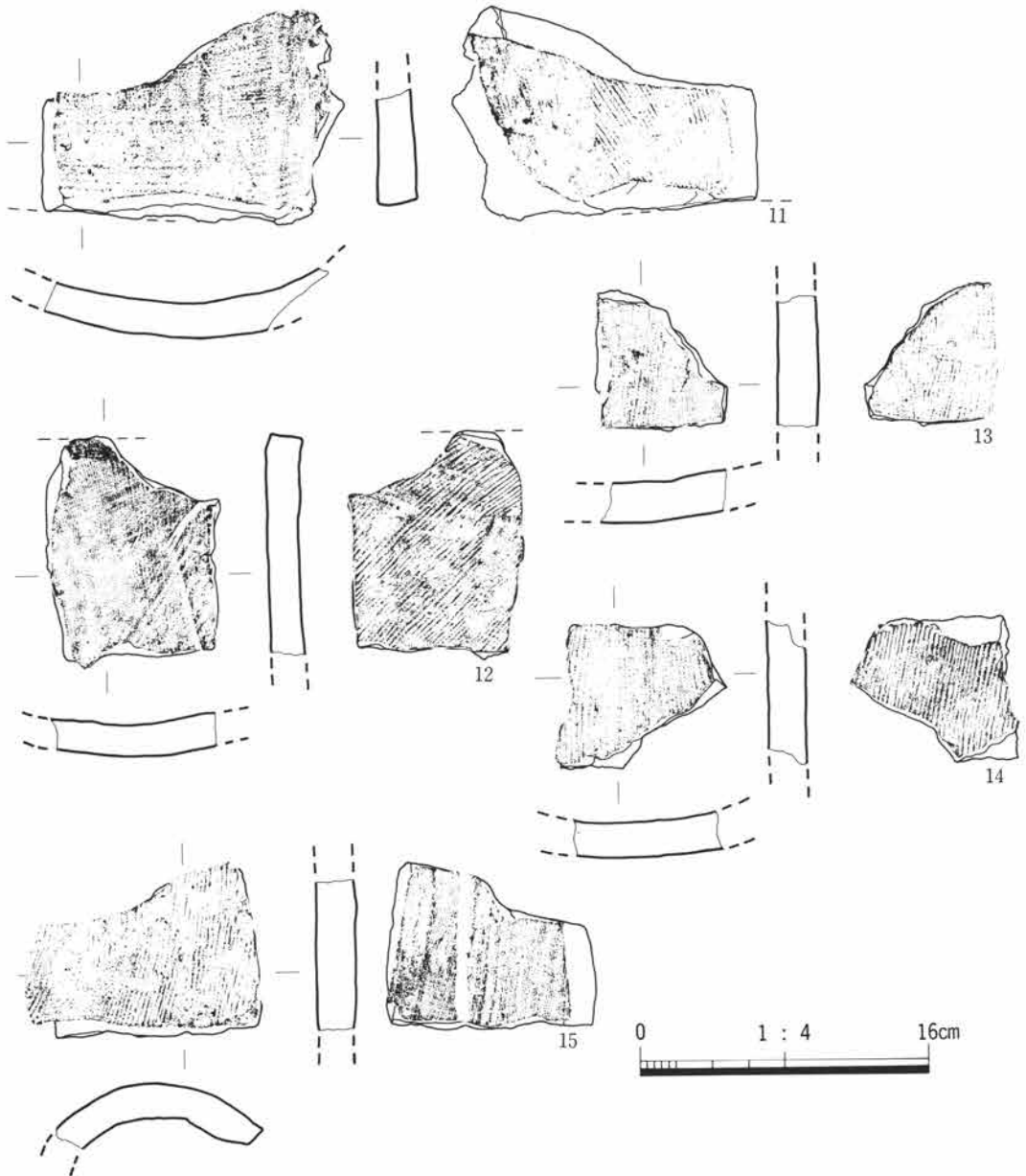


第420図 田端地区B区35号住居跡



第421図 田端地区B区35号住居跡出土遺物(1)

土しており、構築材の一部または煮沸器等をカマドに据える時の隙間調整材として使われたものか。貯蔵穴は南西隅で検出した。貯蔵穴の接する西辺はプランが乱れており、貯蔵穴の北西にあるピット(径25~30cm、深さ20cm)、北半で途切れてしまう壁溝の存在等を考え合わせると、西辺で住居内部に突出する部分が入り口であったと推定できる。また、北東隅は東辺の延長線から丸く張り出しており、その中央部からは径30cm、深さ20cmのピットを検出しており、ここにもなんらかの施設があったと考えられる。床面を形成する土を剥ぐと、径100~150cm、深さ10~30cmで不整形の土坑が検出できた。



第422図 田端地区B区35号住居跡出土遺物(2)

遺物はカマド周辺～北西隅で多く出土し、東半の張り出し部分付近では少なかった。本住居ではとくに石の出土が多い。第421図1の灰釉陶器は床下土坑1から出土した参考遺物である。3～5・7は北西隅床面から、6は南辺中央の壁際から、第422図13を除く瓦はカマド内からそれぞれ出土した。なお、第421図6・7の羽釜はいずれも歪みの著しい破片からの復原図である。

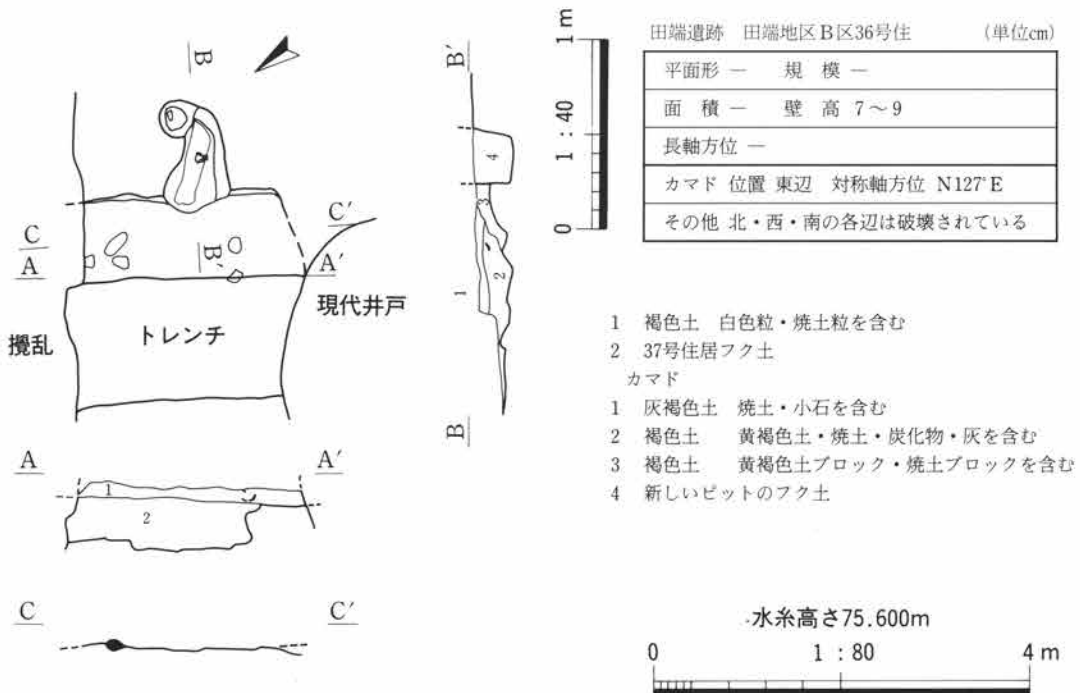
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第36号住居跡（第423図、図版108）

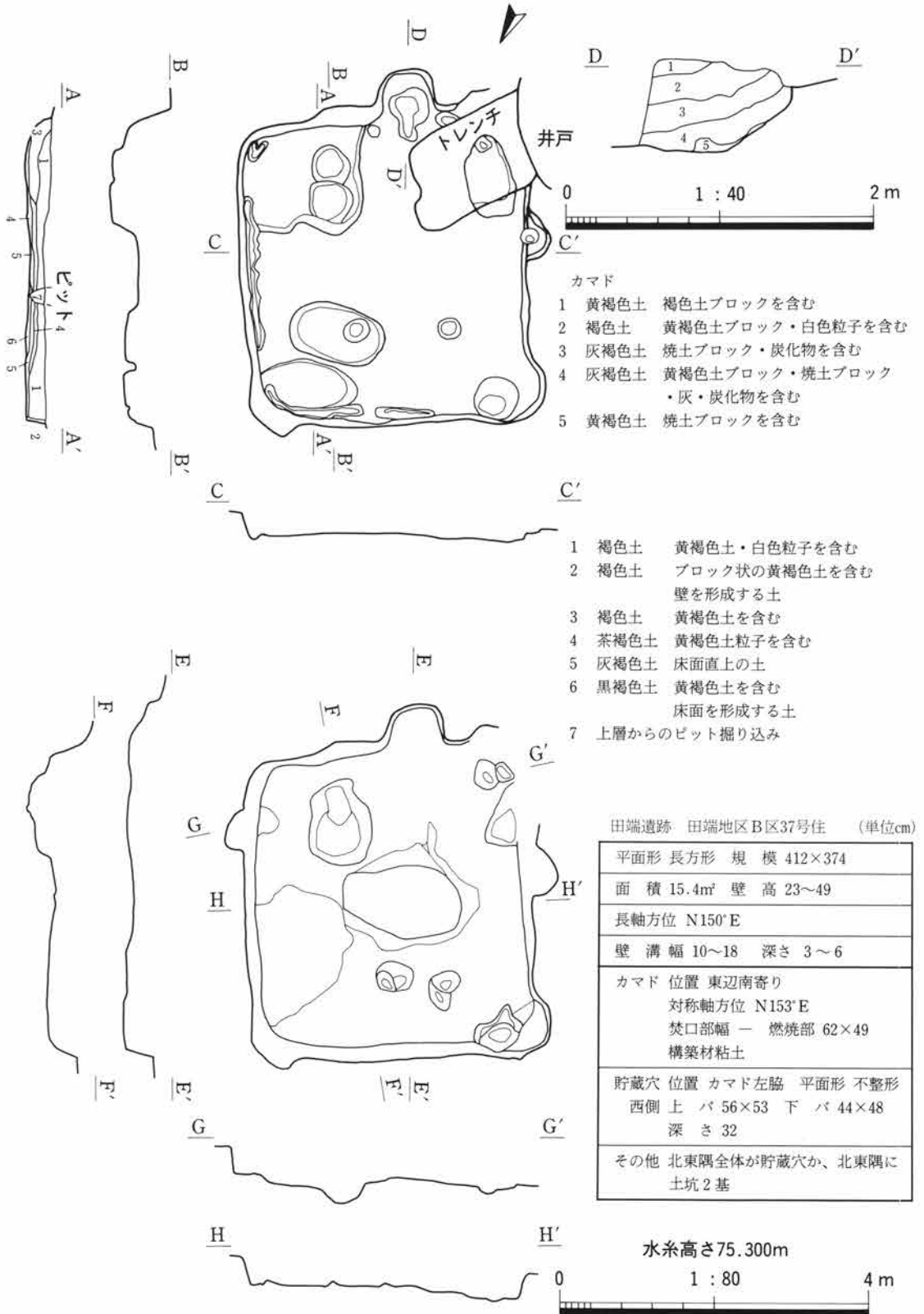
Mライン・71km282m付近で検出した。確認面は第4層である。37号住居と重複しているが、本住居の方が上層にあり、37号のカマドは36号の床下から発見されていることから、36→37号住居の順に新しい。北辺は現代家屋が引っ越ししたときに掘られたゴミ穴によって、西辺は建設機械によって、南辺は調査直前まで使用していた現代の井戸によって破壊されているため、本住居のプランは確認することができなかった。わずかに焼土の検出によって、住居跡の存在を認めたものである。南東隅は、この付近から地山が低くなることからの推定である。壁は浅く、遺存部の北西部分に石が3個出土し、カマド内から壘体部片が出土している。図示できる遺物はなく、時期は不明である。

田端B区第37号住居跡（第424～427図、図版109・176）

Mライン・71km283m付近で検出した。確認面は第4層である。36・53・59号住居と重複し、53→59→37→36号の順に新しい。南東隅は建築機械と現代の井戸によって破壊されている。覆土は自然に堆積している。西辺の壁は約80°で立ち上がるが、東辺の壁はゴミ穴によって破壊されたためか、なだらか



第423図 田端地区B区36号住居跡



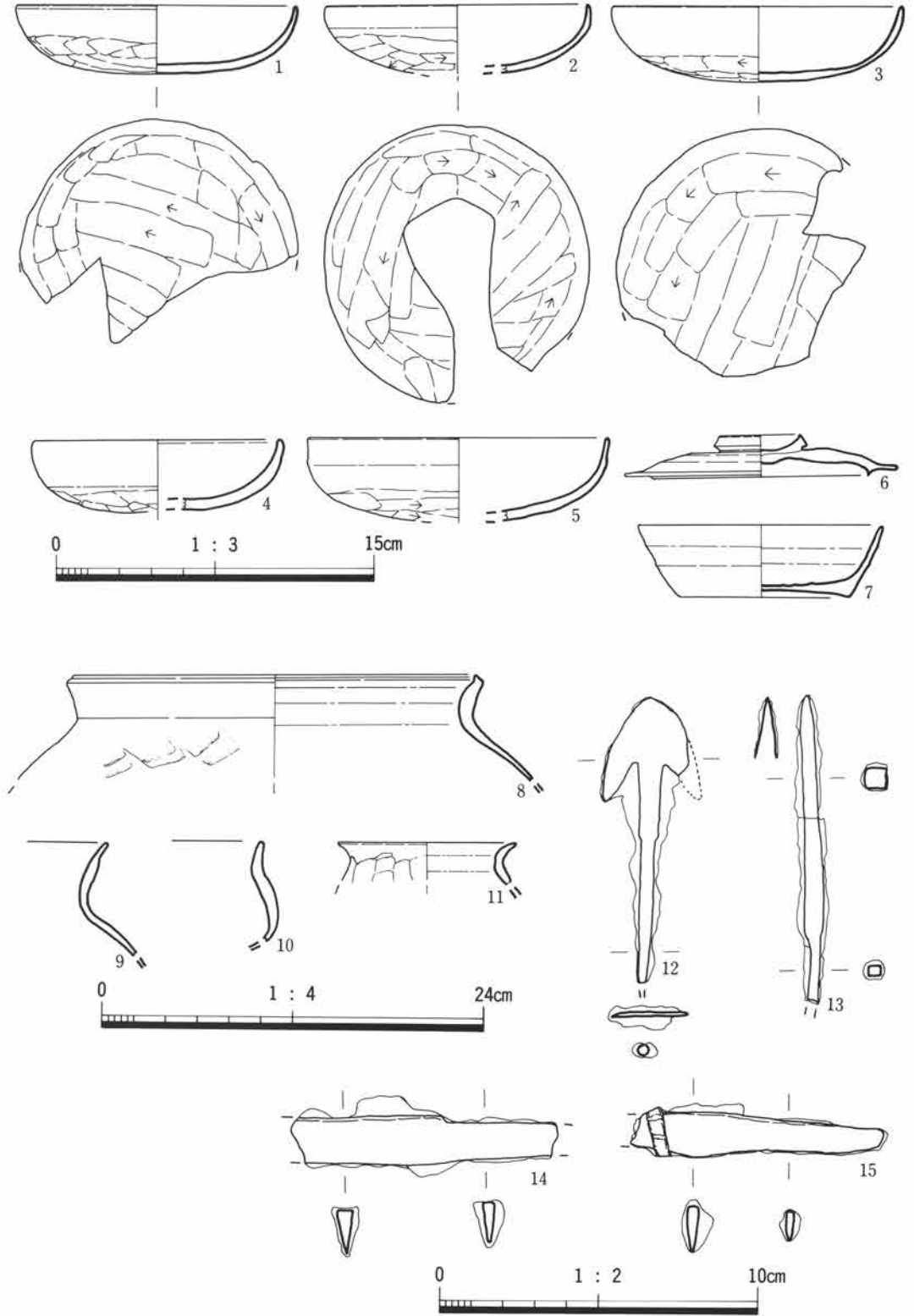
第424図 田端地区B区37号住居跡



第425図 田端地区B区37号住居跡



第426図 田端地区B区37号住居跡



第427図 田端地区B区37号住居跡出土遺物

に立ち上がる。床面は中央部がやや高い。支柱穴と考えられるピットは検出しなかった。壁溝は北辺の中央部分と西辺の北半で検出した。カマドは東辺の中央やや南寄りに検出し、燃烧部が壁外に突出するタイプである。カマド奥壁は始め30°ほどで斜めに立ち上がり、さらに垂直に上方へ向かう。貯蔵穴はカマド左脇の二つのピットと考えられる。この二つのピットをを囲むように、北東隅は120cmほどの略方形の浅い掘り込みがある。またカマドの両脇には浅いピットが二つ検出された。袖石の掘形であろうか。北西隅には楕円形を呈する二つのピットがある。共に長軸120~130cm程で、深さ10cm前後である。南西隅は南側に丸く張り出しており、その内部に径60cmのピットが検出された。

掘形は第424図下のように、中央部に高まりがあり、壁の下に向かって低くなる。北辺では下層の礫層まで掘り込み、その上に床面を形成していることが判明した。

遺物は中央部から西側でやや多く出土している。第427図2・3は南辺の壁際から、6は北西隅の西側の土坑底面から、7は中央部床面から、8・9はカマド覆土から出土した。3・10・11・13は上層覆土からの出土である。14・15は同一個体の可能性がある。

時期は8世紀後半とみられる。

田端B区第38号住居跡（第428~430図、図版110・177）

Lライン・71km270m付近で検出した。確認面は第4層である。29号住居、84・86・87・133号土坑と重複している。住居は29→38号の順に新しく、土坑はすべて本住居よりも新しい。カマド、北辺の東半、南辺の東端、南西隅を検出したのみで、プランは殆ど推定である。中央部を除き、周辺部は近世

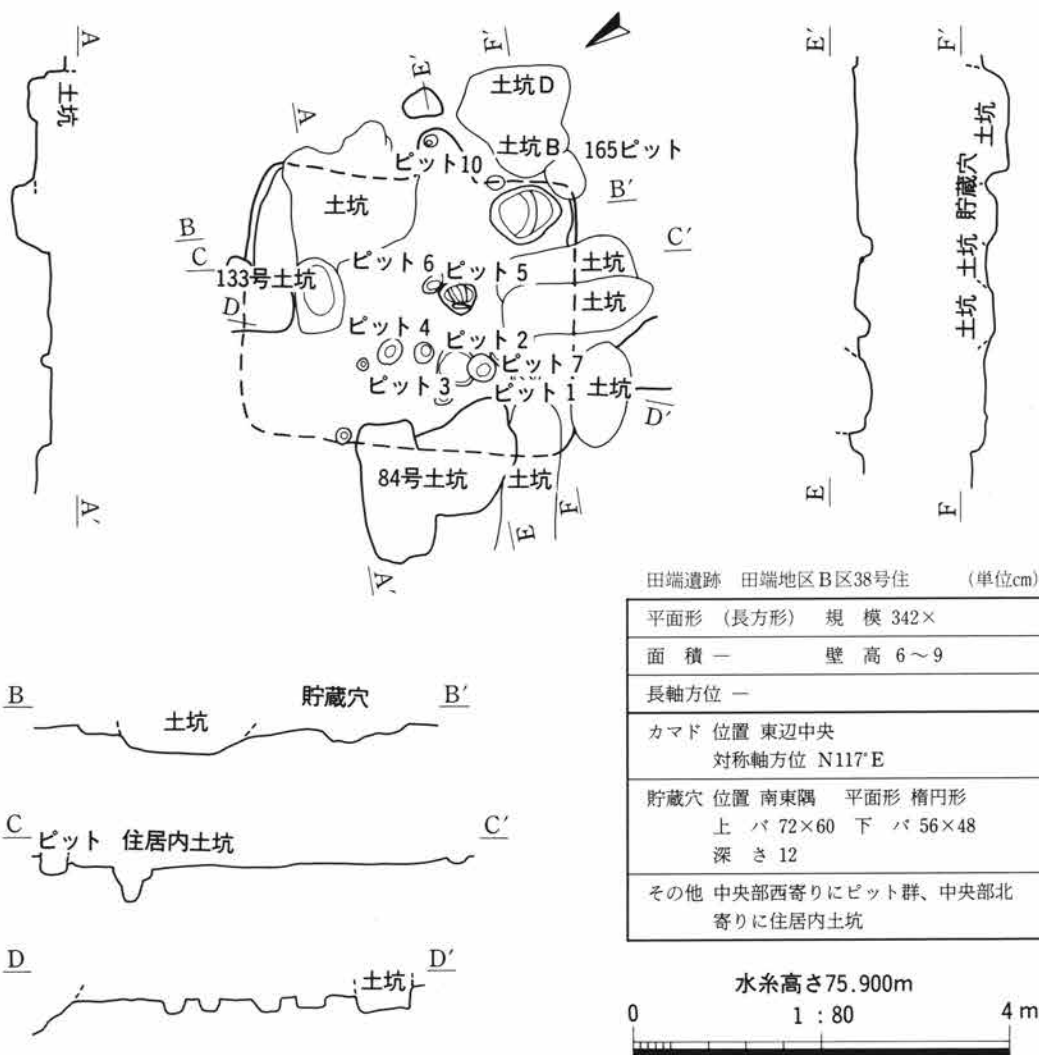


第428図 田端地区B区38号住居跡

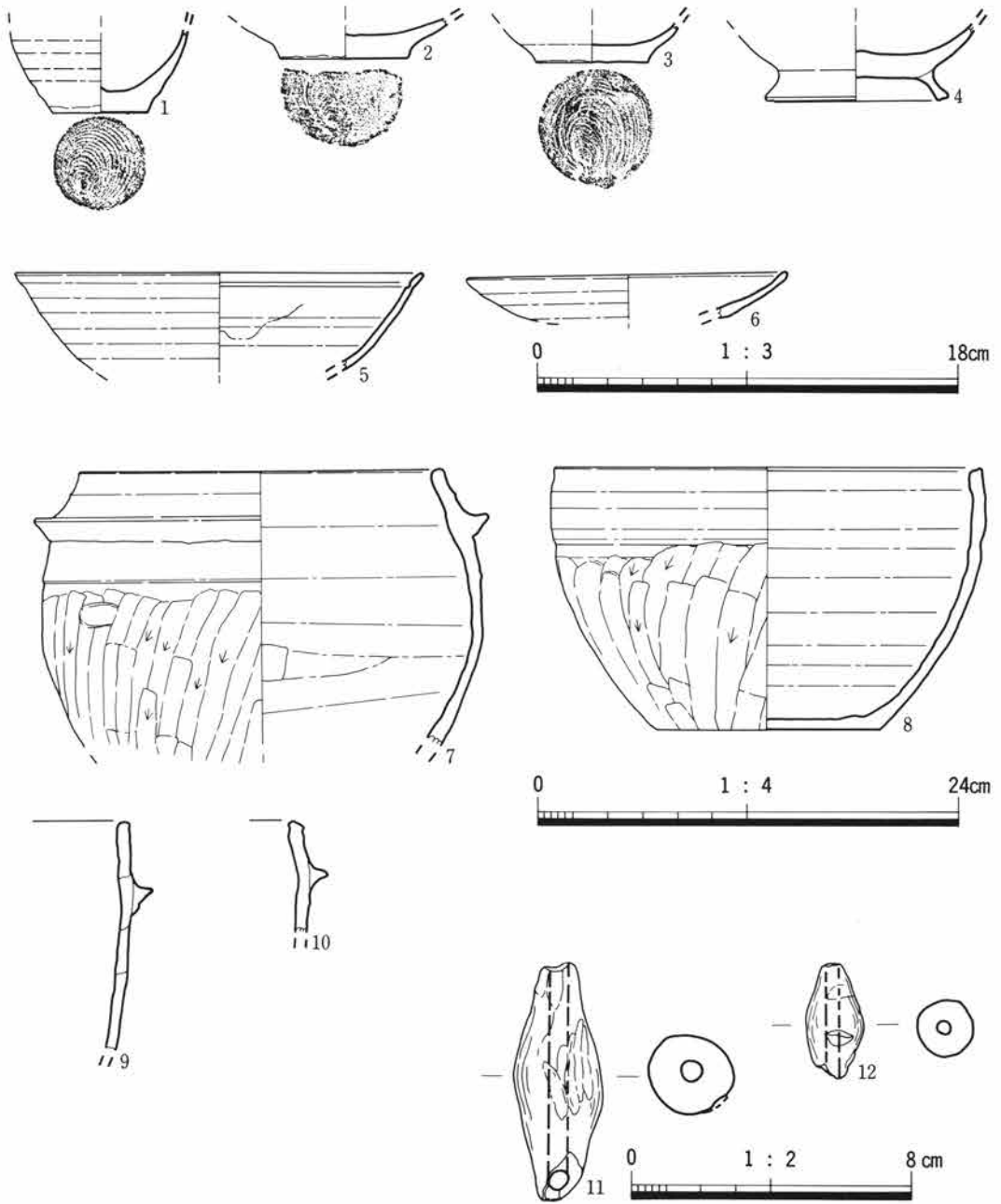
の土坑によって破壊されている。壁は浅く、6～9cm程しか遺存していなかった。床面は中央部が遺存していたが、周辺部は土坑によって破壊されて不明である。壁溝も不明である。ピットは中央部で10個検出したが、いずれも支柱穴とは考えられない。カマドは東辺やや南寄りに検出したが遺存状態が悪く、燃烧部が壁外へ突出するタイプとしか確認できない。貯蔵穴はカマド右脇のピットとみられるが、深さ12cm程で浅い。中央北寄りの80×50cmほどの土坑は住居内のものとみられ、深さ34cmである。こちらも貯蔵穴の可能性はある。

遺物は中央部とカマドの両脇、北辺寄りの土坑からの出土が多い。第430図1・3～6・8は北辺寄りの土坑内から、2は中央南寄りの床面から、7は中央西寄りの床面から、9はカマド前の床面から出土した。

時期は10世紀後半～11世紀が考えられる。



第429図 田端地区B区38号住居跡



第430図 田端地区B区38号住居跡出土遺物

田端B区第40号住居跡（第431～434図、図版110・111・177・178）

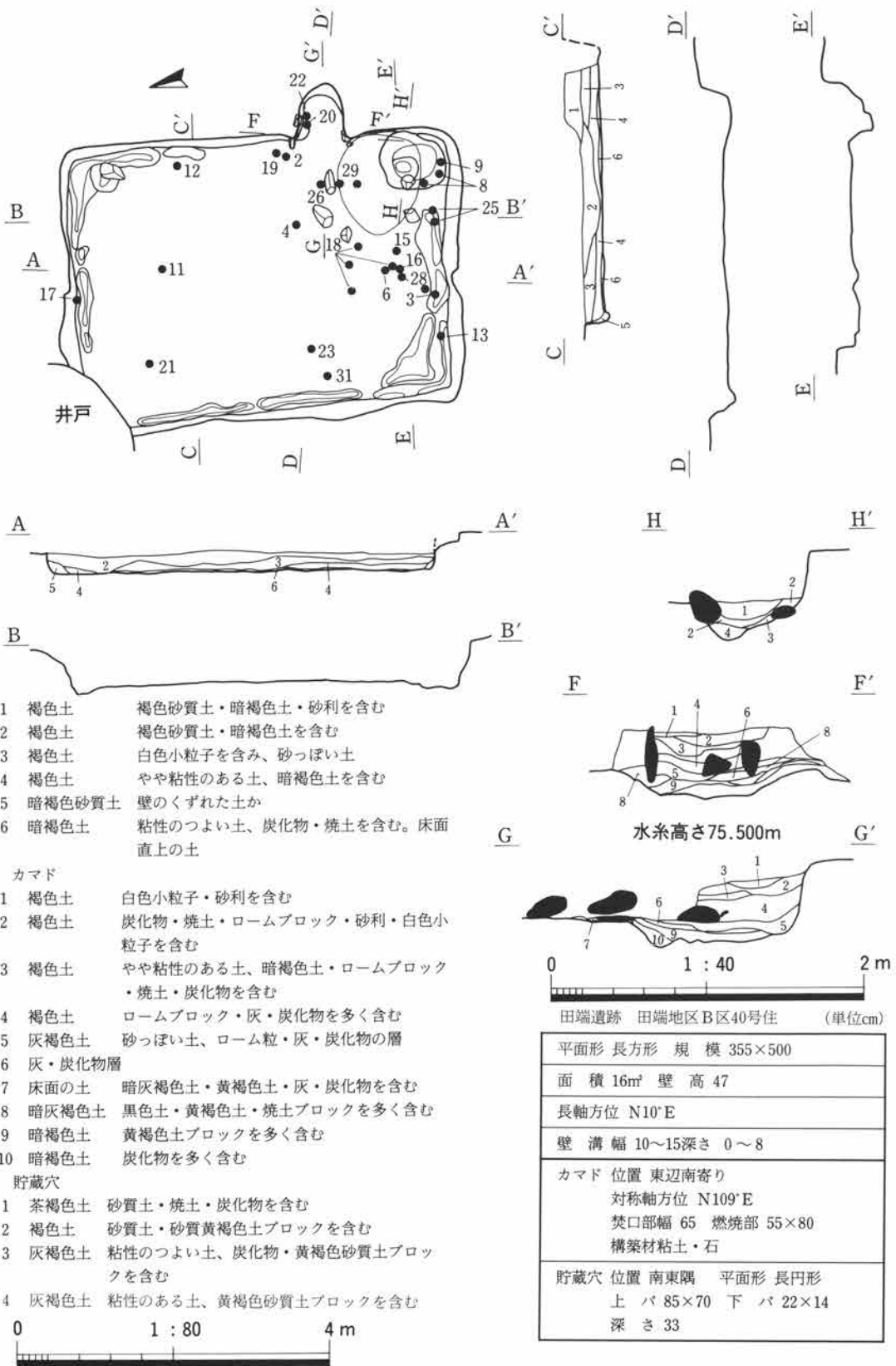
Lライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。27・28・32・44・46号住居跡、88・170号土坑と重複している。本住居は、32号住居・170号土坑より新しく27・28・44・46号住居・88号土坑より旧である。覆土は自然に堆積しているが、上面に44・46住居掘形の影響が認められる。平面形は東辺にカマドを設置した横長方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は全体に堅く、周辺部分に比べて中央部分がわずかにくぼむ。支柱穴は確認できなかった。壁溝は四辺に断続して巡り途切れた1溝の中間や、溝の内側に小さなピットを検出している。また、32号住居で検出した三角形の掘り込みが本住居南西隅でも認められた。カマドは東辺中央より南寄りに検出している。焚口を壁に揃え燃焼部を壁外に作り出すタイプで、偏平な川原石や須恵器甕片を張り付けてカマド壁の補強をしている。カマドにむかって右側、貯蔵穴とのあいだには灰や炭がひろがついていた。貯蔵穴は南東隅にあり長円形で、周囲は土手をめぐらして床よりわずかに高くなっている。掘形の調査では、北辺・北西部・南西部に浅い土坑を検出した。

遺物はカマド前から貯蔵穴周辺にかけて出土した。土師器平底の杯・コの字口縁の甕、須恵器杯・椀・広口の甕・大甕、土錘等がある。

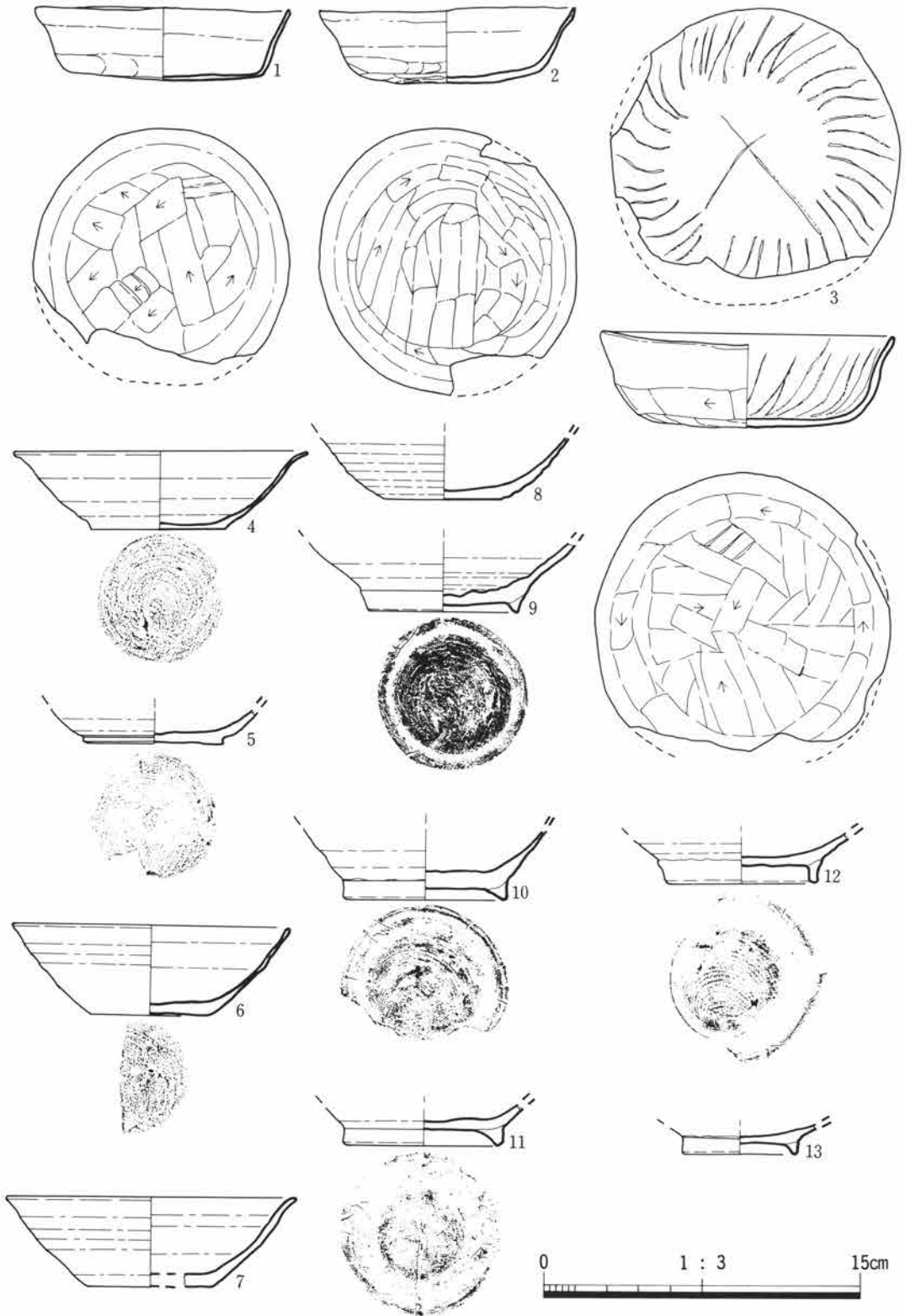
時期は9世紀中頃と考えられる。



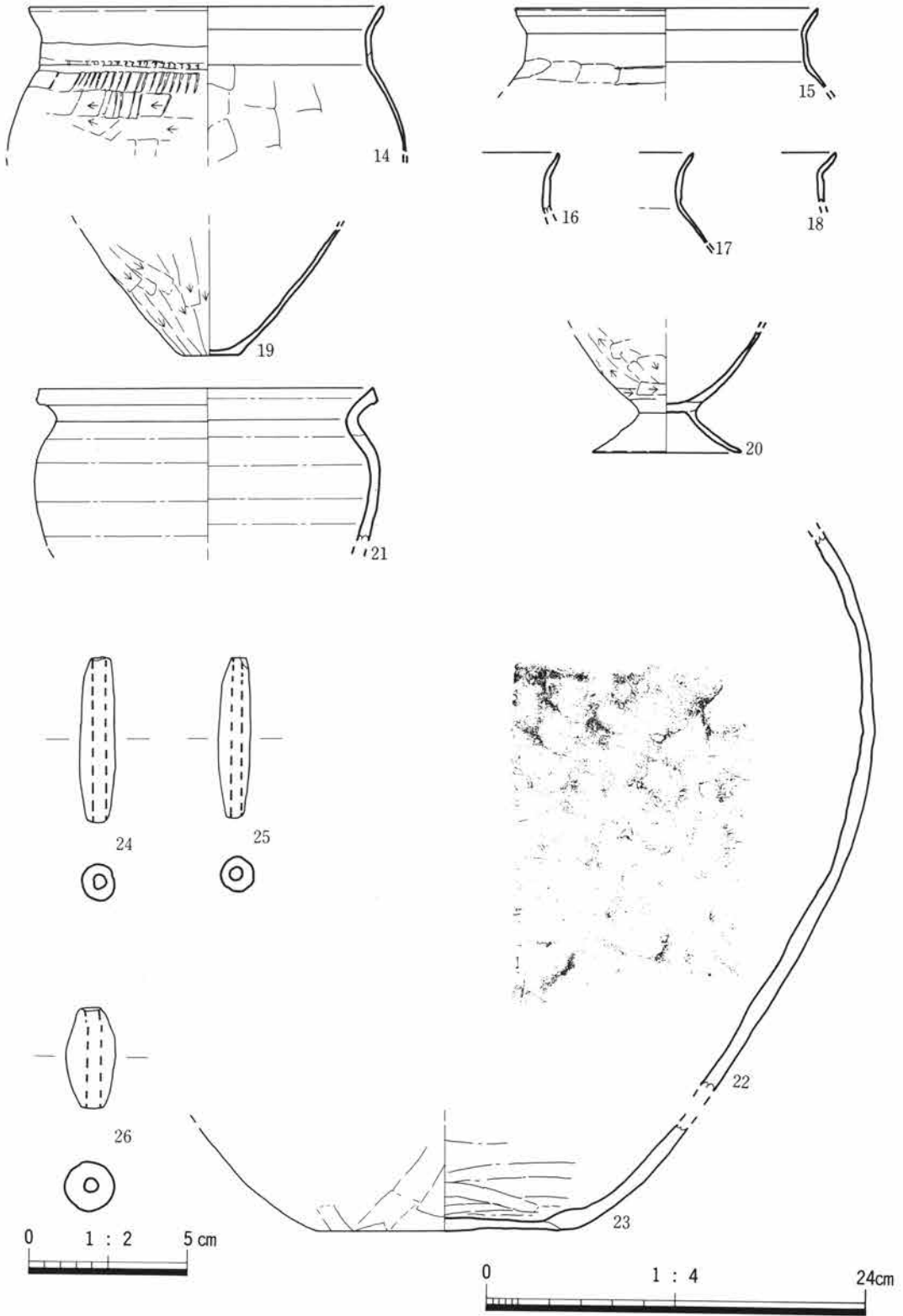
第431図 田端地区B区40号住居跡



第432図 田端地区B区40号住居跡



第433図 田端地区B区40号住居跡出土遺物（1）



第434図 田端地区B区40号住居跡出土遺物(2)

田端B区第41号住居跡（第435～437図、図版111・178）

Mライン・71km266m付近で検出した。確認面は第4層であるが、確認した段階でわずかに床面的一部分と貯蔵穴が残っているだけの状態であった。西側で30号住居と重複し北辺は新土坑によって壊されている。30号住居との新旧関係はつかめなかった。

床面は貯蔵穴の北側に堅い部分を認めたので南東隅に貯蔵穴をもち東辺にカマドを設置する縦長方形タイプの住居跡と考えている。支柱穴および壁溝と思われる掘り込みは検出できなかった。30号住のカマドと推定した石と須恵器甕が本住居跡のカマドに属する可能性もありカマドの位置も東辺中央あたりと考えている。貯蔵穴は隅丸方形である。掘形は不明である。

遺物は貯蔵穴中から土師器甕、須恵器杯・椀が出土している。

時期は9世紀末と考える。30号住の遺物と比べれば本住居がわずかに新しいと言えよう。



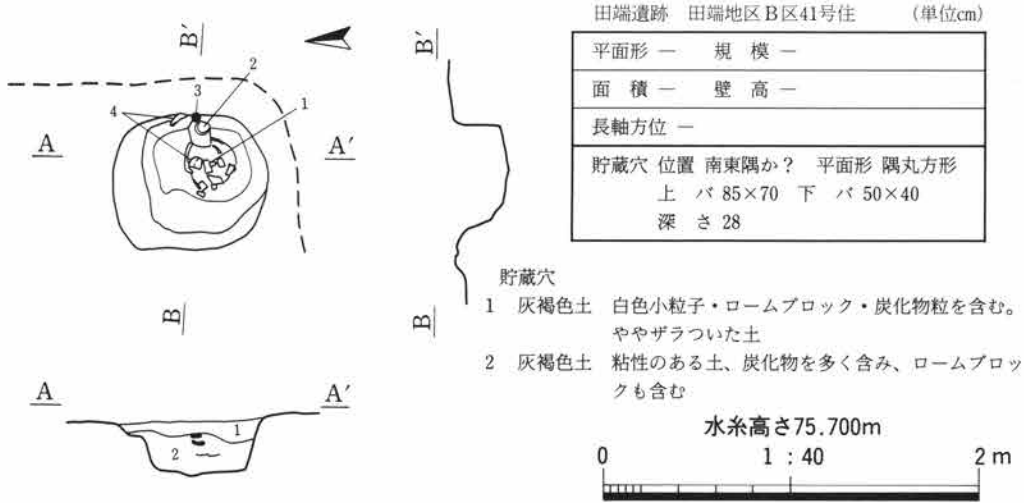
第435図 田端地区B区41号住居跡

田端B区第42号住居跡 (第438・439図、図版178)

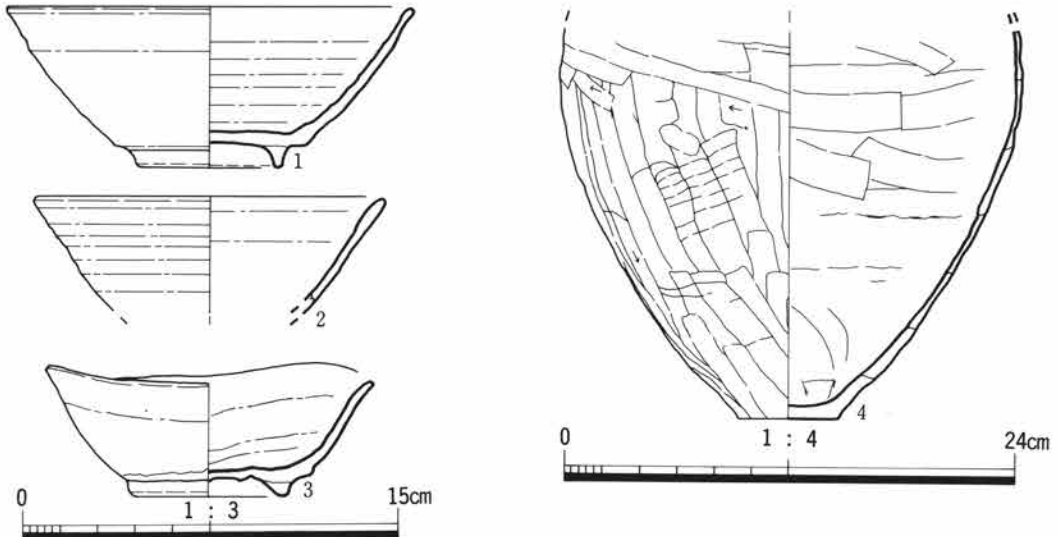
Mライン・71km268m付近で検出した。確認面は第4層である。26・30号住居148・133土坑9号溝と重複している。26・32号住居133号土坑9号溝は本住居より新しく148土坑は旧である。覆土は上部遺構の影響を受けて観察出来なかった。壁は南辺のみ残存し南辺中央に張り出す入り口と思われる施設を持つ。床面は軟弱で良好な面がとらえられなかった。支柱穴・壁溝・カマドは検出できなかった。貯蔵穴は南東隅にあり不整形円形である。148号土坑は本住居掘形の可能性がある。

遺物は貯蔵穴中より須恵器碗が出土している。

時期は9世紀末と考えられる。



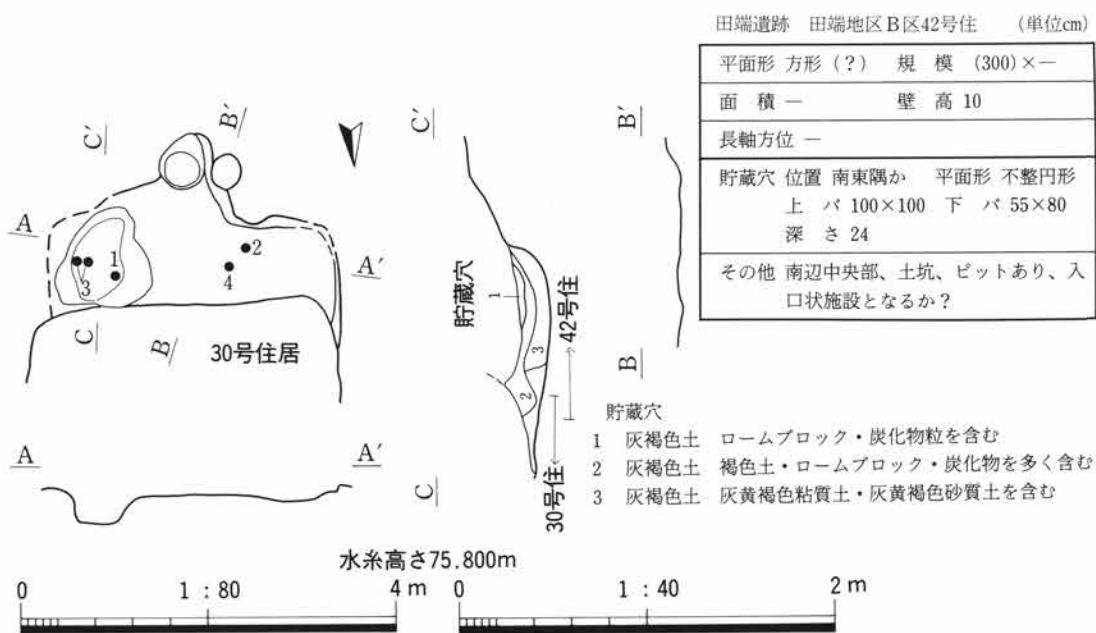
第436図 田端地区B区41号住居跡



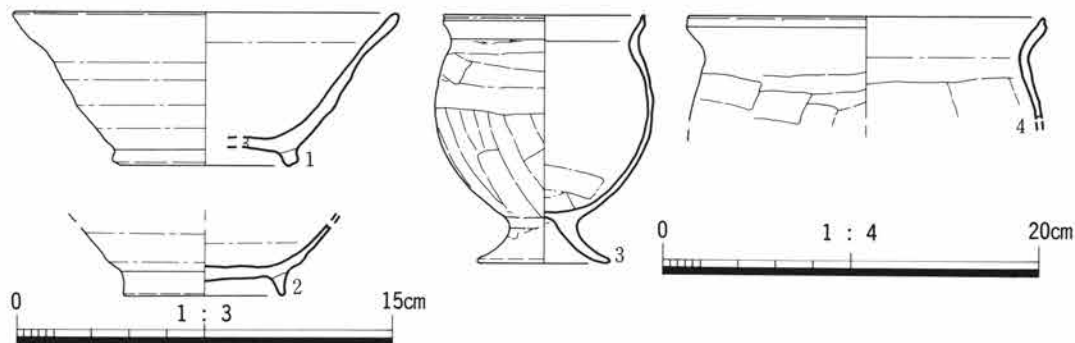
第437図 田端地区B区41号住居跡出土遺物

田端B区第43号住居跡 (第440~444図、図版112・179・180)

Kライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。110・114・115・118・175土坑、11溝と重複しているが土坑・溝のほうがすべて本住居より新である。横長方形の平面形で確認面から床面までが深く残りの良い住居である。覆土は自然に堆積している。壁は斜めにたちあがるが西辺の壁際に縦に4~5cmの幅で粘土が張り付いた状態が観察できた。住居壁の裏込めと考えている。床面はカマド前から住居中央部にかけて堅くやや高い。周辺部分はわずかに低く凹凸もある。支柱穴・壁溝は確認出来なかった。カマドは東辺中央よりわずかに南に寄って設置してある。焚口部分を壁よりわずかに内側に作り出しているため東辺が張り出している印象をあたえる。燃烧部は住居壁外にあり煙道は明



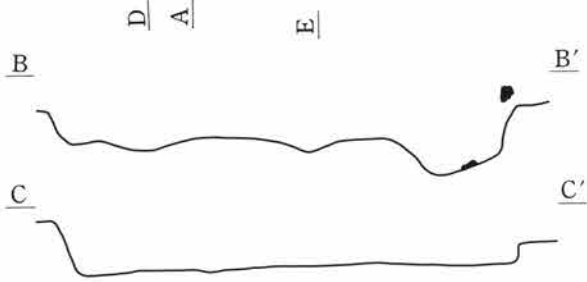
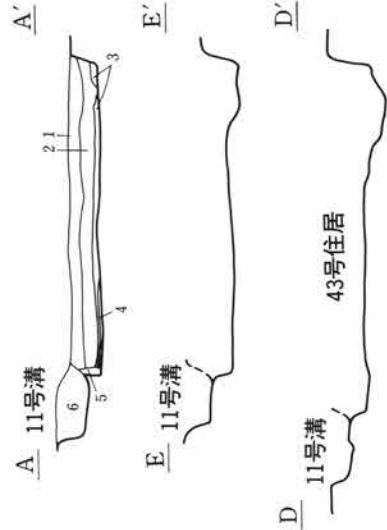
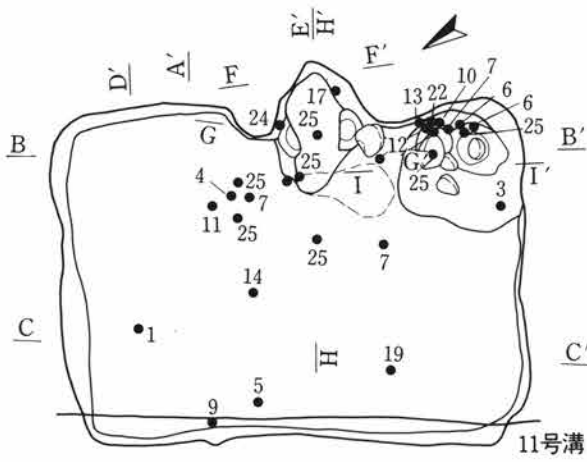
第438図 田端地区B区42号住居跡



第439図 田端地区B区42号住居跡出土遺物

確でない。急角度で立ち上がるタイプであろう。川原石を焚口袖・カマド壁材としている。貯蔵穴はカマド右脇住居の南東隅にあり不整形円形である。掘形としてはカマド左前部に遺物の多い長円形の土坑、南辺中央の土坑、北東隅に三角形の堀込みがある。南辺の土坑は入り口施設用であろう。

遺物はカマドから貯蔵穴にかけて散布した。土師器杯・コの字口縁の甕、須恵器杯・椀・皿・大甕・甑、瓦が出土している。遺物からみて本住居の時期は9世紀後半と考えている。

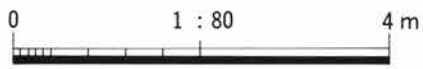


- 1 褐色土 白色小粒子・小石を多く含む
- 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒・小石を含む
- 3 灰褐色土 やや粘性をもつ
- 4 褐色土 ロームブロックを含む(床の土)
- 5 灰褐色粘質土 壁の裏込め土か

田端遺跡 田端地区B区43号住 (単位cm)

平面形	台形	規模	350×495
面積	15.5m ²	壁高	50
長軸方位	N28°E		
カマド位置	東辺中央		
対称軸方位	N117.5°E		
焚口部幅	70	燃烧部	80×85
煙道部幅	40	長さ	20
角度	—		
構築材	粘土・石		
貯蔵穴位置	南東隅	平面形	不整形円形
上バ	110×130	下バ	70×35
深さ	43		
その他	貯蔵穴・二穴が連なる形態		

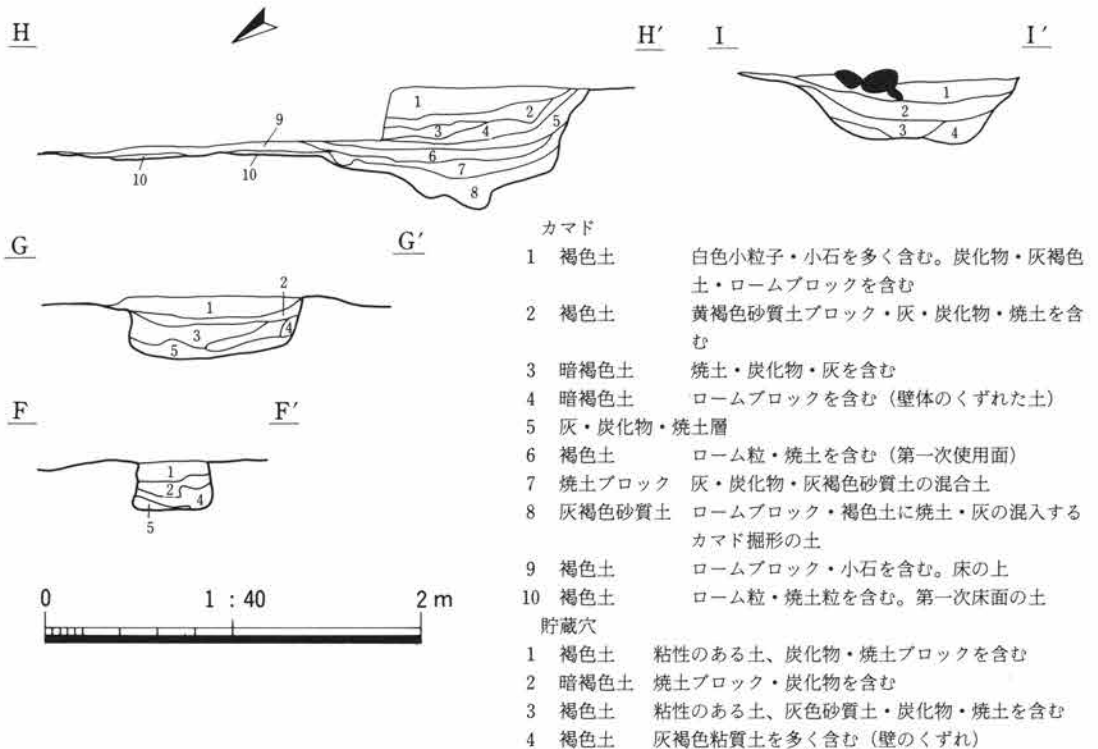
水系高さ75.600m



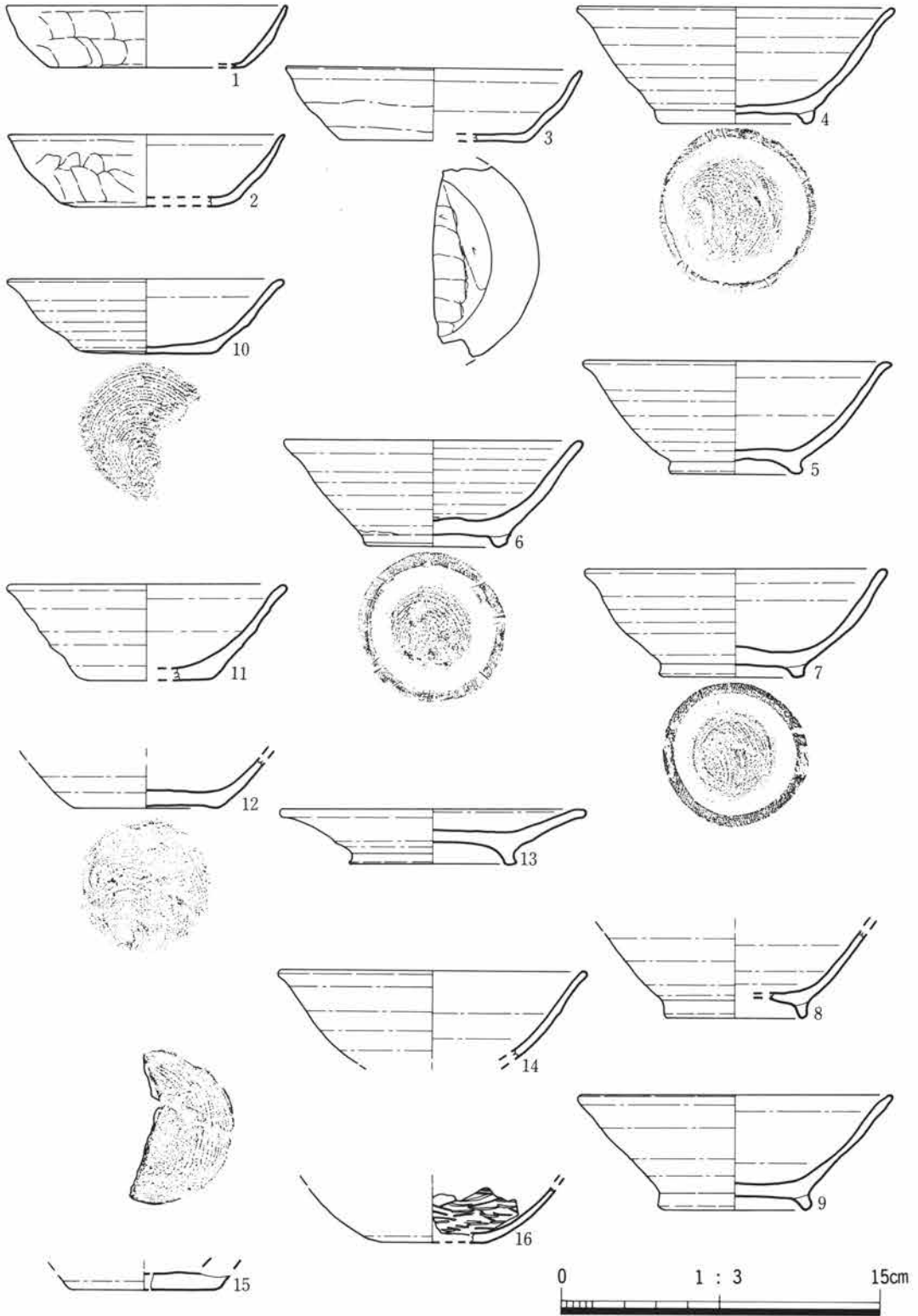
第440図 田端地区B区43号住居跡(1)



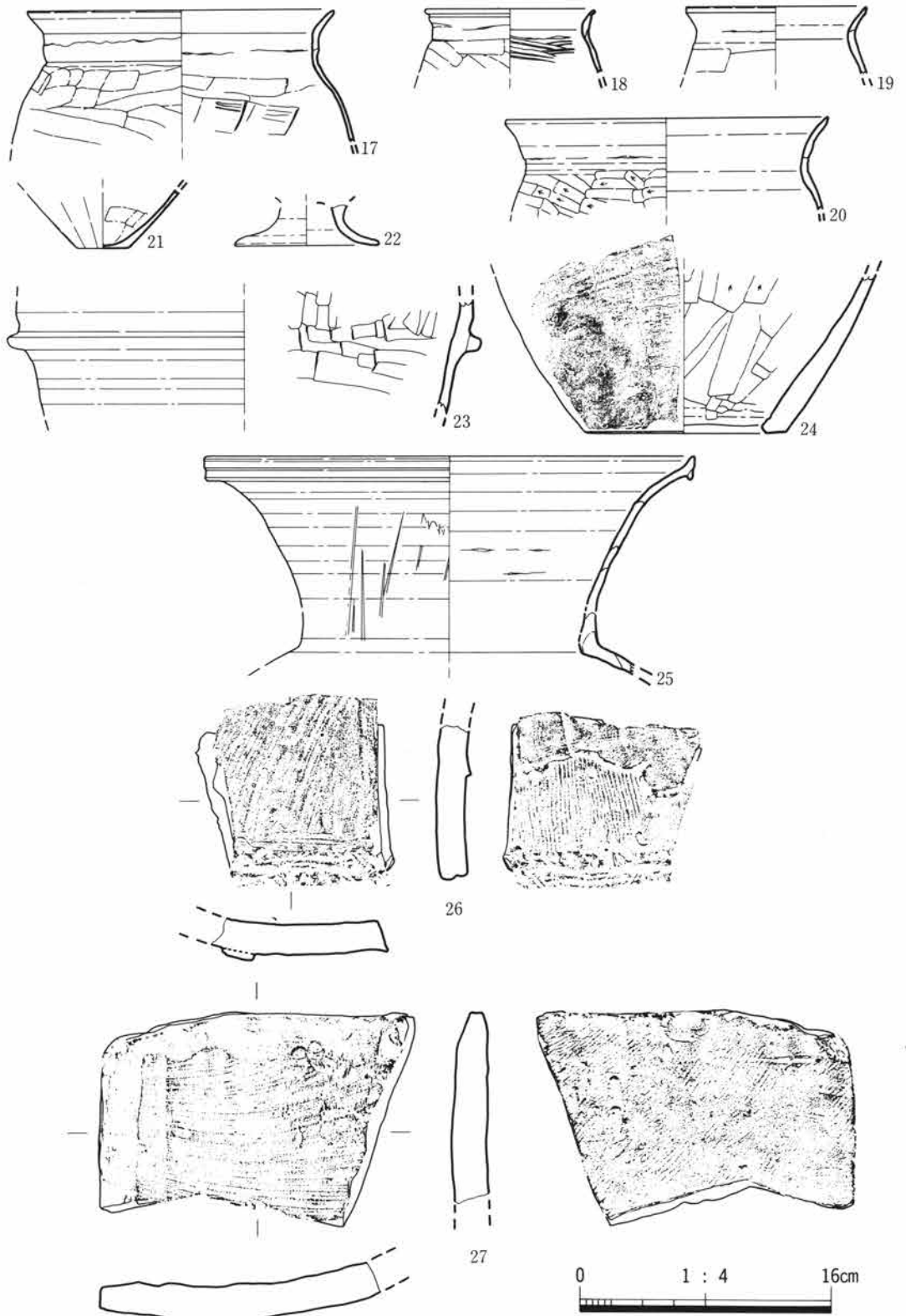
第441図 田端地区B区43号住居跡



第442図 田端地区B区43号住居跡（2）



第443図 田端地区B区43号住居跡出土遺物(1)



第444図 田端地区B区43号住居跡出土遺物(2)

田端B区第44号住居跡 (第445・446図、図版112・180)

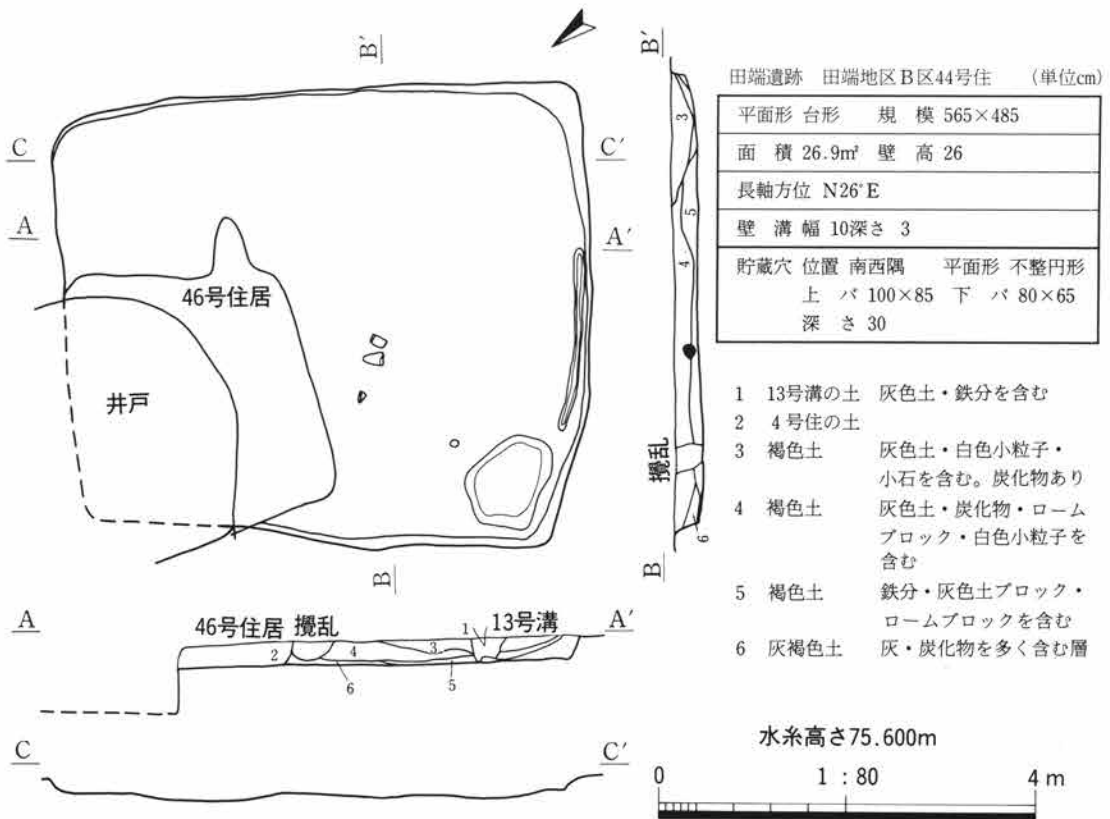
Lライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。40・46・51・52・57・62号住居、126土坑、13溝と重複している。46号住居、126土坑、13溝が新しく、40・51・52・57・62号住居は本住居より旧である。確認面から床面までが浅く上部遺構の影響も有って覆土の状態は良好でない。灰・炭・焼土が全体に認められた。13溝周辺には鉄分も多く観察出来た。堆積は自然である。壁は斜めに立ち上がり床面はほぼ平坦であった。支柱穴・壁溝・カマドは検出できなかった。住居南西隅の土坑を貯蔵穴と考えた。掘形は検出できなかった。

遺物は須恵器杯・椀、甑、灰釉椀・瓶、フイゴ羽口が出土している。

時期は10世紀と考えている。

田端B区第45号住居跡 (第447～449図、図版113・181)

Nライン・71km280m付近で検出した。確認面は第4層である。25・33・35号住居、128・129号土坑、12溝と重複しているが本住居のほうがすべて旧である。南辺がひろがり、北辺がややすぼまる台形の住居である。覆土は自然に堆積しているが、上面の25号住居掘形の影響が認められる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は砂利混じりの褐色土で、カマド前を中心として住居中央部が堅くわずかに高ま



第445図 田端地区B区44号住居跡

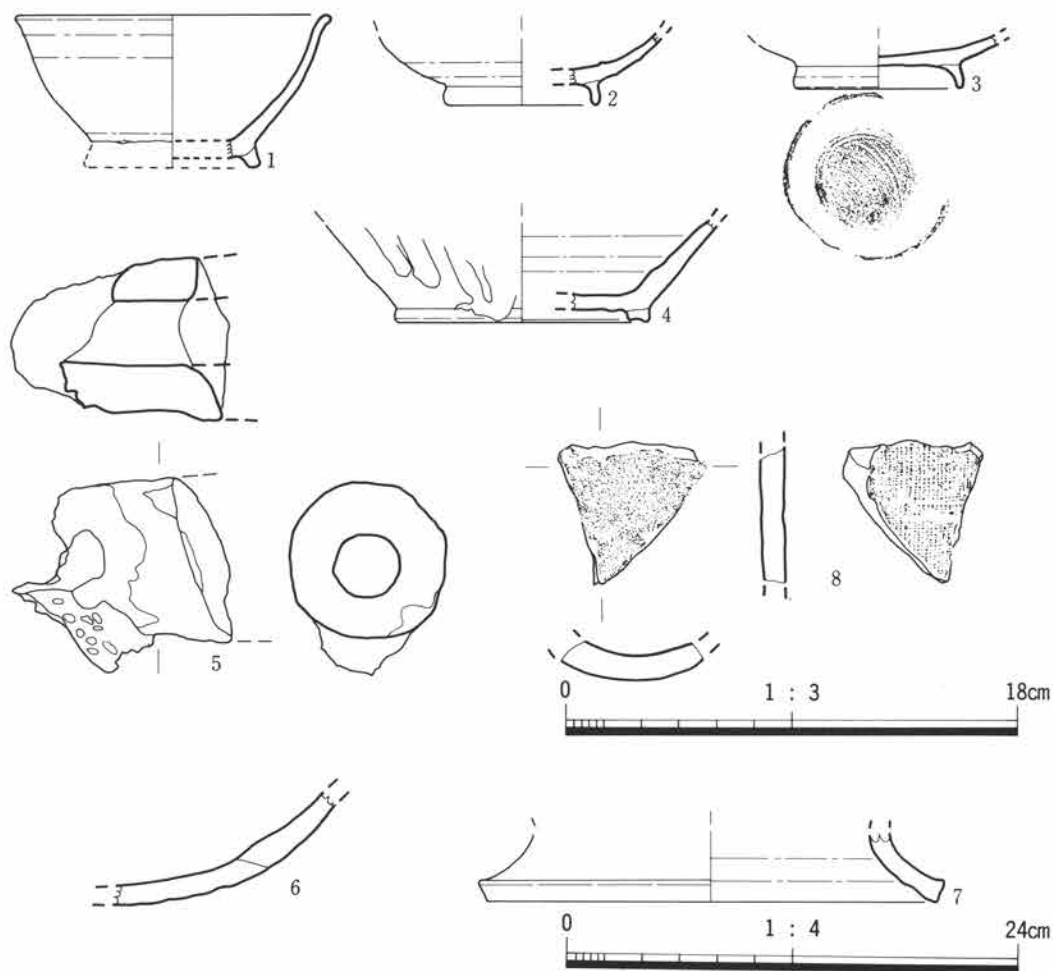
る。北西隅と南西隅は軟弱であった。主柱穴および壁溝は検出できなかった。カマドは東辺中央よりやや南寄りに設置し、焚口は東辺にそろろう。燃焼部は四角く作り出して、煙道は壁外にながく引き出してから立ち上げている。貯蔵穴は南東隅にあり、円形で浅い。貯蔵穴設置の都合によるのか南東隅の壁がまるく東側に張り出す。その他南辺西よりに川原石を据えたピットがあった。掘形は明確でなかった。

遺物は土師器杯・甕、須恵器蓋・杯・甕が出土している。

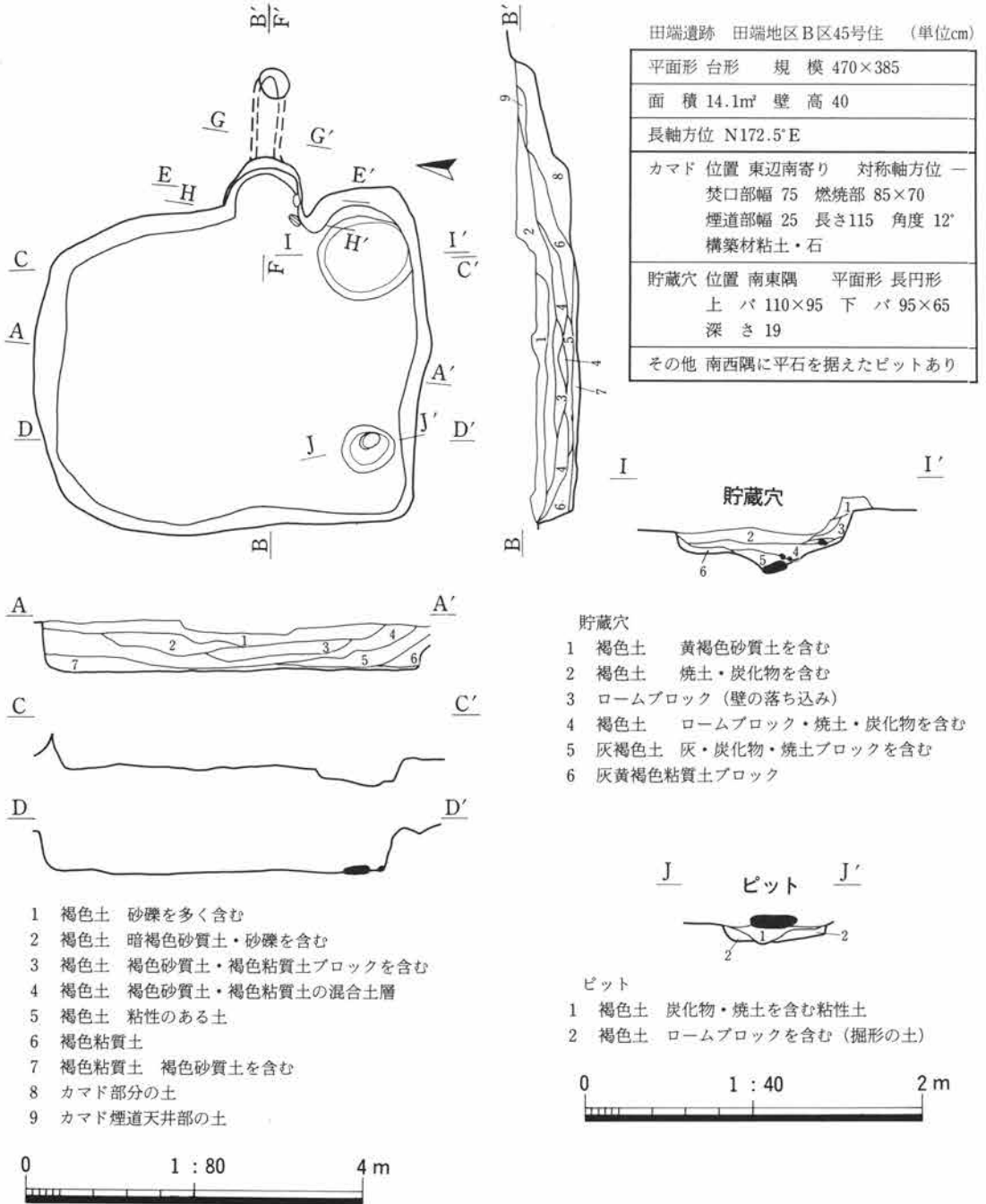
時期は遺物よりみて、8世紀後半と考えている。

田端B区第46号住居跡（第450・451図、図版114・181）

Lライン・71km282m付近で検出した。確認面は第4層である。最近まで使用されていた井戸によって住居の大部分を壊されているが、東辺、南辺、西辺が確認、推定できた。40・44・62号住居、126・168号土坑と重複している。126号土坑は本住居より新しく、その他は総て旧である。覆土は自然に堆積し



第446図 田端地区B区44号住居跡出土遺物

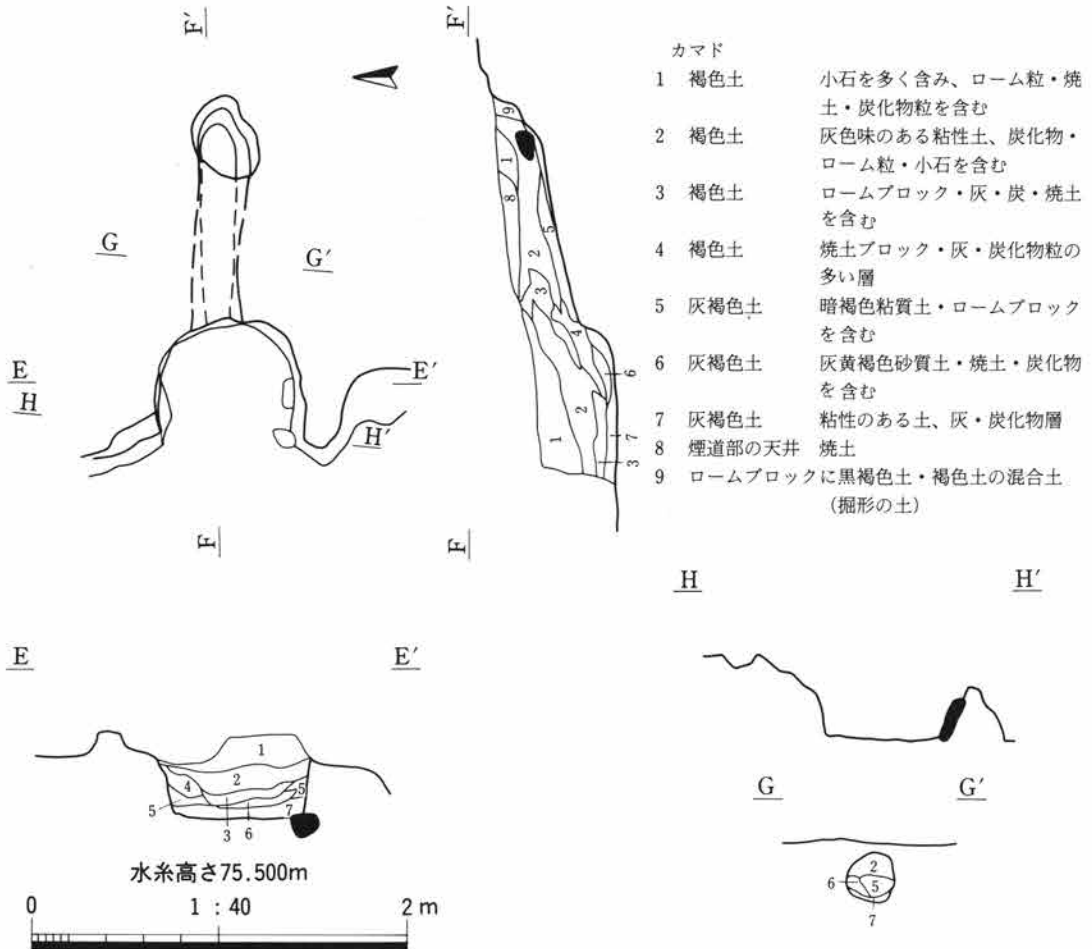


第447図 田端B区45号住居跡(1)

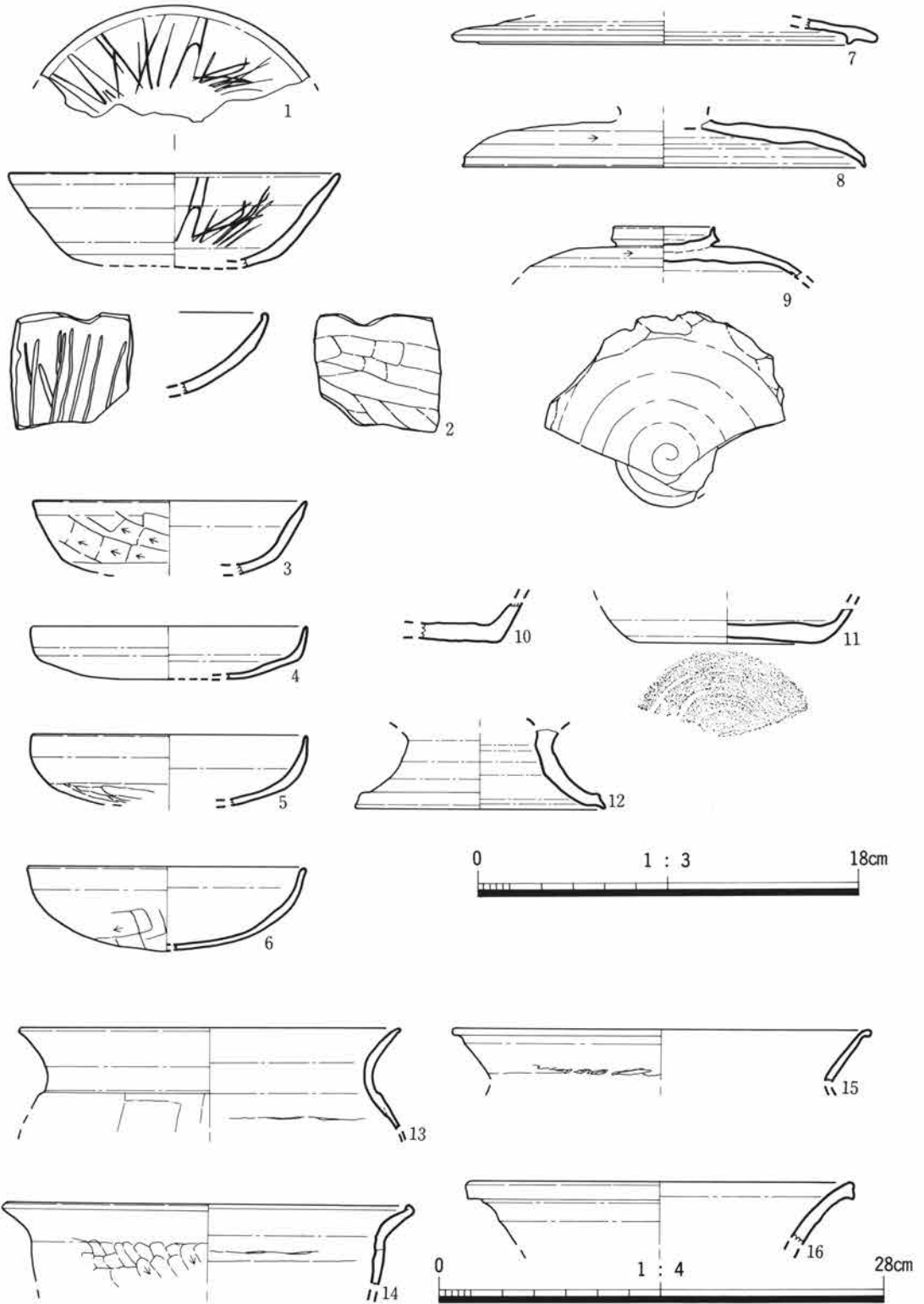
ている。壁は一部分で20cmほどでほぼ垂直の立ち上がりが観察できた。床面はカマド前を中心に堅い面が広がる。ロームブロックを丁寧にたたいてハリ床としている。支柱穴、壁溝は検出出来なかった。カマドは燃焼部を壁外に作り出すタイプで南東隅にあり遺存状態は、良好でない。わずか底面と周縁部分に焼土が確認できている。南西隅に円形の土坑が有り貯蔵穴と考えている。掘形は住居西側部分にあった。

遺物は土師器甕、羽釜、椀が出土している。

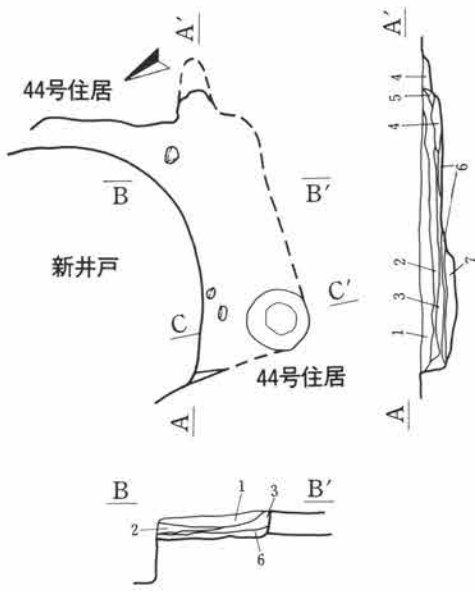
時期は遺物より10世紀中頃と考えている。



第448図 田端地区B区45号住居跡(2)



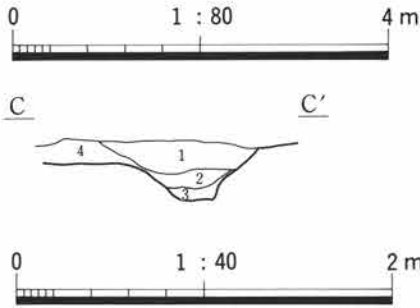
第449図 田端地区B区45号住居跡出土遺物



- 1 褐色土 白色小粒子を含む。小石・炭化物・ロームブロック灰色土を含む
- 2 褐色土 堅く締る土、炭化物粒を含む
- 3 褐色土 ロームブロックやや大きく、炭化物を多く含む
- 4 褐色土 焼土・灰・炭化物を多く含む。カマドの土
- 5 焼土ブロック
- 6 暗灰褐色土 粘性のある土、炭化物・灰を含む。床土
- 7 褐色土 ロームブロックを含む。床下の土

貯蔵穴

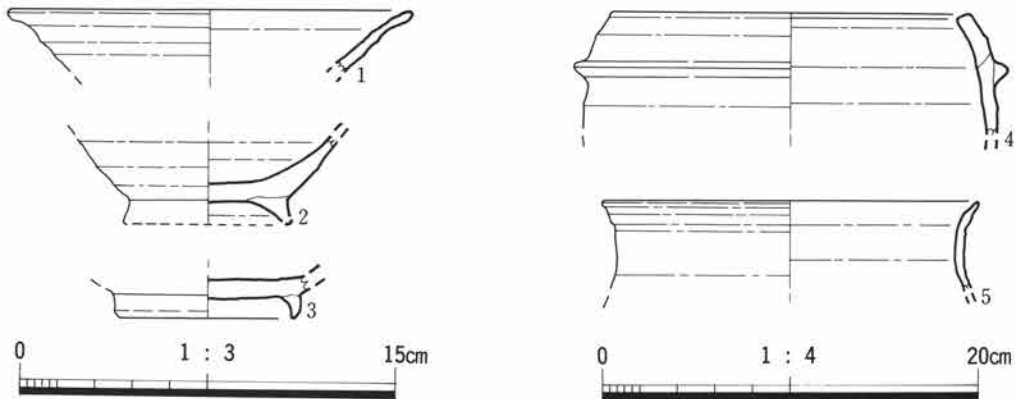
- 1 灰褐色土 灰・炭化物・焼土・ローム粒を含む
- 2 褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを含む
- 3 灰褐色土 粘性のある土、炭化物・灰・ロームブロックを含む
- 4 褐色土 ロームブロックを含む。床下の土



田端遺跡 田端地区B区46号住 (単位cm)

平面形	台形	規模	(240×270)
面積	(6.5㎡)	壁高	20
長軸方位	—		
カマド位置	東辺南寄り		
対称軸方位	N117°E		
焚口部幅	45	燃焼部	35×60
貯蔵穴位置	南西隅	平面形	円形
上バ	65×65	下バ	35×35
深さ	70		

第450図 田端地区B区46号住居跡



第451図 田端地区B区46号住居跡出土遺物

田端B区第47号住居跡（第452～456図、図版114・115・181）

Lライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。58・64号住居が重複し、11溝は西辺を斜めにきっている。11溝は本住居より新しく、他はすべて旧である。覆土は自然に堆積している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。東辺壁の一部分で粘土が3～4cmの幅で確認出来た。住居壁の裏込めか、あるいは壁材とかがえられるか。床面は小石混りのロームをたたいたものでカマド前を中心に堅い面が確認出来た。支柱穴は、確認出来なかった。壁溝は北辺から東辺にかけてと、南辺中央部分に検出できた。カマドは東辺中央より僅か南よりにあり、壁外に燃焼部を円く作り出すタイプでやや大形である。カマド壁補強として川原石、袖材として砂岩の切り石を使用している。住居中央部分にも川原石、切り石が散乱した状態であったが、ほとんどがカマド構築材と考えてよいだろう。貯蔵穴は南東隅にあり、東、北、西側の三方の壁に川原石を張り付けている。南辺は住居壁と共用しており素堀であった。住居北西隅に、長円形の土坑を検出している。性格は明確に出来なかった。南辺貯蔵穴西に小ピット（ピット1）が有るが、入り口施設にかかわるものと考えている。本住居は掘形土坑も多く検出した。ピット2は遺物の出土も多く、単に掘形土坑としてよいか注目したい。

遺物は土師器甕、須恵器杯・椀・甕、灰釉陶器皿が出土している。外面に「成」字と思われる墨書が記された杯は、貯蔵穴より出土している。

時期は遺物より9世紀末ごろと考えている。



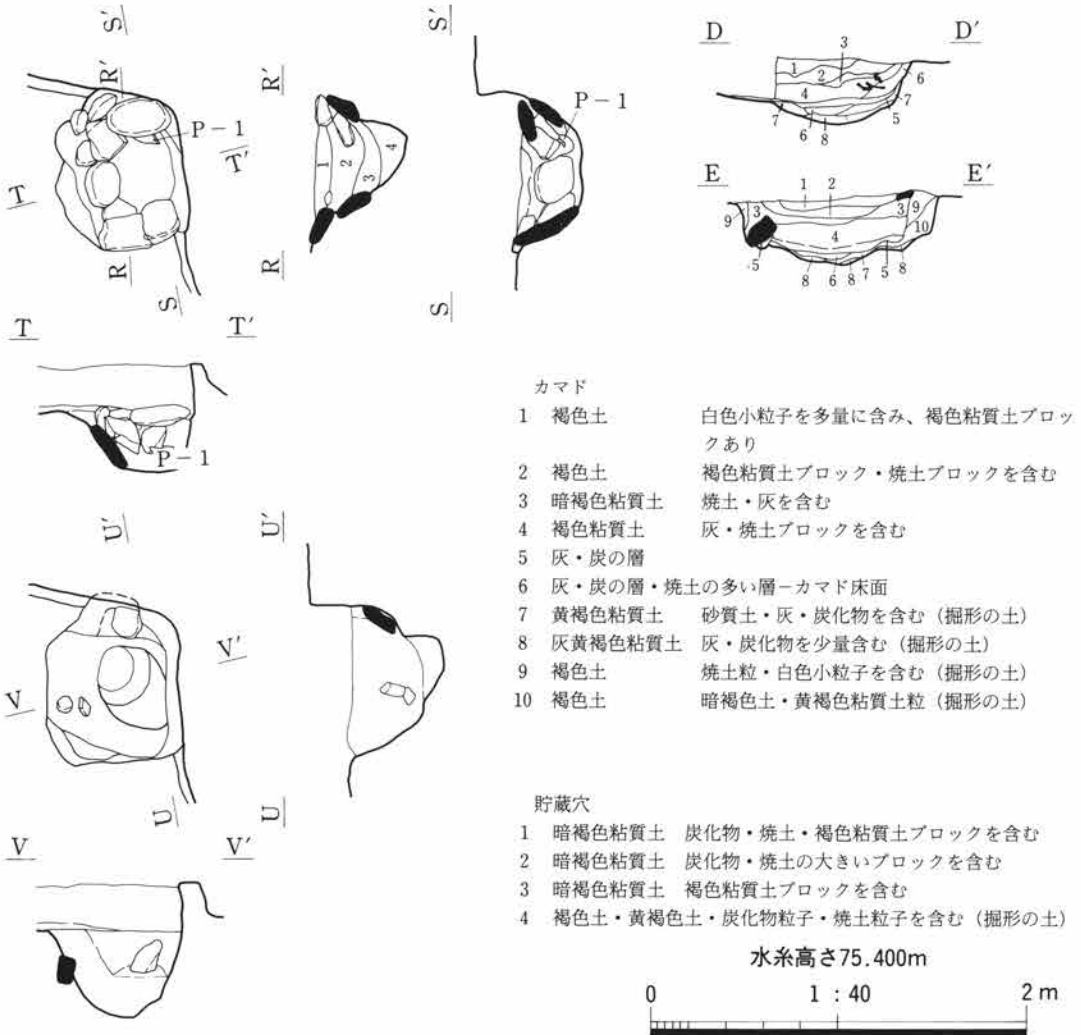
第452図 田端地区B区47号住居跡

田端B区第48号住居跡 (第457図~462, 図版115・116・182・183)

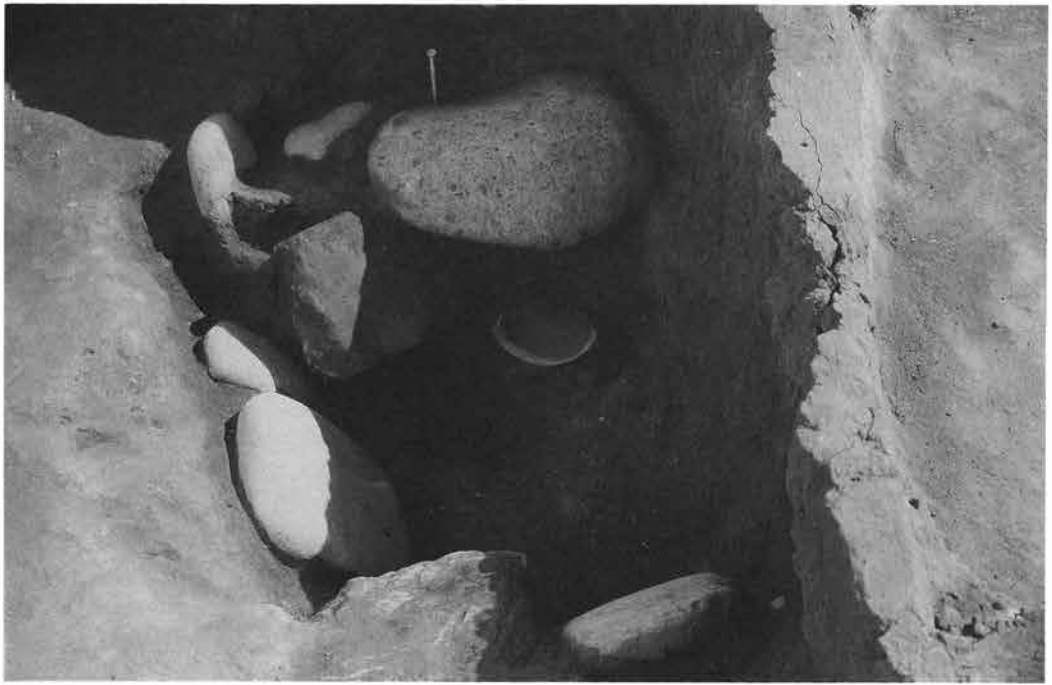
Kライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。44・51・52・57・62・65号住居と重複している。本住居は44号住居より旧であり、他はすべて本住居のほうが新である。覆土は自然に堆積している。壁は全体に遺存状態が不良で東辺のみがほぼ明確で北辺と南辺は土層断面で確認した。西辺は掘形調査および下部住居調査の結果から引き出した。床面はやや柔らかく二基のカマド前部に灰層の広がりがある。支柱穴、壁溝は検出出来なかった。カマドは東辺に二基並ぶ。南東隅のAカマドが新しく、やや中央よりのBカマドは東壁にあたる部分に土層の盛り上がりが見られたこと、遺物の出土が極端に少ないことから旧いカマドと考えた。A・Bカマドともに川原石を袖石としAカマドは支脚をもつがBカマドには無い。貯蔵穴は検出できなかった。

遺物はカマドからカマド前に散布していた。土師質土器杯・椀、内黒の椀、灰釉陶器椀などが出土している。

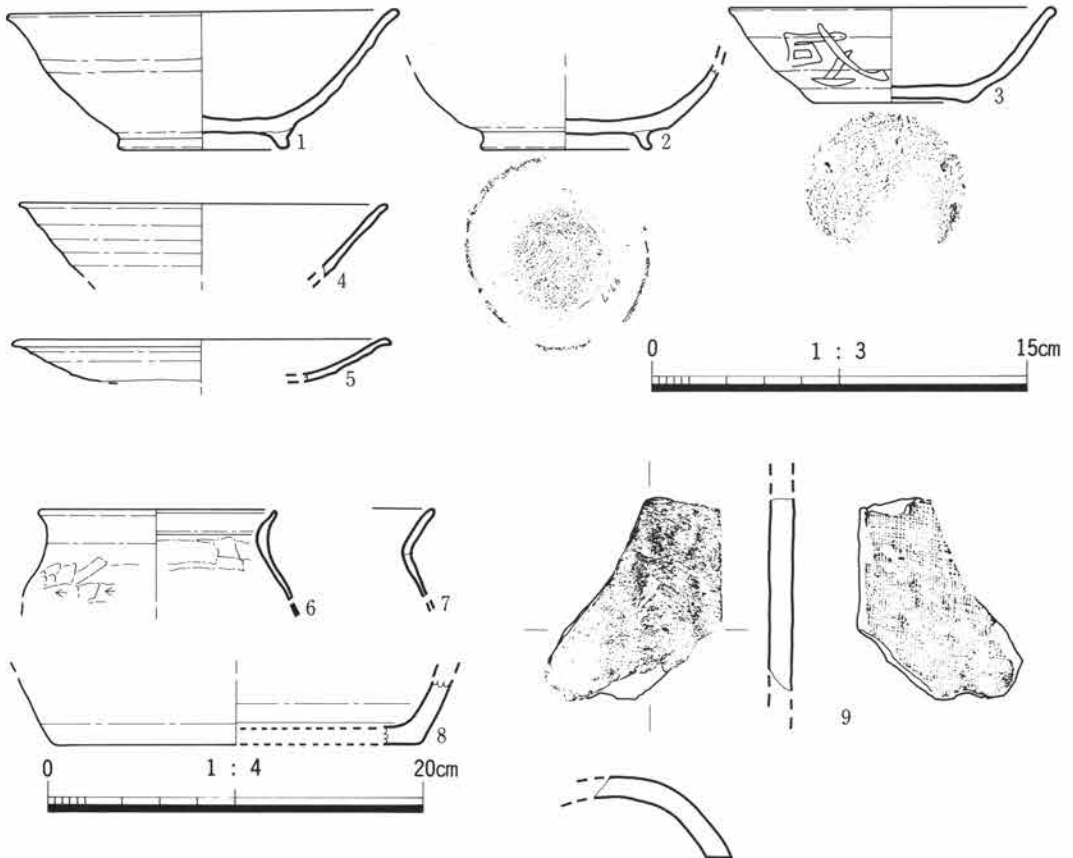
時期は遺物からみて11世紀と考えている。



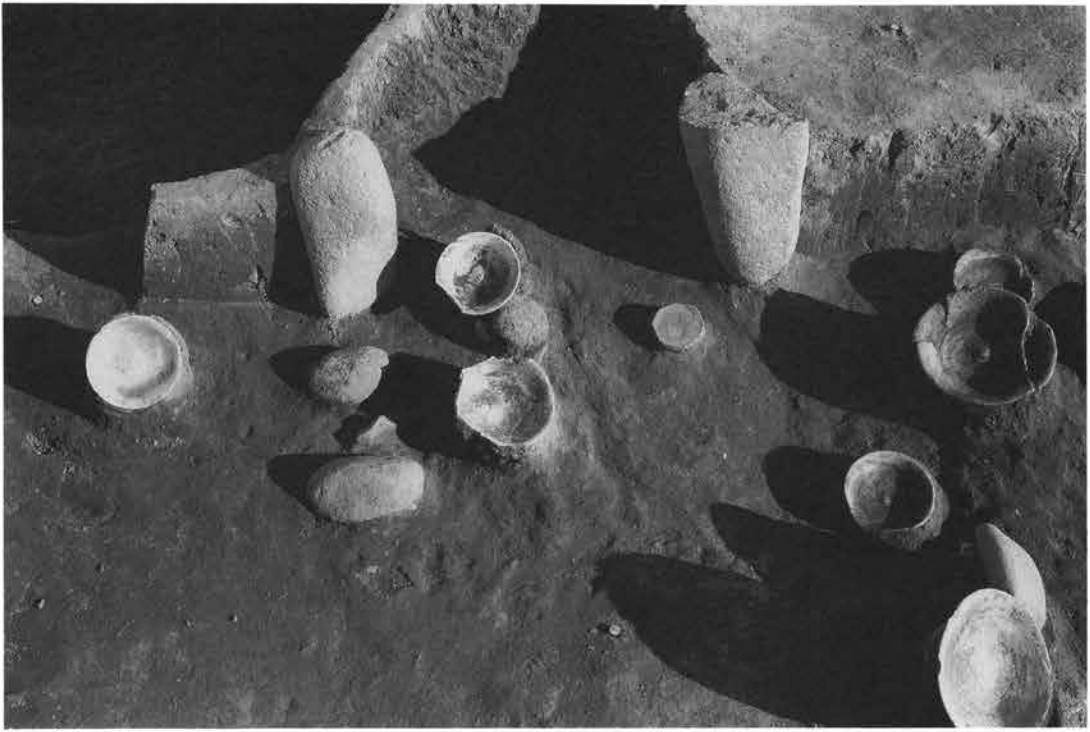
第454図 田端地区B区47号住居跡 (2)



第455図 田端地区B区47号住居跡



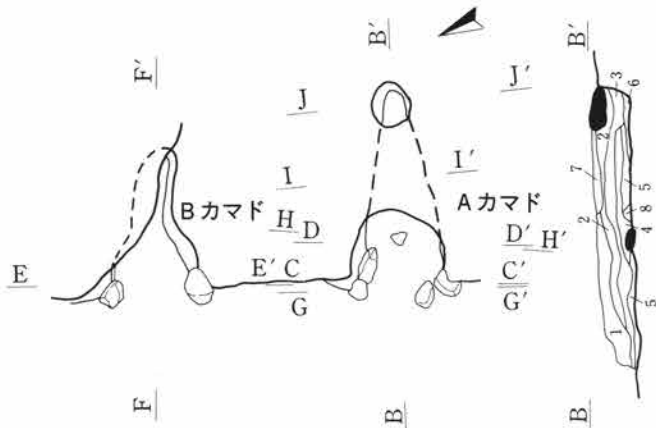
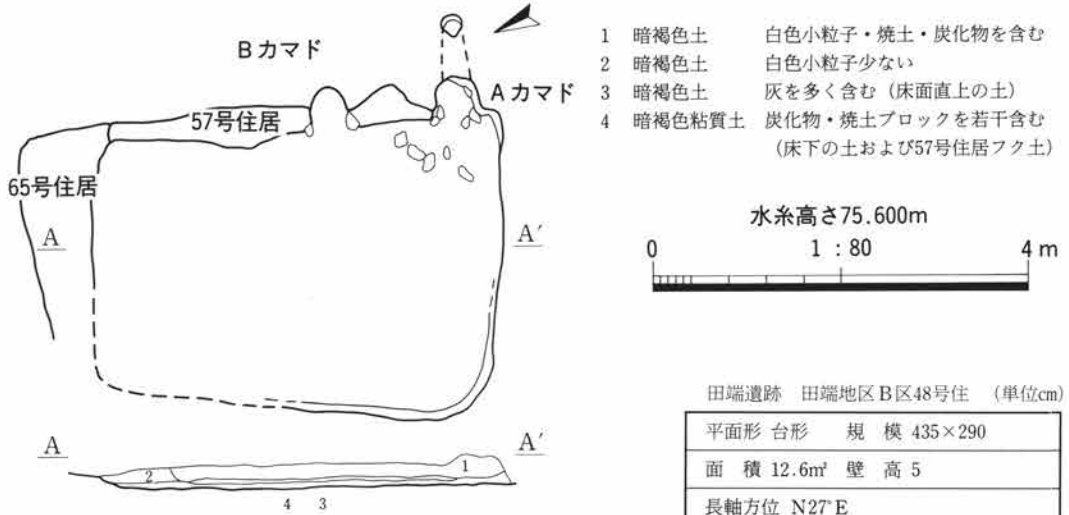
第456図 田端地区B区47号住居跡出土遺物



第457図 田端地区B区48号住居跡・カマド

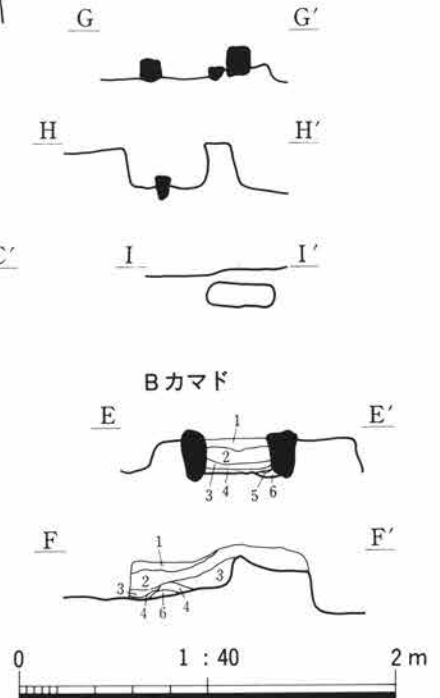


第458図 田端地区B区48号住居跡カマド

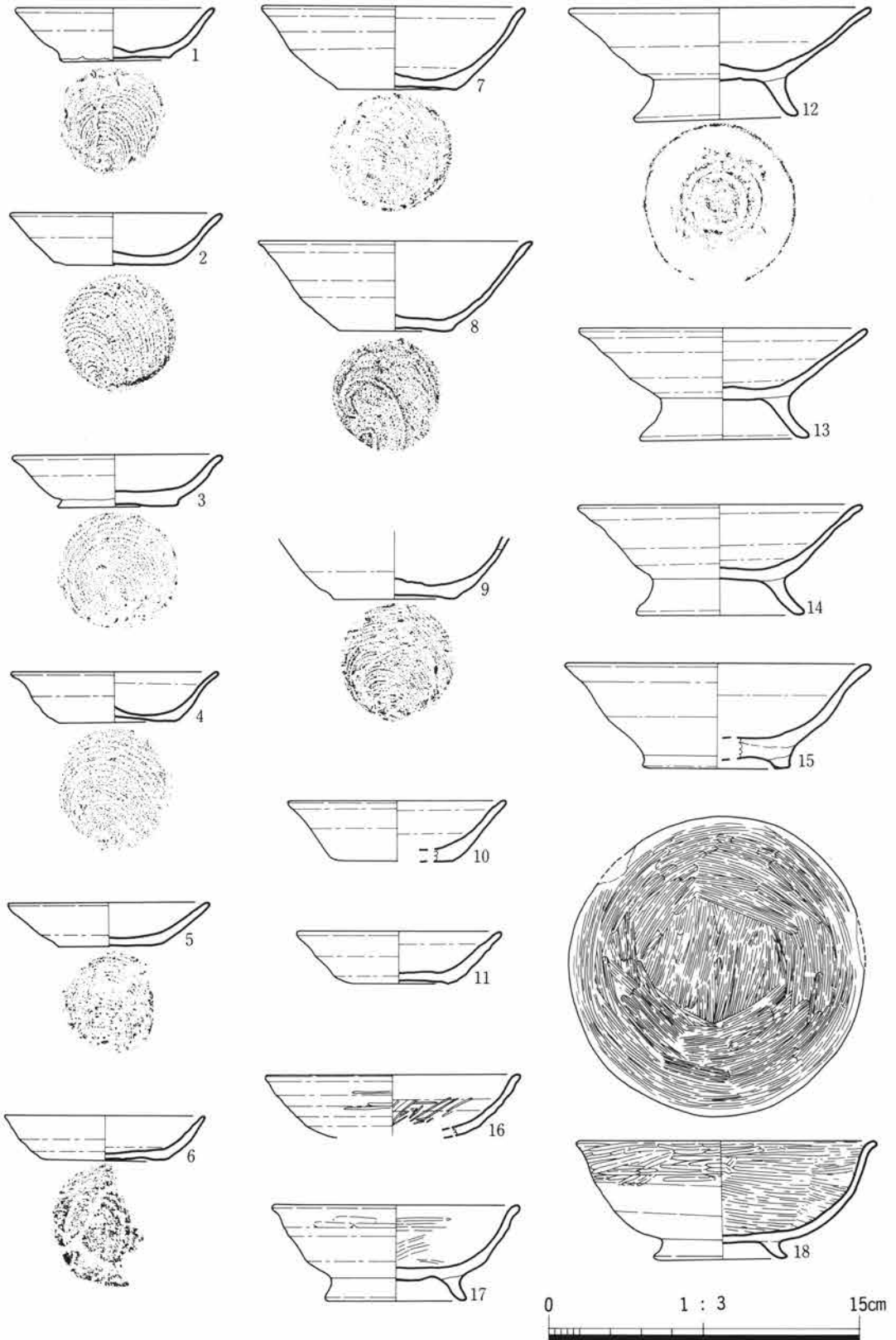


田端遺跡 田端地区B区48号住 (単位cm)	
平面形	台形 規模 435×290
面積	12.6m ² 壁高 5
長軸方位	N27°E
カマド 位置	東辺南寄り
A	対称軸方位 N112°E 焚口部幅 40 燃烧部 40×40 煙道部幅 35 長さ 68 角度 14° 構築材粘土・石 支 脚石
カマド 位置	東辺中央寄り
B	対称軸方位 N113°E 焚口部幅 38 燃烧部 40×35 構築材石

- Aカマド**
- 1 灰褐色土 褐色土・焼土ブロック・炭化物を含む
 - 2 灰褐色土 焼土ブロック・灰を含む
 - 3 灰褐色土 褐色土。やや粘性あり。焼土も含む
 - 4 灰褐色土 褐色土・黄褐色粘質土粒を含む
 - 5 褐色土 焼土・灰を含む (Aカマド使用面)
 - 6 黄褐色粘質土 暗褐色土を含む(掘形の土)
 - 7 焼土
 - 8 焼土ブロック
- Bカマド**
- 1 褐色土 白色小粒子・炭化物を含む
 - 2 褐色土 黄褐色粘質土粒・炭化物・焼土粒多く含む
 - 3 褐色土 黄褐色粘質土粒多く、焼土ブロックを含む
 - 4 暗褐色土 炭化物を多く含む(カマド使用面)
 - 5 黄褐色粘質土ブロック(床面の土)
 - 6 暗褐色土 チョコレート色の土



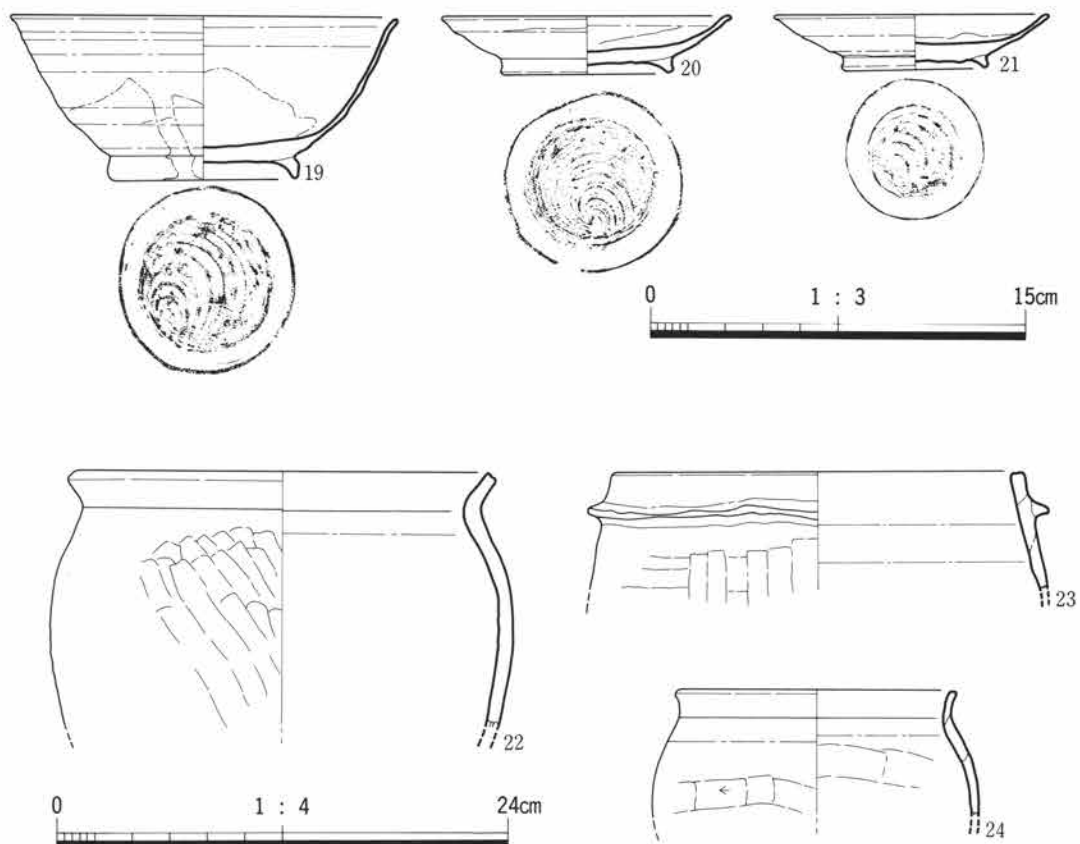
第459図 田端地区B区48号住居跡



第460図 田端地区B区48号住居跡出土遺物(1)



第461図 田端地区B区48号住居跡



第462図 田端地区B区48号住居跡出土遺物（2）

田端B区第50号住居跡（第463図）

O-Pライン・71km257m付近で検出した。住居本体・カマド本体とも削平され、遺物の出土もなく、詳細は全く不明である。煙道の一部を発見したことで、その存在を認めたものである。煙道は長さ35cm、幅18cm、深さ7cmが遺存していた。

田端B区第51号住居跡（第464図）

Lライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。44・46・48・52・57・65号住居と重複している。本住居は、44・46・48・57号住居より旧で、他よりは新である。覆土は自然に堆積している。壁は南辺と北辺の一部、及び西辺でわずかな立ち上がりが確認できた。床面は全体に軟弱で土層断面観察で再確認した。支柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は検出できなかった。

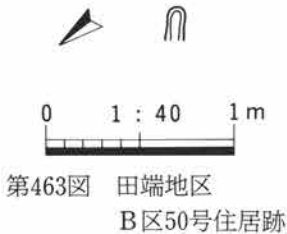
遺物は全く出土していないが、遺構の新旧関係から本住居の時期は10世紀代としておく。

田端B区第52号住居跡（第465図、図版117）

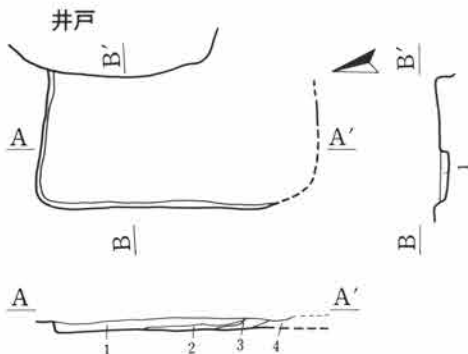
Lライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層で、51号住居の下から検出した。44・46・48・51・57・62・65号住居と重複している。本住居は44・46・48・51・57号住居より旧で、62・65号住居より新である。覆土の堆積は上部遺構の影響で確認しがたかったが、自然の堆積であろう。壁は北辺、南辺の一部と西辺でわずかな立ち上がりが確認できた。床面は軟弱である。支柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は出土していない。

時期は遺構の前後関係から考えて10世紀代に含まれる。



第463図 田端地区
B区50号住居跡

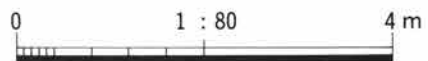


田端遺跡 田端地区B区51号住 (単位cm)

平面形	長方形?	規模	290×
面積	—	壁高	15
長軸方位	N13°E		

- 1 明褐色土 白色小粒子を含む
- 2 褐色土 黄褐色土をブロック状に含む
- 3 暗褐色土 黄褐色土を斑点状に含む
- 4 黒褐色土 黄褐色土を斑点状に含む

水糸高さ75.400m



第464図 田端地区B区51号住居跡

田端B区第53号住居跡 (第466・467図、図版117・184)

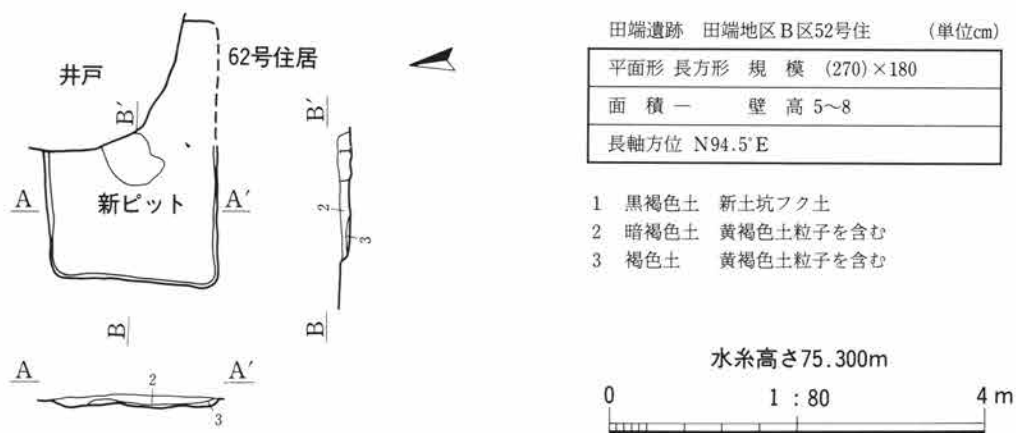
Mライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。37・59号住居・2号井戸と重複している。2号井戸が新しく、37・59号住居は本住居より旧である。覆土は自然に堆積している。壁は四辺とも確認でき、立ち上がりも明確でわずかに斜めである。床面はほぼ平坦で東南部に堅い面が確認できた。支柱穴・壁溝は検出できなかった。カマドは2号井戸によって大部分壊されているが、南東部に焼土・灰の散布する部分が確認でき、またカマド袖石などに使用したとおもわれる川原石が見られた。貯蔵穴は検出できなかった。カマド位置から考えて、2号井戸によって壊された南東隅か、59号住居調査のさい検出した南西隅のピットがそれにあたるかと考えている。掘形は南辺でピットが確認できた。

遺物は土師器甕 (コの字状口縁)・杯 (手持ちヘラケズリ)、須恵器高台付椀などが出土している。鉄滓も出土している。

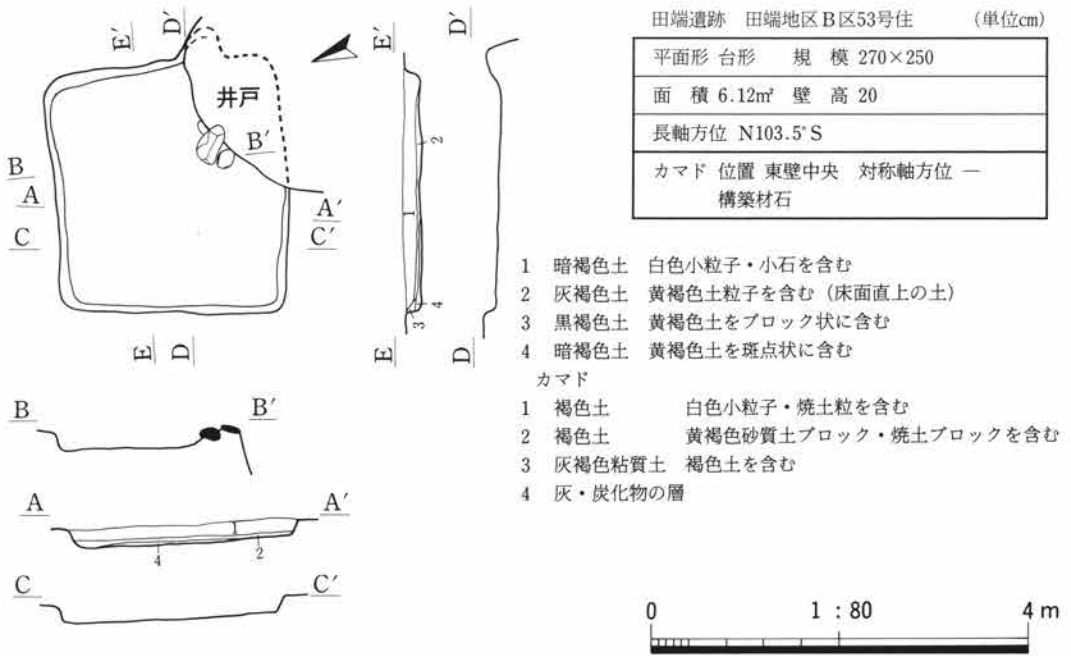
時期は遺構の前後関係と遺物から9世紀中頃とする。

田端B区第54号住居跡 (第468～470図、図版118・184)

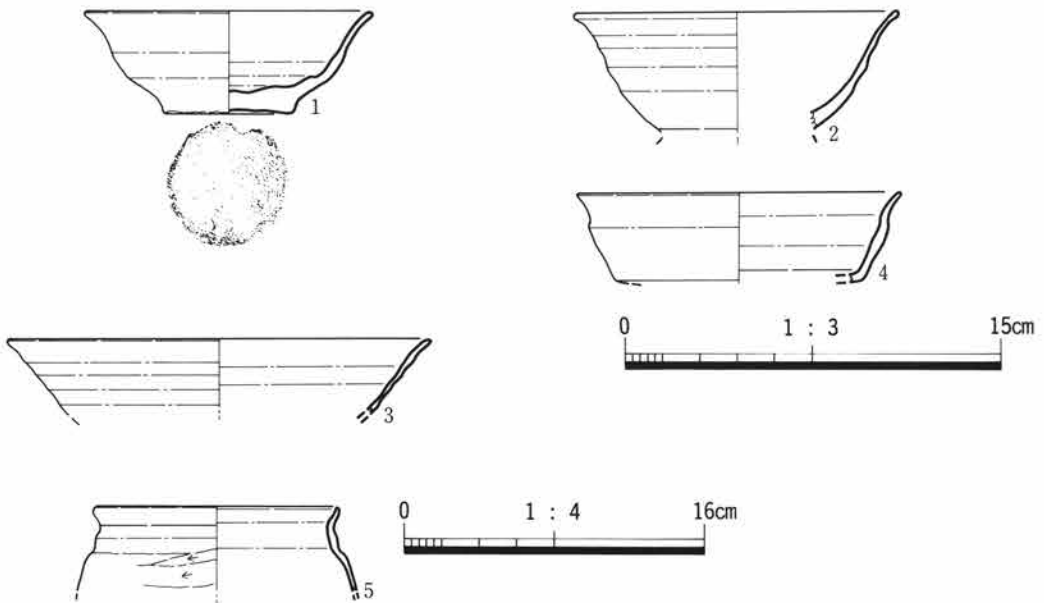
L-Mライン・71km288m付近で検出した。確認面は第4層である。55号住居、176・192号土坑と重複しており、192→54→55・176号の順に新しい。本住居の北側は最近のゴミ穴によって攪乱されており、カマドと南東隅から延びる南辺の一部を検出したのみである。192号土坑は本住居のカマド前床面下から検出している。壁はごく浅く、斜めに立ち上がる。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、煙り出しとみられる浅いピット状の掘り込みを検出した。カマド内からは直立して据えられた石が1個、倒れかかった石が2個、両壁から出土し、燃烧部中央付近からは立てた状態の石が1個出土した。また、左袖基部には石が据えられ、南東隅近くからは25cm大の石が床面から出土した。



第465図 田端地区B区52号住居跡



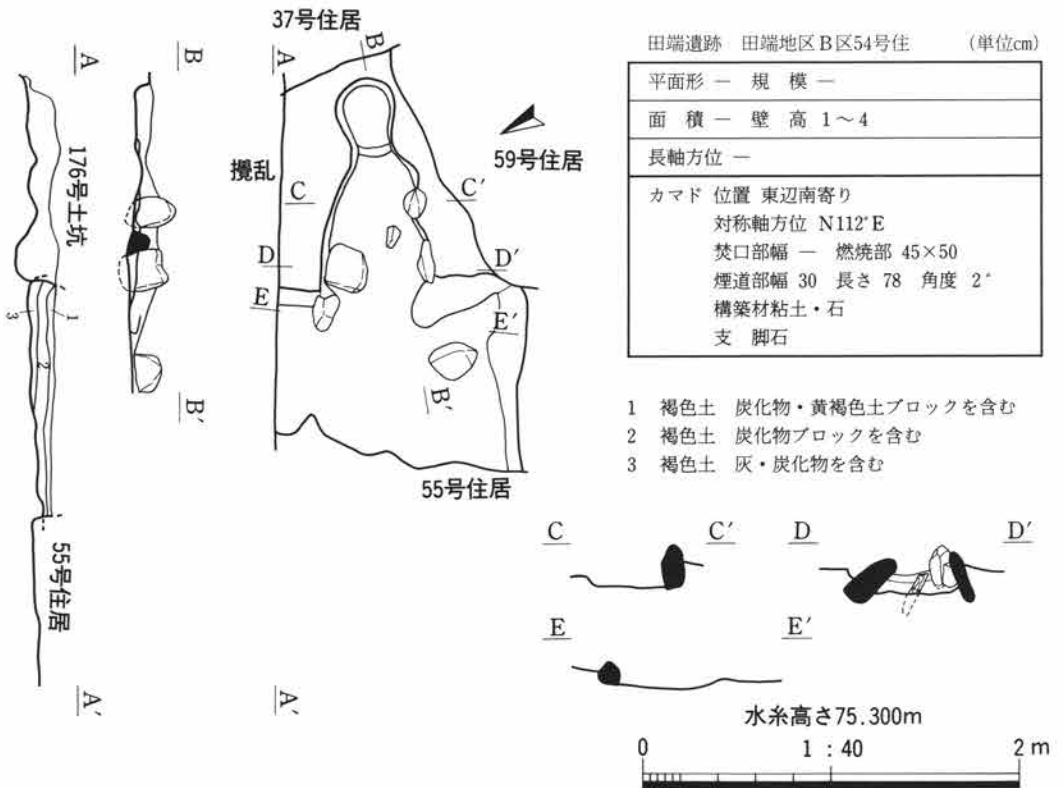
第466図 田端地区B区53号住居跡



第467図 田端地区B区53号住居跡出土遺物



第468図 田端地区B区54号住居跡

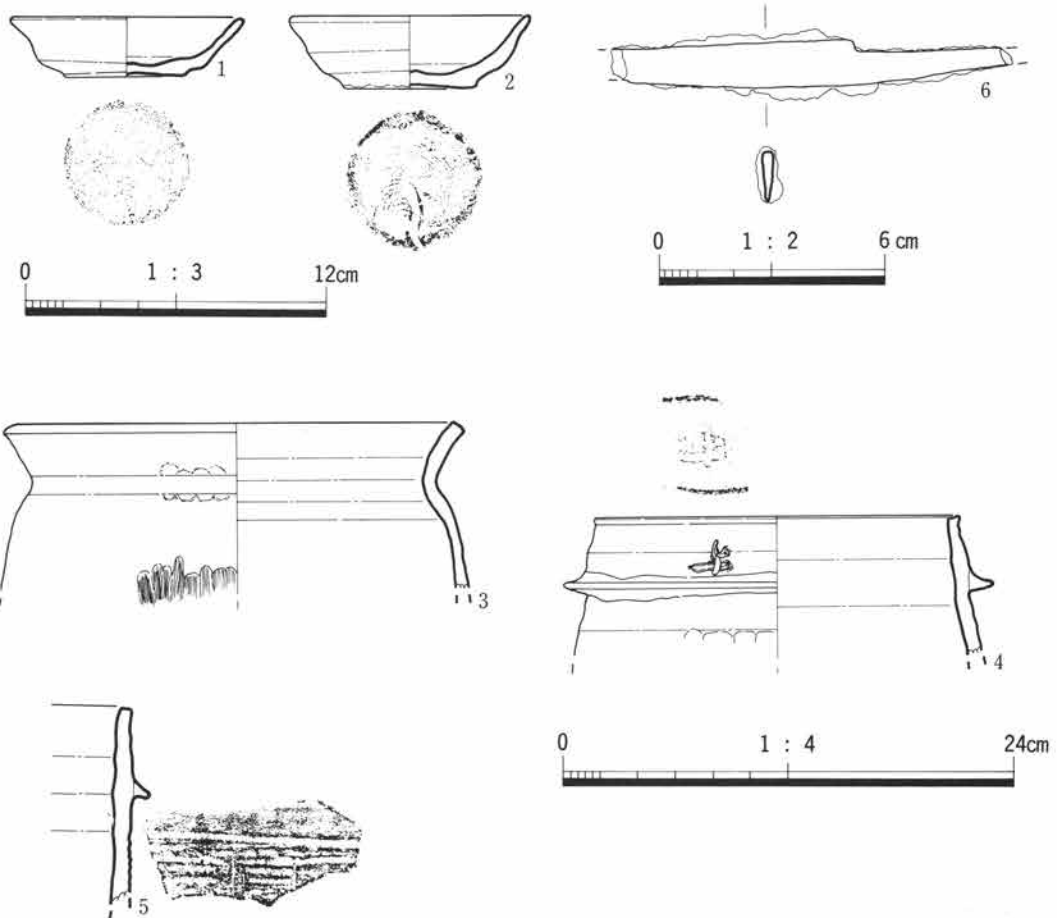


第469図 田端地区B区54号住居跡

遺物はカマド周辺と南東隅付近から出土している。第470図1は南辺近くの床面から、2・5はカマド左脇の床面から、3・4はカマド燃焼部底面から、6は南東隅の床面からそれぞれ出土した。時期は10世紀後半～11世紀とみられる。

田端B区第55号住居跡（第471～473図、図版118・119・184）

Mライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。54号住居、169・177・192号土坑と重複している。これらは192→54→55→177・169号の順に新しい。本住居の北東隅は最近のゴミ穴によって破壊されて失っている。北辺は不明遺構によって失っている。北辺の北側の三角形に突出する遺構は、本住居と重複する住居の一部であった可能性がある。その住居は本住居よりも古いものであろう。覆土は自然に堆積している。壁は15cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は比較的平坦だが、カマド前は最深部で20cmほど掘り込まれていた。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りの、ほぼ南西隅に設置されていた。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道は検出してない。壁の線の延長線上に長さ42cm・厚さ15cmの石が出土した。また、カマド左袖基部からは長



第470図 田端地区B区54号住居跡出土遺物

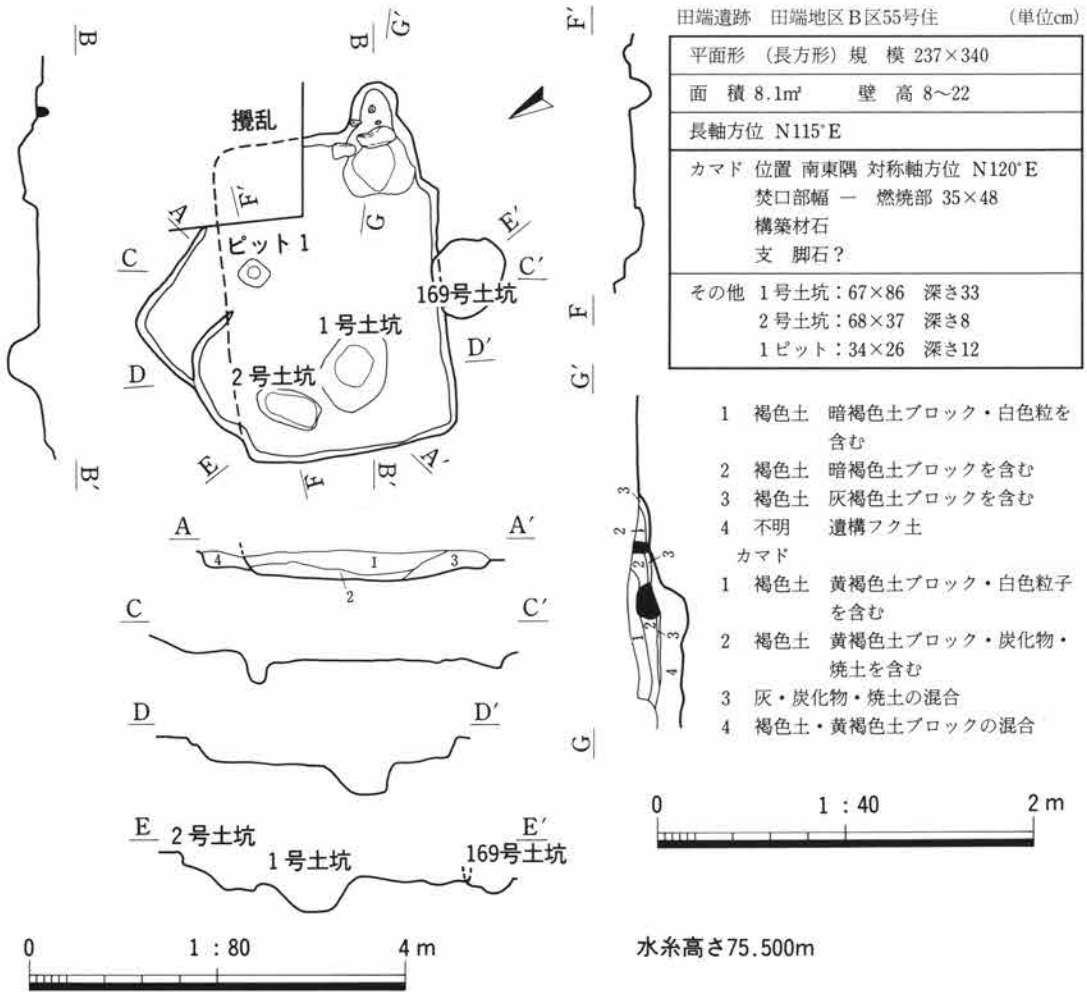
さ25cmの偏平な石が出土している。住居西寄りでは1・2号土坑を検出した。1号は径75cm前後でやや深く、2号は細長く深さ8cmである。いずれも支柱穴とは考えがたい。

遺物はカマド内、1号土坑周辺から出土している。第473図1・4はカマド内から、2は中央床面から、3は1号土坑東側床面からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半とみられる。

田端B区第56号住居跡 (第474~476図、図版119・185)

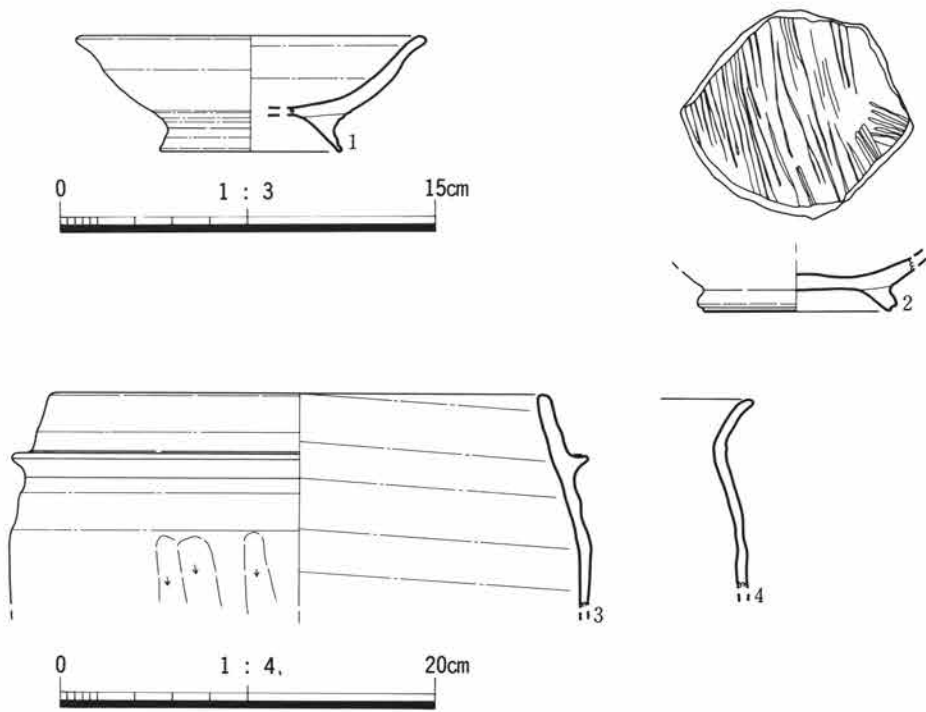
Nライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。33・34・60・70・75・85・87号住居、136号土坑、12号溝と重複している。60→56→34→33号住居の順に新しく、その他の遺構はすべて本住居よりも新しい。覆土は自然の堆積をしている。壁は他の住居に比べて深く、80°前後で立ち上がる。床面は中央部がやや高く、周辺部が低い。全体に南西部が低くなっている。支柱穴とみられるピット



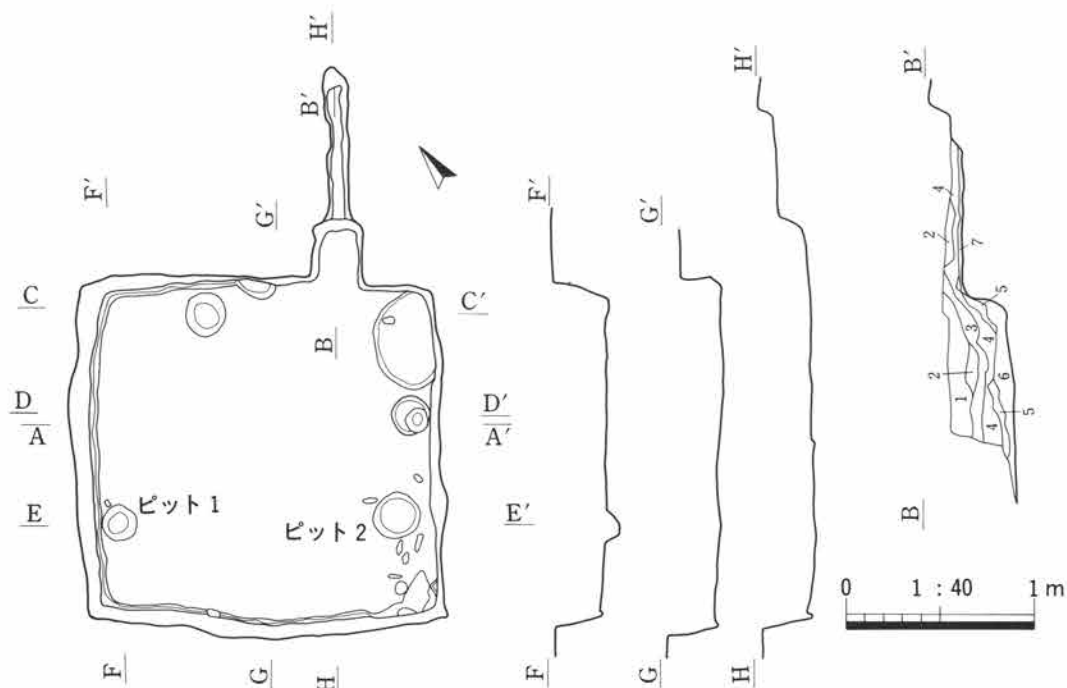
第471図 田端地区B区55号住居跡



第472図 田端地区B区55号住居跡

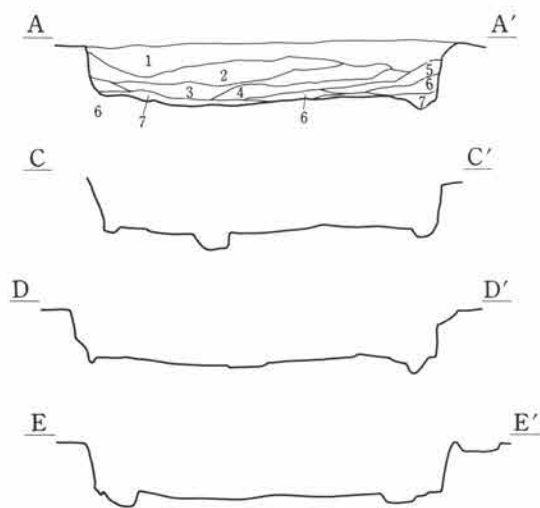


第473図 田端地区B区55号住居跡出土遺物



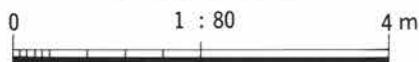
カマド

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック・白色粒子を含む
- 2 黄褐色土 焼土ブロック・炭化物粒子を含む
- 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物・灰を含む
- 4 黄褐色土 灰褐色土・炭化物ブロック・焼土ブロックを含む
- 5 焼土ブロック 灰・炭化物を含む
- 6 灰黄褐色土 灰・炭化物を多く含む
- 7 灰褐色土 炭化物・焼土ブロックを含む



- 1 褐色土 砂・白色粒を含む
- 2 褐色土 大きめの暗褐色土ブロックを含む
- 3 褐色土 2よりも小さい暗褐色土ブロックを含む
- 4 褐色土 粘質
- 5 褐色土 焼土ブロックを含む
- 6 褐色土 粘質の暗褐色土ブロックを含む
- 7 灰褐色土 黄褐色土ブロック・灰・炭化物を含む

水糸高さ75.400m



田端遺跡 田端地区B区56号住 (単位cm)

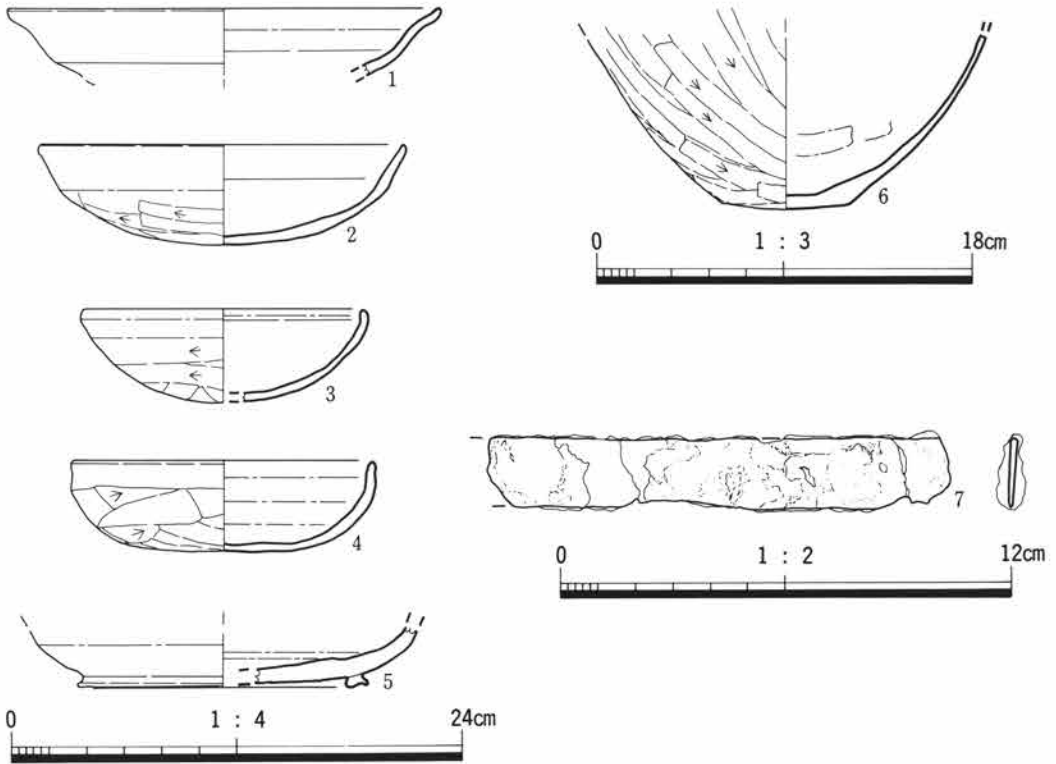
平面形	方形	規模	390×382
面積	14.9m ²	壁高	47~53
長軸方位	N131°E		
壁溝幅	6~10	深さ	4~6
主柱穴	1	2	
上バ径	36	51	
下バ径	21	37	
深さ	15	12	
主柱穴間の距離 (心心)	1-2 299		
カマド位置	北辺東寄り		
対称軸方位	N39°E		
焚口部幅	— 燃烧部 42×54		
煙道部幅	17~25 長さ160 角度 3°		
構築材	粘土		
貯蔵穴位置	北東隅	平面形	楕円形
上バ	103×63	下バ	93×58
深さ	8		

第474図 田端地区B区56号住居跡



第475図

田端地区B区56号住居跡



第476図 田端地区B区56号住居跡出土遺物

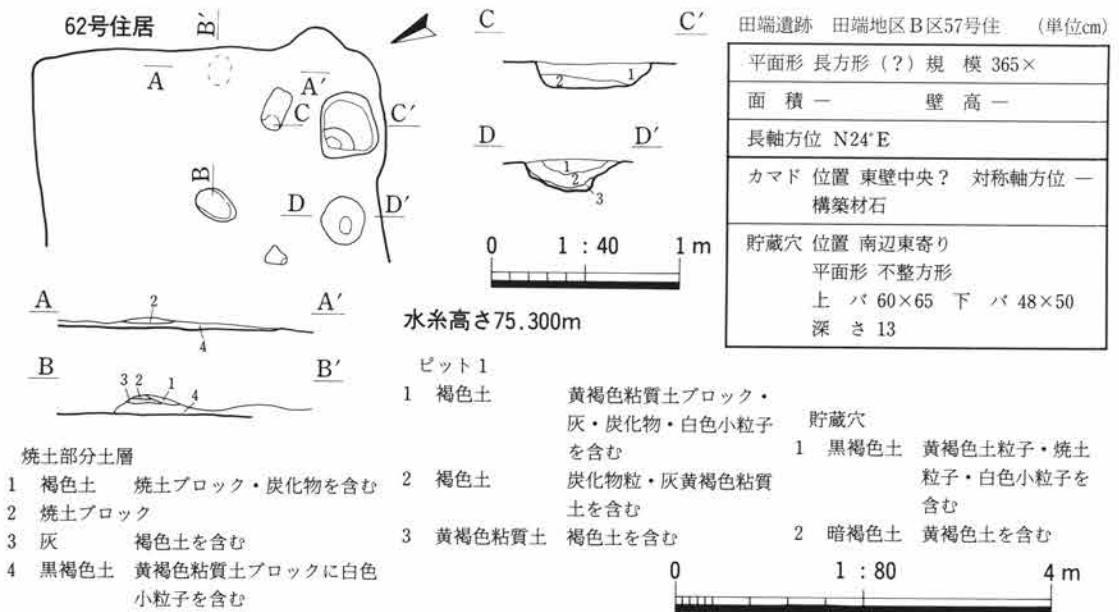
は2本検出した。第474図のピット1とピット2で、他のピット3・4は1・2に対応する位置にない。ピット3は二段に掘り込まれ、上端径40cm・下端径10cm・深さ14cm、ピット4は上端径45cm・下端径29cm・深さ16cmである。壁溝はカマド左脇のピット5から西辺を巡り、南東隅で三角形形状を呈して終わる。カマドは北辺東寄りに検出した。燃烧部が方形に掘り込まれ、壁から突出するタイプである。煙道は北辺に直角に160cm程検出し、立ち上がり角度は3°でほぼ水平である。燃烧部奥壁は約70°で立ち上がる。本住居の煙道は調査区内で発見した住居跡のなかでは最も長い方に属する。貯蔵穴はカマド右脇の北東隅に検出した。楕円形を呈し、深さ8cmと浅い。以上の住居内諸施設の配置からみると、東辺のピット2・3の中間に入り口が推定できる。

遺物は少ない。第476図1はカマド右脇の床面直上から、6はカマド内から浮いた状態で、7はカマド左脇のピット5の北壁際からそれぞれ出土した。2～5は覆土出土の参考品である。南東隅のピット2付近からは長さ12～20cmの細長い石が7個と丸い石が1個出土した。

時期は8世紀後半と考えられる。

田端B区第57号住居跡（第477・478図、図版120・185）

Kライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。48号住の床面下から検出した住居で44・48・51・52・62・65号住居と重複している。新旧関係は、44・48号住居より旧で他住居よりは新である。覆土は自然に堆積している。壁の立ち上がりは確認できなかった。床面は48号住の掘形によって壊されており、軟弱であった。南辺、西辺は不明で、南辺については貯蔵穴の位置によって推定した。支柱穴、壁溝は確認出来なかった。カマドは不明確だが、東辺ほぼ中央部分に焼土が検出され、焼土の右前にカマド構築材と思われる川原石が出土しているの、ほぼ東辺中央部と推定できる。南



第477図 田端地区B区57号住居跡

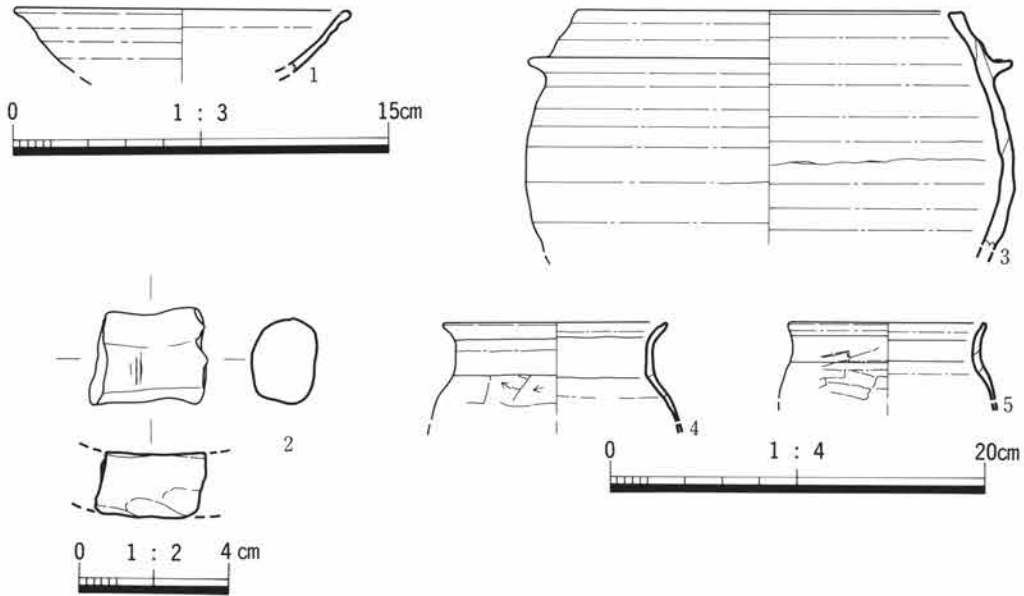
東部の土坑を貯蔵穴とした。

遺物は少なく、北側に散布していた。羽釜、杯、椀、土師器小型甕が出土している。

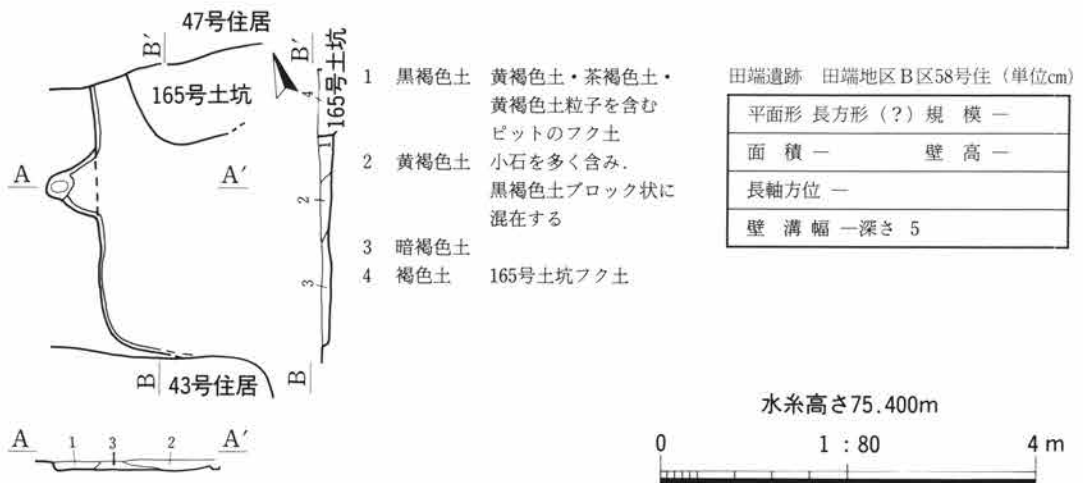
時期は遺物からみて10世紀代である。

田端B区第58号住居跡 (第479図)

Kライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。43・47号住居、118号・165号土坑と重複している。本住居が他遺構より旧である。覆土は自然に堆積している。壁の立ち上がりは斜めで西



第478図 田端地区B区57号住居跡出土遺物



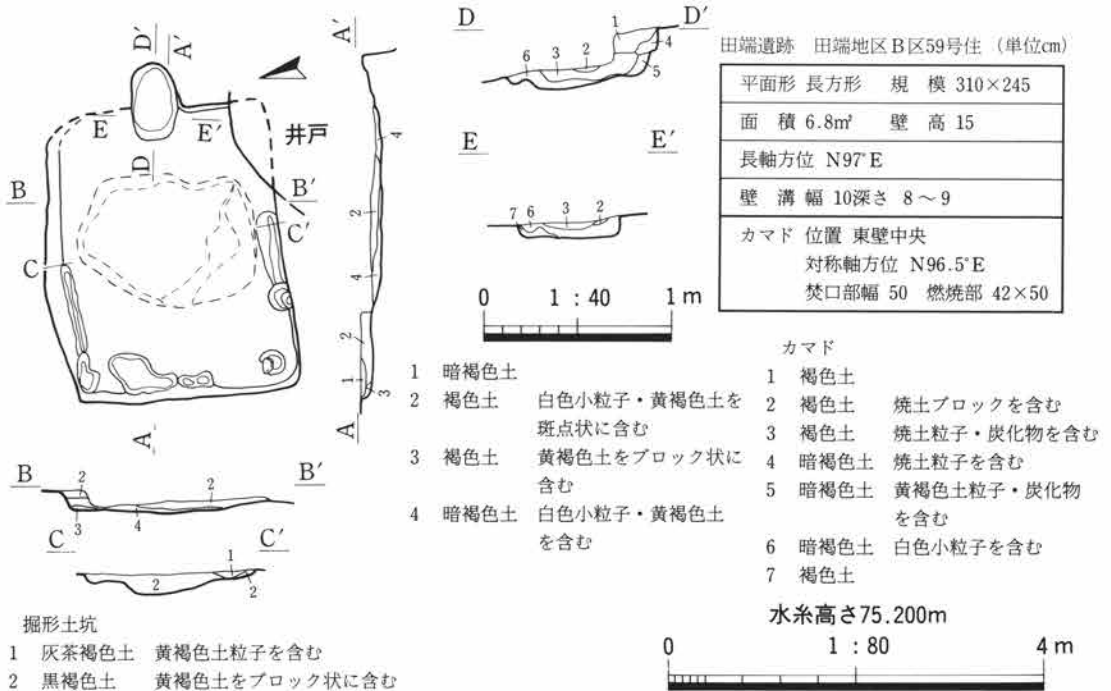
第479図 田端地区B区58号住居跡

辺と南辺の一部が検出できた。西辺の張り出し状にみえるのは、新ピットによるものである。床面は軟弱ではあるが、平坦な面としてとらえられている。支柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出できなかった。

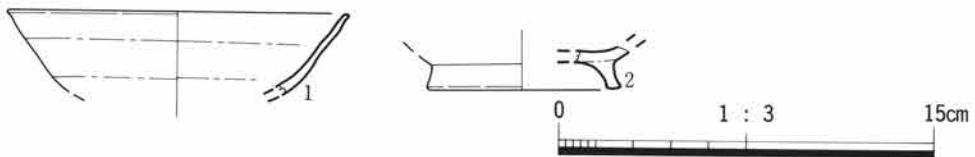
遺物は出土していない。時期は遺構の切り合い関係から9世紀中頃以前と考える。

田端B区第59号住居跡 (第480・481図、図版120)

Mライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。37・53・61号住居、2号井戸と重複している。53号住居の下部で検出しており、2号井戸・53号住居より旧で、37・61号住居より新しい。覆土は上部遺構の影響を受けているがほぼ自然に堆積している。壁は北辺と西辺で明確に確認出来た。斜めに立ち上がりをみせる。床面はカマド前を中心に堅い部分がみられたがでこぼこである。支柱穴は確認できなかった。壁溝は北辺西寄りと、西辺・南辺の一部で検出できた。カマドは東辺中央部に設置され、53号住居東辺によってそのほとんどが壊されているが、焼土・灰層が確認できた。燃焼部を壁外に作り出している。貯蔵穴は検出できなかった。掘形調査によって住居平面形が確定した。



第480図 田端地区B区59号住居跡



第481図 田端地区B区59号住居跡出土遺物

掘形土坑は住居中央部で確認した。不整形円形である。

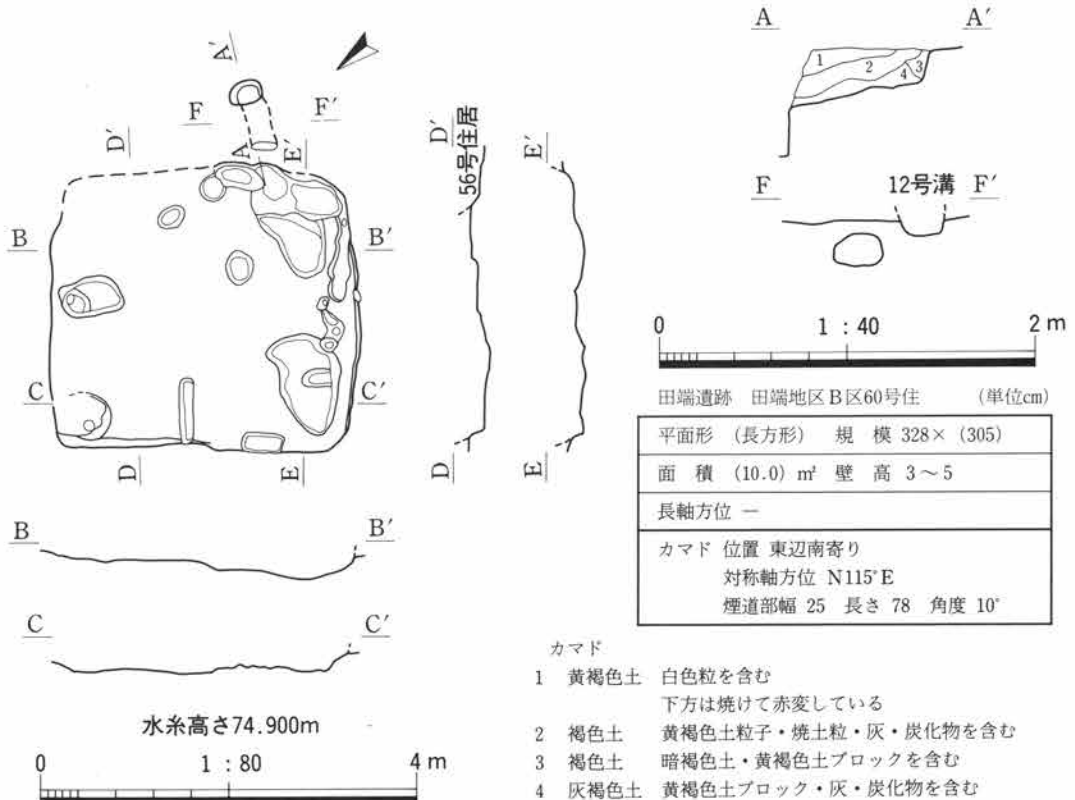
遺物は少ないが、土師器甕（コの字状口縁）・杯、須恵器高台付椀が出土している。

時期は遺構の前後関係と遺物から9世紀中頃とする。

田端B区第60号住居跡（第482図、図版121）

Nライン・71km285m付近で検出した。本住居は56号住居の東辺にカマド煙道部の断面が発見され、56号住居の床下調査によってその存在を確認した。したがって、本住居は56号住居よりも古い。周辺の重複住居と合わせると、60→56→34→33号住居の順に新しい。プランは56号の中にスッポリ納まり、北辺は56号の床面ラインと同じである。壁は56号住居によって殆ど破壊されており、数センチメートルの高さである。本住居の床面は黄褐色粘質土を主体とした土を貼って形成していた。支柱穴とみられるピット、壁溝は検出していない。カマドの本体は56号住居によって殆ど失われ、東辺に延びる煙道を80cm程検出したのみである。煙道は遺存状態が良好で、56号住居東壁の確認面で天地17cm・左右25cmの楕円形を呈し、トンネル状に地山を掘り抜いていた。貯蔵穴は南東隅・南西隅・北西隅が考えられるが、特定できない。北西隅の二つ並んだ円形のピットのうち東側のピット、北東隅の掘り込みはいずれも56号住居のものである。西辺中央部には長さ65cm・幅15cm・深さ8cmの間仕切り状の掘り込みを検出した。また、カマド向かい側の西辺に接して20×45cm・深さ4cm程の長方形のピットがある。

本住居からは図示できる遺物の出土がなかった。時期は不明である。



第482図 田端地区B区60号住居跡

田端B区第61号住居跡 (第483・484図、図版121)

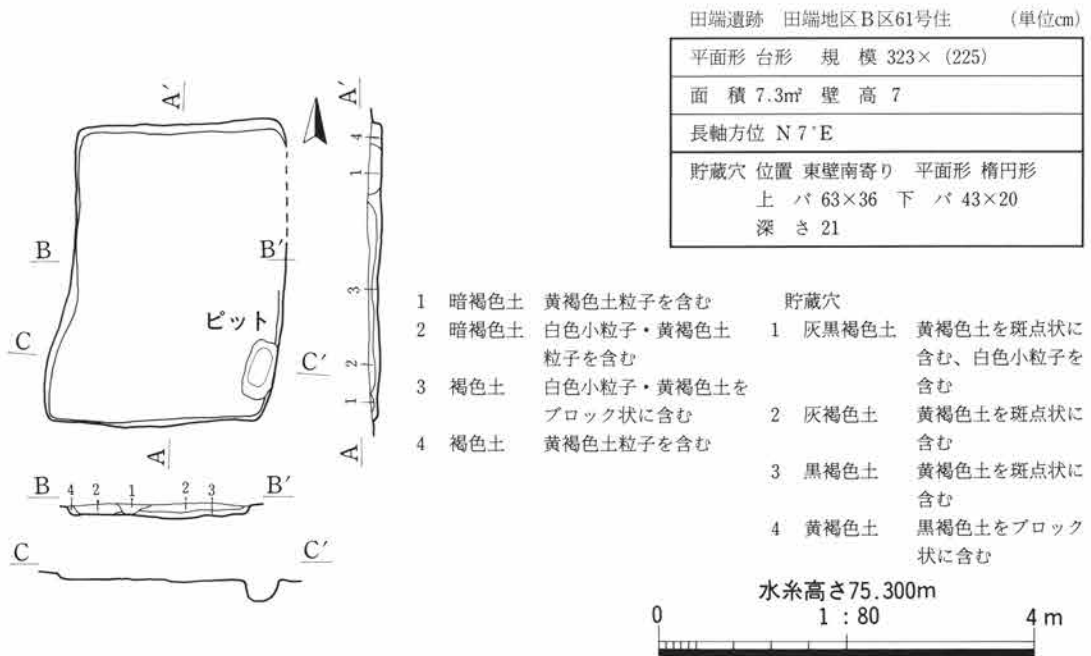
Lライン・71km287m付近で検出した。確認面は第4層である。59号住居、121・122号土坑と重複している。本住居が他遺構より旧である。覆土は自然に堆積している。壁は浅い立ち上がりだが四辺とも確認出来た。東辺北側で59号住居と重なる。床面はほぼ平坦である。支柱穴・壁溝・カマドは確認できなかった。貯蔵穴は南東隅の楕円形土坑が考えられる。

遺物は全体に散布するが出土量は少ない。土師器杯がある。

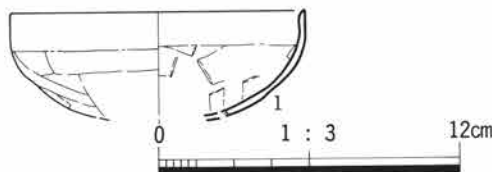
時期は遺構の前後関係と遺物よりみて8世紀後半である。

田端B区第62号住居跡 (第486図、図版122)

Lライン・71km283m付近で検出した。確認面は第4層で、44・46号住居の床下から検出した。東辺南寄りにカマド掘形と東南隅に土坑が見られることから住居と認定した。44・46・48・51・52・57・65号住居と重複している。65号住との前後関係は明らかでないが、本住居が他住居より旧であると考えている。覆土は上部遺構の影響で観察できない。確認が掘形であるため壁、床面はない。支柱穴、壁溝は確認できなかった。カマドは東辺に張り出す部分があり、カマド掘形と推定している。貯蔵穴は東南隅の浅い土坑であろう。



第483図 田端地区B区61号住居跡



第484図 田端地区B区61号住居跡出土遺物

田端B区第63号住居跡 (第485・487・488図、図版122・123・186)

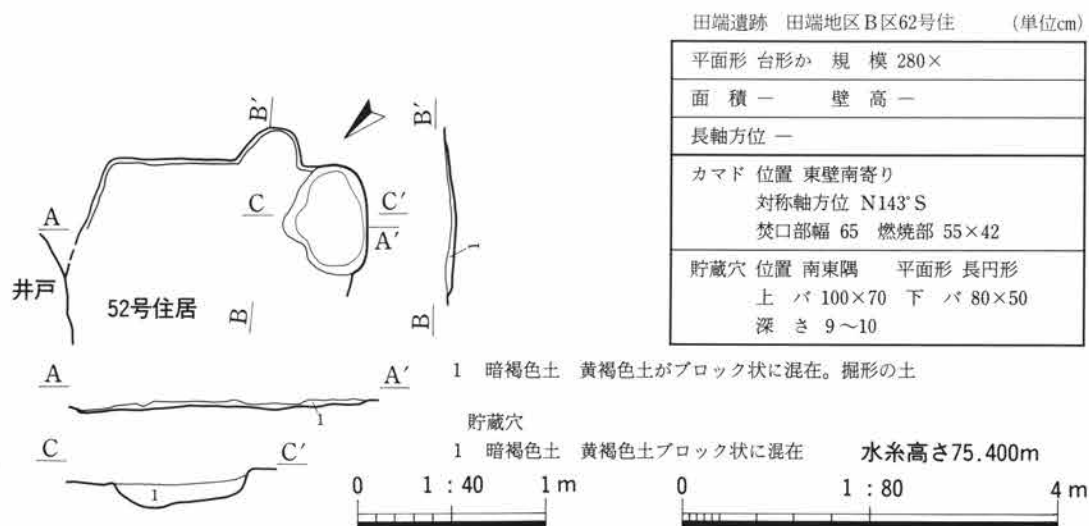
P-Qライン・71km289m付近で検出した。確認面は第4層である。66・73・77・80・81・95号住居と重複している。73号住居はカマドのみの検出であるため、本住居との前後関係は不明である。77号住居は本住居の床下から検出したもので本住居よりも古く、したがって77→63→66号住居の順に新しい。西側の80・81・95号住居はすべて本住居よりも新しい。覆土は自然に堆積しており、とくに中央部はレンズ状の堆積をしている。壁は斜めに立ち上がる。全体のプランは東辺の短い台形を呈する。床面は中央部が高く、周辺が低い。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が壁の外側に突出するタイプである。煙道の遺存状態が良好で、天井部が60cm程トンネル状に遺存していた。燃焼部奥の灰層の下からは、径20cm・深さ10cm程のピットを検出した。支脚を据えた穴であろうか。貯蔵穴は南西隅で検出した。底面はすり鉢状を呈する。

遺物は全面から出土したが、石と瓦の出土が比較的多い。カマド前～中央部にかけて出土した石は焼けており、住居北側から出土した石は焼けた様子がない。焼けた石の中には凝灰岩も含まれている



第485図

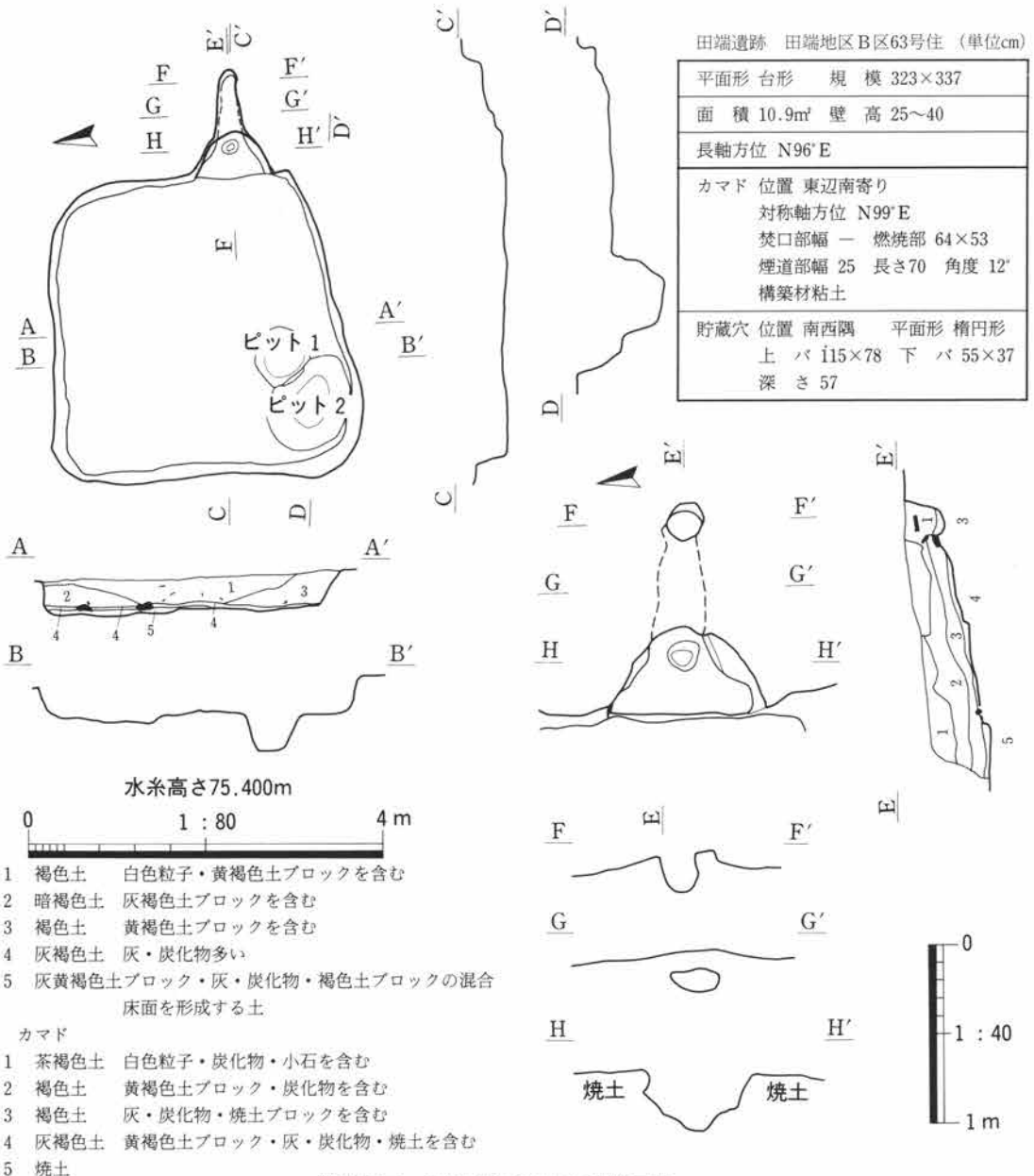
田端地区B区63号住居跡



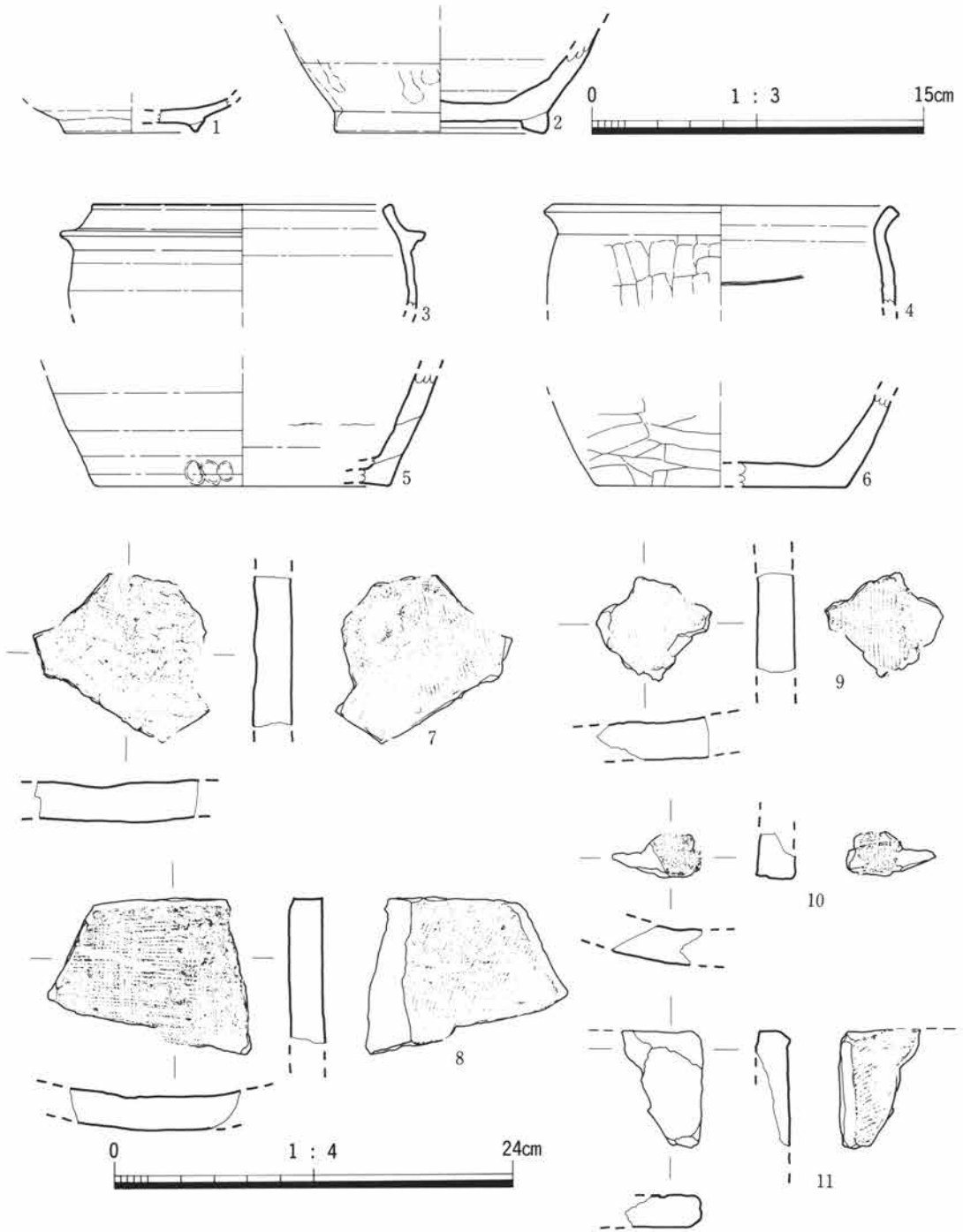
第486図 田端地区B区62号住居跡

ことから、カマド袖部の構築材が破壊されて散乱したと考えられる。この「破壊」は煙道部がほぼ遺存していることと合わせると、選択的な破壊行為が行われたと推定できる。第488図2は北辺中央の壁際の床面から出土しているが、下層の81号住居に属する遺物である可能性が高く、参考品である。1の灰釉陶器は貯蔵穴覆土から、5は北東隅の床面から、8・9は中央南寄りの床面から、10はカマド内から、11は中央部床面から出土している。ほかに覆土出土だが、鉄製鎌の身の一部とみられる部分が出土している。

時期は10世紀後半～11世紀が考えられる。



第487図 田端地区B区63号住居跡



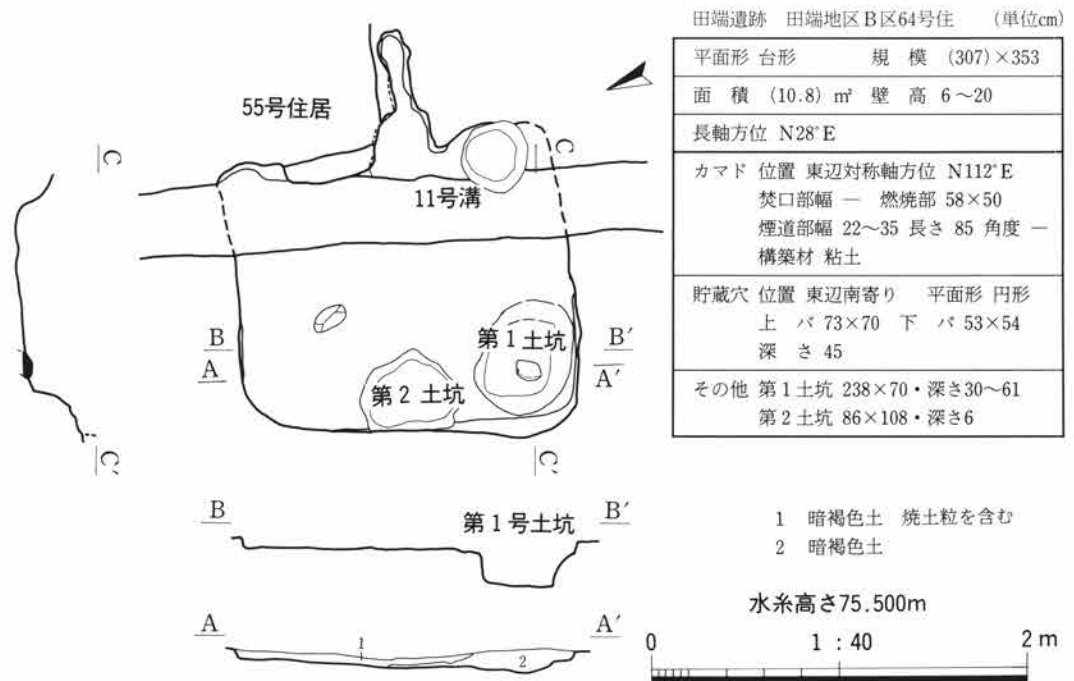
第488図 田端地区B区63号住居跡出土遺物

田端B区第64号住居跡 (第489・490図、図版123・187)

L-Mライン・71km293m付近で検出した。確認面は第4層である。47・55・149号住居、204・205号土坑、11号溝と重複している。これらは149→64→55号住居、64→47号住居の順に新しい。2基の土坑と11号溝はいずれも本住居よりも新しい。東辺に一部重複して、南北方向に11号溝が本住居を切っているため北東隅・南東隅は確認できなかった。遺存している東辺で見ると、全体のプランは台形を呈すると推定できる。覆土は自然に堆積している。壁は南西隅で最も深く、斜めに立ち上がる。床面は中央部が凸である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺ほぼ中央で検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道部約85cmが遺存していた。カマド前は11号溝が重複しているため破壊されていたが、燃焼部に拳大～人頭大の石が4個あり、これらはカマドの構築材の一部と考えられる。カマドの掘形は燃焼部いっばいに円形の土坑状に掘り込まれ、煙道部との境付近の壁の左右に径10cm前後・深さ4～5cmのピットを、それぞれ1個検出した。石を据えた跡だろうか。貯蔵穴は東辺南寄りのカマド右脇で検出した。深さは45cmあり、比較的遺存状態は良好であったが、遺物の出土はない。

遺物は小片が39点出土したが、図示できるのは第490図1のみである。この甕は北東突出部から出土した。

時期は9世紀後半から10世紀ごろと考えられる。

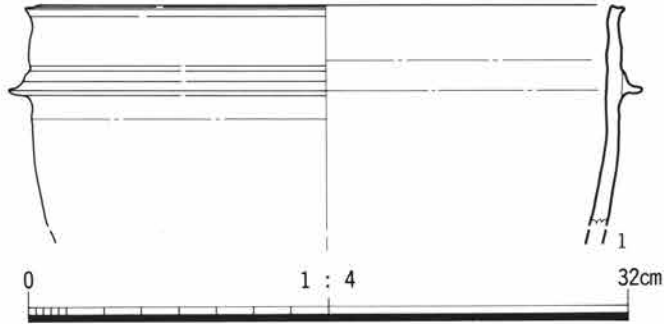


第489図 田端地区B区64号住居跡

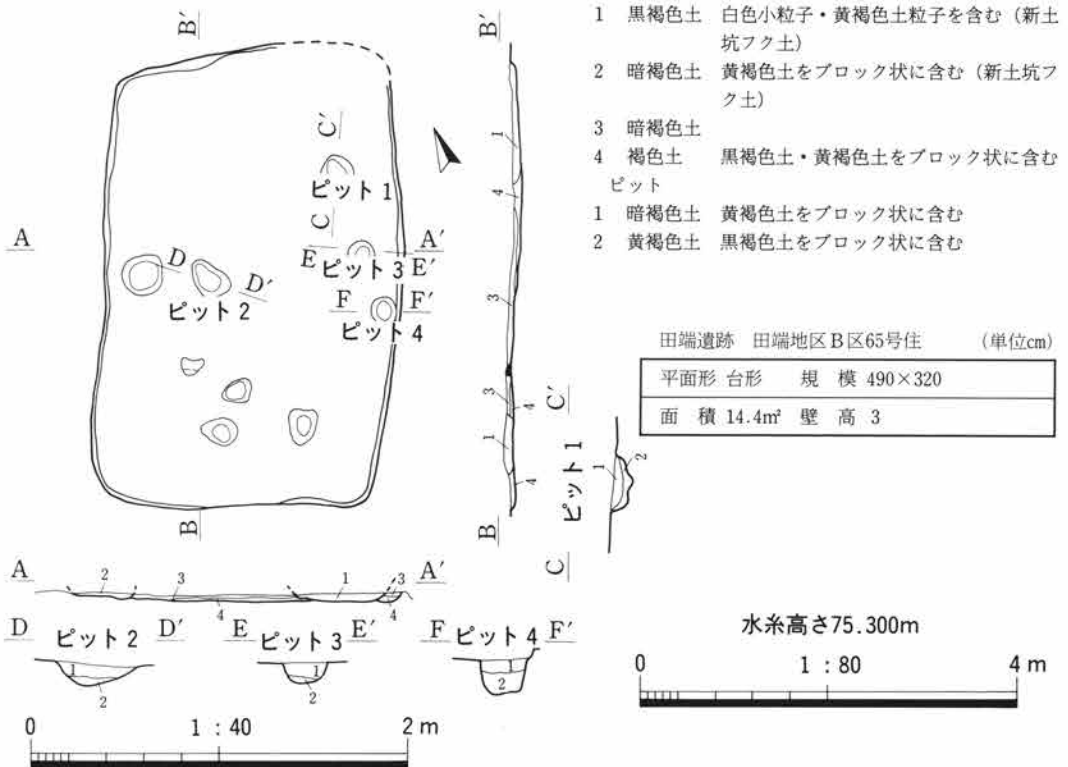
田端B区第65号住居跡（第491・492図、図版124・185）

Lライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層で、48・57号住の下より検出している。重複しているのは、44・48・51・52・57・62号住居である。62号住との関係は不明確だが他の住居より本住居の方が旧である。覆土は上部住居の掘形と区別つけがたく、床面もわずかに残るのみである。壁は四方ともわずかに立ち上がりが確認できた程度である。床面は土層断面観察の第4層が貼床の土かと考えているが、ほとんど残存していない。支柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物はピット内から鉄滓が出土しており、その他砥石がある。この砥石はカマド構築材として使用されたもので片側の頂点を調整してある。砥面は、横断面楕円形の短辺を擦り切って使用している。時期は不明である。



第490図 田端地区B区64号住居跡出土遺物

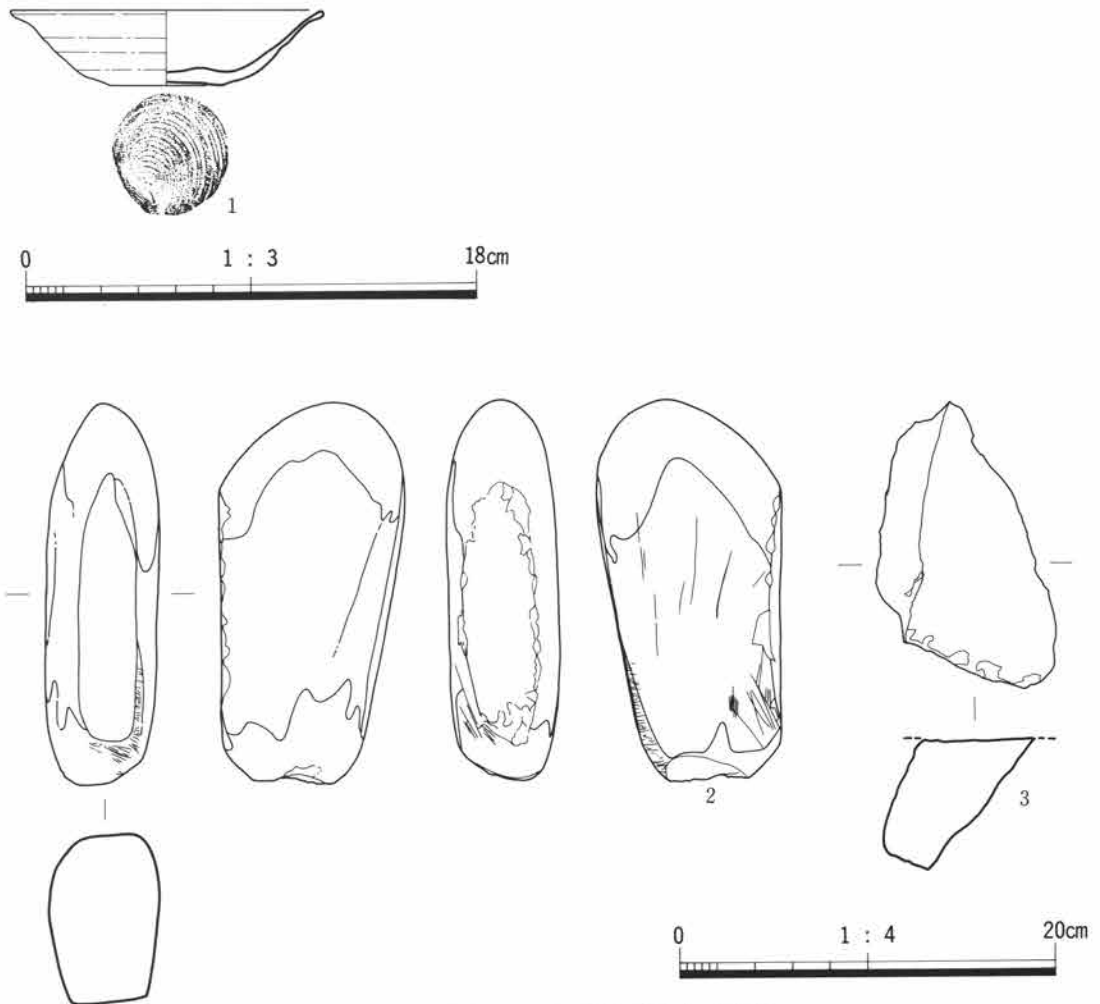


第491図 田端地区B区65号住居跡

田端B区第66号住居跡（第493・494図、図版124・125・187）

Qライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。63・77号住居、194号土坑と重複している。63→66・77号住居の順に新しく、194号土坑は最も新しい。77号と本住居との関係は不明である。調査地区外にその北半があり、西半は土坑と63号住居によって破壊されているため、全体のプランは不明である。覆土は自然に堆積している。北部の床面が上昇しているようにみえるが、調査不足と考えられる。壁は6～16cmと浅く、斜めに立ち上がる。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは調査区の北壁に沿って検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、焚口の両袖に石を据えていた。燃烧部の煙道寄りに径10cm前後・長さ20cm前後の石を立てた状態で据えており、支脚にしたとみられる。また、燃烧部と煙道との境から石が出土している。煙道は90cmほど東へ延びて垂直に立ち上がる。

遺物は少なく、図示できるものは第494図の遺物のみで、1～3は覆土出土の参考品である。時期は10世紀後半～11世紀が考えられる。

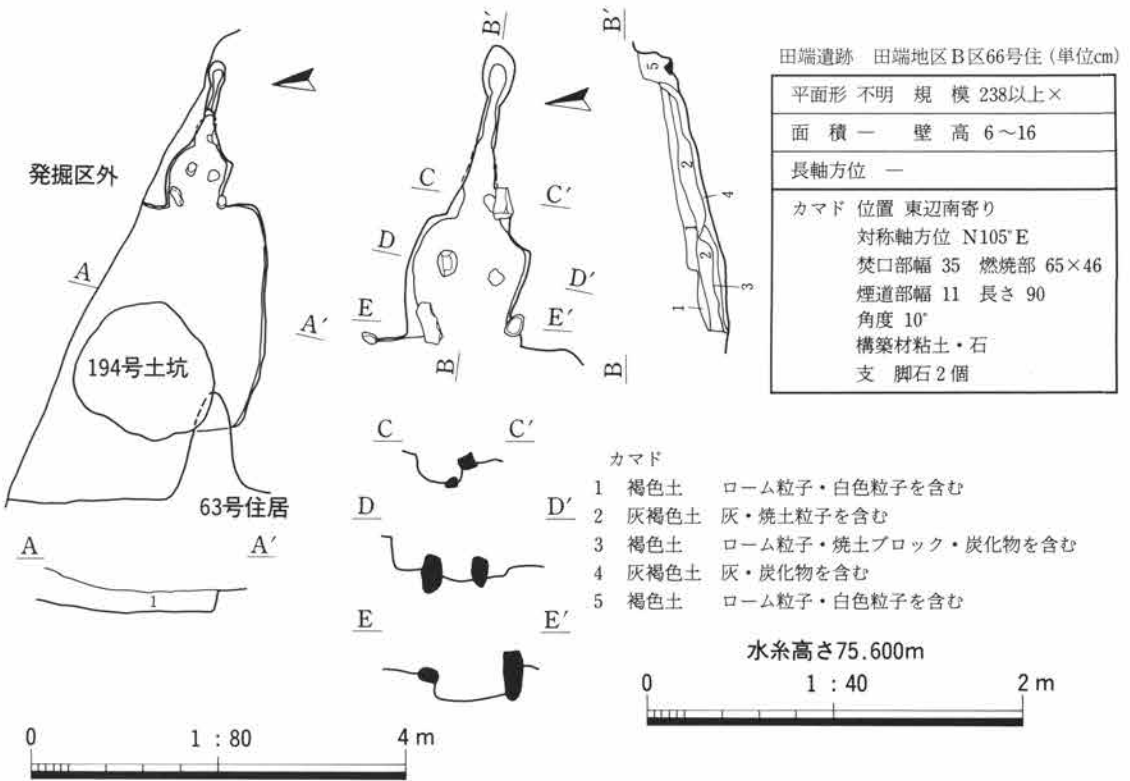


第492図 田端地区B区65号住居跡出土遺物

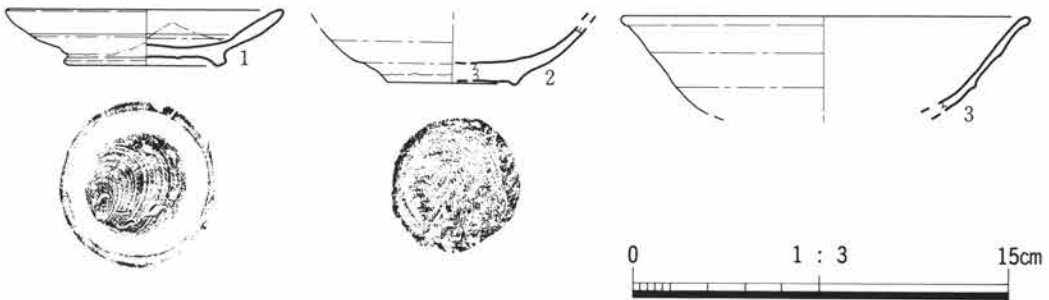
田端B区第67号住居跡 (第495・496図、図版125・187)

O-Pライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。74号住居、171号土坑と重複し、74→67→171号の順に新しい。東半は現代のゴミ穴によって破壊されているため詳細は不明である。覆土は自然に堆積している。床面は南側がやや高い。支柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴等は不明である。南寄りに上端径70cm・下端径50cmほどの住居内土坑があり、中から遺物が出土した。第496図1・2はいずれも住居内土坑から出土したもので、1は口縁部を下にして出土している。

時期は10世紀後半～11世紀が考えられる。



第493図 田端地区B区66号住居跡

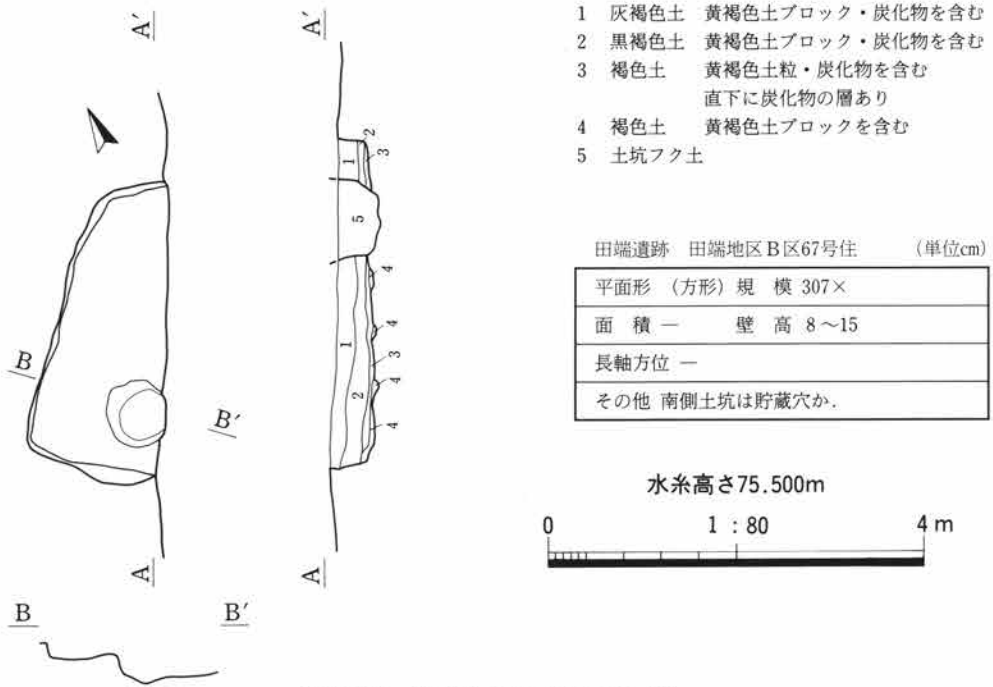


第494図 田端地区B区66号住居跡出土遺物

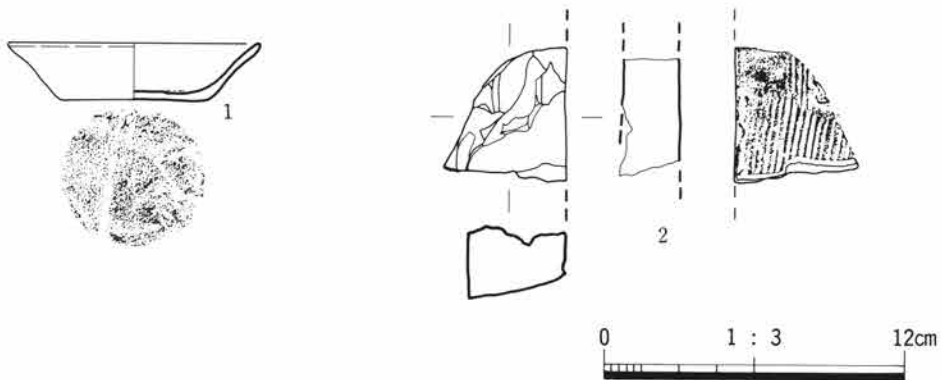
田端B区第68号住居跡（第497・498図、図版126・187）

Oライン・71km289m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は74・78・84号住居と重複しており、74→68→78→84号の順に新しい。調査時点での所見では本住居の北半に、南東方向にカマド煙道部が延びる82号住居を認定したが、整理の過程で遺物の内容や遺構図の検討から、82号は床面を誤認したもので、両者は同一住居と推定できることが判った。

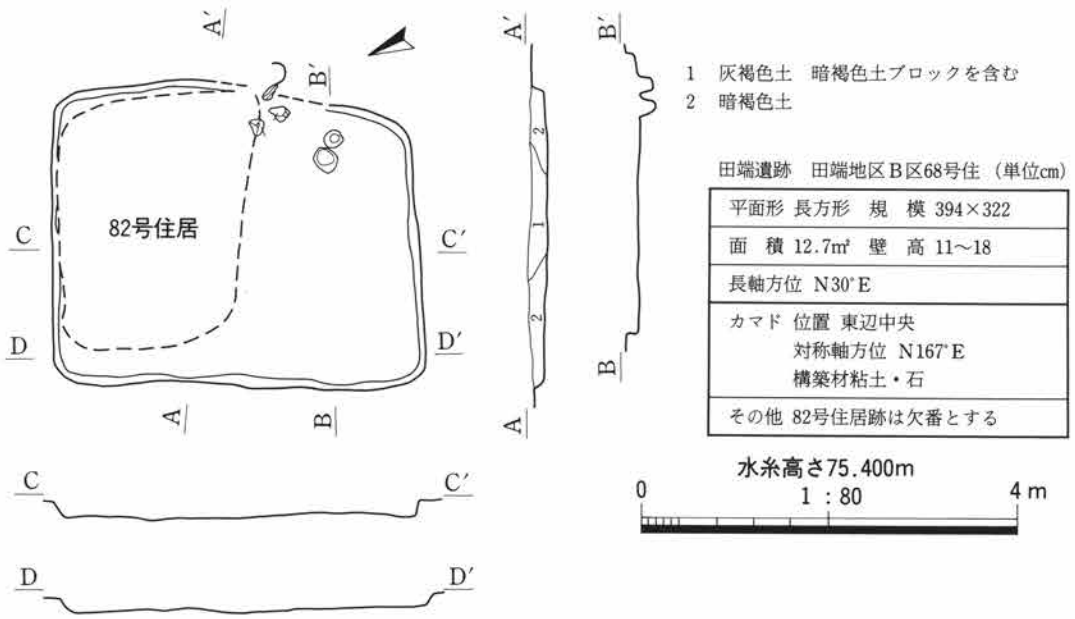
覆土は自然に堆積している。床面は北半でやや低い。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺中央に検出したが、煙道の一部が遺存していたのみである。



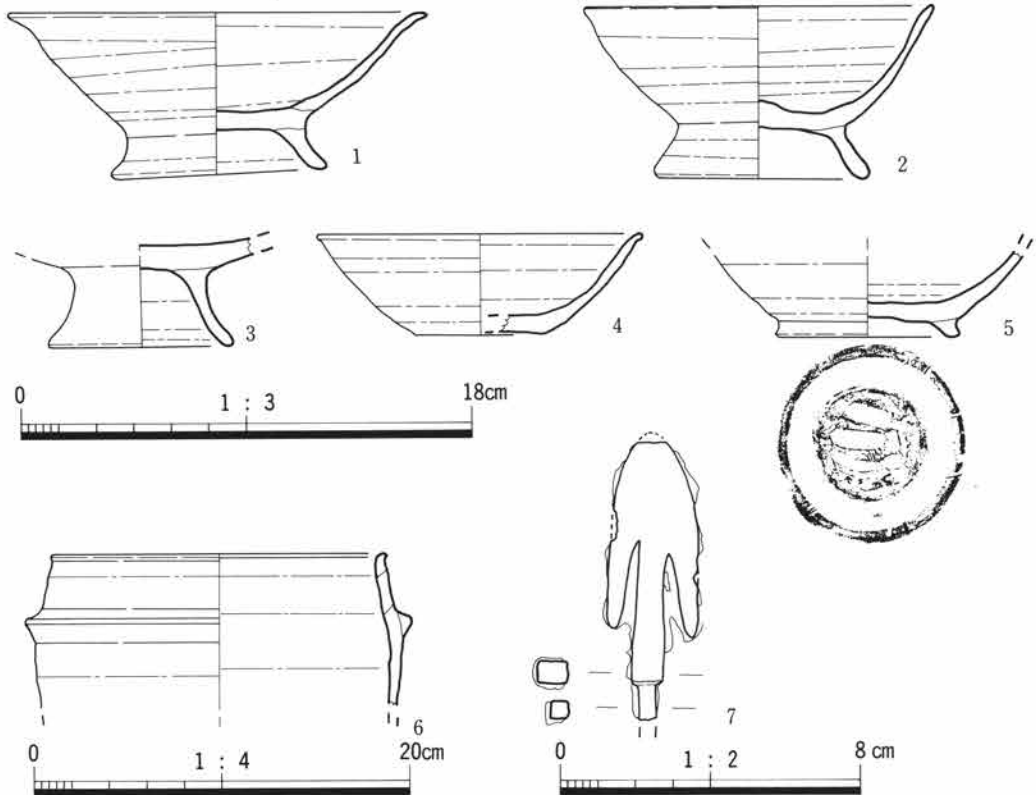
第495図 田端地区B区67号住居跡



第496図 田端地区B区67号住居跡出土遺物



第497図 田端地区B区68号住居跡



第498図 田端地区B区68号住居跡出土遺物

遺物は第498図1・3が北東隅の床面から、2が北辺西寄りの壁際の床面から、4が中央北西寄りの床面から、7が中央北寄りの床面からそれぞれ出土した。5・6は覆土出土の参考品で、5の外底には粘土をカキ取ったような痕が見られる。

時期は10世紀後半～11世紀が考えられる。

田端B区第69号住居跡（第499～501図、図版126・127・188）

Pライン・71km292m付近で検出した。確認面は第4層である。78・80・95号住居と重複し、80→95・78→69号の順に新しく、周辺の土坑・ピットはすべて本住居よりも新しい。覆土は自然に堆積しているが、中間に灰・炭化物を多量に含んだ層を挟んでいる。埋没の過程で廃棄された周辺住居のカマドの一部が崩れて流入したとみられる。比較的遺存状態が良好で、北東隅を欠く外はほぼ全体のプランを確認することができた。床面は南半がやや高くなっている。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝は東辺のカマド左袖から北辺を廻り、西辺の北半で切れ、南辺の西半で停まる。南東隅は検出していない。また、南西隅の貯蔵穴と考えられるピットの両側は、壁溝が切れている。カマドは東辺の南寄りに検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプであるが、焚口の両袖部は壁面のラインに乗っている。左袖の構築材とみられる石は遺存していたが、右袖の石は掘形を検出したのみである。煙道は天井部が30cm程遺存しており、煙り出しは径25cmほどのピット状を呈する。燃焼部中央には天部の径約10cmの石が据えられており、支脚にしたと考えられる。貯蔵穴は南西隅に検出したが、北東

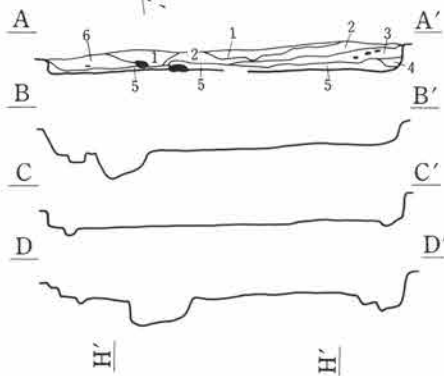
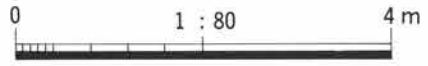
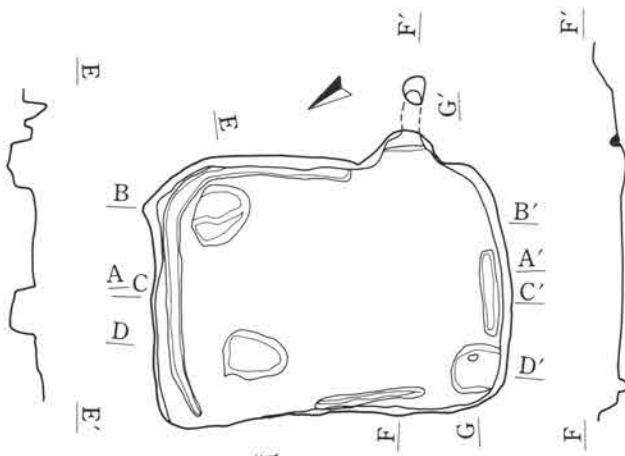


第499図 田端地区B区69号住居跡

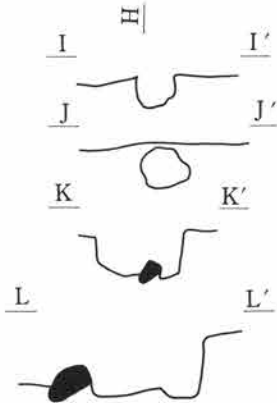
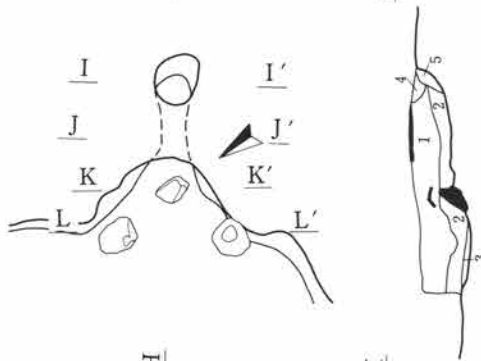
第4節 奈良平安時代の住居跡1

田端遺跡 田端地区B区69号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	266×389
面積	10.3m ²	壁高	7~26
長軸方位	N32'E		
壁溝幅	10~20	深さ	4~7
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N128'E 焚口部幅 40前後 燃焼部 36×35 煙道部幅 13 長さ50 角度 10° 構築材粘土・石 支脚石		
貯蔵穴	位置 南西隅 平面形 方形 上バ 50×51 下バ 47×37 深さ 15		
その他 北東隅土坑も貯蔵穴か。			

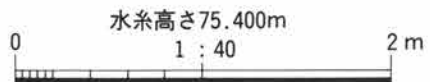


- 1 褐色土 白色粒子・黄褐色粘質土ブロックを含む
- 2 灰・炭化物 焼土ブロック・褐色土ブロック・灰褐色土ブロックを含む
- 3 灰・炭化物 2よりも褐色土ブロック多い
- 4 褐色土 黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む
- 5 灰・炭化物 黄褐色土ブロックを含む
- 6 褐色土 黄褐色土大ブロックを含む



カマド

- 1 褐色土 灰・炭化物粒子を含む
- 2 褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物・灰・焼土ブロックを含む
- 3 灰・炭化物
- 4 褐色土 焼土ブロック・灰を含む
- 5 灰・焼土ブロック

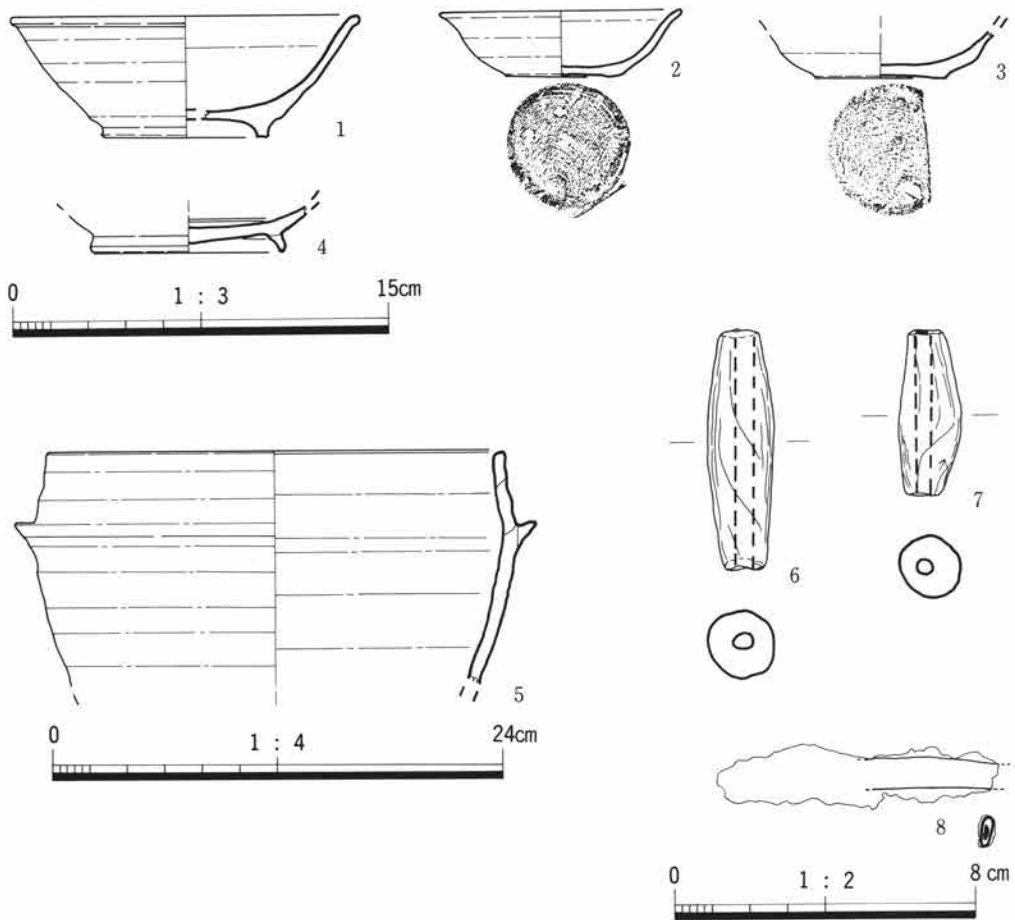


第500図 田端地区B区69号住居跡

隅にも70×50cmの楕円形を呈する掘り込みを検出している。この土坑も貯蔵穴の可能性もある。このほか、北西寄りの床面にも長軸70cm・深さ25cmの卵形の土坑を発見した。両土坑とも土器の出土はない。カマド燃焼部は第500図のように底面が円形を呈する掘形をもっている。深さは10cm前後である。

遺物は遺存状態の割に少なく、第501図1・6はカマド内から、2は北西隅の床面から、4は西辺中央壁際の床面から、6はカマド前の床下のピットから、8の鉄器はカマド左袖石の間からそれぞれ出土した。8の鉄器はサビが硬くて落とすことができないため、その形状はソフテックスを使用しても確認することができなかった。なお、灰釉陶器碗・皿の小片が覆土から出土している。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第501図 田端地区B区69号住居跡出土遺物

田端B区第70号住居跡（第503図）

M-Nライン・71km287m付近で検出した。確認面は第4層である。56・72号住居と重複し、いずれも本住居の方が古い。南側は後世のゴミ穴によって破壊されている。また北西隅は第5号掘立柱建物の南東隅に当たるピットが掘り込まれている。プランを確認した時点ですでに殆ど削平されており、わずかに東辺に焼土の粒子が分布していた。カマドの痕跡かと思われる。その他の施設等は不明である。遺物は出土していない。

田端B区第71号住居跡（第505～508図、図版128・188）

M-Nライン・71km293m付近で検出した。確認面は第4層である。135号住居・11号溝と重複し、135→71→11号の順に新しい。プランは北東隅・南辺中央を11号溝に切られているが、ほぼ全体の形を確認した。南東隅のピットは本住居よりも新しい。覆土は自然に堆積している。壁は高さ18～26cmが遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平らである。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃烧部は東辺よりも突出し、奥壁に丸みがあって凸形を呈するタイプである。カマド前では20～30cm大の石が5個出土し、そのうち2個はカマド内側へ斜めに傾いていた。この2個はカマド袖の構築材とみられる。燃烧部中央にはフイゴ羽口がフイゴ取り付け側を下にした状態でほぼ直立して出土した。カマド支脚に転用したと考えられる。煙道は概ね水平に1mほど延び



第502図 田端地区B区72号住居跡

る。貯蔵穴は南東隅で検出した。ほぼ楕円形で、浅いすり鉢状を呈する。

遺物はカマド周辺と貯蔵穴内、壁際から出土した。第507図3・5は貯蔵穴内から、1は北辺中央の壁際床面から、2はカマド前の貯蔵穴際から、4はカマド左脇の床面から、7はカマド内からそれぞれ出土した。6は本住居と11号溝の重なるカマド前の床面から出土した参考品である。

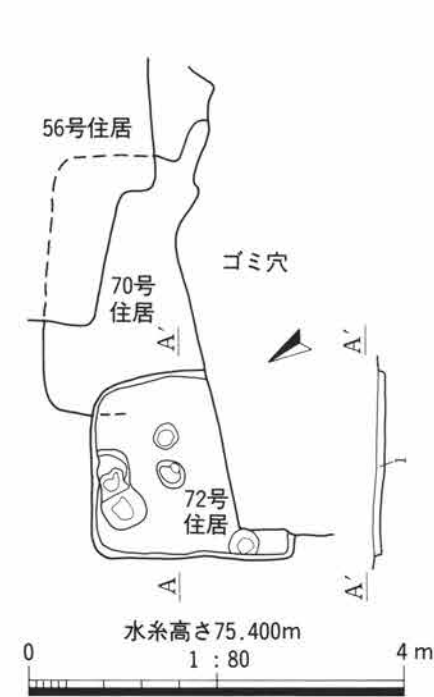
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第72号住居跡（第503～504図、図版127）

M-Nライン・71km289m付近で検出した。確認面は第4層である。70号住居と重複し、本住居の方が新しい。覆土は浅く、床面直上の土が遺存していたのみである。支柱穴と考えられるピットは検出していない。壁溝・カマド・貯蔵穴も不明である。

遺物は土器4片が出土したが、図示できるのは第504図1である。この土器片は東辺の南端から出土した。

時期は10世紀代と考えられる。



第503図 田端地区B区70・72号住居跡

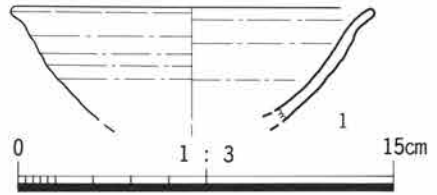
田端遺跡 田端地区B区70号住 (単位cm)

平面形 (方形) 規模 (275)×
面積 — 壁高 —
長軸方位 —

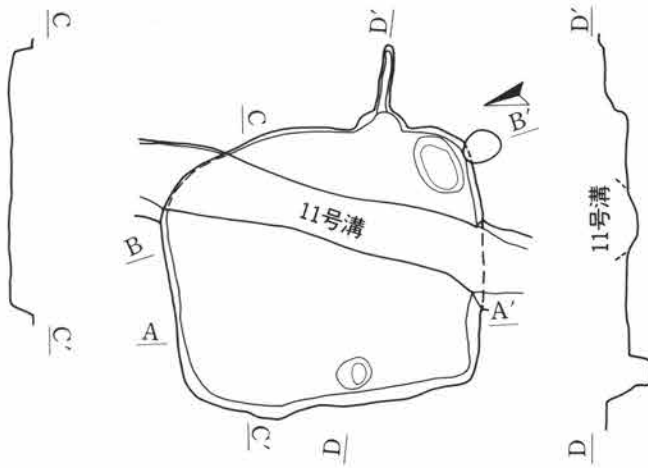
田端遺跡 田端地区B区72号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模 (214×197)
面積 (4.2)m ² 壁高 15~18
長軸方位 N35°E

72号住居跡
1 灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を含む

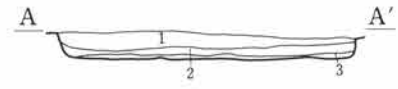


第504図 田端地区B区72号住居跡出土遺物

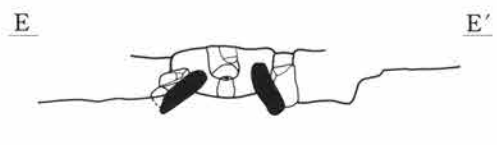
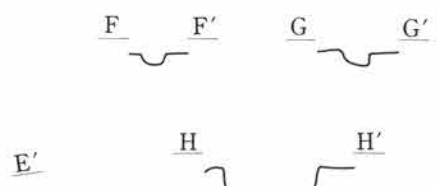
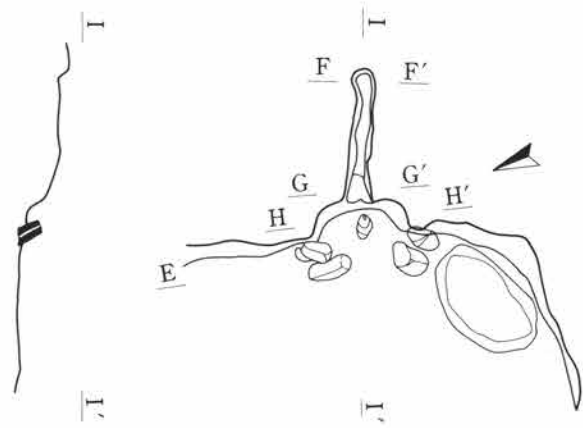
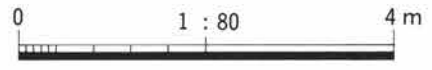


田端遺跡 田端地区B区71号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	(336)×294
面積	9.9m ² 壁高 18~26		
長軸方位	N10°E		
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N111°E 焚口部幅 — 燃焼部 35×18 煙道部幅 12 長さ 68 角度 20° 構築材粘土・石 支脚 フイゴ羽口転用		
貯蔵穴	位置 南東隅 平面形 楕円形 上バ 65×39 下バ 58×31 深さ 9		



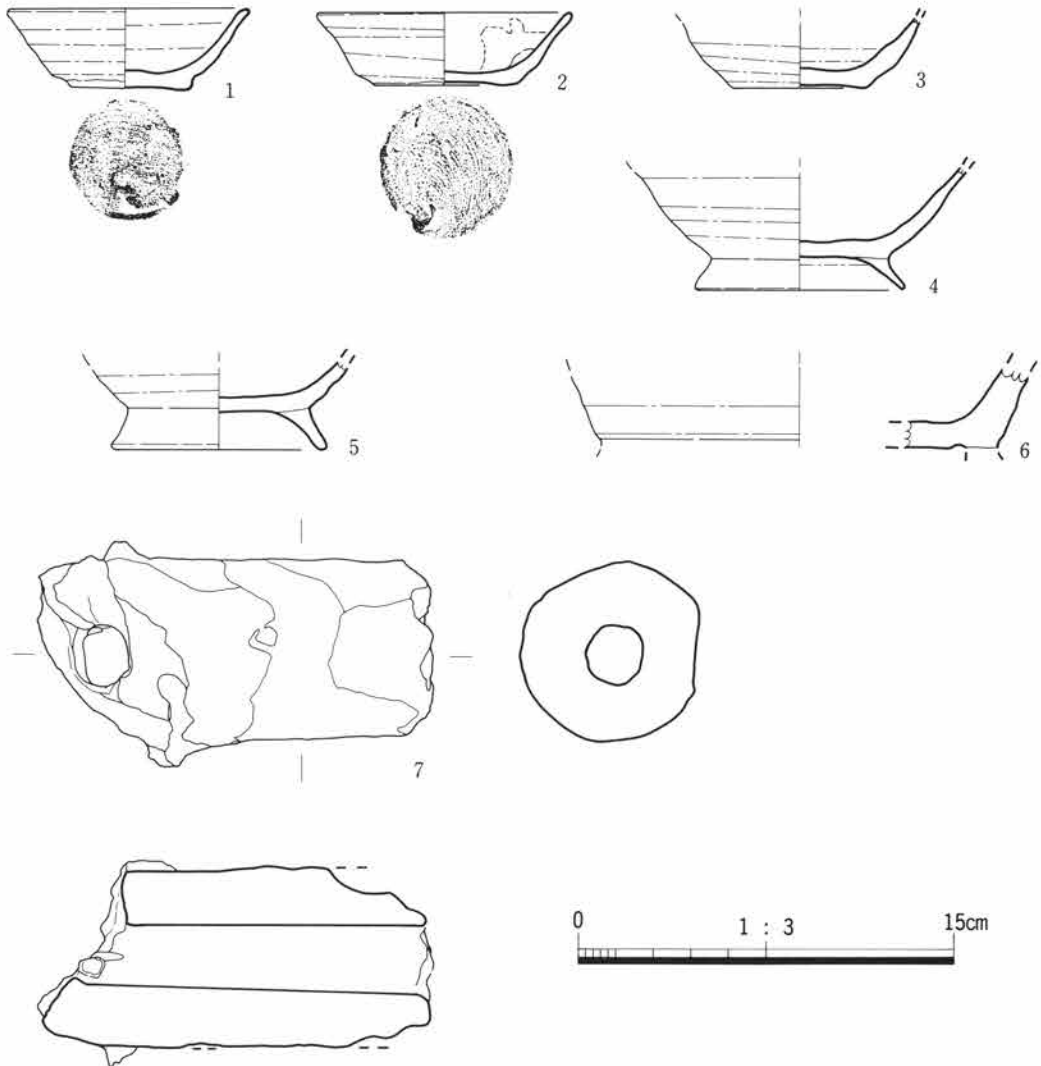
- 1 暗褐色土 ブロック状の黄褐色土・小石を含む
- 2 暗褐色土 斑点状の黄褐色土を含む
- 3 灰褐色土 炭化物粒子を含む



第505図 田端地区B区71号住居跡



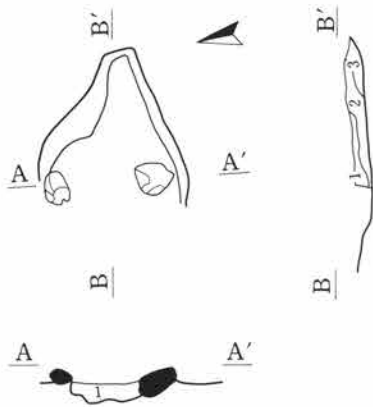
第506図
田端地区
B区71号住居跡



第507図 田端地区B区71号住居跡出土遺物



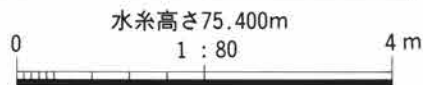
第508図 田端地区B区71号住居跡



- 1 灰褐色土 灰・炭化物・焼土ブロックを含む
- 2 褐色土 灰・炭化物を含む
- 3 暗褐色土 灰・炭化物を含む

田端遺跡 田端地区B区73号住 (単位cm)

平面形	不明	規模	不明
面積	不明	壁高	不明
長軸方位	—		
カマド位置	—対称軸方位 N102°E		
焚口部幅	(35)	燃焼部	60×
煙道部幅	25	長さ	25 角度 —
構築材	粘土・石		



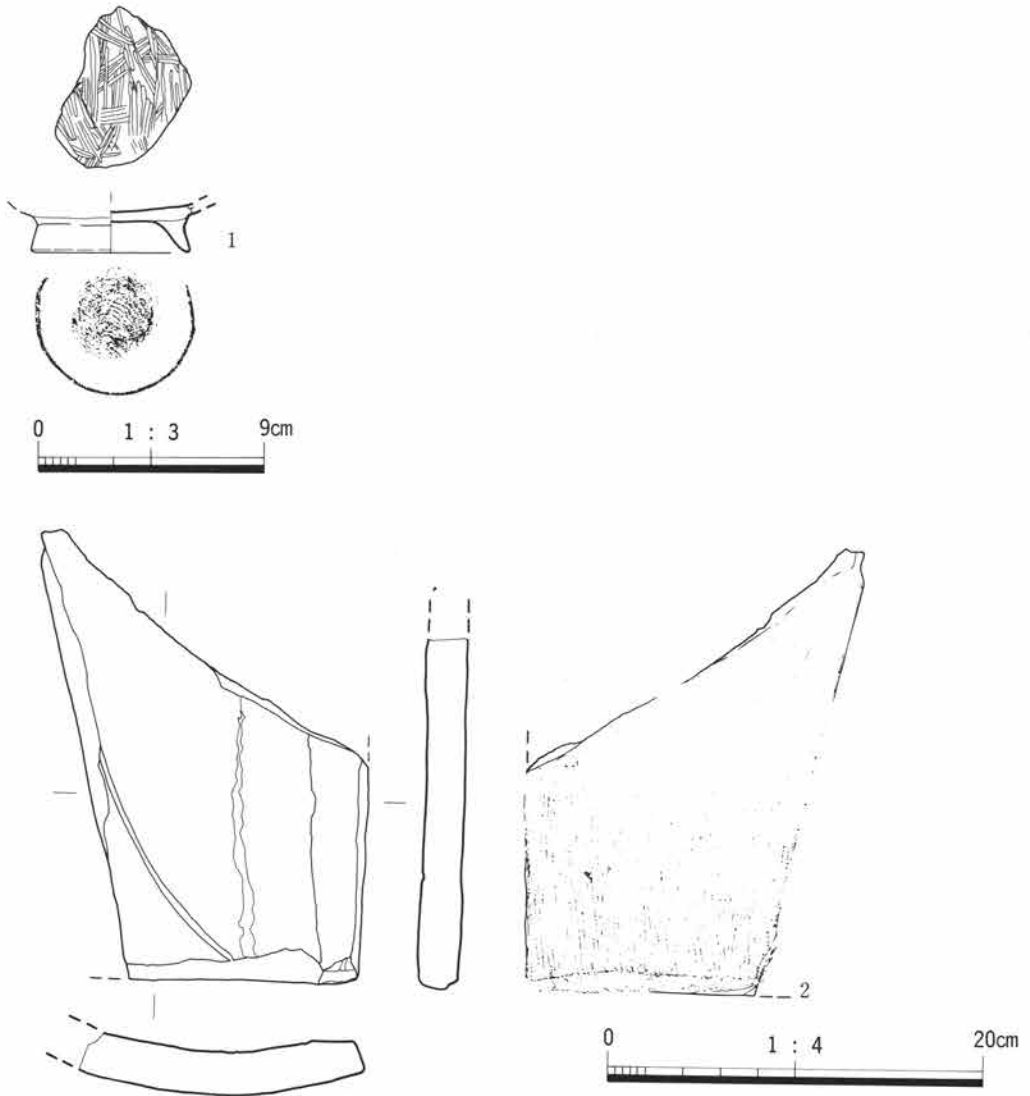
第509図 田端地区B区73号住居跡

田端B区第73号住居跡 (第509・510図、図版189)

P-Qライン・71km287m付近で検出した。確認面は第4層である。3号掘立柱建物跡と重複しているが、前後関係は不明である。周辺の63・77・68・78・69・80・95・74号住居と重複するはずであるが、本住居のプランを検出できなかったため、それらとの前後関係も不明である。

本住居はカマドの一部を検出したにとどまる。カマドの左右の袖部を構成するとみられる15~20cm大の石が出土し、燃烧部底面からは第510図1の黒色土器が出土した。

時期は10世紀後半~11世紀が考えられる。



第510図 田端地区B区73号住居跡出土遺物

田端B区第74号住居跡 (第511・512図、図版129)

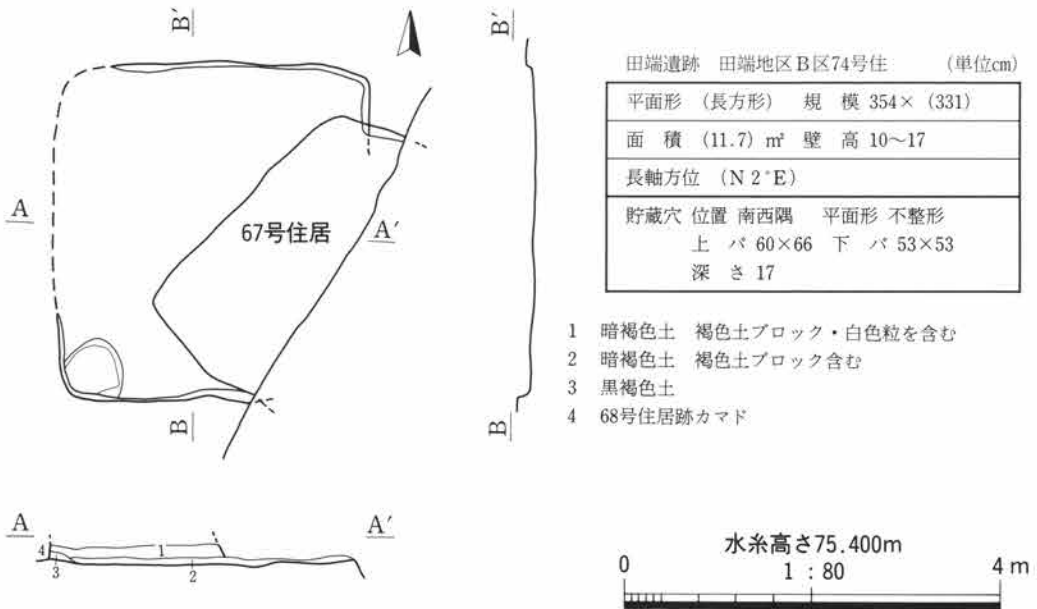
O-Pライン・71km287m付近で検出した。確認面は第4層である。67・68号住居、171・178・179号土坑と重複している。住居・土坑はすべて本住居よりも新しい。南東隅は67号住居とゴミ穴、北西隅は68号住居によって破壊されている。覆土は浅く、自然に堆積している。床面は中央部がやや高く、周辺が低い。支柱穴・壁溝・カマドは不明である。貯蔵穴は南西隅の掘り込みと考えられる。

遺物は床面近くの出土がなく、すべて覆土出土の参考品である。

時期は67・68号住居以前で、第512図の遺物から8世紀代を推定しておく。

田端B区第75号住居跡

北側を56号住居、西側を70号住居、南側を現代のゴミ穴と37号住居によって破壊され、南東隅とみられる部分を検出したが、遺物の出土がなく、焼土も検出できず、プランも明確ではないため、本住居跡は欠番とする。



第511図 田端地区B区74号住居跡

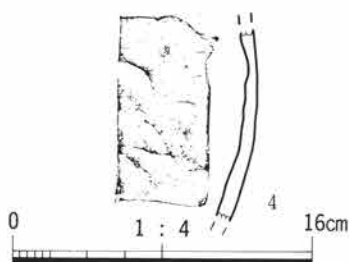
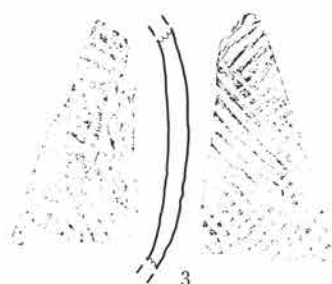
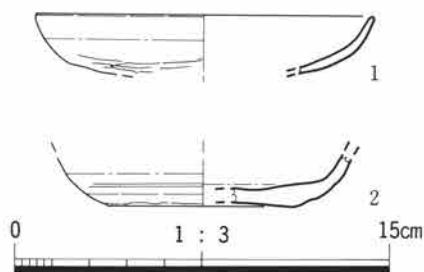
田端B区第77号住居跡 (第513図、図版129)

Qライン・71km289m付近で検出した。本住居は63号住居の床下と東壁面にカマドを確認したもので、住居のプランは63号住居によって破壊され不明である。第513図では住居の北東隅とみられる部分を検

出しているが、調査が不十分なため確定しがたい。

本住居は遺物の出土もなく、詳細は不明である。

時期は63号住居以前である。



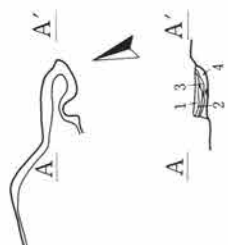
第512図 田端地区B区74号住居跡出土遺物

田端B区第78号住居跡

(第514～516・518図、図版130・189)

O-Pライン・71km291m付近で検出した。確認面は第4層である。68・69・80・95号住居と重複し、80→95→78→69号、78→68号の順に新しい。本住居の下層からは調査時点で86号住居と呼んだ遺構を検出しているが、86号は78号の内側に収まり、この辺に対応する各隅やカマドを検出していないことから、整理の過程で78号の床下遺構と認定した。同じく83号と呼んだ辺は78号の南辺とした。

78号住居は北東隅のプランが不明瞭であるが、東辺よりも西辺の方が長い台形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は70～80°で立ち上がり、床面は平らである。主柱穴とみられるピットは南西隅に一つ検出したが(径約30cm・深さ10cm)、これに対応するピットは発見していない。壁溝は西辺～南辺で断続的に検出している。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、燃焼部奥は丸みをもって狭まり、煙道部につながる。焚口は破壊されているようで、カマド前周辺と西辺際に人頭

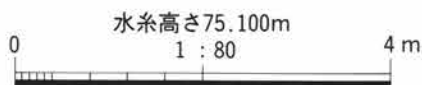


カマド

- 1 褐色土 灰・炭化物を含む
- 2 褐色土 焼土ブロック・灰を含む
- 3 灰・炭の層
- 4 褐色土 灰・炭化物を含む

田端遺跡 田端地区B区77号住 (単位cm)

平面形	不明	規模	不明
面積	—	壁高	7
長軸方位	不明		
カマド位置	東辺	対称軸方位	N111°E

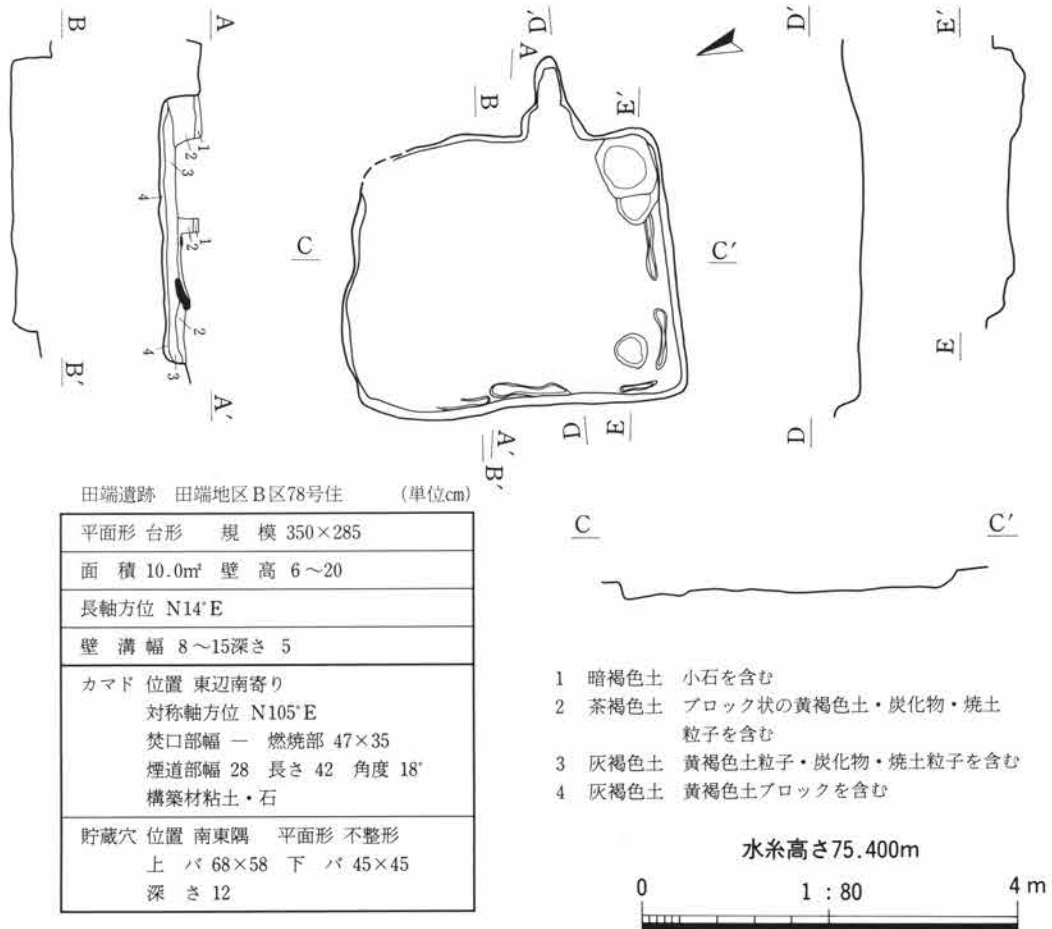


第513図 田端地区B区77号住居跡

大の石が散乱していた。貯蔵穴は南東隅にあり、西側に一回り小さなピットが接している。カマド下の調査では、カマド左袖付近で径35cm程のピット、燃烧部内で径10cm未満・深さ10~20cmのピットを6個検出した。

遺物は少なく、第518図1は東辺の壁際から、2は中央部西側の床面から、3は北東隅床面からそれぞれ出土した。1の口縁部は玉縁状に丸みをもつ。2は左回転の糸切りで切り離しているらしく、本遺跡では少ない資料である。3は頸部以上を打ち欠いたか、または割れたものを補修利用したとみられ、生きている端部(図の上部)は平坦面をもち、その内外端に面取りを施している。

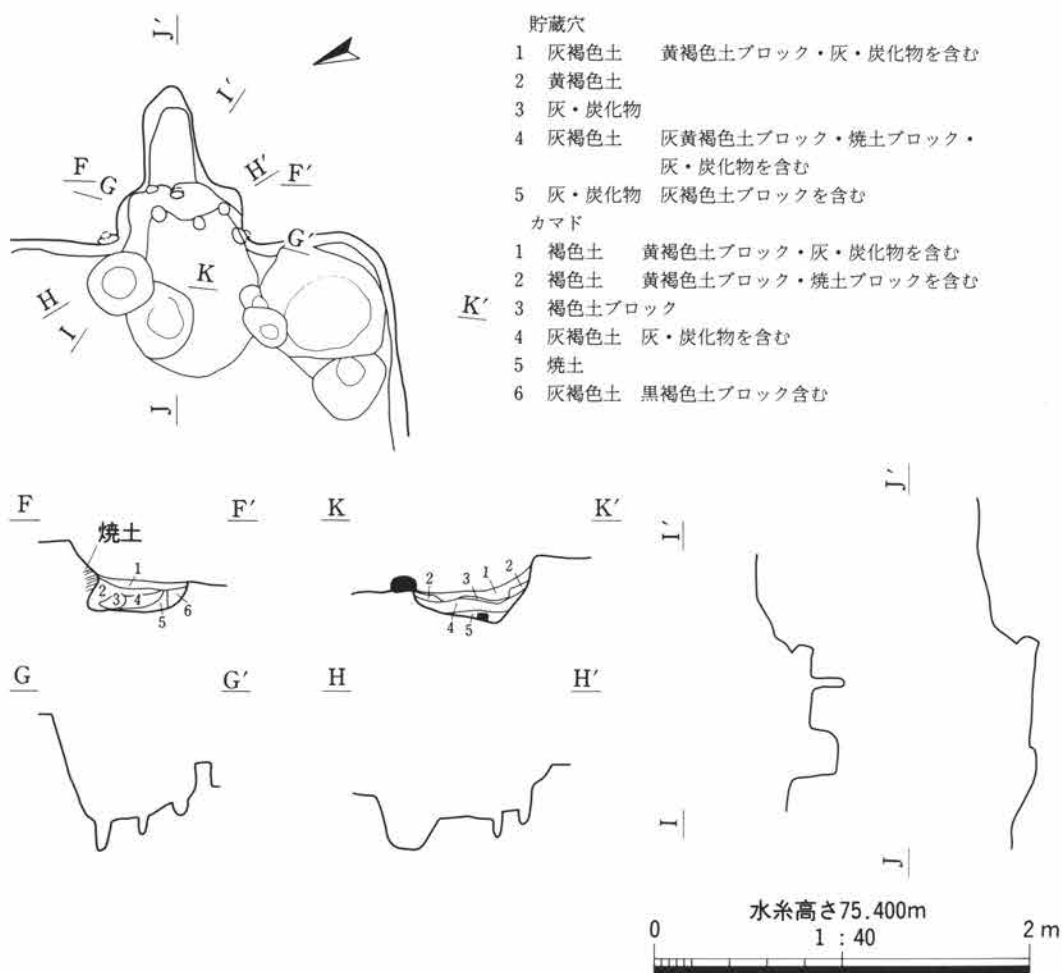
時期は9世紀後半と考えられる。



第514図 田端地区B区78号住居跡(1)



第515図 田端地区B区78号住居跡



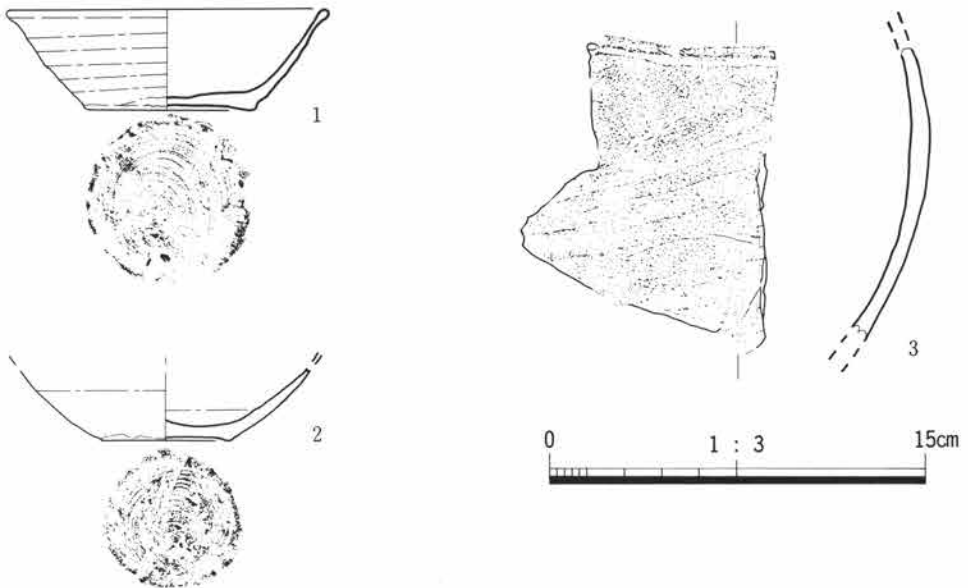
第516図 田端地区B区78号住居跡 (2)

田端B区第80号住居跡（第517・519・520図、図版130・131・189）

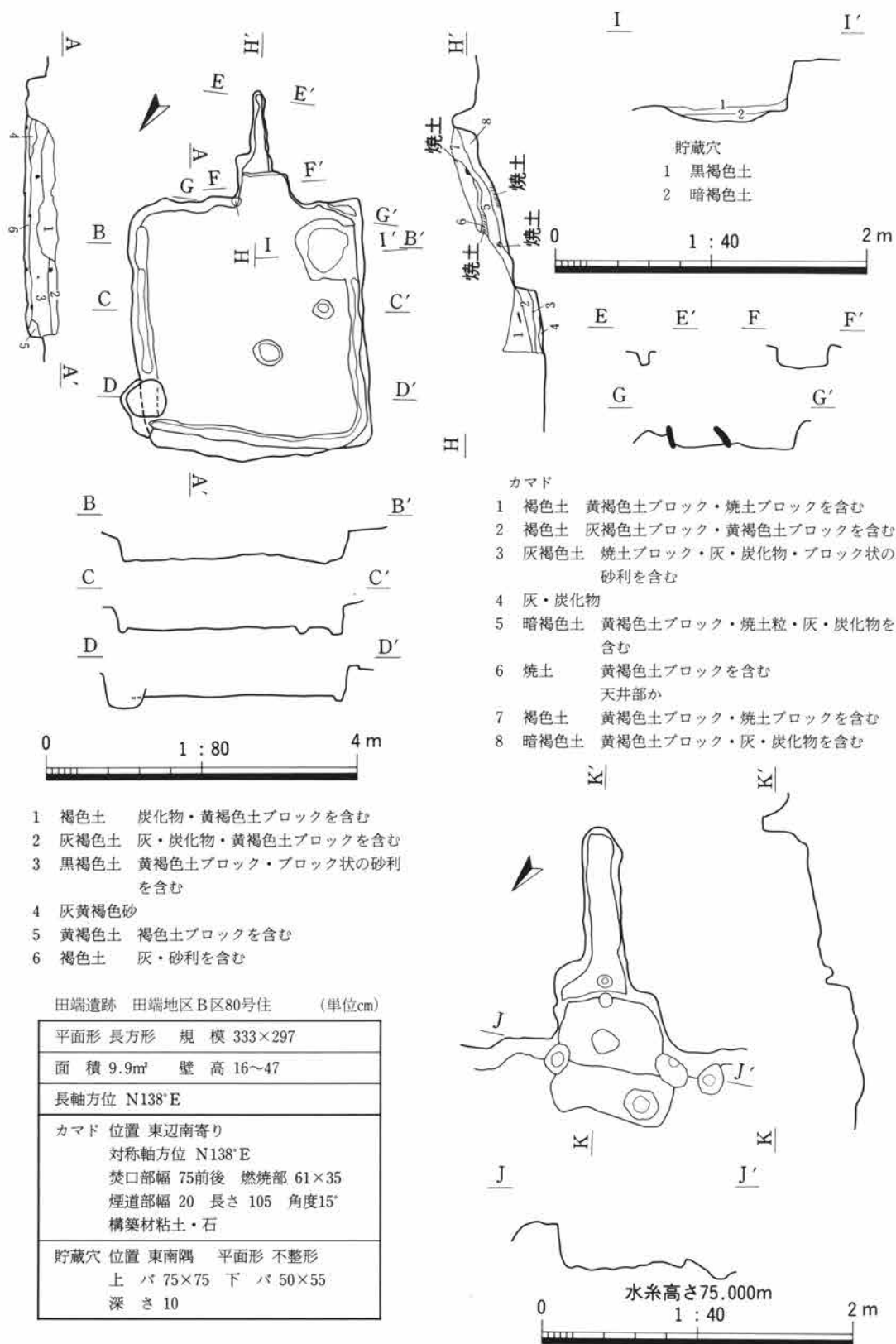
Pライン・71km290m付近で検出した。本住居は63号住居の床下調査をした時点で、南西隅に落ち込みを認め、掘り下げたところで深い北東隅を検出したものである。また、95号住居のカマド調査中には



第517図 田端地区B区80号住居跡



第518図 田端地区B区78号住居跡出土遺物



第519図 田端地区B区80号住居跡

一基のカマドとしては焼土の分布範囲が広く、煙道も二方向に延びていることを確認した。本住居の調査は、63・69・78・95号住居の調査終了後着手した。本住居はこれらのうちで最も古く、前後の関係は80→95→78→63→69号の順に新しい。

覆土は自然に堆積している。覆土中第519図4層は灰黄褐色砂の層で、その直上の3層にもブロック状の砂を含んでおり、またカマド中にも砂を含んだ層のあることから、本住居は廃棄後河川氾濫等によって竪穴住居の中位まで埋まったと考えられる。他の住居に比べて遺存状態が良好で、壁の高さは50cm前後あり、70～80°で立ちあがる。床面は平坦である。主柱穴とみられるピットは検出していないが、住居中央やや西寄りに径35cm・深さ5cmのピットを検出している。壁溝はカマドの設置された東辺を除き、北東隅～南東の貯蔵穴まで巡る。南東隅は三角形のテラス状を呈する段をもつ。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が壁外に突出し、燃焼部奥壁は凸形に狭くなって煙道につながるタイプである。両袖の位置からは長さ15～20cmの石が、左袖石はほぼ直立したままで、右袖石は内側に傾いて出土した。カマド周辺の石・焼土・灰・炭化物等を取り除くと、カマド掘形は第519図のようになっていた。カマド前は浅く掘り込まれ、袖石を据えるための穴を掘り込んでいる。貯蔵穴はカマド右側の南東隅に検出した。壁の遺存状態が良い割には、貯蔵穴の深さは浅い。第519図南西部の深い掘り込みは重複住居81号住居の貯蔵穴である。

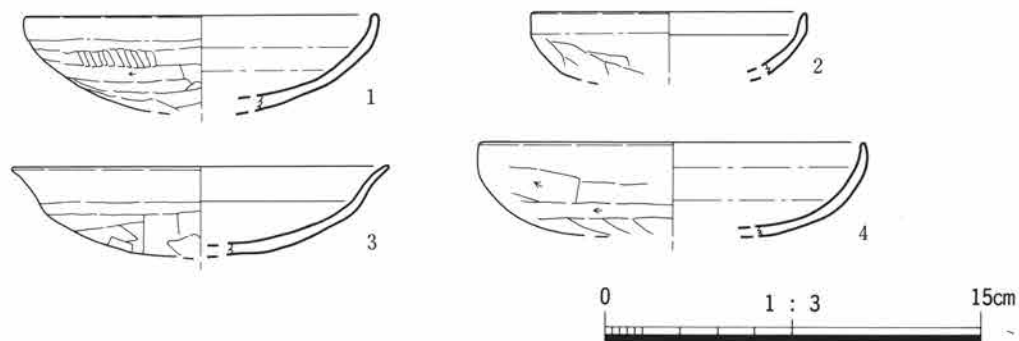
遺物は第520図1～3がカマド内から出土した。4は覆土出土の参考品である。

時期は8世紀後半と考えられる。

このことから、住居の埋没過程における「洪水」は重複住居の前後関係から勘案すると、本住居の示す8世紀後半から78号住居の示す9世紀後半の間に起こったと推定できる。

田端B区第81・92号住居跡（第521～523図、図版131・190・191）

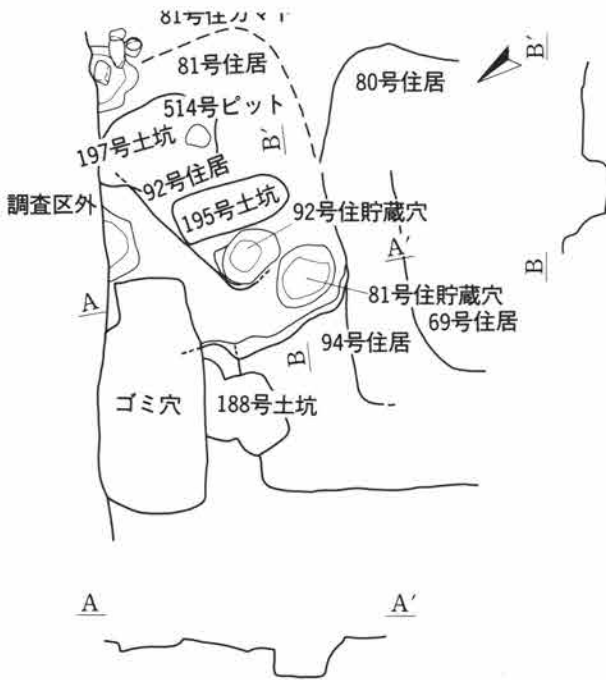
P-Qライン・71km290m付近で検出した。63号住居の下層で確認したものである。住居の北半は調査区域外であり、カマドも南半分の検出である。本住居は南東隅を63号住居によって破壊され、住居内部は195・197号土坑、現代のゴミ穴が破壊している。周辺の遺構との関係を整理すれば概ね以下のようになる。



第520図 田端地区B区80号住居跡出土遺物



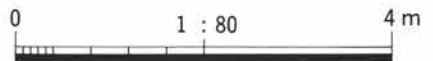
第521図 田端地区B区81・92号住居跡



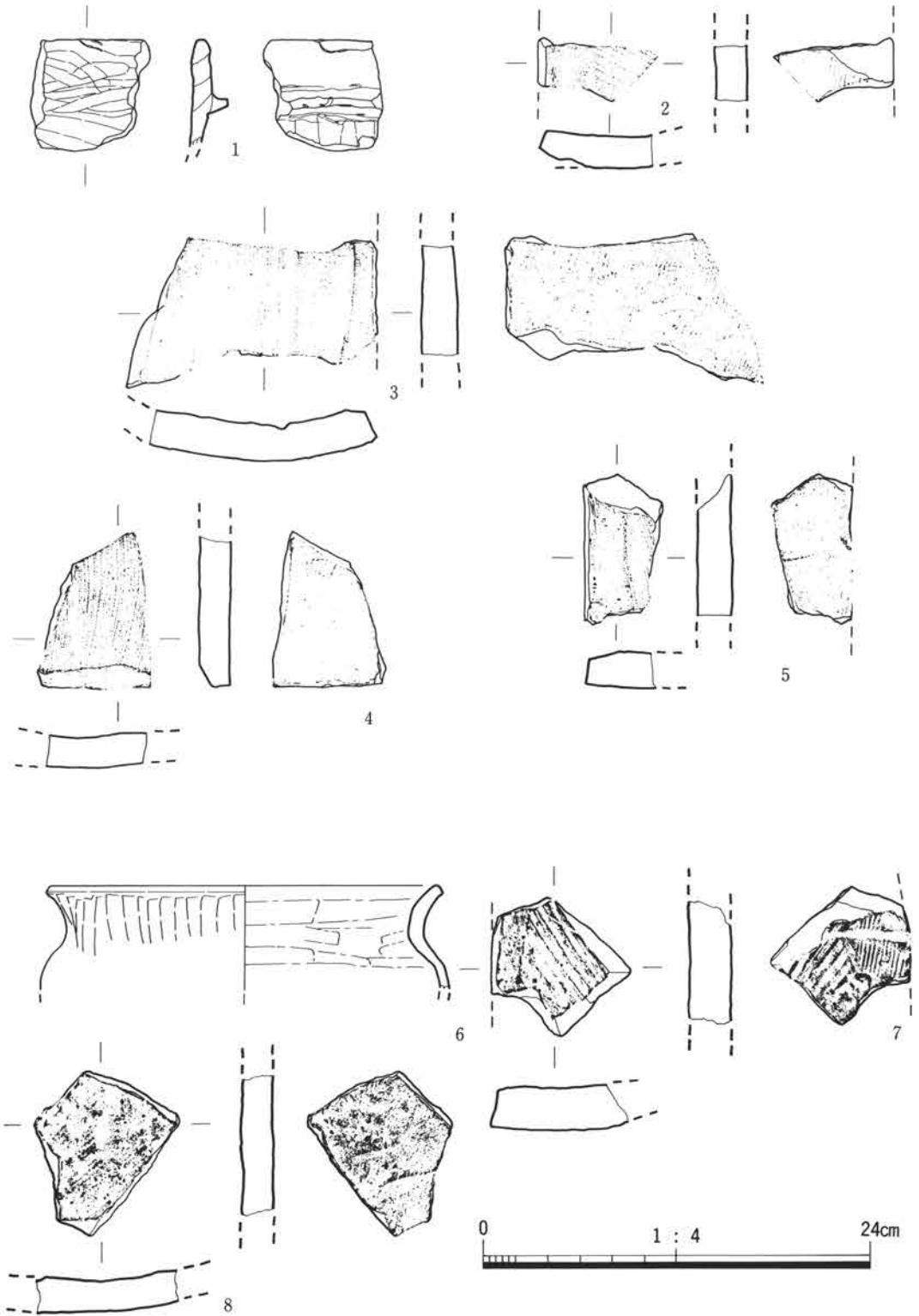
田端遺跡 田端地区B区81号住 (単位cm)

平面形 (方形) 規模 不明
面積 — 壁高 0~20
長軸方位 —
カマド 位置 東辺対称軸方位 — 構築材粘土・石
貯蔵穴 位置 南西隅 平面形 楕円形 上バ 75×55 下バ 45×40 深さ 29

水糸高さ75.200m



第522図 田端地区B区81・92号住居跡



第523図 田端地区B区81・92号住居跡出土遺物

81号住居の南側は10軒の住居が重複しており、その内3軒は80→95→69号の順に新しい。63号は95・81・80・77・66号の5軒を切っており、最も新しい住居である。81号住居の南西部には明瞭な北西隅を示す壁溝を検出しており、さらにその南側に79号住居として検出した貯蔵穴と考え合わせると、95号住居のプランは188号土坑に切られた壁溝あたりを北西隅とし、79号住居として確認した貯蔵穴付近を南西隅、東側にカマドを持つ住居と推定できる。このカマドは一部を63号住居によって切られている。81号住居中央部で確認した92号住居は壁の立ち上がりが殆ど検出できず、北辺の一部と北西隅に位置する貯蔵穴を検出したのみである。92号住居は81号住居の下層から検出しており、従って63号住居よりも古い。92号住居は独立した住居の場合もあるが、77号住居の北辺の可能性もあろう。81号住居の南辺の西側に94号住居として確認した北西隅がある。94号住居はこれに対応するカマドの痕跡すら検出していないことから、ここでは95号住居の床面を形成するための掘り込みであったと考えたい。

81号住居では支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは南半を検出しただけであり、構築材とみられる石が3個出土している。南西隅に位置する貯蔵穴は第522図のようにしっかりしている。

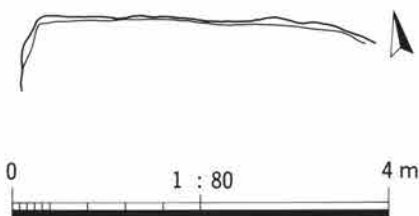
92号住居は北辺の一部と北西隅に位置する貯蔵穴を検出したが、詳細は不明である。貯蔵穴の中から土器が2片出土している。

遺物は2軒とも小片のみである。第523図2は81号住居貯蔵穴から出土したが、他の遺物は覆土出土の参考品である。

時期は63号住居との関係を勘案すれば、10世紀後半～11世紀と考えられる。

田端B区第84号住居跡（第524図）

P-Qライン・71km291m付近で検出した。確認面は第4層である。北西隅を検出したが、北辺は78号住居に一致し、西辺は50cm程で途切れてしまう。68号住居の南側にある499ピット・201土坑、181土坑周辺のピットは本住居の貯蔵穴の可能性がある。本遺跡の傾向として東側または北側にカマドが位置



田端遺跡 田端地区B区84号住 (単位cm)

平面形	不明	規模	不明
面積	—	壁高	5～18
長軸方位	—		

第524図 田端地区B区84号住居跡

するが、本住居の場合、北側ではその痕跡も発見できず、東側は68号住居によって破壊されているため、カマドを検出していない。したがって詳細は不明である。遺物の出土はない。

田端B区第85号住居跡（第525図）

N-Oライン・71km287m付近で検出した。確認面は第4層である。34・56・60・87号住居、ピット499号と重複している。34・56・60号住居との新旧関係は確認できなかった。56号住居の壁面を精査した時点で住居の存在を知ったものである。87→85号住居→ピット499号の順に新しい。覆土は床面直上の土層のみ遺存していた。西辺は浅く、プランは推定である。支柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴はいずれも不明である。遺物は出土していない。

田端B区第87号住居跡（第526図、図版132）

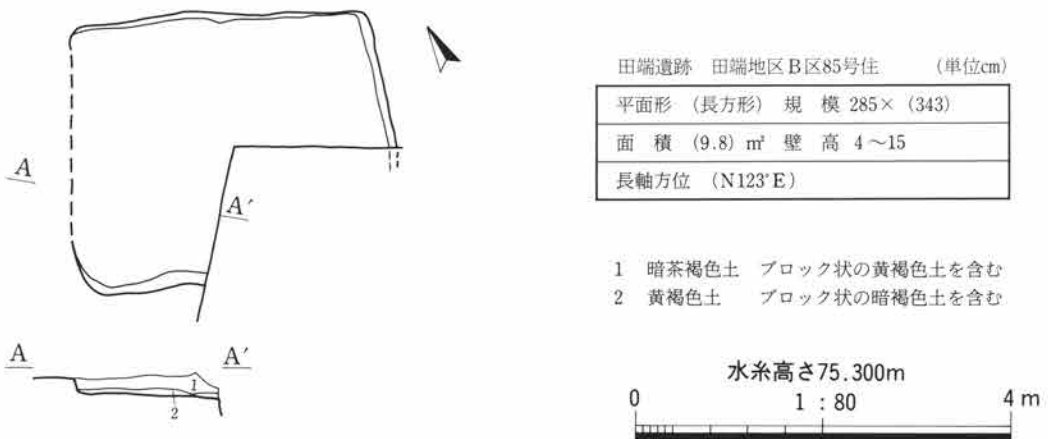
N-Oライン・71km287m付近で検出した。本住居は85号住居の床面下で確認したものである。従って85→87号住居の順に新しい。ピット512号は上層の掘立柱建物を構成する掘り込みである。南東隅は現代のゴミ穴によって破壊されている。壁は北西隅が約20cmの高さで最も遺存状態が良い。支柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴等は不明である。遺物は出土していない。

田端B区第88号住居跡

Qライン・71km287m付近の調査区壁で検出した。確認面は第4層である。66号住居と重複しているが、壁面に立ち上がりを確認したのみで、平面的な検出はできなかった。土坑の可能性もあるが、ここでは調査当時の番号を生かしたままとする。実態が不明なので、遺構図・遺物図とも省略する。

田端B区第89号住居跡（第527～529図、図版132・133・190）

Oライン・71km294m付近で検出した。確認面は第4層である。145号住居・11号溝と重複している。カマド前を南北に11号溝が切り、南西隅近くには145号住居が重複する。145号住居は本住居よりも古く、従ってこれらは145→89→11号の順に新しい。北辺中央には244号土坑が重複するが、本住居より



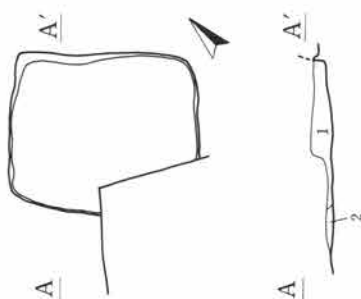
第525図 田端地区B区85号住居跡

も新しい。プランは以上の重複により、一部の辺が破壊されているが、ほぼ確認することができた。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存が良好で、30cm前後あり、斜めに立ち上がる。床面は西側がやや高い。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝はカマド前と南東隅を除き、確認した。南辺は中央部まで壁溝が延びるが貯蔵穴には接していない。カマドは東辺やや南寄りに検出した。燃焼部の半分程が壁外に突出するタイプである。右袖の下部から凝灰岩を長方形に加工した石が出土しており、カマド掘形の調査では両袖下に径20～30cm・深さ5～10cmの掘り込みを確認している。袖の構築材に石を据えた跡であろう。遺物の大半はカマド内から出土している。貯蔵穴は南東隅で検出した。長方形を呈する、やや浅い掘り込みである。中から土器片が出土した。

遺物はカマド周辺からの出土が多い。第528図1はカマド底面から、2はカマド前床面から、3～8はカマド内から、9はカマド左前の床面からそれぞれ出土した。10はカマド掘形出土の参考品である。時期は9世紀後半と考えられる。

田端B区第95号住居跡（第530～532図、図版133・191）

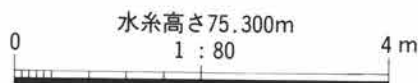
Pライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居の周辺は総計10軒の住居が複雑に重複しており、調査時点でのプラン・床面の認定に誤認・誤解がいくつか生じている。重複した他の住居の遺物を本住居のものとして取り上げるなど、調査の不手際があり、以下では整理を進めるうちにプランや遺物等が整合的に理解出来た部分について記したい。



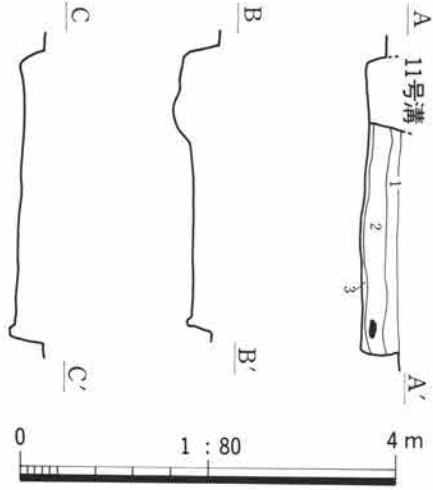
- 1 暗茶褐色土 黄褐色土粒子を含む
- 2 暗褐色土

田端遺跡 田端地区B区87号住 (単位cm)

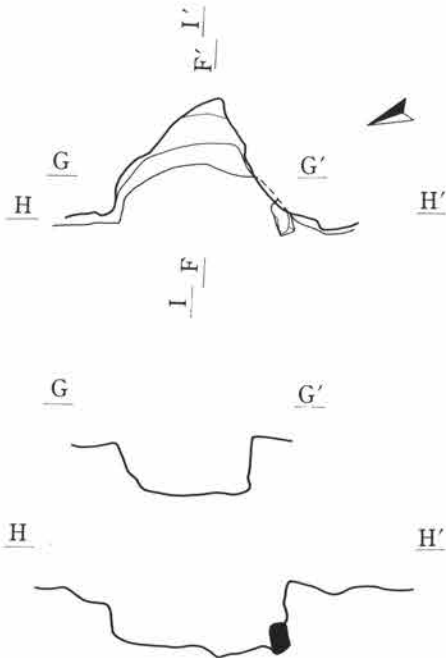
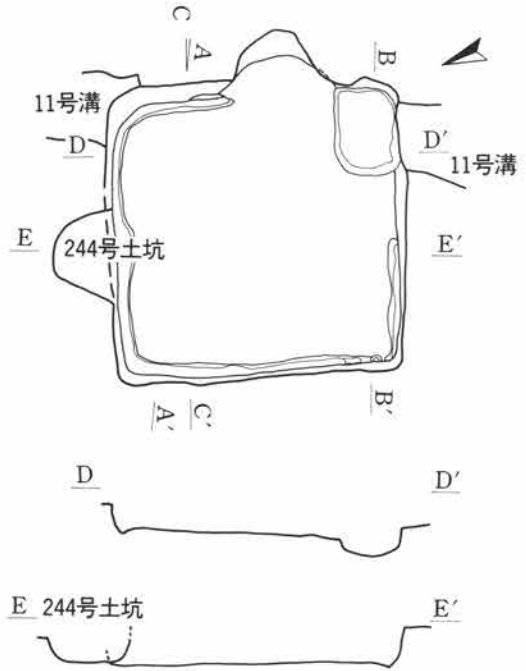
平面形 長方形 規模 206×170
面積 3.5㎡ 壁高 1～20
長軸方位 N142°E



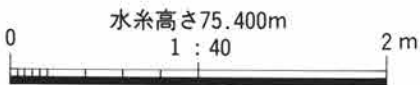
第526図 田端地区B区87号住居跡



- 1 暗褐色土 炭化物・小石を含む
- 2 暗褐色土 斑点状の黄褐色土・小石を含む
- 3 灰褐色土 黄褐色土ブロックを含む



- カマド
- 1 褐色土 灰褐色土ブロック・焼土ブロック・灰・炭化物を含む
 - 2 灰・炭化物
 - 3 灰・炭化物 焼土・黄褐色土ブロックを含む
 - 4 灰褐色土 焼土ブロックを含む

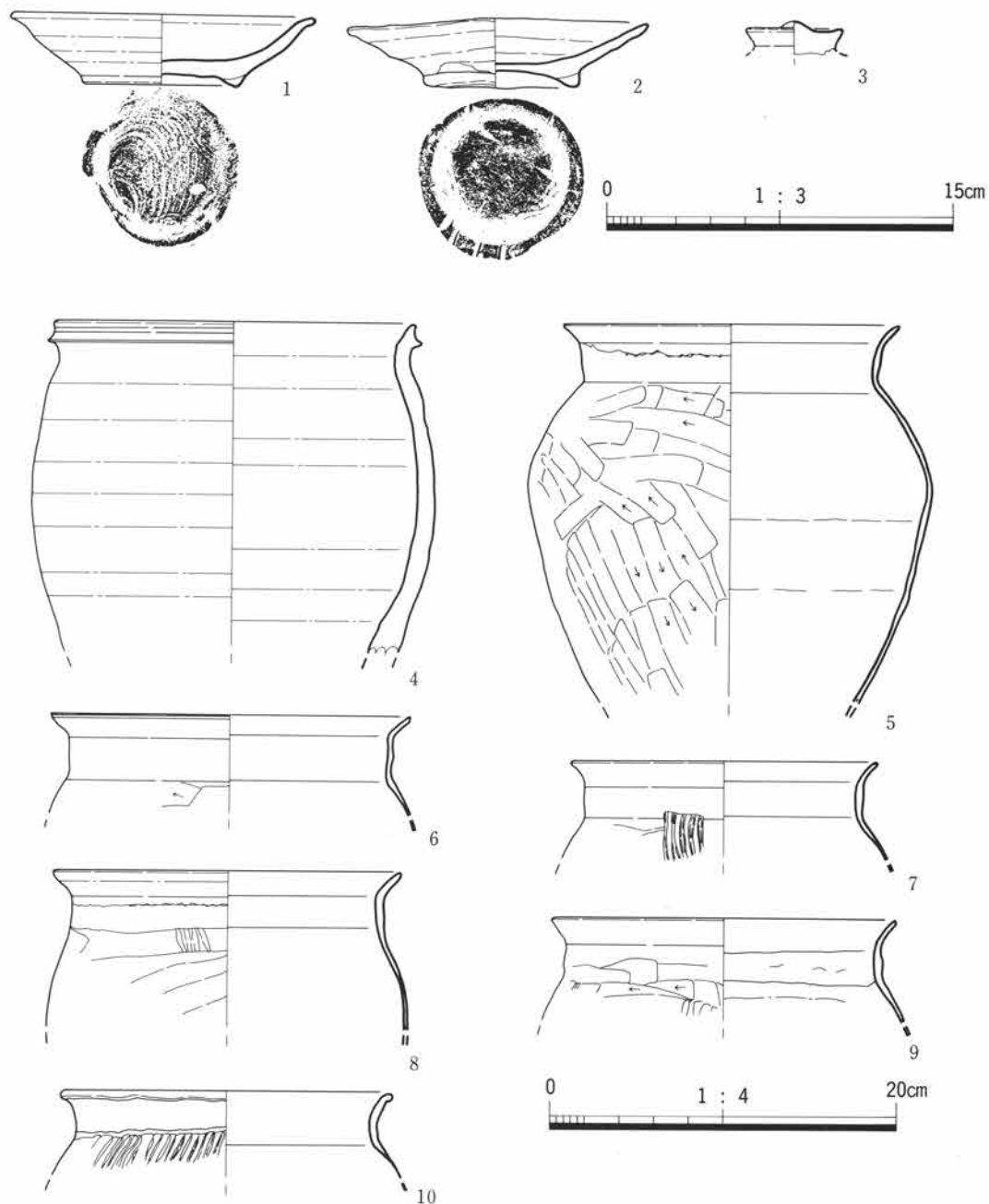


第527図 田端地区B区89号住居跡

田端遺跡 田端地区B区89号住 (単位cm)

平面形	方形	規模	321×317
面積	10.2㎡	壁高	24~33
長軸方位	N12°E		
壁溝幅	8~15	深さ	2~4
カマド位置	東辺やや南		
対称軸方位	N109°E		
焚口部幅	—	燃焼部	80×35
構築材	粘土・石		
貯蔵穴位置	南東隅 平面形 長方形		
上バ	91×66	下バ	80×60
深さ	17		

本住居は63・69・78・80・81号住居と重複している。80→81→95・78→63・69号住居の順に新しい。95・78号、63・69号との関係は不明である。住居のプランは北西隅の壁溝と南西隅の貯蔵穴、東辺南寄りに設置されたカマドの南半部を検出したが、中央部は重複した住居によって破壊されており、詳細は不明である。重複している土坑・ピットはすべて上層からの掘り込みであり、11号溝は本住居の南西隅を破壊して延びている。



第528図 田端地区B区89号住居跡出土遺物

遺物は第532図1がカマド前の床面から、2・4がカマド内から、3はカマド前の床面から、5は貯蔵穴から出土している。3は口唇部外端に明瞭な凹線をもち、5は酸化焼成で甗の可能性はある。時期は9世紀後半～10世紀初めごろと考えられる。



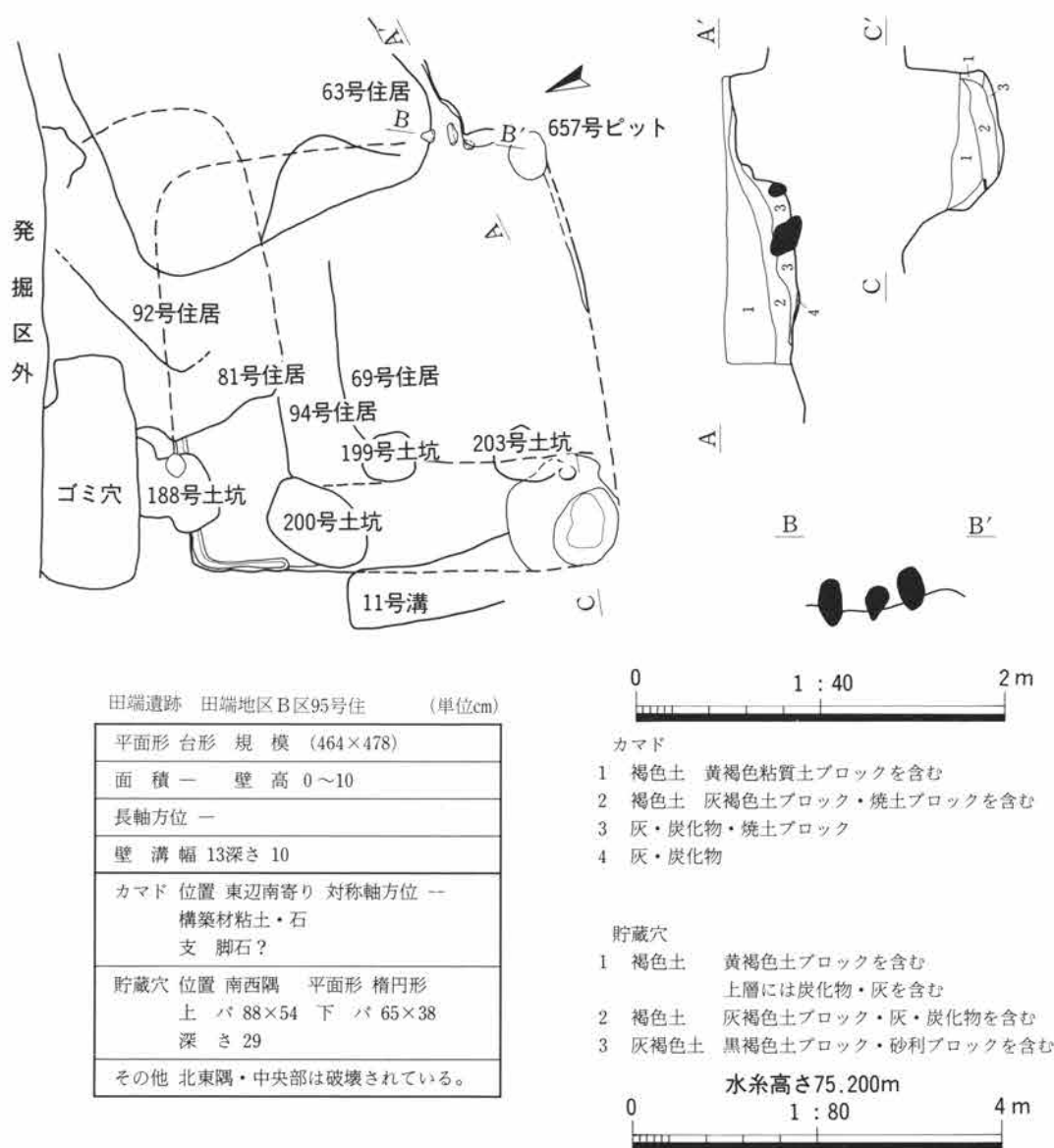
第529図 田端地区B区89号住居跡



第530図 田端地区B区95号住居跡

田端B区第98号住居跡 (第533・534図、図版134・192)

Kライン・71km294m付近で検出した。確認面は第4層である。99号住居、11号溝、225号土坑と重複している。これらは99→98→225→11号の順に新しい。本住居の東辺は最近のゴミ穴と225号土坑によって失っている。覆土は自然に堆積している。壁は西辺で30cmほど遺存しており、他の辺はこれより浅く、斜めに立ち上がる。床面は平坦で東側はやや高く、カマド前は低い。支柱穴は検出していない。壁溝は西辺・北辺で検出した。北東隅は2号土坑に向かって開いている。カマドは東辺南寄りで検出した。北側の半分をゴミ穴によって破壊され、確認したのは南半分である。また、燃烧部の先端から煙道部にかけては11号溝によって失っている。南東隅の検出状況からみると、本住居のカマド燃烧部は壁外に突出するタイプとみられるが、東辺の形状が不整形であるため、燃烧部の約半分が突出す



第531図 田端地区B区95号住居跡

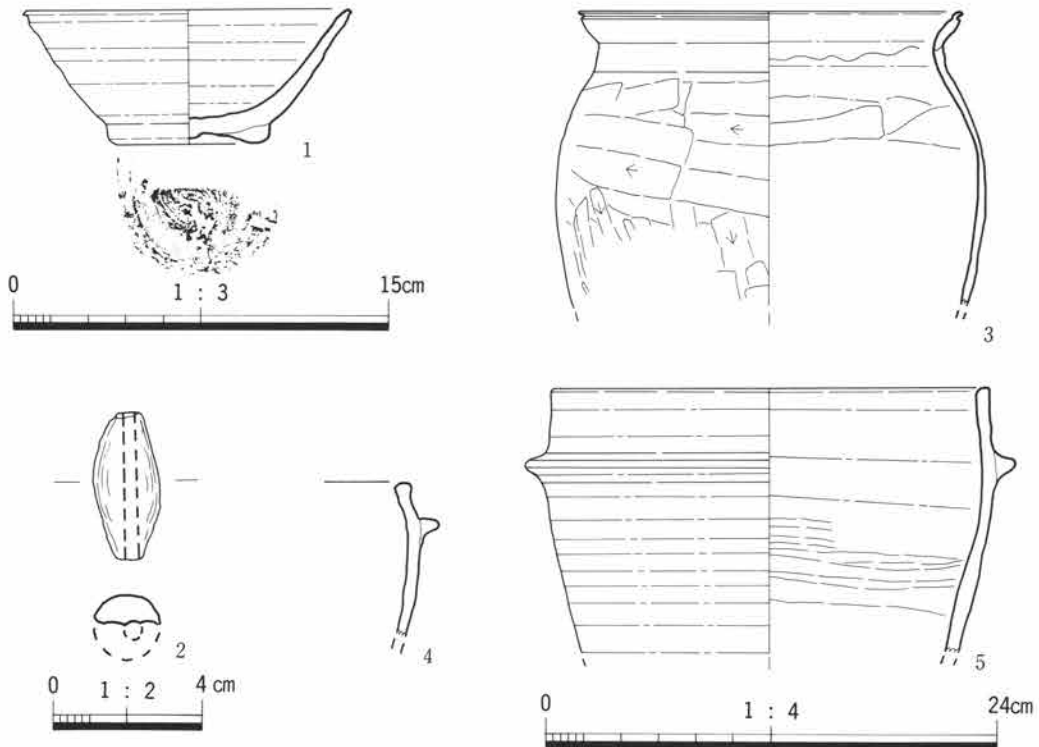
るタイプかもしれない。右袖部の位置からは石が立てた状態で出土した。貯蔵穴は北東隅に突出する2号土坑に可能性があるが、深さ5cmと浅く、確定的ではない。西辺中央部の壁近くに、一部をゴミ穴によって破壊されている1号土坑を検出した。全体に楕円形を呈する。北東隅は南辺に比べて突出しており、そこに2号土坑を検出した。内部は浅いくぼみをもつ程度の掘り込みである。

遺物はカマド前から1号土坑にかけて出土している。第534図1は小型の壺で中央部床面から、2はカマド内から、3は南西隅寄りの床面から、4はカマド前の床面からそれぞれ出土した。また、カマド右脇の床面から3と同一個体とみられる体部破片が、第1土坑内から灰釉陶器壺?の破片が出土している。

時期は10世紀後半～11世紀とみられる。

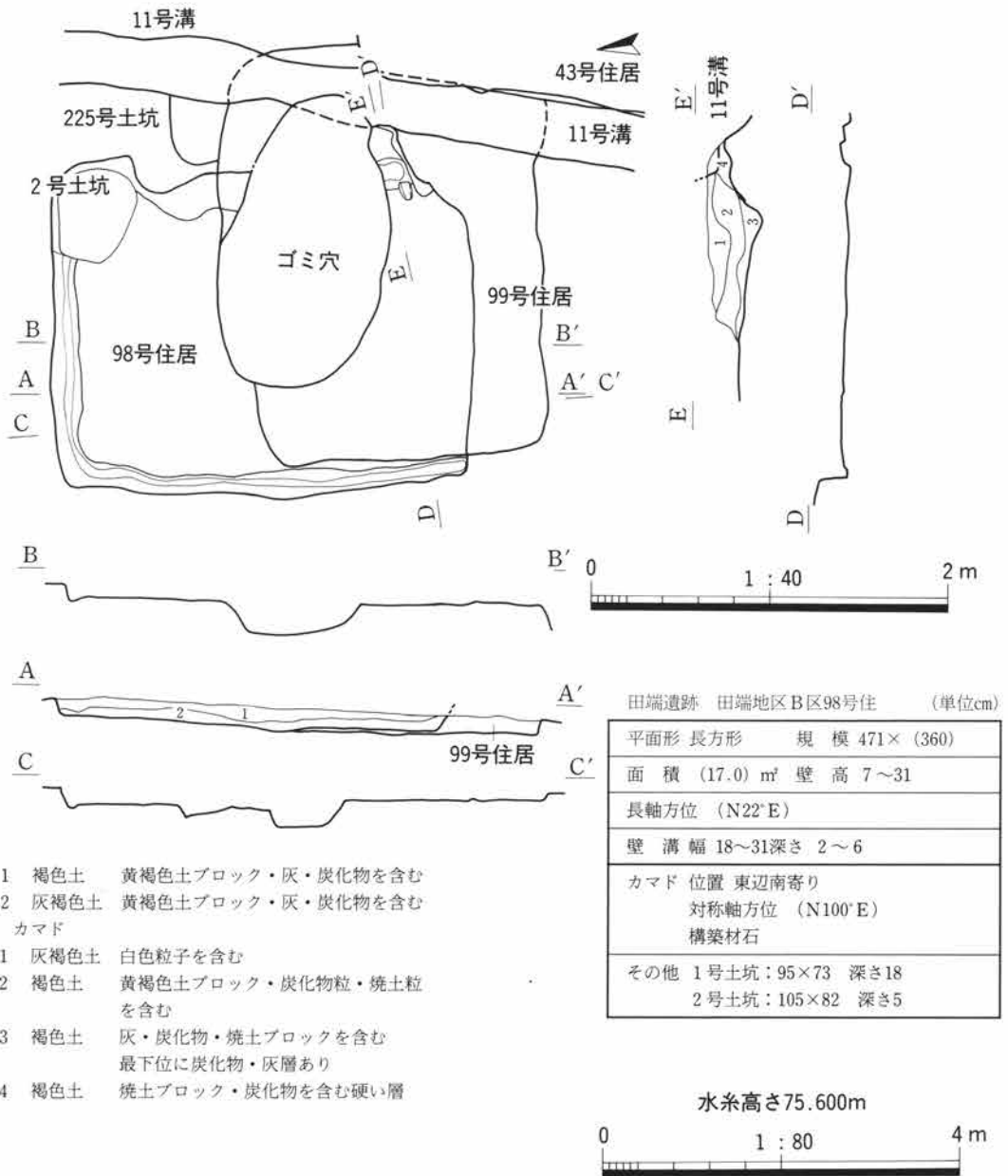
田端B区第99号住居跡（第535・537図、図版135）

J-Kライン・71km294m付近で検出した。確認面は第4層である。43・98号住居、11号溝、225号土坑と重複している。これは99→98・43→225→11号の順に新しく、43号住居と98号住居との前後関係は不明である。本住居は重複関係のなかで最も古いことになる。住居中央部の北半は最近のゴミ穴によって失い、カマドを含む南東隅は11号溝と43号住居によって破壊されている。調査着手の時点で本



第532図 田端地区B区95号住居跡出土遺物

住居のプランを確認することができず、南辺を北側に重複する98号住居の一部とみて掘り下げてしまったため、98号住居の南辺立ち上がりを検出できなかった。南東隅は43号住居の床下調査で検出したものである。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良好で、30cm前後が残っており、ほぼ直立して立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺中央部で、43号住居の床下から痕跡を検出した。燃烧部の半分が壁外に突出するタイプと考えられる。袖部・煙道部は検出していない。南東隅から南辺の東半にかけて、幅50cm・長さ200cmの範囲に大小の掘り込みを検出した(带状土坑と呼んでおく)。最深部は東端の掘り込みで、深さ30cmを測り、ここが貯蔵穴であった可能性が高い。



第533図 田端地区B区98号住居跡

遺物は帯状土坑からの出土があり、その他は殆ど覆土出土の参考品である。第537図1～4は帯状土坑内から出土した。

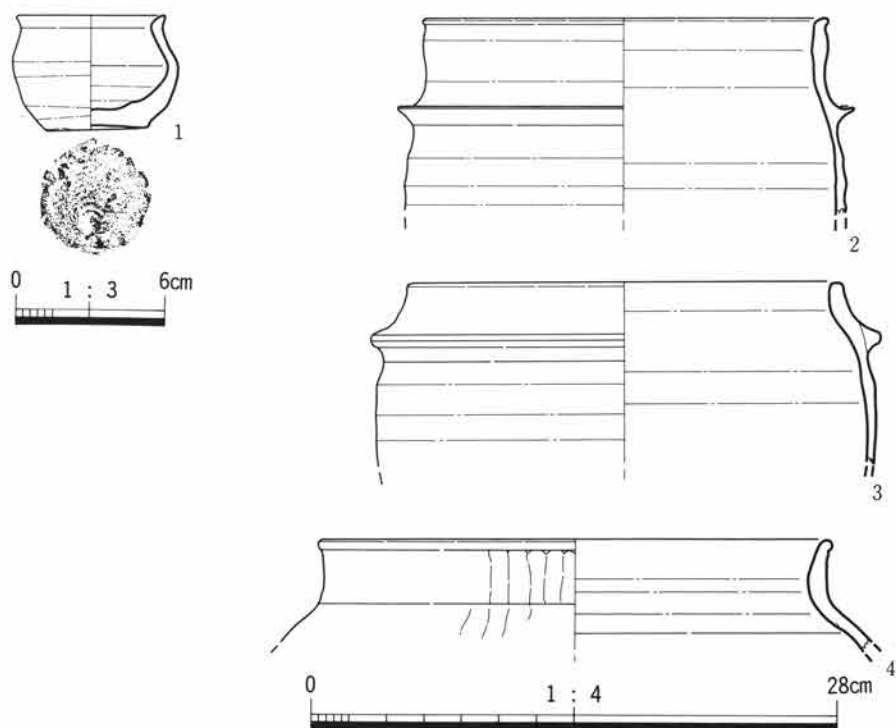
時期は8世紀後半と考えられる。

田端B区第100号住居跡（第536・538・539図、図版135・192）

Jライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。214号土坑と重複し、本住居の方が古い。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良く、20～30cmほどあり、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、よく踏み固められている。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは東辺中央に検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、煙道は燃烧部奥壁から舌状を呈して上方へ延びる。貯蔵穴は南東隅で検出した。東側は二段に掘り込まれており、底面はたいらである。中央の南寄りに1号土坑、北西隅近くに2号土坑を検出した。1号土坑は二段に掘り込まれ、下端径は43×35cmである。2号土坑は東側が最も深く、西側は三段に掘り込まれており、最深部は南北70cm、東西30cmの細長い不整形を呈する。掘形は20～30cm大の小さなピットを多数検出した。とくにカマド前の掘り込みは深い。

遺物はカマド周辺、貯蔵穴～1号土坑、中央部、西辺中央から出土している。第539図1・3・6は貯蔵穴内から、2・9は南側土坑内から、4は貯蔵穴内・貯蔵穴西側床面が接合、5は西辺中央壁際床面から、7は中央北寄り床面から、8・10・12はカマド右脇壁際床面から、11はカマド底面からそれぞれ出土した。

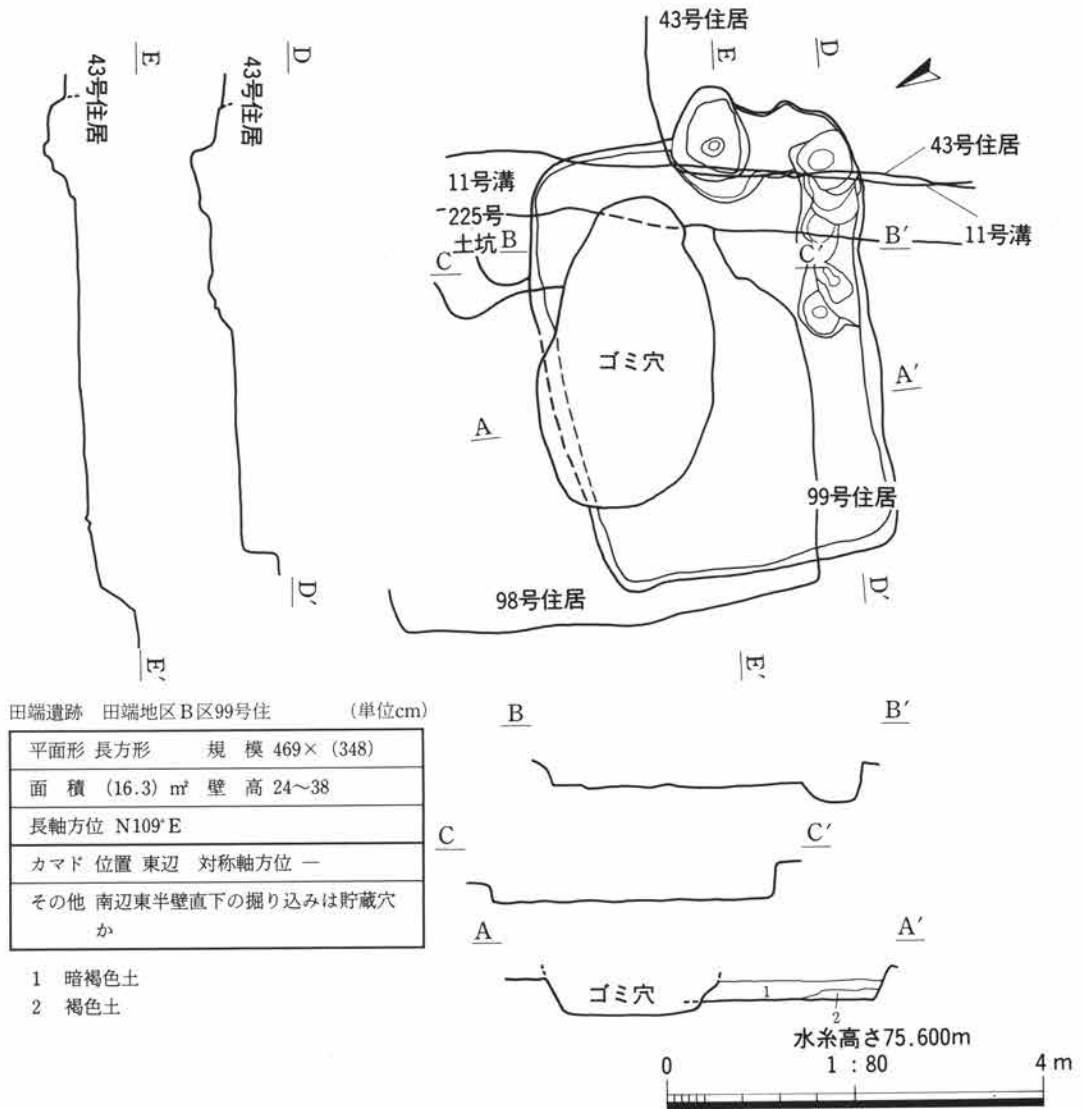
時期は9世紀後半～10世紀初めと考えられる。



第534図 田端地区B区98号住居跡出土遺物

田端B区第101号住居跡（第540～542図、図版136・193）

Kライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。102・104・105号住居と重複している。本住居はこれらの内で最も新しく、102→101、105→104→101号の順に新しい。南辺の東寄りには二つのピットによって破壊されているが、その他の辺は検出した。北東隅から北西隅にかけては、不整形である。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、カマド前がやや低くなる。主柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りで検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道は検出してない。カマド袖部に35～45cm大の石を据えて、構築材の一部としていた。東辺北寄りに長さ50cmの石が出土しており、焚口天井部に架けたものと考えられる。



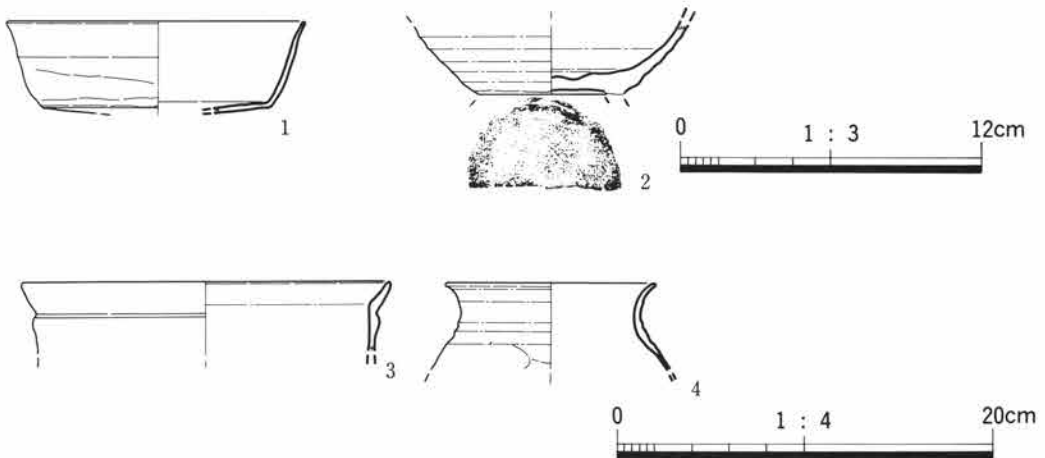
第535図 田端地区B区99号住居跡

遺物はカマド周辺、北東隅付近、中央部で出土している。第542図1は南辺中央床面から、2は北東隅の床直上から、3・5・7はカマド内から、4はカマド内・北東隅床面の破片が接合、6はカマド前床面からそれぞれ出土した。

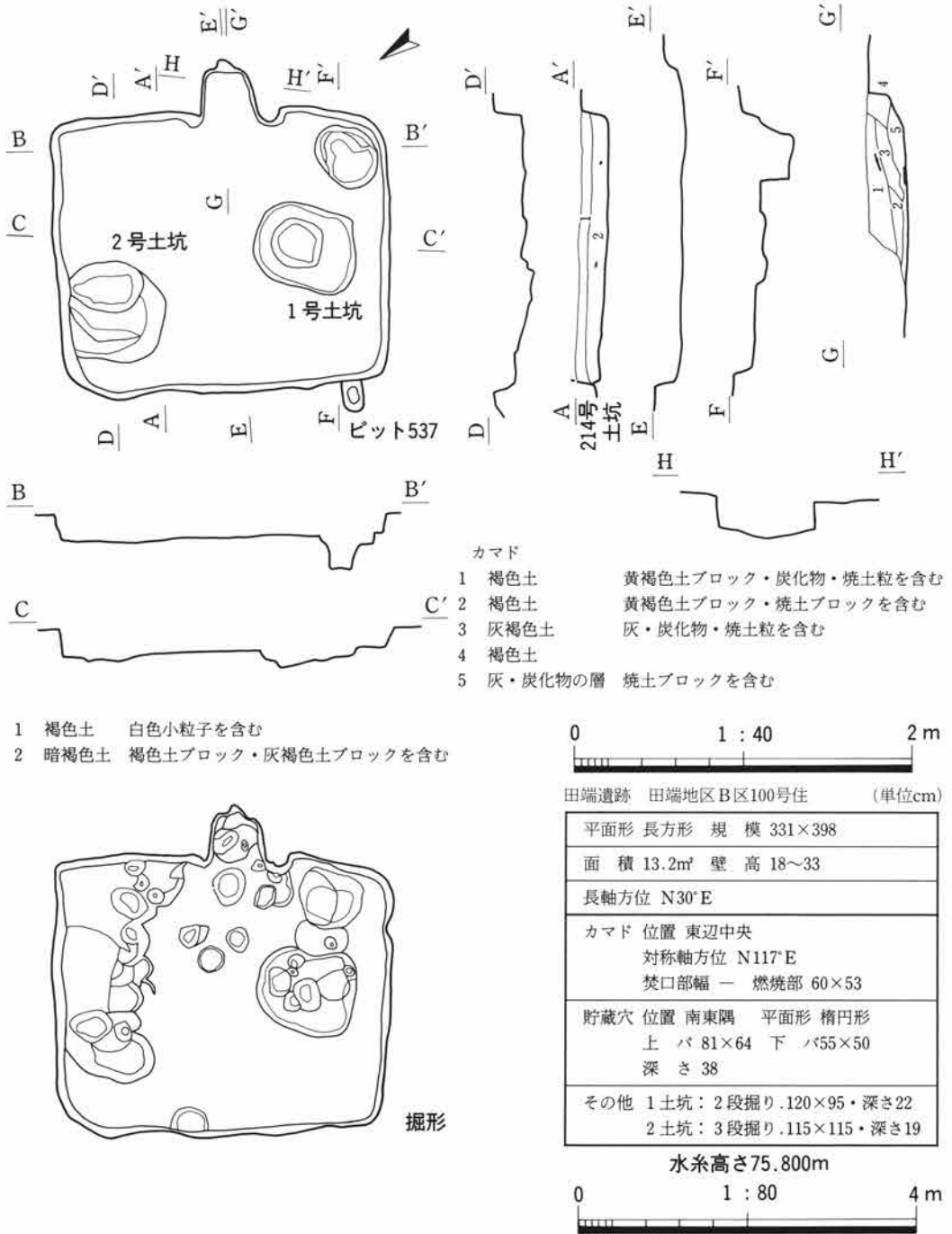
時期は10世紀後半～11世紀とみられる。



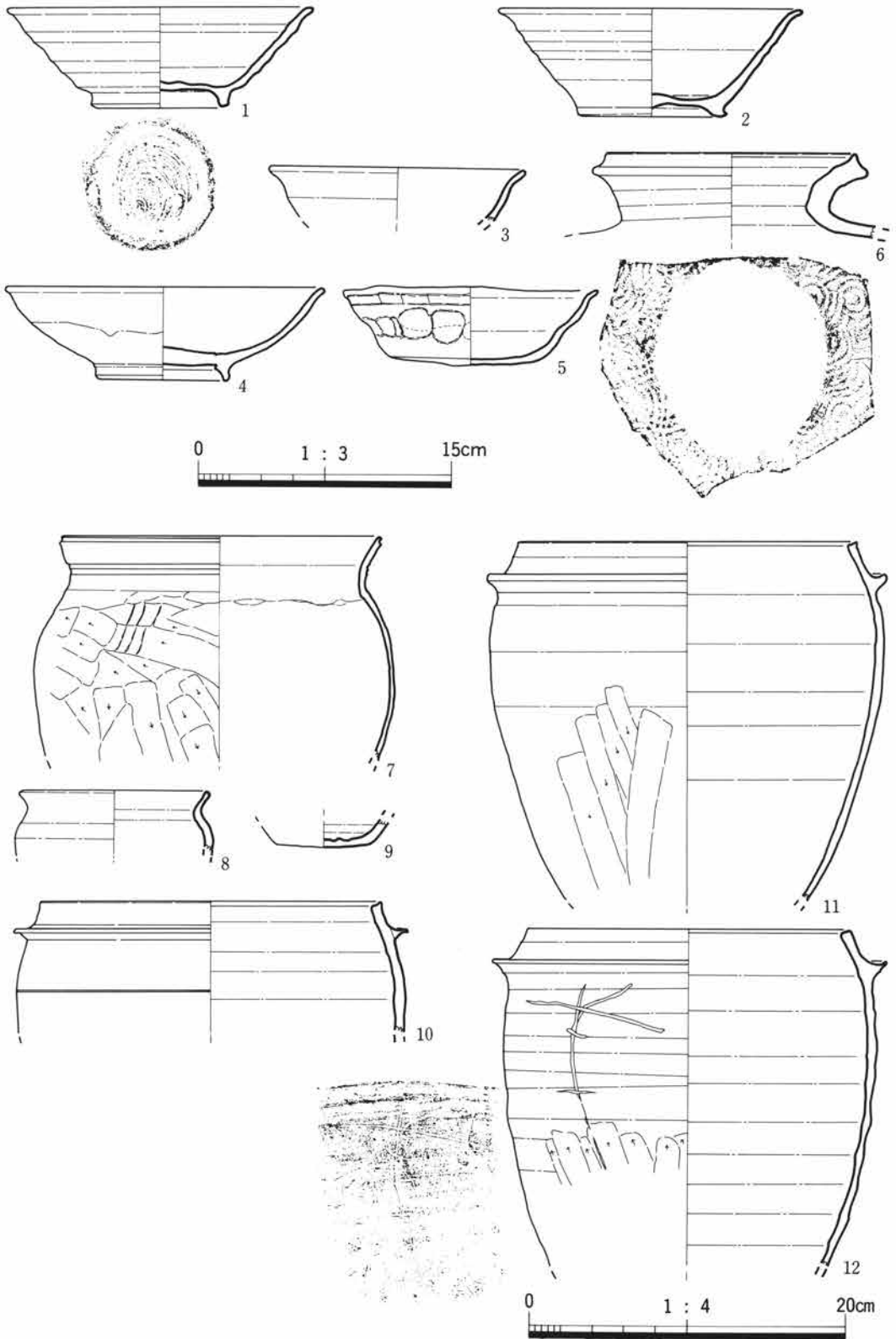
第536図 田端地区B区100号住居跡



第537図 田端地区B区99号住居跡出土遺物



第538図 田端地区B区100号住居跡

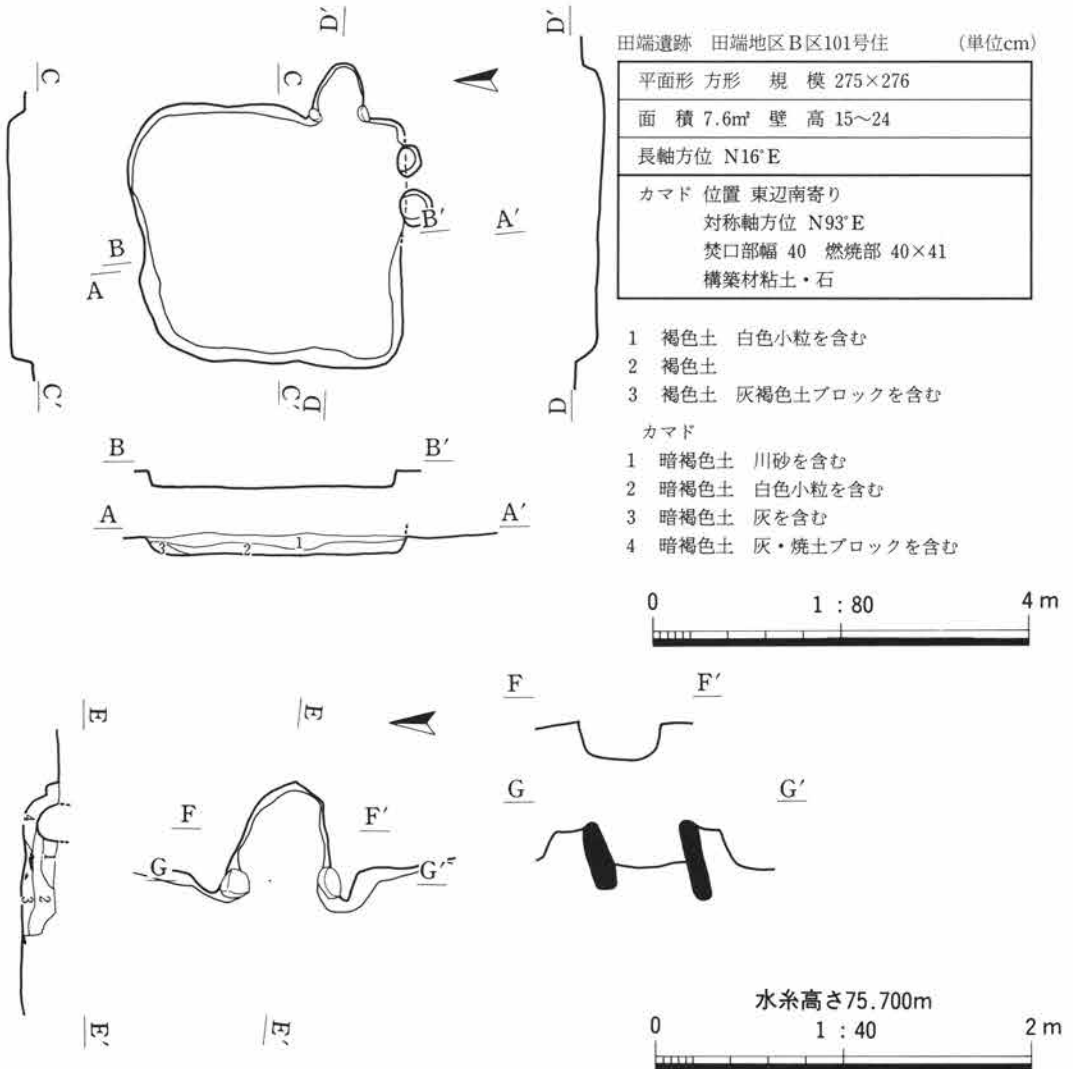


第539図 田端地区B区100号住居跡出土遺物



第540図

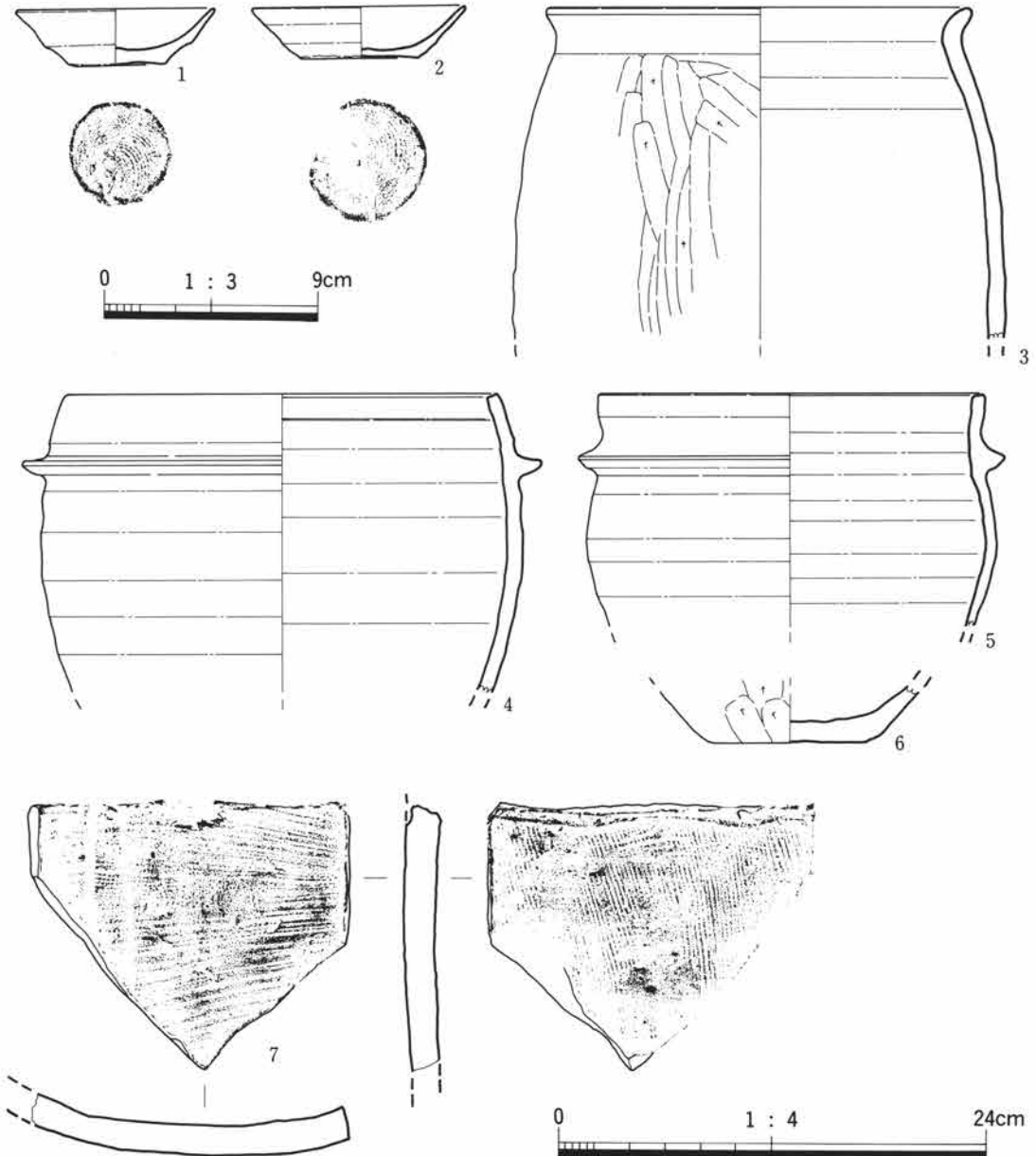
田端地区B区101号住居跡



第541図 田端地区B区101号住居跡

田端B区第102号住居跡 (第543~545図、図版136・137・194)

Kライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。101・104号住居と重複している。104号との前後関係は不明だが、101号とでは102→101号の順に新しい。東辺の北半から北西隅にかけては101号住居によって破壊されているが、ほぼ全体のプランをつかむことができた。覆土の大半は101号住居との重複によって失われているが、カマド前付近では自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、西側がやや高い。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは南辺西寄りに検出した。本遺跡の調査では、数少ない位置に構築されている。燃烧部は壁外に突出す



第542図 田端地区B区101号住居跡出土遺物

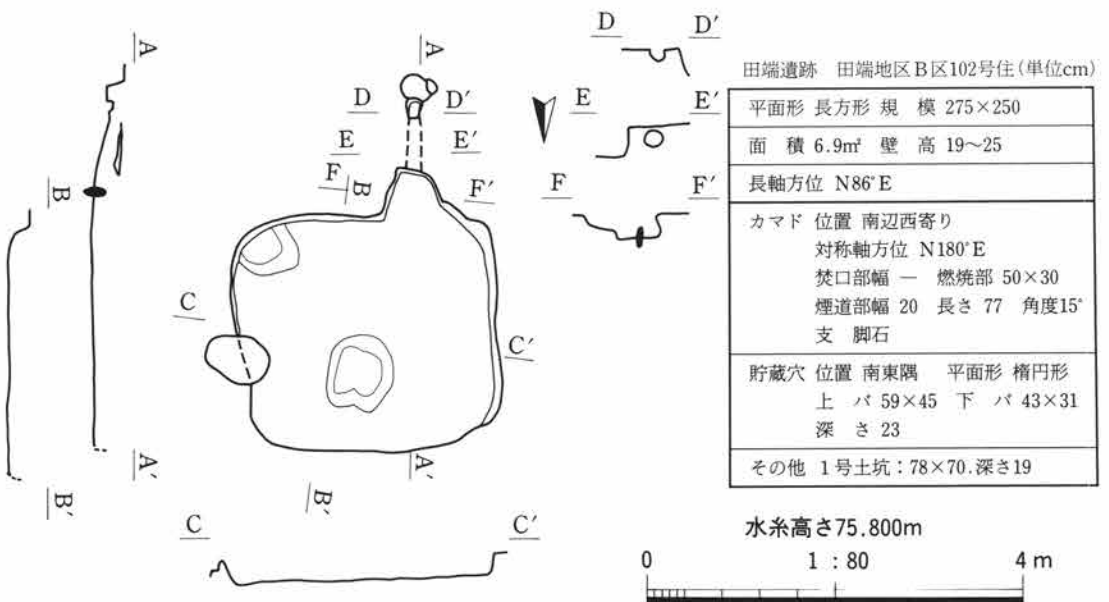
るタイプで、煙道部約70cmを検出し、天井部が遺存していた。煙り出し部に接するピットは上層からの掘り込みである。燃焼部からは径8cm・長さ23cmの石が立てた状態で出土した。支脚と考えられる。貯蔵穴は南東隅で検出した。壁に接して掘り込まれている。

遺物はカマド周辺から南西隅にかけて出土している。第545図1・3は南東隅床面から、2は西辺中央壁際床面から、4はカマド内からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第543図 田端地区B区102号住居跡カマド



第544図 田端地区B区102号住居跡

田端B区第103号住居跡（第546～549図、図版137・194）

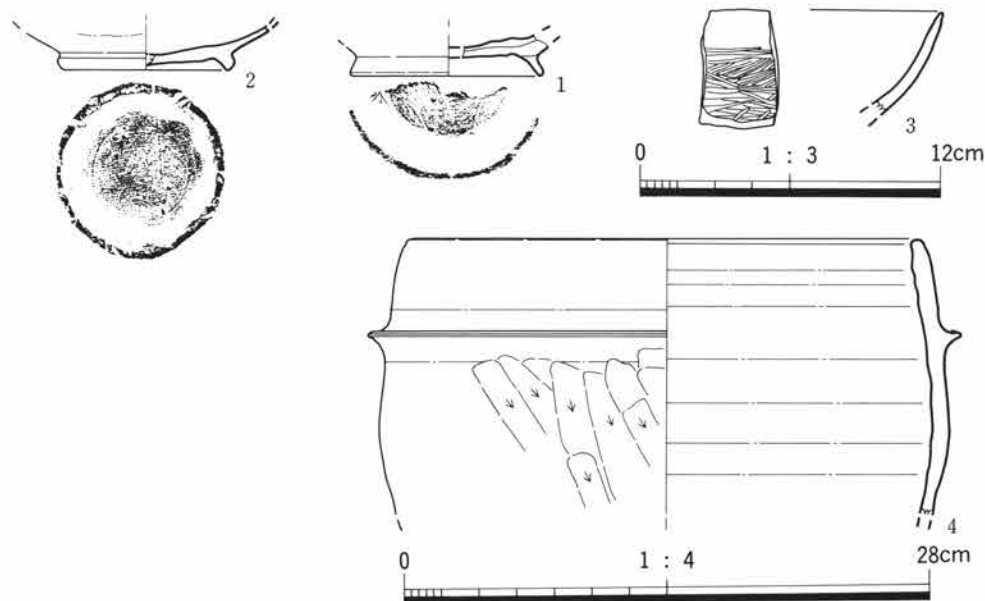
J-Kライン・71km310m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居跡は他の住居との重複はなく、単独住居である。214・216号土坑と重複し、いずれも土坑の方が新しい。東辺は西辺よりもやや短く、全体にやや台形に近い。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存が良好で、高さ25cm前後で斜めに立ち上がる。床面は平坦で、カマド前はよく踏み固められており、炭化物が散布していた。主柱穴・壁溝は検出していない。カマドは東辺の南寄りに検出した。燃烧部の約半分が壁外に突出するタイプで、煙道が約40cm遺存していた。燃烧部と煙道との間に長さ42cm・厚さ8cmの扁平な石が横に据えられていた。また、煙道の先端部近くにも10cm大の石が落ち込んでいた。袖部は検出できなかった。貯蔵穴は南西隅で検出した。楕円形を呈し、なかから土器が1片出土した。南東隅は214号土坑が重複しているが、その下から1号土坑を検出した。長さ60cmの細長い形をしており、貯蔵穴の可能性はある。

遺物はカマド前から南西隅にかけての出土が多い。全面に拳大から人頭大の石が出土している。第549図1は南辺中央壁際床面から、2～4・6・8はカマド前床面から、5は貯蔵穴内から、7は東辺北寄り床直上からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀とみられる。

田端B区第104号住居跡（第550～552図、図版138・195）

K-Lライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。101・102・105号住居と重複している。102号との前後関係は不明だが、その他の住居とは105→104→101号の順に新しい。101号に南西隅を切られているが、101号よりもやや深いためか、プランを検出することができた。覆土は自然に堆



第545図 田端地区B区102号住居跡出土遺物

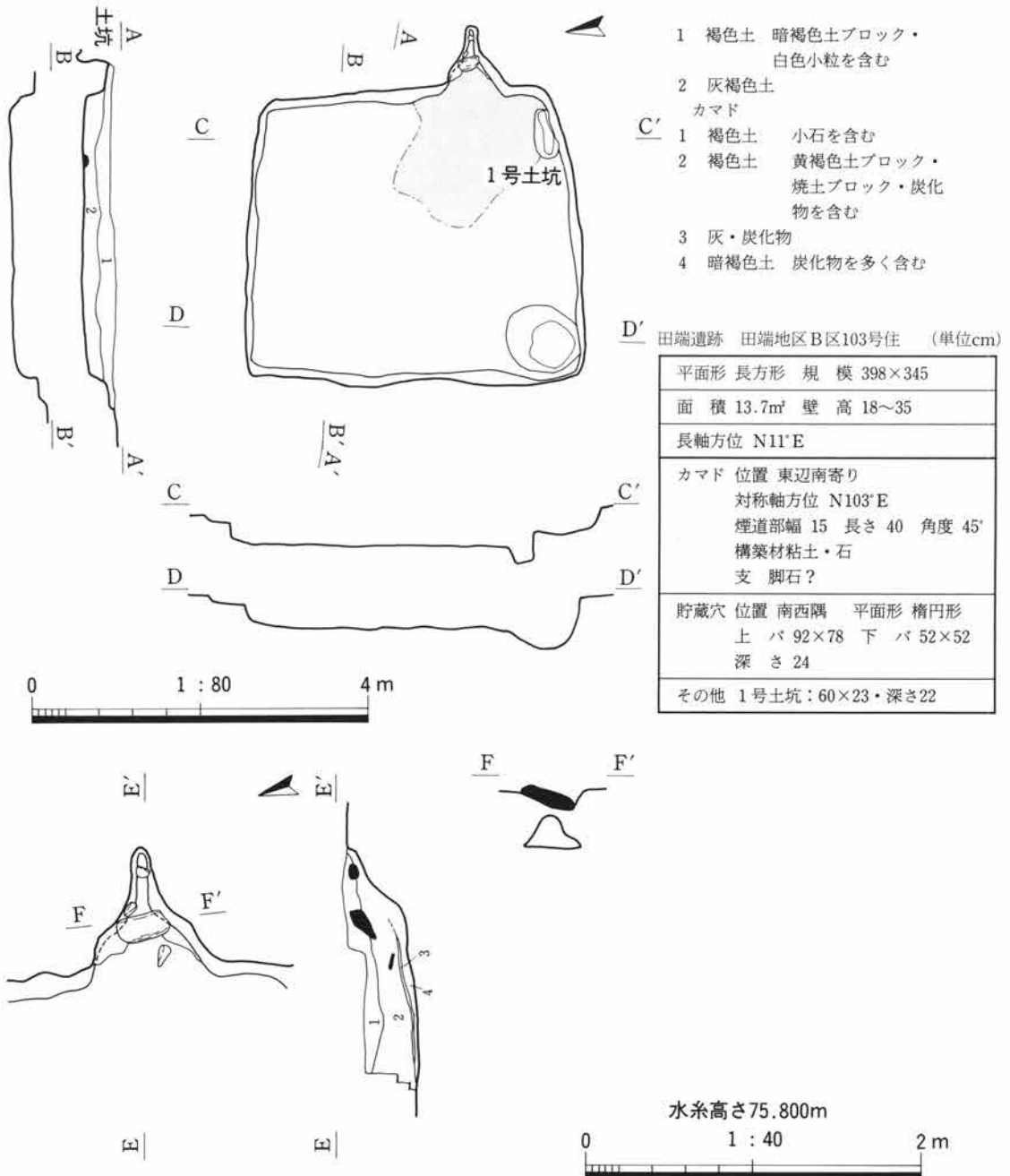


第546図 田端地区B区103号住居跡



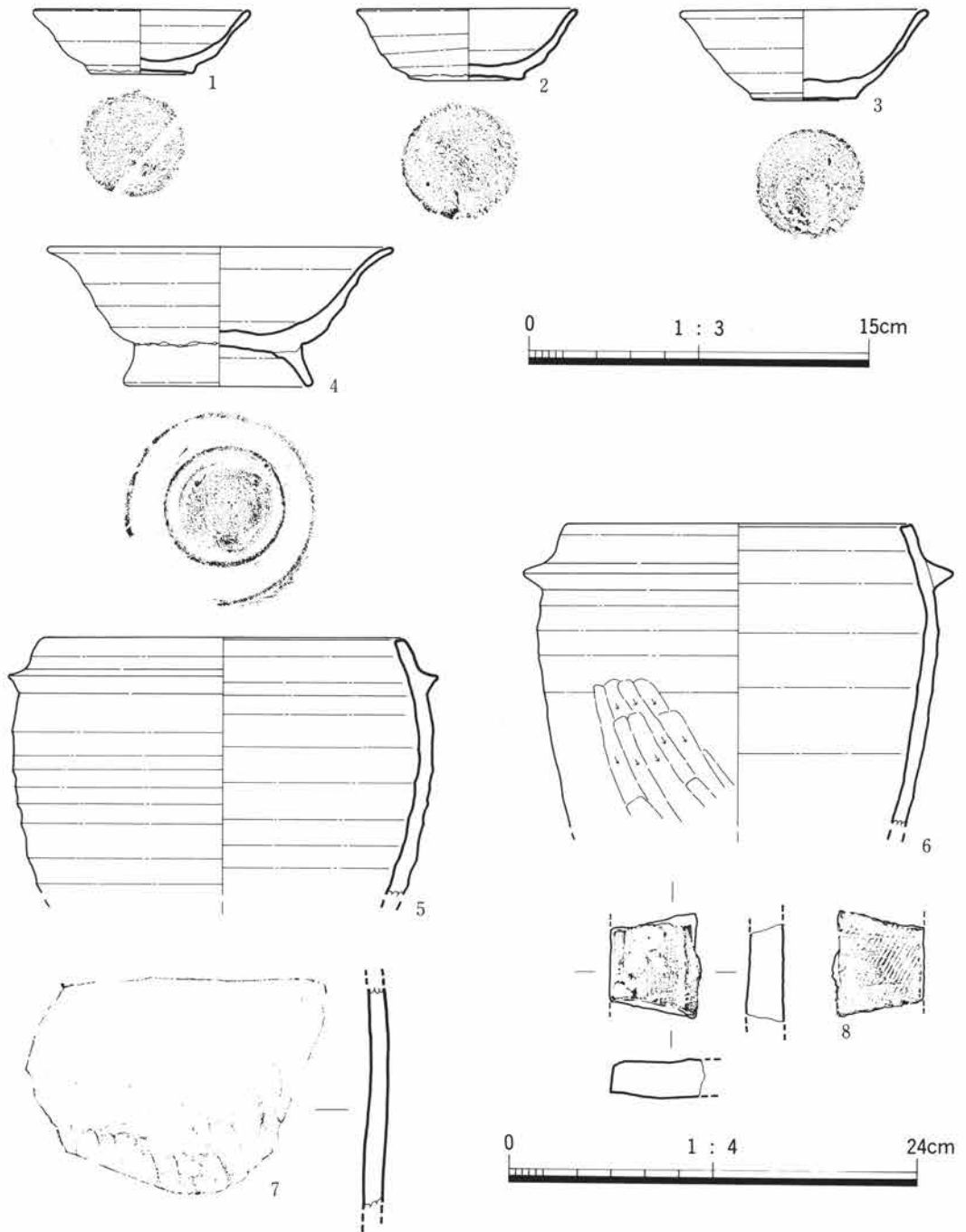
第547図 田端地区B区103号住居跡

積している。壁は20cmほどが遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺やや南寄りに検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、煙道部が約50cm遺存していた。両袖部に石を据えており、燃烧部にも石が幾つか落ち込んでいた。また、中央やや北東寄りの床面から長さ40cmの細長い石が出土しており、これもカマド構築材の一部と考えられる。右袖石の奥では、径20cm前後の扁平な石が2個重なって出土し、燃烧部中央からも同様の石が出土した。これらもカマド構築材と考えられる。



第548図 田端地区B区103号住居跡

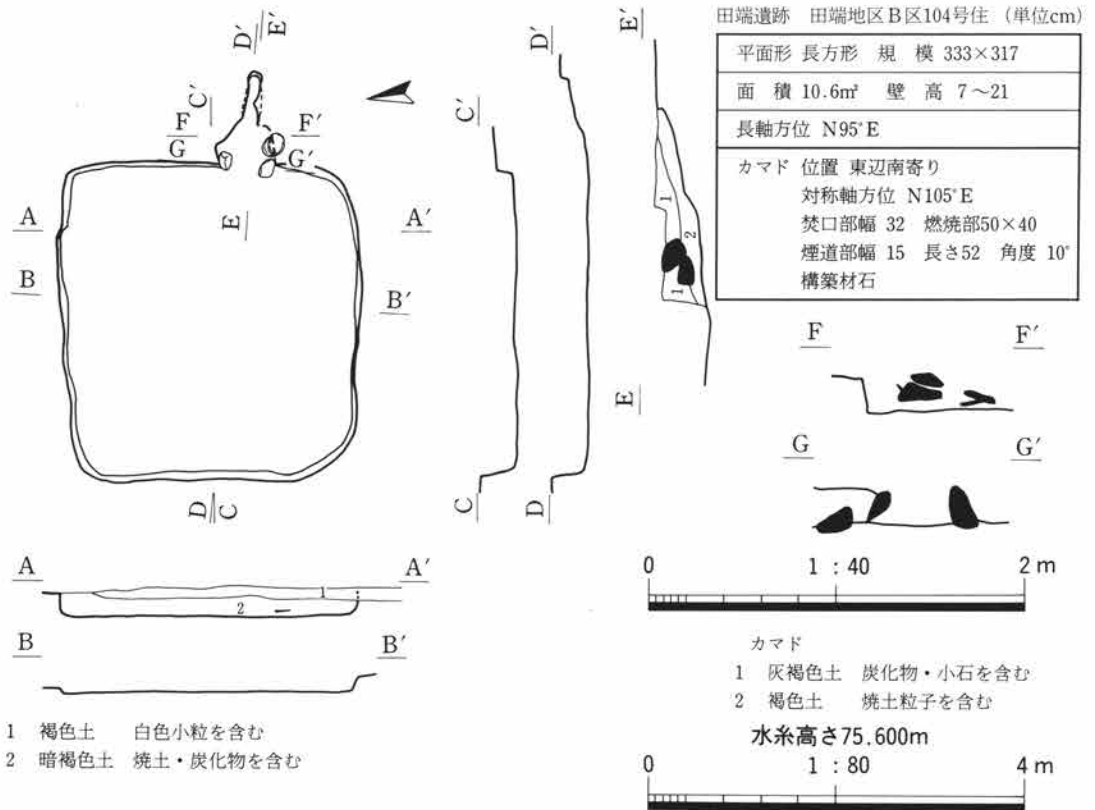
遺物はカマド内からいくつか出土している。第552図1～4はカマド内から出土したものである。時期は10世紀後半か。



第549図 田端地区B区103号住居跡出土遺物



第550図 田端地区B区104号住居跡カマド



第551図 田端地区B区104号住居跡

田端B区第105号住居跡 (第553～555・557図、図版139・195・196)

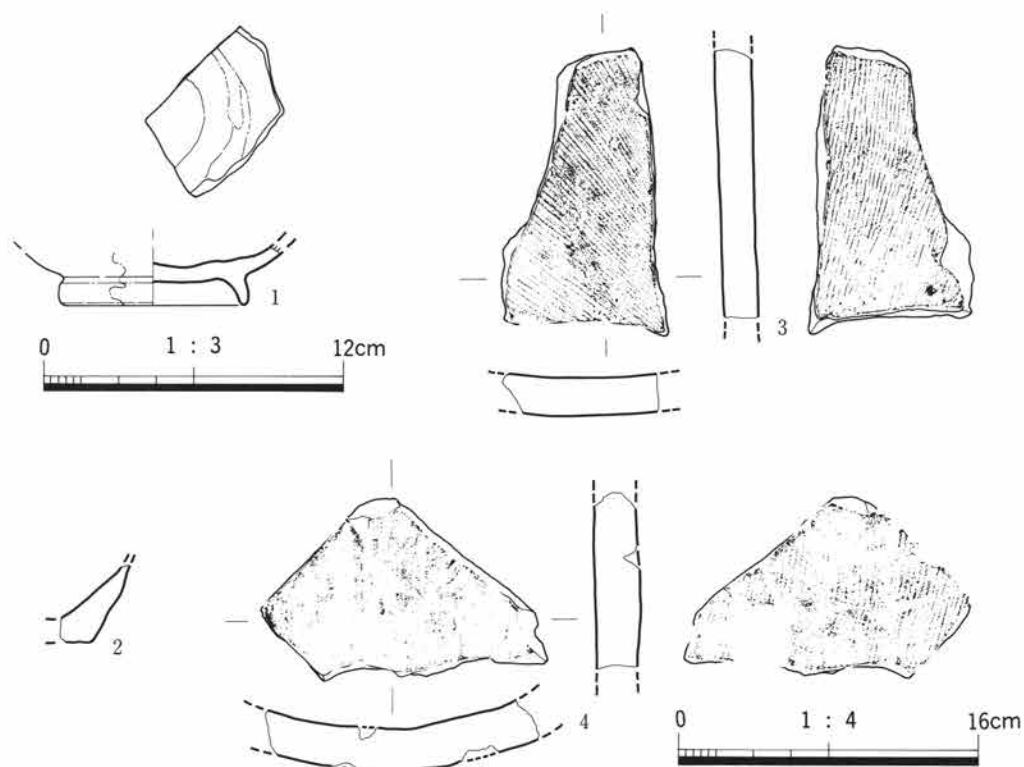
Lライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。101・104号住居と重複している。これらは105→104→101号の順に新しい。南側は104号住居と重複しているため、壁の立ち上がりは検出できなかったが、南東隅を確認したことから、図のように復原した。全体に台形を呈し、北辺313cm、南辺309cm、東辺254cm、西辺310cmである。覆土は一層を確認し、人為的に埋められた形跡はない。壁は浅く、南辺と西辺の南側とは床面を追ってプランを確認したのみである。主柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、両袖に石を据えており、右袖石の上から平瓦が出土した。このほか、燃烧部からも瓦の破片が出土しており、これらはカマドの構築材または甕・羽釜等の安定材と考えられる。

遺物はカマド周辺からの出土品である。第555図1～6はすべてカマド内から出土した。2～6の瓦はカマドの構築材に使われたものと考えられる。

時期は9世紀後半とみられる。

田端B区第106号住居跡

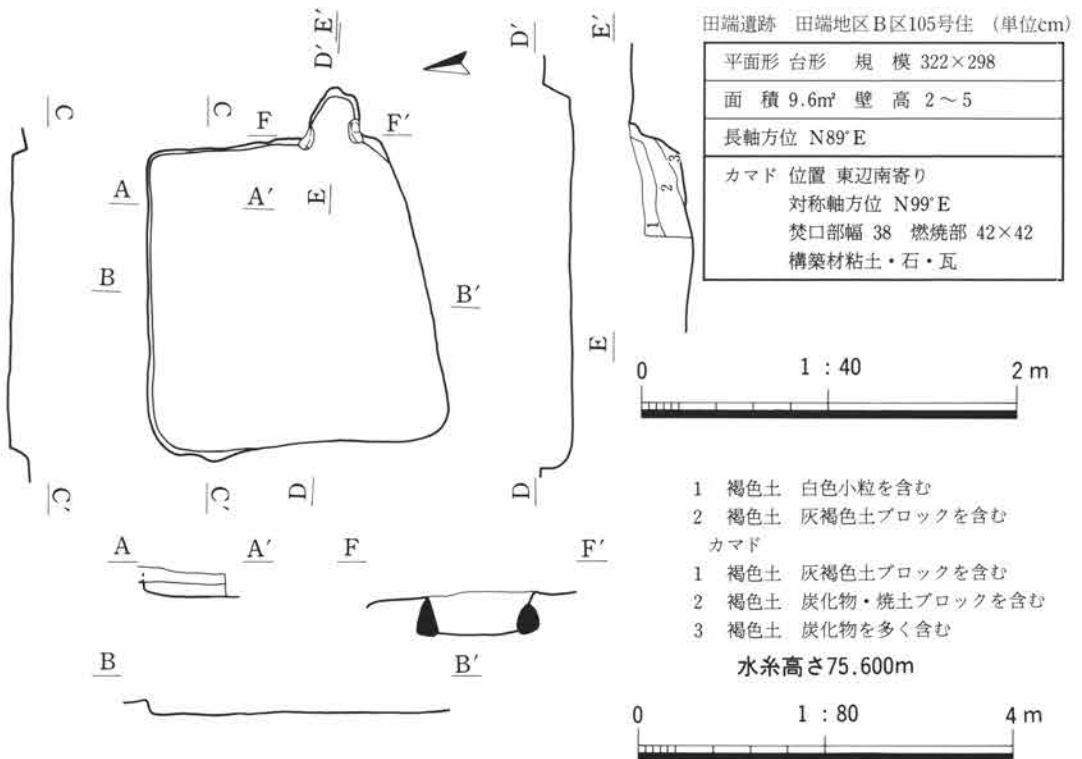
K-Lライン・71km302m付近で不整形の立ち上りを検出し、調査当時106号住居の番号を付けたが、プランが不明確で、焼土等もないことから、欠番とする。立ち上りの内側から土器がいくつか出土しているが、これも遺構外出土の扱いとする。



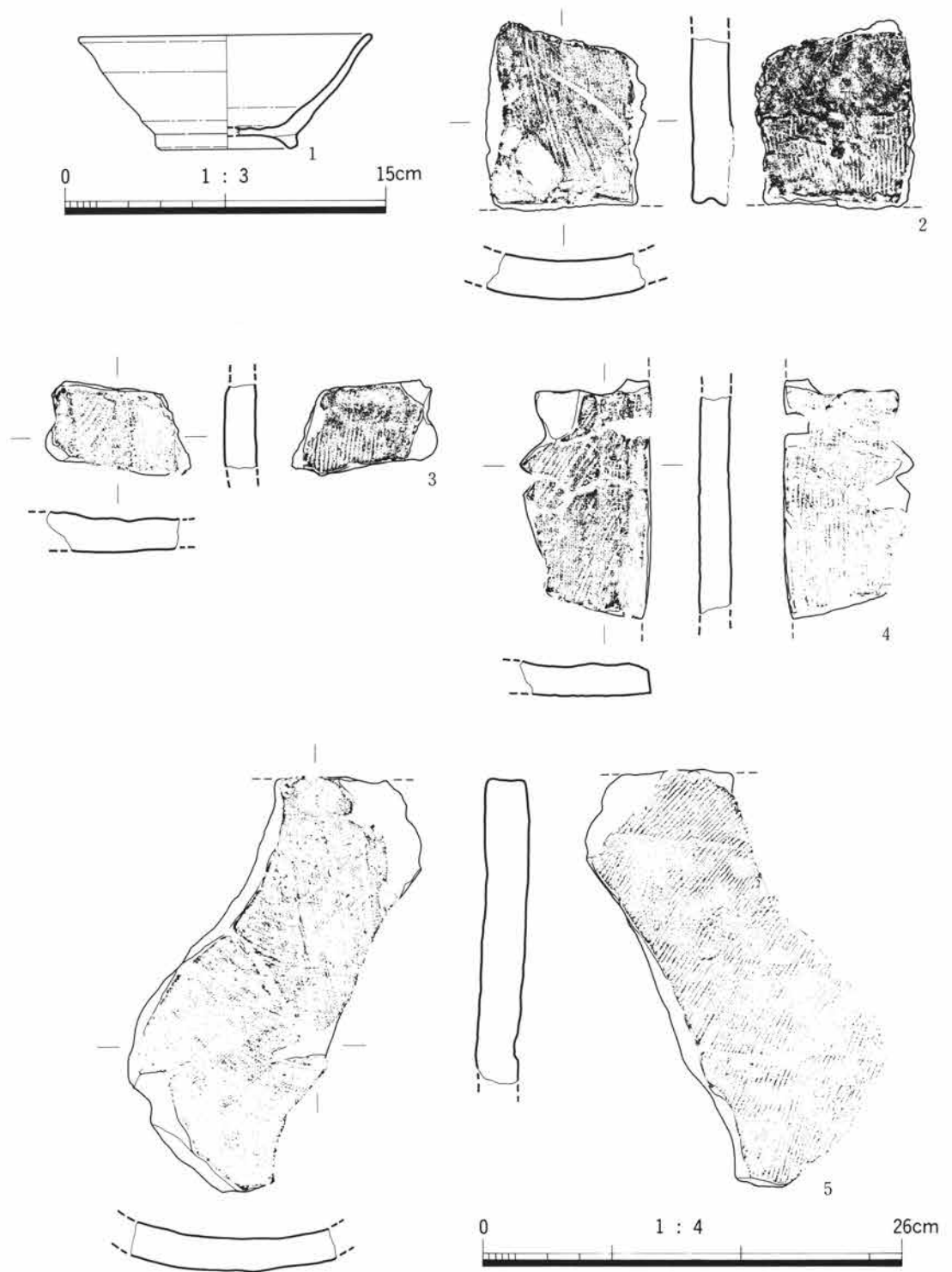
第552図 田端地区B区104号住居跡出土遺物



第553図 田端地区B区105号住居跡



第554図 田端地区B区105号住居跡



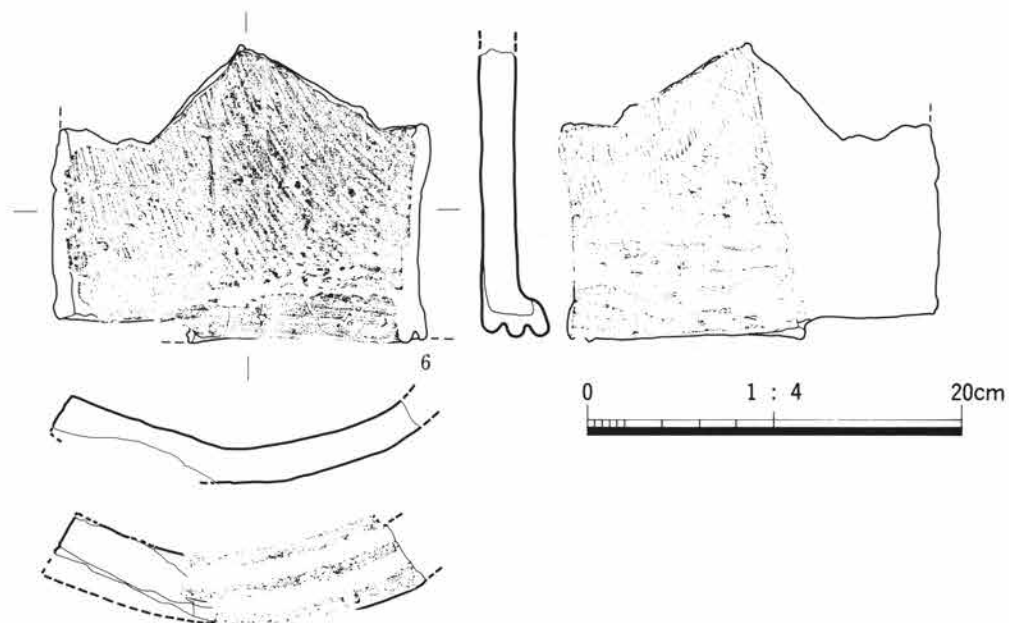
第555図 田端地区B区105号住居跡出土遺物(1)

田端B区第107号住居跡（第556・558・559図、図版140）

Mライン・71km310m付近で検出した。確認面は第4層である。124・123・152号住居と重複している。152→107→123号の順に新しく、124号との関係は不明である。プランのほぼ全体を検出したが、カマドを確認することができなかった。したがって、住居ではない可能性があるが、ここではカマドをもたない竪穴住居の存在の可能性も考慮して一応あげておく。



第556図 田端地区B区107号住居跡



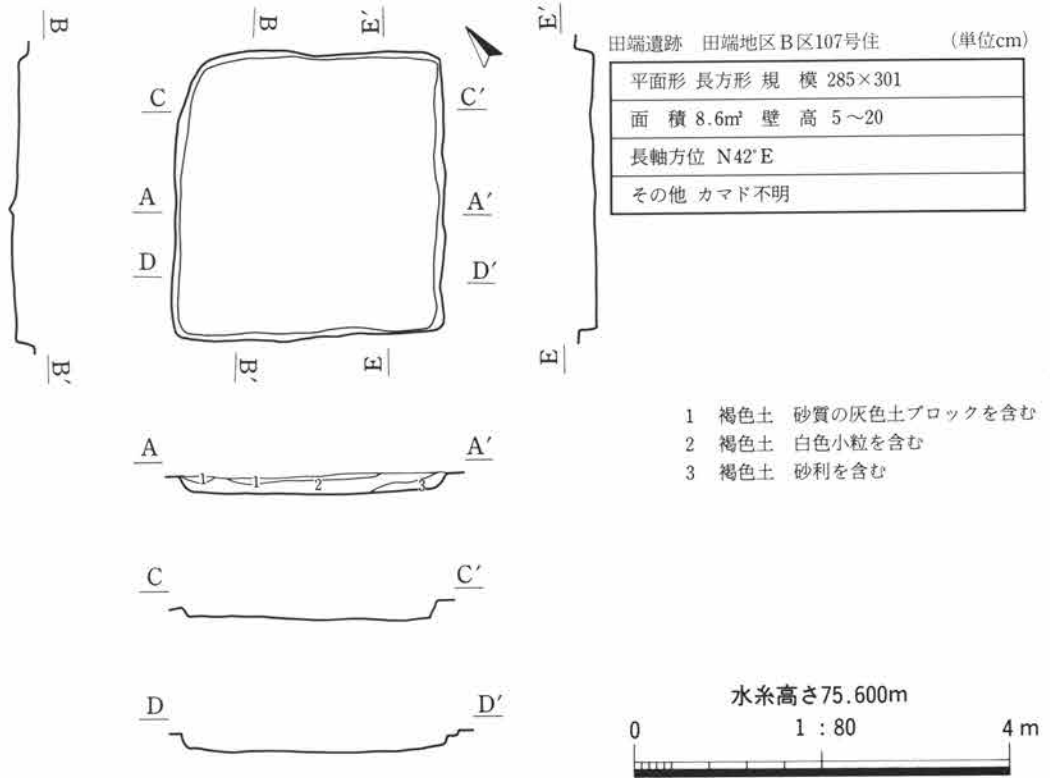
第557図 田端地区B区105号住居跡出土遺物（2）

壁は15cm前後遺存しており、斜めに立ち上がる。床面はほぼ平らである。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。

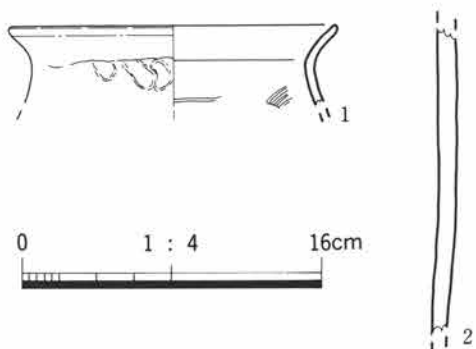
遺物は床面出土のものがなく、第559図に示した遺物は覆土出土の参考品である。

田端B区第108号住居跡

L-Mライン・71km310m付近の123号住居と重複して検出したが、プランに異常なところがあり、焼土も検出できず、床面の認定も不明確なため、123号住居床下を調査したと考えられる。したがって、本住居は欠番とする。



第558図 田端地区B区107号住居跡



第559図 田端地区B区107号住居跡出土遺物

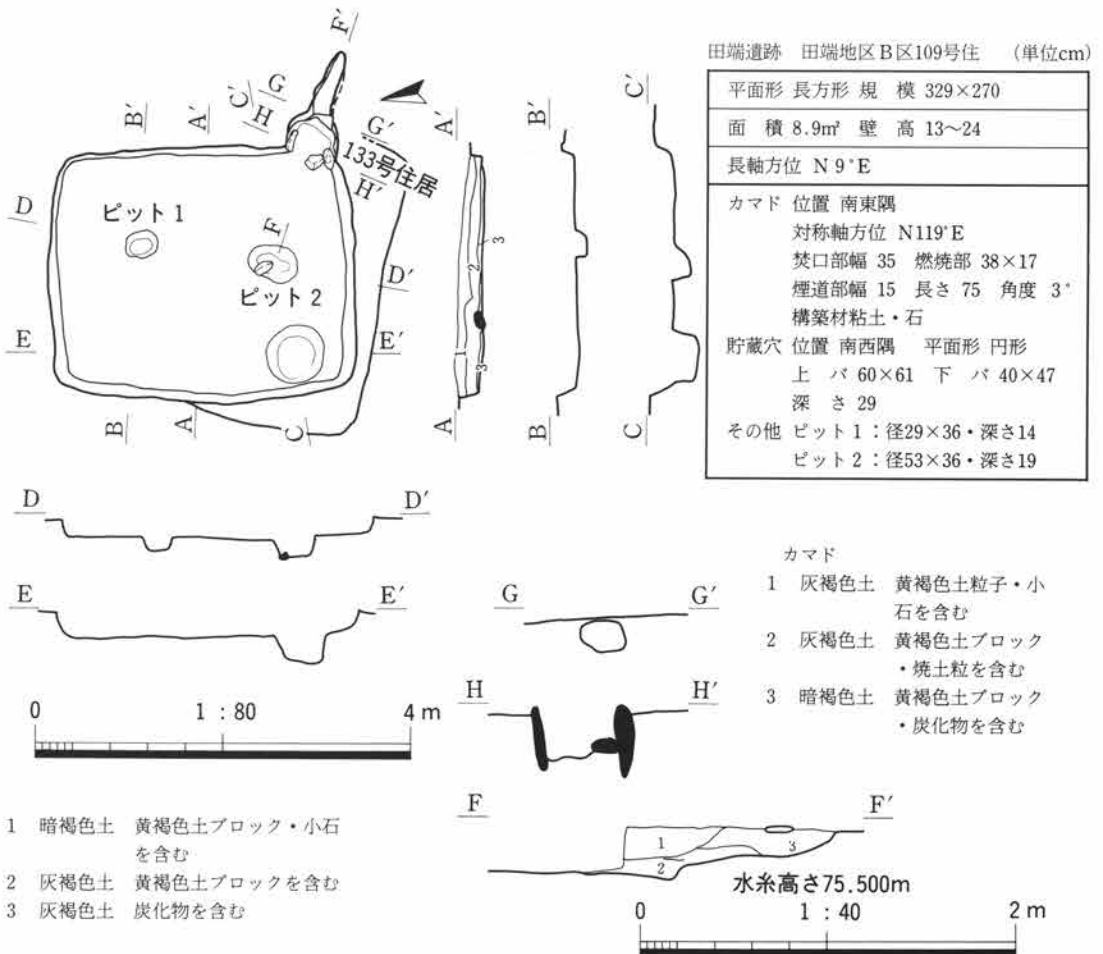
田端B区第109号住居跡

(第560~563図、図版140・196・197)

Nライン・71km304m付近で検出した。確認面は第4層である。115・120・133号住居、243号土坑と重複している。本住居はこれらの中で最も新しい。133号と120号、133号と115号との前後関係はそれぞれ不明である。重複住居の中で最も新しいため、本住居はプラン全体を検出する

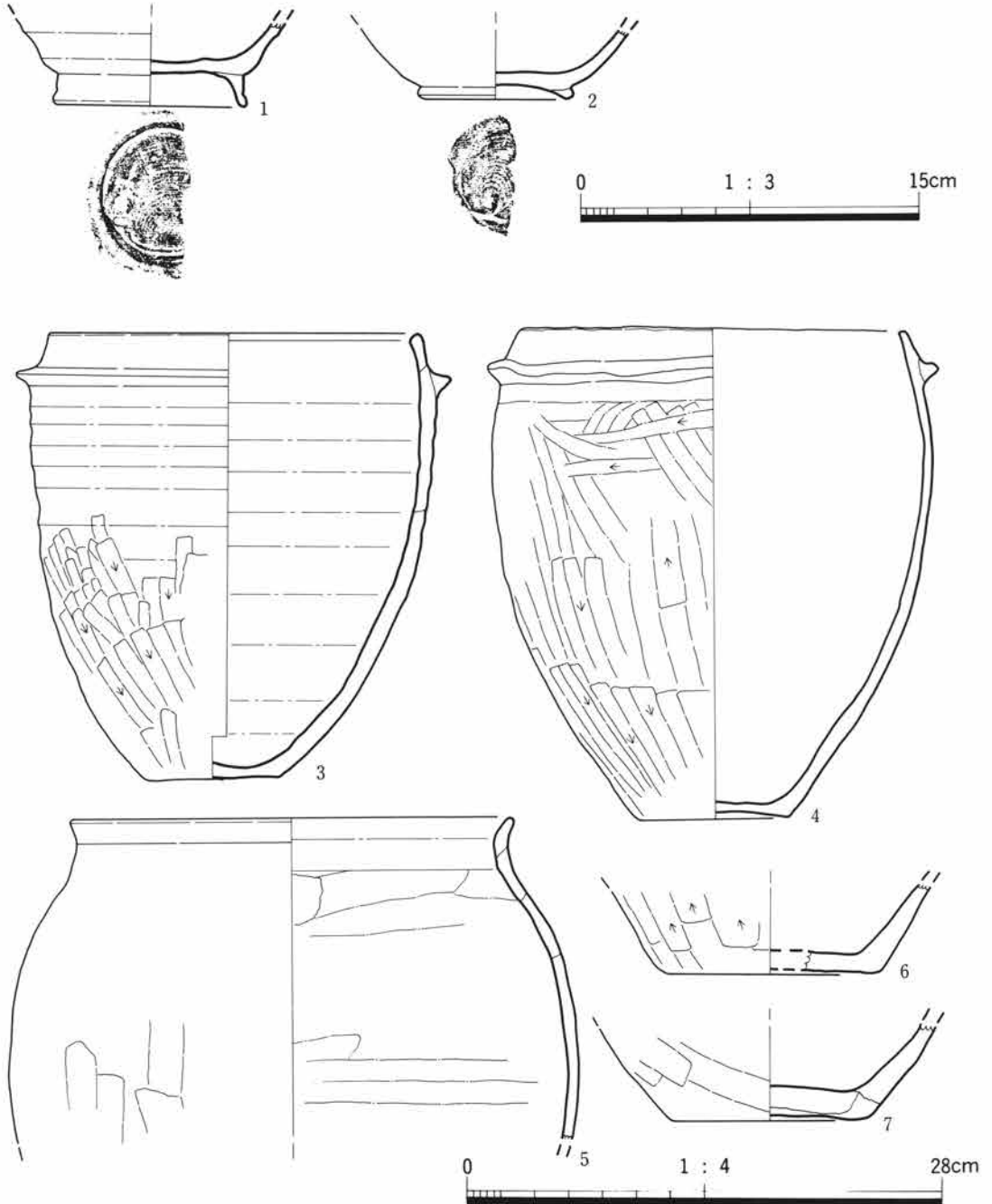


第560図 田端地区B区109号住居跡



第561図 田端地区B区109号住居跡

ことができた。覆土は自然に堆積している。壁は高さ20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、西に向かってやや低くなる。支柱穴とみられるピットは検出していないが、住居中央部に位置するピット1とピット2とはその可能性がある。両者の芯々距離は145cmである。壁溝は検出していない。カマドは南東隅で検出した。東辺に対して約20°南に振れており、設置辺に対して直角ではなく、また対角線の方角でもない。貯蔵穴は南西隅で検出した。底面には平坦面をもつ。



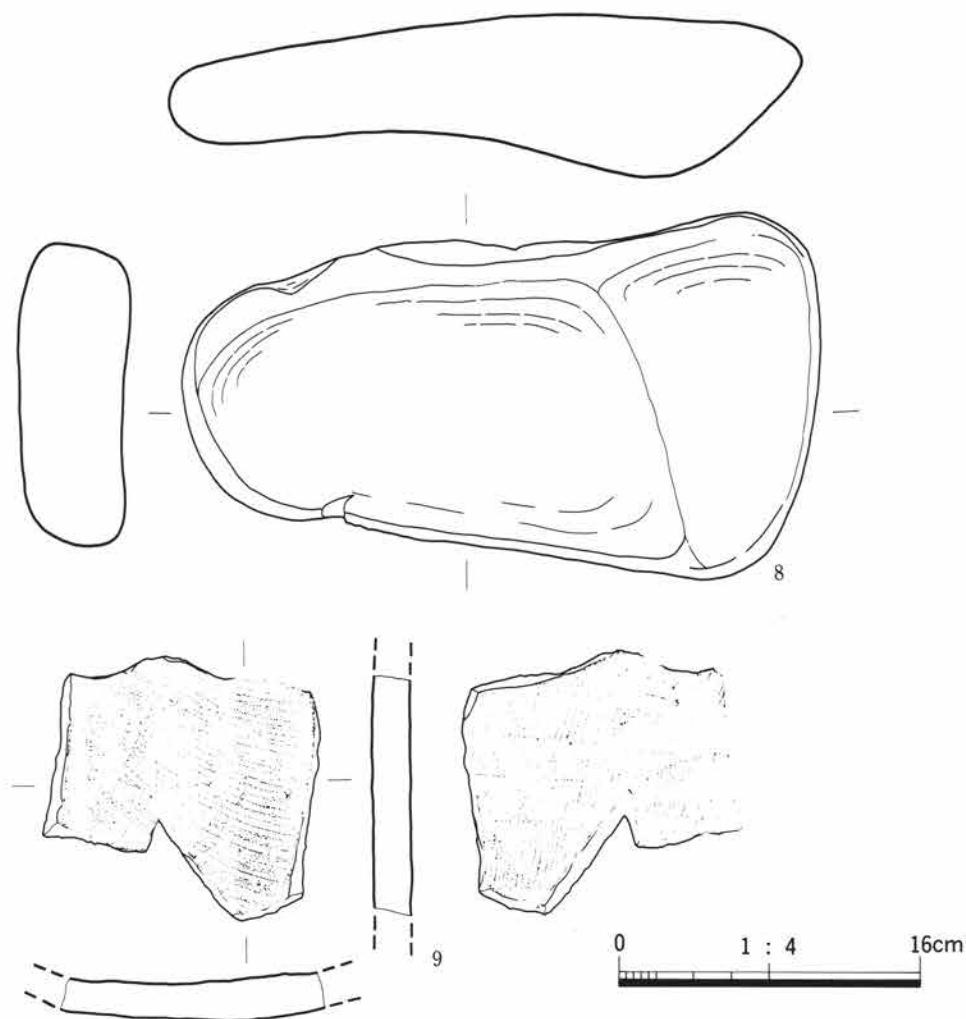
第562図 田端地区B区109号住居跡出土遺物(1)

遺物はカマド周辺と貯蔵穴内からの出土がある。第562図1・2は南西隅貯蔵穴の直上から、3・5はカマド前床面から、4は中央北寄り床面から、6は北西隅床直上から、7はカマド底面から、8はカマドの北袖石、9はカマド内からそれぞれ出土した。8の石は表面がツルツルで使用した痕跡があり、袖石として転用されたものであろう。

時期は10世紀後半と考えられる。

田端B区第110号住居跡（第564～568図、図版141・197・198）

Lライン・71km298m付近で検出した。確認面は第4層である。118号住居と重複しており、本住居の方が新しい。プランは南辺がやや短い台形を呈するが、辺の中央を結ぶ線で計測すると東西・南北とも320cmとなる。覆土は自然に堆積している。壁は一部垂直に立ち上がるが、全体に20cmほど遺存している。床面はカマド前、南西隅がややくぼみ、他の部分は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁



第563図 田端地区B区109号住居跡出土遺物（2）

溝は検出していない。カマドは東辺の中央に検出した。燃焼部の殆どが壁の内側にあるタイプで、煙道部約80cmを検出した。貯蔵穴は南東隅で検出した。貯蔵穴の内部は三段に掘り込まれ、最深部は径30cm弱の楕円形を呈する。この貯蔵穴に西接して3個のピットが並び、中央のピット（ピット3）が最も大きく深い。中から遺物が出土した。



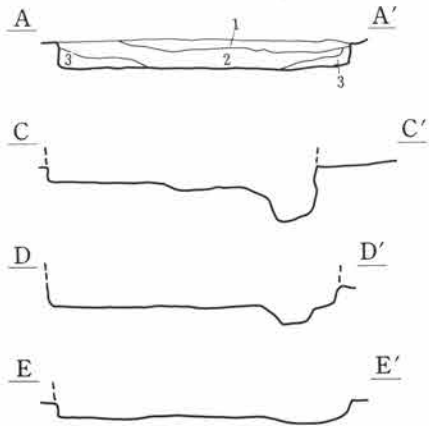
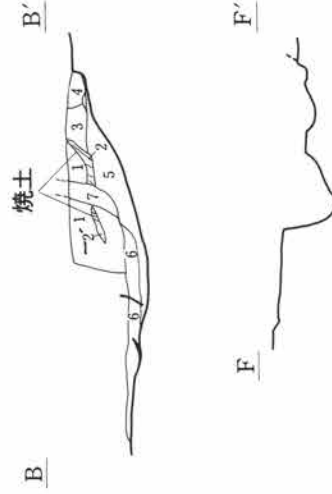
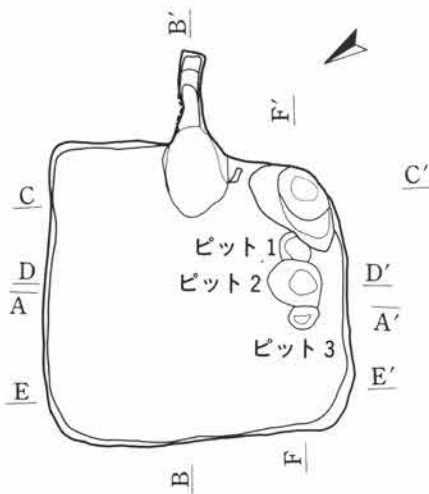
第564図 田端地区B区110号住居跡



第565図 田端地区B区110号住居跡

遺物は他の住居に比べて多く出土している。住居中央部、カマド内、貯蔵穴など北半分からの出土が多い。カマド前の中央部からは40×20cm大の大きな石が出土している。第567・568図1～8は貯蔵穴内から、10は北西隅寄りの床直上から、11はカマド前の床直上から、12・14は北東寄りの床直上から、13はカマド前の破片と覆土出土破片が接合し、15はカマド前の床面からそれぞれ出土した。9は南西隅寄りの覆土出土の参考品である。

時期は10世紀後半ごろと考えられる。



カマド

- 1 褐色土 黄褐色土ブロックを含む
- 2 焼土
- 3 褐色土 灰を含む
- 4 褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物・灰を含む
- 5 褐色土 黄褐色土ブロック・焼土ブロック・灰・炭化物を含む
- 6 褐色土 灰・焼土ブロック・灰褐色土ブロックを含む
- 7 攪乱

田端遺跡 田端地区B区110号住 (単位cm)

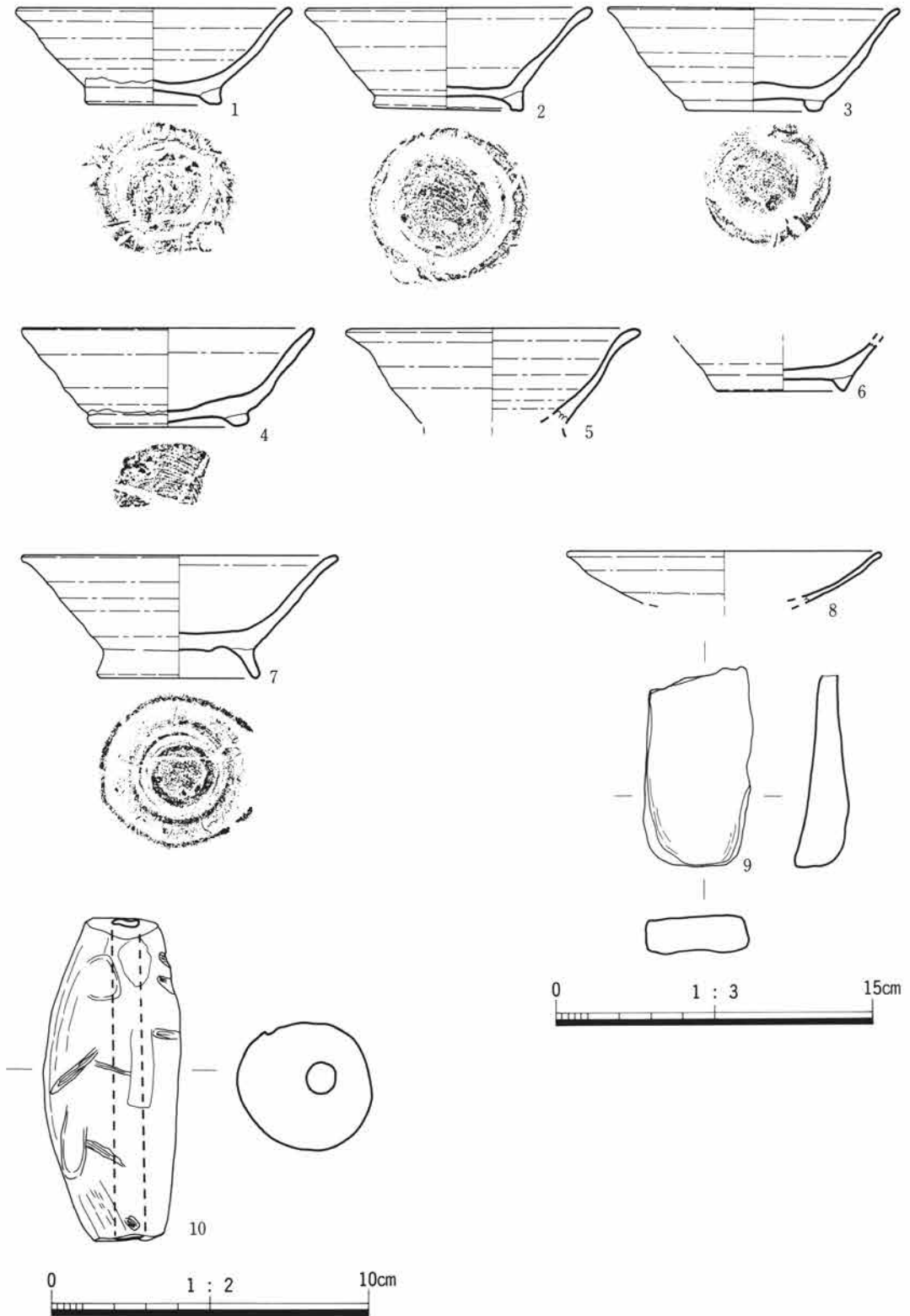
平面形	方形	規模	320×321
面積	10.3m ²	壁高	19～28
長軸方位	—		
カマド	位置 東辺中央 対称軸方位 N122°E 煙道部幅 28 長さ 80 角度 10° 構築材粘土		
貯蔵穴	位置 南東隅 平面形 楕円形 上バ 109×65 下バ 28×24 深さ 33		
その他	貯蔵穴西側に3つのピット・中央のピット径50～60・深さ18		

- 1 褐色土 灰色土ブロック・白色粒子を含む
- 2 暗褐色土 砂質の褐色土ブロック・焼土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 灰褐色土ブロックを含む

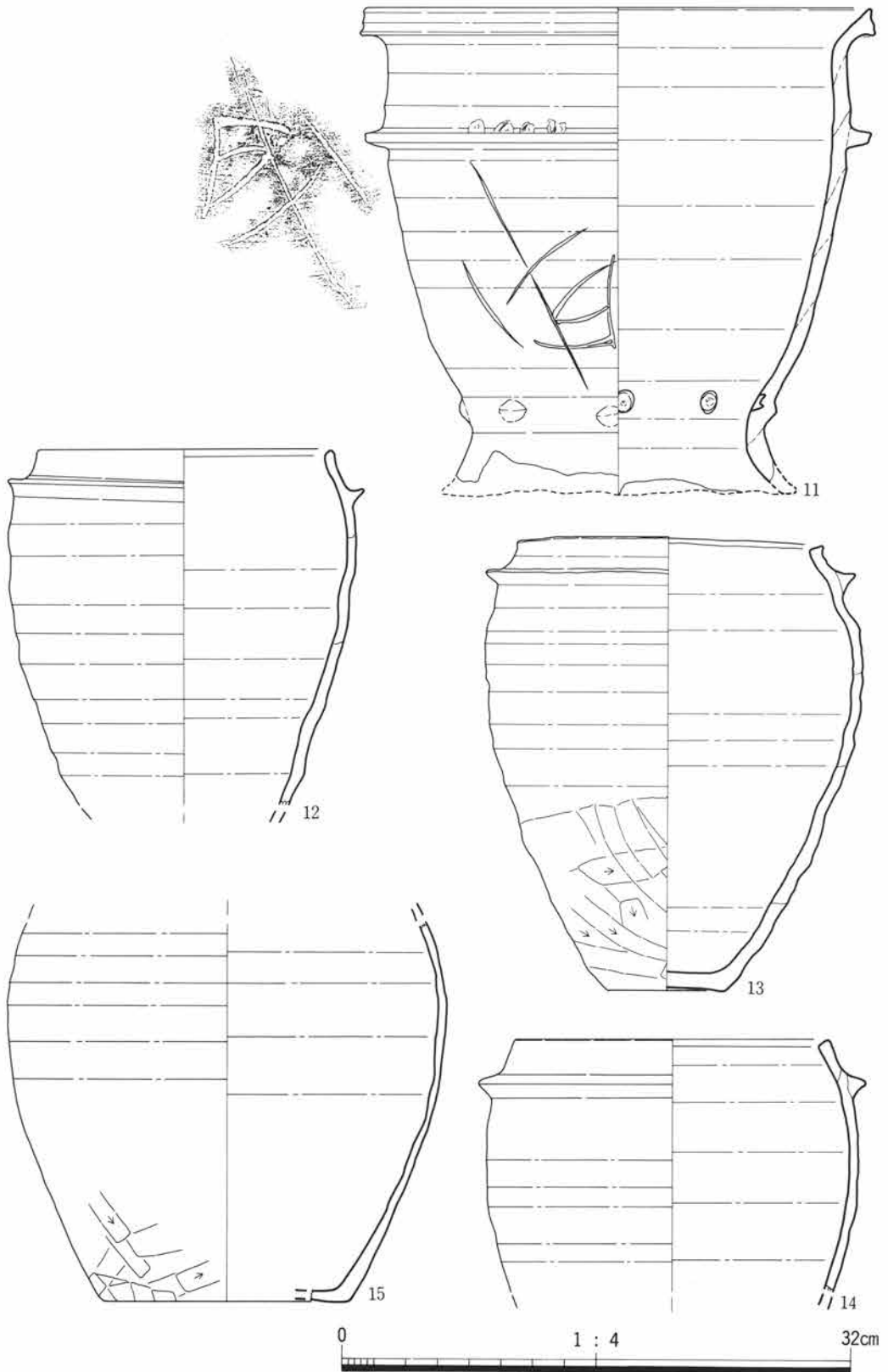
水糸高さ75.600m



第566図 田端地区B区110号住居跡



第567図 田端地区B区110号住居跡出土遺物(1)



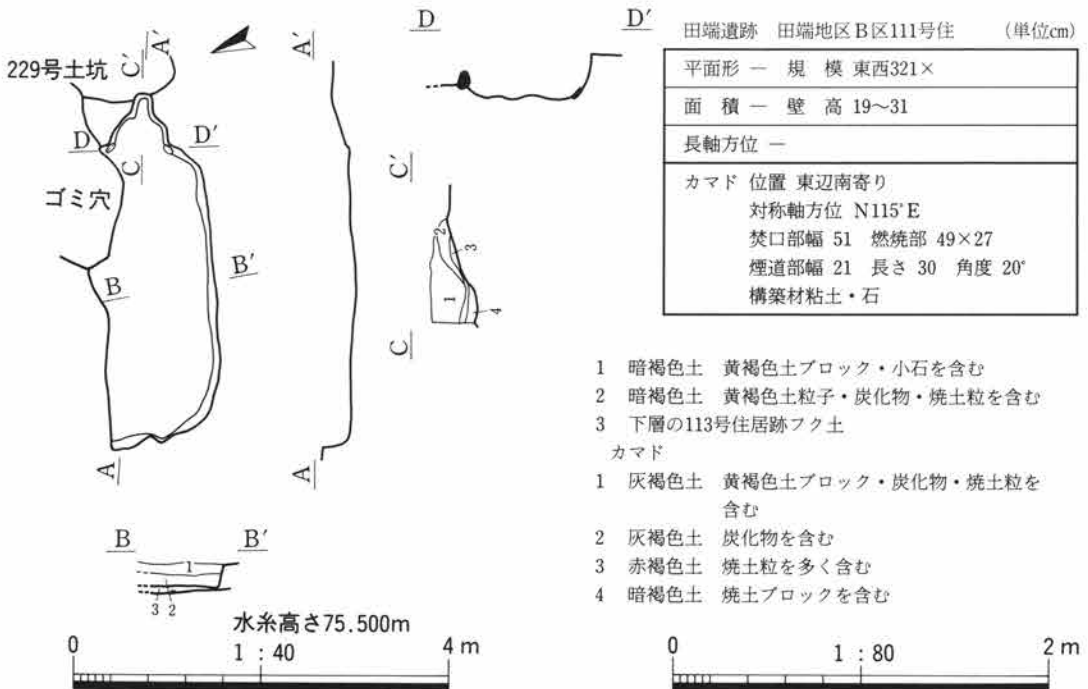
第568図 田端地区B区110号住居跡出土遺物(2)

田端B区第111号住居跡 (第569～571図、図版141・142・198・199)

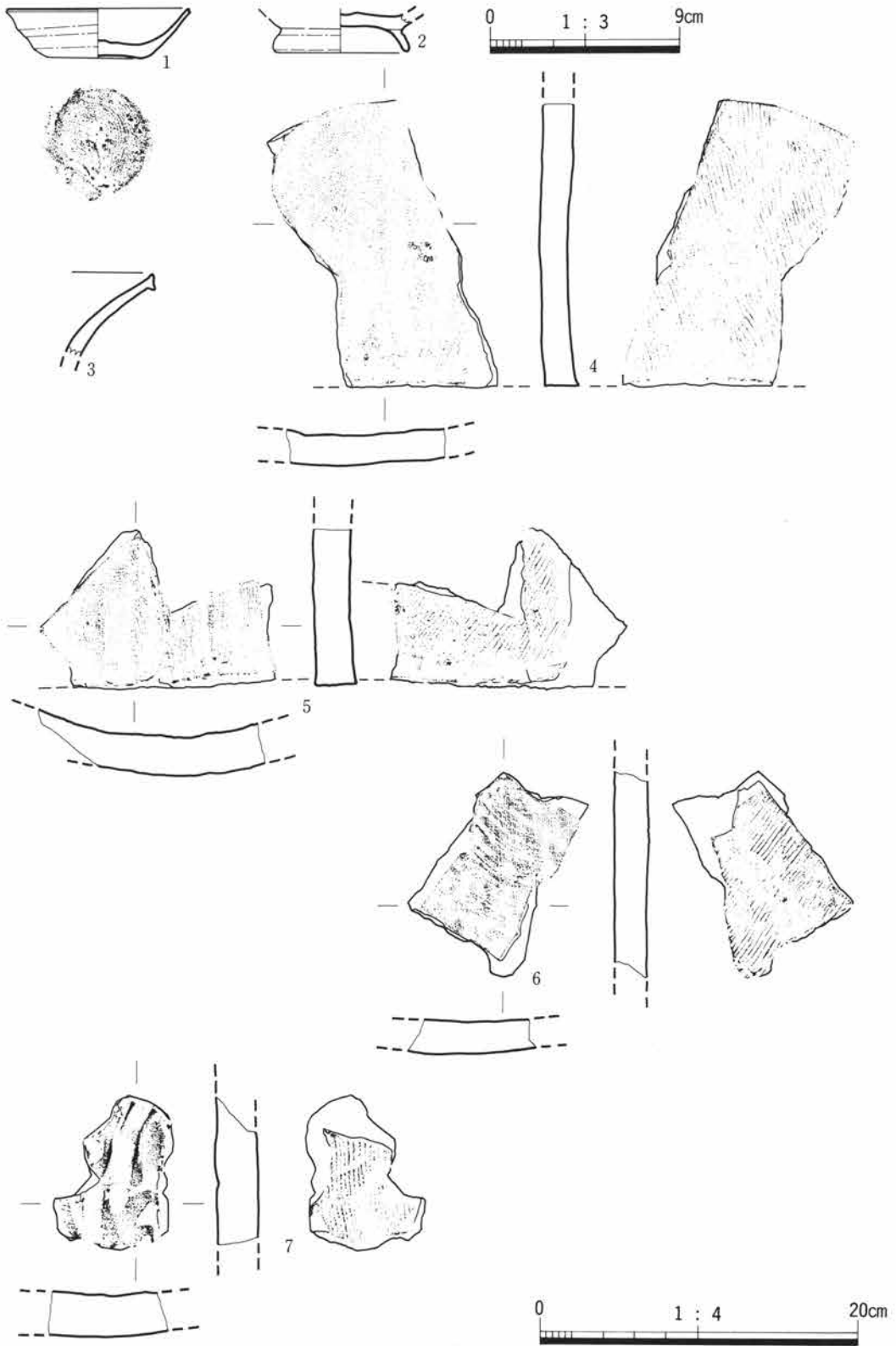
〇-Pライン・71km304m付近で検出した。確認面は第4層である。113号住居、229号土坑と重複している。これらは、113→111→229号の順に新しい。北東部は調査前にゴミ穴によって破壊されており、また北西部は調査区外になるため、全形を検出できなかった。カマド左脇から対辺までは、321cmを測る。覆土は自然に堆積している。壁は20～30cm遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は中央部がやや低い。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りで見出した。



第569図 田端地区B区111号住居跡



第570図 田端地区B区111号住居跡



第571図 田端地区B区111号住居跡出土遺物

燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道部は長さ30cmほど延びている。燃焼部奥壁で、立てた状態で瓦が出土している。また左右の袖部には10cm前後の石が据えられていた。カマド前の床面からは焼けた石が小塊に割れて出土している。

遺物はカマド周辺と南辺中央付近で出土している。第571図1は南辺中央壁際の床直上から、2・4はカマド前床面から、3は北側中央床面から、5は南辺中央壁際床面から、6はカマド燃焼部左壁際から、7はカマド前中央床面からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半から11世紀と考えられる。

田端B区第112号住居跡（第572～575図、図版142・199・200）

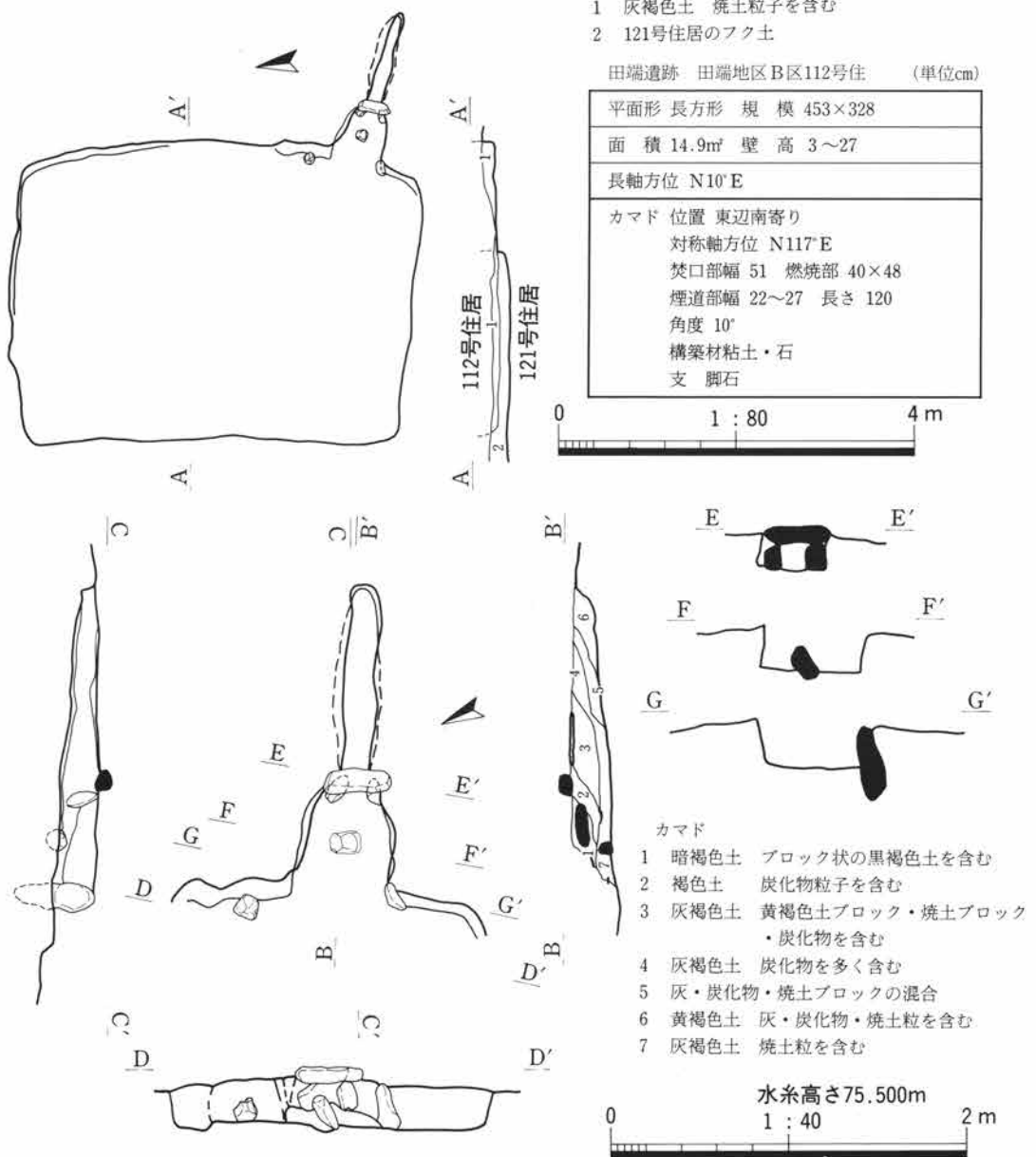
Oライン・71km300m付近で検出した。確認面は第4層である。113・115・121・138・139・145号住居と重複している。これらは、145→139→138→115→112号、113→121→139→112号住居の順に新しい。いずれも本住居が最も新しく、本住居はこの付近の重複住居のなかで最も新しい住居である。プランは南北に長い長方形で、南辺から北西隅にかけての辺は、プラン確認のために何度も削平したためにごく浅く、数センチメートルの高さの壁の立ち上がりを確認したのみである。床面はカマド前で検出したが、その他の部分は調査の着手順序を間違えたため、確認できなかった。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに確認した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道の天井部も一部遺存していた。燃焼部中央の斜めに傾いた状態で出土した石の上部には、長さ20cm・厚さ10～15cmのやや扁平な石が架けられており、燃焼部煙道側の天井石と考えられる。ま



第572図 田端地区B区112号住居跡カマド

た、燃焼部と煙道部との境には、長さ38cm・径10cm前後で断面略三角形を呈する石が横長に据えられていた。この石は直下の両側壁に接して立てた状態の、二つの石に支えられており、これら3個の石は鳥居状に組まれていた。燃焼部中央の傾いた石は支脚と考えられる。右袖部には長さ43cmの偏平な石が、約半分を地下に埋めた状態で据えられており、左袖部には据えた石はなかったが、すぐ脇の壁に接して、割れた石が出土している。

遺物はカマド内とその周辺から出土している。第574・575図1・3はカマド底面から、2は南西隅から、4はカマド煙道天井石の間から、5はカマド燃焼部北壁際から、6・7はカマド内から、8は



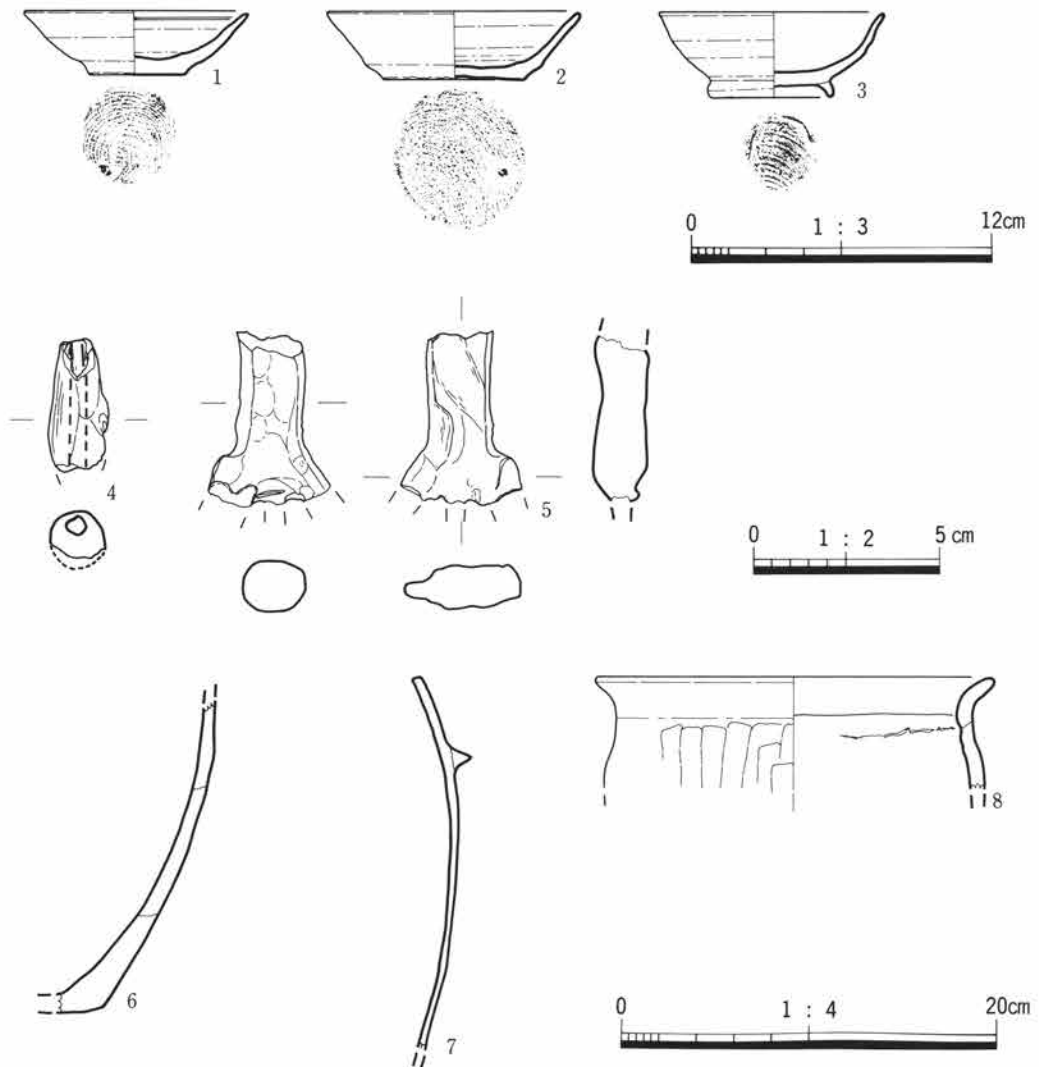
第573図 田端地区B区112号住居跡

カマド前の床面から、9は中央床面から、10は中央床直上から、11はカマド左脇の床面からそれぞれ出土した。図示しなかったが、南西隅からは粘土の塊（7cm大）が出土している。

時期は10世紀後半から11世紀と考えられる。

田端B区第113号住居跡（第576～579図、図版143・201）

O-Pライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。111・112・121・131号住居と重複している。これらは、113→111号、113→121→112号の順に新しい。南東隅を121号、北半を111号によって切られ、北辺は調査区外である。北東隅は辛うじて検出した。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良好で、30～40cmの高さがあり、80°前後で立ち上がる。床面は東側がやや高く、ほぼ平坦である。支柱穴とみられるピットはピット1があるが、対応するピットが発見できなかった。壁溝はない。カマドは東辺やや南寄りに検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプである。右袖部には



第574図 田端地区B区112号住居跡出土遺物（1）

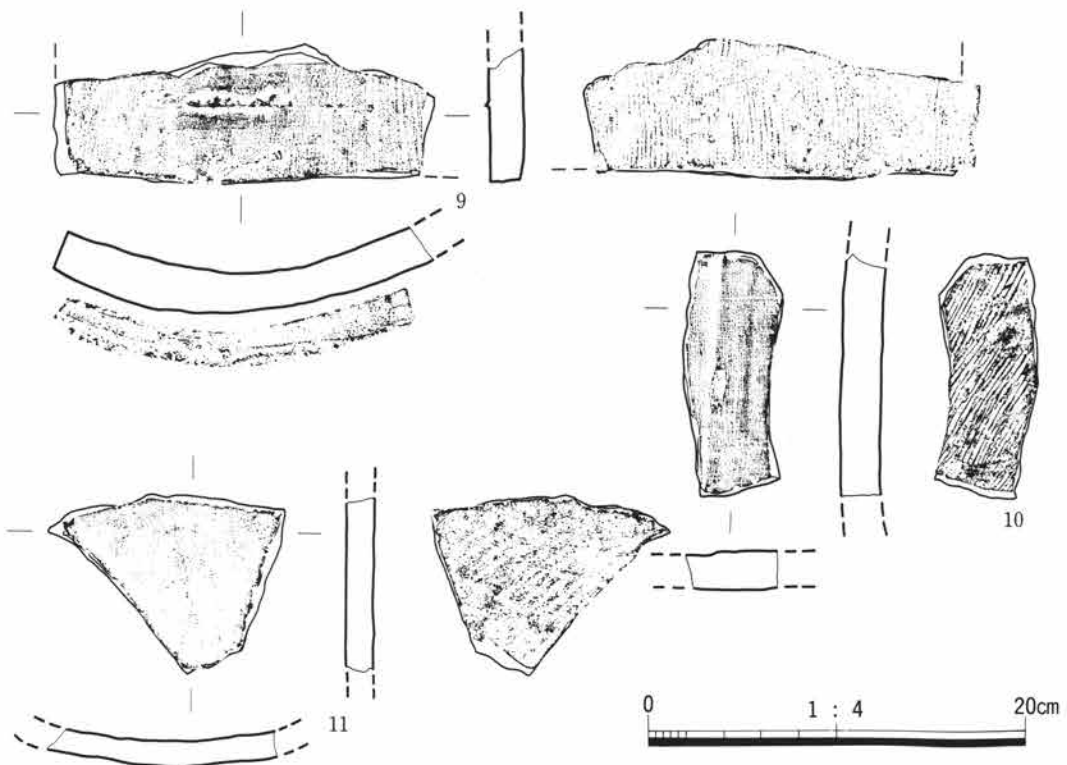
直方体に加工された凝灰岩が、立った状態で出土し、左袖部脇やカマド前からも石が出土している。カマド構築材の一部であろうか。貯蔵穴は南東隅で検出した。略三角形を呈し、中から土器が出土している。また、底面と壁際から15～20cm大の石が出土しているが、これらの一部は地山に含まれる石かもしれない。このほか、北西隅近くでピット2、北辺東寄りでピット3を検出した。ピット1は二段に掘り込まれており、最下端の径は11cmである。

遺物はカマド周辺と貯蔵穴内、中央付近の床面から出土している。第578図1は貯蔵穴底面から、2・10は南辺中央壁際の床面から、3は中央床面から、4・7・8は貯蔵穴内から、5は貯蔵穴内とカマド内の破片が接合、6はカマド内と覆土出土破片が接合、9はカマド前床面・南辺中央壁際床面の破片が接合、11はカマド前床面から、13はカマド前左脇床直上から、14は中央西より床直上からそれぞれ出土した。12は覆土出土の参考品である。

時期は9世紀後半と考えられる。

田端B区第114号住居跡（第580～583図、図版144・200）

P-Qライン・71km302m付近で検出した。確認面は第4層である。143号住居と重複しており、114→143号の順に新しい。西側と北側は発掘区壁に接しており、全体のプランを確認できなかった。本住居の西側は最近の工事によって攪乱され、住居確認面の深さまでゴミが詰まっていたため、調査の対象から外したことによる。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存が良好で、20～30cmの高さがあ

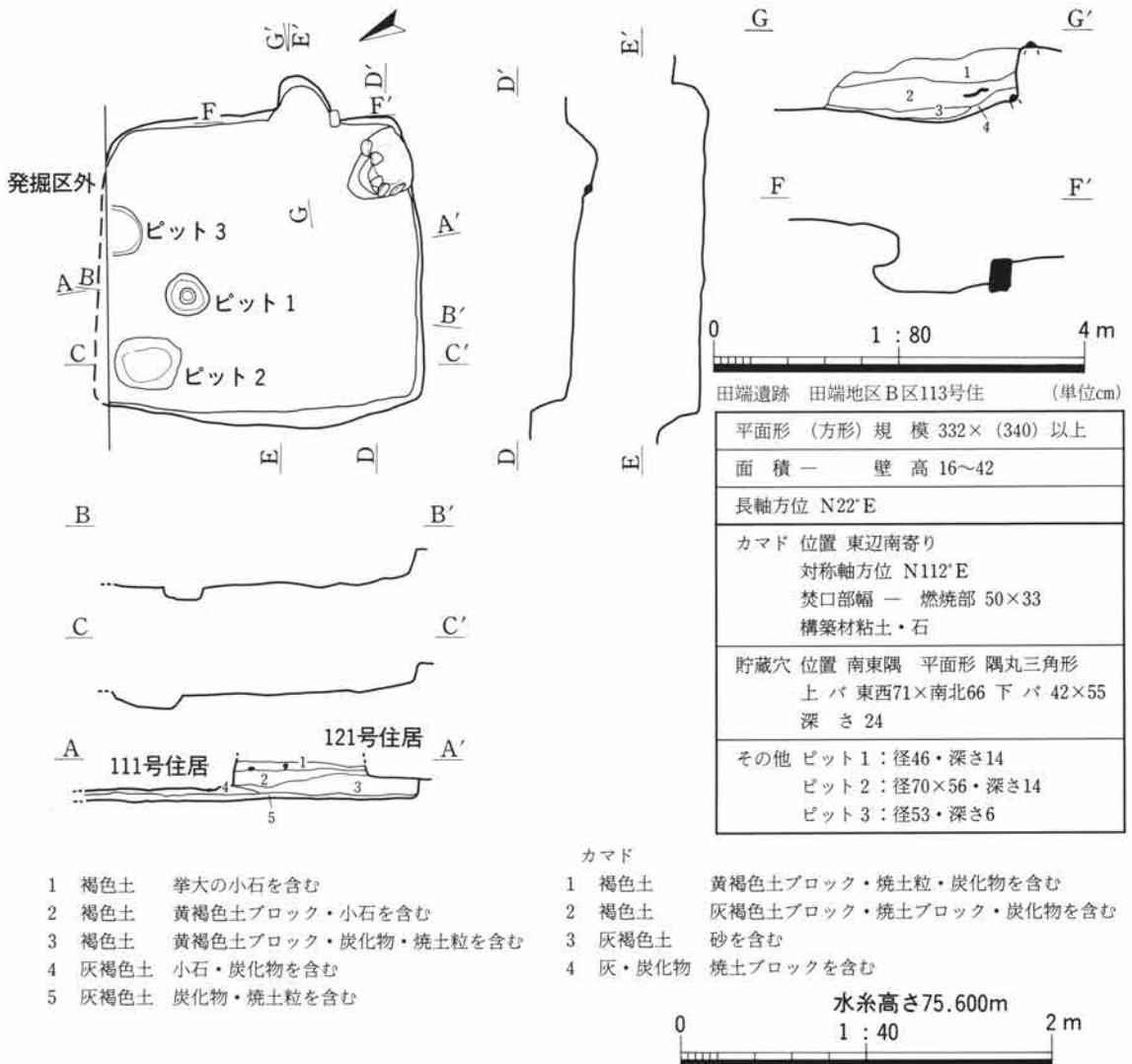


第575図 田端地区B区112号住居跡出土遺物（2）

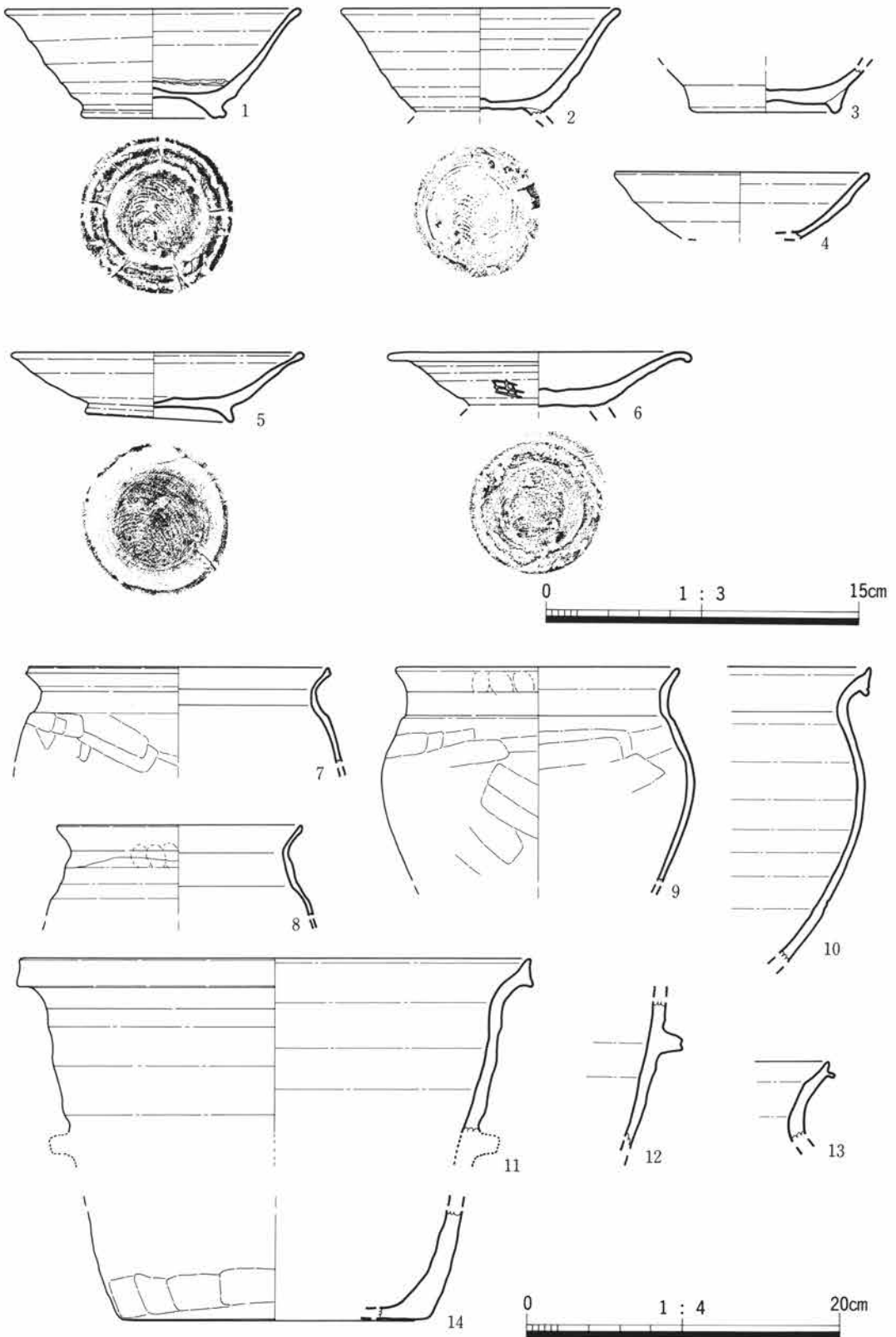


第576図

田端地区B区113号住居跡



第577図 田端地区B区113号住居跡

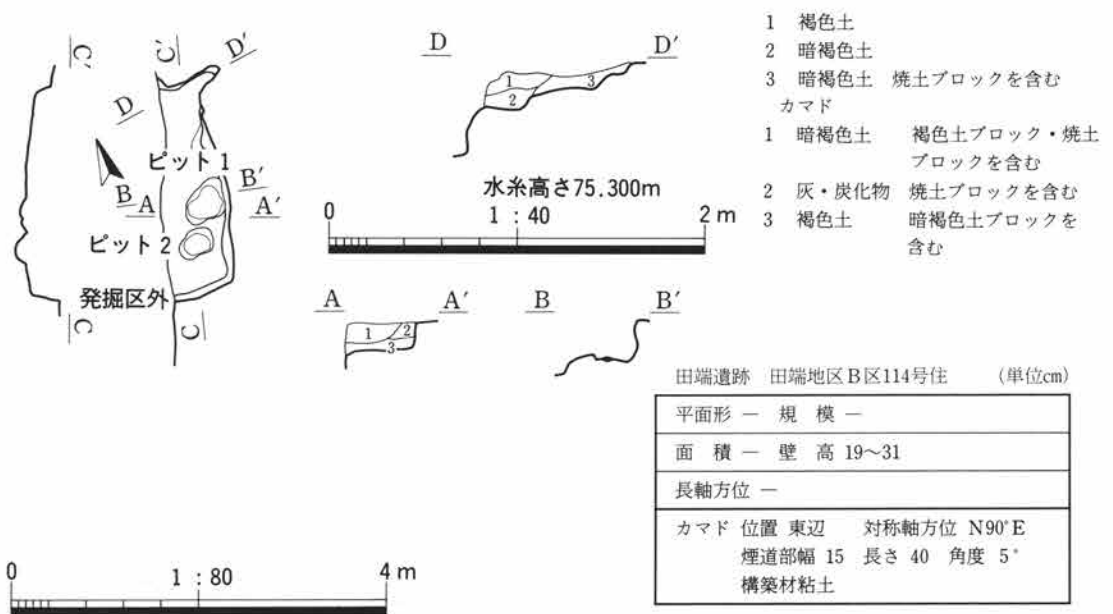


第578図 田端地区B区113号住居跡出土遺物

り、80°前後で立ち上がる。床面は細かい凹凸があり、南に向かって低くなる。主柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺北端の発掘区壁際で検出した。北半は発掘区外にあり、カマドの全体を調査できなかった。燃烧部が壁の内側にあるタイプで、煙道の一部を検出した。



第579図 田端地区B区113号住居跡



第580図 田端地区B区114号住居跡



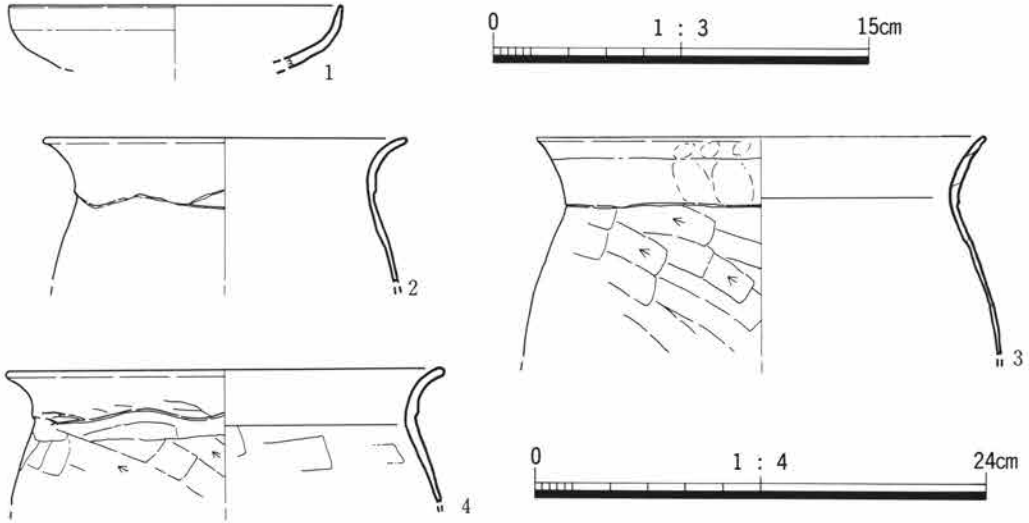
第581図 田端地区B区114号住居跡



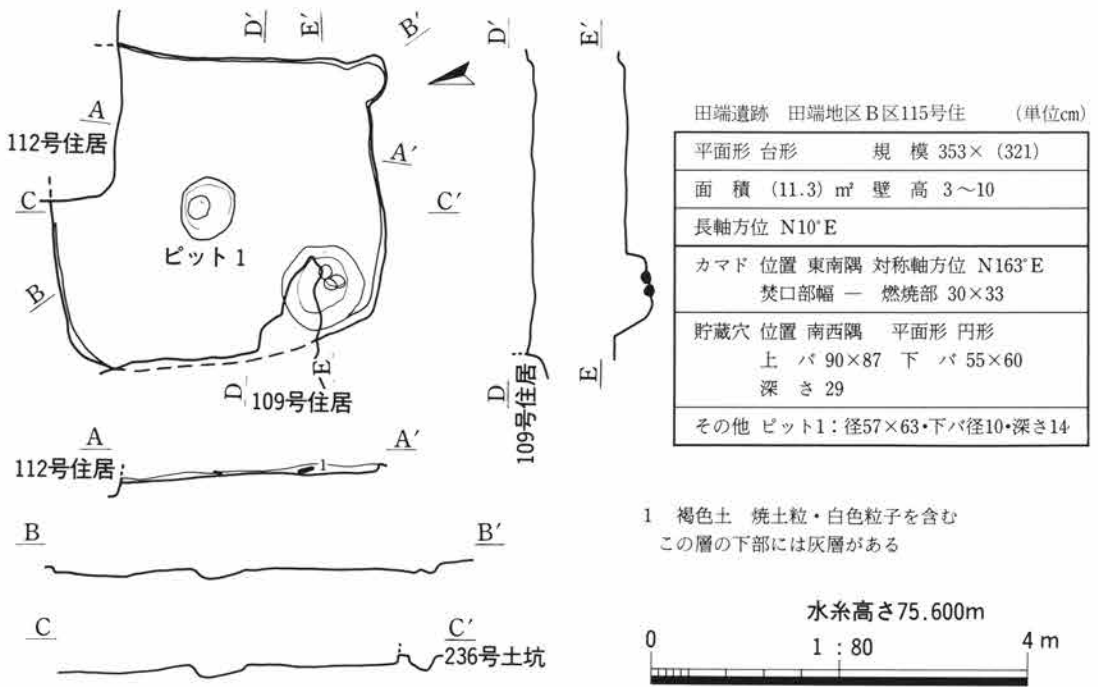
第582図 田端地区B区114号住居跡

遺物はピット1・2の直上で土器が集中して出土した。第583図1はカマド内から、2～4は東辺南寄り壁際の床直上からそれぞれ出土した。

時期は8世紀後半と考えられる。



第583図 田端地区B区114号住居跡出土遺物



第584図 田端地区B区115号住居跡

田端B区第115号住居跡（第584～585図、図版144・201）

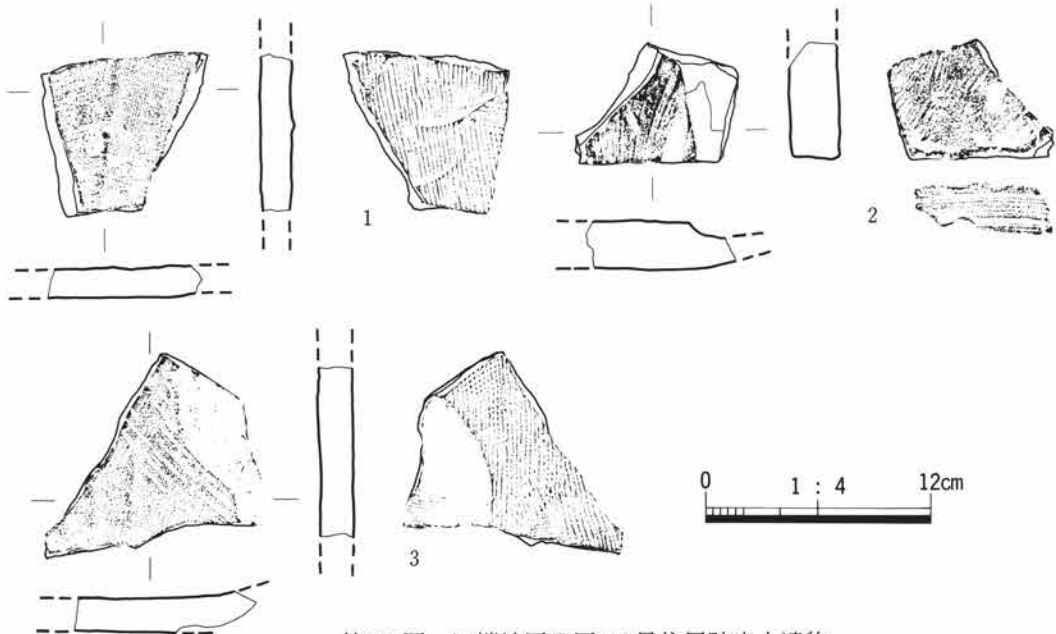
Nライン・71km301m付近で検出した。確認面は第4層である。109・112・133・138・139号住居、243号土坑と重複している。133号との前後関係は不明だが、115→109号、139→138→115→112号の順に新しい。243号土坑は本住居の床下から検出したものである。北東隅は112号住居に、西辺は109号住居によって破壊されているが、ほぼ全体のプランをつかむことができた。覆土は浅く、一層のみである。床面は北へ向かって低くなる。主柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは南東隅で検出した。燃焼部が壁外へ突出し、住居プランの対角線の方向に延びるタイプである。本体のほとんどは削平されて残っていなかった。わずかに、燃焼部の範囲を検出したのみである。貯蔵穴は南西隅で検出した。比較的大きめの径90cmの円形を呈し、底面から10～15cm大の石が3個出土した。

遺物はカマド周辺から出土している。図示できるのは瓦のみで、第585図1はカマド前床面から、2はカマド内から、3は南辺中央床面からそれぞれ出土した。

時期は重複関係からみると、10世紀後半～11世紀と考えられる。瓦は何等かの用途に転用されているため、上限を求める材料とはなるが、下限を限定できない。

田端B区第116号住居跡（第586～588・590図、図版145・202）

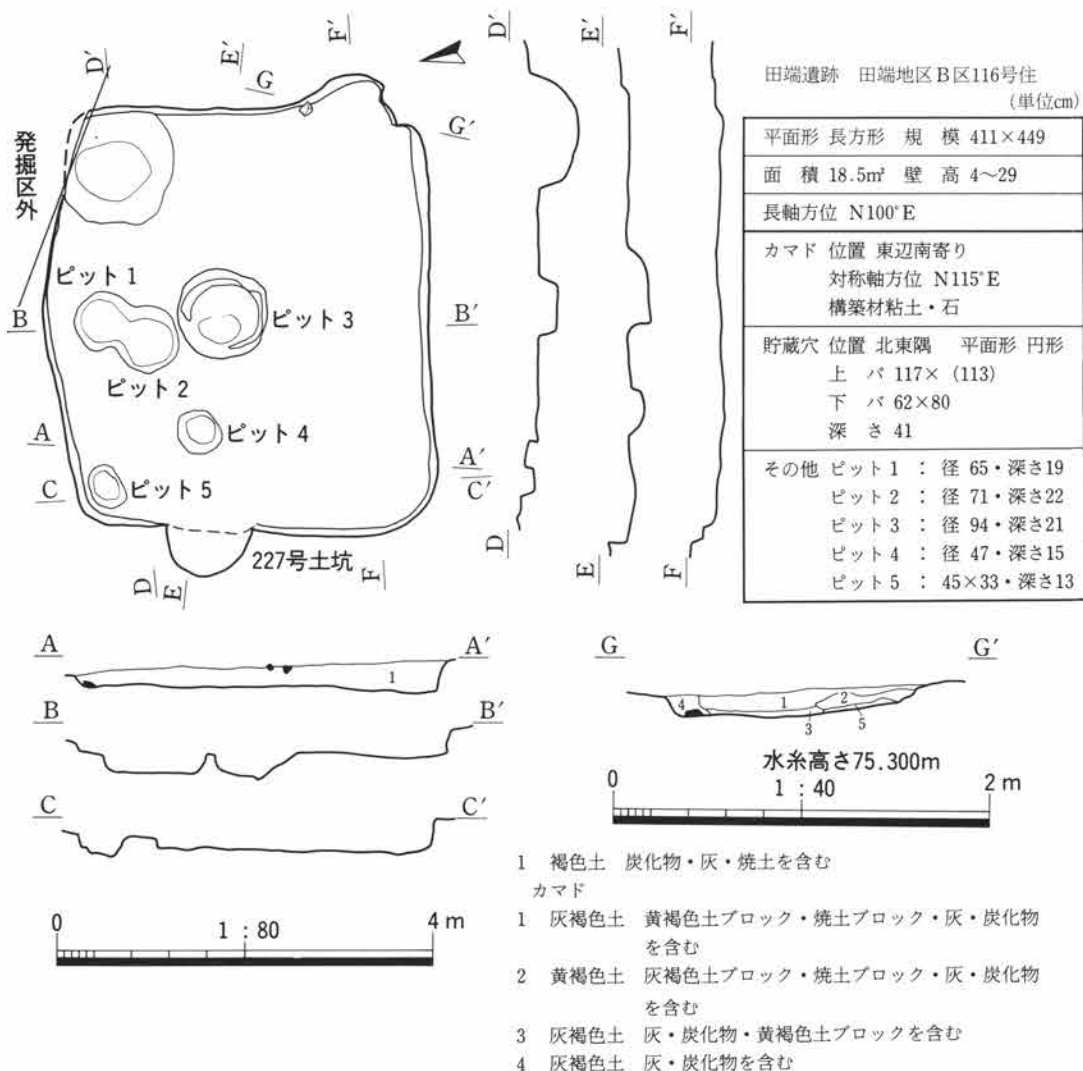
P-Qライン・71km298m付近で検出した。確認面は第4層である。122・129・143号住居・11号溝と重複している。11号溝は本住居よりも新しい。その他の住居はすべて本住居よりも古く、143→122→116号の順に新しい。129号と122号との関係は不明である。本住居は南東隅に11号溝がかかり、北東隅



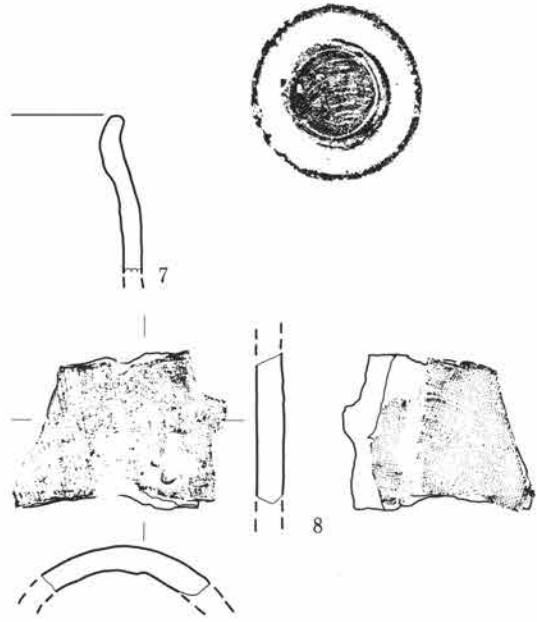
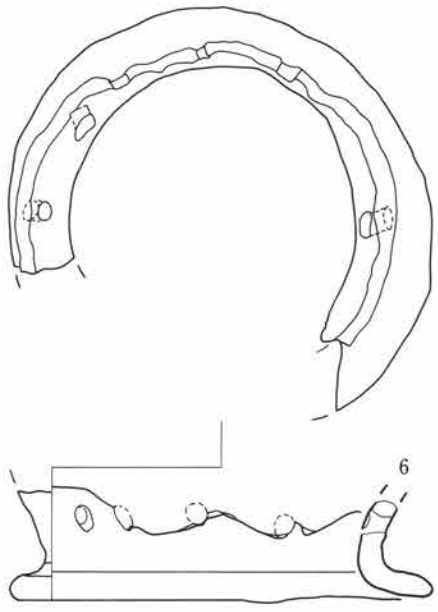
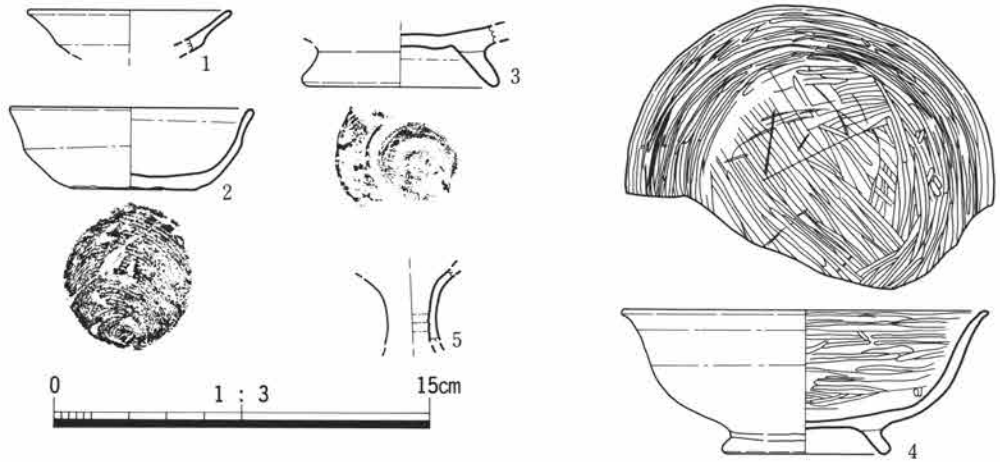
第585図 田端地区B区115号住居跡出土遺物

は発掘調査区外にあって全形を確認することはできなかった。覆土は一層のみで、自然に堆積している。壁は高さ4～29cmが遺存しており、斜めに立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド前～貯蔵穴は堅く踏み固められていた。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプである。左袖の位置から石が出土している。カマド構築材と考えられる。煙道は不明である。貯蔵穴は北東隅に検出した。中から35×35・厚さ15cmほどの石が出土した。また、南西隅の床面から30×30・厚さ10cmほどの石が出土し、その近くから土器が出土した。貯蔵穴以外にもピット1～5がある。そのうちピット3は住居中央に位置し、径94cm・深さ21cmで、中から石が出土している。

遺物はカマド内、北西隅から出土している。また、カマド前から住居中央にかけて、拳大～人頭大の石が散乱していた。第587・588図1・3・5・7・8は貯蔵穴内から、2・6は北西隅床面から、



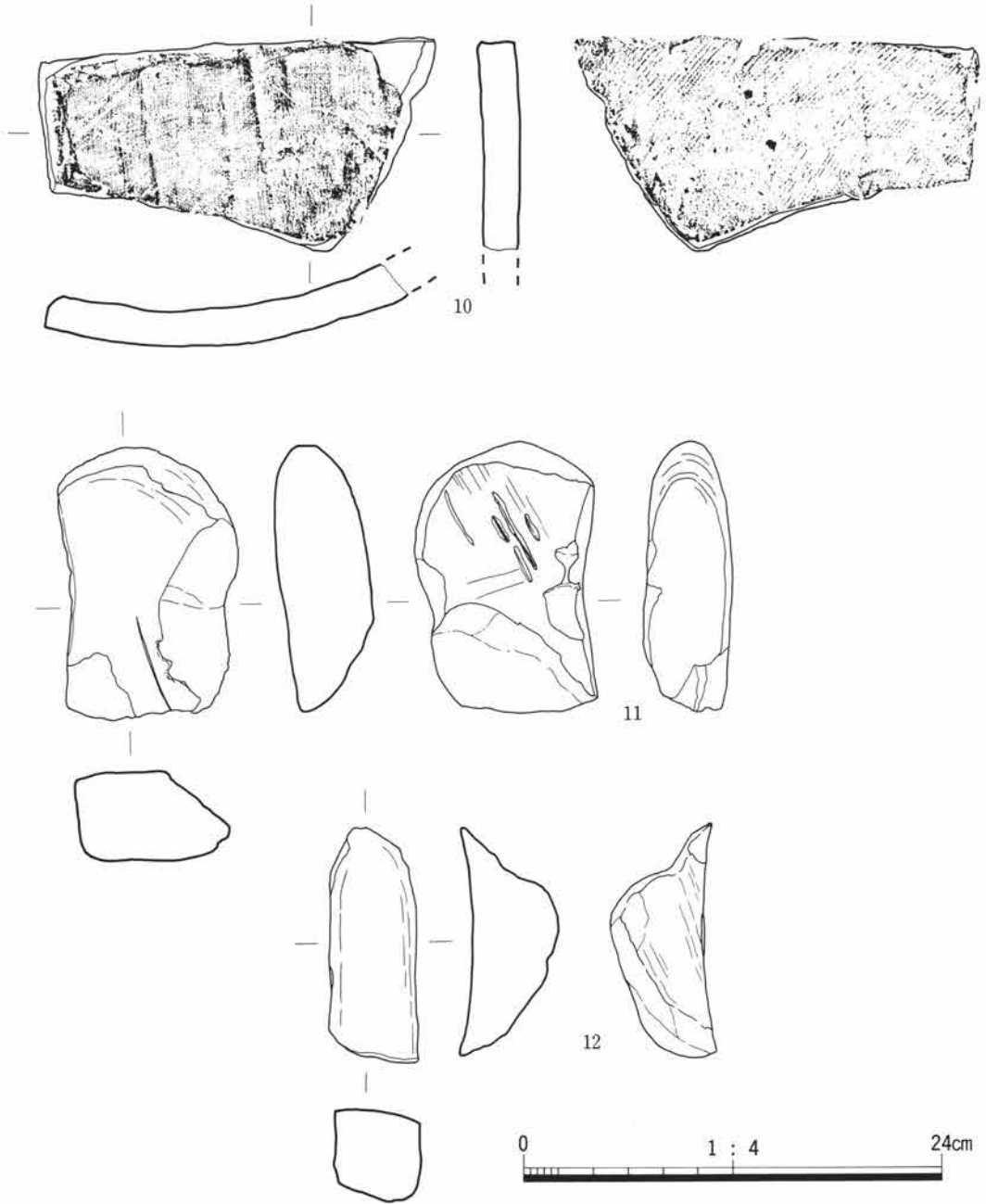
第586図 田端地区B区116号住居跡



第587図 田端地区B区116号住居跡出土遺物（1）

4は北辺寄り中央の床面から、9は南西隅床面から、10は中央西寄り床直上から、11・12は北辺中央壁際の床面からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第588図 田端地区B区116号住居跡出土遺物(2)

田端B区第117号住居跡

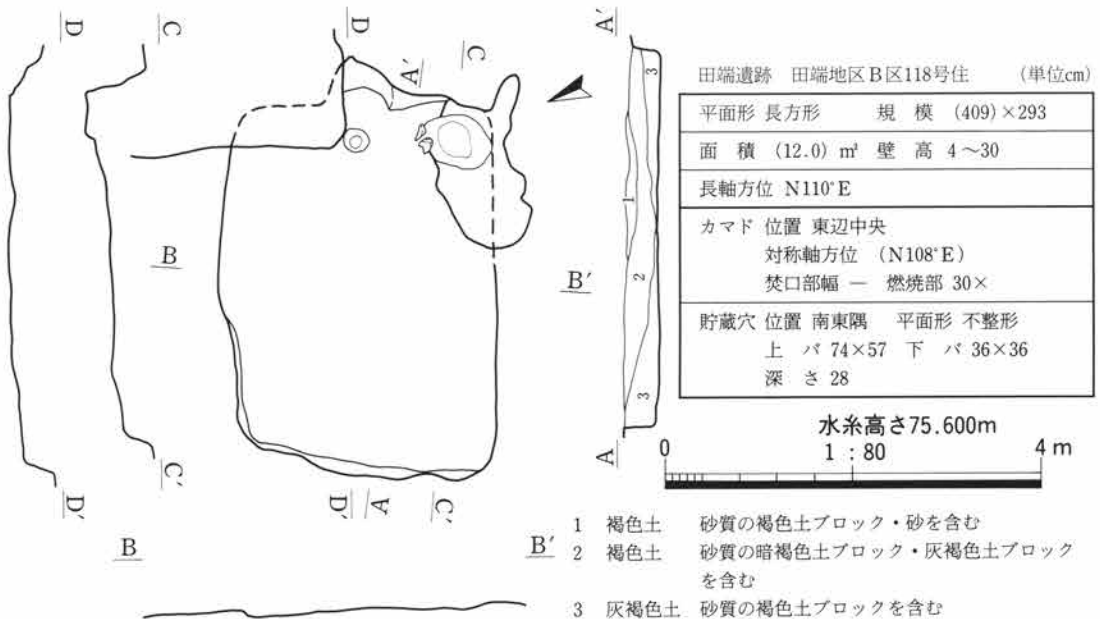
110号住居の南側で110号に重複して番号を付けたが、調査時点でも壁の立ち上がりやプランは明確にとらえることができず、また焼土の検出もできなかった。従って、本住居は欠番とする。

田端B区第118号住居跡 (第589・591・592図、図版145・203)

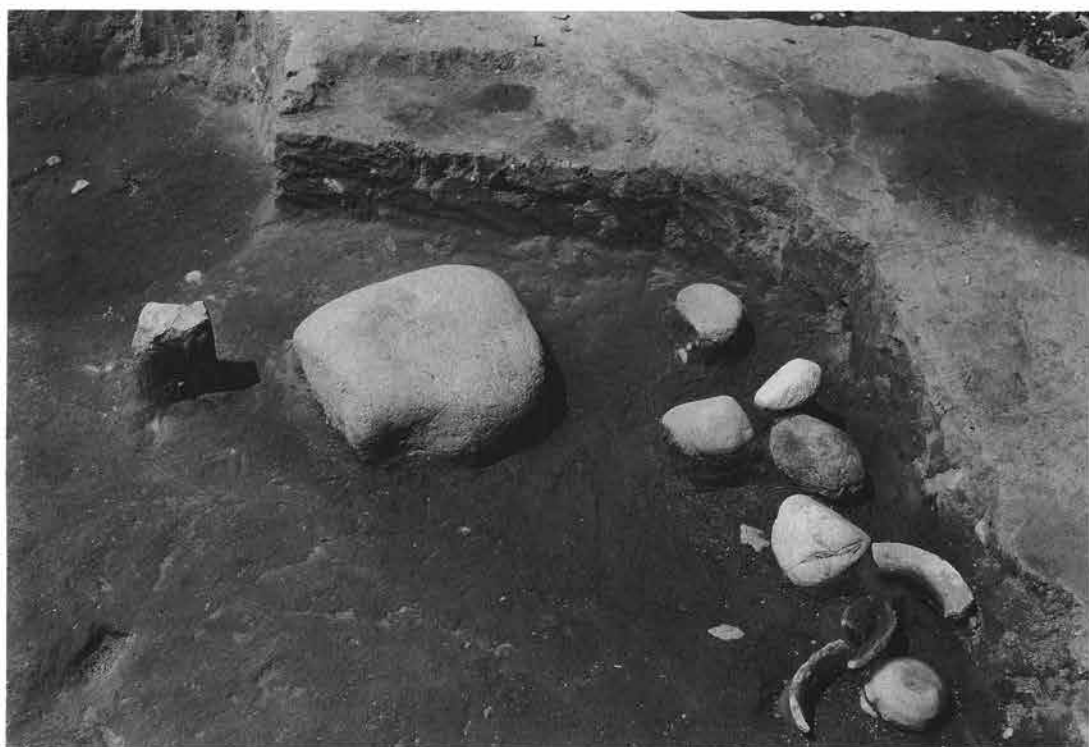
L-Mライン・71km298m付近で検出した。確認面は第4層である。110・148・149号住居と重複している。本住居はこれらの3軒に切られており、最も古い。北東隅は149号と重複し、カマドの一部は破壊されている。南東隅は新しい110号のカマドがかかり、掘形によって破壊されている。北西隅は148号のカマドがかかるが、浅いため辛うじて遺存している。従って本住居のプランは東側の両隅を欠くが、ほぼ長方形とみることができる。覆土は自然に堆積している。壁は北半の遺存状態が良く、斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸があるが、ほぼ平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺の中央に検出した。北半は149号住居によって切られているため、全体の様子は不明である。検出した部分でみると、燃焼部は半分ほど住居の外側に突出していると考えられる。カマド前に径25~30cm・深さ20cmのピットを検出したが、本住居に伴うものかどうかは不明である。貯蔵穴は南東隅の110号住居カマド掘形の下から検出した。覆土・底面から遺物が出土している。

遺物はカマド内および貯蔵穴から出土している。第592図1~3・5は貯蔵穴内から、4・6・7はカマド内から出土している。

時期は9世紀後半~10世紀初めと考えられる。



第589図 田端地区B区118号住居跡



第590図 田端地区B区116号住居跡



第591図 田端地区B区118号住居跡

田端B区第119号遺構 (第593図、図版146)

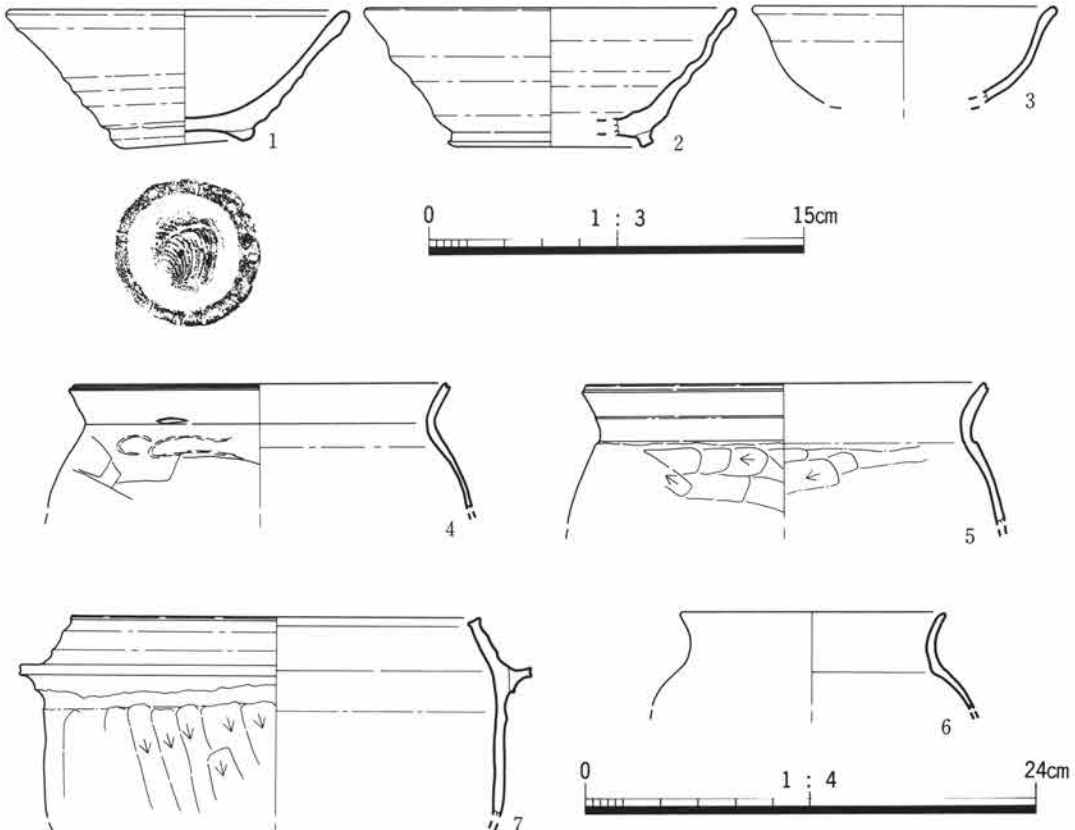
N-Oライン・71km309m付近で検出した。確認面は第4層である。120号住居、238号土坑と重複している。これらは120→119→238号の順に新しい。238号土坑下部の円形の掘り込みは、本遺構床下で検出したもので、方形の部分とは別の遺構かもしれない。

本遺構は南東隅のみがほぼ直角をなし、他の辺はコブ状に突出していて不整形である。また、東辺やや北寄りに突出した部分は、当初カマドと考えて調査を進めたが、焼土・灰等は検出できず、他の部分と同様な突出部であることが判明した。南西部分は238号土坑の存在によって壁の立ち上がりが攪乱された結果、不整形を呈していると考えられる。以上のことから、本遺構は住居跡とするには積極的な材料を欠き、疑問である。ここでは調査当時の名称をそのまま使わず、遺構番号としての「119号」のみ生かすことにする。

覆土は最下層に灰褐色土が堆積しており、上層の土も他の住居と同様の土層である。中位の第2層には焼土粒子をふくんでいる。堆積の仕方は自然である。壁は20～30cmの高さが遺存し、斜めに立ち上がる。底面は礫を含んだ層が露出しているが、ほぼ平坦である。

遺物は小片が出土しているがすべて覆土出土のもので、床面から出土した遺物はなく、図示しなかった。

時期は重複関係からみると、120号住居以後である。



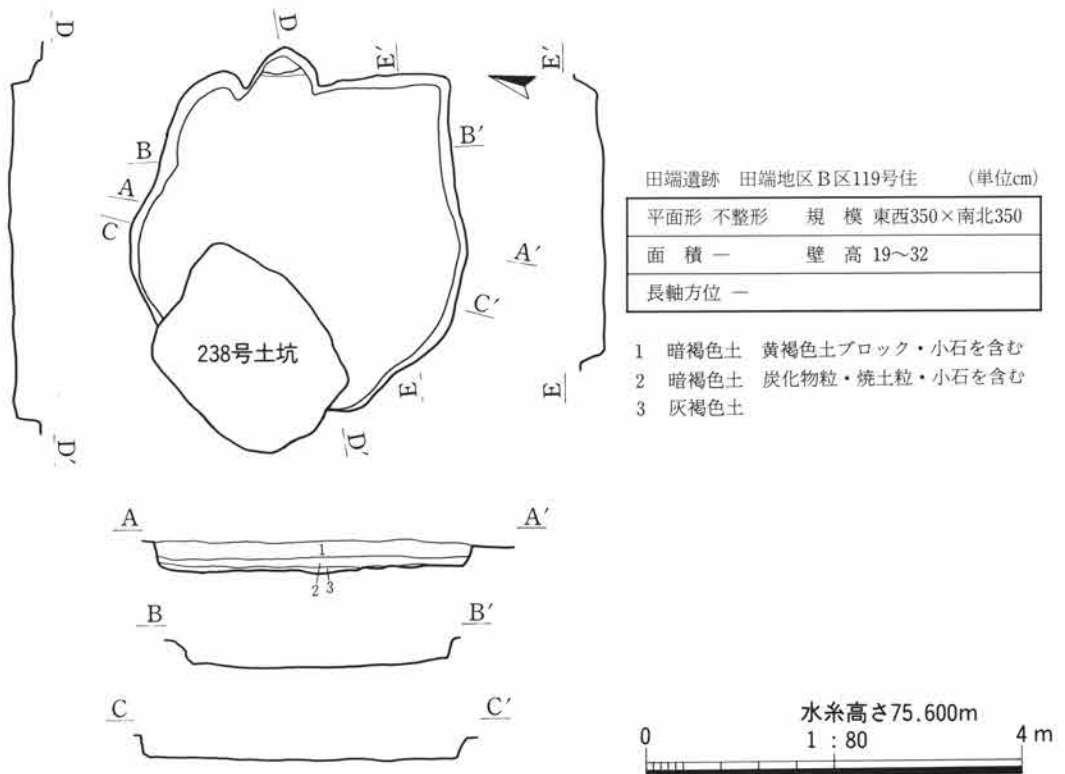
第592図 田端地区B区118号住居跡出土遺物

田端B区第120号住居跡 (第594～596図、図版146)

N-Oライン・71km306m付近で検出した。確認面は第4層である。109・119号住居、234号土坑と重複しており、234→120→109・119号の順に新しい。南東隅を109号住居に、北東隅から南西隅を119号住居によって破壊されたため、プランは推定である。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cm前後が遺存していた。床面は下層の小石が露出しており、中央がやや高く、周辺が低い。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺で検出した。南半を109号住居によって破壊されているため規模等は不明である。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプと考えられる。カマド内からは10～20cm大の石が出土しており、これらはカマドの構築材の一部であろう。

遺物はカマド内およびカマド前から土器片が出土している。第596図1はカマド内から出土した。ほかにカマド内から羽釜の体部片があるが、図示しなかった。この羽釜は内外面ともロクロナデを施し、外面の底部近くにヘラケズリを施している。内外面に炭化物が付着している。

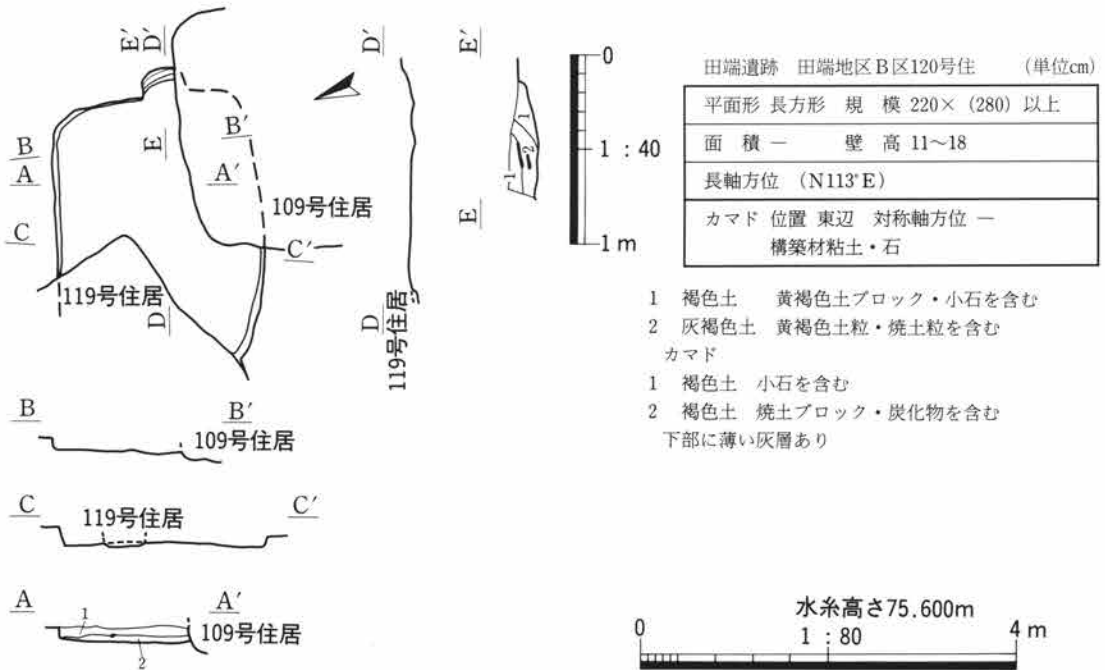
時期は234号土坑以後で、10世紀後半と考えられる。



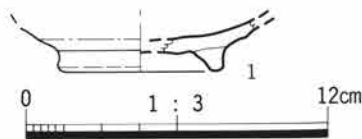
第593図 田端地区B区119号住居跡



第594図 田端地区B区120号住居跡



第595図 田端地区B区120号住居跡



第596図 田端地区B区120号住居跡出土遺物

遺物觀察表

遺物観察表

- 1 遺物番号は実測図・写真図版中の番号と一致する。
- 2 法量は上から口径・器高・底径とし、……は計測不能、●は丸底を表す。()に入った数値は推定復原値を表し、とくに単位を付けたもの以外は、単位はすべてセンチメートルである。脚部等をもつものは、裾端部径をもって底径とし、高台を付けるものは「高台……」とした。また、蓋の場合はツمام径を加えたものがある。
- 3 住居跡出土遺物の出土位置は平面的位置－垂直的位置の順に記入したが、カマド・貯蔵穴等屋内施設として認識された部分から出土した遺物は、施設の名称を優先した。
- 4 備考欄または特徴欄には後日の検索を期して整理番号を記入した。整理番号は整理作業中に付けられた遺物番号で、この番号によって写真・実測図・遺物の検索・同定が可能である。
整理番号の意味については、第1分冊凡例中に記した。なお、瓦については個体数把握のため、「観察通番」が別にあり、整理番号が付かないものも、観察通番によって遺物の同定が可能である。
- 5 備考欄の②焼成については、酸化焙焼成と還元焙焼成の別を優先し、これに硬質・軟質を加えた。
- 6 遺物の種類は、土器の場合は器種－焼物種（須恵器・土師器・土師質）の順に、陶器・磁器の場合は焼物種－器種の順とした。須恵器の器形・成整形特徴をもち、酸化焙焼成の土器をここでは「土師質」と呼んだが、酸化・還元の別は平安時代以後、本質的な意味を失うと見ている。
- 7 瓦の観察に関しては、第5分冊の瓦についての考察を参照されたい。

田端地区A区第1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿 須恵器	1/2	口径(14.9) 器高 3.3 高台 (6.3)	北東部床 面	体部は直線的に開き、口縁部は強く外反して水平近くまで開く。高台は外端部が跳ね上がる。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYA1-7、深さ2.2
2	高台付皿 須恵器	1/2	口径 12.8 器高 2.4 高台 5.8	西側北側 床面	体部は直線的に開き、口縁部に至る。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。内底中央がくぼみ、薄くなっている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄褐色④TAYA1-17、深さ1.6
3	高台付皿 須恵器	1/2	口径 13.7 器高 2.9 高台 5.2	中央部床 面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部はわずかに丸味をもち、口縁部は外反する。高台端部に平坦面をもつ。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYA1-16、深さ1.7
4	高台付皿 須恵器	1/2	口径 13.9 器高 2.4 高台 7.1	南側中央 壁際	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は外反気味に開き、口縁部は肥厚して水平近くまで開く。高台の接地部に細い凹線をもつ。	①砂粒を含む②還元、軟質③灰白色④TAYA1-6、深さ1.1
5	杯 須恵器	1/2	口径(13.5) 器高 3.6 底径 (6.0)	床下土坑 内	外底は右回転糸切り後、無調整。体部にやや丸味をもち、口縁部はわずかに外反する。2次火熱を受けている。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③にぶい黄褐色④TAYA1-74、深さ2.7
6	杯 須恵器	1/2	口径 12.9 器高 4.0 底径 5.9	カマド前 フク土	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。体部外面のロクロナデ痕が目立つ。	①白色粒子を含む②還元③灰白色④TAYA1-71、深さ3.2
7	杯 須恵器	1/2	口径(14.2) 器高 4.3 底径 (7.7)	南側中央 部フク土	外底は回転糸切り後、無調整または高台貼付け。体部は直線的に開き、外面のロクロナデ痕が目立つ。器表摩滅。	①砂粒を含む②還元、軟質③灰白色④TAYA1-75、深さ3.9
8	杯 須恵器	1/2	口径 13.3 器高 4.1 底径 5.5	西側中央 床面	外底にナデを加えている。体部は丸味をもち、口唇部は肥厚して外反する。外底に突出感がある。内面に黒色の付着物がある。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYA1-10、深さ3.1
9	杯 須恵器	略完	口径 13.6 器高 3.7 底径 6.6	カマド前 灰層	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。体部外面のロクロナデ痕が目立つ。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TAYA1-8、深さ2.8
10	高台付椀 須恵器	1/2	口径(15.0) 器高 5.2 高台 6.6	ピット3 内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。高台の外端は接地しない。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYA1-32、深さ4.1
11	高台付椀 須恵器	1/2	口径(14.4) 器高 4.9 高台 6.9	カマド右 側床面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は水平近くまで開く。高台の貼付けは雑である。歪みあり。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYA1-13、深さ4.0
12	高台付椀 須恵器	1/2	口径(14.8) 器高 5.4 高台 (7.0)	カマド内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元、軟質③黒褐色④TAYA1-5、深さ4.2
13	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高1.8 高台 6.4	カマド右 前床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部以上を欠く。高台外端は接地しない。高台の下端部に凹線を施す。	①白色粒子を含む②還元③にぶい橙色④TAYA1-72
14	高台付椀 須恵器	1/2	口径(15.1) 現存高4.6 ……	南東部床 面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台を欠く。体部にやや丸味をもち、口縁部はわずかに外反する。内底に2.5cm大の穴がある。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黄色④TAYA1-9、深さ3.8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
15	高台付 椀 須恵器	1/2	口径(14.7) 現存高5.0	ピット内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台を欠く。体部は直線的に開き、口縁部に至る。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③淡赤橙色 ④TA¥A1-31、深さ4.2
16	杯または椀 須恵器	口縁部 1/2	口径(15.0) 現存高4.2	カマド右 前床面	底部を欠く。体部に丸味をもち、口縁部は強く外反する。内外面丁寧なロクロナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TA¥A1-78
17	杯 須恵器	口縁部 1/2	口径(15.0) 現存高3.3 ……	南側中央 部床面	底部を欠く。体部にやや丸味をもち、口縁部は外反する。イブシ焼成。	①白色粒子を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色 ④TA¥A1-80
18	高台付 椀 須恵器	1/2	…… 現存高6.5 高台 7.5	カマド左 前床面	口縁部を欠く。体部は内湾気味に開く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。	①細砂粒を含む②還元③灰黄色④TA¥A1-12
19	高台付 椀 黒色土器	1/2	口径(14.9) 器高 5.1 高台(6.3)	南辺壁際 フク土	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部に丸味をもち、口縁部は外反する。内面は研磨・黒色処理を施す。仕上げは丁寧である。	①白色粒子を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥A1-4、深さ4.0
20	椀 黒色土器	口縁部 小片	口径(14.1) 現存高4.6	南西部床 直上	底部を欠く。体部に丸味をもち、口縁部は外反する。内面は研磨・黒色処理を施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥A1-2
21	椀 黒色土器	1/2	口径(12.6) 器高 4.0 底径 5.5	北側中央 フク土	20とよく似るが接合しない。内面は研磨・黒色処理を施す。研磨は放射状を呈する。外底は右回転糸切り後、無調整。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥A1-1、深さ3.2
22	椀 灰釉陶器	口縁部 1/2	口径(16.8) 現存高3.5 ……	南側中央 部床直上	底部を欠く。体部に丸味をもち、口縁部は強く外反して水平近くまで開く。内面と口縁部外面に釉がかかる。	①精良②還元、硬質③灰白色④TA¥A1-3
23	壺 須恵器	底部 1/2	…… 現存高4.7 高台(12.1)	北辺西側 フク土	体部以上を欠く。高台は高さ1.4cmで、外面に凹線を施す。内底はロクロナデ痕が目立つ。外面の高台脇には丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TA¥A1-11
24	土 錘 土 師 質	略完		ピット1 内	長さ3.8cm、径1.3cm、重さ7.2g。図の上端側には平坦面をもつ。孔は中央にない。④TA¥A1-30	
25	土 錘 土 師 質	完形		南東部フ ク土	長さ4.2cm、中央部径1.7cm、重さ9.8g。中央部に比べ両端が細い。孔径0.5cm。④TA¥A1-28	
26	土 錘 土 師 質	完形		中央部床 面	長さ5.6cm、中央部径1.6cm、重さ14.4g。両端に平坦面をもち、中央部が太い。④TA¥A1-29	
27	土 錘 土 師 質	完形		東側中央 フク土	長さ6.1cm、中央部径1.6cm、重さ15.7g。両端に平坦面をもつ。孔径0.3cm。④TA¥A1-26	
28	土 錘 土 師 質	完形		カマド右 前フク土	長さ5.3cm、中央部径1.3cm、重さ7.4g。やや細身。④TA¥A1-27	
29	甕 土 師 器	口縁部 1/2	口径(20.0) 現存高6.8 ……	カマド左 前床面	体部中位以下を欠く。肩部に張りがなく、口縁部は「コ」字状を呈する。肩部はヨコ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥A1-20

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
30	甕 土師器	口縁部 1/2	口径(12.5) 現存高10.2 ……	床下土坑 内	体部下半以下を欠く。体部中位に最大径(16.9cm)がある。口縁部は「コ」字状を呈する。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラケズリのちナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYAI-19
31	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/6	口径(11.9) 現存高5.6 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。口縁部はにぶい「コ」字状を呈する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYAI-23
32	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/3	口径(20.0) 現存高9.0 ……	南東部 床面	体部以下を欠く。口唇部に細い凹線を持つ。頸部に粘土の接合痕を残す。体部内面にハケメ状の調整痕を残す。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TAYAI-21
33	甕 土師器	口縁部 小片	口径(12.6) 現存高5.7 ……	中央部フ ク土	体部以下を欠く。口縁部はにぶい「コ」字状を呈する。頸部近くの外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。口唇部は丸く肥厚する。2次火熱の痕跡あり。	①砂粒を含む②酸化③にぶい 橙色④TAYAI-68
34	台付 土師器	底部 1/4	現存高 3.6 脚径 8.2	フク土	体部以上を欠く。台脚部は「ハ」字状を呈し、水平近くまで開く。脚部内面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYAI-83
35	甕 土師器	口縁部 小片	口径(19.0) 現存高6.1 ……	ピット内	体部以下を欠く。口縁部は「コ」字状を呈する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。内外面に炭化物付着。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYAI-25
36	甕 須恵器	口縁部 小片	口径(29.0) 現存高7.2 ……	カマド左 前床面	頸部以下を欠く。強く外反して、口唇部外面は断面三角形を呈する。内面に焼成時の灰をかぶっている。外面に文様はない。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYAI-36
37	甕 須恵器	口縁部 1/4	口径(39.2) 現存高8.2 ……	カマド前 フク土	頸部以下を欠く。強く外反して、口唇部外面に3本の凹線を施す。内外面ともヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYAI-37
38	甕 須恵器	1/6	…… 現存高30.5 底径(14.0)	南側中央 部	口縁部・底部中央を欠く。ややズングリした形態で、頸部径は(12.0)cmである。肩部にわずかなタタキ目を残す。体部外面は丁寧なナデ、内面はロクロナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYAI-35
39	刀 鉄	子製 切先欠		貯蔵穴内	刃部半欠。茎が遺存し、一部に木質を残す。棟関が予想される。長さ10.6cm、刃部幅0.9cm、茎長さ6.0cmが遺存する。④TAYAI(上)-87	
40	刀 鉄	子製 刃部小 片		西辺中央 床面	刃部～茎の一部が遺存する。長さ4.2cm、最大幅1.1cmを残す。 ④TAYAI(上)-89	
41	刀 鉄	子製 切先		西辺中央 床面	茎を欠く。切先を含む刃部が残る。長さ5.7cm、幅1.0cm、厚さ0.3cmが遺存する。④TAYAI(上)-90	
42	刀 鉄	子製 切先欠			ピット内刃部～茎が残る。長さ9.3cm、刃部幅0.8cm前後が遺存する。茎に木質が残る。④TAYAI(上)-88	
43	不 鉄	明 製		カマド右 前床面	鉄の一部か。長さ4.6cm、幅0.6cmが遺存する。④TAYAI(上)-86	

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
44	甕 須恵器	体部	…… 現存高67.8 ●	カマド内 ～中央部	大型の甕の一部。頸部以上を欠く。体部も一部が遺存するのみで、径復原は困難。体部外面は平行タタキ目、内面の当て具痕は無文である。底部外面にカキ目を施す。体部内面の下に底部との接合痕を残す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TAYA1-33・34

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法							整形技法		摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板刺取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
45	1536	1住	丸	0.8	粗	微	軟	淡素	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
46	1538	1住	丸	0.9	粗	微	軟	灰	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中3類
47	1540	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中平行叩 3類
48	1535	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
49	1532	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
50	1539	1住	丸	0.8	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
51	1531	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
52	1533	1住	丸	1.1	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
53	1541	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
54	1530	1住	丸	1.0	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	浅い平行叩3類
55	1534	1住	丸	1.1	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類
56	1537	1住	丸	0.9	粗	微	軟	淡黄	なし	なし	凸型	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1	火中浅い平行叩 3類

田端地区A区第2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀土師質	略完	口径 11.3 器高 5.1 高台 (6.8)	カマド左 前床直上	体部は丸く内湾して開き、口縁部をわずかに外側にひき出す。外底は絞り込んで回転糸切り後、高台貼付け。内面に油煙が付着している。灯明用として転用か。	①黒色砂粒を多く含む②酸化、やや硬質③浅黄色④TAYA2-3、深さ3.5
2	土釜 土師質	口縁部 ～体部 ¼	口径(20.2) 現存高14.0 ……	カマド内	体部中位で丸く内湾し、頸部でゆるやかにしまる。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。体部外面は上部にスス付着。内面に炭化物あり。	①砂粒・黒色石粒を含む②酸化、軟質③黒褐色④TAYA2-1

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法							整形技法		摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板刺取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
3	1507	2住	平	2.7	密	含	締		○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1	平行叩格子化 1A類④TAYA2-2	

田端地区B区第2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	略完	口径 9.9 器高 2.2 底径 5.2	西壁際床 直上	身の浅い小型杯。体部下位にやや張りをもつ。体部はロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・小石・白色石粒を含む②酸化、軟③褐色④TA¥B2-1、深さ1.8
2	杯 土師質	底部	…… 現存高2.5 底径 6.8	カマド 内・貯蔵 穴内	体部大きく開き、平底である。底部外縁しぼり込み、右回転糸切り。底部切りなおし。内底面補修痕あり。	①砂粒を含む②酸化、軟③にぶい橙～にぶい褐色④TA¥B2-2
3	椀 灰釉陶器	口縁片	口径(13.5) 現存高4.7 ……	フク土	体部に丸味がある。口縁端部丸く、やや外反する。体部外面はロクロナデ、口縁部はナデ調整を施す。釉・潰けがけ。	①細密、白色砂粒を含む②還元、硬質③灰黄色④TA¥B2-4

田端地区B区第3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	½	口径(15.1) 器高 5.3 底径 6.0	床面	体部はわずかに内湾して開き、口縁部ゆるい外反。口縁端部に丸味をもつ。底部回転糸切り後、高台貼付け。高台断面は外反する台形を呈し、端部角張る。	①砂粒・黒色石粒を多く含む②還元、やや軟質③灰白色④TA¥B3-48、深さ3.8
2	高台付椀 須恵器	½	口径(14.5) 器高 4.7 底径 7.0	床直上	体部下位で張りもち、直線的に開いて、口縁部は強く外反する。口縁端部丸味あり。底部回転糸切り後、高台貼付け。器肉薄手。	①砂粒を多く含み、輝石あり②還元、やや軟質③灰白～灰色④TA¥B3-49、深さ3.5
3	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高2.0 底径 7.2	床面	体下部にやや張りをもつ。底部回転糸切り後、高台貼付け。器肉やや厚手で仕上げは雑である。	①砂粒・褐色石粒を含む②還元、やや軟質③灰白色④TA¥B3-10
4	高台付皿 灰釉陶器	底部片	…… 現存高2.0 底径(6.6)	床直上	底部回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部の丸い三角形を呈する。うすい釉がかかる。	①細密、鉍物粒あり、気泡含む②還元、硬質③灰白色④TA¥B3-71
5	杯 須恵器	底部のみ	…… 現存高1.2 底径 5.8	床面	平底。いわゆる土師質土器。底部回転糸切り後、無調整。	①砂粒・褐色石粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色④TA¥B3-13
6	杯 須恵器	底部のみ	…… 現存高1.4 底径 4.8	床直上	平底。いわゆる土師質土器。底径小さく、体部は大きく開く。底部器肉厚手で、回転糸切り後、無調整。	①砂粒・褐色・白色石粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TA¥B3-21
7	杯 須恵器	底部のみ	…… 現存高1.7 底径 6.8	床面	平底。底部回転糸切り後、無調整。器肉はやや厚手。	①砂粒・白色・黒色石粒を含む②酸化、硬質③灰褐色④TA¥B3-12
8	羽釜 須恵器	口縁部	口径(21.4) 現存高6.4 ……	床上10cm	口縁部は内傾し、体部上位に最大径を持つ。口縁端部に平坦面あり。鏝断面は端部の丸い、上向きの三角形。体部は内外面ともロクロナデ調整を施す。鏝から下部へ炭化物付着。	①砂粒・褐色石粒を含む②酸化、やや硬質③にぶい黄橙色④TA¥B3-34
10	土錘 土師質	½		西壁際中 央部フク 土	現存長2.8cm、径1.7cm、中ぶくらみで、両端細く、やや短かめのタイプか。孔径0.4cm。	

遺物観察表

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎 土		焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法			摘 要							
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板削取		一枚 作り	桶寄 木底	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の撤消		側面 面取				
									凹面	凸面									凹面	凸面					
9	1508	2住	丸	1.7	密	含	硬	赤褐	なし	○				なし	○	平行	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	2種粘土1A類 TA¥B区3-80

田端地区B区第4A号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須 惠 器	略完	口径 10.8 器高 3.5 底径 4.5	貯蔵穴内	平底。底部しぼり込んで、体部下位で張りをもつ。口縁部はわずかに外反し、端部に丸味あり。外底は回転糸切り。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③におい橙色 ④TA¥B4A-1、深さ2.8
2	杯	1/2	口径(10.0) 現存高3.7 底径 4.6	カマド前 床直上	平底。底部小さく、体部下位で張りをもって開く。口縁部はわずかに外反し、端部丸味あり。外底は回転糸切り。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③明赤褐色④TA¥B4A-5、深さ3.3
3	杯 須 惠 器	1/4	口径(11.4) 現存高3.6 底径 (6.6)	貯蔵穴内	平底。体部下位に張りをもつ。口縁部はわずかに外反し、端部に丸味あり。外底は回転糸切り。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③橙色④TA¥B4A-7、深さ3.1
4	高台付碗 須 惠 器	口縁部 ～底部 1/2	口径(14.0) 器高 6.2 高台 6.8	東辺壁際 土坑内	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。重ね焼き痕あり。	①砂粒・石粒を含む②還元、やや硬質③灰色④TA¥B4A-3、深さ4.8
5	杯 須 惠 器	口縁部 小片	口径 11.6 現存高2.1 ……	中央部床 直上	小型の杯。体部以下を欠く。口縁部は直線的に開く。端部に丸味あり。体部はロクロナデ調整を施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③灰～灰黄色 ④TA¥AB4A-10
6	碗 須 惠 器	1/4	…… 現存高3.0 底径 (9.0)	西辺壁際 フク土	平底。体部は直線的に開く。外底は回転糸切り。体部はロクロナデ調整を施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや軟質③におい橙色 ④TA¥B4A-8
7	高台付碗 須 惠 器	脚部	…… 現存高3.0 高台 9.0	フク土	足高高台。体部以上を欠く。脚部「ハ」字状に開き、高台端部に凹線めぐる。外底は回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒・石粒(片岩)を含む②酸化、軟質③におい橙色④TA¥B4A-2
8	高台付皿 灰 釉 陶 器	1/2	口径(12.2) 器高 2.3 高台 7.0	フク土	わずかに内湾して開く。口縁端部に丸味がある。外底は回転ナデ調整を施す。高台断面は三日月形を呈する。釉つけかけ。	①砂粒を含むが細密、堅緻 ②還元、硬質③灰色、釉浅黄色④TA¥B4A-24、25
9	羽 釜	口縁部 ～体部 片	口径(16.2) 現存高10.8 ……	中央土坑 内	口縁部は内傾し、体部上位でふくらみをもつ。口縁部下短く、鐙の断面は三角形を呈する。粘土紐積痕を残す。口縁部内側ヘラナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③におい橙色 ④TA¥B4A-17
10	甌 須 惠 器	口縁部 ～体部	口径(19.3) 現存高12.6 ……	中央部床 直上	口縁端部に平坦面をもつ。口縁部下6cm程に断面三角形の鐙めぐらす。体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、硬質③灰黄色④TA¥B4A-11
11	土 釜	口縁部 小片	口径(24.8) 現存高6.0 ……	西隅床直 上	「く」字状に開く口縁をもつ。口縁端部に外稜をもつ。体部外面は、タテ方向のヘラナデ後ヨコナデを施す。体部粘土紐積痕残る。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③灰黄色 ④TA¥AB4A-15

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
12	丸 柄	略完		床下土坑	左右4.0cm、天地2.7cm、厚0.8cm、垂孔1.8×0.3、平面かまぼこ状。中央よりやや下方に長方形の垂孔あり。一対のとめ穴あり。上部にもう一つ所あったか？表面及び側面丁寧な磨き。面取りあり。断面は台形を呈する。側面の磨きは下側が古、丸い周辺部は新と考える。	材質 黒色粘板岩 ④TA¥B4A-28
13	釘鉄製	½		西辺中央 フク土	丁字形の頭部をもつ。断面四角形を呈する。現存長3.3cm、頭部巾1.4cm、 体部0.7×0.7cm。頭部は偏平。④TA¥B4A-29	
14	フイゴ 羽口	略完		中央土坑	外径5.7cm、長さ10.6cm、孔径2.6cm。送風部 ラップ状に開く。粘土に植物繊維と石をまぜた 炉体が付着する。加熱による表面変化斜めに めぐる。	①砂粒・石粒を含む②酸化、 軟質③にぶい橙色 ④TA¥B4A-22
15	フイゴ 羽口	略完		フク土	外径5.7cm、長さ10.6cm、孔径2.3cm。鉄滓が 斜めに付着。	①砂粒・石粒を含む②酸化、 軟質③にぶい橙色 ④TA¥B4A-20
16	フイゴ 羽口	½		貯蔵穴フ ク土	外径5.5cm、長さ8.2cm、孔径2.5cm。片端に鉄 滓、ガラス質溶滓付着。二次加熱による表面 変化斜めにめぐる。	①砂粒・石粒を含む、粗雑 ②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TA¥B4A-23
17	フイゴ 羽口	小片		西隅フク 土	外径6.6cm、長さ3.3cm、孔径2.6cm。両端を欠 く。片端には鉄滓片が付着し、帯状に第二次 焼成痕がめぐる。	①砂粒・石粒を含み粗②酸 化、軟質③橙色④TA¥B4A -19
18	フイゴ 羽口	½		貯蔵穴内	外径6.8cm、長さ6.8cm、孔径2.3cm。両端を欠 く。筒状を呈する。片端、第二次焼成による 表面の変化あり。	①砂粒・石粒を多く含む粗 雑②酸化、軟質③にぶい橙 色④TA¥B4A-21

田端地区B区第4B号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	½	口径(14.8) 器高 5.2 高台 7.0	貯蔵穴内	体部はわずかに内湾して開く。口縁端部に 丸味あり。外底は回転糸切り後、高台貼付け。 高台断面は台形を呈する。内外面にロクロナ デ調整を施す。器肉薄手。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰～褐 灰色④TA¥B4B-3、深さ 4.0
2	高台付椀 須恵器	略完	口径 15.2 器高 6.0 高台 7.4	東辺中央 カマド左 脇床面	大振りの椀。体部下位で張りをもち、わずか に内湾して開く。口縁部はわずかに外反し、 端部に丸味がある。外底は回転糸切り後、高 台貼付け。体部外面に強いロクロナデ痕を残 す。	①砂粒・石粒を含む②還元、 やや軟質③灰～浅黄色 ④TA¥B4B-8、深さ5.0
3	椀 須恵器	½	口径(15.2) 現存高5.5 ……	カマド内	底部を欠く。体部はわずかに内湾し、口縁部 はゆるやかに外反する。口唇部に丸味あり。 体部外面に強いロクロ目を残す。	①砂粒・白色石粒を多く含 む②還元③灰色④TA¥B4 B-10
4	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高1.6 底径 7.6	西北隅床 面	大振りの椀。周辺打ち欠きか。外底は回転糸 切り後、高台貼付け。体部は内外面にロクロ ナデを施す。内底にスレあり。	①砂粒・石粒を多く含む ②還元、やや硬質③灰白色 ④TA¥B4B-11

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	高台付 椀 須恵器	底部片	…… 現存高2.8 底径 5.8	北辺床面	体部を欠く。体部は大きく開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。体部周辺打ち欠きか。内底にスレあり。重ね焼き痕。	①砂粒・石粒を含む②還元 ③灰白色④TAYB4B-14
6	椀 須恵器	⅔	口径 13.0 器高 4.0 底径 6.0	東南部壁 際床面	平底。底部はやや小さめで、体部は内湾して開く。口縁部は外反し、端部に丸味がある。外底は回転糸切り後、無調整。器肉薄手の仕上げ。	①砂粒・石粒を含む②還元 ③灰〜にぶい黄橙色 ④TAYB4B-6、深さ3.5
7	椀 須恵器	⅔	口径 15.4 器高 3.7 底径 6.0	中央床面 に散在	平底。小さめの底部から体部へわずかに内湾して開く。端部に丸味がある。外底は左回転糸切り。口縁端部にわずかな打ち欠きと、スス付着。灯明用に転用か。	①砂粒・石粒を含む②還元、 軟質③灰〜灰白色 ④TAYB4B-9、深さ3.0
8	杯 須恵器	⅔	口径 14.6 器高 4.6 底径 6.0	西辺壁際 床面	底部から直線的に開き、体部中位でわずかに段をもつ。外底は回転糸切り。体部は粘土紐作りか。	①砂粒・白色石粒・片岩を含む②還元、やや軟質③灰白〜褐灰色④TAYB4B-7、 深さ4.0
9	高台付 椀 須恵器	略完	口径 13.0 器高 3.3 高台 5.3	貯蔵穴内	底部は小さく、体部はゆるやかに内湾して大きく開く。口縁部は外側へ強くひき出し外反する。端部丸くめくれる。外底は回転糸切り後、高台貼付け、器肉薄手の仕上げ。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰〜灰 黄褐色④TAYB4B-4、深さ 2.2
10	高台付 皿 須恵器	¼	口径(13.5) 器高 3.0 高台 (5.7)	中央部床 面	体部は大きく開き、口縁部は強く外側へひき出す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。断面は台形を呈する。	①砂粒を含むが、細密②還 元、やや軟質③にぶい黄橙 色④TAYB4B-16、深さ2.0
11	高台付 皿 須恵器	略完	口径 13.5 器高 2.3 高台 6.7	カマド前 床面	歪みあり。体部はわずかに内湾して大きく開く。口縁部は外側に強くひき出し、端部は外側にめくれる。外底は回転糸切り後、高台貼付け。器肉薄手の仕上げ。イブシ焼成。	①砂粒・石粒を含む②還元、 やや軟質③黒灰色 ④TAYB4B-5、深さ1.6
12	台付 甕 土師器	½	口径 11.2 現存高15.8 底径 4.5	貯蔵穴内	小型。脚部裾を欠く。口縁部はゆるい「コ」字状を呈し、体部上位で最大径をもつ。体部外面はヨコ・タテ・ナナメのヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内面に炭化物付着。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③明赤褐色④TAYB4B-1、 深さ13.6
13	甕 土師器	略完	口径 20.4 器高 25.3 底径 4.2	カマド前 床面	「コ」字状口縁をもつ。平底で小さく、体部上位で張りをもつ。口縁部は外側へ強くひき出し、端部は外側にめくれる。体部外面は強いヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②酸化、 軟質③にぶい橙色 ④TAYB4B-15、深さ24.7

田端地区B区第5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀 須恵器	底部片 ⅓	…… 現存高2.2 高台 (7.8)	カマド前 床直上	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部の丸い三角形を呈する。イブシ焼成。	①砂粒・石粒を含む②還元、 軟質③灰色④TAYB5-3
2	甕 土師器	口縁部	口径(20.4) 現存高4.0 ……	フク土	口縁部はゆるい「く」字状に外反し、口唇部外側に丸い稜をもつ。口頸部はヨコナデ、体部はヘラケズリを施す。厚手の仕上げ。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい赤褐色 ④TAYB5-5

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
3	1592	5-6溝	丸	1.4	密	含	硬	灰	なし	なし		なし	○	なし	平行		なし	なし	なし	1A類 ④TAYB5-6	

田端地区B区第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 土師器	1/3	口径(14.8) 現存高2.8	カマド内 フク土	内面に黒色研磨処理を施す。体部は内湾する。 口縁端部は丸く仕上げる。研磨はヨコ、ナナメの方向がある。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③灰黄色④TAYB6-8
2	高台付椀 須恵器	体部 ～底部 1/2 現存高3.0 底径(6.3)	カマド内 フク土	体部下位で張りをもって立ち上がる。外底は 回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台 形を呈する。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや硬質③灰色 ④TAYB6-7
3	高台付椀 須恵器	1/3	口径(13.2) 器高 5.5 高台 7.8	フク土	体部はわずかに内湾し、口縁部はわずかに外 反して内側にやや肥厚する。外底は回転糸切 り後、底部外縁に高台貼付け。粗雑。	①砂粒・石粒を含む②還元、 やや軟質③灰色 ④TAYB6-1、深さ4.7
4	高台付椀 須恵器	体部 ～底部 1/2 現存高1.9 高台 7.5	中央部フ ク土	口縁部を欠く。体部は内湾して開く。外底は 回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台 形を呈する。体部はロクロナデ調整を施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、 やや軟質③灰白色 ④TAYB6-10
5	杯 須恵器	1/3	口径(11.5) 器高 2.5	フク土	体部下位にふくらみがあり、口縁部で外反し て口唇部は丸味をもつ。外底は回転糸切り。 口縁部内外、スス付着。灯明用か。	①砂粒、黒色・白色石粒を 多く含む②酸化、軟質③浅 黄色④TAYB6-2、深さ1.7
6	椀 灰釉陶器	小片 現存高3.2	フク土	体部はゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに 外反する。口唇部に丸味をもつ。内外面に釉 がかかる。	①細密②還元、硬質③灰白 色、釉-灰緑色 ④TAYB6-12
7	羽 釜	口縁部	口径(25.8) 現存高7.1	カマド内 フク土	口縁部はわずかに内傾し、口唇部に平坦面を もつ。鐔の断面は台形を呈する。体部内外面 はロクロナデを施す。外面下位はヘラケズリ を施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、硬質③明赤褐色 ④TAYB6-4
8	羽 釜	口縁部 ～体部 片	口径(25.8) 現存高13.5	カマド内 底部	非ロクロ調整の羽釜。体部はわずかに内湾し、 口縁部は内傾する。口唇部は丸味をもつ。鐔 の断面は三角形を呈する。体部外面はタテ方 向のヘラケズリを施す。	①砂粒・石粒を多く含む、 粗雑②酸化、軟質③にぶい 橙色④TAYB6-3
9	甗 ?	口縁部 小片 現存高4.8	カマド内 フク土	鉢状に開く甗か。体部より直行して、口縁部 は外反気味である。口唇部は平坦面をもつ。 内外面にロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、軟質③にぶい褐色 ④TAYB6-11
10	羽 釜	体部片 現存高7.8	カマド内 底部	大型品、あるいは甗となるか。粘土紐痕を残 し、内外面にロクロナデを施す。内面、スス 付着。	①砂粒、白色・黒色石粒を 含む②酸化、やや硬質③明 赤褐色④TAYB6-14

田端地区B区第7号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀 須恵器	⅔	口径 11.2 器高 4.9 高台 6.4	Aカマド 前床面	体部下位に張りをもち、内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。内外面にロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、やや軟質③灰色 ④TA¥B7-1、深さ3.7
2	高台付 椀 須恵器	底部	…… 現存高2.6 高台 7.9	Aカマド 前	底部は回転糸切り後、高台貼付け。内底にナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③淡橙色 ④TA¥B7-15
3	杯 須恵器	口縁部 ～底部 片	口径 12.0 器高 3.9 底径 5.2	南西部床 面	体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部は薄く、わずかに外反する。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、やや軟質③淡橙褐色 ④TA¥B7-3、深さ2.9
4	杯 須恵器	⅔	口径 10.7 器高 3.6 底径 5.2	南辺壁際 床面	体部中位でゆるやかな段をもって開く。口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③灰褐色 ④TA¥B7-2、深さ2.8
5	杯 須恵器	底部	…… 現存高2.5 底径 5.0	北西隅・ 床直上	体部下位で張りをもって開く。外底は回転糸切り後、無調整。体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒多く、白色石粒を含む②還元、軟質③にぶい黄褐色④TA¥B7-11
6	高台付 椀 須恵器	⅔	口径 15.0 器高 5.0 底径 7.3	南壁際床 面	高台を欠く。体部下位で張りをもち、内湾して開く。口縁部は強く外反し、端部に丸味がある。外底は回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや軟質③橙色 ④TA¥B7-4、深さ3.7
7	高台付 椀 須恵器	⅔	口径(15.8) 現存高4.9 底径 6.4	中央部床 面	高台を欠く。体部はゆるやかに内湾して大きく開く。口縁部はやや外反し、端部の丸味が強い。体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、やや硬質③淡橙色 ④TA¥B7-22、深さ4.1
8	高台付 椀 須恵器	底部	…… 現存高3.6 高台 (7.6)	Bカマド 前フク土	体部下位で張りをもって内湾する。内底のナデが強く、体部に段を作る。高台貼付け。体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③灰白色④TA¥B7-8
9	高台付 椀 須恵器	脚部	…… 現存高4.5 底径 (9.6)	中央第2 ビット	本体部を欠く。裾部は「ハ」字状に大きく開く。高台の端部は角ばった作り。内外面ともロクロナデを施す。脚裾径 (14.5)	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③にぶい黄褐色 ④TA¥B7-12
10	高台付 椀 灰釉陶器	⅔	口径(15.2) 器高 6.8 底径 7.5	Bカマド 内	体部ゆるやかに内湾して立ち上がる。口唇部は薄手に仕上げ、一部分摘み出しあり。輪花深碗か。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は外側ににぶい稜をもつ長方形を呈する。底部に糸切り痕も残る。釉がかりは薄い。内底に細かいヒビ割れを生じて、ナデも雑。虎溪山期か。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色 ④TA¥B7-19、深さ5.2
11	皿 灰釉陶器	体部小 片	…… 現存高1.5 ……	南西部床 面	内面の段は明瞭である。釉がかりあり。器肉薄手の仕上がりに。	①微砂粒を含む②還元、硬質③明オリブ灰色、釉-白色④TA¥B7-34
12	高台付 椀 灰釉陶器	底部片	…… 現存高3.0 高台 (8.5)	西辺寄フ ク土	体部は内湾して開く。外底は回転糸切り痕を残し、外縁部に高台貼付け。高台の断面は端部の丸い台形を呈する。虎溪山期か。	①砂粒を含むが緻密、やや気泡あり②還元、硬質③灰白色④TA¥B7-32

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
13	鉢 須恵器	口縁部 ～体部	口径 23.9 現存高10.4 ……	Bカマド 内	体部はバケツ状に開く。口縁部は肥厚して広い段をもつ。口唇部に平坦面を作り、中央にアテ具による凹線を施す。粘土紐積痕を残し、内外面はロクロナデを施す。体部外面はナメヘラケズリ後、体部下位にヨコナデを加える。内外面スス付着。底部は体部との接合面で剝離している。内底に摩耗あり。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化気味の還元③浅黄橙色④TA¥B7-20
14	羽 土師質	口縁部 ～体部 片	口径(19.4) 現存高8.7 ……	中央第2 ピット内	口縁部はやや内傾する。体部上位に、最大径をもつ。口唇部に凹線をもち、内側に肥厚する。体部の内外面にロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③淡橙色④TA¥B7-24
15	羽 須恵器	口縁部 ～体部 片	…… 現存高7.2 ……	北西隅床 直上	口縁部はわずかに内傾し、口唇部に平坦面をもつ。器内はごく薄手で、丈の短い鍋状のタイプか。体部の内外面にロクロナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③灰色、黒色④TA¥B7-25・26
16	椀 須恵器	口縁部 ～体部 片	口径(14.6) 現存高5.5 底径(6.0)	フク土	平底。体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部はわずかに外反し、端部に丸味がある。底部回転糸切り後、無調整。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや軟質③黄灰色④TA¥B7-6
17	椀 緑釉陶器	口縁部	口径(15.4) 現存高3.3 ……	7号住付 近	体部は内湾し、口唇部はわずかに外反する。体部下位は回転ヘラケズリを施す。釉は灰緑色を呈する。	①砂粒を含むが密②還元、硬質③灰色④TA¥B7-35
18	土 土師質	完形		フク土	長さ6.8cm、最大径2.5cm、孔径0.5cm。やや大型の土錘。中央部がふくらみ、両端が細まる。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色④TA¥B7-31
19	フイゴ 羽口	小片		南東隅	外径(9.4)cm、現存長8.0cm、孔径(3.6)cm。炉体への接合部。器内は厚手である。やや大型の羽口となるか。端部は溶解して変形している。端部鉄滓付着。	①砂粒・石粒・ワラ状植物繊維を含む②酸化、軟質③浅黄橙色④TA¥B7-29
20	フイゴ 羽口	½		第4土坑	外径6.1cm、現存長7.8cm、孔径2.3cm。炉体接合部分。端部溶解して変形し、外面に鉄滓が付着している。筒状のタイプか。	①砂粒・ワラ状植物繊維を含む②酸化、軟質③浅黄橙色④TA¥B7-28
21	フイゴ 羽口	小片		第4土坑	外径(6.5)cm、現存長5.8cm、孔径(2.5)cm。炉体への接合部分。表面に鉄滓付着。	①砂・石粒・ワラ状の植物繊維を含む②酸化、軟質③にぶい橙色④TA¥B7-27
22	フイゴ 羽口	½		フク土	外径5.6cm、現存長7.9cm、孔径2.3cm。フイゴ接合部。端部は「ハ」字状にひろがる。	①砂粒・石粒・植物繊維を含む②酸化、軟質③橙色④TA¥B7-30

田端地区B区第8号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	底部	…… 現存高1.9 底径 5.0	南東隅	平底。体部下位で張りをもって内湾する。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄橙色④TA¥AB8-1

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	羽釜 土師質	口縁部	…… 現存高6.3 ……	マド前	口縁部はゆるやかに内傾する。口唇部に平坦面がある。鐏の断面は上向きの三角形を呈する。内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、軟質③橙色 ④TAYB8-4
3	皿 灰釉陶器	口縁部	…… 現存高1.6 ……	南西隅フク土	体部は大きく外反する。口唇部外側に凹線を巡らす。やや小振りか。釉がかりあり。	①砂粒を含むが緻密②還元、硬質③灰白色、釉-白色 ④TAYB8-2
4	甕 土師質	体部 ～底部 片	…… 現存高5.8 ……	西側フク土	土釜状か。体部に粘土紐積み痕を残し、内外面にゆるいヨコナデを施す。器肉は厚い。外底にヨコナデ調整を施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③灰黄橙色 ④TAYB8-3

田端地区B区第9号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	略完	口径 10.3 器高 4.2 高台 6.0	東側中央 部床面	体部中位で張りをもつて内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は長方形を呈する。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③にぶい褐色 ④TAYB9-2、深さ3.0
2	高台付碗 須恵器	½	口径 8.1 器高 5.8 高台 5.2	北東部床 面	体部は内湾して立ち上がる。口唇部に丸味がある。外底は回転糸切り後、高台貼付け。体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、やや硬質③灰～灰黄色 ④TAYB9-1、深さ4.0
3	杯 土師質	¾	口径 9.5 現存高2.7 底径 5.0	北側フク 土	体部中位で丸いふくらみをもつ。外底は回転糸切り後、無調整。やや粗雑な作り。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYB9-16
4	高台付皿 灰釉陶器	½	口径 14.2 器高 3.0 高台 7.6	中央部フ ク土	体部下位にやや張りをもつ。口唇部に丸味がある。外底に回転糸切り痕を残す。高台の断面は台形を呈する。釉がうすくかかる。虎溪山期か。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色 ④TAYB9-10、深さ2.1
5	皿 灰釉陶器	口縁部	口径(12.8) 現存高1.9 ……	中央部フ ク土	段皿。内面の段を明瞭に作り、口縁部はわずかに外反する。口唇部は薄手の仕上げ。釉がうすくかかる。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色、釉-灰緑色④TAYB9-11
6	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 片	口径(25.2) 現存高7.6 ……	中央部面	床口縁部は短く、内傾して立ち上がる。口唇部に丸味がある。鐏の断面は端部が鈍い台形を呈する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、やや硬質③橙色 ④TAYB9-6
7	羽釜 土師質	体部 ～底部	…… 現存高14.9 底径 8.6	カマド内 底面	口縁部を欠く。体部は内湾して立ち上がる。粘土の接合痕を残す。仕上げは雑である。外面に2次火熱を受けた痕跡がある。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、やや硬質③にぶい黄橙色④TAYB9-8
8	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 片	…… 現存高12.5 ……	カマド北 側床面	口縁部は短く、ゆるやかに内傾する。口唇部は薄く仕上げる。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヨコ・ナナメのヘラナデを施す。器肉薄手。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③明褐色④TAYB9-4
9	高台付鉢? 土師質	底部	…… 現存高6.0 底径 13.0	カマド内 底面直上	内面のナデがやや丁寧で高台が「ハ」字状に開く。大碗または鉢か。体部の外面はヘラケズリを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄橙色 ④TAYB9-3

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
10	甌 須恵器	脚裾部	…… 現存高1.5 ……	東側中央 部床面	底部は「ハ」字状に屈曲して開く。裾端部は須恵器甕口縁部の作りに似て角ばる。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②還元、やや硬質③にぶい黄橙色④TAYB9-13
11	砥石			北東隅床	現存長8.0cm、巾2.3cm、厚さ1.0cm。断面は長方形を呈する。中央部は使用により薄くなる。擦痕が多い。石質流紋岩(砥沢?)④TAYB9-15	

田端地区B区第10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯	1/2	口径(12.6) 器高 3.9 底径 5.3	カマド内	体部にやや丸味をもつ。外底は右回転糸切り後無調整で、突出感がある。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色～にぶい褐色 ④TAYB10-1、深さ3.0
2	高台付皿 灰釉陶器	完形	口径 12.0 器高 2.6 底径 6.6	Bカマド 内	内面に段をもつ。外底に断面三角形の高台を付けるが、右回転糸切痕が残る。内面の段以下の器表は平滑である。釉はツケ掛けによる。	①精良②還元③にぶい黄橙色～淡黄色 ④TAYB10-4、深さ1.7
3	高台付皿 灰釉陶器	1/2	口径(14.3) 器高 2.8 底径(7.2)	カマドの 北西床面 付近	外底の切り離し痕はみられない。高台外面に稜をもつ。内面中位以下の器表は平滑である。釉はハケ掛けか。	①精良②還元、硬質③灰白色～灰黄色④TAYB10-3、深さ1.8
4	羽釜	口縁片	…… 現存高8.0 ……	Bカマド 前面床面 付近	直立した口縁部と断面三角形の髷をもつ。内面に炭化物が付着している。	①砂粒・小石・白色小粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB10-5
6	杯 須恵器	口縁部 ～底部	口径(11.7) 器高 3.1 底径(7.4)	Bカマド 前凹み内	体部は直線的に開く。右回転ヘラ切り後、体部側にヘラ削りを施す。割れ口は淡褐色を呈する。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB10-2、深さ2.3
7	蓋? 脚? 須恵器		…… 現存高5.8 ……	フク土	スリ鉢か。端部に平坦面をもつ。	①砂粒を含む②還元③暗灰色(外面)灰色(内面) ④TAYB10-7

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法					整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ログ ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消	
									凹面	凸面									凹面	凸面
5	1481	10住	平	1.9	密	含	並	淡灰	○	なし		なし	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 TAYB10-11	

田端地区B区第11号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	1/4	口径(9.9) 器高 2.2 底径(5.0)	カマド前 右脇	右回転糸切り後、無調整。体部はやや丸味をもち、口縁部は外反する。	①白色粒を含む②酸化③灰黄褐色④TAYB11-1、深さ1.8
2	杯 土師質	1/4	口径(9.7) 器高 2.1 底径(5.4)	貯蔵穴内	右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開く。底部と体部との境がとくに厚い。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄褐色 ④TAYB11-4、深さ1.8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	杯 土師質	¼	口径(10.6) 器高 2.2 底径 (5.1)	貯蔵穴内	右回転糸切り後、無調整。口縁部と体部との境に鈍い外稜をもつ。外底は突出気味。	①砂粒を含む②酸化③灰黄褐色④TAYB11-2
4	杯 土師器	¼	口径(10.0) 器高 2.4 底径 (6.4)	フク土	右回転糸切り後、無調整。体部は内湾気味に立ち上がる。口唇部は薄く仕上げる。	①砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYB11-3、深さ1.9
5	杯 土師質	⅕	口径 (9.6) 器高 1.9 底径 6.0	フク土	右回転糸切り後、無調整。内外面とも丁寧なヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB11-13
6	杯 黒色土器	口縁片	口径(10.8) 器高 2.6 底径 (6.0)	カマド内	内面～口縁部外面に研磨・黒色化が施されている。体部に丸味をもつ。外面の現存器表にはヘラケズリの痕跡はみられない。	①細砂粒を含む②還元③外面灰白色④TAYB11-8
7	フイゴ 羽口	先端部		カマド前 左フク土	現存長3.3cm、孔径2.3cm、外径は遺存部最大で、5.0cmほどを測る。片側にガラス質の滓が溶着し、磁石には反応しない。	①細砂粒・白色粒を含む③灰色④TAYB11-14
8	羽釜 土師質	口縁部	口径(26.3) 現存高8.8	カマド内	断面三角形の鏝をもつ。口縁部は丸味をもつ。外面の鏝以下は底部に向かってヘラケズリを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB11-11
9	羽釜 土師質	口縁部	口径(21.7) 現存高7.8	中央床面	断面三角形の鏝をもつ。口縁部は丸味をもつ。体部外面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、硬質③橙色④TAYB11-10
10	甕 土師質	口縁部 片	口径 (2.3) 現存高6.0	フク土	口縁部は直角に近く外方へ折れ、さらに端部を上方へつまみ出す。内外面ともヨコナデを施す。須恵器風の口縁部をもった特異な土器。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TAYB11-9

田端地区B区第12号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	½	口径 9.6 器高 2.9 底径 4.7	南辺付近 フク土	右回転糸切り後、無調整。外底部が3mmほど突出する。口縁部は外反する。	①砂粒を含む②酸化、やや硬質③浅黄褐色④TAYB12-5、深さ2.1
2	杯 土師質	½	口径 11.2 器高 4.0 底径 5.1	カマド左 脇ピット 中	体部下半にやや丸味をもつ。口縁部は外反気味である。外底は突出し、内底中央は凸である。	①砂粒を含む②酸化③浅黄褐色④TAYB12-2、深さ3.0
3	高台付椀	½	口径(14.2) 器高 6.0 底径 7.7	カマド内 フク土	器表の剝落が著しい。内面に研磨ありか?体部に丸味をもち、口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」字状に開き、端部は丸味をもつ。内底中央は凸である。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③灰黄褐色④TAYB12-3、深さ4.5
4	椀 土師質	底部 ⅔	現存高2.3	フク土	高台は薄く「ハ」字状に開き、高さ1.5cmである。高台端部は丸味をもつ。高台径 8.4cm。	①砂粒を含む②酸化、軟③浅黄褐色④TAYB12-27
5	椀 土師質	口縁部 ⅕	口径(19.0) 現存高5.8	北東隅 ピット底 面	体部から緩やかに開いて口縁部に至る。体部外面の下半にヘラケズリはみられない。	①砂粒を多く含む②酸化、やや硬質③浅黄褐色④TAYB12-25

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	椀 土師質	口縁部 ～体部	口径(18.6) 現存高5.7 ……	北東隅フ ク土	体部は緩やかに開き、口縁部はわずかに外反する。内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③浅黄橙色 ④TAYB12-26
7	皿 灰釉陶器	口縁部 1/8	口径(13.0) 現存高1.5	カマド フク土	口縁部は薄くなるが、丸味をもっている。	①精良②還元、硬質③灰白色④TAYB12-16
8	高台付椀 灰釉陶器	底部辺	…… 現存高1.6 底径(9.2)	フク土	外底は回転ヘラケズリを施し、ナデを加えるが高台の貼り付け方は雑である。内底の器表は平滑である。	①精良②還元、硬質③浅黄色④TAYB12-13
9	高台付椀 灰釉陶器	底部片	現存高1.8 底径(7.8)	フク土	丸味のある低い高台をもつ。内底の器表は平滑である。外底はナデか。	①精良②還元、硬質③浅黄色④TAYB12-15
10	高台付椀 灰釉陶器	底部	…… 現存高2.4 底径(8.4)	フク土	高台は直立し、内端が接地する。外底の仕上げは丁寧である。内底の器表は摩滅して平滑である。	①精良②還元、硬質③浅黄色④TAYB12-14
11	高台付椀 灰釉陶器	1/8	口径(16.3) 器高 5.9 底径(9.6)	北東隅 ピット中	体部は直線的に外上方へ開き、口縁部はわずかに外反する。高台は内湾気味に開き、体部との境は凹線状を呈する。内底の器表は平滑である。釉はつけがけである。	①精良②還元、硬質③浅黄色④TAYB12-12、深さ3.8
12	壺 灰釉陶器	底部	…… 現存高2.6 底径 11.0	北東隅 フク土	長頸壺か。内底の一部にオリーブ色の釉がたまる。高台端部は平坦面をなし、内端は接地しない。外底は右回転のヘラケズリ、高台脇の体部下端も回転ヘラケズリを施す。	①精良、細砂粒を含む②還元、硬質③灰オリーブ色④TAYB12-11
13	壺 土師質	口縁部 ～頸部	口径(18.0) 現存高8.0 ……	カマド前 左脇フク 土	頸部は緩やかに外反する。口唇部は上方に薄く引き出され、外面は凹線状を呈する。外面はヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化気味③浅黄橙色 ④TAYB12-23
14	フイゴ 羽口	小片		北東隅 フク土	先端部付近の小片で、外面の一部に滓が付着している。滓は磁石に反応しない。孔径は2cmを越える。	①白色小粒を含む②酸化③にぶい橙色 ④TAYB12-10
16	甌 須恵器	1/2	口径 29.0 器高 31.8 底径 21.8	北東隅付 近フク土	底部が「く」字状に外反し、孔径は13.4cmである。体部は丸味をもち、口唇部は平坦面をもつ。外面の体部下半に底部へ向かうヘラケズリを施す。鏝径 32.1cm	①砂粒・小石を含む②還元、やや軟質③灰色、内面の一部黒色④TAYB12-1
17	羽釜 須恵器	底部欠	口径 14.8 現存高8.9 ……	北東隅 フク土	体部上半～口縁部に丸味をもつ。口唇部・鏝はやや波をうち、ふくらむ不整形である。鏝の一部は赤変し、外面に炭化物が付着している。外面の鏝以下はヘラケズリを施す。鏝径 32.1cm	①砂粒を含む②還元③内面灰白色、外面黒褐色 ④TAYB12-8
18	甌 土師質	口縁部 1/8	口径(20.0) 現存高11.2 ……	カマド前 床面直上	前口縁部は短かく、水平近くまで強く外反する。口唇部に凹線をもつ。体部は内外面ともロクロナデ状である。	①砂粒・白色粒を多く含む②酸化③橙色 ④TAYB12-20
19	羽釜 土師質	口縁部	口径(20.4) 現存高9.4 ……	カマド フク土	体部に比べて口縁部は薄い。口唇部は丸味をもち細かい凹線がみられる。鏝の断面は三角形を呈する。体部は内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい黄橙色 ④TAYB12-21

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
20	羽釜 土師質	口縁部	口径(25.0) 現存高11.7	北東隅フク土	鐔直下の体部はふくらみをもつ。鐔の断面は三角形を呈する。口唇部は平坦面をもつ。体部は内外面ともロクロナデを施し、外面はさらにヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③橙色④TAYB12-22
21	羽釜 須恵器	口縁部 小片	口径(19.8) 現存高8.2	北東隅フク土	口縁部は折れ曲がるように内傾して立ち上がる。口唇部は平坦面をもつ。鐔の断面は三角形を呈し鐔以下もヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元③にぶい褐色④TAYB12-17
22	甗 土師質	口縁部 1/4	口径(29.5) 現存高8.5	フク土	直立した口縁部をもち、口唇部は平坦面があつて内傾する。鐔は7mm前後で薄く、板状である。鐔以下はロクロナデを施す。鐔径(33.3) cm	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB12-19
23	甗 土師質	口縁部 小片 現存高6.2	北東隅 ピット中	口縁部は緩やかに外反する。内面はヨコナデを施すが、外面の調整は不明。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③浅黄色④TAYB12-18

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
15	1599	12住	平	2.0	密	微	並	灰	なし	なし		なし	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類

田端地区B区第13号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	1/4	口径 9.5 器高 2.5 底径 4.6	南東隅フク土	口縁部が強く外反し、外底は突出する。外底は回転糸切り後、無調整とみられるが、摩滅しているため確認できない。内面に有機物?が付着している。	①砂粒・小石を含む②酸化③淡赤褐色④TAYB13-1、深さ1.9
2	杯 黒色土器	口縁部 小片	口径(10.5) 現存高1.6	住居内1 -2号土 坑間フク 土	口縁部外面にも研磨を施し、黒色化している。復原径は参考程度。	①砂粒を含む②還元気味③黒色④TAYB13-10
3	椀 灰釉陶器	口縁部 小片	口径(15.5) 現存高3.5	住居内2 号土坑フ ク土	口縁部はかるく外反する。釉はつけかけか。	①精良②還元③灰白色④TAYB13-6
4	羽釜 土師質	口縁部 ~体部 1/4	口径(26.6) 現存高15.8	中央部フク土	口縁部は内傾し、口唇部に平坦面をもつ。口唇部内端直下は浅い凹線状を呈する。鐔の上面は凹みをもつ。外面の鐔下4cm以下にはヘラ調整を施す。外面にスス付着。鐔径(30.7) cm	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB13-3
5	羽釜 土師質	口縁部 ~体部 1/4	口径(20.3) 現存高10.6	中央フク土	口唇部上面は浅い凹線状を呈し、外端から鐔までは約2cmである。鐔の貼り付けはやや雑である。体部外面の鐔以下にはタテ方向の調整を施す。鐔径(22.8) cm	①2~3mm大の小石を多量に含む②酸化③褐色④TAYB13-5

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 1/6	口径(24.6) 現存高13.1 ……	住居内1 号土坑フ ク土	口唇部外端がやや引き出される。断面は三角形の鏝をもち、鏝以下の内外面はロクロナデを施す。内面は2次火熱を受けている。鏝径(27.5cm)	①砂粒を多く含む②酸化 ③浅黄橙色④TAYB13-2
9	砥石				長さ12.6cm、幅6.2cm、厚さ4.1cm。金属による切り込みがある。 ④TAYB13-11デイサイト質凝灰岩	

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
7	1509	13住	平	2.2	密	含	硬	灰	なし	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	TAYB区13-7 1A類	
8	1510	13住	平	1.8	密	微	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	TAYB区13-8 2種粘土1A類	

田端地区B区第14号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 9.0 器高 2.2 底径 5.0	西辺壁際 フク土	体部は直線的にほぼ同じ厚さで立ち上がる。内底の周縁には指頭大の凹みがある。外底はナデを加えており、切り離し痕は見られない。	①砂粒・白色粒を含む②酸化 ③にぶい黄橙色 ④TAYB14-1、深さ1.6
2	羽釜 土師質	口縁部 1/6	口径(21.2) 現存高9.6 ……	カマドフ ク土	口唇部は丸味をもち、やや外反する。鏝への断面は三角形を呈し、やや下向きである。鏝以下の外面には底部へ向かうヘラケズリを施す。鏝径(24.3cm)	①砂粒・白色粒を含む②酸化 ③橙色④TAYB14-2
5	椀 灰釉陶器	口縁部 片	口径(13.3) ……	フク土	口縁部は薄く、外反し、内面に凹線が1本ある。④TAYB14-14	
6	砥石	両端割 れ		フク土	長さ6.8cm、直方体状を呈する。4面を使用し、その内1面ののみ両端から使い込んで、表面は平滑である。右側面に1mm幅の平行な線がある。石質：流紋岩(砥沢?)④TAYB14-6	
7	砥石			フク土	長さ6.3cm、4面を使用している。その内1面は全面が使い込まれ、表面が平滑である。石質：流紋岩(砥沢?)④TAYB14-7	

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
3	1511	14住	丸	1.3	密	微	締	灰	なし	なし			なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	TAYB14-8 1A類	
4	1512	14住	平	2.2	密	含	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	TAYB14-9 1A類	

遺物観察表

田端地区B区第16号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 土師質	½	口径(14.6) 現存高5.8	中央部床 直上	やや薄手のつくりで、口縁部は外反する。右 回転糸切り後、高台貼付け。高台端部を欠く。	①砂粒・白色小粒を含む ②酸化気味の還元、軟質 ③灰黄色④TA¥B16-1
2	杯 須恵器	⅓	口径(11.6) 底径(5.7) 器高(4.5)	中央部床 面直上	体部は直線的に開き、底部よりも厚手である。 右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰白色④TA¥B16-2、 16-1と重なって出土
3	長頸壺 灰釉陶器	口縁部 小片	口径(11.7) 現存高2.0	フク土	口唇部は尖り気味である。現存内外面とも灰 釉がかかる。	①精良②還元、軟質③オリ ープ灰色④TA¥B16-6
4	不明 土師質	脚部 現存高6.6 脚径(15.6)	中央部床 面	本体不明の脚部で、本体との接合面は幅2cmほ どある。脚端内面は突出する。全体に楕円形 に至む。内外面ともロクロナデを施し、内面 上端は丁寧にヨコナデを施す。	①砂粒・白色小粒を含む ②酸化③灰褐色 ④TA¥B16-3
5	羽釜 土師質	口縁部 小片 現存高6.9	カマド前 床面直上	断面三角形の鑄をもち、鑄はやや上向きであ る。口唇部外端は突出する。鑄以下もロクロ ナデを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化、 硬質③橙色④TA¥B16-4
6	甕 土師質	体部 ～底部 片 現存高4.4	カマド前 フク土	内面は雑なナデ、外面は不規則なヘラケズリ を施す。	①砂粒・小石・白色小粒を 多量に含む②酸化③橙色 ④TA¥B16-7
7	土 錘	完形		中央部床 面	長さ6.3cm、最大径3.0cm、孔径0.6cm。図中央 端部には平坦面をもつ。器表に茶色の薄膜状 部分がみられる。	①砂粒・小石を含む②酸化 ③にぶい橙色 ④TA¥B16-5

田端地区B区第17号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	⅔	口径(13.0) 器高 4.0 底径 6.0	カマド前 床面	体部は丸味をもって開き、口縁部は外反する。 口唇部は玉縁状に丸く肥厚する。外底部は突 出し、摩滅している。回転糸切りの痕跡がわ ずかに残る。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元、やや軟質③暗褐色 ④TA¥B17-1、深さ3.2
2	杯 須恵器	底部 現存高1.5 底径 5.7	中央部床 面直上	右回転糸切り後、一部ナデが加わる。意図的 なナデではない可能性あり。	①細砂粒・白色小粒を含む ②還元③灰色 ④TA¥B17-4
3	杯 須恵器	底部片 現存高2.5 底径(8.0)	西辺壁際	右回転糸切り後、無調整。内面の底部と体部 との境に強いヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還 元、硬質 ③灰色 ④TA¥B17-5
4	杯 須恵器	底部 現存高2.2 底径 5.8	床下	右回転糸切り後、無調整。外底に不明圧痕が あり、上げ底状を呈する。外面の体部下半は ナデを加える。	①細砂粒を含む②還元③灰 色④TA¥B17-2
5	高台付椀 須恵器	底部 現存高1.6 高台(6.8)	西辺壁際	高台は強く外反してまくれ上がる。内底中央 が凹む。	①砂粒・白色粒を含む②還 元、軟質③灰白色 ④TA¥B17-3

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	壺 須恵器	頸部小片	…… 現存高5.0 ……	フク土	体部内面はタタキ目の上からナデを加えている。外面はカキ目→ナデの調整を施す。割れ口は淡黄色を呈す。	①砂粒・白色粒を含む②還元③灰黄色④TA¥B17-6
7	壺 土師器	口縁部小片	現存高2.8 ……	フク土	口縁部は短く、「く」字状に外反する。小型壺と考えられる。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TA¥B17-8
8	壺 須恵器	口縁部小片	口径(24.5) 現存高2.5 ……	フク土	口縁部は短く外反し、口唇部は上方へ引き出される。口唇部下端も外下方へ引き出される。内外面ヨコナデを施す。5mm大の小石を含む。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TA¥B17-7

田端地区B区第19号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	碗 須恵器	口縁部	口径(13.4) 現存高3.8 ……	カマド内	体部下位で張りをもつ。口唇部は丸味をもつ。内外面ともロクロナデを施す。器肉厚手。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰黄色 ④TA¥B19-23
2	碗 須恵器	口縁部	口径(15.0) 現存高3.7 ……	南東隅際 床上5cm	体部はわずかに内湾して開く。口唇部に外側へのめくれあり。器肉薄手で、内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒、白色・黒色石粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TA¥B19-22
3	碗 須恵器	体部 ～底部 片	…… 現存高2.7 底径(8.2)	貯蔵穴際	口縁部を欠く。体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は長方形を呈する。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TA¥B19-5
4	碗 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高2.7 底径(6.6)	西辺壁際 フク土	口縁部を欠く。体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・白色石粒を含む ②酸化、やや硬質③にぶい黄橙色④TA¥B19-27
5	皿 須恵器	口縁部	口径(11.6) 現存高2.8 ……	フク土	口唇部は外反する。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③灰黄色 ④TA¥B19-29
6	皿 須恵器	口縁部	口径14.0 現存高2.7 ……	フク土	体部は大きく開き、口縁部は外反気味である。口唇部は外側に丸くめくれる。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰黄色 ④TA¥B19-7
7	高台付碗 須恵器	底部	…… 現存高2.5 高台(7.1)	南西部床 面直上	体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部の丸い四角形を呈する。器肉やや厚手。	①砂粒を含む②還元、やや軟質③浅黄色 ④TA¥B19-24
8	高台付碗 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高2.6 底径(7.0)	フク土	口縁部を欠く。体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面はシャープに仕上げる。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、硬質③灰～黒色 ④TA¥B19-19
9	高台付皿 須恵器	底部	現存高1.8 高台5.8	中央床面 直上	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面はがっしりした方形を呈する。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰黄色④TA¥B19-4
10	高台付碗 須恵器	底部	…… 現存高1.6 高台(7.5)	東側中央 床面直上	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部のしっかりした台形を呈する。体部は打ち欠きによる欠損か。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TA¥B19-3

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
11	杯 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高2.5 底径 6.4	西側中央 床面上	口縁部を欠く。体部はわずかに内湾して開く。ロクロナデ痕を明瞭に残す。内面はナデ調整。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含むが、緻密②還元、硬質③灰黄色 ④TA#B19-2
12	甕 土師器	口縁部 ～体部 片	口径(20.8) 現存高12.2 ……	カマド内 底面	「コ」字状口縁を呈する。頸部は締って立ち上がり、口縁部は短かく、強く外反する。口唇部外側に凹線がめぐる。体部は丸く張り、外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。	①砂粒を多く含む、白色粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TA#B19-9
13	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(18.6) 現存高6.7 ……	カマド内 底面	「コ」字状口縁を呈する。口縁部内面に稜をもつ。体部外面ヨコ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明赤褐色 ④TA#B19-8
14	甕 土師器	口縁部 ～体部 片	口径(17.6) 現存高6.0 ……	カマド内 床上10cm	「コ」字状口縁を呈する。頸部は締って外傾して立ち上がる。口縁部はゆるやかに外反する。体部の張りは弱い。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TA#B19-13
15	甕 土師器	脚部	…… 現存高3.9 ……	南西部床 面直上	小型台付甕脚部。「ハ」字状に開く。内外面はヨコナデを施し、スス付着。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③赤褐色 ④TA#B19-16
16	甕 土師器	底部	現存高3.5 底径 3.2	フク土	体部の外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面にスス付着。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい褐色 ④TA#B19-15
17	土 土師質 錘	1/2		フク土	現存長3.0cm、最大径1.1cm、孔径0.3cm。両端は細く、中ぶくらみ。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TA#B19-17
18	土 土師質 錘	完形		フク土	長さ5.0cm、最大径1.1cm、孔径0.3cm。両端は細くすぼまる。中ぶくらみの小型品。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③灰黄褐色 ④TA#B19-18

田端地区B区第20号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 灰釉陶器	1/4	口径(11.8) 器高 4.3 高台 (5.9)	中央部フ ク土	体部下位で張りをもって開き、口縁部に至る。外底は回転糸切り痕を残す。高台の断面はにぶい三日月状を呈する。釉つけがけ。器肉厚手。	①砂粒を含むが堅緻②還元、硬質③灰白色、釉一灰緑色④TA#B20-6
2	碗 灰釉陶器	体部 ～底部 片	…… 現存高3.3 高台 (7.4)	フク土	外底は回転糸切り痕を残す。高台の断面は端部が丸く細い台形を呈する。体部下位のナデ調整を強く施す。釉つけがけ。底部の器肉厚手。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色、釉一灰緑色④TA#B20-5
3	碗 須恵器	底部	…… 現存高5.5 高台 (8.0)	北西部フ ク土	体部下位で張りをもって開く。身が深い。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈し、端部は外側にめくれる。器肉薄手。	①砂粒・石粒を含む②還元、やや軟質③浅黄色 ④TA#B20-4

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	椀 須恵器	底部	…… 現存高2.5 高台(7.1)	フク土	体部は内湾して立ち上がる。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は四角形を呈する。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや硬質③灰白色 ④TA¥B20-2
5	椀 土師質	底部	現存高2.2 高台(8.4)	東側中央 床直上	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は丸い長方形を呈する。内底にスス付着。	①砂粒を多く含む②酸化、 軟質③橙色④TA¥B20-3

田端地区B区第21号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¼	口径(14.9) 現存高3.3	カマドフ ク土	外底にヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③明 赤褐色④TA¥B21-2
2	杯 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(15.8) 現存高3.9 ……	カマドフ ク土	内外面ともヨコナデを施し、口縁部外面がやや凹む。体部は直線的に開く。	①白色小粒子を含む②還 元、硬質③黒～暗灰色 ④TA¥B21-4

田端地区B区第22号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯	体部 ～底部 片	…… 現存高2.4 底径(6.3)	フク土	右回転糸切り後、無調整。内面はロクロナデで仕上げる。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B22-1
2	甕 土師質	口縁部 ～体部 片	…… 現存高7.0 ……	カマド西 側床面	口縁部は短く、ゆるい「く」字状に外反する。内面はハケ状工具でヨコ方向にナデつける。頸部に指頭ナデ痕がある。	①白色小粒・砂粒を多く含 む②酸化、硬質③明赤褐色 ④TA¥B22-3
3	土 錘	小片		フク土	現存長2.0cm、最大径0.9cm、孔径0.3cm。	①精良②酸化③明赤褐色 ④TA¥B22-5

田端地区B区第23号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	小片	口径(11.9) 現存高3.1	フク土	口唇部は内面側に肥厚する。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B23-18
2	杯 須恵器	⅓	口径(13.4) 器高 3.4 底径 6.6	フク土	体部に丸味をもち、口縁部はゆるく外反する。内外面とも器表剥落。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元、やや 軟質③黒色④TA¥B-23 14、深さ3.0
3	杯 須恵器	口縁部 ～体部 ¼	口径(14.0) 現存高4.1 ……	南東隅フ ク土	体部下半に丸味をもち、口縁部は玉縁状を呈する底部を欠く。	①砂粒を含む②還元③灰白 色④TA¥B23-1
4	杯 須恵器	¾	口径(13.9) 器高 4.1 底径 6.6	南辺寄床 直上	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は丸味をもち、口縁部は強く外反する。外面器表の剥落が著しい。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③外面 灰白色、内面灰色 ④TA¥B23-12、深さ3.3

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	杯 須恵器	⅓	口径(14.8) 器高 5.7 高台 7.2	カマド内	体部中位に外稜をもち、口縁部はやや厚みをもって外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内外面の器表は摩滅している。	①砂粒を含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TAYB23-13、深さ4.6
6	椀 須恵器	底部	…… 現存高2.3 高台 6.9	南西フク土	体部を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台下端は外反する。	①砂粒・白色小粒を含む ②還元、軟質③灰色 ④TAYB23-7
7	椀 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(19.7) 現存高6.5 ……	カマド底 面・南西 隅床面	内外面にロクロナデ痕を残す。口縁部は外反する底部を欠く。	①砂粒・白色小粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB23-3
8	高台付皿 須恵器	⅓	口径(14.4) 器高 3.0 高台 7.8	カマド前 床面	右回転糸切り後、高台貼付け。底部に厚みがあり、高台断面は三角形を呈する。内底中央は凸である。	①砂・小石・白色小粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB23-2、深さ1.9
9	椀 灰釉陶器	底部 ⅓	…… 現存高3.0 高台 (9.0)	フク土	外底は右回転ヘラケズリの後、厚手のしっかりした高台を貼付ける。内底は摩滅して平滑である。釉はたつぷりかけている。	①白色小粒を含む②還元 ③灰白色、釉は灰オリーブ色④TAYB23-31
10	壺 須恵器	体部 ～底部 片	…… 現存高9.2 底径(13.0)	中央床面	叩キの後、外面のタタキ目を丁寧にナデで消す。体部内面は雑なヨコナデ、外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①小石・白色粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB23-30
11	土 錘	完形		フク土	長さ3.6cm、最大径1.7cm、孔径0.3cm。両端にくらべて、中央部のふくらみが大きい。表面は摩滅している。重さ8g。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TAYB23-19
12	土 錘	完形		カマド前 北寄床面 直上	長さ4.5cm、最大径2.0cm、孔径0.3cm。両端にくらべて中央部のふくらみが大きい。重さ15.4g。	①細砂粒を含む②還元気味の酸化③灰黄褐色 ④TAYB23-20
13	土 錘	完形		南西隅付 近床直上	長さ3.4cm、最大径1.8cm、孔径0.35cm。長さにくらべて径が大きく、ズングリした形。重さ約10g。	①精良②酸化③明赤褐色 ④TAYB23-21
14	不明石製品			中央フク土	多孔質の石材を用いている。図上中央は丸くカマボコ状に凹み、両側面は平らである。上・下端は折れている。砥石にしたものか。 ④TAYB23-22	
15	台付壺 土師器	⅓	…… 現存高12.2 底径(10.1)	カマド燃 焼部	口縁部を欠く。体部下半に丸味がある。外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。脚部は高さ2.8cmで、ヨコナデ仕上げである。	①細砂粒を含む②酸化③赤褐色④TAYB23-15
16	壺 土師器	口縁部 小片	口径(9.2) 現存高4.1	フク土	小型壺。口縁部は「く」字状に外反する。外面は2次火熱を受けている。	①細砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB23-16
17	壺 土師器	口縁部 ～体部	口径(19.8) 現存高25.5 ……	カマド前 床面・床 下	頸部はほぼ直に立ち上がり、口縁部は直線的に外反する。頸部上・下端に強いヨコナデを施す。外面にススが付着している。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB23-28
18	壺 土師器	口縁部 ～体部	口径(19.6) 現存高7.9	カマド前 床面	頸部下側に強いヨコナデを施す。口唇部外側に平坦面をもつ。	①細砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB23-25
19	壺 土師器	口縁部 ～体部	口径(20.0) 現存高16.6	カマド前 床直上	頸部下端に強いヨコナデを施す。口唇部外面は凹線状を呈する。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TAYB23-24

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
20	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(20.7) 現存高19.0 ……	カマド前 床面	頸部の上・下端にヨコナデを施し、「コ」字状口縁を呈する。上側がとくに強い。口唇部をつまみあげ、外面に凹んだ面をもつ。須恵器壺の口縁部に似る。肩の張りが強い。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい褐色④TA¥B23-23
21	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(20.8) 現存高8.2 ……	南辺寄床 面	頸部の上・下に強いヨコナデを施し、「コ」字状口縁を呈する。口唇部外側に平坦面をもつ。体部の外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B23-4
22	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(20.9) 現存高12.3 ……	カマド前 床面・床 下	頸部下側に強いヨコナデを施す。口唇部は尖り気味である。	①細砂粒を含む②酸化③明 赤褐色④TA¥B23-26
23	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(19.2) 現存高17.3 ……	カマド前 床直上	頸部の立ち上がり内傾しており、丸味をもっている。口縁部はわずかに内湾気味である。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B23-27

田端地区B区第24号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	略完	口径 9.2 器高 2.4 底径 5.0	北辺中央 壁際床面	外底は右回転糸切り後、無調整。内底周縁に強いロクロナデを施す。歪みあり。	①砂粒を含む②還元気味の 酸化③灰黄色 ④TA¥B24-2、深さ1.8
2	杯 土師質	略完	口径 15.3 器高 5.8 高台 (8.3)	カマド前 床直上	体部は直線的に開き、口縁部はゆるく外反して開く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.8cmで「ハ」字状に開き、外端は接地しない。	①砂粒・白色粒を含む②還元 気味の酸化③にぶい橙 色、内面黒褐色 ④TA¥B24-1、深さ3.5
3	碗 土師質	底部片	…… 現存高3.7 高台 8.4	カマド前 床直上	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.9cmあり、「ハ」字状に開く。2次火熱を受け赤変している。	①砂粒を含む②還元気味の 酸化③にぶい橙色 ④TA¥B24-4
4	碗 土師質	1/4	口径(16.9) 器高 5.6 底径 7.3	西辺寄床 面	外底は右回転糸切り後、無調整で無高台である。内面は研磨後、黒色処理を施す。体部は横方向の研磨を丁寧に施す。	①砂粒・白色小粒を含む②還元 気味の酸化③外面浅黄色 ④TA¥B24-7、深さ4.7
5	碗 土師質	底部	…… 現存高2.5 高台 6.7	西辺寄床 直上	内面は研磨後、黒色化している。高台の高さは0.9cmで、「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②還元気味の 酸化③外面浅黄色 ④TA¥B24-6
6	皿 灰釉陶器	口縁部 ～底部 片	口径(12.8) 器高 3.1 高台 (6.4)	住居内土 坑フク土	外底は回転ヘラケズリを施す。高台外面に稜をもつ。釉はオリーブ色。	①細砂粒を含む②還元③灰 白色④TA¥B24-20、深さ 2.2
7	甕 須恵器	体部片	貯蔵穴	底面	器厚1.7cmの体部下半の小片。タタキののち、内外面に丁寧なナデを施す。内面の器表は光沢がある。外面のタタキ目は平行。	①小石・砂粒・白色粒を含 む②還元③灰色 ④TA¥B24-16
8	甕 土師質	口縁部 片	口径(26.6) 現存高7.8 ……	貯蔵穴フ ク土	口縁部はゆるく「く」字状に外反し、外面はタテ方向のナデを施す。口唇部外端は体部側にまき込む。内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B24-12

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
9	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部	口径(28.0) 現存高13.3 ……	カマド右 袖	断面三角形の銚をもち、貼付けは雑である。 外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・白色小粒を含む ②還元、イブシ③黄灰色内 面黒色④TA¥B24-10

田端地区B区第25号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 土師質	1/6	口径(11.8) 器高 5.2 底径 (6.2)	中央北寄 床面	高台貼付け。高台の外端は接地しない。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B25-1、深 さ3.1
2	椀 土師質	口縁部	口径(15.8) 現存高2.8 ……	フク土	口縁部は水平近くまで外反する。	①細砂粒をふくむ②還元気 味の酸化③浅黄橙色 ④TA¥B25-6
3	壺 須恵器	口縁部	口径(16.4) 現存高4.0	北西隅床 面	口縁部外面に浅い凹線状の段をもつ。内外面 とも下灰をかぶっている。下層の土器か。	①白色小粒を多く含む②還 元③灰色④TA¥B25-8
4	羽釜 土師質	口縁部 ～体部	口径(23.2) 現存高9.1		断面三角形の銚をもち、径27cmに復元できる。 外面の現存器表はロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、硬質 ③橙色④TA¥B25-2
5	羽釜 土師質	口縁部 ～体部	口径(19.8) 現存高8.3 ……	フク土	口唇部は平坦面をもち、口縁部は強く内傾す る。復原銚径26.2cm。銚以下の体部は直線的 にすぼまり、外面は底部へ向かうタテ方向の ヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい赤褐色 ④TA¥B25-3
6	甕 須恵器	体部片	…… 現存高5.3 ……	フク土	外面のタタキ目を丁寧にナデている。内面は 同心円当て具痕が残り、ナデを施す。下層の 土器か。	①細砂粒を含む②還元③灰 色④TA¥B25-11

田端地区B区第26号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 土師質	体部 1/4	口径 14.0 現存高5.2 ……	カマド内	高台を欠く。体部の丸味が強く、口縁部は外 反する。内面は研磨・黒色化されているが、 二次火熱のためか一部褐色を呈する。	①砂粒・小石を含む②酸化 ③黒褐色④TA¥B26-1、深 さ4.2
2	杯 須恵器	口縁部	口径(13.5) 現存高2.9 ……	フク土	口縁部は水平近くまで外反する。	①細砂粒を含む②還元、や や軟質③灰色 ④TA¥B26-6
3	杯 須恵器	口縁部	口径(12.0) 現存高3.0	フク土	体部は直線的に開く。口唇部内側がわずかに 肥厚する。	①細砂粒・白色粒を含む ②還元③灰色④TA¥B26-7
4	羽釜 土師質	口縁部 ～体部	口径(22.8) 現存高7.5 ……	カマド内	断面三角形の銚をもつ。口縁部は内傾する。	①砂粒・白色粒を含む②還 元気味の酸化③にぶい黄橙 色④TA¥B26-3
5	甕 土師質	口縁部 ～体部	…… 現存高9.9 ……	カマド内	短い口縁部が外反する。体部の内面はナデ を施す。外面はヘラナデか？	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい赤褐色 ④TA¥B26-4

田端地区B区27号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	%	口径(9.0) 器高 2.5 底径 5.0	カマド前 床面	外底は右回転糸切後、無調整。体部上位に丸味があり、口縁部はわずかに外反する。	①砂粒を多く含む②酸化③明赤褐色④TA#B27-1、深さ2.0
2	高台付碗 土師質	底部 1/2	…… 現存高2.8 高台(9.0)	カマド	高台は高さ1.9cmで、「ハ」字状に開く。外底に糸切り痕は観察できない。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TA#B27-3
3	高台付碗 黒色土器	体部 ～底部	…… 現存高 2.8 ……	カマド前 床直上	内面に研磨・黒色処理を施す。内底のミガキは平行に行なう。割れ口は灰褐色を呈す。	①細砂粒を含む②還元③外面灰褐色④TA#B27-2
4	土 錘	完形		中央北辺 寄床面	長さ5.6cm、最大径1.9cm、孔径0.3cm。一端の孔は潰れており、ヒモを通すことができない。	①砂粒・白色粒を含む②還元③黒褐色④TA#B27-8
5	甕 土師器	口縁部 ～体部	…… 現存高16.2 ……	カマド内	口縁部外面にタテ方向のナデ、体部は不定方向のナデ、内面はヨコナデを施す。外面の凹凸著しい。	①細砂粒を多く含む②酸化③灰褐色④TA#B27-5
6	甕 土師器	脚部	現存高2.5 ……	カマド内	小型甕の脚部か。外端は跳ね上がるように開く。	①細砂粒を含む②酸化③灰黄褐色④TA#B27-4
7	羽 土師質	口縁部	口径(18.0) 現存高4.6 ……	北東隅床 面	口縁部は内傾し、口唇部に平坦面をもつ。断面三角形の鏝を付す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黒褐色④TA#B27-7
8	甕 須恵器	体部片		カマド前 床面	肩部片と推定する。外面は平行タタキ目の上に自然釉がのり、内面は同心円の当て具痕である。	①砂粒を含む②還元③外面黄灰色、内面黒色④TA#B27-11

田端地区B区第28号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 土師質	略完	口径 13.7 器高 5.2 高台径7.2	貯蔵穴西 床面断面	右回転糸切り後、高台貼付け。高台に径0.7cmの断面円形の圧痕がある。他にも圧痕多く、整形後の状態をとどめない。中位にふくらみをもつ。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい褐色④TA#B28-1、深さ3.6
2	高台付碗 黒色土器	底部片	現存高1.7 ……	フク土	内面は研磨後、黒色化する。外底に糸切り痕の観察はできない。	①砂粒を含む②酸化③外面橙色④TA#B28-5
3	杯 須恵器	体部～ 底部片	現存高2.0 底径(5.6)	フク土	外底は回転糸切り後、無調整。外面の体部と底部との境が凹む。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TA#B28-6
4	甗 土師質	脚部片	…… 現存高2.2 底径(23.2)	南西部床 面	本体との接合部で剝離したと考えられる。裾外端に平坦面をもつ。内外面ともヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元気味の酸化③黄灰色④TA#B28-7
5	羽 土師質	口縁部 1/2	口径(19.0) 現存高8.6 ……	東南隅フ ク土、南 西部床面	口唇部を丸く仕上げ、口縁部は内傾する。外面の鏝を貼付けたのち、底部へ向かうヘラケズリを施す。	①砂粒・白色小粒を含む②酸化、硬質③にぶい黄褐色④TA#B28-8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	甕 土師器	口縁部	現存高4.6 ……	フク土	口唇部は尖り気味に薄くなる。口縁部は弱い「コ」字状を呈する。	①細砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB28-9
7	甕 須恵器	体部片		カマド内 左袖右脇 底面	外面はタタキののち丁寧なナデを施す。内面もナデを施すが、同心円状の当て具痕を残す。	①砂粒・白色小粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB28-13
8	土 錘	上下端 を欠く		フク土	長さ4.8cm、最大径1.3cm、孔径0.3cm。器表摩滅している。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙④TAYB28-15
9	土 錘	1/2		フク土	長さ4.0cm、最大径2.3cm、孔径0.6cm。割れ口は淡褐色を呈する。器表のナデ痕が著しい。	①砂粒を含む②酸化、硬質 ③黒色④TAYB28-16

田端地区B区第29号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径(12.9) 器高 2.8 底径 (8.8)	貯蔵穴底 面	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外底はヘラケズリを施す。底部中央は薄く仕上げる。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB29-15、深さ2.6
2	杯 土師器	口縁部 ～体部	口径(11.6) 現存高2.9 底径 (6.8)	貯蔵穴底 面	口縁部下に強いヨコナデを施し、口縁部は内湾気味に開く。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TAYB29-25
3	杯 須恵器	略完	口径 13.8 器高 3.7 底径 6.5	南辺中央 壁際床直 上	口縁の一部を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。外面の摩滅著しい。	①砂粒・小石を含む②還元 ③灰白色④TAYB29-1
4	杯 須恵器	1/2	口径(13.7) 器高 4.3 底径 5.8	南辺中央 ・カマド 前フク土	外底は右回転糸切り後、無調整。体部に丸味をもち、口縁部は外反する。口縁部内面は浅い凹線状を呈する。内面黒色。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③にぶい褐色 ④TAYB29-4、深さ3.5
5	杯 須恵器	2/3	口径(12.9) 器高 4.9 底径 6.6	中央南寄 床直上	外底は右回転糸切り後、無調整。体部上位に丸味があり、口縁部は強く外反する。	①砂粒を含む②還元③黒褐色④TAYB29-5、深さ3.6
6	杯 須恵器	1/2	口径(13.0) 器高 4.3 底径 5.6	南東隅床 面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は内湾気味に開く。外面の体部と底部との境に強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB29-10、深さ3.5
7	杯 須恵器	1/4	口径(11.3) 器高 4.7 底径 (5.0)	貯蔵穴底 面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部外面にロクロナデ痕を明瞭に残し、直線的に開く。	①砂粒を含む②還元③黄灰色④TAYB29-14、深さ4.2
8	高台付椀 須恵器	1/2	口径(14.7) 器高 5.5 高台 8.2	中央床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台接地面に平行の不明圧痕がある。体部は直線的に開き、口縁部はやや肥厚する。	①細砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB29-11、深さ4.5
9	高台付椀 須恵器	1/2	口径(15.0) 器高 4.3 高台 7.0	中央北寄 床面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。器表の摩滅著しい。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰白色④TAYB29-9、深さ3.1
10	高台付椀	口縁部 ～底部	口径(14.6) 器高 5.4 高台 6.9	貯蔵穴底 面	体部内外面にロクロナデ痕を明瞭に残す。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黒色 ④TAYB29-3、深さ4.4

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
11	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高2.0 高台 6.8	中央南寄 フク土	体部以上を欠く。割れ口はほぼ均等で、打欠きの可能性がある。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒・白色粒・小石を含む②還元③灰白色 ④TA¥B29-17
12	高台付椀 須恵器	¼	口径(14.4) 器高 4.7 高台 (6.6)	中央南寄 フク土	外底は回転糸切り後、高台貼付け。口縁部はかるく外反する。高台の外端は接地しない。	①砂粒・白色粒を多く含む ②還元③灰色 ④TA¥B29-8、深さ3.5
13	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高2.4 高台 (7.9)	東辺壁際 床面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。器表の摩滅著しい。	①砂粒・黒色粒を含む②還元、やや軟質③灰オリーブ色④TA¥B29-18
14	高台付椀 須恵器	体部 ～底部	現存高3.6 高台 (7.6)	中央南寄 床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外端は接地しない。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥B29-12
15	高台付皿 須恵器	略完	口径 15.0 器高 3.2 高台 7.1	北辺中央 壁際床直上	口縁部は水平近くまで開き、玉縁状に肥厚する。口縁部内面に浅い凹みをもつ。内底に径6.4cmの重ね焼痕がある。	①砂粒を含む②還元、イブシ③黒褐色 ④TA¥B29-20、深さ1.8
16	高台付皿 須恵器	高台欠	口径 14.0 現存高2.7 ……	貯蔵穴内 壁際	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は接合面で剥離している。	①砂粒を含む②酸化気味の還元、イブシ③黒褐色 ④TA¥B29-21、深さ1.8
17	椀 灰釉陶器	口縁部 ¼	口径(15.7) 現存高3.7 ……	貯蔵穴フ ク土	内外面の遺存部分は全面釉がかかる。口唇部は尖り気味で強く外反する。外面の体部下半はヘラケズリを施す。ハケ掛けか。	①精良②還元、硬質③灰オリーブ色④TA¥B29-31
18	高台付皿 灰釉陶器	口縁部 一部欠	口径 16.0 器高 3.2 高台 8.0	貯蔵穴上 端縁	口唇部は尖り気味で、強く外反する。内底に径7.4cmの重ね焼痕があり、釉が流れている。高台外面に稜をもつ。ハケ掛けか。	①精良②還元③灰オリーブ色④TA¥B29-47、深さ2.1
19	壺 須恵器	口縁部 小片	口径(19.8) 現存高5.2 ……	フク土	無頸の壺か。内面に同心円の当て具痕を残す。口唇部に平坦面をもち、外端の断面は三角形を呈する。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TA¥B29-48
20	甕 須恵器	底部片	現存高2.5 底径 (5.8)	南西土坑 底面	外面は底部も含めてヘラケズリ、内面はナデを施す。壺類の可能性あり。	①砂粒・白色小粒を含む②還元③灰色④TA¥B29-13
21	土 錘	略完		フク土	長さ5.2cm、最大径1.5cm、孔径0.4cm。一端を欠く。器表摩滅著しい。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③にぶい褐色 ④TA¥B29-46
22	台付甕 土師器	¾	口径(12.3) 器高(17.2) ……	貯蔵穴内 フク土	本体と脚部は接合しない。脚部は略完存。口縁部は外反して開く。胴部最大径は (13.3) cm。外面にスス附着。脚部径9.2cm	①砂粒を多く含む②酸化③明赤褐色 ④TA¥B29-19・23
23	甕 土師器	口縁部 ¼	口径(11.6) 現存高6.1 ……	貯蔵穴西 側フク土	口縁部は短く、「く」字状に外反する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい赤褐色 ④TA¥B29-24
24	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径 19.8 現存高16.5 ……	貯蔵穴西 側フク土・中央 床面接合	底部を欠く。「コ」字状口縁を呈する。頸部はほぼ直に立ち上がる。外面の上半はヨコ方向、下半はタテ方向のヘラケズリを施す。胴部最大径は (21.8) cmである。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TA¥B29-22

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
25	甕 土師器	口縁部 1/6	口径(20.8) 現存高5.4	フク土	体部以下を欠く。頸部は「コ」字状を呈する。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③におい黄橙色 ④TAYB29-41
26	甕 土師器	口縁部	口径(23.0) 現存高6.0	中央南寄 フク土	体部以下を欠く。頸部は「コ」字状を呈し、口唇部外面はくぼむ。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③明赤褐色 ④TAYB29-40

田端地区B区第30号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/6	口径(11.8) 現存高3.5 底径 5.4	貯蔵穴東 壁際	外底は右回転糸切り後、無調整。口縁部は強く外反する。	①砂粒を多く含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TAYB30-2、深さ2.8
2	高台付碗 須恵器	完形	口径 13.4 器高 5.3 高台 6.3	貯蔵穴南 壁際	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部に丸味をもち、口縁部は外反する。一部黒斑あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元③灰オリーブ色 ④TAYB30-1、深さ4.0
3	高台付碗 須恵器	1/6	口径(13.5) 現存高4.8 高台 5.8	貯蔵穴西 側床面	外底は右回転糸切り後、高台を雑に貼付ける。体部は丸味をもち、口縁部はゆるく外反する。	①砂粒・白色粒を多く含む ②還元③灰色 ④TAYB30-5、深さ3.8
4	高台付碗 須恵器	完形	口径 14.0 器高 5.2 高台 6.5	貯蔵穴南 壁際	外底は回転糸切り後、高台貼付け。体部に丸味をもち、口縁部は強く外反する。高台の外端は尖り気味で、接地しない。	①砂粒・小石を含む②還元 ③灰色④TAYB30-3、深さ3.8
5	高台付碗 須恵器	1/6	口径(14.5) 現存高4.6	貯蔵穴底 面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台を欠く。2次火熱を受け、一部赤変している。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③暗赤灰色 ④TAYB30-4、深さ3.9
6	碗 黒色土器	口縁部 ～体部 片	口径(13.6) 現存高4.4	フク土	内面～口縁部外面に研磨を施し、内面は黒色化する。底部を欠くが、高台の付く可能性あり。2次火熱を受けている。	①精良②酸化③におい橙色 ④TAYB30-11
7	高台付碗 灰釉陶器	1/6	口径(15.8) 器高 5.0 高台 (8.6)	南辺中央 壁際フク 土	高台外面に浅い凹線を施す。外底は回転糸切り後、回転ヘラケズリを施し、高台貼付け。つけ掛けとみられる。外底にも釉あり。内底の器表は平滑である。	①精良②還元③浅黄色 ④TAYB30-19、深さ4.1
8	杯 灰釉陶器	口縁部	口径(13.2) 現存高1.9	東辺壁外	皿に近い。底部を欠く。口縁部はわずかに外反する。	②還元③オリーブ黄色～灰色④TAYB30-22
9	壺 須恵器	肩部片	現存高6.3	フク土	肩部に外稜をもち、外稜下が凹む。肩部外面に自然釉がかかる。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYB30-16
10	鉄 鎌			北西隅北 辺壁床面	柄の取り付け部～刃部の小片とみられる。棟は完存部がない。	
11	甕 須恵器	口縁部	口径(29.5) 現存高7.4	南辺壁中 央床面	断面三角形の鏝をもつ。鏝径(31.0)cm。口唇部に平坦面をもち、内外に肥厚する。現存体部はヨコナデを施す。	①砂粒・小石を含む②還元 ③灰色④TAYB30-8

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
12	甕 土師器	底部	現存高2.6 底径 (4.1)	貯蔵穴西 側床面	外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TAYB30-7
13	甕 須恵器	体部片		東辺壁外	体部下半の破片。外面は平行タタキ目、内面 は同心円の当て具痕を残すが、いずれも丁寧 にナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元③オリブ黒色 ④TAYB30-15
14	甕 須恵器	体部片		東辺北寄 壁外	外面に平行タタキ目を残すが、ナデを施して いる。穿孔して転用を意図したものか。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TAYB30-21

田端地区B区第31号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	鉢 土師器	⅔	口径(19.9) 器高 9.1 底径 13.3	貯蔵穴底 面	不安定な丸味のある底部をもつが、体部との 境に明瞭な稜線をもつ、口縁部はヨコナデ、 内面は丁寧なナデ、外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB31-1、深さ8.2
2	甕 須恵器	体部片		フク土	内面に格子目状の当て具痕がみられる特異な 小片。外面に自然釉がかかる。	①白色粒を多く含む②還元 ③灰色④TAYB31-4

田端地区B区第32号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 12.3 器高 3.4	南辺中央 壁際床面	口縁は内傾して直線的に立ち上がる。外底は 非回転のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TAYB32-2、深さ3.0
2	杯 土師器	完形	口径 13.6 器高 4.0	南辺中央 壁際床面	歪みをもつ。口縁部は他の部分に比べて厚く、 内湾して立ち上がる。外底は非回転のヘラケ ズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙 色④TAYB32-1、深さ3.5
3	杯 土師器	⅓	口径(13.0) 器高 4.9 底径 (8.7)	カマド前 床面直上	丸味のある平底をもつ。体部～口縁部は直線 的に開く。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB32-4、深さ4.0
4	鉢 土師器	⅓	口径 18.4 器高 5.9 ……	南辺中央 壁際床面	口縁部はわずかに外反する。体部との境が最 も厚い。外底は非回転のヘラケズリ、内面は 丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙 色④TAYB32-3、深さ5.3
5	高台付杯 須恵器	底部片	…… 現存高0.7 底径 9.0	南辺中央 壁寄フク 土	外底の高台内側は左回転ヘラケズリを施す。 高台はわずかに突出するのみで、削り出しの 可能性がある。内底に同心円の当て具痕が残 る。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰色④TAYB32-5
6	土 錘	完形		南西部フ ク土	長さ4.2cm、最大径1.3cm、孔径0.46cm。丁寧 なナデを施して仕上げる。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TAYB32-6
7	甕 土師器	体部片		南辺中央 壁際床面	端部が遺存していないため傾き不明。内面に 粘土紐の接合痕を明瞭に残す。外面はヘラケ ズリを施す。	①細砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TAYB32-7

遺物観察表

田端地区B区第33号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 8.8 器高 2.2 底径 5.4	東辺中央 壁際床面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部～口縁部は直線的に開く。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③橙色④TAYB33-1、深さ1.7
2	高台付 土師質	底部片	…… 現存高3.9 高台 8.6	中央西寄 床面	高台は高さ1.2cmで、「ハ」字状に開く。外底に糸切り痕を残す。	①細砂粒・黒色小粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB33-4
3	碗 土師質	口縁部 小片	現存高4.5 ……	中央床面 直上	体部下半に外稜をもち、上半は口縁部まで直線的に開く。内外面の器表は剥落している。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TAYB33-7
4	羽釜 土師質	口縁部 ～体部	…… 現存高8.5 ……	フク土	直立気味の口縁部で、口唇部に平坦面をもつ。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TAYB33-8
5	甗 土師質	底部片	…… 現存高2.2 ……	中央北寄 床面直上	底部が水平近くまで外反するタイプの甗片とみられる。内外面ともヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB33-19

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		備 要				
					素地	挟雑物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消		側面 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
6	1471	33住	平	2.1	密	含	締	暗灰	なし	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1 A類 ④TAYB33-14	
7	1469	33住	平	1.7	密	含	硬	暗灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1 A類 ④TAYB33-12	
8	1472	33住	平	1.7	密	含	締	暗灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1 A類 ④TAYB33-16	
9	1470	33住	平	2.2	密	含	並	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	2 1 A類 ④TAYB33-13	
10	1468	33住	丸	1.5	密	含	硬	暗褐	なし	○			なし	○	平行	なし	なし	なし	なし	1 1 A類 ④TAYB33-10	
11	1474	33住	丸	1.6	密	含	締	暗褐	なし	○			なし	○	平行	なし	なし	なし	なし	1 1 A類 ④TAYB33-18	
12	1473	33住	丸	1.1	密	含	締	黒灰	なし	○			なし	○	平行	なし	なし	なし	なし	1 A類 ④TAYB33-17	
13	1467	33住	丸	1.5	密	含	硬	暗褐	なし	なし			なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	2 1 A類 ④TAYB33-9	

田端地区B区第34号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台杯 須恵器	底部	現存高3.4 高台 7.8	北半床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内面はロクロナデ痕を残す。	①細砂粒・小石を含む②還元③灰白色④TAYB34-1
2	甗 土師質	口縁部 ～体部	…… 現存高5.9 ……	中央床直 上	明確な内稜をもち、口唇部外端は下方に突出する。外面に粘土紐接合痕を残す。	①細砂粒・黒色小粒を含む②酸化③橙色④TAYB34-5
3	羽釜 土師質	口縁部	現存高4.1 ……	中央部床 面	口唇部に平坦面をもつ。鈔の底部側は丸味をもつ。	①細砂粒を含む②酸化③褐色④TAYB34-6
4	甗 須恵器	体部片		北半床面	外面は平行タタキ目、内面は同心円の当て具痕を残す。	①細砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB34-7

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	刀子製鉄	略完		北辺壁際床面直上	茎の一部を欠くが、ほぼ全体が遺存する。鋒近くに曲がりがあり、全長10.6cm、刃部の長さは9.6cmと推定する。棟の厚さは0.3cm前後である。棟開・刀関が推定される。割れ口でみると、本体の内部に空洞部がある。	

田端地区B区第35号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿灰釉陶器	口縁片	口径(14.3) 現存高2.0	床下土坑1フク土	口縁部が強く外反し、内外面ともオリーブ灰色の釉がかかる。	①精良②還元③浅黄色④TAYB35-38
2	壺須恵器	底部片	…… 現存高3.6 高台(13.0)	南西部床面直上	高台は「ハ」字状に開き、外端が尖り気味である。内底・外底とも自然釉がかかる。	①白色小粒・砂粒を含む②還元、硬③灰色④TAYB35-15
3	羽釜土師質	1/2	口径 18.8 現存高15.6 ……	北西隅床面	底部を欠く。口縁部は内傾し、鐳の貼付けは雑である。鐳径23.6cm。体部外面は鐳下までヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB35-7
4	羽釜土師質	口縁部～体部	口径(24.4) 現存高12.5 ……	北西隅床面	口縁部はほぼ直立し、断面「コ」字状の鐳を貼付ける。鐳径(27.0)cm。体部外面はタテ方向のナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB35-11
5	羽釜土師質	口縁部～体部	口径(23.8) 現存高14.4 ……	北西隅床面	底部を欠く。口縁部は短く、口唇部に平坦面をもつ。鐳の断面は「コ」字状を呈し、径(26.9)cmである。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB35-14
6	羽釜土師質	口縁部～体部	口径(24.0) 現存高8.1 ……	南辺中央壁際床面	口縁部がやや長く、鐳の整形は雑である。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB35-9
7	羽釜土師質	口縁部～体部	口径(25.0) 現存高16.7	北西隅床面直上	歪みあり。整形が雑で、鐳は形をなさない。	①砂粒を多く含む②酸化③浅黄橙色④TAYB35-8
8	甕土師器	口縁部	…… 現存高7.0 ……	カマドフク土	口縁部がゆるやかに外反する。整形は雑で、内外面ともナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB35-18
9	甕土師質	底部	…… 現存高4.1 底径(9.8)	床下土坑2底面	内面はナデ、外面はヘラケズリを施す。外底は器表剥落。	①石粒・砂粒を多く含む、白色・黒色粒、角閃石含む②酸化③にぶい橙④TAYB35-13
10	甕土師質	底部	現存高3.0 ……	中央部床面直上	羽釜の底部か。外面は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TAYB35-17

報告番号	観察通番	出土地点	瓦の種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘要	
					素地	挟雑物	焼き色	粘土板剥取	一枚作り	桶寄木痕	粘土板合せ目	布の合せ目	タタキ目	ロクロ目	ヘラケズリ	布の擦消		側部面取		
																凹面	凸面			凹面
11	1451	35住	平	2.1	密	含	軟	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類④TAYB35-21
12	1454	35住	平	1.8	密	含	硬	暗褐	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類被熱④TAYB35-29

遺物観察表

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側面 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
13	1452	35住	平	2.2	密	含	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB35-27
14	1455	35住	平	2.0	密	含	硬	暗灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB35-33
15	1453	35住	丸	1.9	密	含	締	暗灰	なし	○			なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYN35-28

田端地区B区第37号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	½	口径(13.3) 器高 3.2	南辺東寄 壁際床面	歪みをもち、口唇部は薄くなる。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面に炭化物付着。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい橙色 ④TAYB37-2、深さ2.7
2	杯 土師器	¾	口径(12.5) 器高 3.2	南辺中央 壁際床面	口縁部は直立気味である。内面はヨコナデ、外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TAYB37-3
3	杯 土師器	¾	口径(13.8) 器高 3.6	中央西寄 フク土	口縁部下の外面に凹凸がある。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TAYB37-1、 深さ3.1
4	杯 土師器	¼	口径(11.8) 器高 3.3	中央西寄 床面直上	全体に器厚が0.5~0.7cmと厚手である。外底には非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB37-6
5	杯 土師器	½	口径(14.2) 現存高4.2	カマド右 脇床面直上	口唇部は薄く、尖り気味となる。外底には非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB37-8
6	蓋 須恵器	口縁部 大部分 欠	口径 12.8 器高 2.0 ツマミ4.5	北西隅土 坑底面	打欠きか。カエリは細く、口縁部よりも突出する。カエリ径10.1cm。天井部外面は右回転ヘラケズリを施し、中央が凹むツマミを貼付ける。	①砂粒・黒色粒を含む②還元 ③灰色④TAYB37-16
7	杯 須恵器	½	口径 11.5 器高 3.4 底径 7.9	中央床面	体部~口縁部は直線的に開く。外面の体部下半と底部には回転ヘラケズリを施す。外面に自然釉がかかる。	①砂粒・白色粒を含む②還元、 硬質③灰色 ④TAYB37-4、深さ2.8
8	甕 土師器	口縁部 小片	口径(25.2) 現存高5.5	カマドフ ク土	口唇部が上方に丸くつまみあげられる。内面はナデ、体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB37-10
9	甕 土師器	口縁部 小片 現存高6.3	カマドフ ク土	口縁部は「く」字状に外反し、中位が厚い。頸部の調整はヨコナデ→ヘラケズリの順。内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TAYB37-11
10	甕 土師器	口縁部 ~体部	現存高6.4	床下フク 土	厚手の小型甕か。体部外面にヘラケズリを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い橙色④TAYB37-18
11	甕 土師器	口縁片	口径(11.3) 現存高2.7	フク土	口縁部は短く、ゆるやかに外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。粘土紐の接合面で体部以下を欠く。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい赤褐色④TAYB37-19
12	鉄 鏃	一部欠		北辺中央 壁際	有茎式で逆刺をもつが、一方の逆刺は欠損している。身の断面は偏平で、茎の断面は不整形円形を呈する。鋒から4.5cmほどの部分に段がある。「筥被」か。全長8.9cmで、茎は折れている。	

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
13	鉄 鉄			南西隅フク土	有基式で、全長9.6cmが遺存する。茎は折れている。身の断面はほぼ方形を呈し、先端部は錐状で偏平である。先端から7.5cmほどの部分に段がある。	
14	刀 子 鉄 製	刃部の大半欠		北辺中央壁際	茎へ身の一部が遺存する。現存長8.5cm、現存刃部長4.8cmである。棟関をもち、棟の厚さは0.55cm。	
15	刀 子 鉄 製	茎		北辺中央壁際	刃部を欠く。止め金の一部が遺存する。現存長8.1cm、最大幅1.4cmである。	

田端地区B区第38号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	壺? 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高3.5 底径 4.0	北辺寄土 坑内底面	外底は右回転糸切り後、無調整。口縁部を欠く。体部は0.2cmの厚さだが、底部は1.0cmと厚い。外面にスス付着。	①細砂粒を含む②酸化気味の還元③黄灰色 ④TA¥B38-8
2	杯 土師質	底部片	…… 現存高1.7 底径 (5.5)	中央南寄 床面	外底は右回転糸切り後、無調整。底部が突出する。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黄灰色 ④TA¥B38-15
3	杯 土師質	底部片	…… 現存高1.8 底径 (4.8)	北辺寄土 坑内	外底は右回転糸切り後、無調整。底部が突出する。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③淡黄色 ④TA¥B38-18
4	高台付椀 土師質	底部	…… 現存高2.9 高台 7.7	北辺寄土 坑内底面	高台は高さ1.2cmで、「ハ」字状に開く。高台端部に凹線をもち、外端は接地しない。外底に糸切り痕はみられない。2次火熱を受けている。	①細砂粒を含む②還元気味の酸化③にぶい黄橙色 ④TA¥B38-9
5	椀 灰釉陶器	口縁片	口径(17.3) 現存高4.2 ……	北辺寄土 坑内	口縁部内面に細い凹線をもつ。この凹線は口縁部ヨコナデの上から施されている。釉はごく薄くかけられる。	①精良②還元③浅黄橙色 ④TA¥B38-20
6	皿 灰釉陶器	口縁部	口径(13.7) 現存高1.9	北辺寄土 坑内	口縁部は丸く、やや肥厚する。釉は内外全面に薄くかけられる。	①精良②還元③灰黄色 ④TA¥B38-22
7	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 1/2	口径(20.8) 現存高16.5 ……	中央西寄 床直上	体部に丸味をもち、口縁部は内傾する。断面三角形の鐙を貼付ける。鐙下3cm以下は底部に向かうタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄色 ④TA¥B38-1、深さ13.8cm
8	鉢 土師質	1/4	口径(24.6) 器高 14.9 底径(12.7)	北辺寄土 坑内・中央 西寄 ビット	内湾気味に立ち上がる。口唇部に平坦面をもち、口縁部はヨコナデ、体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。外底は無調整。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③内面淡黄色、外面灰褐色④TA¥B38-2
9	羽釜 土師質	口縁部 ～体部	…… 現存高13.0 ……	カマド前 床直上	直立する口縁部をもち、口唇部に平坦面をもつ。断面三角形の鐙を貼付ける。甑の可能性あり。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B38-3
10	羽釜 須恵器	口縁片	現存高6.3 ……	南辺中央 床直上	口唇部に平坦面をもつ。口縁部は内傾し、断面三角形の鐙を貼付ける。	①砂粒・小石を含む②還元③灰色④TA¥B38-6

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
11	土 鍾	略完		カマド左脇床直上	現存長6.7cm、最大径25cm、孔径0.6cm。中央部が太く、両端が細い。ナデを施して仕上げる。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥B38-24
12	土 鍾	略完		中央西寄床直上	現存長3.2cm、最大径1.6cm、孔径0.35cm。中央部が太く、両端が細い。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TA¥B38-23、

田端地区B区第40号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土 師 器	略完	口径(12.0) 器高 3.4 底径 9.0	南辺中央床直上	平底。体部下位に指頭ナデ痕を残し、口縁部はゆるく外反する。外底は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。器肉ごく薄手の仕上げ。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色④TA¥B40-3、深さ2.6
2	杯 土 師 器	略完	口径 12.1 器高 3.3 底径 8.6	カマド左脇床直上	平底。体部下位に指頭ナデ痕を残し、口縁部外側につまみ出す。体部はゆるいS字状をなす。外底は非回転のヘラケズリを施す。器肉薄手。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③明赤褐色④TA¥B40-2、深さ3.2
3	杯 土 師 器	1/2	口径 14.0 器高 4.5 底径 10.4	中央部床直上	平底。体部下位はヘラナデと内側からの指オサエによって内湾し、口縁部はわずかに外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面は放射状暗紋を施し、内底に十文字のヘラ記号をもつ。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色④TA¥B40-4、深さ4.0
4	椀 須 恵 器	1/2	口径 13.8 器高 3.7 底径 6.3	貯蔵穴内	平底。体部下位に張りをもち、内湾気味に開く。口縁部は外側に強くひき出す。外底は回転糸切り後、無調整。重ね焼き痕あり。器肉薄手。	①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③灰白色④TA¥B40-8、深さ3.2
5	椀 須 恵 器	底部	…… 現存高1.7 底径 6.1	南辺中央床直上	平底。体部下位に張りをもち、内湾して開く。外底は回転糸切り後、無調整。体部内面はロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒・黒色粒を含む②還元、硬質③灰色④TA¥B40-15
6	杯 須 恵 器	1/4	口径 13.0 器高 4.3 底径 5.4	貯蔵穴フク土	平底。体部は直線的に開く。口縁部に強いナデを施す。外底は回転糸切り後、無調整。内面はロクロナデを施す。重ね焼き痕あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元③黒色④TA¥B40-9、深さ3.7
7	椀 須 恵 器	1/2	口径(13.6) 器高 4.3 底径 (6.0)	フク土	平底。体部中位でふくらみをもって開く。口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、無調整。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③灰黄色④TA¥B40-14、深さ3.6
8	椀 須 恵 器	底部	…… 現存高2.9 底径 5.7	南辺中央床直上	平底。体部は丸味をもつ。外面にロクロ目を強く残し、内面のナデは丁寧である。外底は回転糸切り後、無調整。イブシ焼成。	①砂粒・雲母を含む②還元③黒灰色④TA¥B40-16
9	椀 須 恵 器	底部	…… 現存高3.2 底径 7.1	南辺中央床直上	内外面にロクロ目を強く残す。体部の開き大きめ。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部の丸い三角形。	①砂粒・石・白色粒を含む②還元、軟質③灰黄色④TA¥B40-6
10	高台付椀 須 恵 器	底部	…… 現存高3.2 高台 7.8	南西部床直上	体部下位で張りをもって開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。内底に重ね焼き痕あり。	①砂粒、黒色・白色石粒を含む②還元、硬質③灰色④TA¥B40-13

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
11	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高2.0 高台 7.0	東辺中央 床直上	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。内面はロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや軟質③灰黄色 ④TAYB40-12
12	高台付椀 須恵器	底部	…… 現存高2.4 高台 6.9	中央北寄 床直上	口縁部を欠く。体部は大きく開く。深椀か。外底周縁に高台貼付け。体部打ち欠きあり。内底にスレあり、転用硯か。	①砂粒・白色粒を含む②還元、硬質③灰黄色 ④TAYB40-11
13	皿 須恵器	底部	…… 現存高1.5 高台 5.2	北辺中央 床直上	口縁部を欠く。底径の小さな皿。外底は回転糸切り後、高台貼付け。重ね焼き痕あり。蓋の可能性あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③灰色 ④TAYB40-17
14	甕 土師器	口縁部	口径(22.5) 現存高9.1 ……	カマド内	底部を欠く。「コ」字状口縁を呈する。No19と同一個体か。体部上位に丸く張りをもつ。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。器肉薄手の仕上げ。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB40-20
15	甕 土師器	口縁部	口径(19.3) 現存高5.0 ……	貯蔵穴フ ク土	「コ」字状口縁を呈する。体部上位で張りをもつ。頸部の縮り強く、口縁部は外反し、口唇部は外側に沈線を巡らす。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TAYB40-14
16	甕 土師器	口縁部	…… 現存高4.1 ……	西辺中央 床直上	「コ」字状口縁を呈する。口唇部内側につまみナデ、体部の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒・角閃石を含む②酸化③明赤褐色 ④TAYB40-23
17	甕 土師器	口縁部	…… 現存高5.6 ……	貯蔵穴西 側床直上	「コ」字状口縁を呈する。体部上位に張りをもつ。頸部は縮って、口縁部はゆるく外反する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TAYB40-25
18	甕 土師器	口縁部	…… 現存高3.1 ……	フク土	「コ」字状口縁を呈する。頸部は直に立ち上がり、口縁部は外反する。内外面はヨコナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB40-27
19	甕 土師器	底部	…… 現存高7.9 底径 3.5	カマド左 脇床直上	体部は底部から直線的に開く。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデあげを施す。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB40-19
20	甕 土師器	体部 ～脚部	…… 現存高6.2 底径 9.5	北西部床 面上	体部中位を欠く。台付甕。脚部は「ハ」字状に大きく開き、体部は丸味を強くもって立ち上がる。体部内面は丁寧なヘラナデ、脚部はヨコナデを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB40-21
21	甕 須恵器	口縁部 ～体部 小片	口径(21.2) 現存高9.8 ……	カマド前	体部上位に最大径をもち、頸部は「く」字状に外反する。口縁部外縁帯をもつ。粘土紐積後ロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB40-26
22	甕 須恵器	体部	…… 現存高35.5 ……	南辺中央 部床面上 20cm	大型甕。No23と同一個体か。内面は無文のアテ具痕を残し、外面はタタキの後ナデを施す。やや粗雑な作り。	①砂粒・石英粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB40-28
23	甕 須恵器	底部	…… 現存高6.5 底径 16.2	中央部南 寄床面上 10～5cm	大型甕の底部。No22と同一個体か。平底で、体部は内湾して立ち上がる。粘土紐積み痕を残し、内面は無文のアテ具によるタタキ締め後ヘラナデ、外面の下部はヘラケズリを施す。	①砂粒・石英粒を多く含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB40-18

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
24	土 錘	完形		カマド前床直上	長さ5.2cm、最大径1.1cm、孔径0.3cm。細型。現在の重さ6.6g。①砂粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい黄橙色④TAYB40-29	
25	土 錘	完形		フク土	長さ5.0cm、最大径1.0cm、孔径0.3cm。わずかに中ぶくらみ。細型。現在の重さ6.3g。①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB40-30	
26	土 錘	完形		西辺中央部床面上18cm	長さ3.2cm、最大径1.6cm、孔径0.3cm。中央でふくらみもつ短かいタイプ、ソロバン玉型。現在の重さ6.7g。①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB40-31	

田端地区B区第41号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗須恵器	1/2	口径 16.2 器高 6.4 高台 5.8	貯蔵穴内	体部はゆるやかに内湾して開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面は丁寧なナデ、内面はロクロ目を残す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。歪みあり。器肉薄手。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや硬質③灰色 ④TAYB41-2、深さ5.9
2	杯須恵器	口縁部小片	口径(14.0) 現存高4.3 ……	貯蔵穴内	口縁部は直線的に開く。口唇部は丸く肥厚する。体部外面にロクロ目を残す。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや硬質③にぶい黄橙色④TAYB41-4
3	高台付碗須恵器	略完	口径 13.1 器高 5.2 底径 6.4	貯蔵穴内	歪みあり。体部はゆるやかに内湾し、口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。底部に補修痕あり。器表剥落あり。	①砂粒・石英を含む②還元、軟質③灰黄色 ④TAYB41-3、深さ3.5
4	甕土師器	体部～底部	…… 現存高20.5 底径 5.5	貯蔵穴内	底部は小さく、体部は卵形を呈する。体部外面の下位はタテ方向のヘラケズリ、中位以上はヨコ方向のヘラケズリを施す。外面スス付着。	①砂粒、白色・黒色石粒を多く含む②酸化、軟質③明赤褐色④TAYB41-1

田端地区B区第42号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付杯須恵器	1/6	口径(15.4) 器高 6.1 高台(7.5)	貯蔵穴内	体部はほぼ直線的に開く。口縁部は丸味が強く、体部にロクロ目を強く残す。底部は切り離し後、高台貼付け。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰色 ④TAYB42-4、深さ4.9
2	高台付碗須恵器	底部1/2	…… 現存高2.8 高台(6.5)	南辺中央	体部下位に張りをもつ。体部にロクロ目を残す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は四角形を呈する。内面に重ね焼き痕を残す。	①砂粒・白色石粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB42-5
3	甕土師器	3/6	口径 10.8 器高 13.3 底径 3.6 脚径 7.2	貯蔵穴内	台付小型甕。体部は丸く、口頸部はわずかに「コ」字状に締る。口唇部はうすく、外側に凹線を施す。体部外面は斜め・ヨコ方向のヘラケズリを施す。2次加熱痕あり。	①砂粒・白色石粒を含む ②酸化、軟質③にぶい赤褐色④TAYB42-1、深さ10.5
4	甕土師器	口縁部小片	口径(19.2) 現存高5.4 ……	南辺中央	底部を欠く。口頸部はゆるい「く」字状を呈する。口縁部はつまみあげて外側にふくらみをもち、沈線がめぐる。体部はナナメ・ヨコ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。内外面に2次加熱痕あり。	①砂粒・白色石粒を含む ②酸化、軟質③明赤褐色 ④TAYB42-2

田端地区B区第43号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅜	口径(13.5) 器高 2.9 底径(9.0)	北西部床 直上	平底。体部はわずかに内湾して立ち上がる。体部に指頭ナデ痕を残し、外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色 ④TA#B43-17、深さ2.8
2	杯 土師器	⅜	口径(13.0) 器高 3.4 底径(7.0)	カマド内	平底。体部に指頭ナデ痕を残し、口縁部はヨコナデ外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③明赤褐色 ④TA#B43-12、深さ2.9
3	杯 土師器	⅜	口径(13.9) 器高 3.4 底径(8.6)	南辺東寄 床直上	体部に指頭ナデ痕を残す。平底。体部中位でヨコナデによるふくらみをもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明褐色 ④TA#B43-22、深さ3.0
4	高台付碗 須恵器	⅝	口径 14.9 器高 5.5 高台 7.0	カマド前 左側床直 上	体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部は外側へつまみ出す。口唇部は薄い。外底は回転糸切り後、高台貼付け。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②還元、やや軟質③暗灰黄色 ④TA#B43-7、深さ4.1
5	高台付碗 須恵器	½	口径 14.6 器高 5.3 高台 6.4	西辺中央 床直上	体部はゆるやかに内湾して開き。口縁部をわずかに外側にひき出す。口唇部に丸味あり。体部は内外面ともロクロナデ調整を施す。	①砂粒を含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TA#B43-1、深さ4.1
6	高台付碗 須恵器	完形	口径 14.1 器高 5.0 高台 6.8	貯蔵穴内	体部はわずかに内湾し、口縁部もわずかに外反する。口唇部に丸味あり。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。	①砂粒、白色・黒色小石を含む②還元、やや硬質③灰白色④TA#B43-3、深さ3.6
7	高台付碗 須恵器	⅝	口径 14.2 器高 5.2 高台 6.8	中央部床 直上	体部中位にふくらみをもち、口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台断面は四角形を呈する。外面にスス附着。	①砂粒・黒色石粒を含む ②還元、やや硬質③灰黄色 ④TA#B43-2、深さ3.8
8	高台付碗 須恵器	体部 ～底部 ⅜	…… 現存高4.5 高台 6.7	貯蔵穴上	体部下位でわずかに張りをもち、内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。内外面ロクロナデを施す。器肉薄手。内面にスス附着。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰黄色④TA#B43-20
9	高台付杯 須恵器	⅝	口径(14.6) 器高 5.4 高台 7.2	西辺中央 壁際床直 上	体部は直線的に開く。口縁部は肥厚し、端部は角ばる。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は四角形を呈する。	①砂粒を多く含む②還元、軟質③灰白色 ④TA#B43-19、深さ4.1
10	杯 須恵器	⅝	口径 13.0 器高 3.5 底径 6.3	貯蔵穴内	平底。体部中位に稜をもち、口縁部はゆるやかに外反する。端部に丸味あり。外底は回転糸切り後、無調整。内面は丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒・石英粒を含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TA#B43-4、深さ3.2
11	杯 須恵器	⅝	口径(13.0) 器高 4.1 底径(5.2)	貯蔵穴内	平底。体部はわずかに内湾して開き、口縁部を外側にひき出す。外底は回転糸切り後、無調整。底部周縁にスレあり。内面は丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TA#B43-6、深さ3.9
12	杯 須恵器	底部	…… 現存高2.4 底径 6.6	貯蔵穴内	口縁部を欠く。平底。体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・輝石を含む②還元、軟質③黒褐色 ④TA#B43-15
13	高台付皿 須恵器	⅝	口径 13.0 器高 3.0 高台 7.2	貯蔵穴北 東際	口縁部はほぼ水平に開く。口唇部に丸味あり。外底は回転糸切り後、高台貼付け。内外面ロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰黄褐色 ④TA#B43-28、深さ1.0

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	椀 須恵器	¼	口径(14.6) 現存高4.2 ……	中央部床 直上	体部は丸く内湾して開く。口縁部はわずかに 外反し、端部に丸味あり。内外面ともロクロ ナデを施す。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰色④TAYB43-9
15	杯 須恵器	底部	…… 現存高0.9 底径(7.2)	フク土	平底。底部円盤別作りで、体部剥落部分の内 底に回転糸切り痕および体部粘土密着用のカ キ目あり。外底は回転糸切り。縁辺部スレあ り。	①砂粒・白色石粒を多く含 む②還元、軟質③灰黒色 ④TAYB43-23
16	椀 黒色土器	¼	…… 現存高2.5 底径(5.0)	フク土	口縁部を欠く。平底。体部は内湾し、内外面 ロクロナデを施す。内面は研磨のち黒色処 理を施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい黄褐色 ④TAYB43-16
17	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径 19.6 現存高8.5 ……	カマド内	底部を欠く。「コ」字状口縁を呈する。体部上 位で丸く張りをもつ。体部外面はヘラケズリ、 内面はヘラナデを施す。器肉薄手の仕上が り。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYB43-31
18	甕 土師器	口縁部	口径(10.9) 現存高4.1 ……	貯蔵穴フ ク土	小型甕。口頸部はゆるい「コ」字状を示す。 体部外面はヘラケズリ、内面ヘラナデを施す。 口唇部は外側にめくられて凹線めぐる。	①黒色粒・砂粒を含む②酸 化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB43-33
19	甕 土師器	口縁部 小片	口径(11.3) 現存高4.2 ……	南西部床 直上	小型甕。ゆるい「コ」字状を呈する。体部外 面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口頸部外 面はヨコ方向のヘラナデを施す。口縁部外側 に凹線めぐる。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③明赤褐色④TAYB43-34
20	甕 土師器	口縁部 小片	口径(17.0) 現存高5.9 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。「コ」字状口縁を呈する。体部の 丸味が強く、頸部は締って口縁部へ開く。体 部外面はヘラケズリ、内面は丁寧なヘラナデ を施す。器肉薄手。	①砂粒を含む②酸化③明 い赤褐色④TAYB43-36
21	甕 土師器	底部 小片	…… 現存高3.7 底径(3.2)	カマド前 床直上	口縁部を欠く。体部外面にヘラケズリを施す。 外底はヘラケズリ、体部内面はヘラナデを施 す。	①砂粒・黒色粒子を含む ②酸化③明赤褐色 ④TAYB43-37
22	甕 土師器	脚部	…… 現存高2.5 底径(4.2)	貯蔵穴内	台付甕脚部。「ハ」字状に開く。内外面ナデを 施す。脚裾径(9.2)cm。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYB43-39
23	甕 須恵器	体部 小片	…… 現存高6.8 ……	フク土	口縁部が鉢型に開く甕か。体部下位にタタキ 目を残し、鏝貼付け。鏝はヨコナデ、内面は 丁寧なヘラナデを施す。中型品か。	①砂粒を含む②還元、硬質 ③灰色④TAYB43-46
24	甕 須恵器	底部 小片	…… 現存高9.4 底径(12.8)	カマド左 袖	体部外面にタタキ目を残し、底部筒状に抜け る。No23と同一個体か。体部内面はタテ方 向のヘラケズリ、ヘラナデ調整を施す。内底部 は底受け状に段を作り出す。内底径(10.3) cm。	①砂粒を含む②還元、硬質 ③灰オリーブ色 ④TAYB43-47
25	甕 須恵器	口縁部 ～体部	口径(46.8) 現存高20.0 ……	カマド前 床直上	口唇部は上下に発達する。体部は大きく膨ら み、口縁部は大きく外反する。体部内面に無 文のアテ具痕あり。口縁部片と体部片不完全 な接合。	①砂粒・小石を含む②還元、 硬質③灰色 ④TAYB43-43、44

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
26	1457	43住	軒平	1.8	密	含	締	暗灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB43-49
27	1456	43住	平	2.3	密	含	締	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB43-48

田端地区B区第44号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	1/2	口径(12.6) 現存高5.6 高台(5.6)	北辺中央	体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部はわずかに外反して、端部に丸味をもつ。外底は切り離した後、高台貼付け。底部円盤、別作りか。	①細砂粒・白色粒を含む ②還元 やや硬質③灰色 ④TAYB44-13
2	高台付椀 灰釉陶器	底部 小片	…… 現存高2.6 高台(6.3)	北辺中央 部床面上	口縁部を欠く。底部から体下部にかけて、回転ヘラケズリを施す。高台断面は端部の丸い三日月状を呈する。釉はつげかけ。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色、灰緑色(釉) ④TAYB44-6
3	高台付皿 須恵器	底部 3/4	…… 現存高2.0 高台(6.8)	北辺中央 床面	口縁部を欠く。体部は大きく開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台断面は端部の丸い三日月状を呈する。灰釉陶器のうつしか。	①砂粒・褐色石粒を含む ②還元、軟質③黄灰色 ④TAYB44-1
4	高台付瓶 灰釉陶器	底部 小片	…… 現存高4.0 高台(10.0)	南東隅床 直上	ロクロ成形。体部下位はヘラケズリ。外底はヘラケズリを施す。高台の断面は低い四角形を呈する。釉がかりあり。	①砂粒・白色石粒を含む②還元、硬質③灰色、緑色(釉) ④TAYB44-21
5	フイゴ 羽口			南西部床 直上	外径6.2cm、現存長8.2cm、孔径2.3cm。送風部裾がひろがる。一端に鉄滓が斜めに付着。使用により短くなったものか。①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③暗赤灰色、灰褐色④TAYB44-3	
6	甕 須恵器	底部 小片	…… 現存高6.0 ……	中央部西 寄床直上	丸底。外底はヘラケズリ、ヘラナデを施す。内面に無文のアテ具痕を残す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③オリーブ灰色④TAYB44-20
7	甕 須恵器	底部 小片	…… …… 底径(23.8)	南西部フ ク土	甕脚部。底部筒抜けて、「く」字状に外反する脚部をもつ。脚裾端部は肥厚して帯状にめぐる。	①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③灰褐色 ④TAYB44-16

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
8	1594	44住	丸	1.0	粗	含	並	灰	なし	なし	なし	なし	なし	なし	素文	なし	なし	なし	なし	3類 ④TAYB44-22	

遺物観察表

田端地区B区第45号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 ～底部 ¼	口径(15.4) 現存高4.4 底径(10.0)	フク土	口縁部に丸味をもち、底部は丸味のある平底である。内底はラセン状、体部は放射状の暗文を施す。外底から体部下位はチリメン状を呈する。	①細砂粒を含むが細密②酸化、軟質③橙色 ④TAYB45-1
2	杯 土師器	口縁部 小片		フク土	体部は丸く内湾し、口縁部に至る。口唇部内側にかえりあり。内面は放射状暗文、体部外面はヨコ、ナナメ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYB45-8
3	杯 土師器	¼	口径(12.6) 器高 2.3 底径(7.4)	フク土	底部に丸味があり、体部は外稜をもつ。口唇部は薄い仕上がり。体部外面・外底はヘラケズリを施す。	①砂粒・褐色石粒を含む ②酸化、軟質③橙色 ④TAYB45-9
4	杯 土師器	¼	口径(13.0) 現存高2.5 ……	フク土	ゆるやかに丸味のある底部から、短かく内湾する体部をもつ。外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄橙色 ④TAYB45-5
5	杯 土師器	¼	口径(13.0) 現存高3.3 ……	フク土	浅く丸い底部から、短かく内湾して立ち上がる口縁部をもつ。口縁部～体部内面ヨコナデ、底部は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色 ④TAYB45-6
6	杯 土師器	¼	口径(13.1) 現存高3.9 ……	フク土	やや深めの丸底で、口縁部は内湾して短かく立ち上がる。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色 ④TAYB45-7、深さ3.5
7	蓋 須恵器	口縁部 小片	口径(20.2) 現存高1.2 ……	フク土	内側に、口縁部よりわずかに突出する。カエリをもつ。重ね焼き痕あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、硬質③灰褐色 ④TAYB45-13
8	蓋 須恵器	¼	口径(16.5) 現存高3.7 ……	フク土	天井部は平らに開き、端部は短かく立ち上る。天井部外面は右回転ヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB45-12
9	蓋 須恵器	⅓	…… 現存高2.3 ツマミ4.6	フク土	大きめのボタン状ツマミをもつ。ロクロナデ成整形の後、天井部に回転ヘラケズリを施し、つまみを貼付ける。体部周辺は打ち欠きか。内面にスレあり。転用か。	①砂粒、白色・黒色石粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB45-2
10	杯 須恵器	底部 ¼	…… 現存高2.0 底径(11.0)	フク土	平底で、体部は直線的に立ち上がる。外底は回転ヘラケズリ、体部はロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB45-11
11	杯 須恵器	底部 ¼	…… 現存高1.7・ 底径(8.4)	フク土	平底。体部下位はわずかに丸味をもつ。外底～体部は回転ヘラケズリを施す。外底周縁および内底にスレあり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③灰色 ④TAYB45-10
12	脚 須恵器	脚小片	…… 現存高3.5 底径(12.8)	フク土	強く外反して裾部に至る。裾端部は稜をもって立ち上がる。底部は貼付け痕残る。自然釉あり。短脚付杯か、長頸瓶脚か。	①砂粒・白色石粒を多く含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB45-3
13	甕 土師器	口縁部 小片	口径(24.0) 現存高5.1 ……	フク土	体部は丸味をもち、口縁部は「く」字状に外反する。口唇部外側に丸味あり。体部はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色 ④TAYB45-15

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	鉢 土師器	口縁部 小片	口径(25.9) 現存高5.2 ……	フク土	口唇部は強く内側にカエリをもつ。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③明赤褐色 ④TAYB45-14
15	甕 土師器	口縁部	口径(26.8) 現存高2.9 ……	フク土	底部を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。口唇部外側は丸く肥厚する。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③明赤褐色 ④TAYB45-16
16	甕 須恵器	口縁部 小片	口径(24.6) 現存高4.1 ……	フク土	底部を欠く。口縁部は外反し、口唇部外側強いロクロナデ調整を施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、やや硬質③にぶい黄褐色④TAYB45-17

田端地区B区第46号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 須恵器	口縁部 1/2	口径(16.2) 現存高2.5 ……	カマド内	体部は丸味をもち、口縁部は外側へひき出す。口唇部に丸味あり。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を多く含む ②酸化、軟質③にぶい黄褐色④TAYB46-4
2	高台付椀 須恵器	体部 ～底部 1/2	…… 現存高3.4 高台(3.6)	貯蔵穴内	口縁部を欠く。体部ゆるやかに内湾する。外底は切り離し後、高台貼付け。底部の器肉厚手。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい黄褐色 ④TAYB46-1
3	高台付椀 灰釉陶器	底部 1/2	…… 現存高1.8 高台(7.4)	南西部床 直上	外底は切り離し後、回転ヘラケズリを施し、高台貼付け。高台の断面は基部の厚い三日月状を呈する。底部の器肉厚手。内底に重ね焼きの痕跡あり。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰白色 ④TAYB46-2
4	羽 釜	口縁部 1/4	口径(19.2) 現存高6.2 ……	カマド内	口縁部は内湾し、口縁端部の平坦面は内傾するが、体部のふくらみがやや細めの羽釜。鏝断面は端部の丸い三角形で内外面ともゆるいロクロナデを施す。器肉厚手。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB46-3
5	甕 土師器	口縁部	口径(20.2) 現存高4.6 ……	カマド左 前床面	口縁部「コ」字状口縁の形を残す。口縁部はわずかに外反し、外側に太い凹線がめぐる。器肉やや厚手。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYB46-5

田端地区B区第47号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	1/2	口径(15.7) 器高 5.4 底径 6.9	北辺壁際 床直上	体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部はわずかに外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。器肉薄手。重ね焼きの痕跡あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、軟質③黄灰色 ④TAYB47-2、深さ4.2
2	高台付椀 須恵器	底部片	…… 現存高3.2 底径 7.0	南辺西 寄・床直 上	体部は内湾して開く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は端部の丸い台形を呈する。内外面とも丁寧なロクロナデを施す。重ね焼き痕あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③灰色 ④TAYB47-7
3	椀 須恵器	1/2	口径(13.1) 器高 3.8 底径 6.2	貯蔵穴内	平底。体部は内湾気味に開き、口縁部は外反して、端部は丸味をもつ。外底は回転糸切り後、無調整。体部外面に墨書あり。「成」字か。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③灰白色 ④TAYB47-1、深さ3.1

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	杯 須恵器	口縁部	口径(14.7) 現存高2.9 ……	貯蔵穴内	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面に強いロクロナデ痕を残す。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③灰白色 ④TAYB47-5
5	皿 灰釉陶器	片	口径(15.2) 現存高1.6 ……	カマド前 床直上	体部は丸味をもって開き、口唇部は外側へひき出す。体部外面の中位まで回転ヘラケズリを施す。たっぷりとした軸がかりあり。	①砂粒を含むが細密②還元、硬質③灰色、釉(オリブ黄色) ④TAYB47-3
6	甕 土師器	口縁部	口径(12.8) 現存高5.0 ……	フク土	「コ」字状口縁の小型甕。口唇部はわずかに立ち上がり、内側に丸く肥厚する。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。外面スス付着。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB47-11
7	甕 土師器	口縁部 小片		カマド内	「く」字状に外反する口縁をもつ。体部の外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。	①白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB47-10
8	甕 須恵器	底部	…… 現存高3.5 底径(19.2)	南側中央 床直上	平底。粘土紐積み上げ後、ロクロナデを施す。底部周縁にスレあり。	①砂粒・石英粒を含む②還元、軟質②灰褐色 ④TAYB47-14

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要				
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板割取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
9	1439	47住	丸	1.1	密	微	軟	灰	なし	なし				なし	なし	素文	なし	なし	なし	1	2類 ④TAYB47-13

田端地区B区第48号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	完形	口径 9.6 器高 2.6 底径 5.4	Bカマド 右前床面	平底、小型杯。体部はわずかに内湾して開く。体部の内外面はロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒・褐色粒を含む②酸化、軟質③浅黄褐色④TAYB48-26、深さ2.0
2	杯 土師質	略完	口径 10.3 器高 2.5 底径 5.6	Bカマド 左前床面	平底、小型杯。体部はわずかに内湾し、口縁部はやや外反する。体部の内外面はロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化③淡黄色 ④TAYB48-22、深さ2.0
3	杯 土師質	略完	口径 10.2 器高 2.5 底径 5.9	Bカマド 右脇壁際 床面	平底、小型杯。体部はわずかに内湾して開き、口縁部はやや外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②酸化、軟質③灰白色④TAYB48-25、深さ1.7
4	杯 土師質	略完	口径 10.0 器高 2.4 底径 5.6	Bカマド 前床面	平底、小型杯。体部下位で内湾し、口縁部は外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③灰白色 ④TAYB48-21
5	杯 土師質	片	口径 (9.8) 器高 2.1 底径 (5.2)	フク土	平底、小型皿状。体部は直線的に開く。口唇部に丸味をもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。内面スス付着。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TAYB48-6、深さ1.6

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	杯 土師質	1/2	口径(9.7) 器高 2.2 底径(6.0)	Aカマド 内	平底。体部は内湾して、浅く立ち上がる。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色 ④TAYB48-3、深さ1.8
7	杯 土師質	口縁部 欠損	口径 12.7 器高 4.0 底径 5.7	東辺中央 床面	平底。体部はわずかに内湾して開く。口縁部はやや厚味をもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③浅黄褐色 ④TAYB48-19、深さ3.4
8	碗 土師質	1/2	口径(13.2) 器高 4.3 底径 5.4	Bカマド 前床面	平底。体部はわずかに内湾して開く。口縁部に至る。口唇部に丸味あり。内外面ともロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①黒色粒・小石・砂粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄褐色④TAYB48-4、深さ3.6
9	杯 土師質	体部 ～底部	…… 現存高2.4 底径 6.0	中央部床 面	平底。体部はわずかに内湾して開く。体部の内外面はロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③淡黄色 ④TAYB48-23
10	杯 土師質	1/2	口径(10.6) 器高 2.9 底径(5.6)	フク土	平底。体部中位でわずかに屈曲し、口縁部はゆるく外反する。体部はロクロナデ調整を施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄褐色 ④TAYB48-2、深さ2.3
11	杯 土師質	1/2	口径(9.9) 器高 2.5 底径 5.0	Aカマド 内	平底、小型。体部はわずかに内湾して開く。内外面ともロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい黄褐色 ④TAYB48-5、深さ1.9
12	高台付碗 須恵器	略完	口径 14.7 器高 5.2 高台 7.9	Bカマド 右前床面	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。口縁部に厚味あり。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ2.0cmで、外側に張り出す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③浅黄褐色 ④TAYB48-18、深さ2.9
13	高台付碗 土師質	略完	口径 13.9 器高 5.3 高台 8.2	Bカマド 右前床面	体部下位でわずかに内湾して開く。口縁部は厚手。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ2.0cmで、外側に張り出す。	①白色石粒・砂粒を含む②酸化、軟質③浅黄褐色 ④TAYB48-20、深さ2.8
14	高台付碗 土師質	口縁部 ～底部 1/2	口径 13.7 器高 5.3 高台 8.0	Aカマド 左前床面	体部下位でわずかに内湾して開き、口縁部は外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.7cmで、外側に張り出す。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化、軟質③淡黄色 ④TAYB48-24、深さ3.1
15	高台付碗 土師質	1/2	口径 14.8 現存高4.8 ……	南辺中央 床直上	体部中位で内湾し、口縁部へかけて開く。口縁部は外反し、端部に丸味あり。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③灰黄色 ④TAYB48-12、深さ3.5
16	高台付碗 黒色土器	口縁部 1/2	口径(12.4) 現存高2.9 ……	中央部床 面	体部下位で内湾して、浅く開く。口唇部に丸味あり。内面は研磨・黒色処理を施す。口縁部内面にスレあり。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色 ④TAYB48-1
17	高台付碗 黒色土器	1/2	口径(12.0) 器高 4.6 底径 6.9		体部は内湾し、口縁部でわずかに外反する。内面と口縁部外側はヘラミガキ、黒色処理を施す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。	①砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYB48-28、深さ3.4
18	高台付碗 黒色土器	略完	口径 14.4 器高 5.7 高台 6.4	Aカマド 前	体部は内湾して立ち上がり、口縁部はわずかに外側にひきだす。内面と口縁部外面は研磨後、黒色処理を施す。高台の断面は台形を呈する。	①砂粒を含む②酸化、軟質③灰白色④TAYB48-17、深さ4.4

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
19	高台付椀 灰釉陶器	略完	口径 15.3 器高 6.5 高台 7.7	南側中央 床面	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外側にわずかにつまみ出す。外底に右回転糸切り痕を残し、高台貼付け。釉つけがけ。	①砂粒を含む②還元、硬質③灰白色・釉灰緑色④TA#B48-15、深さ5.1
20	高台付皿 灰釉陶器	1/2	口径 11.6 器高 2.3 底径 6.9	Aカマド 左前床面	底部からわずかに内湾して開く。外底に回転糸切り痕を残し、高台貼付け。釉は薄く、口縁部のみ。内面にスレ・墨痕あり。硯に転用。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA#B48-13
21	高台付皿 灰釉陶器	完形	口径 11.0 器高 2.1 底径 5.9	北側中央 部床面	体部はわずかに内湾して開き、口唇部は外側に丸くめくれる。外底に回転糸切り痕を残し、高台貼付け。釉はつけがけ。重ね焼きの痕跡あり。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA#B48-14
22	土釜 土師質	口縁部	口径(22.0) 現存高13.5 ……	南東部床 面	頸部はゆるく締め、口縁部は「く」字状に外反する。口唇部は角ばって、外稜をもつ。体部は粘土積上げ後、タテ方向のヘラナデ・ヘラケズリを施す。器肉厚手で粗雑な作り。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色④TA#B48-8
23	羽釜 土師質	口縁部	口径(22.0) 現存高6.2 ……	Aカマド 壁際	体部はふくらみをもたず、口縁部はわずかに内傾する。体部は粘土積上げ痕を残し、ヨコ方向のナデ、タテ方向のヘラケズリを施す。外面スス付着。	①砂粒・黒色・白色粒を多く含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色④TA#B48-10
24	甕 土師質	口縁部	口径(15.0) 現存高6.5 ……	Aカマド 左前	体部は丸味をもち、口縁部はゆるい「く」字状に外反する。口唇部は角ばる。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。外面スス付着。	①砂粒・黒色・白色粒を含む②酸化、軟質③黒褐色④TA#B48-7

田端地区B区第53号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/2	口径(11.6) 器高 4.1 底径 5.2	北東隅フ ク土	平底。体部中位で内湾し、口縁部は外反する。体部内外面はロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、硬質③橙色④TA#B53-1、深さ3.1
2	高台付椀 須恵器	1/2	口径(13.0) 現存高3.8 ……	東辺北側 床面	体部下位で丸く内湾して開き、口縁部は外側に強くひき出す。体部内外面はロクロナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③黒褐色④TA#B53-2
3	椀 須恵器	口縁部	口径(16.8) 現存高2.9 ……	北辺中央 壁際	体部は直線的に開き、口縁部にいたる。口唇部に丸味あり。体部内外面はロクロナデを施す。ロクロ目強い。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや硬質③にぶい黄褐色④TA#B53-4
4	杯 土師器	1/2	口径(13.0) 器高 3.1 底径 (9.9)	北東部床 面	平底。体部は斜めに開き、口縁部はわずかに外反する。外底はヘラケズリ、体部はヨコナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③橙色④TA#B53-5
5	甕 土師器	口縁部	口径(13.0) 現存高4.5 ……	東辺北寄 床面	「コ」字状口縁の小型甕。体部に丸味あり、口頸部の立ち上がり外反はゆるい。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。外面スス付着。	①砂粒・白色粒を含む②酸化、軟質③にぶい赤褐色④TA#B53-3

田端地区B区第54号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 9.3 器高 2.4 底径 4.7	南辺床面	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。口縁部はやや外反する。	①砂粒を含む②酸化③に い黄橙色④TA¥B54-2、深 さ1.9
2	杯 土師器	⅔	口径(9.6) 器高 2.9 底径 5.2	カマド左 脇床面	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。体部は直線的に開く。	①砂粒を含む②酸化③黄橙 色④TA¥B54-3、深さ2.3
3	甕 土師質	口縁部 ⅔	口径(23.2) 現存高8.7 ……	カマド底 面	体部以下を欠く。口唇部に平坦面をもち、口縁部は「く」字状に外反する。頸部は指頭オサエの後、ヨコナデ、体部外面はタテ方向のハケ目を施す。	①砂粒を含む②酸化、やや 硬質③明褐色 ④TA¥B54-4
4	羽 釜 土師質	口縁部 ⅔	口径(19.4) 現存高7.5 ……	カマド底 面	鐏以下を欠く。口唇部に平坦面をもち、その外側は突出する。鐏の断面は薄い三角形を呈し、仕上げは雑である。2次火熱を受けている。器表に凹凸あり。鐏上の外面に「上」のようなヘラ記号がある。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B54-5
5	羽 釜 土師質	口縁部 小片	…… 現存高10.5 ……	カマド左 脇床面	体部以下を欠く。ほぼ直に立ち上がり、鐏の断面は三角形を呈する。鐏下の外面にはば5～6mmの平行な凹線がみられる。工具痕か。	①黒色粒子・砂粒を含む ②酸化③橙色 ④TA¥B54-10
6	刀 鉄 子製	切先欠		南東隅床 面	切先と茎端部を欠く。長さ10.6cm、刃部長さ6.5cm前後、茎長さ4.0cmが遺存する。棟関をもつ。	

田端地区B区第55号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 土師質 碗	⅔	口径(14.0) 器高 4.6 高台 (7.1)	カマド内	体部は丸味をもって開き、口縁部は外反する。高台は高さ1.5cmで、薄く「ハ」字状に開く。内底にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③に い橙色④TA¥B55-2
2	高台付 黒色土器 碗	底部	…… 現存高2.2 高台 7.3	中央床面	体部以上を欠く。内底に研磨を施し、黒色処理を加える。高台は外反し、平坦面に細い凹線をもつ。2次火熱を受けている。	①砂粒・黒色粒子を多く含 む②酸化③に い橙色 ④TA¥B55-9
3	羽 釜 土師質	口縁部 ⅔	口径(25.6) 現存高11.3 ……	1号土坑 東側床面	体部下半以下を欠く。口唇部に平坦面をもち、やや内傾する。鐏の断面は三角形を呈する。鐏以下の体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③浅黄色④TA¥B55-5
4	甕 土師器	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高10.0 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。体部にやや丸味をもち、口縁部はゆるく外反する。口縁部はヨコナデ、体部は内外面ともナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③に い橙色④TA¥B55-3

田端地区B区第56号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 片	口径(17.2) 現存高2.7	カマド右 脇床直上	口縁部は体部から反転して外反する。外稜以下はヘラケズリを施す。一部スス付着。	①細砂粒を含む②酸化③に い橙色④TA¥B56-10

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	杯 土師器	1/4	口径(14.6) 器高 4.0	フク土	体部と口縁部との境に鈍い外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内底はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B56-1、深さ3.6
3	杯 土師器	1/4	口径(11.6) 現存高4.2 ●	フク土	口縁部は内側に丸く肥厚し、内湾気味に立ち上がる。外面の体部との境にふい稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B56-3、深さ3.8
4	杯 土師器	1/4	口径(12.0) 器高 3.6	フク土	口縁部は直立気味。外面は非回転のヘラケズリ、内底はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B56-2、深さ3.2
5	盤 ? 須恵器	底部片	…… 現存高2.3 高台(11.6)	フク土	高台付杯か。体部下半にふい外稜がある。高台下面は凹み、外端は接地せず、内端がわずかに突出して接地する。内底は非回転のナデ、外底は右回転ヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥B56-9
6	甕 土師器	体部 ～底部 1/2	…… 現存高10.8 底径 7.0	カマド内	体部下半にやや張りをもつ。内面はナデ、外面はヘラケズリを施す。外底は凸レンズ状を呈する。	①細砂粒を多く含む②酸化③にふい赤褐色 ④TA¥B56-5
7	不明鉄器			ピット 5 壁際	長さ12.3cm、幅1.7～2.0cmが遺存する。身は厚さ0.2～0.1cmあり、図の上方が厚い。刀子の一部か。TA¥B56-12	

田端地区B区第57号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 須恵器	口縁部	口径(13.4) 器高 (2.4) ……	フク土	体部は内湾し、口縁部を外側にひきだす。口唇部は丸く厚味をもつ。内外面ともクロコナデ調整を施す。	①砂粒を含む②還元、やや硬質③灰黄色 ④TA¥B57-3
2	把手 ? 土師質		現存高4.6	ピット内	断面は楕円形の柱状を呈し、わずかに反りのある土製品。脚または把手か。ナデ調整を施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にふい黄褐色 ④TA¥B57-2
3	羽 須恵器	口縁部 ～体部 1/4	口径(20.6) 現存高12.5 ……	北側中央 床面	口縁部は内傾し、体部は丸く内湾する。口唇部に平坦面をもつ。体部はヨコナデ調整後、鏝貼付け。器肉厚手で外面にスス付着。	①砂粒・褐色石粒を含む ②酸化、やや硬質③にふい黄褐色④TA¥B57-6
4	甕 土師器	口縁部	口径(12.0) 現存高4.9 ……	フク土	「コ」字状口縁を呈する小型品。体部に丸味をもち、頸部は縮って立ち上がり高く、口縁部は短く外反する。体部外面はヘラケズリを施す。内外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にふい褐色 ④TA¥B57-4
5	甕 土師器	口縁部	口径(10.5) 現存高4.0 ……		「コ」字状口縁を残す小型甕。体部はゆるい丸味をもち頸部の縮りも弱い。口縁部は外反し、端部で内湾する。体部外面にヘラケズリ調整を施す。内外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にふい黄褐色 ④TA¥B57-5

田端地区B区第59号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部	口径(13.6) 現存高3.2 ……	フク土	体部は内湾して開き、口縁部に至る。体部は内外面とも、ヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい褐色 ④TA¥B59-1
2	高台付椀 須恵器	底部片	…… …… 底径(7.8)	フク土	体部内外面にロクロナデを施す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は外側に張り出す台形を呈する。端部に平坦面あり。	①砂粒・白色粒を含む②還元、やや軟質③灰白色 ④TA¥B59-2

田端地区B区第61号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	体部片	口径(11.7) 現存高4.2 ……	フク土	口縁部がわずかに遺存する。体部は丸味をもち、口縁部は直に立ち上がる。内外面とも器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B61-1

田端地区B区第63号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿 灰釉陶器	底部 小片	現存高1.6 高台(6.0)	貯蔵穴フク土	高台は断面三角形を呈する。内底はとくに平滑である。内外面に釉がかかる。	①精良②還元③灰白色 ④TA¥B63-4
2	壺 須恵器 (灰釉)	体部 ～底部	…… 現存高4.7 高台9.5	北辺中央 壁際床面	高台底面は幅1cm程ありしっかりしているが、内端は接地しない。外底は糸切り後、ヘラケズリを施す。高台脇の体部外面は回転ヘラケズリを施す。内底と外面に灰オリーブ色の自然釉がかかる。	①砂粒・白色粒を含む②還元③灰白色④TA¥B63-1
3	羽釜 須恵器	口縁部 片	口径(18.2) 現存高6.3 ……	フク土	断面三角形の鑄をもつ。口唇部に平坦面をもち、外端は突出する。内面はロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B63-2
4	甕 土師質	口縁部 片	口径(21.4) 現存高6.0	中央フク土	口縁部は短く、ゆるい「く」字状に外反する。口唇部は外傾する。	①砂粒・黒色粒子を含む ②酸化③橙色～明赤褐色 ④TA¥B63-3
5	羽釜 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高6.7 底径(17.8)	北東隅床 面	底部と体部の接合面を残す。接合部に指頭圧痕があり、その上からヨコナデを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③灰黄褐色 ④TA¥B63-10
6	甕 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高5.7 底径(15.2)	中央フク土	体部と底部の境にナデ、外底はワラ状圧痕の上に不定方向のナデを施す。内底周縁に指頭ナデ痕を残す。	①白色粒・砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B63-11

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要			
					素地	找雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剝取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目		へら ケズリ	布の擦消	
									凹面	凸面									凹面	凸面
7	1440	63住	平	1.7	密	微	硬	灰	なし	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	1A類被熱 ④TA¥B63-12	

遺物観察表

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎 土		焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法				摘 要		
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
8	1441	63住	平	2.2	密	含	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	部分		1A類 ④TAYB63-13	
9	1442	63住	平	2.0	密	含	硬	淡灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし			1A類焼割れ ④TAYB63-18	
10	1443	63住	平	2.0	密	含	並	淡黄	なし											1類か ④TAYB63-26	
11	1444	63住	平		密	含	軟	淡黄												1類か ④TAYB63-33	

田端地区B区第64号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甗 土師質	口縁部 片	口径(32.1) 現存高11.8 ……	北東突出 部	体部下半以下を欠く。罅は薄く、水平方向に突き出る。口唇部に平坦面をもち、その外端は突出する。外面の器表剥落。内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③暗褐色 ④TAYB64-1

田端地区B区第65号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/2	口径(12.5) 器高 3.0 底径 4.5	フク土	体部下位に丸味をもち、口縁部は強く外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB65-3、深さ2.3
2	砥 石	完形		フク土	長さ30cm、幅12~15cm、厚さ8cmで4面を砥石として使用している。石質流紋岩（砥沢?）。カマド構築材に使われたものか。	
3	砥 石 ?			フク土	三角形を呈する。2次火熱を受けている。一面は表面が滑らかになっており砥石として使用されたものか。長さ24cm、幅12cm、厚さ10cmほどが遺存する。石質ひん岩。	

田端地区B区第66号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿 灰釉陶器	完形	口径 11.0 器高 2.2 高台 6.4	フク土	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内面に段をもち、内底中央には非回転のナデを施す。釉は薄い。つけ掛けか。	①細砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB66-1
2	杯 須恵器	底部	現存高2.3 底径 5.2	フク土	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出気味である。内底中央に非回転のナデを施す。	①砂粒を含む②還元③黄橙色④TAYB66-6
3	碗 須恵器	口縁部 小片	口径(16.2) 現存高3.8	フク土	口唇部は玉縁状に丸味をもつ。	①砂粒を含む②還元③にぶい黄橙色④TAYB66-4

田端地区B区第67号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径 10.0 器高 2.25 底径 5.7	住居内土 坑	外底は右回転糸切り後、無調整。口縁部は外反気味。内外面の器表は摩滅している。	①細砂粒を含む②酸化③黄橙色④TAYB67-5

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎 土		焼 成		成 形 技 法						整 形 技 法		摘 要				
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木炭	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消		側面 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
2	1513	63住	平	2.5	密	微	締	灰											1類か ④TAYB67-3		

田端地区B区第68号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀 土 師 質	略完	口径 16.6 器高 6.7 高台 8.6	北東隅床 面	体部は直線的に開き、口縁部は外反する。外底は回転糸切り後、高さ1.8cmの高台を貼付ける。内面に炭化物付着。	①砂粒・白色粒・褐色粒を含む②還元③にぶい橙色④TAYB82-2、深さ3.9
2	高台付 椀 土 師 質	⅔	口径(14.0) 器高 6.8 高台 8.6	北辺西寄 壁際床面	内底中央が突出する。高台は高さ2.0cmで「ハ」字状に開く。高台は厚さ0.5～0.8cmある。	①白色粒・砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB82-1、深さ4.2
3	高台付 椀 土 師 質	底部	現存高4.3 高台 7.4	北東隅床 面	高さ3.2cmの高台をもつ。内底は平坦な面をもつ。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB68-3
4	杯 土 師 質	⅓	口径(13.0) 器高 4.0 底径 (5.2)	中央北西 寄床面	外底は回転糸切り後、無調整。口唇部は玉縁状を呈する。内外面に丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB82-3
5	高台付 椀 須 恵 器	底部	…… 現存高3.4 高台 7.3	フク土	外底は回転糸切り後、粘土をカキ取ったのち高台を貼付ける。カキ取りはヘラ状の工具を用いたとみられる。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB68-6
6	羽 土 師 質	口縁部 小片	口径(17.8) 現存高8.3 ……	フク土	断面三角形の鏝を貼付ける。口唇部に平坦面をもち、外端は丸く突出する。鏝以下の外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB68-2
7	鉄 鉄	鉾・茎 欠		中央北寄 床面	全長7.3cmが遺存する。鉾は欠損ではなく、折れ曲って身に錆着している可能性がある。長さ2.3～2.5cmの逆刺をもつ。身と茎との境に一段をもつ。篋被か。茎の断面は一辺0.5cmの略方形を呈する。	

田端地区B区第69号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	遺 存	法 量	出土位置	特 徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀 須 恵 器	⅓	口径(14.0) 器高 4.8 高台 (6.8)	カマド内	体部は直線的に開き、口縁部は短く外反する。外底の周辺は2次火熱を受け赤変している。	①細砂粒・褐色粒含む②還元③褐灰色④TAYB69-1、深さ3.7
2	杯 土 師 器	⅓	口径 (9.6) 器高 2.6 底径 4.8	北西隅床 面	外底は突出感があり、右回転糸切り後、無調整。口縁部は強く外反する。	①金雲母・砂粒・白色粒を含む②酸化③橙色④TAYB69-2、深さ2.2
3	杯 須 恵 器	底部 ⅓	…… 現存高1.9 底径 (5.2)	中央南寄 床直上	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感があり、高台の痕跡はない。2次火熱を受け、一部赤変している。	①砂粒・白色粒を含む②酸化気味の還元③灰黄褐色④TAYB69-9
4	高台付 椀 灰 釉 陶 器	底部 ⅓	…… 現存高1.9 高台 (7.8)	西辺中央 壁際床面	外底は高台貼付け後、丁寧なヨコナデを施す。高台の外側に稜をもつ。内底に重ね焼痕がある。釉は淡緑色。	①白色粒含む②還元、硬質③灰白色④TAYB69-3

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	羽 須 恵 質	口縁部 小片	口径(24.2) 現存高12.3 ……	カマド内 フク土	鏝は断面三角形を呈し、鏝の端は上方に向かう。口唇部は内傾する平坦面をもつ。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B69-6
6	土 鍾	完形		カマド前 床下ピット	長さ6.4cm、最大径1.7cm、孔径0.4cm。両端が中央部よりもやや細くなるが、全体に円筒状を呈する。還元焰焼成された可能性がある。	①砂粒・白色粒含む②不明③黄灰色④TA¥B69-8
7	土 鍾	完形		南西隅フ ク土	長さ4.4cm、最大径1.7cm、孔径0.3cm。中央部が「コブ」状に太く、両端は細くなる。両端は平坦面をもつ。	①砂粒を含む②酸化、硬質③にぶい橙色④TA¥B69-7
8	刀 鉄	子 製	茎?	カマド左 袖石中	全長7.5cmが遺存している。最大幅1.6cm。割れ口で見た限り、茎の一部と考えられる。サビのフクレが大きく、形状不明。	

田端地区B区第71号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土 師 器	略完	口径 9.6 器高 3.1 底径 4.7	北辺中央 壁際床面	外底は突出し、右回転糸切り後、無調整。口縁部は外反する。	①砂粒を含む②酸化③浅黄色④TA¥B71-1
2	杯 土 師 器	完形	口径 10.2 器高 2.9 底径 5.6	カマド前 床面	外底は右回転糸切り後、無調整。口縁部はやや外反する。内面に黒褐色の付着物がある。	①砂粒を含む②酸化③淡褐色④TA¥B71-3
3	杯 土 師 器	口縁部 欠	現存高2.7 底径 5.4	貯蔵穴内	内外面とも器表の摩滅著しい。2次火熱を受けて一部赤変している。	①砂粒を含む②酸化③灰色④TA¥B71-2
4	高台付 土 師 質	%	…… 現存高4.9 高台 8.4	カマド左 脇床面	口縁部を欠く。高台は薄く、高さ1.3cmで、「ハ」字状に開く。内外面は摩滅著しい。	①白色・黒色石粒を含む②酸化③淡黄色④TA¥B71-4
5	高台付 土 師 質	口縁部 欠	…… 現存高3.5 底径 (8.6)	貯蔵穴内	高台は薄く、高さ1.6cmで、「ハ」字状に開く。内外面の器表摩滅。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B71-5
6	壺	底部小 片	…… 現存高3.0 ……	カマド前 床面	体部以上を欠き、高台の割れた痕がある。厚さ1cm前後でしっかりしている。外底はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元④硬質③灰色④TA¥B71-10
7	フイ 羽 口	略完		カマド内	現存長15.7cm、外径7cm前後、孔径2.3cmが遺存する。先端部にガラス質の滓が付着している。カマド支脚に転用されたもの。	①石・砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TA¥B71-9

田端地区B区第72号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須 恵 器	口縁部 ～体部 片	口径(12.6) 現存高4.5 ……	東辺南端 床面	器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②還元③灰黄褐色④TA¥B72-1

田端地区B区第73号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 黒色土器	底部	…… 現存高1.9 高台 6.4	カマド内 底面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内底は不定方向の研磨のち、黒色化する。本体底部は還元されている。	①細砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B73-1

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法					整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板削取 凹面 凸面	一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消 凹面 凸面	側部 面取	
2	1514	73住	平	2.2	密	含	締	暗灰	○	なし		○	なし	○	平行	擦痕	なし	なし	2	1A類 ④TA¥B73-3

田端地区B区第74号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	小片	口径(13.6) 現存高2.3	フク土	口縁部は外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TA¥B74-1
2	杯 須恵器	底部 ½	現存高2.0 底径(7.4)	フク土	外底および底部と体部の境に回転ヘラケズリを施す。内面の器表は摩滅している。	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B74-3
3	甕 須恵器	胴部 小片		フク土	厚さ7~12mmで、外面は平行タタキ目、内面は同心円の当て具痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥B74-8
4	甕 須恵器	胴部 小片		フク土	厚さ5~11mmで、外面は丁寧なナデを加えるが、内面は無文の当て具痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B74-9

田端地区B区第78号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 12.9 器高 4.0 底径 6.7	東辺北寄 壁際床面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	①砂粒含む②還元③灰黄褐色④TA¥B78-1
2	杯 須恵器	½	…… 現存高2.9 底径 5.2	中央西寄 床面	口縁部を欠く。外底は左回転糸切り後、無調整。内底は強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③にぶい黄褐色④ TA¥B78-2
3	壺 土師器	口縁部 片		北東隅壁 際フク土	体部は丸味をもち、口縁部の内・外端は面取りを施す。無頸。外面はナデ、内面はハケメ状の調整を施す。打ち欠き後の面取りか。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い橙色④TA¥B78-4

遺物観察表

田端地B区第80号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	1/2	口径(14.0) 現存高3.8	カマド内	外面はヘラケズリ、内面はヨコナデを施す、口縁部に歪みあり。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB80-1
2	杯土師器	小片	口径(11.0) 現存高2.5	カマド内	口縁部は直立し、口唇部は尖り気味である。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB80-4
3	杯土師器	1/2	口径 15.0 現存高3.6	カマド内	口縁部はゆるく外反する。外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB80-2
4	杯土師器	小片	口径(15.4) 現存高3.7 ……	フク土	口縁部は内湾気味に立ち上がる。内面はヨコナデ、外面はヘラケズリを施す。外面の器表は摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB80-5

田端地区B区第81・92号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽釜土師質	口縁部小片	…… 現存高6.7 ……	フク土	全体に作りが雑である。断面「コ」字状の鏝をつける。鏝の体部側と体部外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TAYB81-1
6	甕土師質	口縁部	口径(24.6) 現存高6.4 ……	フク土	口縁部外面はハケ状工具によるタテ方向のナデを施す。	①砂粒を多く含む②還元気味の酸化③灰褐色 ④TAYB92-1

報告番号	観察通番	出土地点	瓦の種別	厚さ	胎土				成形技法						整形技法				摘要		
					素地	扶雑物	焼き上り	色調	粘土板剥取		一枚作り	桶寄木痕	粘土板合せ目	布の合せ目	タタキ目	ロクロ目	ヘラケズリ	布の擦消		側部面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
2	1516	81住	平	2.0	密	含	締	灰	なし	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB81-3	
3	1515	81住	平	2.2	密	含	締	灰	なし	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB81-2	
4	1517	81住	平	2.0	密	含	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB81-5	
5	1518	81住	平	2.0	密	含	締	黒灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB81-6	
7	1497	81住	平	2.7	密	微	軟	淡黄	○	○	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB81-4
8	1496	81住	平	2.1	密	微	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB81-3	

田端地区B区第89号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿須恵器	3/4	口径(13.2) 器高 3.0 高台 (6.2)	カマド底面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部にやや丸味があり、口縁部は強く外反する。内底に重ね焼き痕がある。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい黄褐色 ④TAYB89-4、深さ1.9
2	高台付皿須恵器	略完	口径 12.9 器高 3.0 高台 6.2	カマド前床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部中位の厚さがやや増し、口縁部は直線的に開く。高台の貼付けは雑である。	①砂粒を含む②還元③にぶい黄褐色④TAYB89-3、深さ1.9

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	蓋 須恵器	ツمامミ	…… 現存高1.5 ……	フク土	本体は遺存しない。ツمامミ径4.1cm。ツمامミ頂部は断面三角形に突出し、外縁よりも上になる。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B89-7
4	甕 須恵器	⅔	口径(20.7) 現存高18.9 ……	カマド内	底部を欠く。口縁部外面に凹線があり、上下の端部は断面三角形に突出する。内外面の器表に細かい剝離がある。底部近くは2次火熱をうけている。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③にぶい黄褐色 ④TA¥B89-14
5	甕 土師器	⅔	口径(11.5) 現存高21.5 ……	カマド内	底部を欠く。頸部はほぼ直に立ち上がり、口縁部は外反して「コ」字状口縁を呈する。体部上半はヨコ方向、下半はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B89-23
6	甕 土師器	口縁部 小片	口径(20.8) 現存高5.6	カマド内	肩部以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。頸部の上下に強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色 ④TA¥B89-9
7	甕 土師器	口縁部 小片	口径(17.7) 現存高5.8 ……	カマド内	肩部以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。頸部はほぼ直に立ち上がる。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TA¥B89-12
8	甕 土師器	口縁部 小片	口径(20.2) 現存高9.0	カマド内	体部下半以下を欠く。頸部はやや内傾して立ち上がり、粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TA¥B89-13
9	甕 土師器	口縁部 小片	口径(19.9) 現存高6.0 ……	カマド左 前床面	肩部以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。頸部は内傾して立ち上がる。頸部の上下に強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TA¥B89-8
10	甕 土師器	口縁部 小片	口径(19.0) 現存高4.8 ……	カマド掘 形	肩部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反し、口唇部は丸く外面に巻き上がる。頸部はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TA¥B89-10

田端地B区第95号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 土師質	⅔	口径(13.2) 器高 5.3 高台 6.6	カマド前 床面	体部は直線的に開き、口縁部は外反する。外底は右回転糸切り後、高台を雑に貼付ける。	①砂粒・白色粒含む②酸化、軟質③にぶい黄褐色 ④TA¥B93-1、深さ4.2
2	土 錘	⅓		カマド内	長さ3.9cm、最大径(1.8)cm、孔径(0.3)cm 孔の方向と平行に割れている。中央部が太く、両端がすぼまる。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③黒褐色 ④TA¥B95-4
3	甕 土師器	口縁部 ~胴部 片	口径(20.2) 現存高15.6 ……	カマドフ ク土・カ マド前床 面	口唇部外側に凹線をもつ。口縁部は不明瞭な「コ」字状を呈する。対部外面の上半はヨコ方向、下半はタテ方向のヘラケズリを施す。	①小石・砂粒を含む②酸化 ③暗赤褐色④TA¥B95-3
4	羽 須恵器	口縁部 小片	…… 現存高9.2 ……	カマドフ ク土	断面三角形の鏝をもつ。口唇部外端が突出する。鏝以下の外面はロクロナデとナデ、内面はロクロナデを施す。	①小石・砂粒を含む②還元 ③灰色④TA¥B95-2
5	羽 土師質	口縁部	口径(23.4) 現存高14.1 ……	貯蔵穴西 壁際	底部を欠く。断面三角形の鏝をもち、口縁部は直に立ち上がる。口唇部は丸味をもつ。内外面ともロクロナデを施す、甗の可能性あり。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B79-2

遺物観察表

田端地区B区第98号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	壺 土師質	完形	口径 6.0 器高 4.5 底径 4.0	中央床面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部を丸くし、口縁部は短く外反する。口唇部は尖り気味である。体部内面にロクロナデ痕が残る。	①細砂粒を含む②還元気味③灰黄色④TAYB98-5、深さ3.7
2	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(21.7) 現存高10.5 ……	カマド内	体部以下を欠く。口縁部は直に立ち上がり、口唇部外側は丸く肥厚する。鐔の断面は三角形を呈する。	①砂粒を含む②酸化③浅黄橙色④TAYB98-8
3	羽釜 須恵器	口縁部 1/4	口径(22.4) 現存高9.7 ……	南西隅寄 床面	体部中位以下を欠く。鐔の断面は三角形を呈し、口縁部は内傾する。イブシ焼成。鐔の仕上げは丁寧である。	①砂粒を含む②還元、軟質③黒色④TAYB98-3
4	甕 土師質	口縁部 小片	口径(26.7) 現存高6.0 ……	カマド前 床面	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反し、口唇部は平坦面をもって外側に肥厚する。2次火熱を受けている。	①砂粒を多く含む②酸化、硬質③にぶい橙色④TAYB98-2

田端地区B区第99号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/4	口径(11.7) 現存高3.6 底径 8.9	貯蔵穴内	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。口唇部は尖る。体部中位以下はヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB99-1
2	(高台付)杯 須恵器	底部 1/2	…… 現存高2.7 底径 (5.8)	貯蔵穴内	体部中位以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整または高台貼付け。底部周辺摩滅。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB99-4
3	甕 土師器	口縁部 小片	口径(19.5) 現存高3.8	貯蔵穴内	体部以下を欠く。直線的な体部から、口縁部が外反する。口唇部は尖り気味である。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB99-7
4	甕 土師器	口縁部 小片	口径(11.2) 現存高4.8	貯蔵穴内	体部以下を欠く。口縁部はにぶい「コ」字状を呈する。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TAYB99-8

田端地区B区第100号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	3/4	口径 14.4 器高 4.8 高台 5.7	貯蔵穴内	歪みあり。体部は直線的に開き、口唇部は丸く肥厚する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB100-3、深さ3.5
2	高台付碗 土師質	1/2	口径(14.3) 器高 5.1 高台 7.2	南側土坑 内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口唇部は外反する。体部外面にロクロナデ痕が残る。高台の仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TAYB100-2、深さ4.2
3	杯 土師質	口縁部 小片	口径(12.1) 現存高2.4	貯蔵穴内	体部以下を欠く。口唇部は丸く肥厚する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB100-10

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	高台付椀 灰釉陶器	⅔	口径 14.8 器高 4.4 高台 6.0	貯蔵穴内 西側床面	体部下半にふくらみをもち、口縁部はかるく外反して口唇部に丸味をもつ。高台外面に稜をもつ。高台端部は鋭利な工具で削りといったような平坦面をもつ。底部を除き灰釉がかかる。	①精良②還元、硬質③灰白色④TA¥B100-5、深さ3.0
5	杯 土師器	略完	口径 12.1 器高 3.7 底径 7.0	西辺中央 壁際床面	体部は直線的に開き、口縁部に至る。体部の外面は指頭オサエの後ナデ、内面は丁寧なナデ、外底はヘラケズリを施す。口縁部外面に工具でなでつけた幅0.5mm前後の浅い凹線がある。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TA¥B100-4、深さ3.4
6	壺 須恵器	口縁部	口径 11.7 現存高4.0 ……	貯蔵穴内	体部以下を欠く。頸部は直に立ち上がり、口唇部は上方につまみだす。頸部内面に同心円タタキ目が残る。横瓶の可能性はある。	①黒色粒子を含む②還元③灰色④TA¥B100-13
7	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径 20.3 現存高13.7 ……	中央北寄 床面	底部を欠く。口縁部はにぶい「コ」字状を呈する。口唇部に凹線をもち、頸部にも2本の凹線がある。頸部内面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥B100-15
8	甕 土師器	口縁部 小片	口径(11.6) 現存高4.0 ……	カマド右 脇壁際床 面	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反し、口唇部は丸く肥厚する。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TA¥B100-22
9	羽釜？ 須恵器	底部	現存高1.9 底径 6.0	南側土坑 内	体部以上を欠く。外底はわずかに凸で、凸レンズ状にヘラケズリを施す。内底はロクロナデである。イブシ焼成。外面にスス付着。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TA¥B100-17
10	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(21.8) 現存高8.3 ……	カマド右 脇壁際床 面	体部以下を欠く。口縁部は内傾し、鏝は薄く仕上げている。鏝の端部に平坦面をもつ。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B100-18
11	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 ⅔	口径(21.7) 現存高22.5 ……	カマド底 面	底部を欠く。体部上位に張りがあり、口縁部は内傾する。鏝は上方へ丸味をもつ。体部中位以下の外面にはタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B100-14
12	羽釜 須恵器	口縁部 体部	口径 20.4 現存高21.0 ……	カマド右 脇壁際床 面	底部を欠く。鏝は外上方に張り出す。体部外面にヘラ記号状の刻みがある。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B100-16

田端地区B区第101号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	完形	口径 8.3 器高 2.4 底径 4.1	南辺中央 床面	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。体部は直線的に開き、口縁部に至る。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B101-1、深さ1.6
2	杯 土師器	⅔	口径(9.0) 器高 2.2 底径 4.9	北東隅床 直上	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開く。器表の摩滅あり。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B101-2、深さ1.8
3	甕 土師質	口縁部 ～体部 ⅔	口径(24.0) 現存高18.5 ……	カマド内	底部を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部は短く外反する。頸部内面ににぶい稜をもつ。体部外面に工具の調整痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TA¥B101-4

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 1/4	口径(24.0) 現存高16.6 ……	カマド 内・北東 隅床面	底部を欠く。体部に丸味をもち、口縁部は内傾する。鏝は水平方向に向かう。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB101-6
5	羽須恵器	口縁部 ～体部 1/6	口径(21.4) 現存高13.0 ……	カマド内	底部を欠く。口縁部は外反気味に立ち上がる。鏝以下の体部は丸くふくらみをもつ。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③にぶい黄橙色、灰色④TAYB101-8
6	甕 土師質	底部片	現存高3.2 底径 8.6	カマド前 床面	体部以上を欠く。底部周辺の外面はタテ方向のヘラケズリを施す。外底は無調整。	①砂粒を多く含む②酸化③明赤褐色④TAYB101-5

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土				焼成						成形技法						整形技法				摘 要
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板削り		一枚 作り	桶寄 木椀	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取					
									凹面	凸面								凹面	凸面						
7	1498	101住	平	1.4	密	微	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	1	1A類 TAYB101-9					

田端地区B区第102号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 土師質	底部 1/2	現存高1.7 高台 (7.5) ……	南東隅床 面	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。底部を構成する粘土の接合面が残る。高台は「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TAYB102-3
2	高台付碗 灰釉陶器	底部	…… 現存高1.7 高台 6.5	西辺中央 壁際床面	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台端部にワラ状の圧痕が残る。内底は丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB102-1
3	杯? 黒色土器	口縁部 小片	…… 現存高 4.2 ……	南東隅床 面	体部下半以下を欠く。内面は丁寧な研磨の後、黒色処理を施す。口縁部外面も研磨されている。体部外面は回転ヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③灰白色④TAYB102-4
4	甕 土師質	口縁部 1/6	口径(26.8) 現存高14.5 ……	カマド内	体部中位以下を欠く。口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部に平坦面をもつ。体部の鏝以下はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化③橙色④TAYB102-2

田端地区B区第103号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/6	口径 9.6 器高 2.8 底径 4.5	南辺中央 壁際床面	体部上位の器厚が薄い。口唇部は丸く肥厚する。外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB103-2、深さ2.2
2	杯 土師器	完形	口径 9.6 器高 3.1 底径 5.2	カマド前 床面	体部下位にふくらみがある。外底は右回転糸切り後、無調整で、突出感がある。外面の摩滅著しい。	①砂粒・白色粒子を含む②酸化③浅黄橙色④TAYB103-1、深さ2.5
3	杯 土師器	1/6	口径(11.0) 器高 4.0 底径 4.6	カマド前 床面	体部は直線的に開く。外底は右回転糸切り後無調整で、突出感がある。内外面の器表摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB103-3、深さ3.1

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	高台付椀 土師質	1/4	口径(15.3) 器高 6.1 高台 7.9	カマド前 床面	外底の切り離しは不明。貼付け高台で、高さ1.8cmあり、「ハ」字状に開く。口縁部は強く外反して、水平近くまで開く。体部下半に丸味がある。	①砂粒を含む②酸化③浅黄褐色④TAYB103-4、深さ3.8
5	羽釜 須恵器	口縁部 1/6	口径(21.1) 現存高15.0 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。体部に丸味があり、口縁部は内傾する。内外面にロクロナデ痕を残す。イブシ焼成。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②還元③黒褐色④TAYB103-6
6	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 1/4	口径(20.2) 現存高17.5 ……	カマド前 床面	底部を欠く。体部に丸味がなく、口縁部は内傾する。鐏の断面は三角形を呈する。外面の中位以下はタテ方向のヘラケズリを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB103-5
7	甕 須恵器	体部片		東辺北寄 床直上	大型の甕の体部片。内面の一部にタタキの当て具痕を残す。無文。内外面に丁寧なナデを施す。厚さ1.1～1.2cm。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TAYB103-16

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
8	1499	103住	平	2.3	密	微	軟	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	2	1A類 TAYB103-9	

田端地区B区第104号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 灰釉陶器	底部 1/4	…… 現存高3.0 高台 7.1	カマド内	体部以上を欠く。高台は「ハ」字状に開き、内湾気味である。内底に炭の付着があり、器表は平滑である。甕に使用したものか。内外面に灰釉がかかる。外底の切り離しは不明。	①精良・白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB104-2
2	甕? 土師質	底部片	…… 現存高4.0 ……	カマド内	小片のため、径復原不能。外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化、硬質③にぶい橙色④TAYB104-13

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
3	1500	104住	平	2.0	密	微	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB104-4		
4	1501	104住	平	2.4	密	微	軟	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	1A類被熱 ④TAYB104-7		

遺物観察表

田端地区B区第105号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/6	口径(13.8) 器高 5.3 高台 5.9	カマド内	体部は直線的に開き、口縁部はかるく外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。	①砂粒を含む②還元、軟質 ③灰色④TAYB105-8、深さ4.2

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法							整形技法			摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側面 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
2	1484	105住	軒平	2.2	密	含	軟	淡黄	○	なし	○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし			被熱1A類 ④TAYB105-4	
3	1486	105住	平	2.0	密	含	軟	赤褐	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし			1A類 ④TAYB105-6	
4	1485	105住	平	1.8	密	微	軟	淡黄	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	2		被熱割れ1A類 ④TAYB105-5	
5	1483	105住	平	2.0	密	含	並	淡灰	○	なし	○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし			1A類 ④TAYB105-3	
6	1482	105住	軒平	2.0	密	含	締	灰	○	なし	○	なし	なし	平行 擦痕	擦痕	なし	なし			1A類 三重弧文 技法典型 ④TAYB105-2	

田端地区B区第107号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 小片	口径(17.6) 現存高4.1	南西寄フ ク土	体部以下を欠く。内面にハケ目状の調整痕がある。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB107-3
2	甕 須恵器	体部片		南西隅フ ク土	タタキを施した後、内外面とも丁寧にナデを施す。内面の当て具痕は無文か。	①砂粒を含む②還元③オ リーブ灰色④TAYB107-4

田端地区B区第109号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	底部片	現存高3.7 高台 (8.6) ……	南西隅貯 蔵穴直上	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.3cmで「ハ」字状に開く。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③に ぶい黄橙色④TAYB109-1
2	高台付碗 須恵器	底部片	…… 現存高3.1 高台 (6.4)	南西隅床 面	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内面はロクロナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB109-9
3	羽 須恵器	1/6	口径(22.0) 器高 26.0 底径 (8.0)	カマド前 床面	鈔は断面三角形を呈する。内面はロクロナデ、外面の上半はロクロナデ、下半はヘラケズリを施す。2次火熱を受けており、煤の付着も認められる。	①小石・白色粒を含む②還 元③にぶい黄橙色 ④TAYB109-4、深さ25.2
4	羽 須恵器	1/2	口径(22.8) 器高 28.6 底径 (8.7)	中央北寄 床面	鈔は仕上げが雑で端部は上下に波を打つ。内面はナデ、体部外面の上半はナデ、下半はヘラケズリを施す。	①砂粒を多量に含む②酸化 ③にぶい橙色 ④TAYB109-3、深さ28.7

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	甕 土師器	口縁部 小片	口径(26.2) 現存高18.6 ……	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。口縁部は丸味をもって外反し、体部にやや丸味をもつ。体部の内面は丁寧なナデ、外面は雑なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB109-5
6	甕 土師器	底部小 片	…… 現存高5.3 底径(12.2)	北西隅床 直上	体部以上を欠く。外面の底部周縁はヘラケズリを施し、外底は無調整である。	①砂粒を多量に含む②還元気味の酸化③灰褐色④TAYB109-7
7	甕 土師器	底部片	…… 現存高5.6 底径(11.5)	カマド底 面	体部上半以上を欠く。内底はナデを施し、外底は砂が付着し、無調整である。2次火熱を受けている。煤付着。	①砂粒を多く含む②酸化③黒褐色④TAYB109-2
8	砥石?	略完		カマド北 袖石	表面がくぼむほど使用されている。感触はツルツルである。カマド袖石に転用されていた。石質はれい岩④TAYB109-10	

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要			
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板刷取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消	
									凹面	凸面									凹面	凸面
9	1502	109住	平	2.2	密	微	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	I A 類被熱割れ ④TAYB109-6	

田端地区第110号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀須 恵器	完形	口径 13.0 器高 4.5 高台 6.4	貯蔵穴底 面直上	口縁部の一部に焼成前の歪みをもつ。外底は右回転糸切り後、高台を雑に貼付ける。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB110-4、深さ3.5
2	高台付 椀須 恵器	一部欠	口径 13.6 器高 4.8 高台 7.1	貯蔵穴内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部はかるく外反する。内底～体部は立ち上がり角度が大きい。	①白色粒・砂粒を含む②還元③灰色④TAYB110-5、深さ3.8
3	高台付 椀須 恵器	⅔	口径(13.8) 器高 4.8 高台 6.6	貯蔵穴西 ピット	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部はかるく外反する。内底中央は凸である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB110-7、深さ3.6
4	高台付 椀須 恵器	½	口径(13.8) 器高 4.6 高台 (7.6)	貯蔵穴内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部外面のロクロナデ痕は雑である。内底中央は凹む。器表の摩滅著しい。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色④TAYB110-9、深さ3.8
5	椀 須 恵器	⅓	口径(14.0) 現存高4.5 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。口縁部は強く外反する。内外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色④TAYB110-3
6	高台付 椀須 恵器	底部片	現存高2.2 高台 6.2	貯蔵穴内	体部以上を欠く。外面の高台～体部のクビレは滑らかに移行する。	①砂粒を含む②還元③浅黄色④TAYB110-38
7	高台付 椀須 恵器	⅔	口径(14.9) 器高 5.8 高台 7.7	貯蔵穴底 面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.7cmあり、「ハ」字状に開く。体部は直線的に開き、口縁部はかるく外反する。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB110-8、深さ3.6

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
8	皿 灰釉陶器	口縁部 小片	口径(14.8) 現存高3.2	貯蔵穴内	体部下半以下を欠く。口縁部はかるく外反する。外面の体部下半は釉なし。	①精良②還元③オリーブ灰色④TA¥B110-31
9	砥石	一部折レ		南西隅寄 フク土	全長9.5cm、最大幅5.0cm、厚さ0.7~2.3cmが遺存する。両側面も使用している。表面のキズは新しいもの。石質流紋岩(砥沢?)	④TA¥B110-33
10	土錘	完形		北西隅寄 床直上	長さ10.2cm、最大径4.3cm、孔径0.9cmを測る本遺跡最大のもの。両端部に平坦面をもち、表面にナデ痕、ワラ状圧痕を残す。現状の重さ148g	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B110-23
11	甗 須恵器	1/2	口径 32.5 現存高29.3	カマド前 床直上	体部にふくらみがなく、口縁部は直立する。口唇部は須恵器甗のように下方に突出する。底部端を欠く。内面はナデ、外面はヨコナデを丁寧に施す。底部から5cmほど上方の内面に、外面側に貫通しない穴が3ヶ所遺存する。穴間の距離は心車で5.5、6.8cmを測る。外面の底部寄りに口縁部を下にしたとき「成」と読めるヘラ書きの刻書がある。筆順は現在と同じである。	①砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B110-18
12	羽釜 須恵器	3/4	口径 18.3 現存高22.0	中央北東 寄床直上	底部を欠く。体部は直線的に開く。鏝径22.4cmを測る。内外面にロクロナデを施し、内面は黒色を呈する。	①砂粒・白色粒を含む②還元③灰褐色④TA¥B110-14
13	羽釜 須恵器	1/2	口径 19.2 器高 28.2 底径 (7.5)	カマド前 ~フク土 分散	歪み著しい。鏝径23.2cmを測る。鏝の断面は三角形を呈し、その上面は水平に近い。口唇部外端が突出する。体部内外面にロクロナデを施し、外面下半はさらにヘラケズリを加える。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TA¥B110-13
14	羽釜 須恵器	口縁部 ~体部	口径(19.8) 現存高15.7	中央北東 寄床面	体部下半以下を欠く。鏝は断面三角形を呈し、鏝径(24.4cm)を測る。内外面にロクロナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰黒色④TA¥B110-15
15	羽釜 土師質	体部 ~底部 片	現存高23.6 底径(15.3)	カマド前 床面	鏝以上を欠く。外面の上半はロクロナデを施し、下半はナデを施す。内面器表の剝落著しい。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TA¥B110-11

田端地区B区第111号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 8.7 器高 2.3 底径 4.4	南辺中央 壁際床直 上	全体に歪みをもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部に至る。2次火熱を受けて一部赤変している。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TA¥B111-1、深さ1.5
2	高台付 土師質	底部 現存高1.7 高台 6.3	カマド前 床面	体部以上を欠く。外面の体部と高台との接合部に工具による強いヨコナデを施す。切り離し不明。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TA¥B111-11
3	甗 須恵器	口縁部 小片	現存高5.2	北側中央 床面	頸部以下を欠く。口唇部は断面三角形を呈する。内外面にヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TA¥B111-13

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
4	1504	111住	平	1.8	密	微	締	暗灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類2種粘土混 ④TAYB111-4
5	1503	111住	平	2.4	密	微	硬	赤褐	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	なし	なし	被熱割1A類 ④TAYB111-3
6	1505	111住	平	2.2	密	含	軟	赤褐	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB111-5
7	1506	111住	平	2.6	密	微	軟	淡赤	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	部分	なし	なし	1A類被熱 ④TAYB111-6

田端地区B区第112号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	完形	口径 9.0 器高 2.1 底径 3.9	カマド底 面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部にやや丸味をもつ。内外面ともロクロナデを施す。口縁部の内外面に煤が付着している。	①砂粒を多く含む②酸化 ③浅黄橙色 ④TAYB112-2、深さ1.8
2	杯 土師質	1/2	口径(10.2) 器高 2.7 底径 5.5	南西隅	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開く。内底中央はわずかに凸である。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③浅褐色 ④TAYB112-3、深さ2.1
3	高台付椀 灰釉陶器	完形	口径 9.1 器高 3.4 高台 5.0	カマド底 面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外底は丸味をもつ。内外面に灰釉が掛かる。内底に付着物が残る。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB112-1、深さ2.3
4	土 錘	1/2		カマド煙 道天井石の 間	長さ3.5cmが遺存する。外径1.6cm、孔径0.4cm。割れ口は灰色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③灰黒色 ④TAYB112-17
5	脚? 土製	小片		カマド燃 焼部北壁 際	本体を欠く。猫足状を呈し、先端部は3つに別れている。先端部欠。本体不明。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③灰黒色 ④TAYB112-19
6	甕 土師質	底部片	…… 現存高16.6 ……	カマド内	体部中位以上を欠く。平底。内面はナデ、外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい黄褐色 ④TAYB112-26
7	羽 土師質	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高19.8 ……	カマド内	体部中位以下を欠く。鏝の仕上げは雑である。内外面凹凸が著しく、外面はヘラケズリの後、雑なナデを施す。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰褐色④TAYB112-8
8	甕 土師質	口縁部 小片	口径(21.3) 現存高6.8 ……	カマド前 床面	体部以下を欠く。口縁部はゆるく外反する。全体に厚手で、体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。頸部内面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を多く含む②酸化、 硬質③浅黄褐色 ④TAYB112-6

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
9	1445	112住	平	2.1	密	含	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB112-11
10	1446	112住	平	1.9	密	含	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB112-13
11	1447	112住	平	1.5	密	含	硬	灰	なし	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	なし	なし	1B類 ④TAYB112-14

遺物観察表

田端地区B区第113号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	%	口径 14.0 器高 5.3 高台 7.0	貯蔵穴底 面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。体部外面はロクロナデ痕を残す。内底に重ね焼き痕がある。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB113-4、深さ3.9
2	高台付椀 須恵器	%	口径(13.3) 現存高5.1 底径 5.8	南辺中央 壁際床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は剥離している。体部は直線的に開き、口縁部に至る。内底に煤が付着している。内外面ともロクロナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB113-2、深さ4.4
3	高台付椀 須恵器	底部	現存高1.8 高台 6.8	中央床面	体部以上を欠く。内外面とも器表が摩滅し、調整等不明。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③オリーブ灰色④TAYB113-17
4	杯 土師器	口縁部 小片	口径(12.1) 現存高3.2	貯蔵穴内	底部を欠く。底部と体部との境の部分が遺存し、平底である。体部は直線的に開く。	①砂粒を多く含む②酸化③赤褐色④TAYB113-3
5	高台付皿 須恵器	%	口径 14.0 器高 3.5 高台 7.1	貯蔵穴 内・カマ ド内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部にやや丸味をもち、口縁部は強く外反する。口唇部は肥厚して玉縁状を呈する。	①砂粒・小石を含む②還元③灰黄褐色④TAYB113-6、深さ2.2
6	高台付皿 須恵器	%	口径 14.5 現存高2.6 底径 6.5	カマド 内・フク 土	高台を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は水平まで開く。口縁部は玉縁状を呈する。体部下半の外面に、釘で書いたような刻みがある。田・甲用のどれかと考えられる。内外面に煤付着。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色④TAYB113-5、深さ1.8
7	甕 土師器	口縁部 小片	口径 19.1 現存高6.0	貯蔵穴内	肩部以下を欠く。頸部は内傾して立ち上がり、口縁部に浅い凹線がある。「コ」字状にはならない。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB113-7
8	甕 土師器	口縁部 小片	口径(23.6) 現存高7.9	貯蔵穴内	肩部以下を欠く。頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は内湾気味に外反する。頸部外面に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB113-11
9	甕 土師器	口縁部 ～体部 片	口径(18.2) 現存高13.7	カマド前 南辺中央 壁際床面	底部を欠く。肩部に丸味があり、頸部はほぼ直に立ち上がる。頸部に明瞭な内稜がある。頸部内面の調整はハケメ状。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TAYB113-8
10	甕 須恵器	口縁部 ～体部 片 現存高18.7	南辺中央 壁際床面	底部を欠く。広口か。体部上半の内外面はロクロナデ、下半はナデを施す。口縁部外面は下方に突出する。	①白色小粒を含む②還元③灰色④TAYB113-13
11	甕 須恵器	口縁部 ～体部 片	口径 32.6 現存高11.0	カマド前 床面	頸以下を欠く。口縁部はゆるく外反し、口唇部は上下に発達する。口唇部外面はくぼむ。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③にぶい黄褐色④TAYB113-14
12	甕 須恵器	体部片	現存高9.5	フク土	口縁部・体部下半以下を欠く。頸は断面台形を呈する。内外面丁寧なロクロナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYB113-24
13	甕 須恵器	口縁部 小片 現存高5.1	カマド前 左脇床直 上	頸部以下を欠く。歪みが大きい。口縁部外面は丸くくぼむ。壺の口縁部か。	①白色小粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB113-20
14	甕 須恵器	底部片	現存高7.4 底径(19.5)	中央南西 寄床直上	底部と体部の接合部がとくに厚い。体部外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①白色小粒を含む②還元③灰色④TAYB113-22

田端地区B区第114号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 %	口径(13.4) 現存高2.0 ……	カマド内	底部を欠く。口縁部は直立気味で、やや外傾する。外底はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB114-7
2	甕 土師器	口縁部 %	口径(19.4) 現存高7.6 ……	東西南寄 壁際床直上	体部以下を欠く。口縁部はゆるい「く」字状を呈する。肩部の外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB114-2
3	甕 土師器	口縁部 %	口径(24.0) 現存高11.7 ……	東西南寄 壁際床面	体部下半以下を欠く。口縁部は「く」字状を呈する。口縁部は指頭オサエの後、ヨコナデを施す。体部外面は斜め方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB114-3
4	甕 土師器	口縁部 %	口径(23.4) 現存高7.2 ……	東西南寄 壁際床面	体部以下を欠く。口縁部に歪みをもつ。口縁部は「く」字状を呈する。体部外面は斜め方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB114-4

田端地区B区第115号住居跡出土遺物観察表

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取 凹面 凸面	一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消 凹面 凸面	側部 面取
1	1448	115住	平	1.7	密	含	硬	淡黄	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB115-1
2	1450	115住	平	2.6	密	含	軟	淡黄	○	なし		○	○	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB115-3
3	1449	115住	平	1.9	密	含	締	暗赤	○	なし		○	○	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB115-2

田端地区B区第116号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 小片	口径(8.2) 現存高1.7 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。口縁部は直線的に開き、体部との境ににぶい稜線をもつ。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB116-43
2	杯 土師質	略完	口径 9.8 器高 3.2 底径 5.2	北西隅床 面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部に丸味があり、口縁部との境に稜線をもつ。口縁部はかるく外反する。内面は黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB116-1、深さ2.6
3	高台付碗 土師質	底部	…… 現存高2.4 高台 7.9	貯蔵穴内	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.4cmあり、「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB116-44
4	高台付碗 黒色土器	½	口径 14.6 器高 5.7 高台 6.8	北辺寄中 央床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は丸味をもって開き、口縁部は外反する。内面は研磨後、黒色処理を施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB116-3、深さ4.4
5	壺 灰釉陶器	口頸部 小片	現存高 2.8 ……	貯蔵穴内	口縁部・体部以下を欠く。ミニチュアの可能性あり。外面に薄く釉がかかる。	①精良②還元③灰色④TAYB116-34

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	甗 土師質	底部 1/4	…… 現存高6.0 底径 22.5	北西隅床 面	体部以上を欠く。単孔の蒸気孔をもつ。体部下端に3個の径1cmの孔と、3孔分の痕跡がある。底部は「く」字状に外反する。仕上げは雑である。	①砂粒を多く含む②酸化気味の還元③にぶい黄橙色④TAYB116-7
7	甗 土師器	口縁部 小片	現存高8.4 ……	貯蔵穴内	体部以下を欠く。口縁部は短く、直立気味にかかるく外反する。内外面ともナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB116-5
11	砥石	略完		北辺中央 壁際床面	分銅形を呈する。3面を使用しており、1側面は最も使われて中央がくぼむ。偏平な両面には金属品でつけたような鋭い線が引かれている。石質流紋岩(砥沢?)。④TAYB116-35	
12	砥石	略完		北辺中央 壁際床面	4面を使用している。縦断面は三角形を呈する。石質流紋岩(砥沢?)。④TAYB116-36	

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土				焼成					成形技法					整形技法			摘 要			
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取					
									凹面	凸面								凹面	凸面						
8	1528	116住	丸	1.3	密	含	締	黒灰	なし	○				なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1A類自然釉 ④TAYB116-25
9	1526	116住	平	2.2	密	微	並	暗褐	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1A類被熱割れ ④TAYB116-8
10	1527	116住	平	2.2	密	含	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	2	1A類 ④TAYB116-10

田端地B区第118号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀須恵器	完形	口径 13.8 器高 5.4 高台 5.7	貯蔵穴底 面	口縁部が歪み、傾いている。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外端は接地しない。内底中央に焼成後の小穴がある。イブシ焼成。	①石粒を含む②還元③黒褐色④TAYB118-10、深さ4.2
2	高台付 椀須恵器	1/4	口径(14.9) 器高 5.5 高台 (8.3)	貯蔵穴内	内外面にロクロナデ痕を残す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB118-11
3	杯 須恵器	口縁部 小片	口径(12.0) 現存高3.9	貯蔵穴内	体部に丸味をもち、口縁部はゆるく外反する。器表は内外面とも摩滅著しい。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB118-15
4	甗 土師器	口縁部 ~体部 片	口径(20.0) 現存高6.5 ……	カマド内	口縁部は「く」字状に外反し、口唇部に浅い凹線をもつ。外面の頸部にはヨコナデ、体部はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TAYB118-13
5	甗 土師器	口縁部 ~体部 片	口径(21.4) 現存高7.6 ……	貯蔵穴底 面	頸部は丸味をもって立ち上がる。ゆるい「コ」字状の口縁部をもつ。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はクシ状工具のナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TAYB118-12
6	甗 土師器	口縁部 ~体部 片	口径(14.4) 現存高3.9 ……	カマド内	内面の体部と口縁部の境に稜をもつ。外面の器表は剥落している。	①砂粒を含む②酸化③茶色④TAYB118-16

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
7	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 片	口径(21.8) 現存高10.5 ……	カマド内	口唇部に平坦面をもち、外端は突出する。鏝直下から向うへラケズリを施す。鏝の端部は上・下に稜線をもつ。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B118-14

田端地区B区第120号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	底部片	…… 現存高1.7 高台 6.2	カマド内	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付。高台は断面方形で、しっかりしている。器表剥落のため調整不明。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にふい黄橙色 ④TA¥B120-3

写 真 图 版



田端地区A区 第2面 全景（東から）



1～3号溝（北から）



田端地区A区 1号住居跡(1) (西から)



同上(2)カマド



田端地区A区 2号住居跡(1)



田端地区B区 71km240m 付近 全景(1) (北西から)



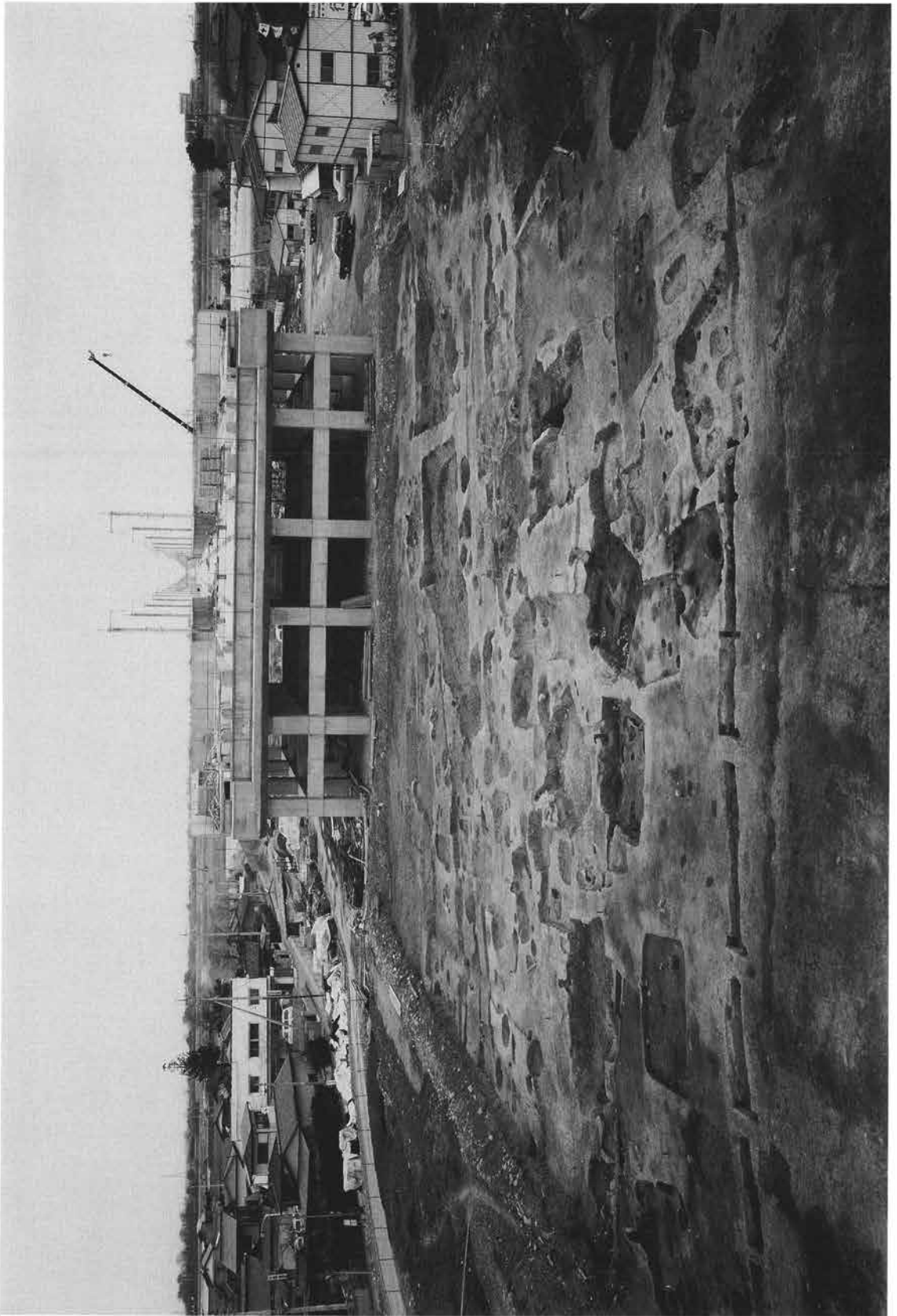
同上(2) (北から)



田端地区B区 71km240m付近 全景(3) (南西から)



71km250~290m付近 調査風景 (東から)



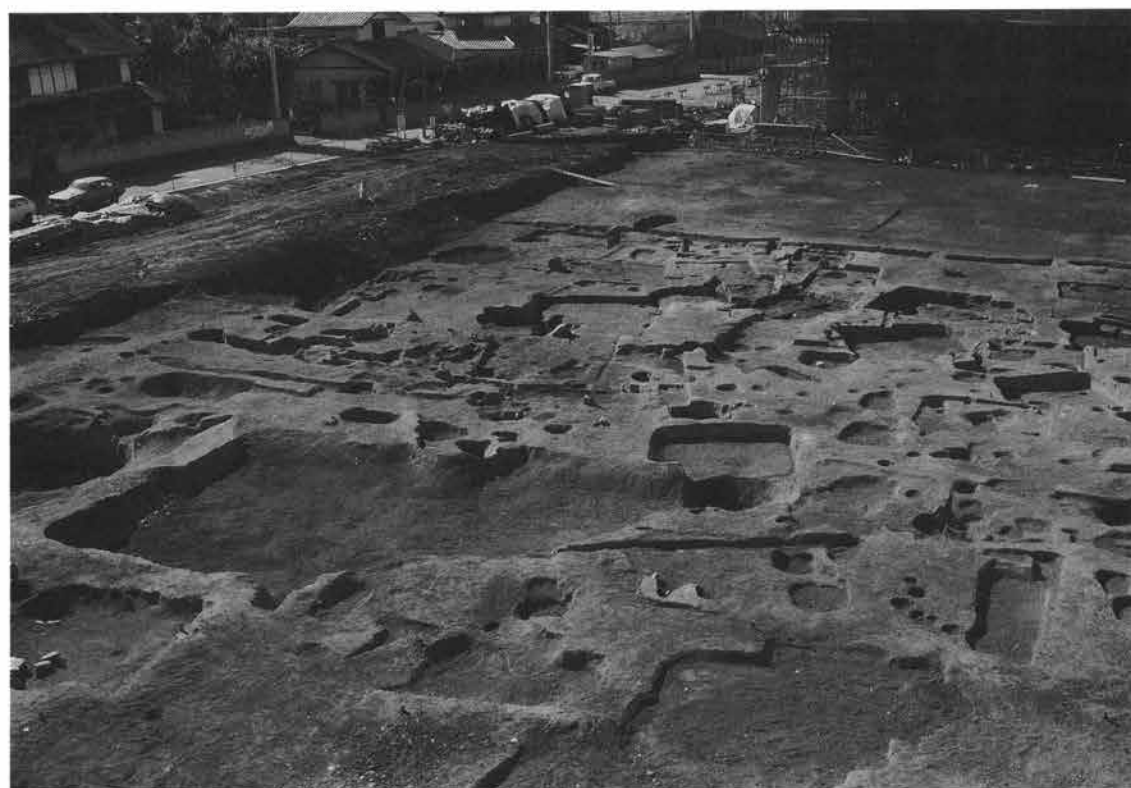
田端地区B区 71km250~290m 付近 (西から)



田端地区B区 71km250~290m 付近 (東から)



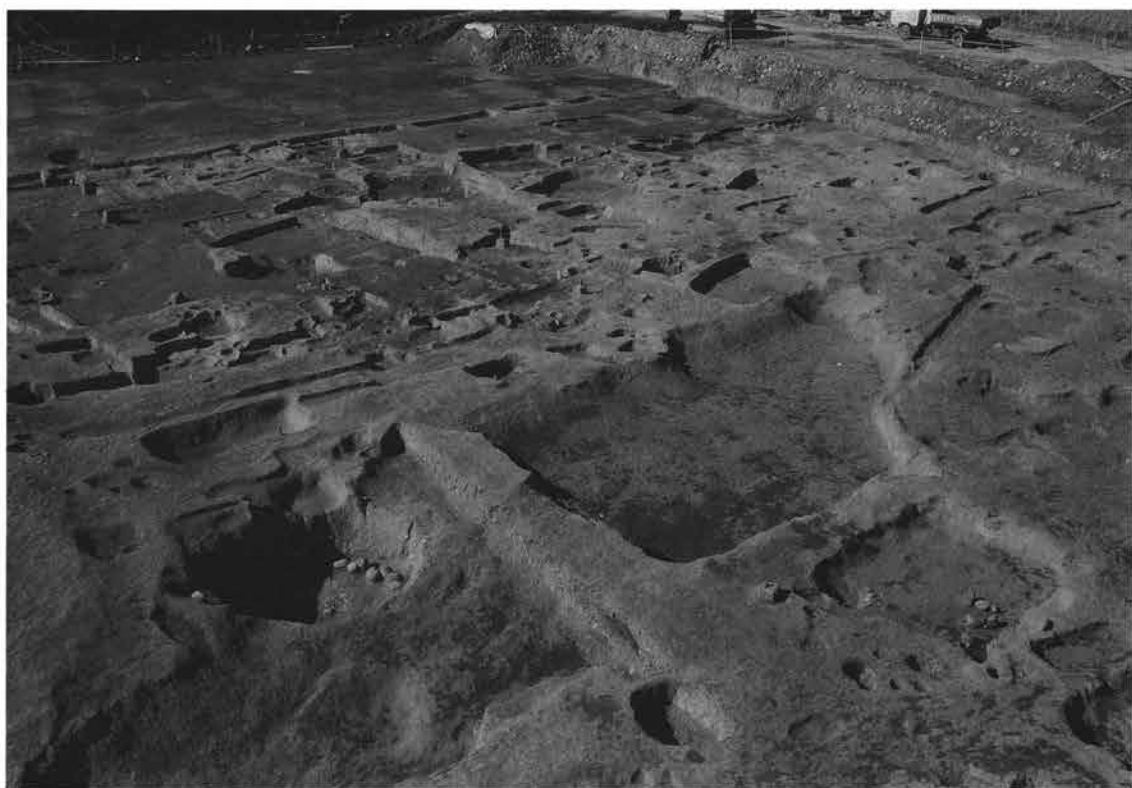
田端地区B区 71km250m 付近(1) (東から)



同上(2)



田端地区B区 71km250m 付近(3) (東から)



同上(4)



田端地区B区 71km250m 付近(1) (西から)



同上(2)



田端地区B区 71km285~315m 付近 (西から)



田端地区B区 71km285m 付近南側(1) (西から)



同上(2)



田端地区B区 71km285m 付近中央(1) (西から)



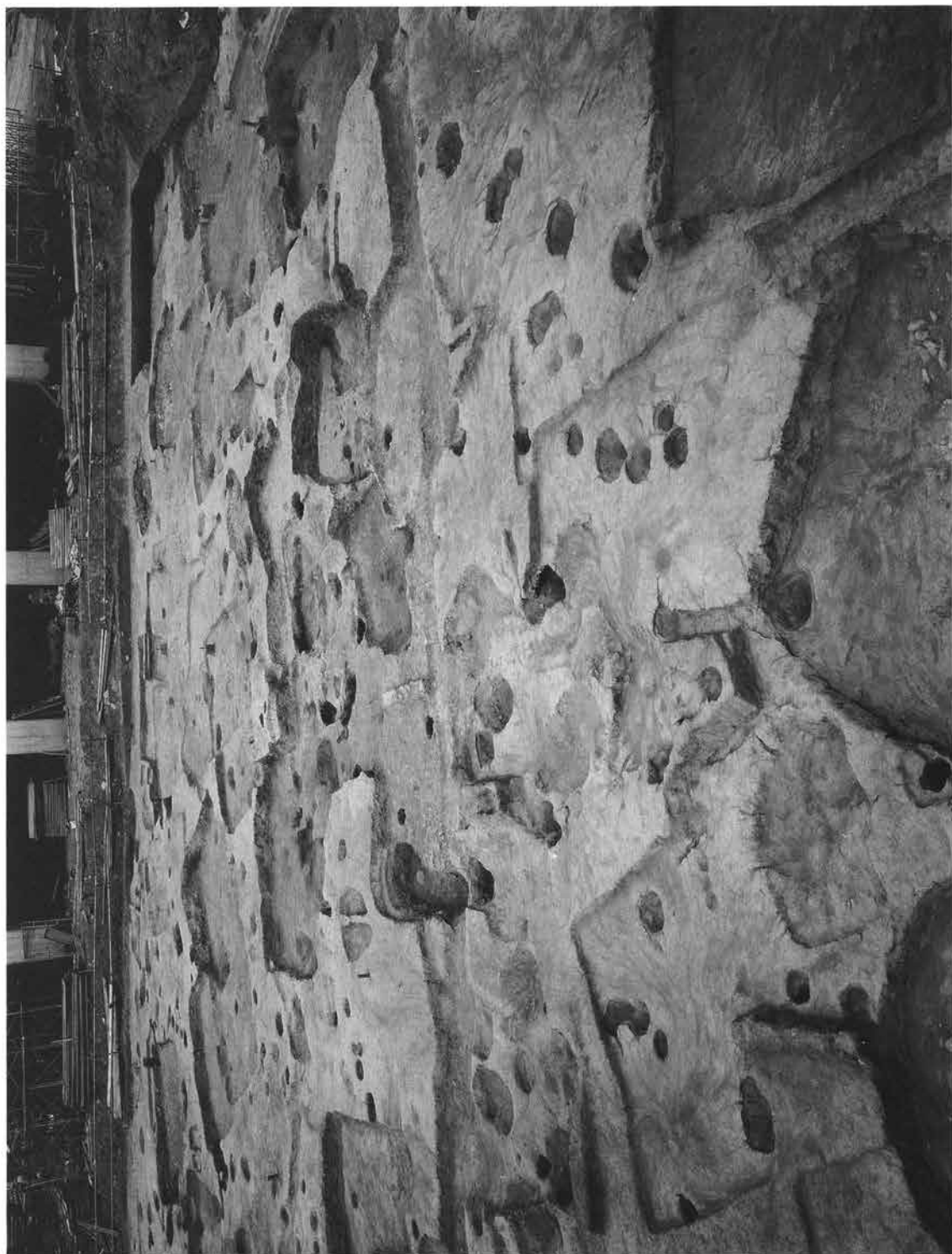
同上(2)



田端地区B区 71km285m 付近北側(1) (西から)



同上(2)



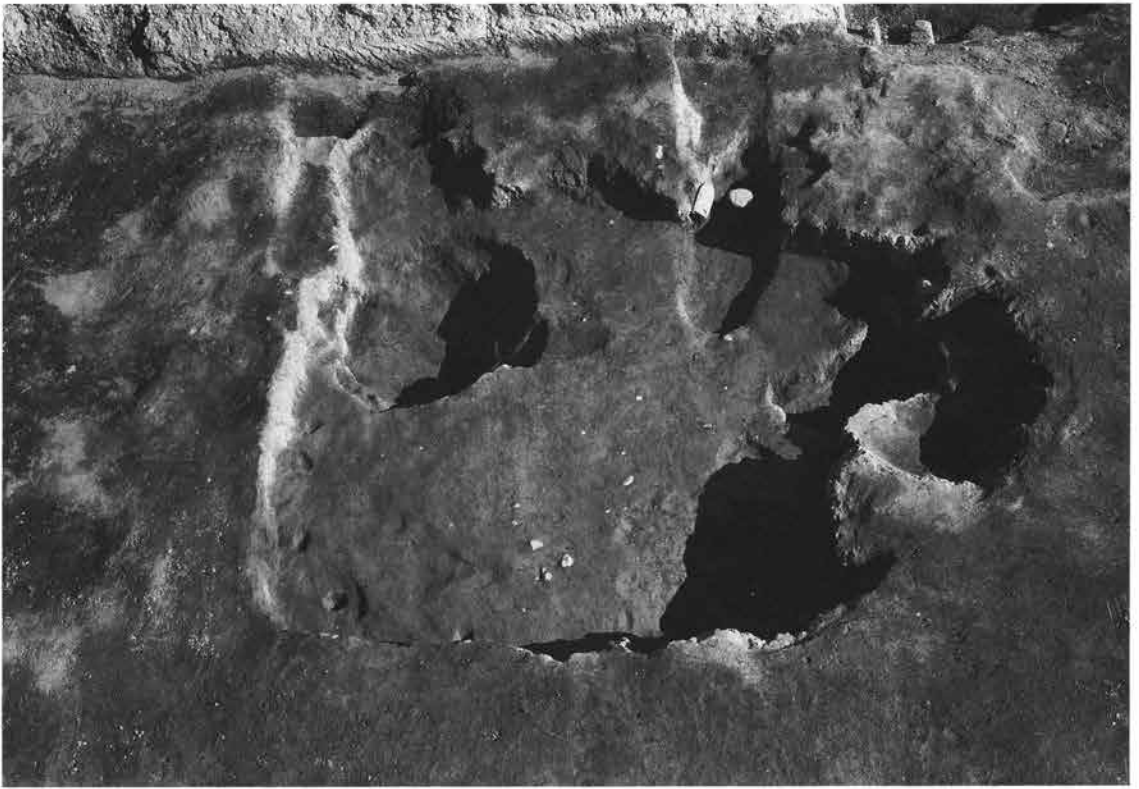
田端地区B区 71km285~315m (東から)



田端地区B区 71km285m 付近北側(1) (東から)



同上(2)



田端地区B区 2号住居跡（西から）



3号下土坑（西から）



田端地区B区 3号住居跡カマド（西から）



4A号住居跡



田端地区B区 4B号住居跡（西から）



5号住居跡（西から）



田端地区B区 6号住居跡（西から）



7A・7B号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 7A・7B号住居跡(2)



同上(3)



田端地区B区 9号住居跡 (西から)



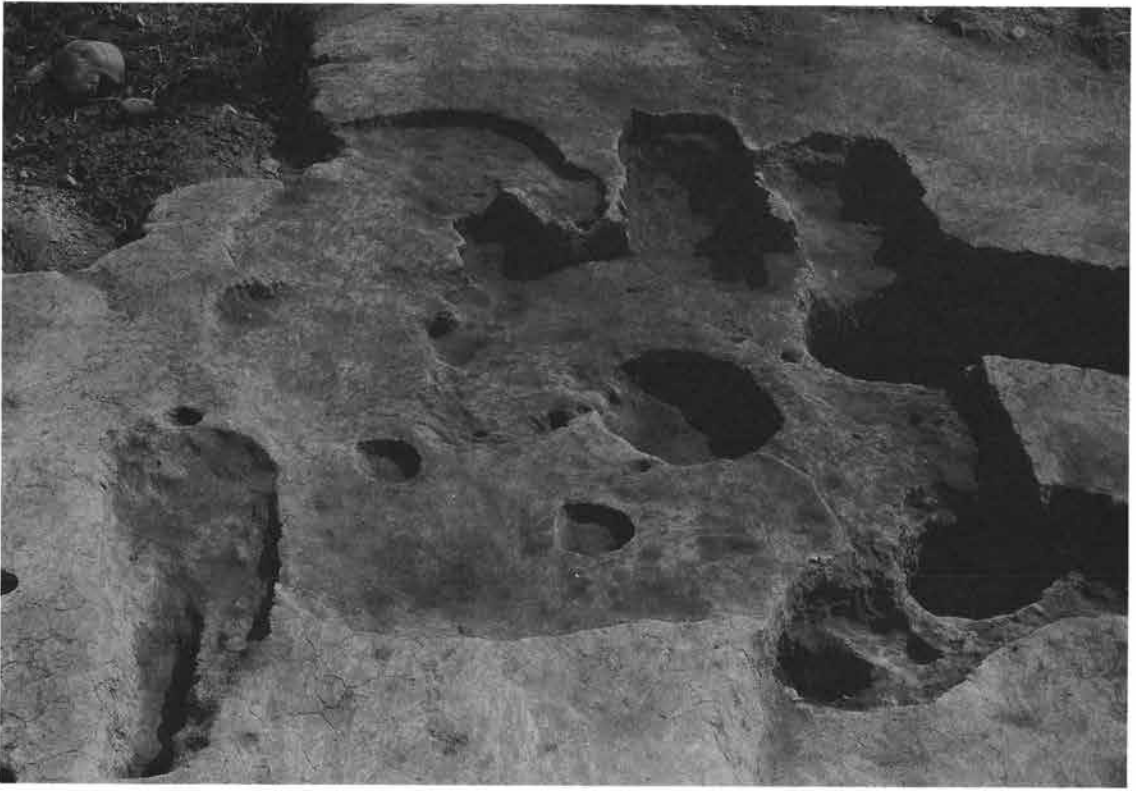
10号住居跡(1)カマド遺物出土状態



田端地区B区 10号住居跡(2) (西から)



同上(3)カマド



田端地区B区 11号住居跡（西から）



12号住居跡（西から）



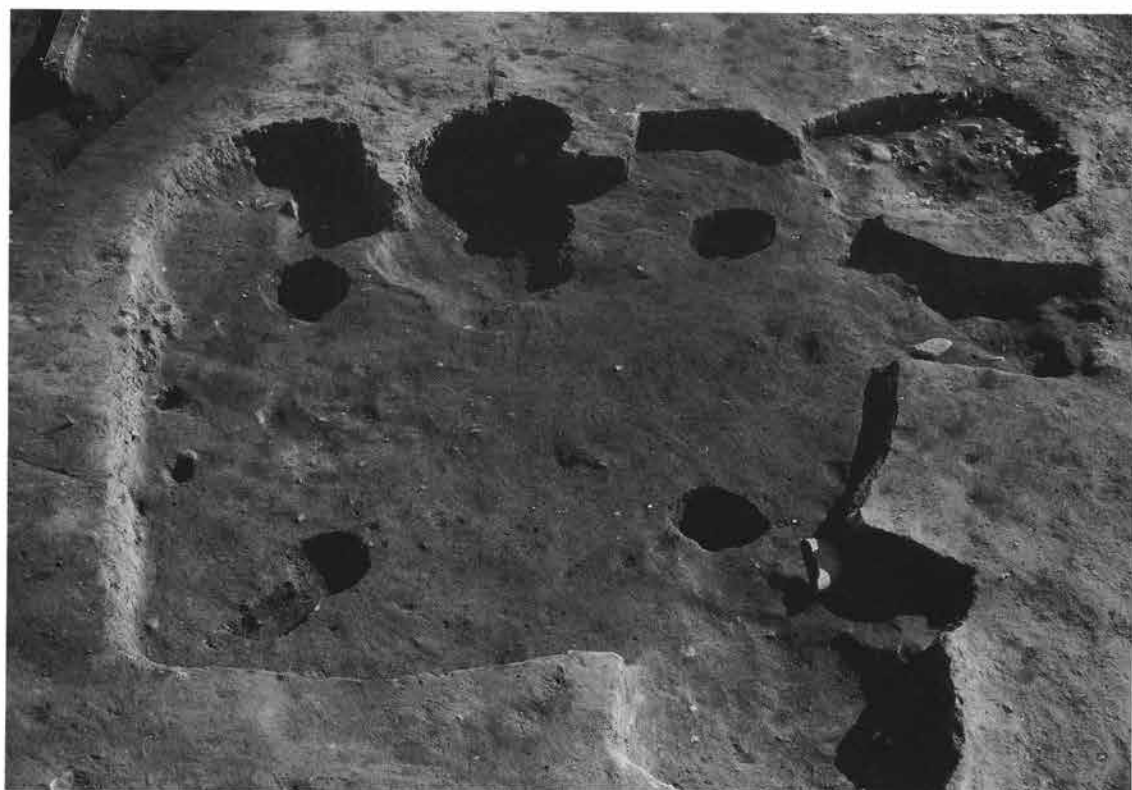
田端地区B区 13号住居跡（西から）



14・15号住居跡（西から）



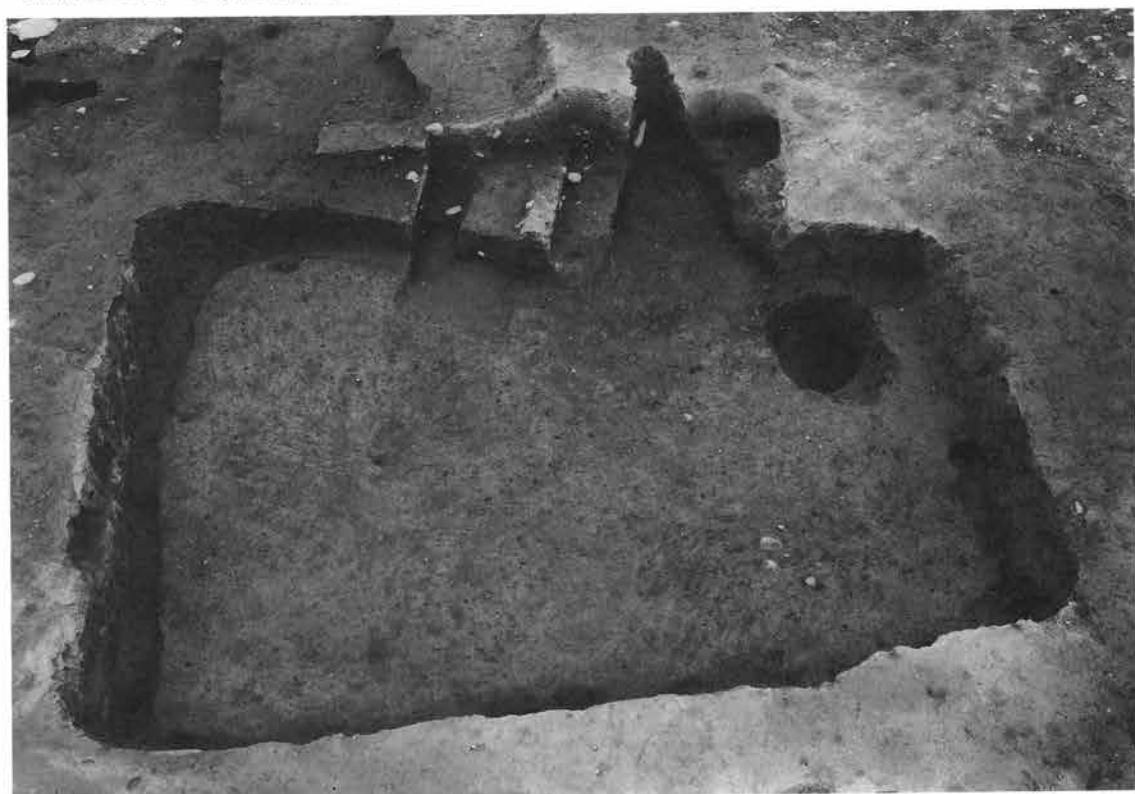
田端地区B区 16号住居跡（西から）



17号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 17号住居跡(2)カマド



19号住居跡（西から）



田端地区B区 20号住居跡（西から）



21号住居跡カマド（西から）



田端地区B区 22号住居跡（西から）



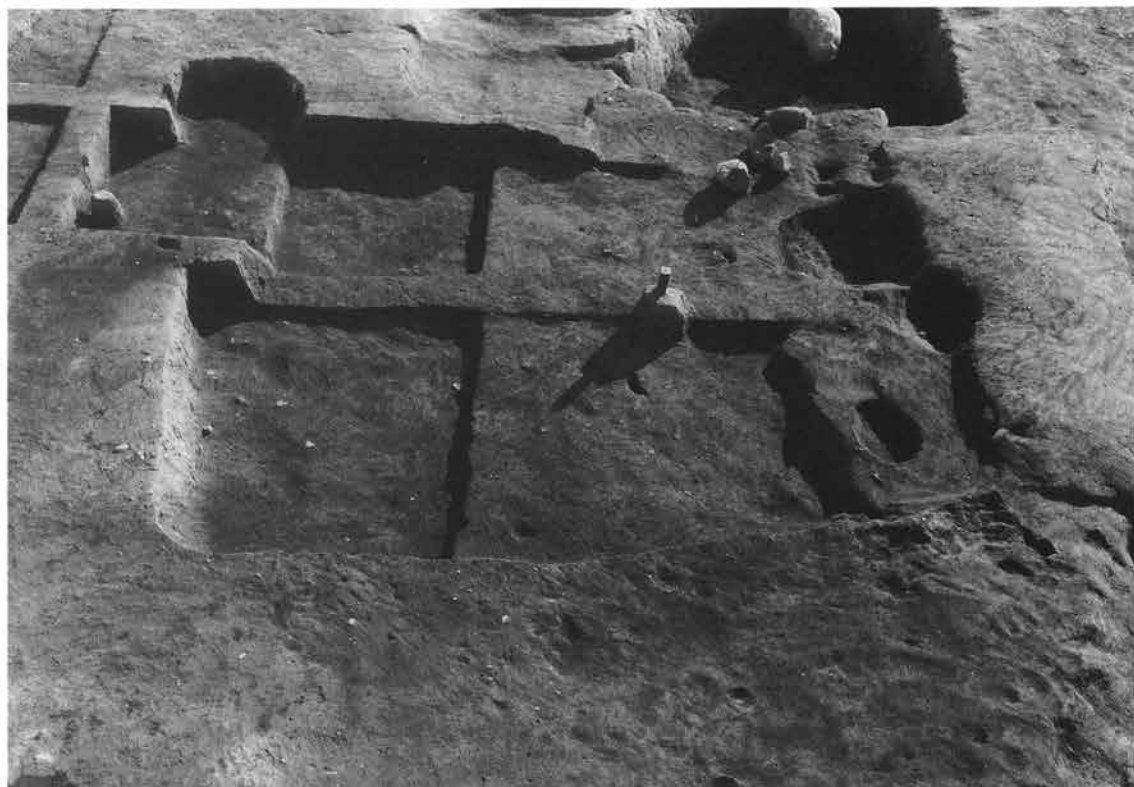
23号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 23号住居跡(2)カマド



24号住居跡（西から）



田端地区B区 25号住居跡（西から）



26号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 26号住居跡(2)カマド



27号住居跡 (西から)



田端地区B区 29(1)・31(1)号住居跡 (西から)



29号住居跡(2)カマド



田端地区B区 30号住居跡（西から）



31号住居跡(2)（南西から）



田端地区B区 32号住居跡(1) (西から)



同上(2)



田端地区B区 33号住居跡 (西から)



35号住居跡(1) (西から)



田端地区B区 35号住居跡(2)カマド前



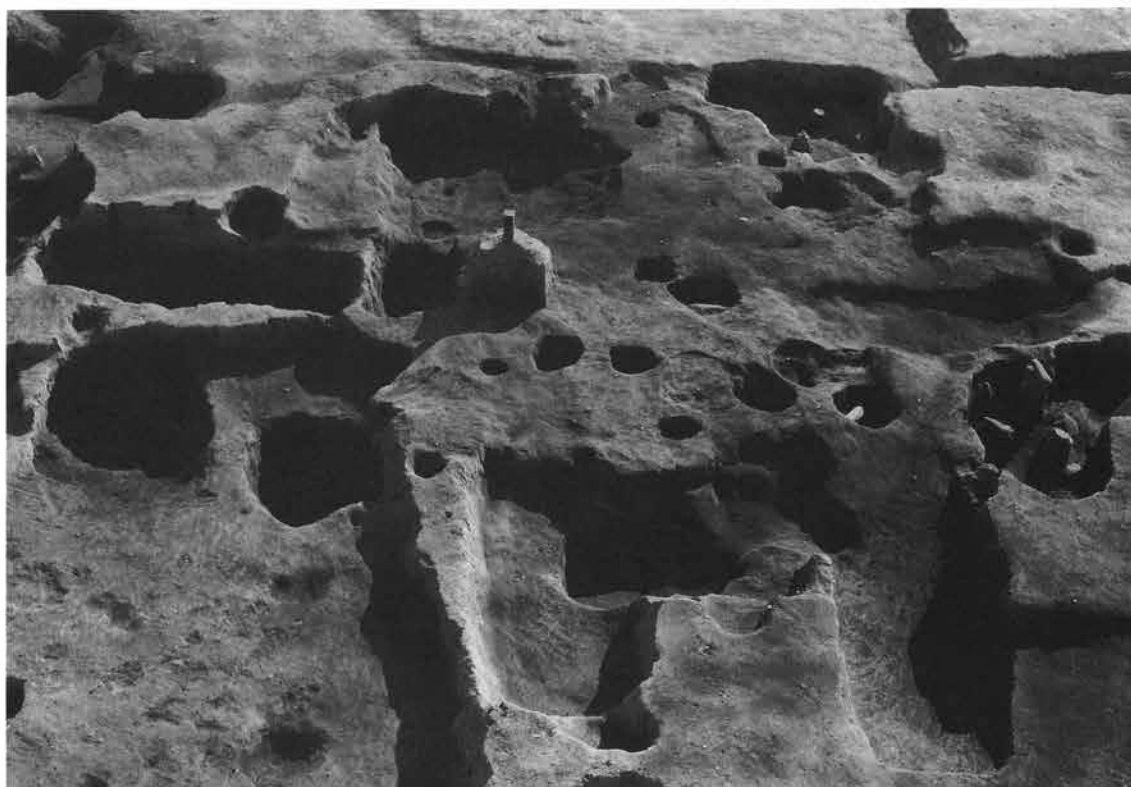
36号住居跡（西から）



田端地区B区 37号住居跡(1) (西から)



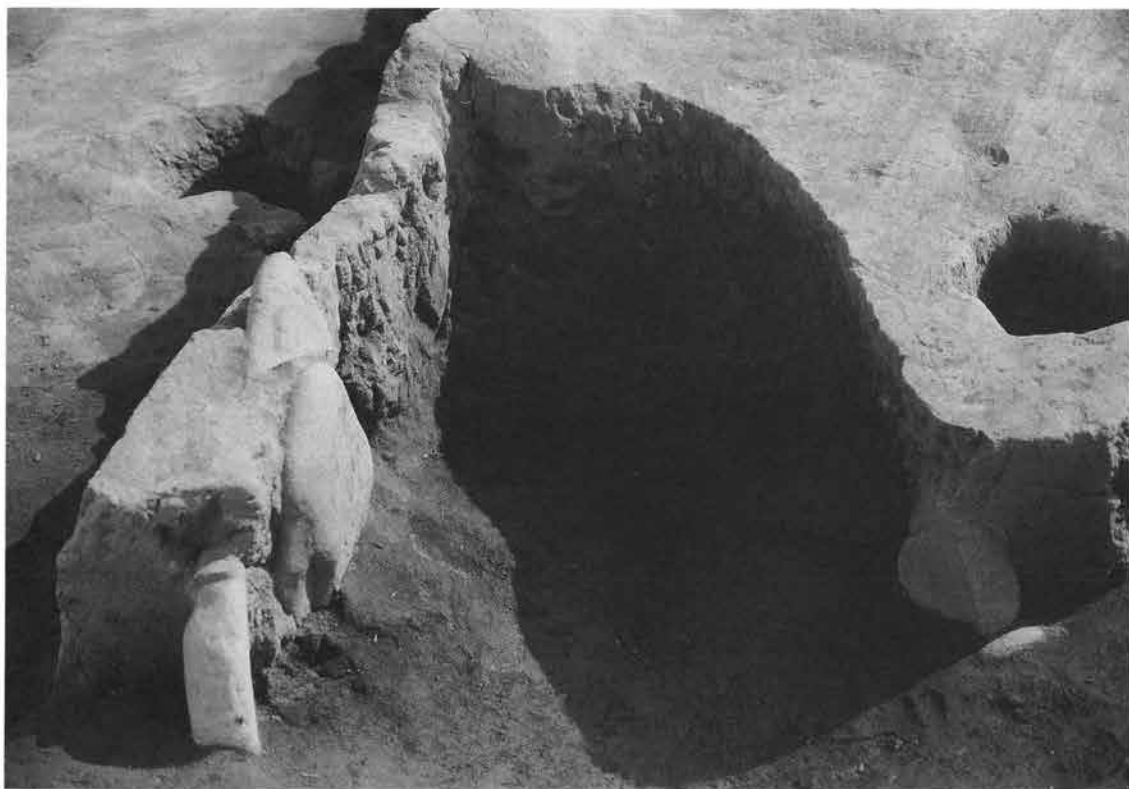
同上(2)カマド



田端地区B区 38号住居跡（西から）



40号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 40号住居跡(2)カマド



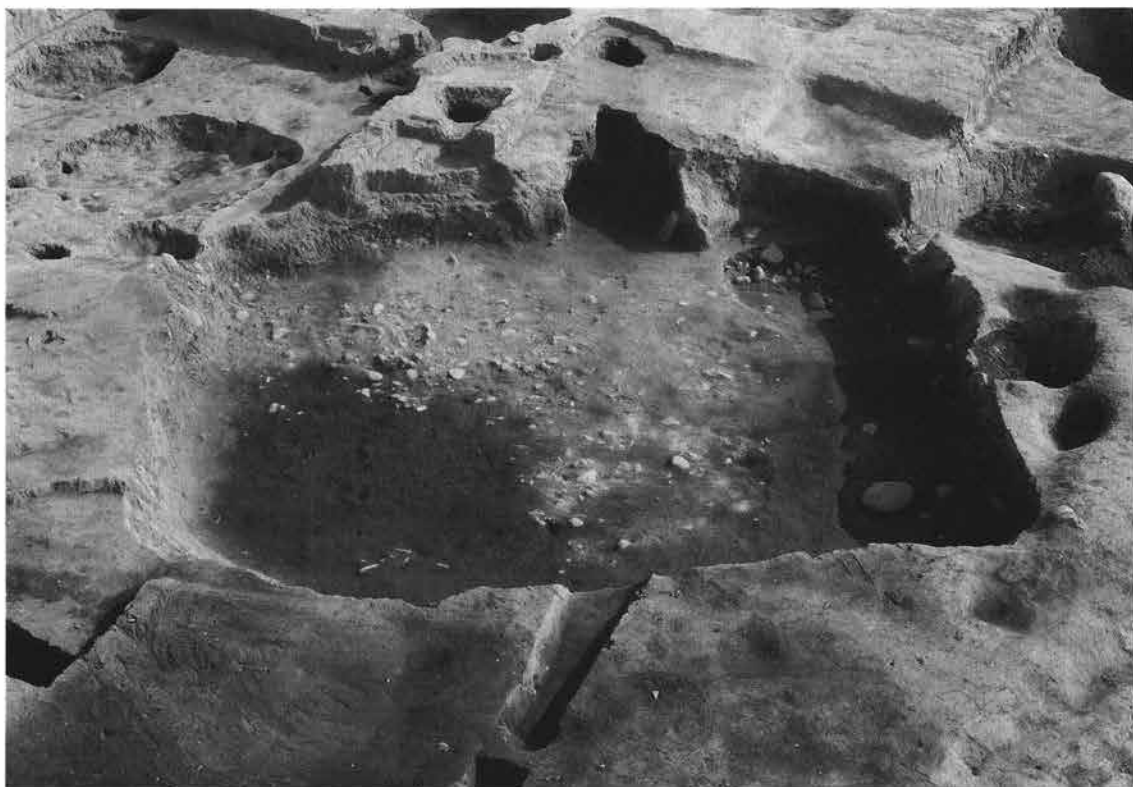
41号住居跡 (北から)



田端地区B区 43号住居跡（西から）



44号住居跡（西から）



田端地区B区 45号住居跡(1) (西から)



同上(2)カマド



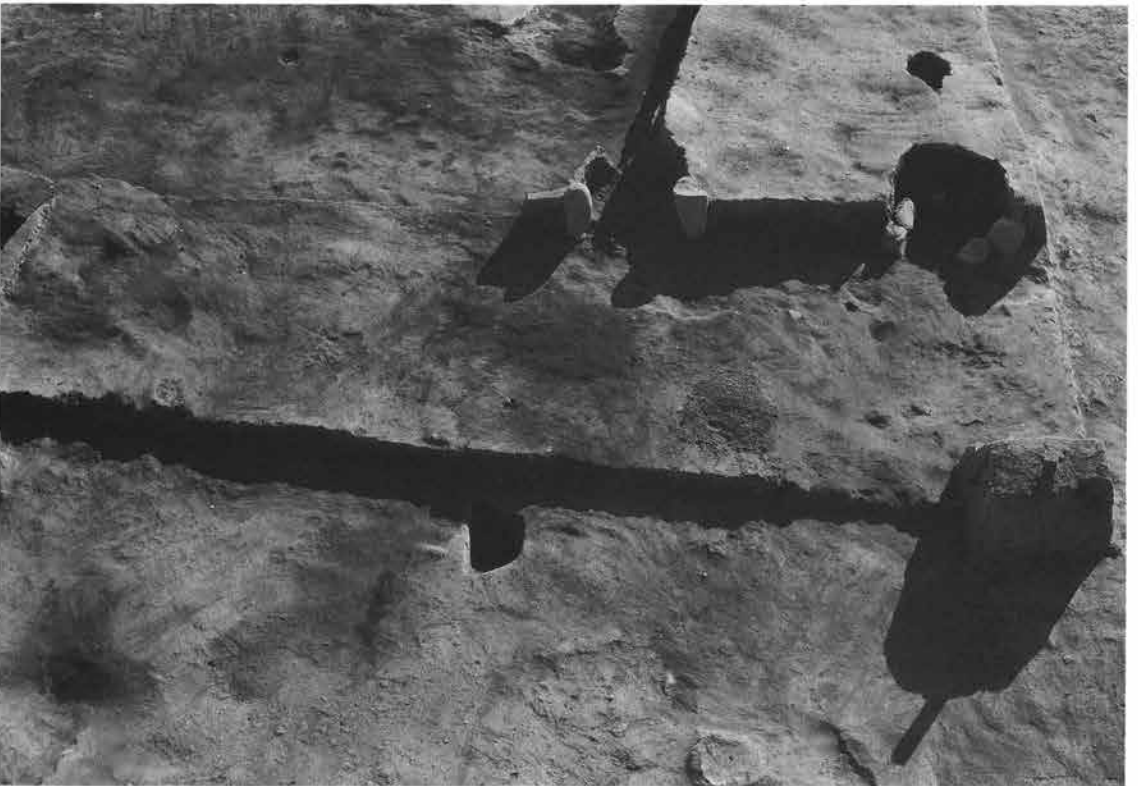
田端地区B区 46号住居跡（西から）



47号住居跡(1)（南西から）



田端地区B区 47号住居跡(2)カマド



48号住居跡(1) (西から)



田端地区B区 48号住居跡(2)Bカマド



同上(3)Aカマド



田端地区B区 52号住居跡（南西から）



53号住居跡（南西から）



田端地区B区 54号住居跡カマド



55号住居跡(1) (西から)



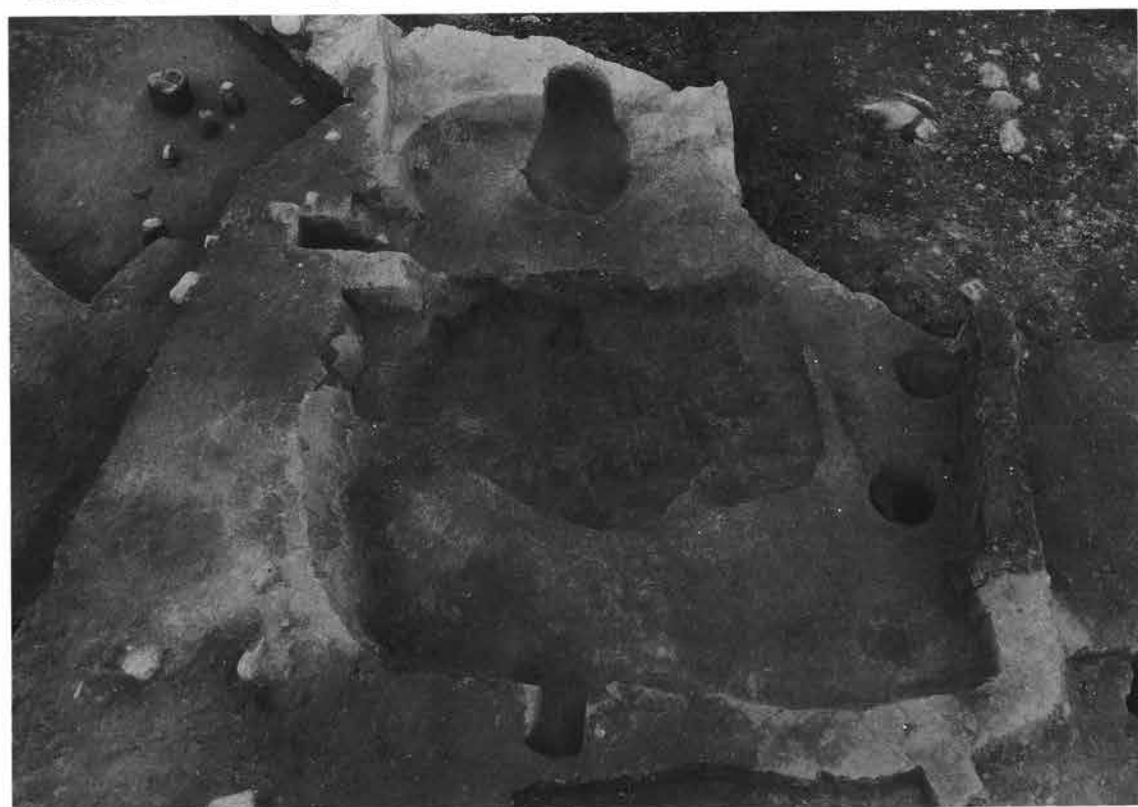
田端地区B区 55号住居跡(2)カマド



56号住居跡 (南から)



田端地区B区 57号住居跡 (西から)



59号住居跡 (西から)



田端地区B区 60号住居跡 (西から)



61号住居跡 (西から)



田端地区B区 62号住居跡(北西から)



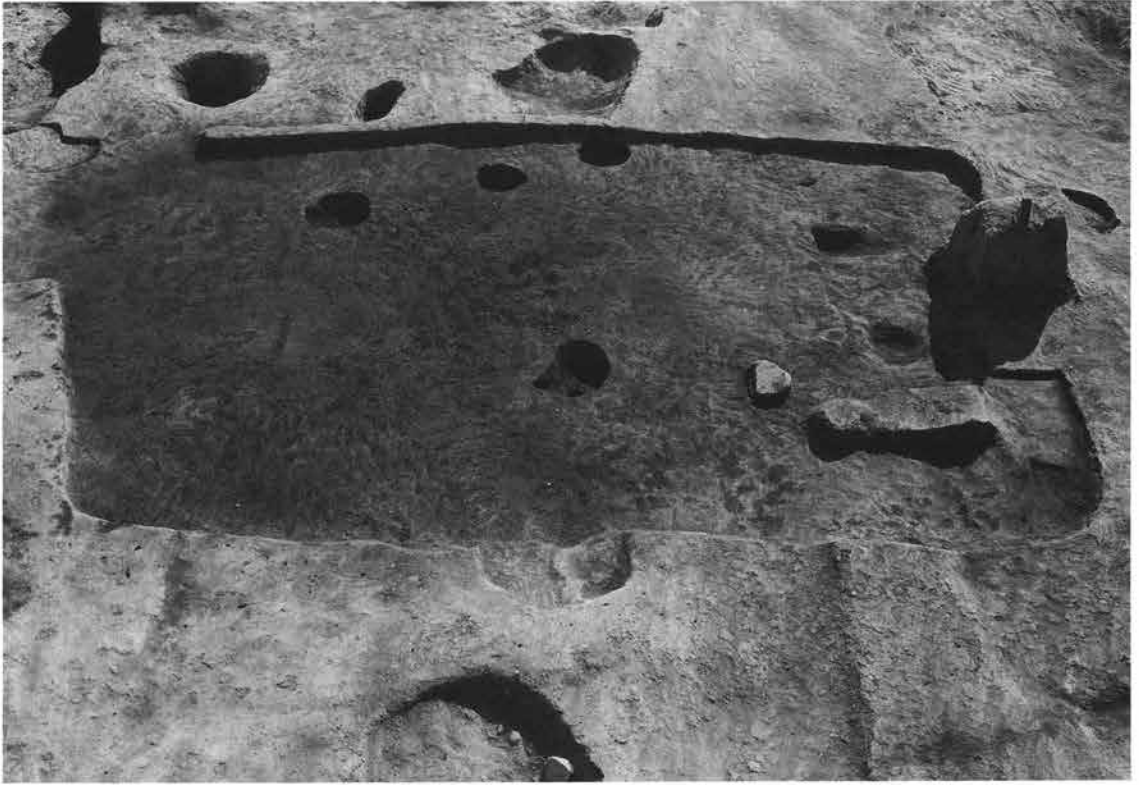
63号住居跡(1)(西から)



田端地区B区 63号住居跡(2)カマド



64号住居跡 (西から)



田端地区B区 65号住居跡(西から)



66号住居跡(1)(南西から)



田端地区B区 66号住居跡(2)カマド



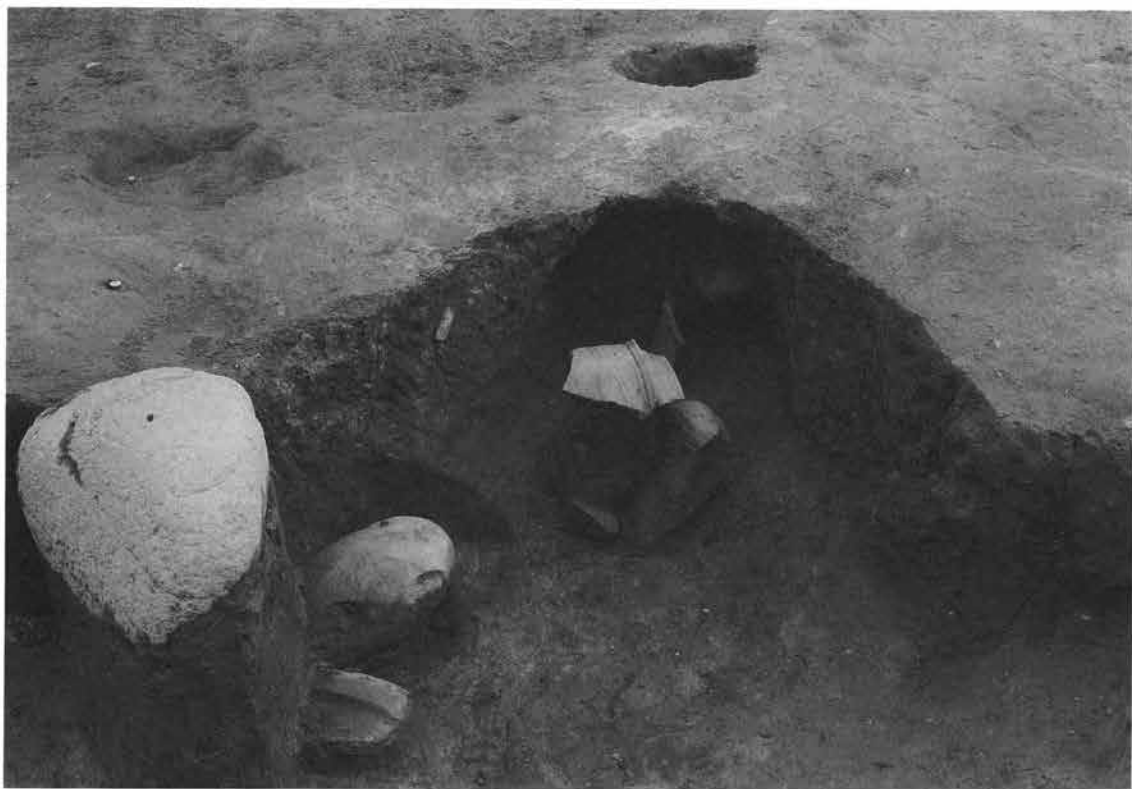
67号住居跡 (西から)



田端地区B区 68号住居跡 (西から)



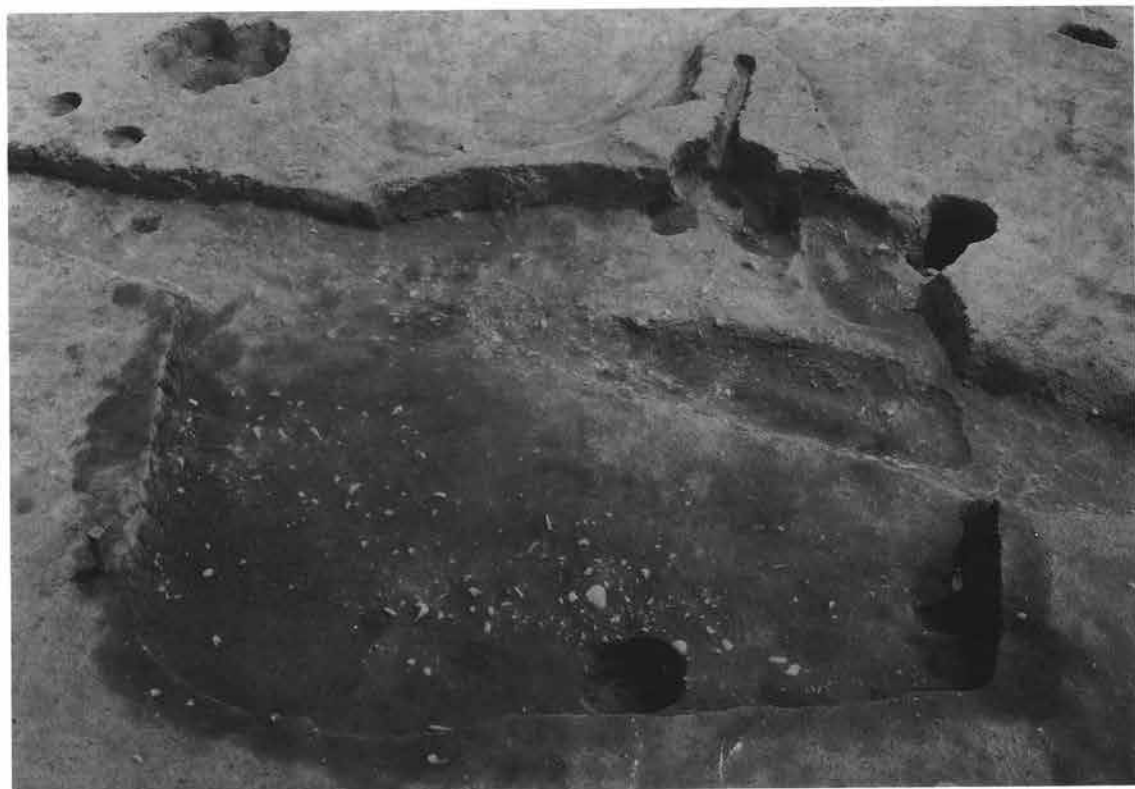
69号住居跡(1) (西から)



田端地区B区 69号住居跡(2)カマド



72号住居跡 (西から)



田端地区B区 71号住居跡(1) (南西から)



同上(2)カマド



田端地区B区 74号住居跡 (南西から)



77号住居跡 (南西から)



田端地区B区 78号住居跡 (西から)



80号住居跡(1) (北西から)



田端地区B区 80号住居跡(2)カマド



81号住居跡 (西から)



田端地区B区 87号住居跡（西から）



89号住居跡(1)（西から）



田端地区B区 89号住居跡(2)カマド



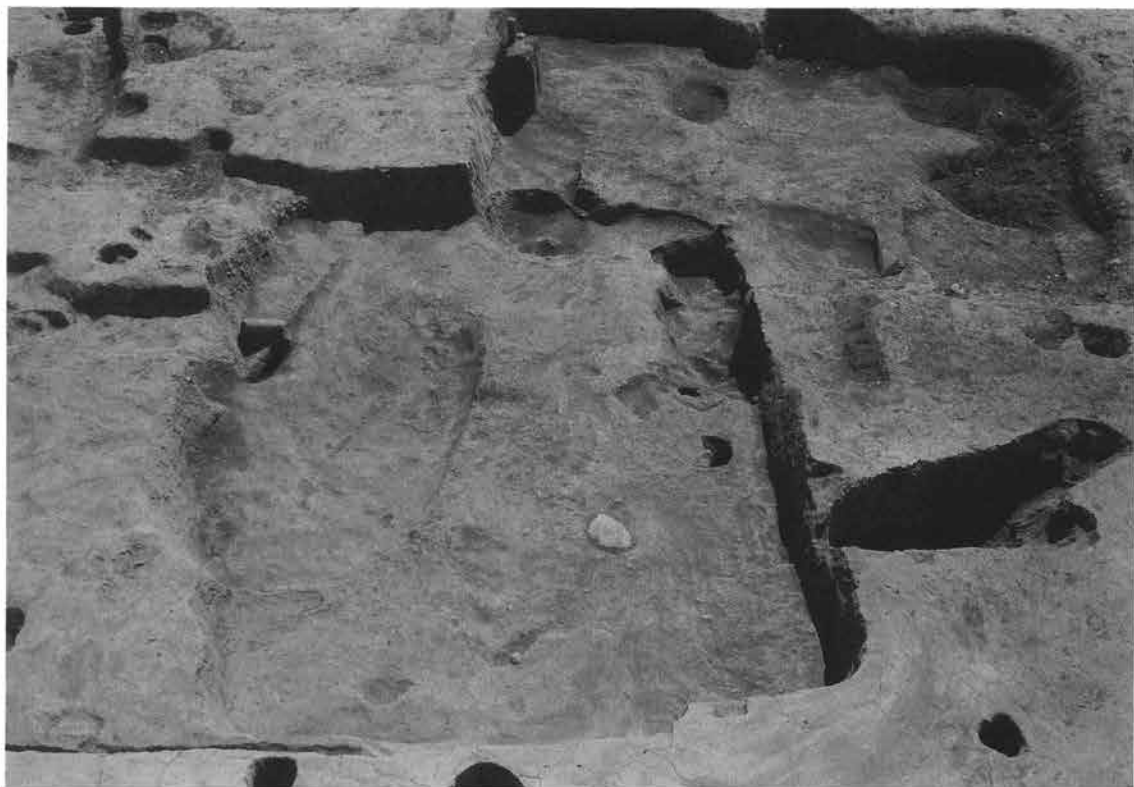
95号住居跡カマド(西から)



98号住居跡(1) (西から)



同上(2)カマド



田端地区B区 99号住居跡 (西から)



100号住居跡 (西から)



田端地区B区 101号住居跡 (南西から)



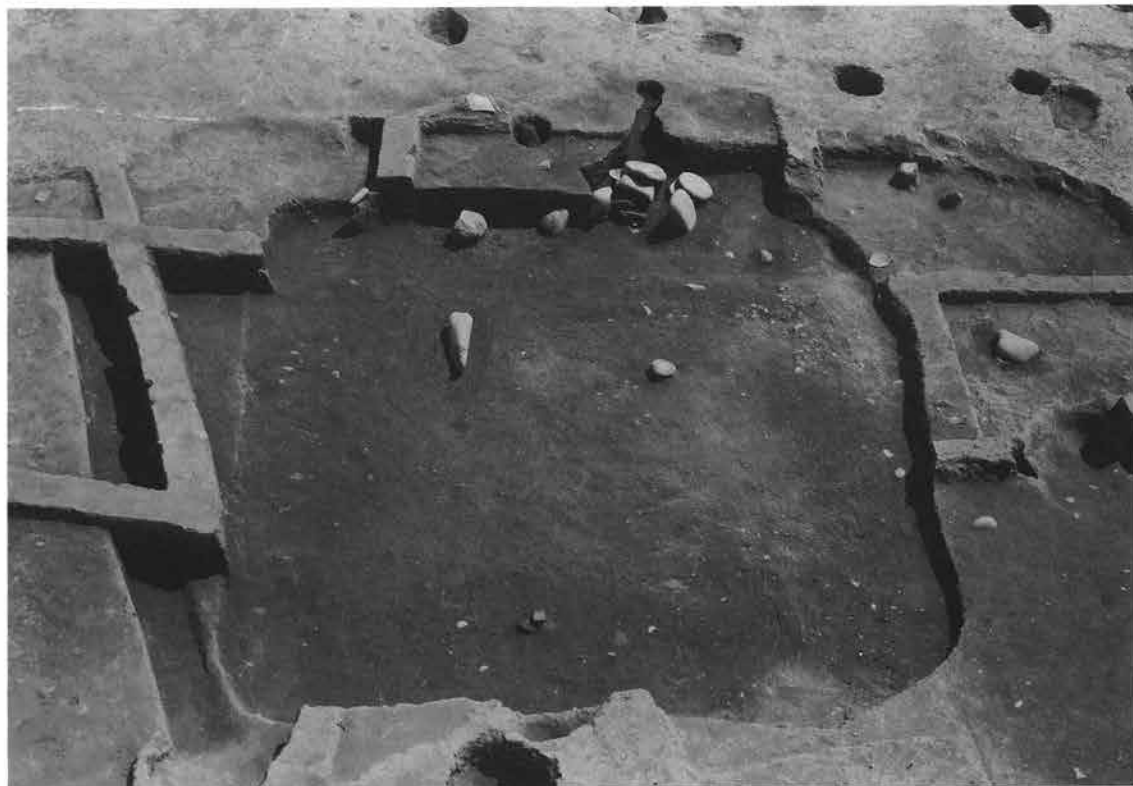
102号住居跡(1) (北から)



田端地区B区 102号住居跡(2)カマド



103号住居跡 (南西から)



田端地区B区 104号住居跡(1) (南西から)



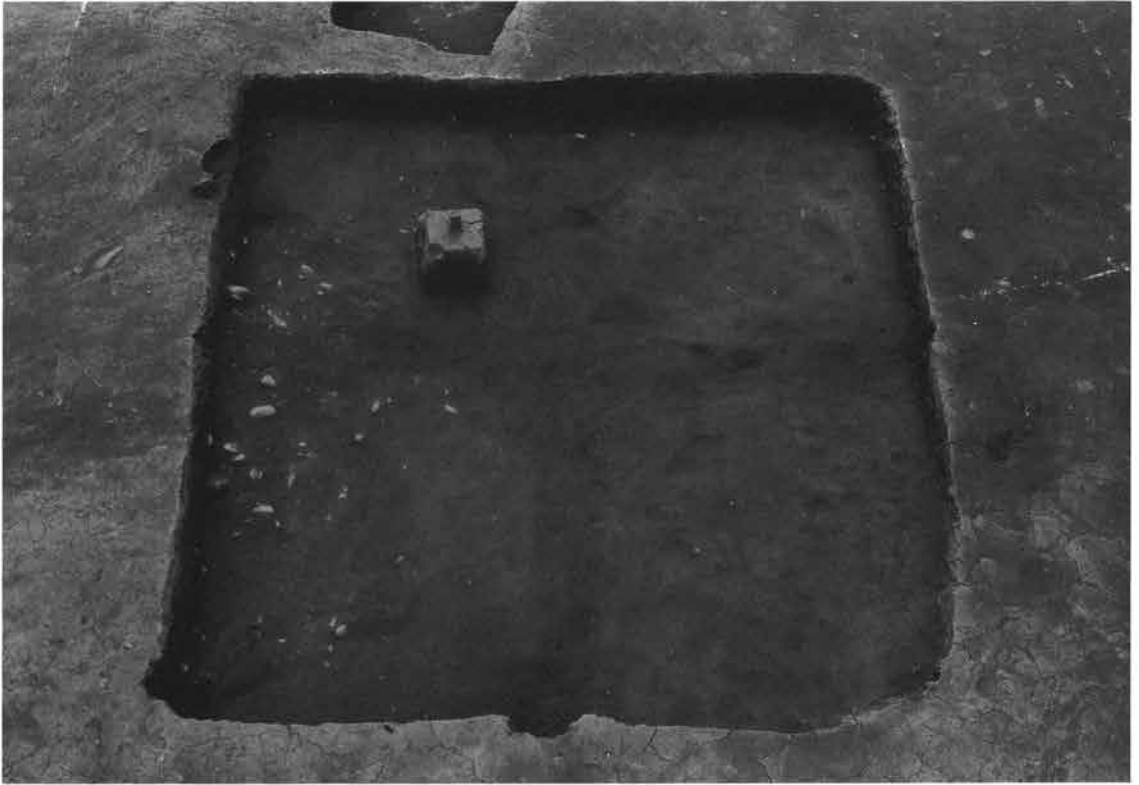
同上(2)カマド



田端地区B区 105号住居跡(1) (南西から)



同上(2)カマド



田端地区B区 107号住居跡（西から）



109号住居跡（南西から）



田端地区B区 110号住居跡 (西から)



111号住居跡(1) (西から)



田端地区B区 111号住居跡(2)カマド



112号住居跡 (西から)



田端地区B区 113号住居跡(1) (西から)



同上(2)カマド



田端地区B区 114号住居跡 (西から)



115号住居跡 (南西から)



田端地区B区 116号住居跡 (南東から)



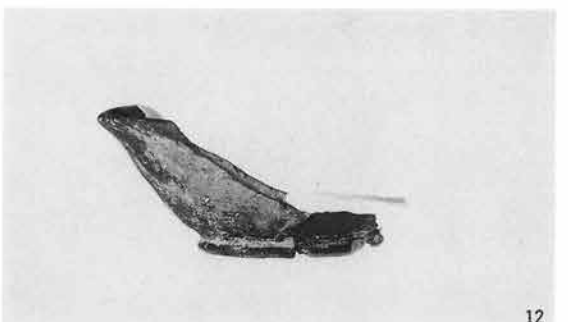
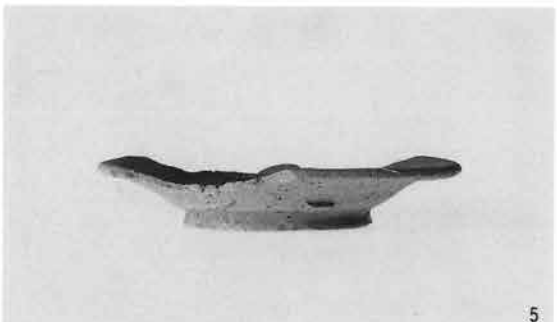
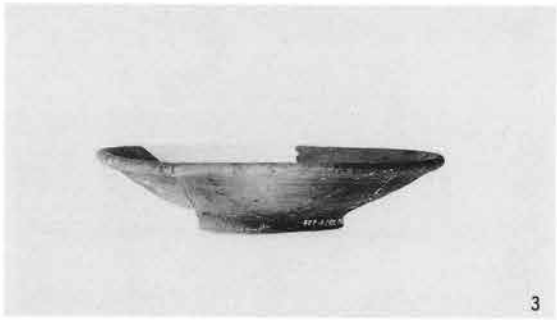
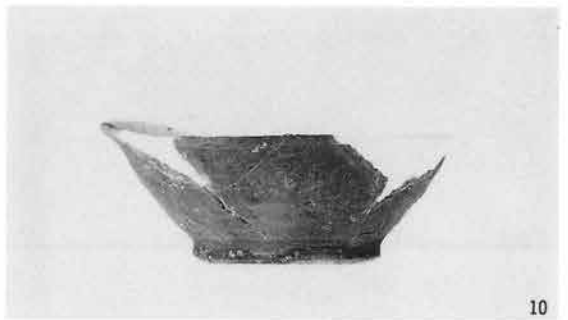
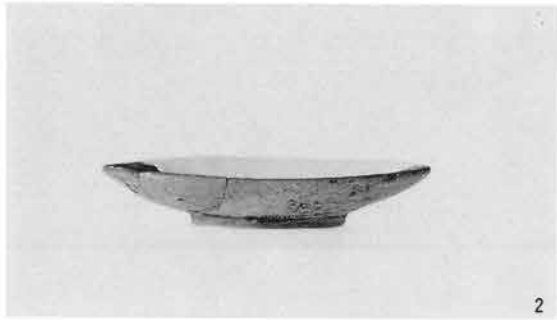
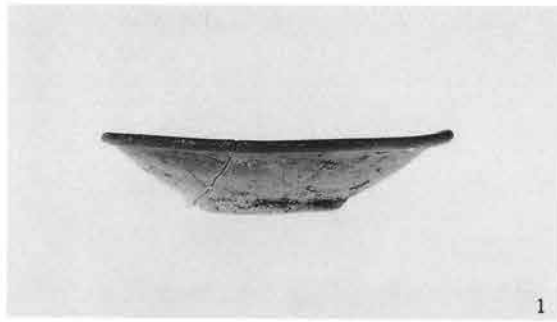
118号住居跡 (北から)



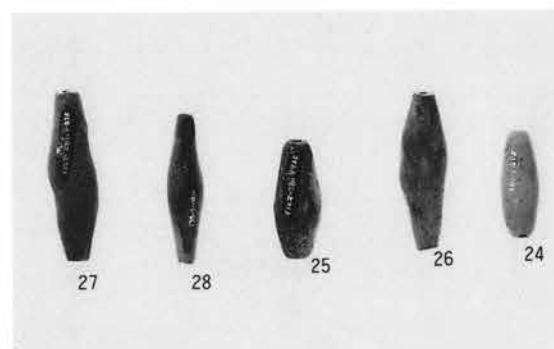
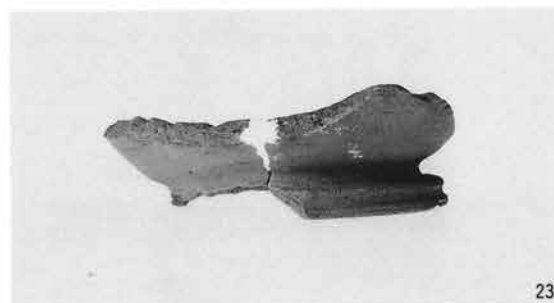
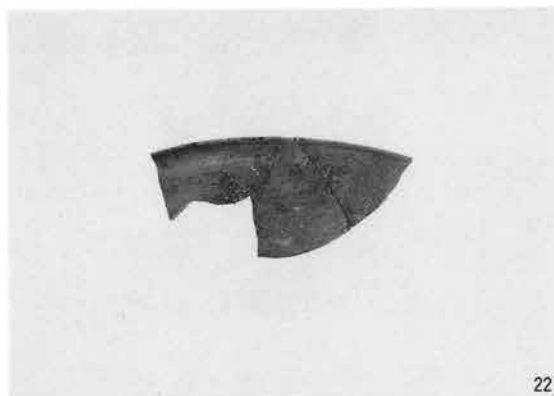
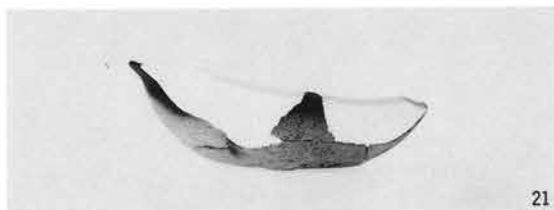
田端地区B区 119号住居跡（南東から）



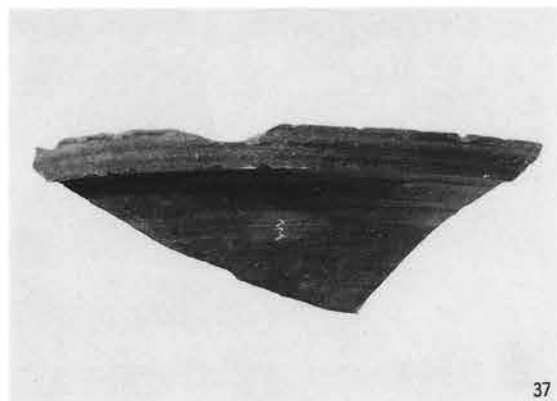
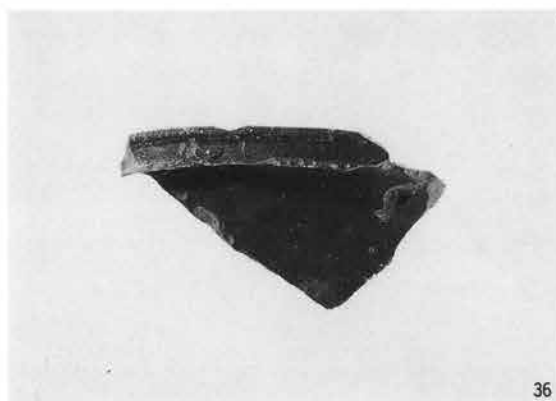
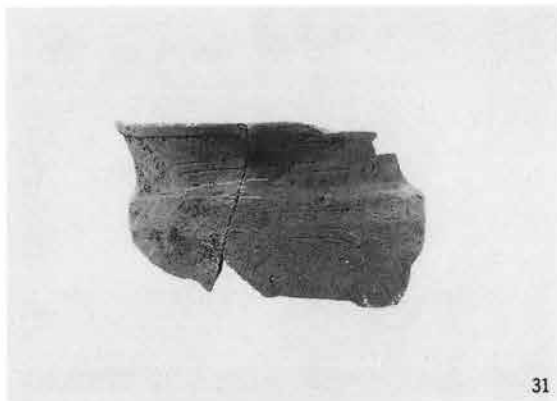
120号住居跡（西から）



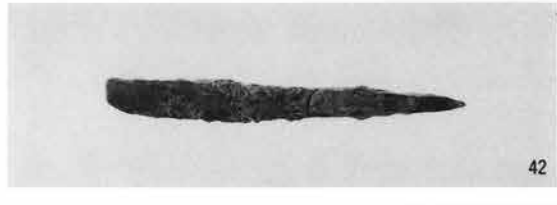
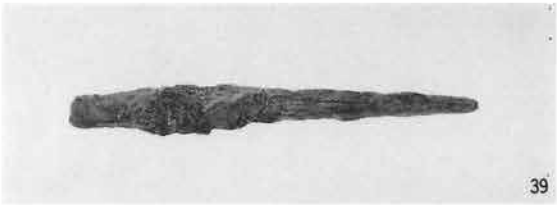
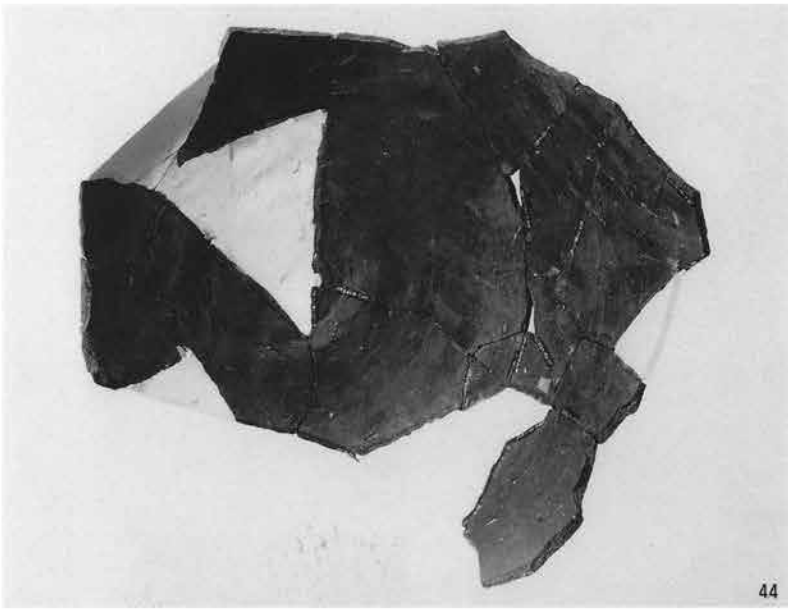
田端地区A区1号住居跡出土遺物(1)



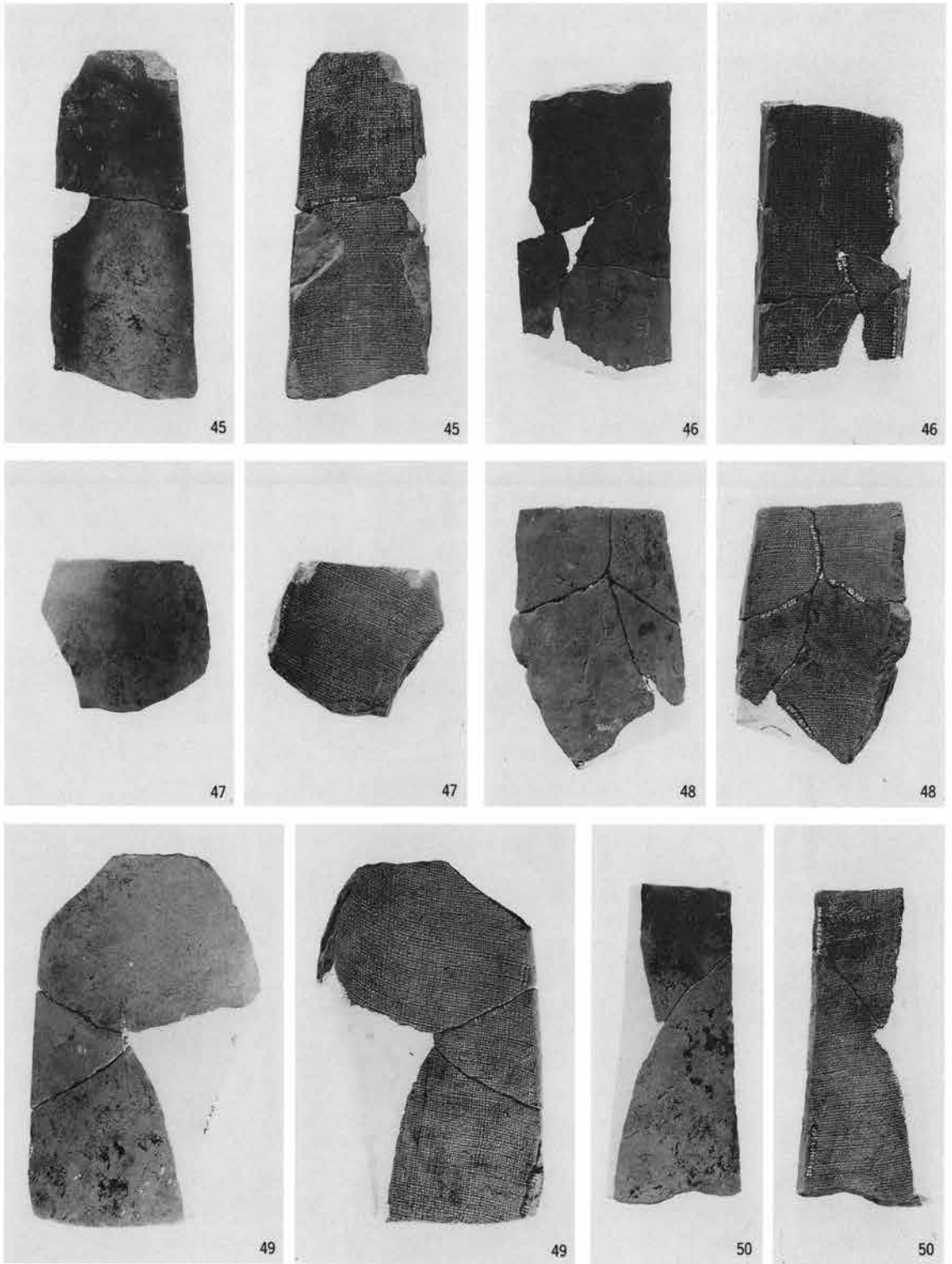
田端地区A区1号住居跡出土遺物(2)



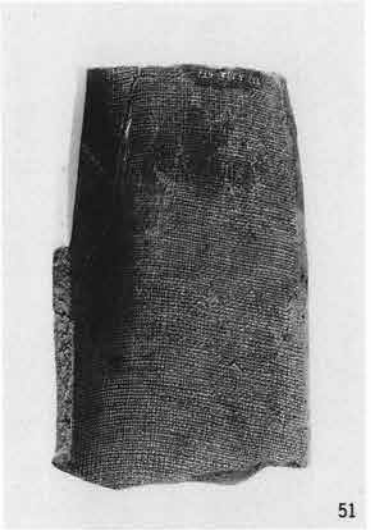
田端地区A区1号住居跡出土遺物(3)



田端地区A区1号住居跡出土遺物(4)



田端地区A区1号住居跡出土遺物(5)



田端地区A区1号住居跡出土遺物(6)



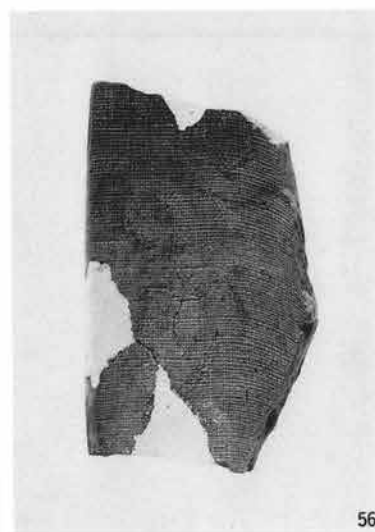
55



55

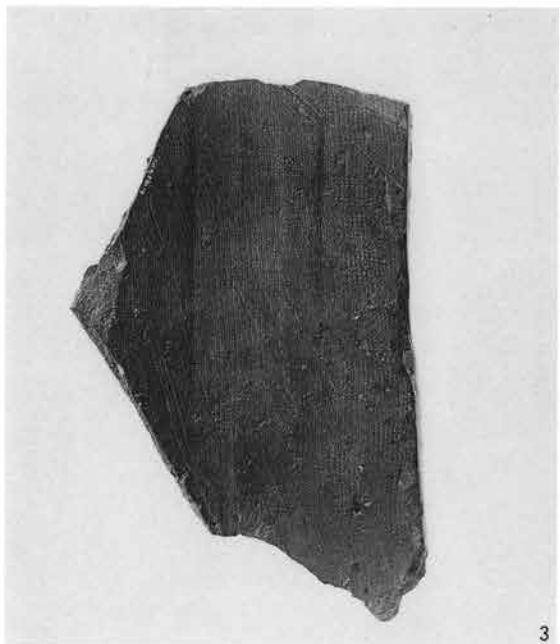


56



56

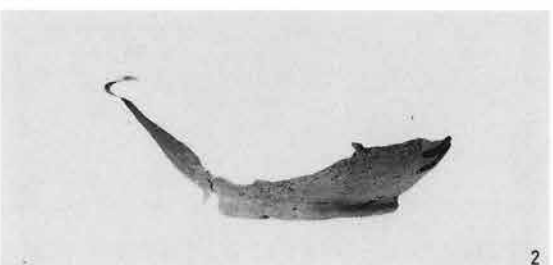
田端地区A区1号住居跡出土遺物(7)



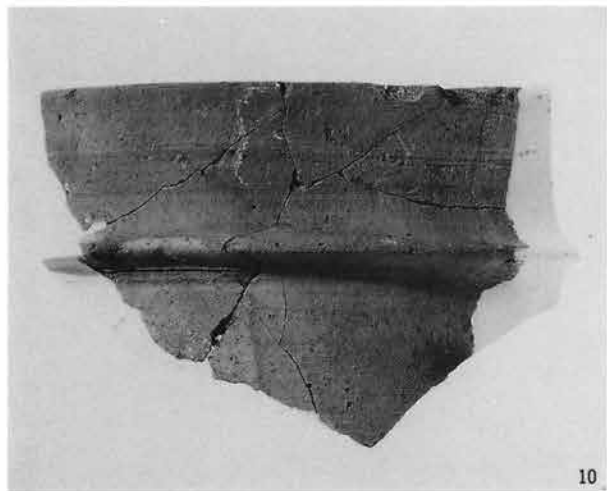
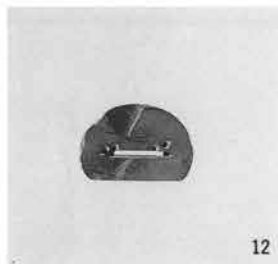
田端地区A区2号住居跡出土遺物



田端地区B区2号住居跡出土遺物



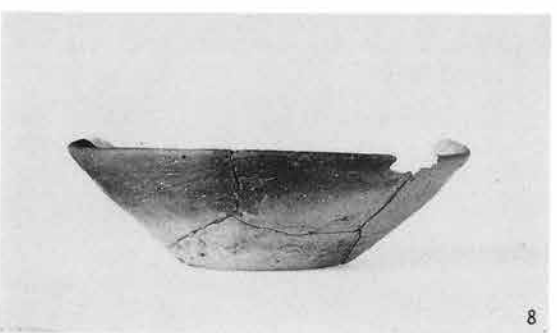
田端地区B区3号住居跡出土遺物



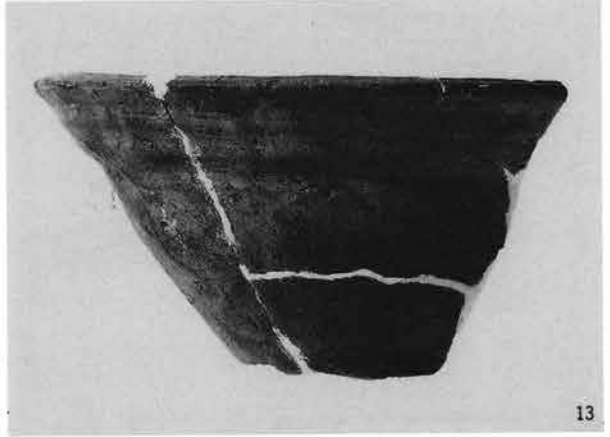
田端地区B区4A号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区4A号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区4B号住居跡出土遺物



田端地区B区7号住居跡出土遺物



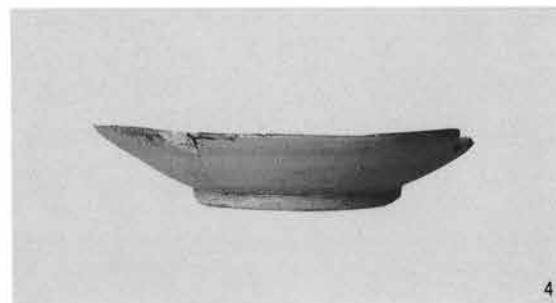
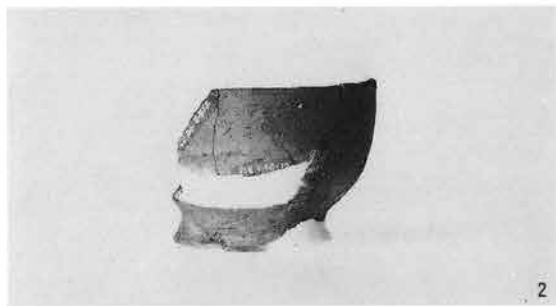
田端地区B区6号住居跡出土遺物



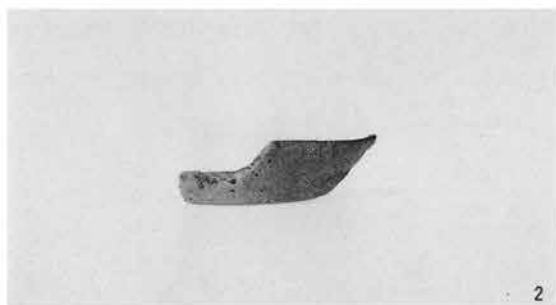
田端地区B区8号住居跡出土遺物



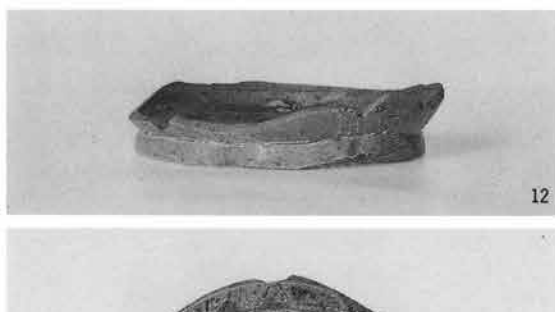
田端地区B区10号住居跡出土遺物



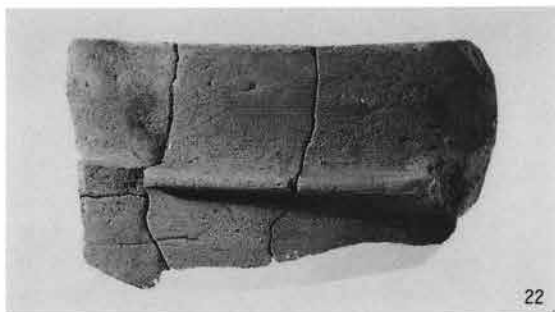
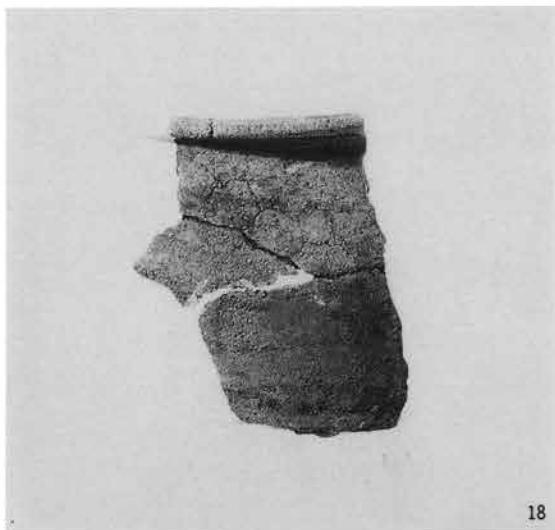
田端地区B区9号住居跡出土遺物



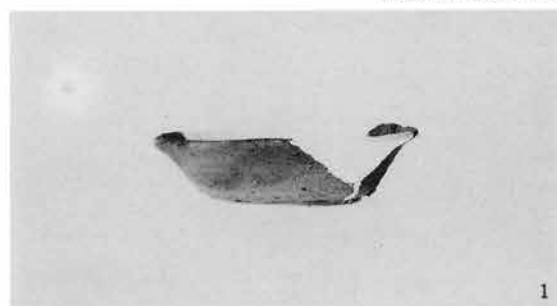
田端地区B区11号住居跡出土遺物



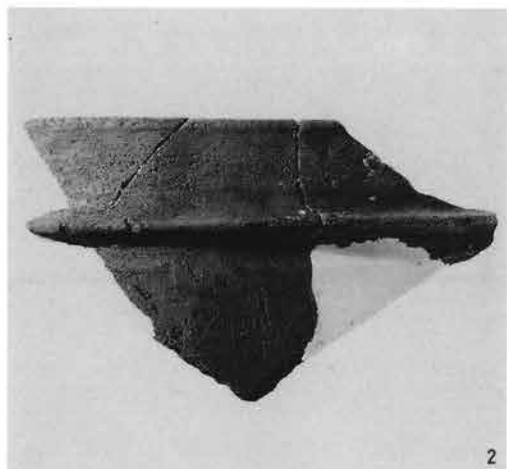
田端地区B区12号住居跡出土遺物(1)



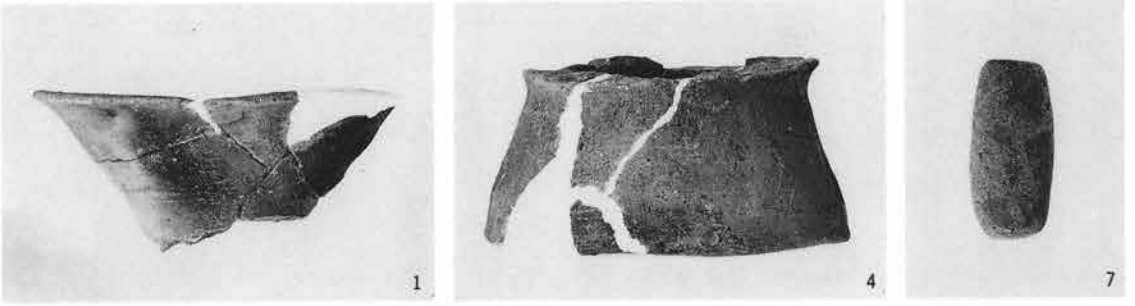
田端地区B区12号住居跡出土遺物(2)



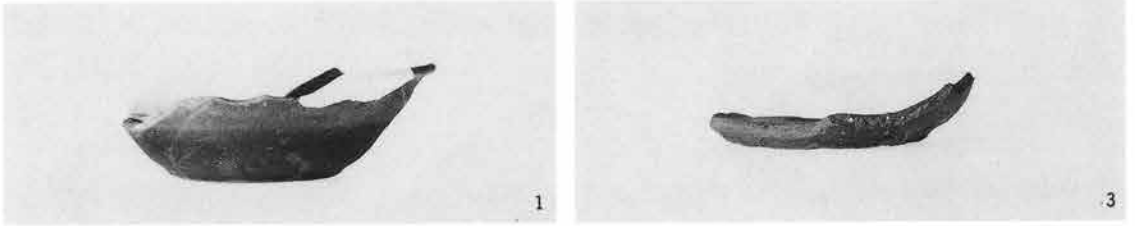
田端地区B区13号住居跡出土遺物



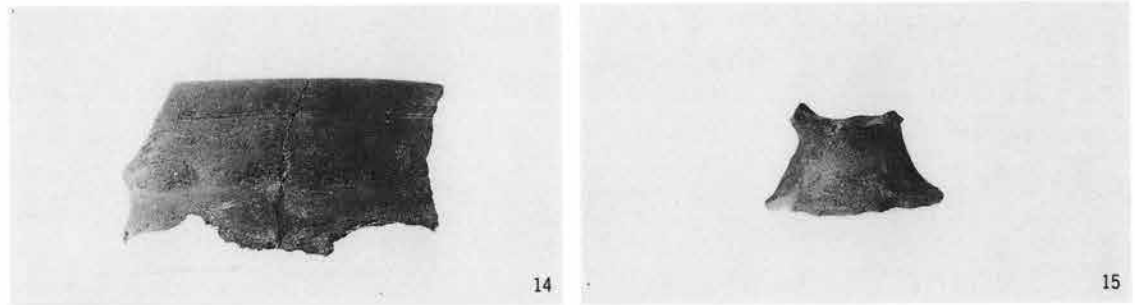
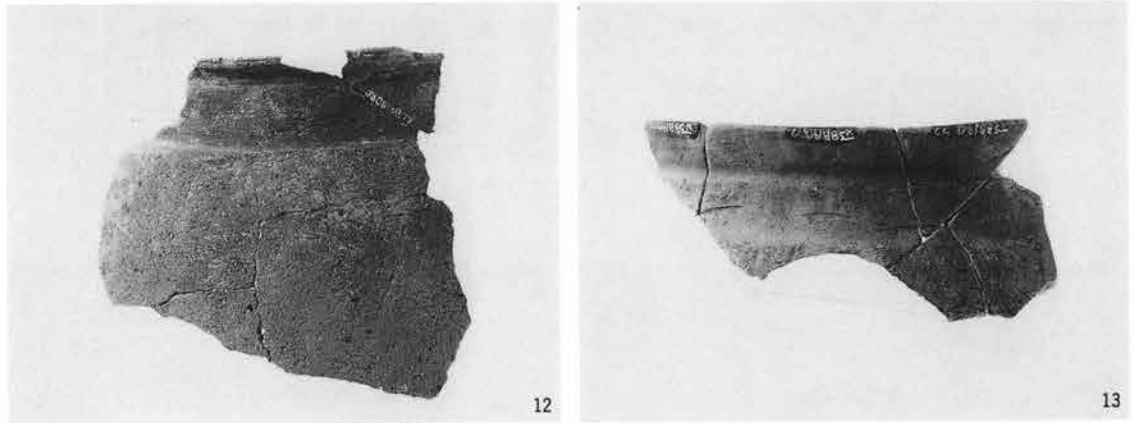
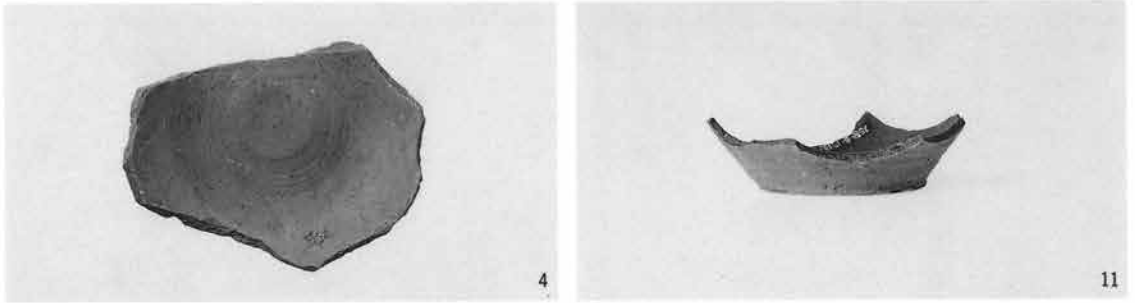
田端地区B区14号住居跡出土遺物



田端地区B区16号住居跡出土遺物



田端地区B区17号住居跡出土遺物



田端地区B区19号住居跡出土遺物



1



2

田端地区B区20号住居跡出土遺物



2



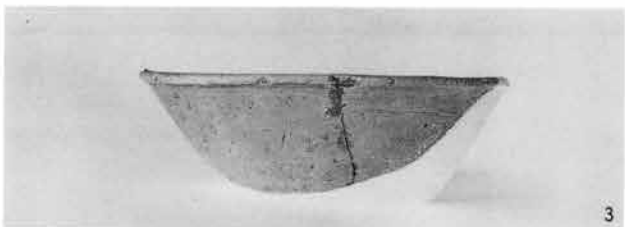
11



12



13



3



15



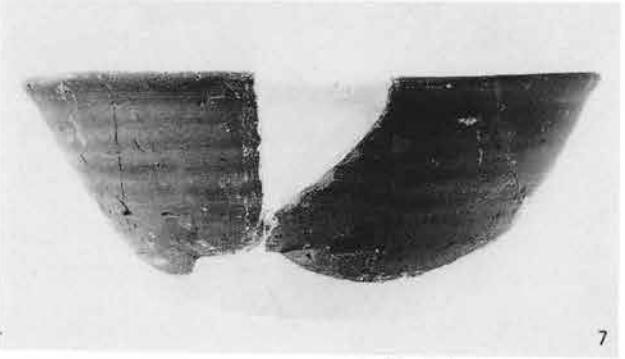
4



5

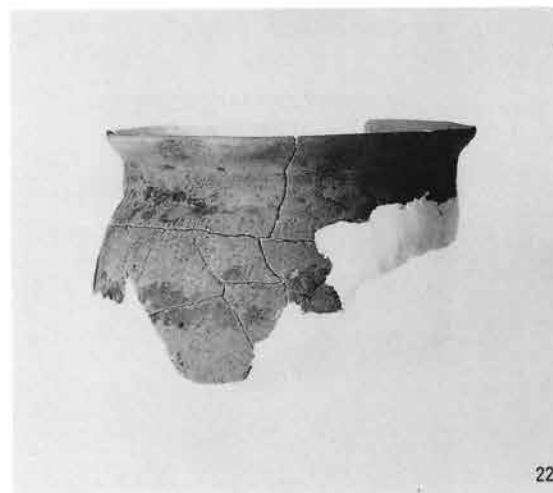


17

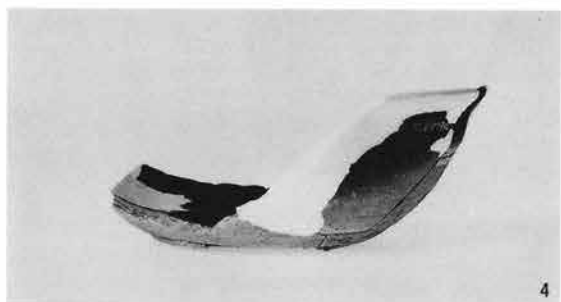


7

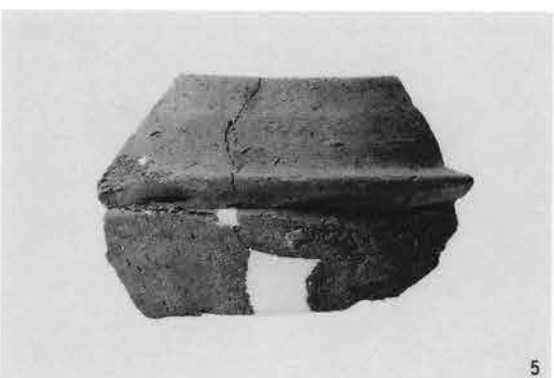
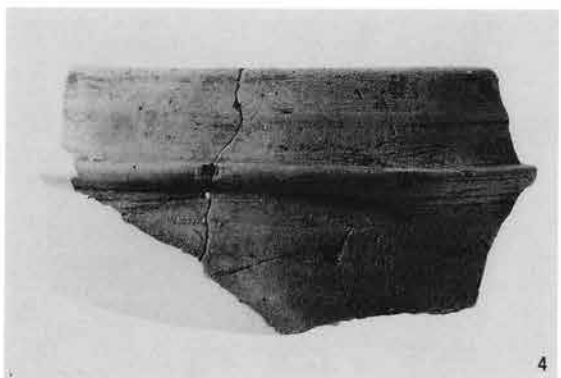
田端地区B区23号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区23号住居跡出土遺物(2)



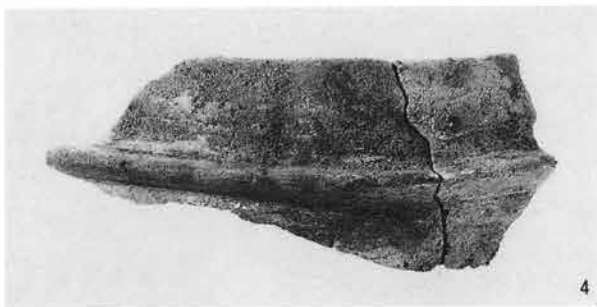
田端地区B区24号住居跡出土遺物



田端地区B区25号住居跡出土遺物



1



4

田端地区B区26号住居跡出土遺物



1



2



6



5

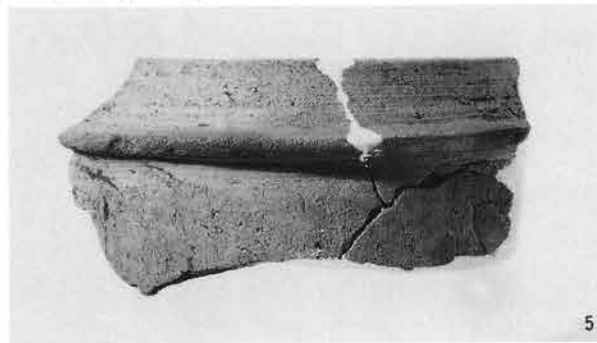


7

田端地区B区27号住居跡出土遺物

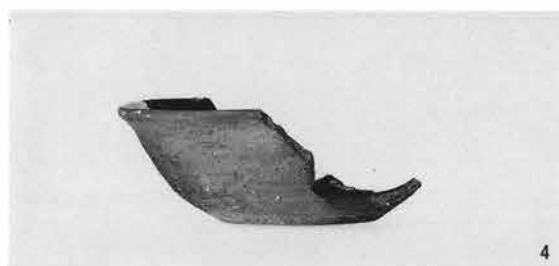
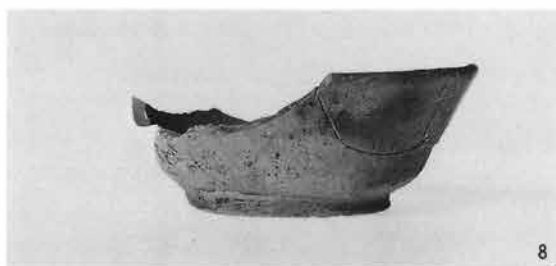


1

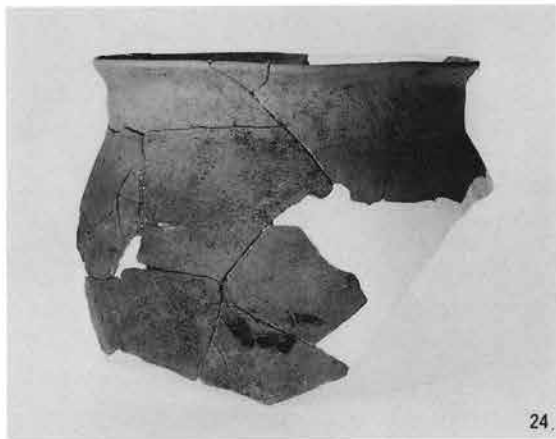


5

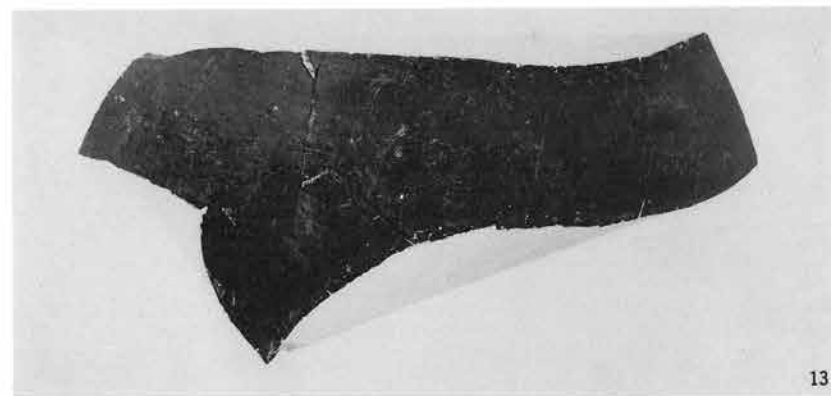
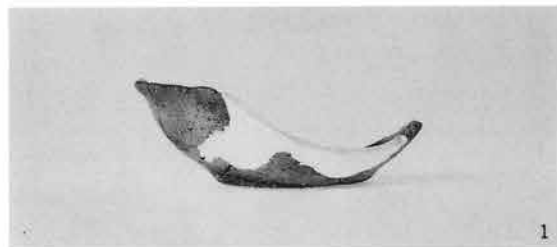
田端地区B区28号住居跡出土遺物



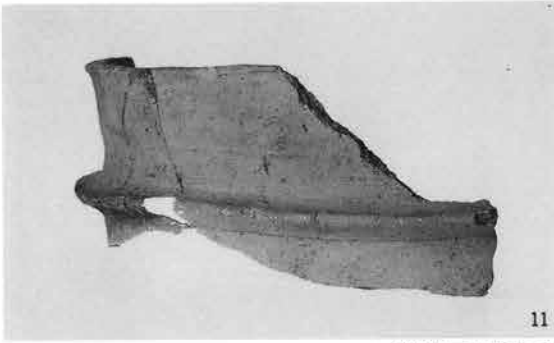
田端地区B区29号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区29号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区30号住居跡出土遺物(1)

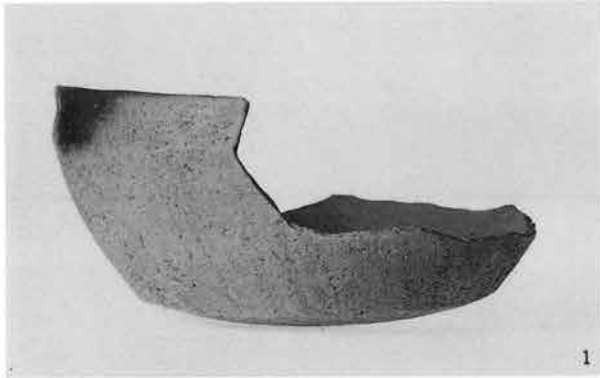


11



10

田端地区B区30号住居跡出土遺物(2)



1

田端地区B区31号住居跡出土遺物



1



2



4

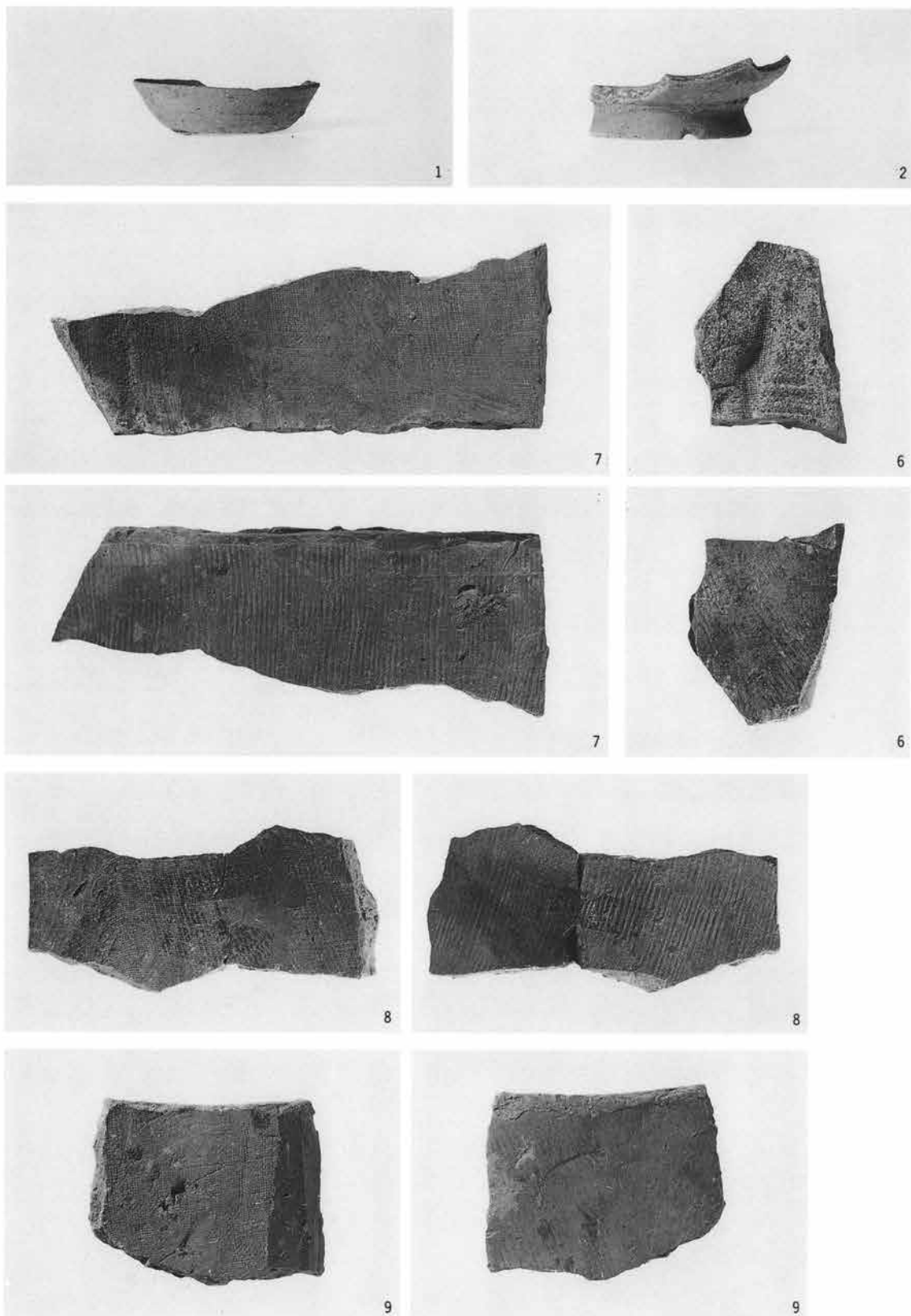


5

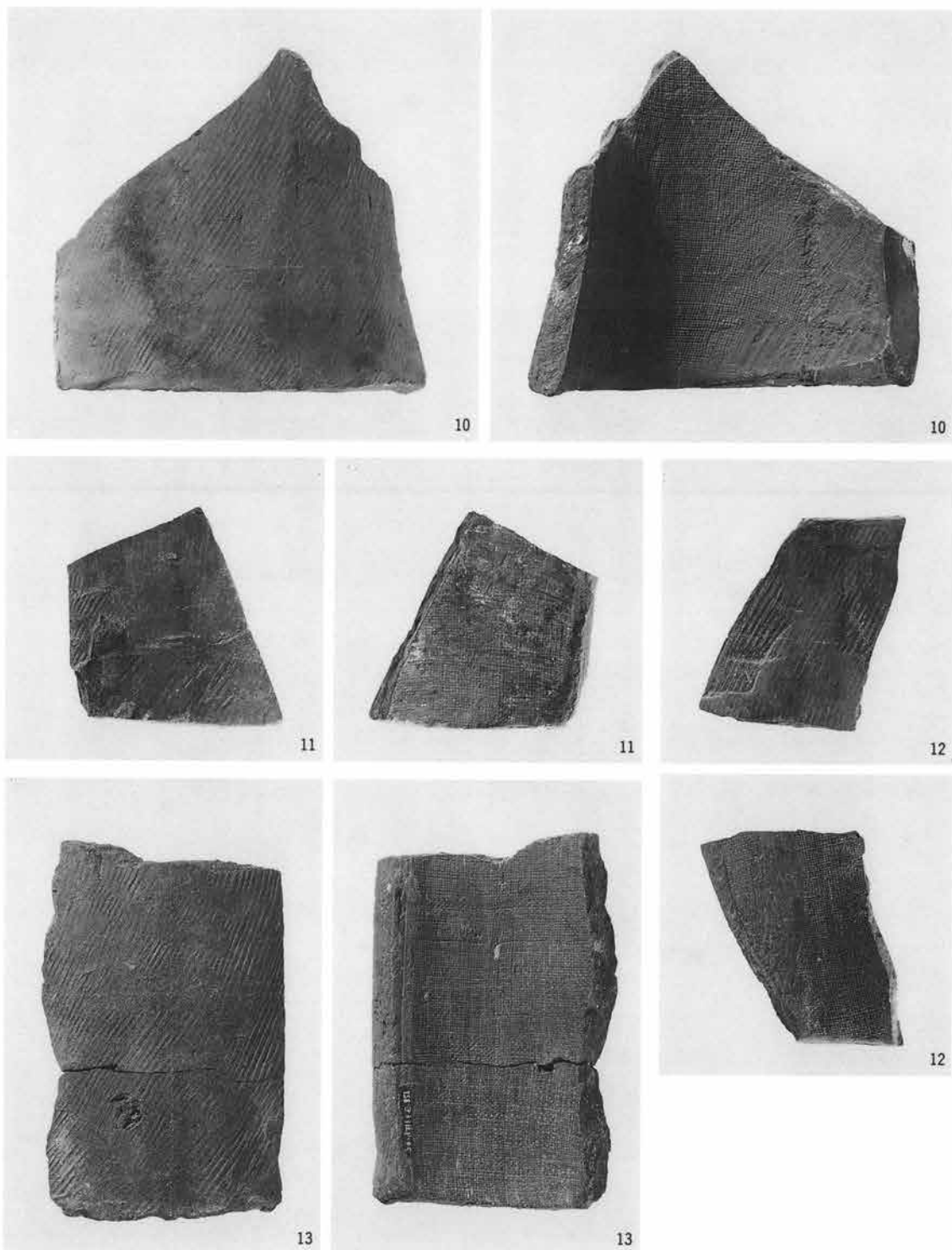


6

田端地区B区32号住居跡出土遺物



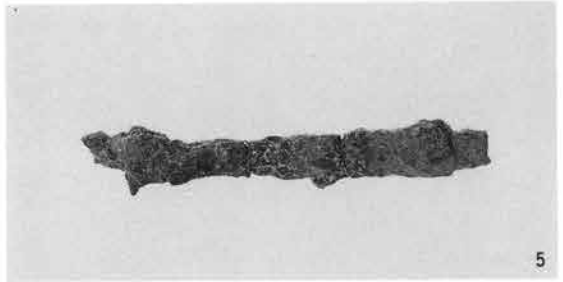
田端地区B区33号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区33号住居跡出土遺物(2)



2

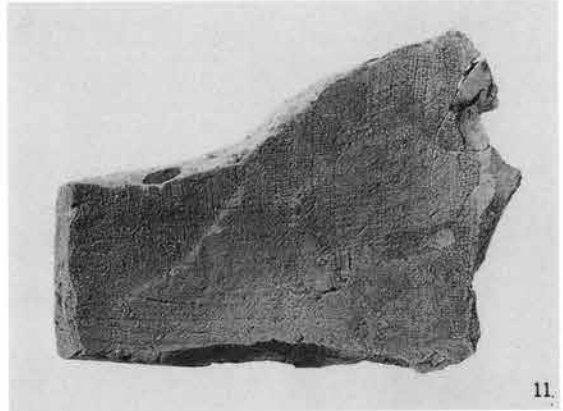


5

田端地区B区34号住居跡出土遺物



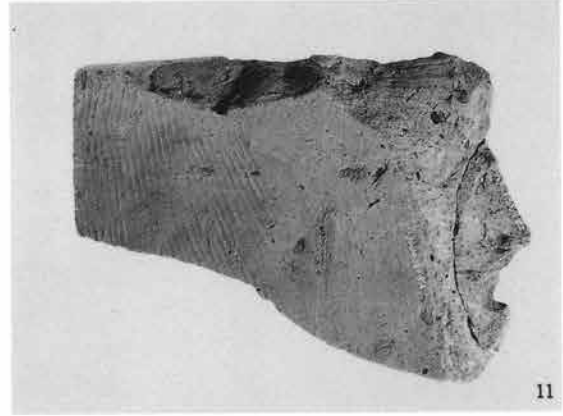
3



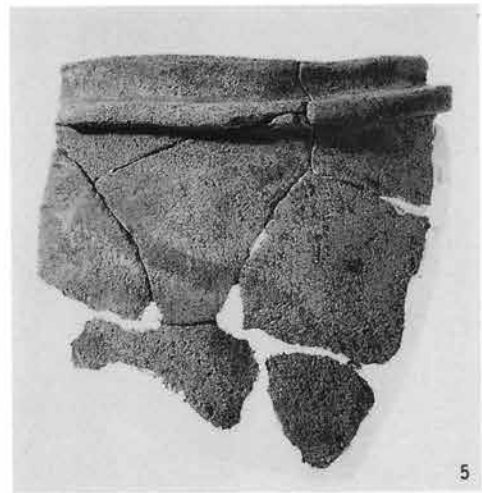
11



4



11



5

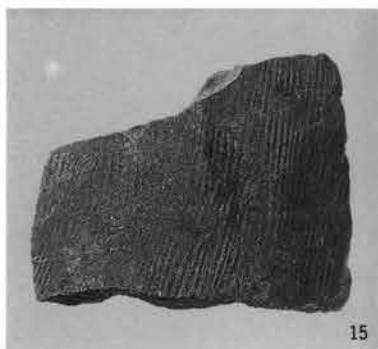
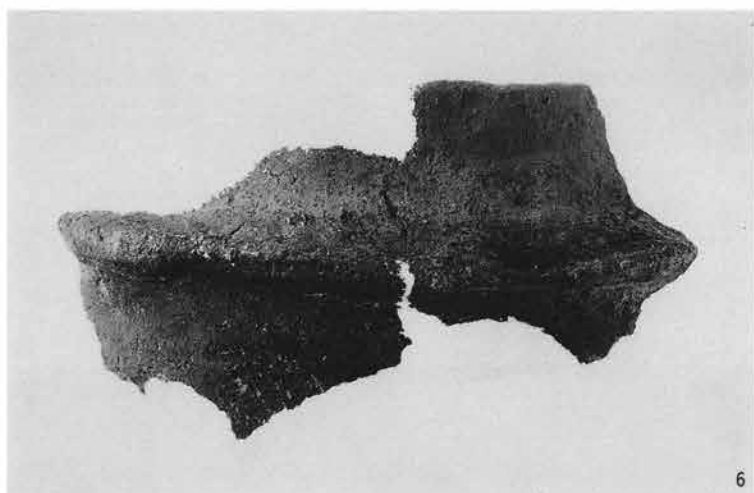


12

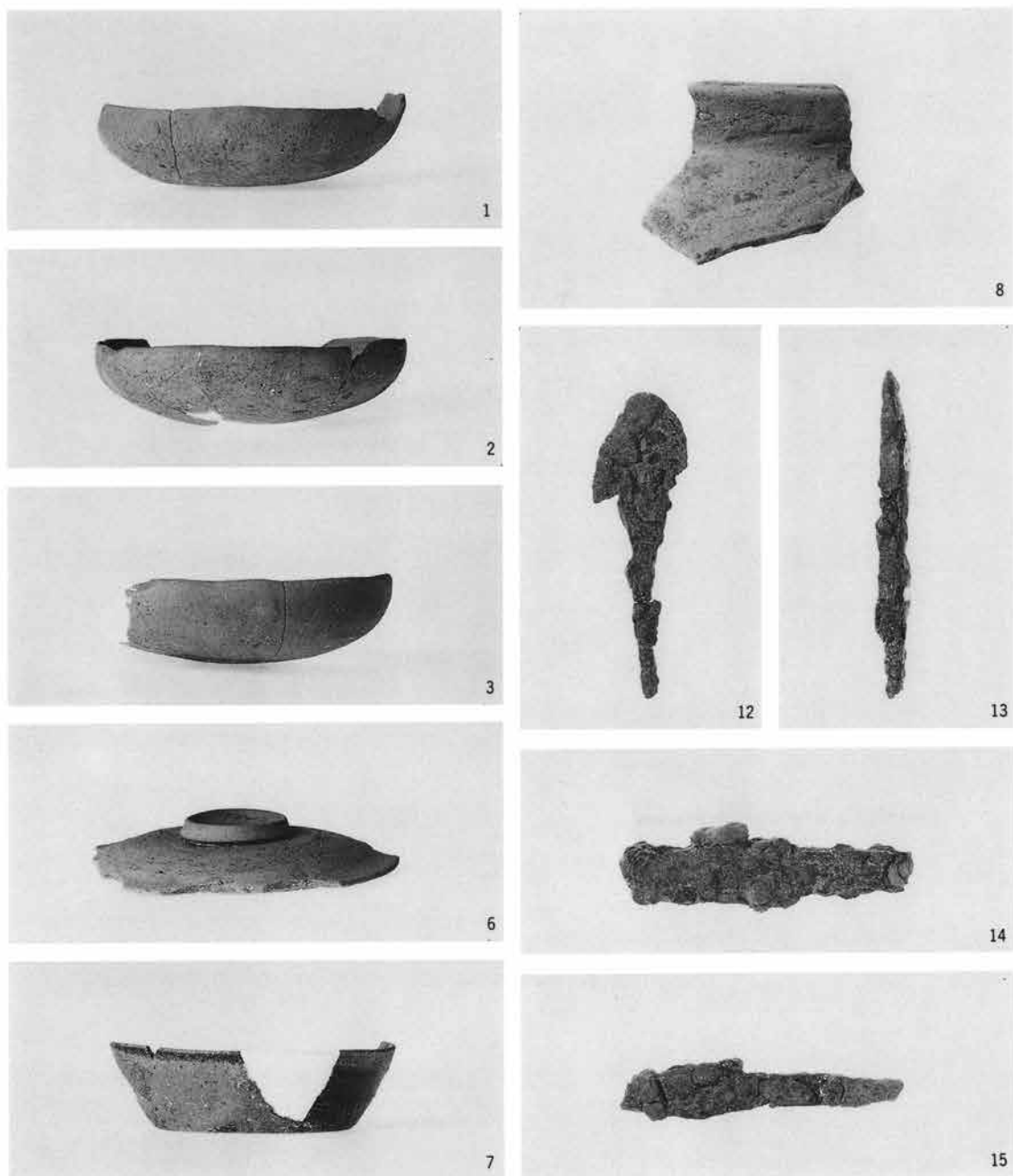


12

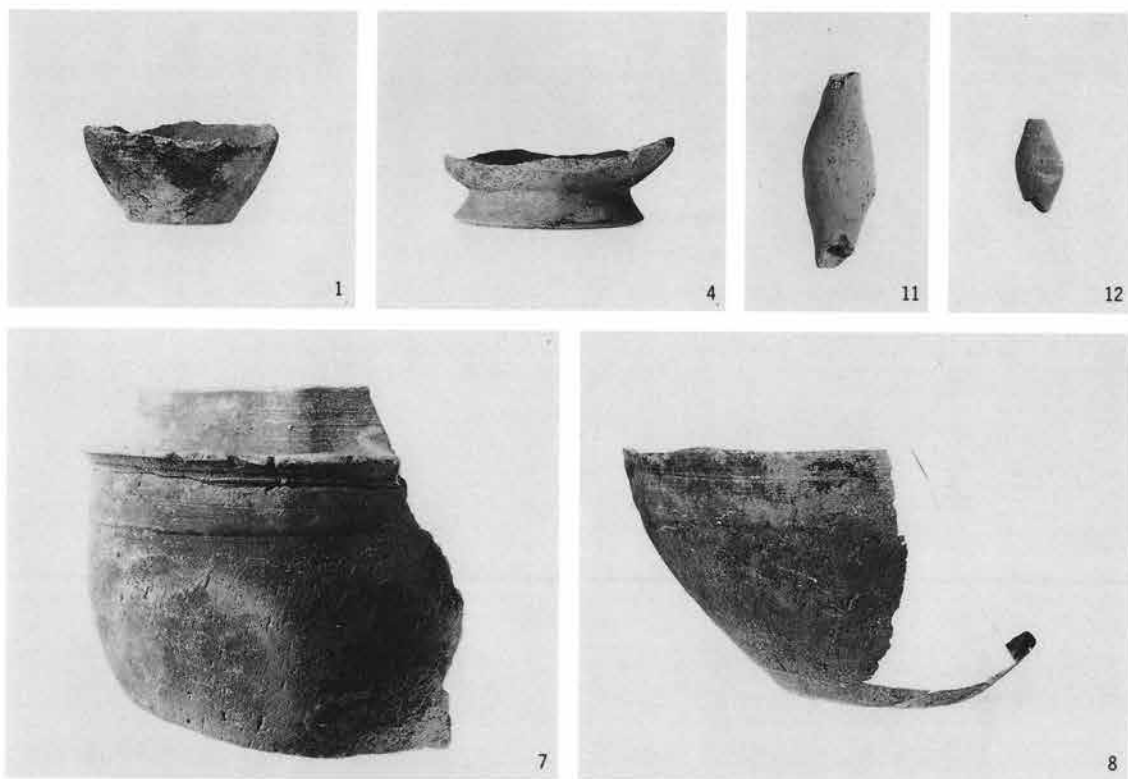
田端地区B区35号住居跡出土遺物(1)



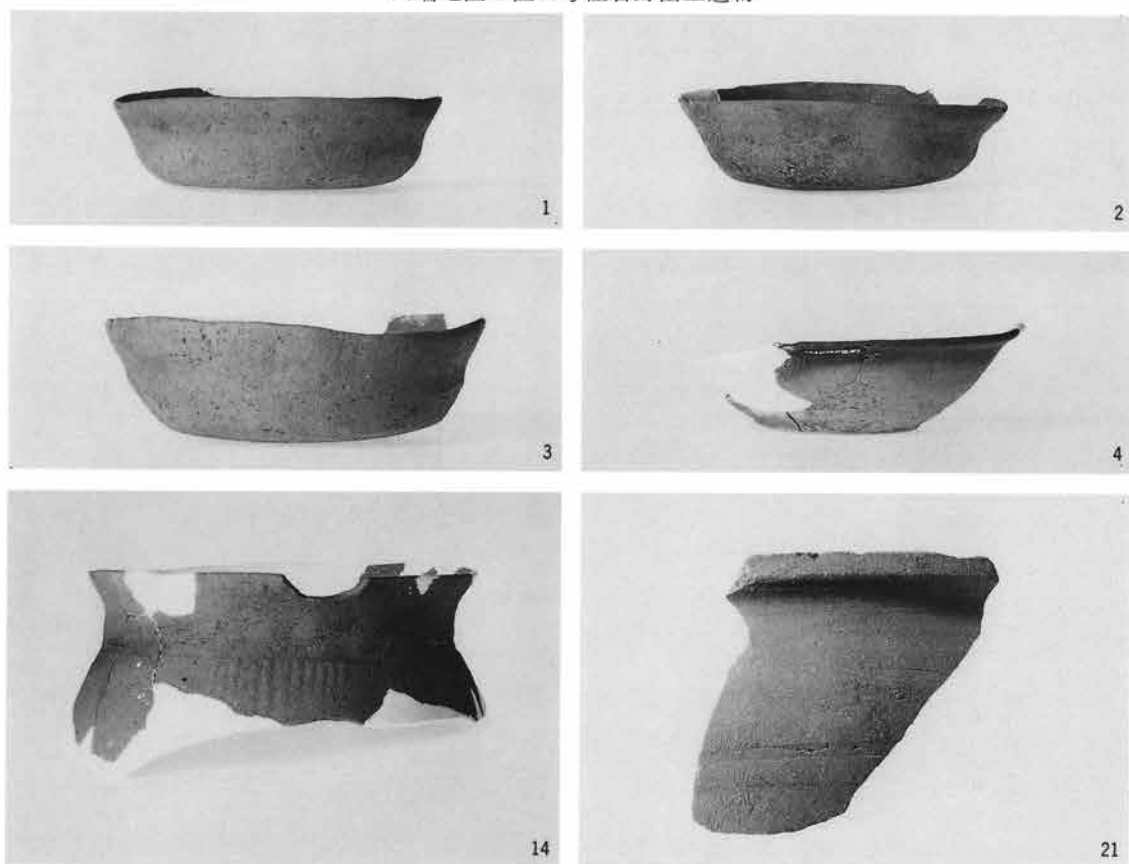
田端地区B区35号住居跡出土遺物(2)



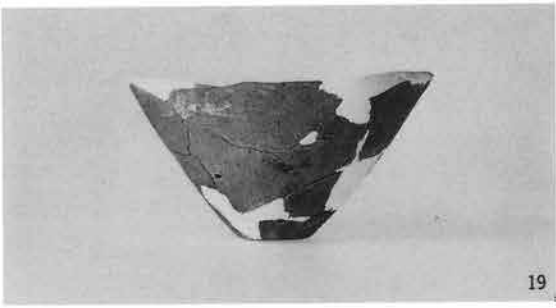
田端地区B区37号住居跡出土遺物



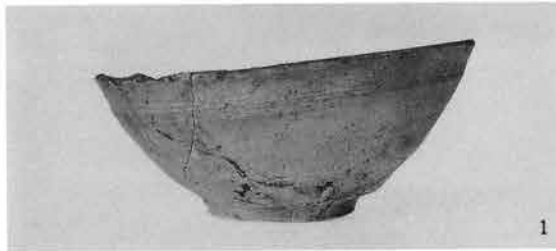
田端地区B区38号住居跡出土遺物



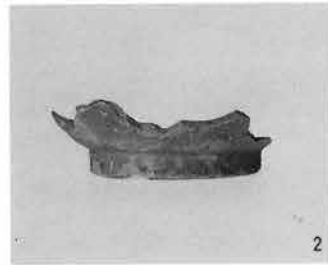
田端地区B区40号住居跡出土遺物(1)



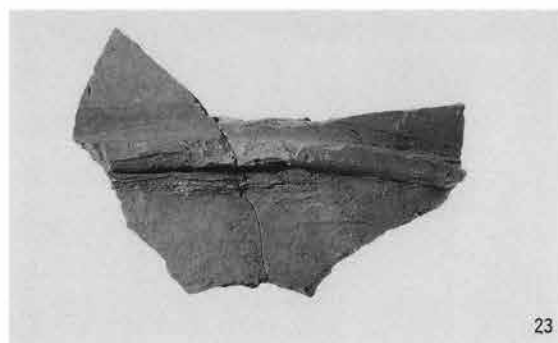
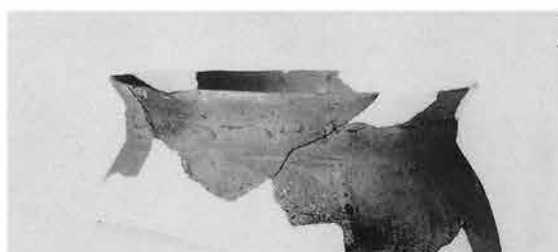
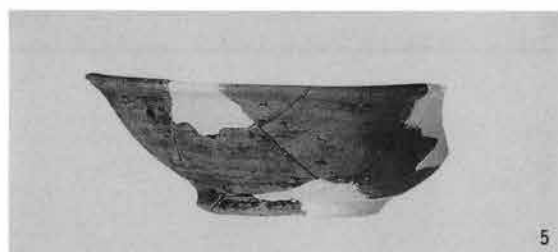
田端地区B区40号住居跡出土遺物(2)



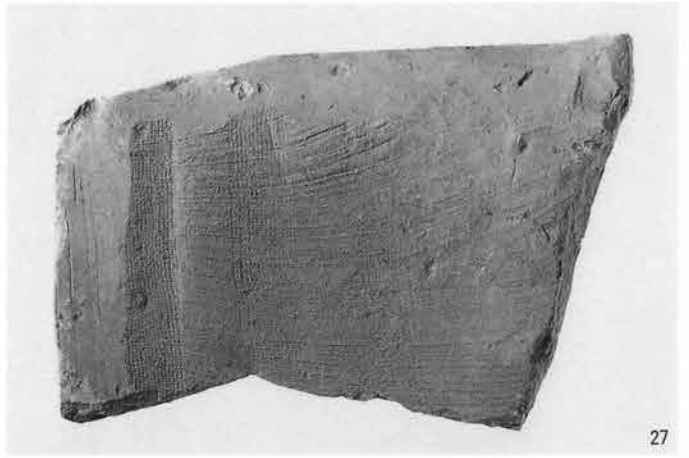
田端地区B区41号住居跡出土遺物



田端地区B区42号住居跡出土遺物



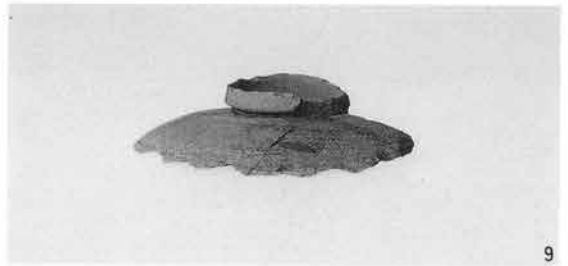
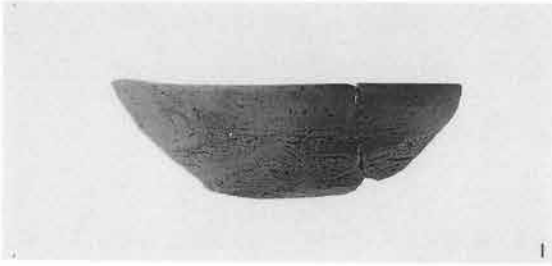
田端地区B区43号住居跡出土遺物(1)



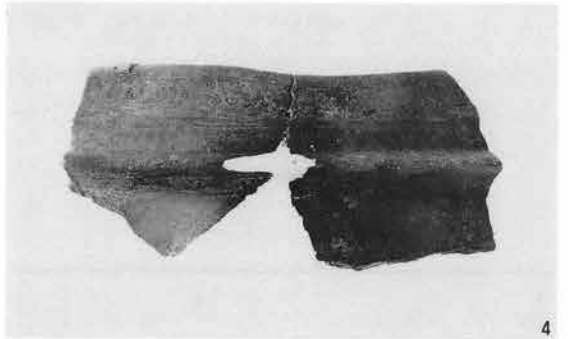
田端地区B区43号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区44号住居跡出土遺物



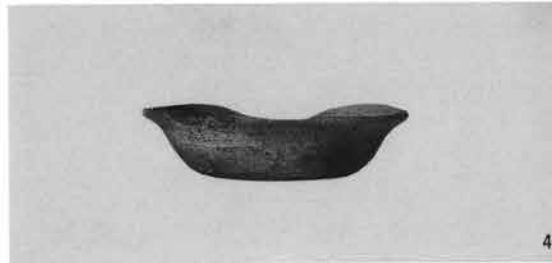
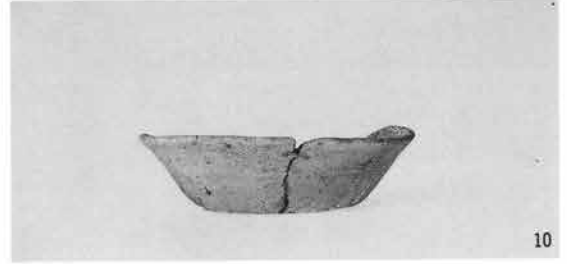
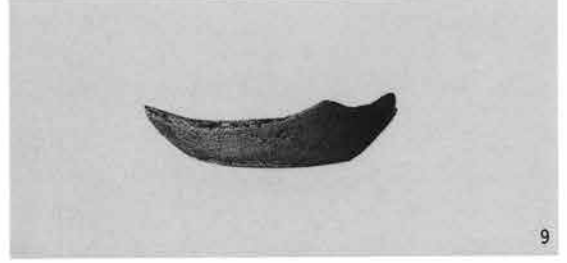
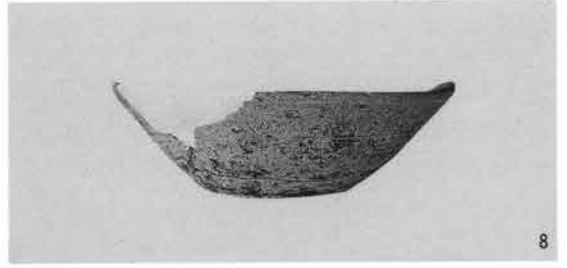
田端地区B区45号住居跡出土遺物



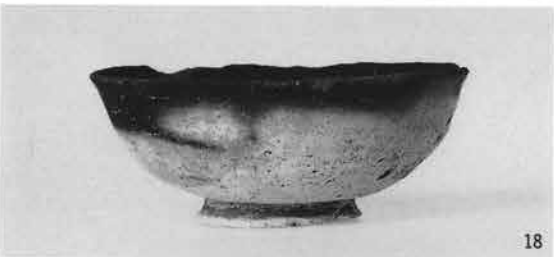
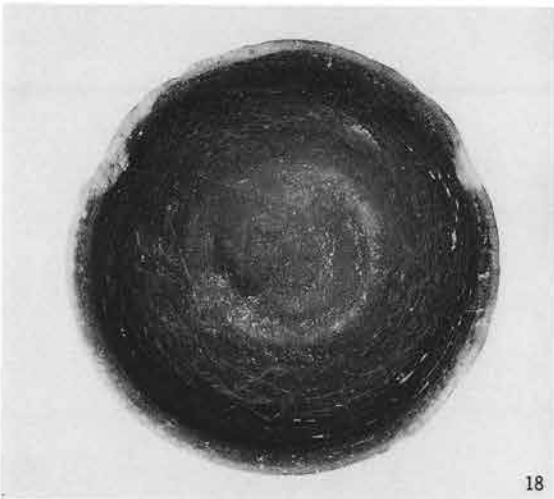
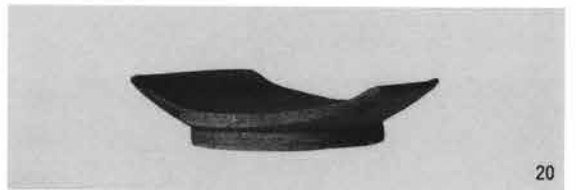
田端地区B区46号住居跡出土遺物



田端地区B区47号住居跡出土遺物



田端地区B区48号住居跡出土遺物1)



田端地区B区48号住居跡出土遺物(2)



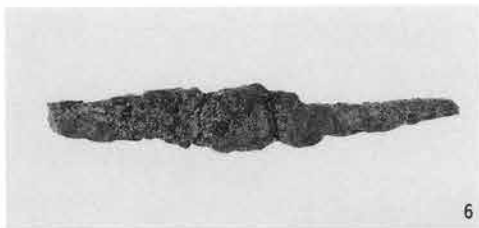
1 田端地区B区53号住居跡出土遺物



1



2



6

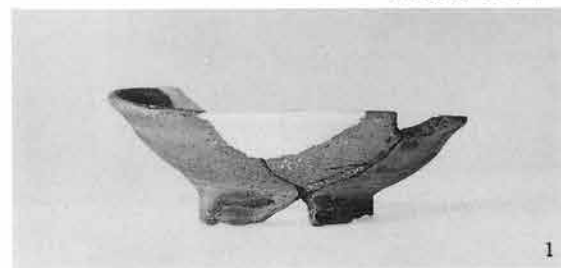


3



4

田端地区B区54号住居跡出土遺物



1



3



4

田端地区B区55号住居跡出土遺物



2



7



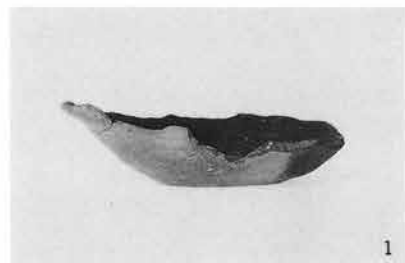
6

田端地区B区56号住居跡出土遺物



2

田端地区B区57号住居跡出土遺物



1



2



2

田端地区B区65号住居跡出土遺物

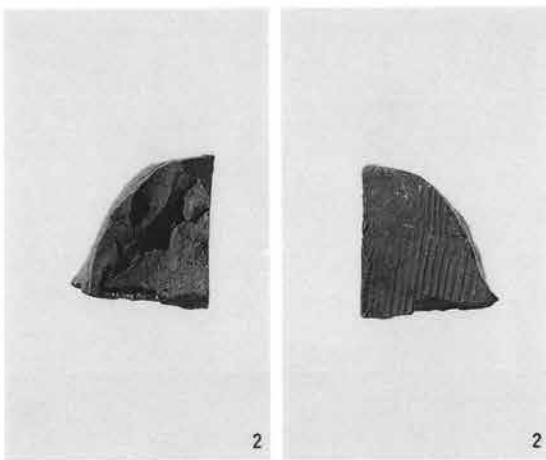


田端地区B区63号住居跡出土遺物



1

田端地区B区64号住居跡出土遺物



2

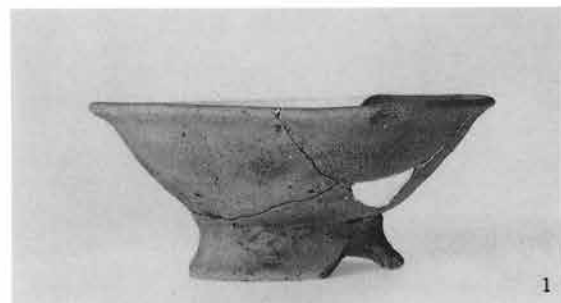
2

田端地区B区67号住居跡出土遺物



1

田端地区B区66号住居跡出土遺物



1



6



2

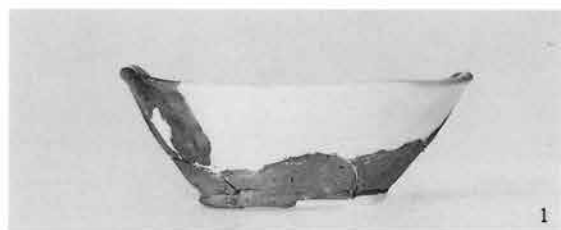


7



3

田端地区B区68号住居跡出土遺物



田端地区B区69号住居跡出土遺物



4 田端地区B区71号住居跡出土遺物



2



2

田端地区B区73号住居跡出土遺物



1

田端地区B区78号住居跡出土遺物



1

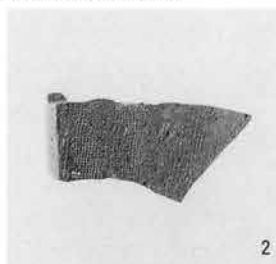


3

田端地区B区80号住居跡出土遺物



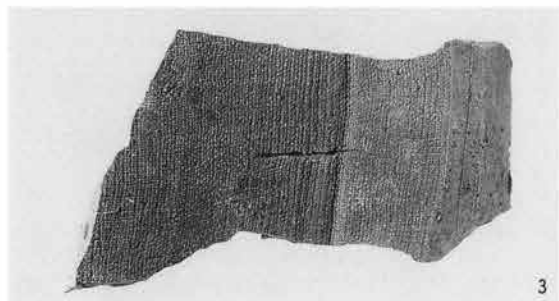
1



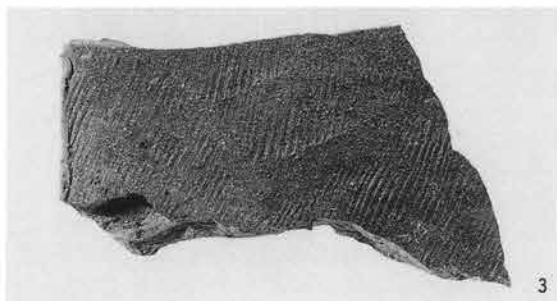
2



2

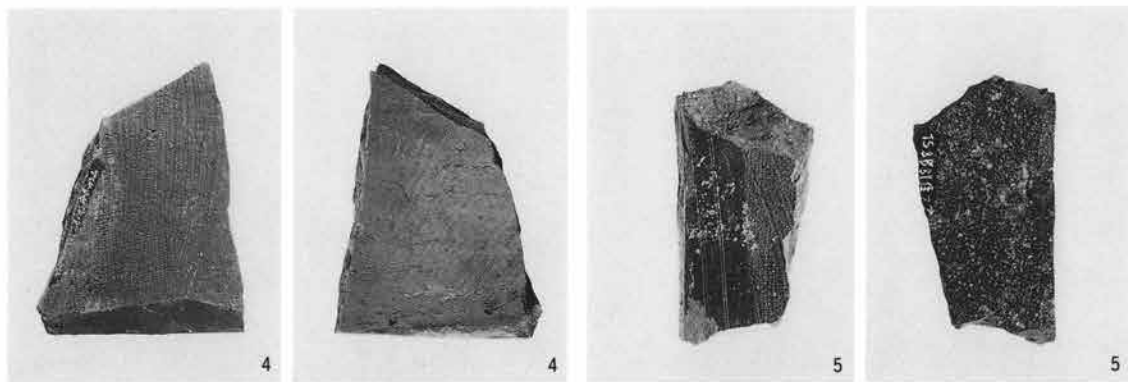


3

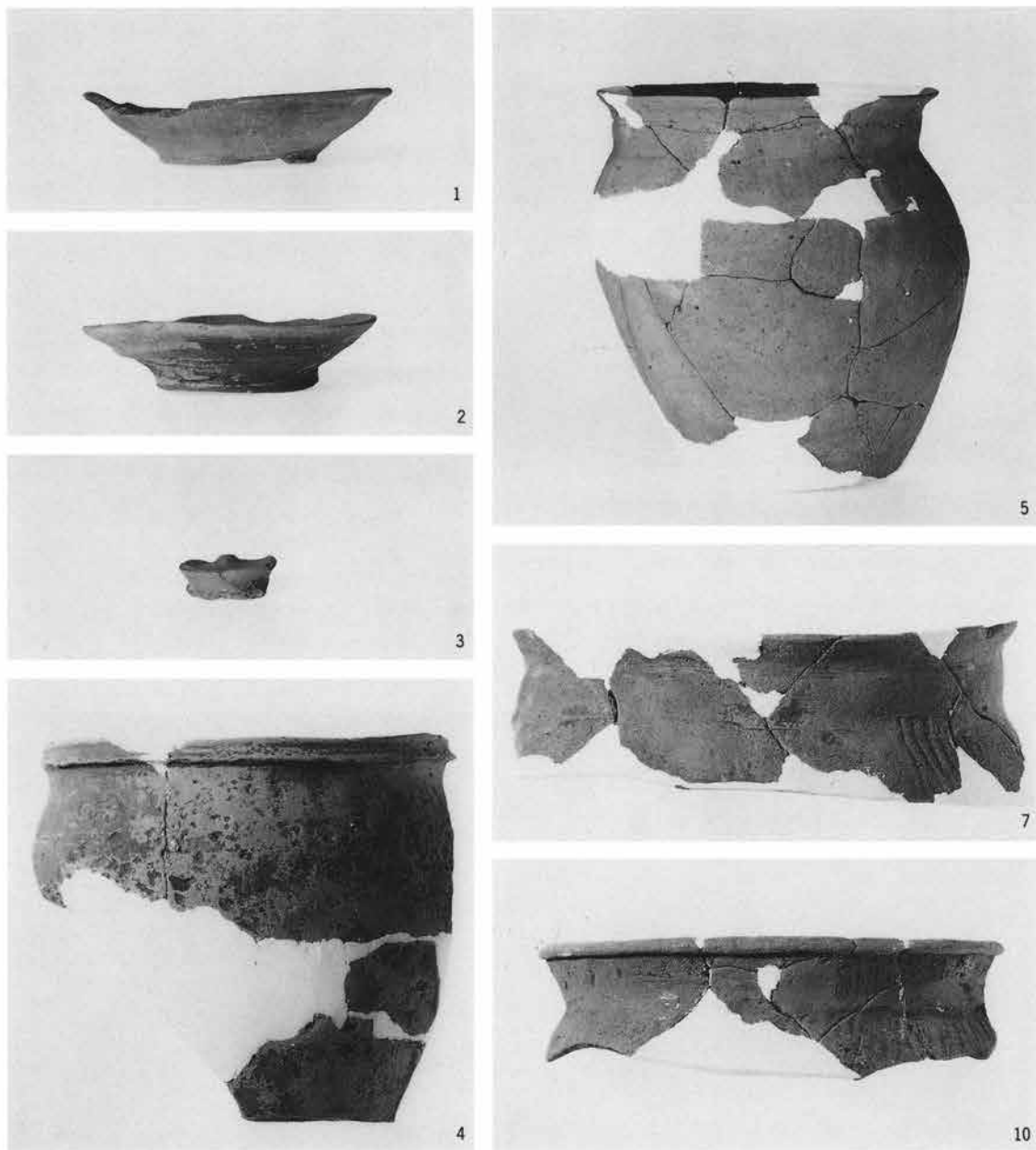


3

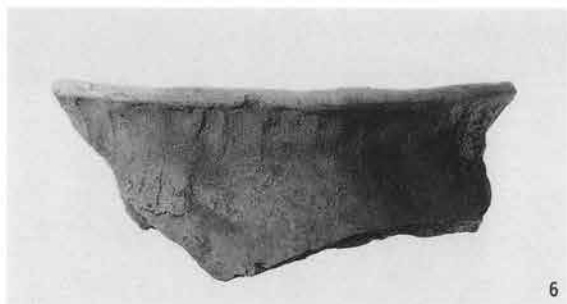
田端地区B区81号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区81号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区89号住居跡出土遺物



6



7



7



8



8 田端地区B区92号住居跡出土遺物



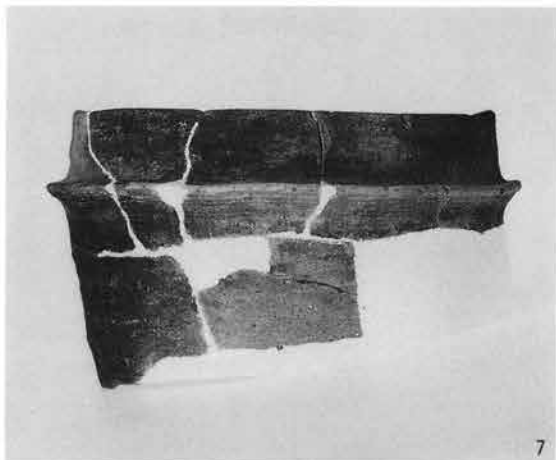
1



4



3

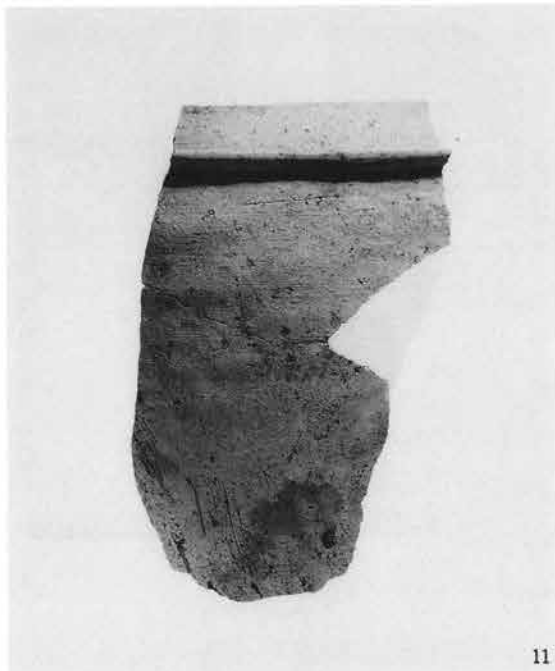
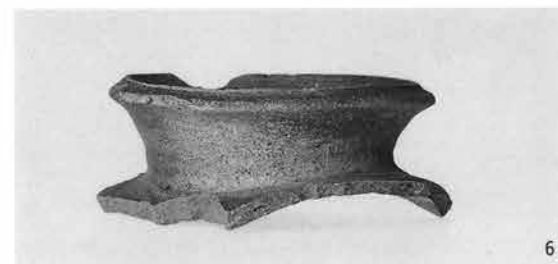


7

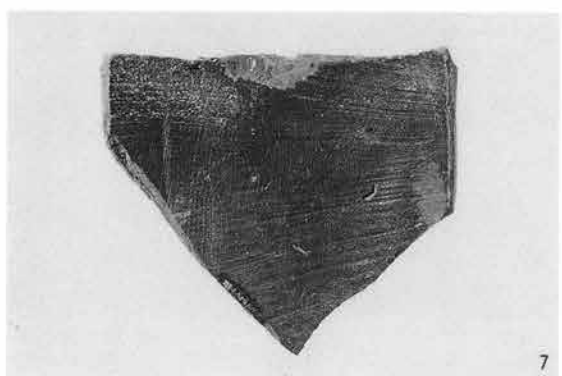
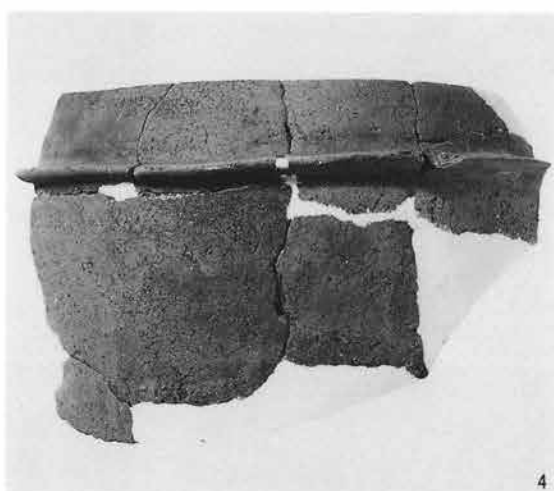
田端地区B区95号住居跡出土遺物



田端地区B区98号住居跡出土遺物



田端地区B区100号住居跡出土遺物



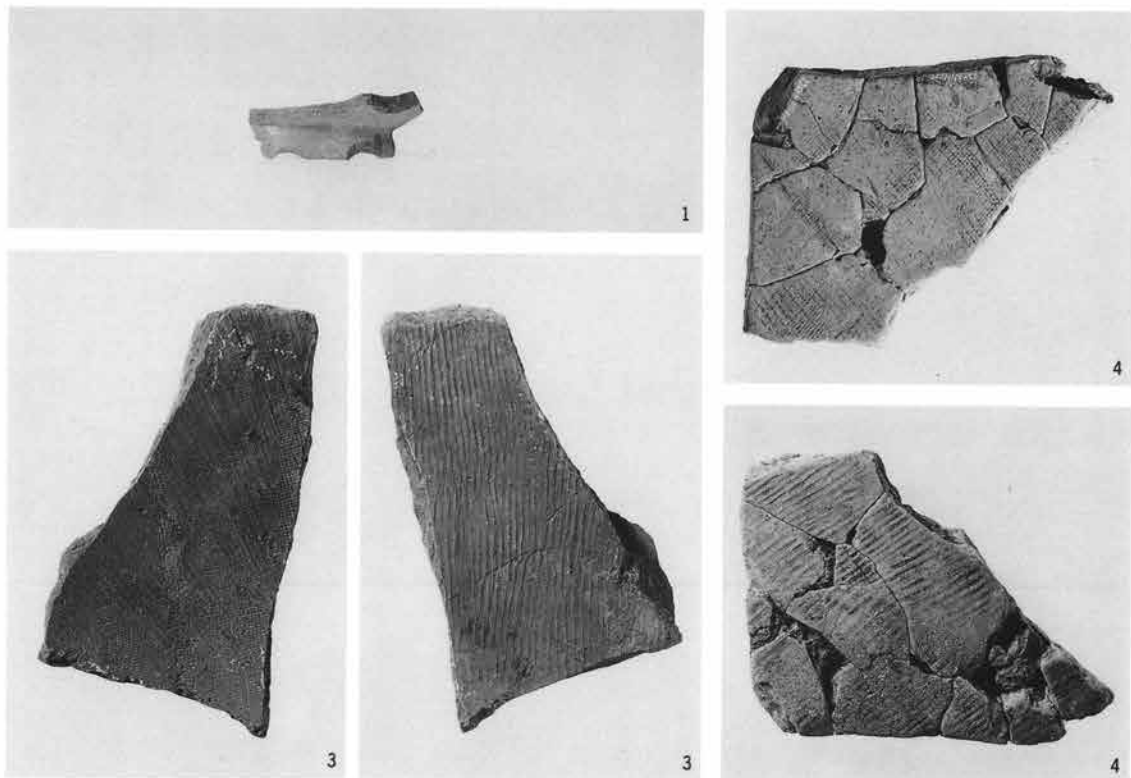
田端地区B区101号住居跡出土遺物



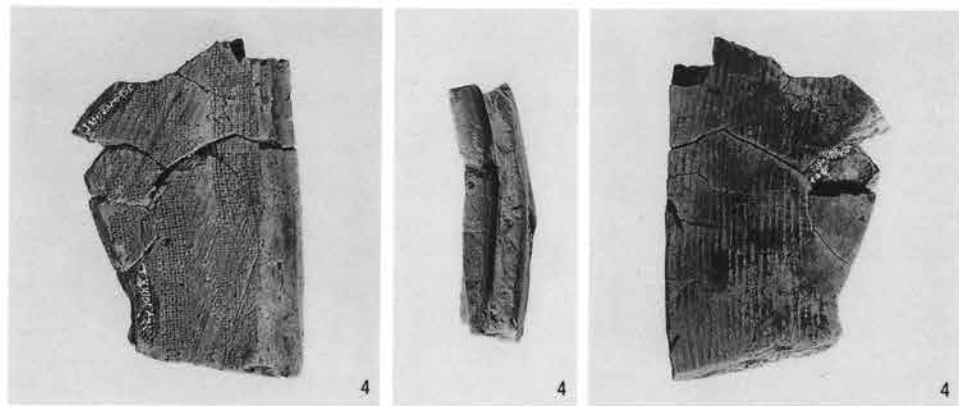
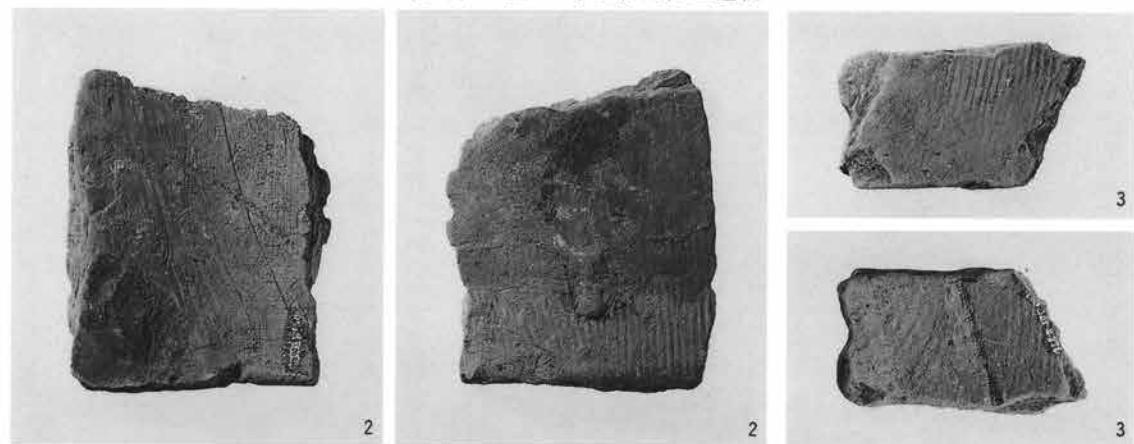
田端地区B区102号住居跡出土遺物



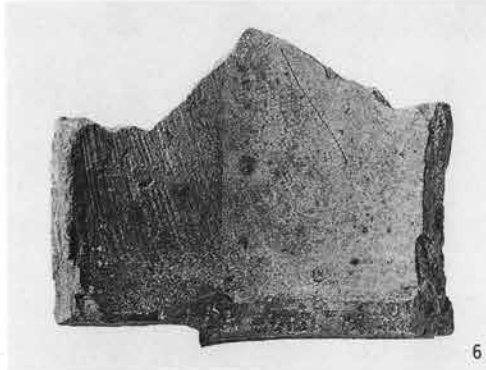
田端地区B区103号住居跡出土遺物



田端地区B区104号住居跡出土遺物



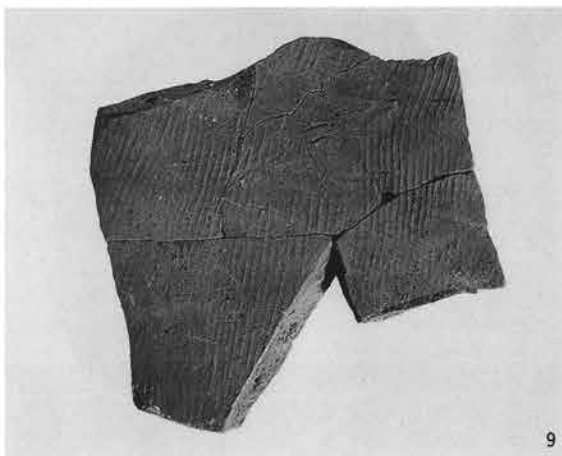
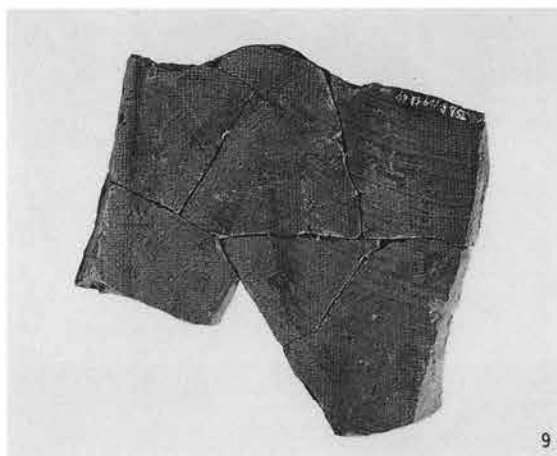
田端地区B区105号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区105号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区109号住居跡出土遺物(1)



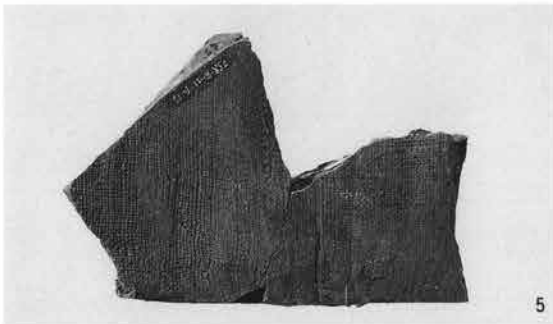
田端地区B区109号住居跡出土遺物(2)



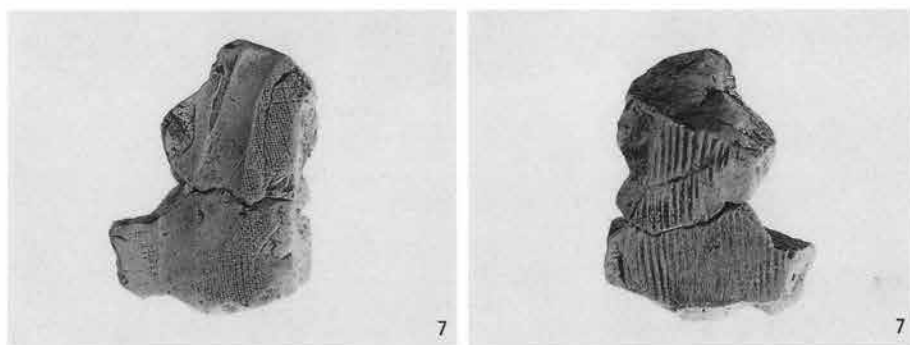
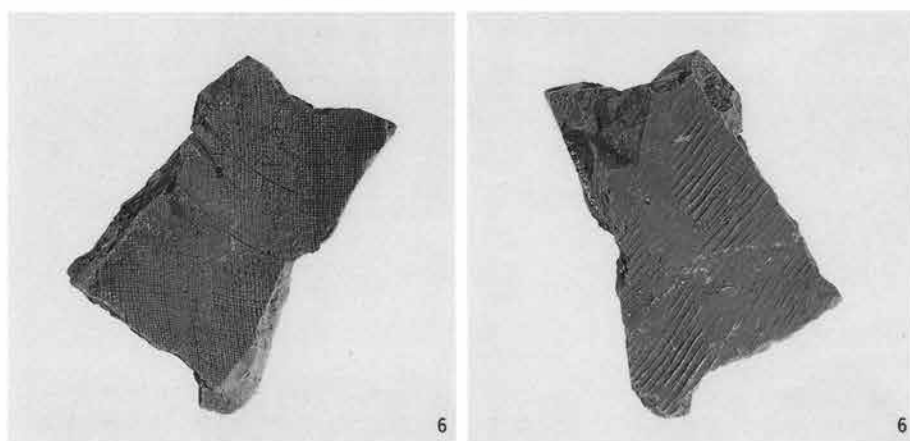
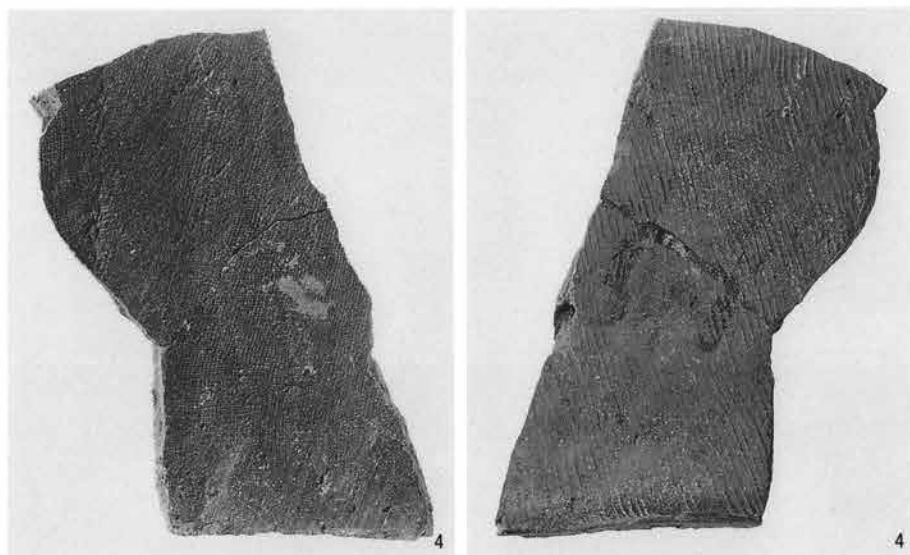
田端地区B区110号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区110号住居跡出土遺物(2)



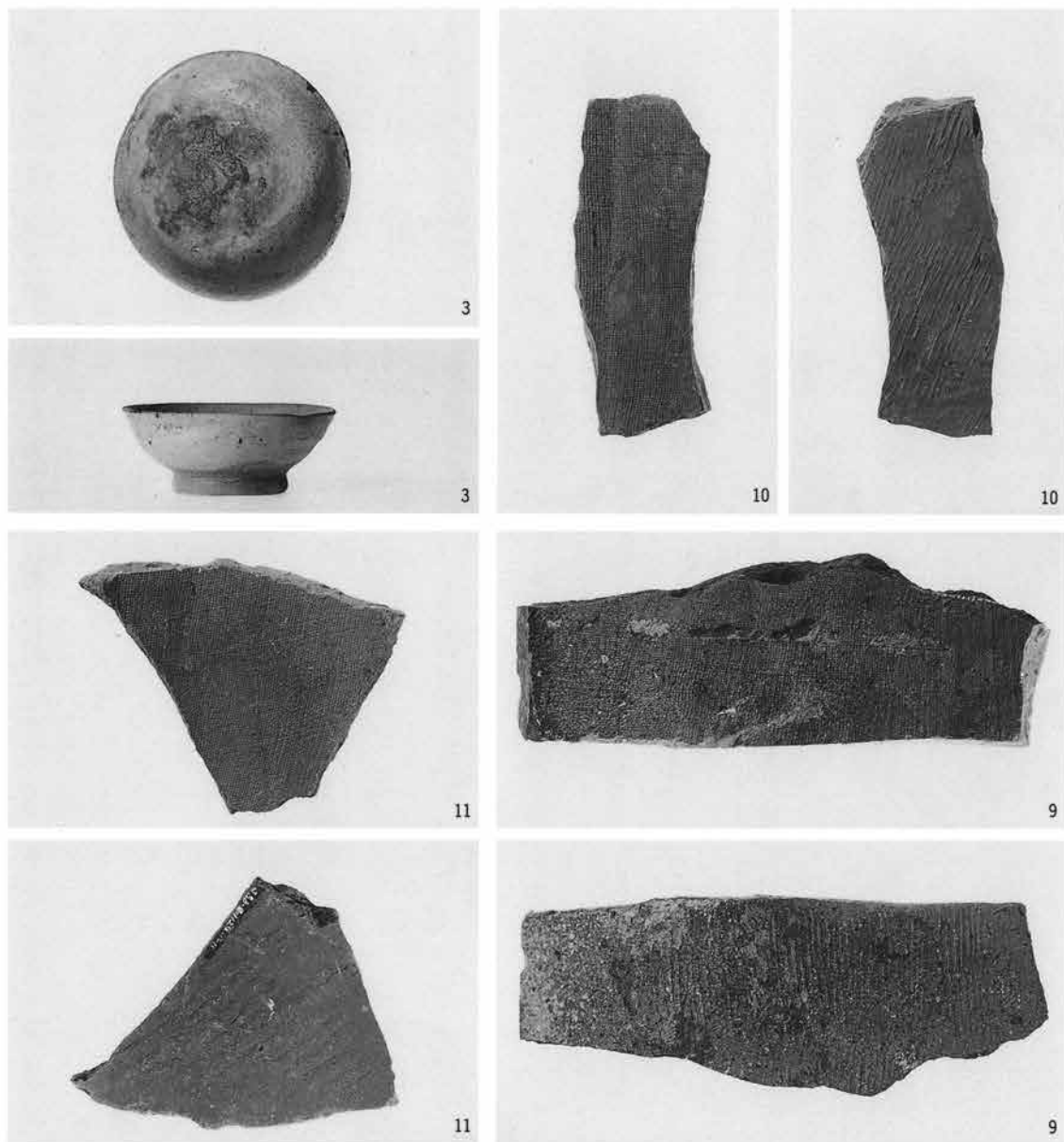
田端地区B区111号住居跡出土遺物(1)



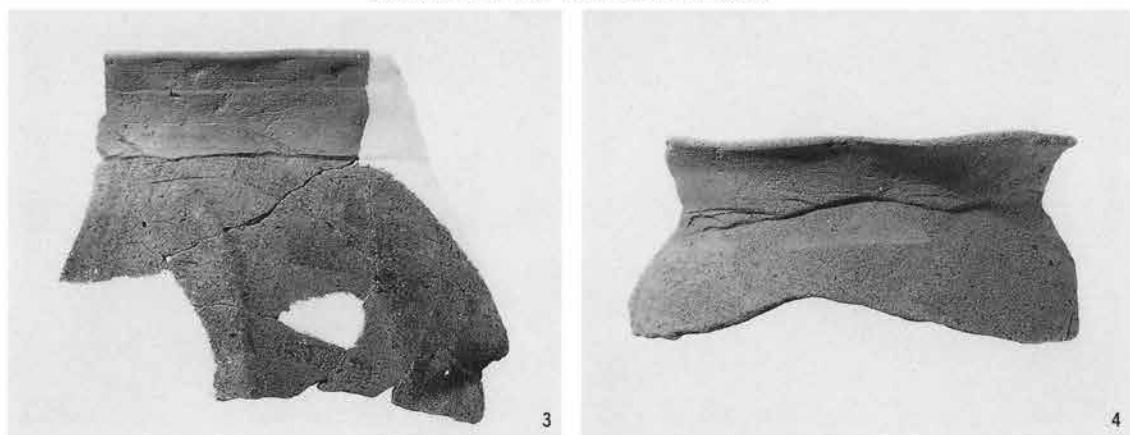
田端地区B区111号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区112号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区112号住居跡出土遺物(2)



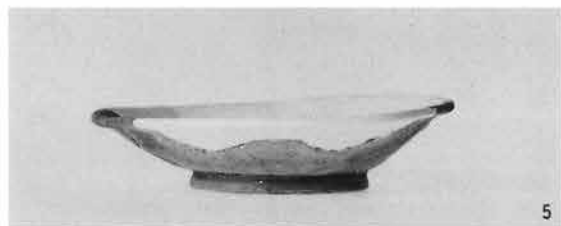
田端地区B区114号住居跡出土遺物



1



2



5



6



7



9

田端地区B区113号住居跡出土遺物



1



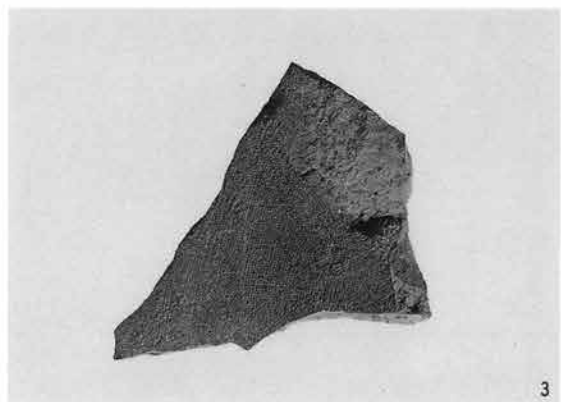
1



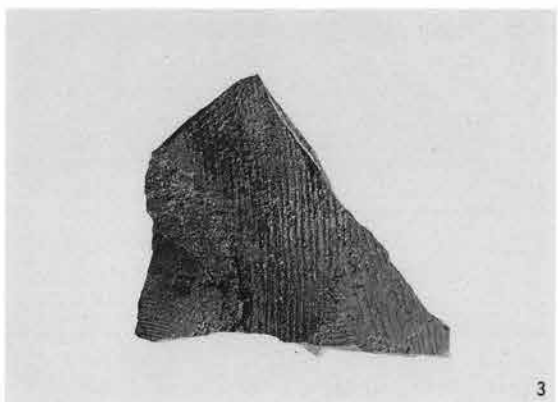
2



2

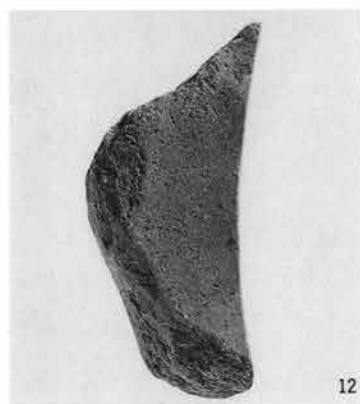
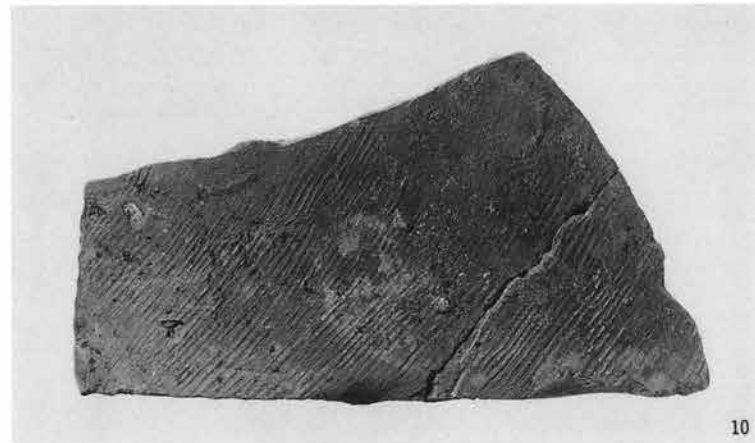
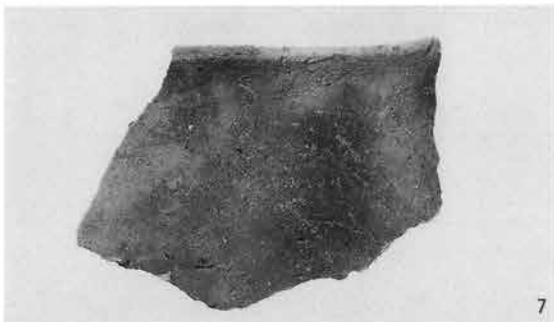


3

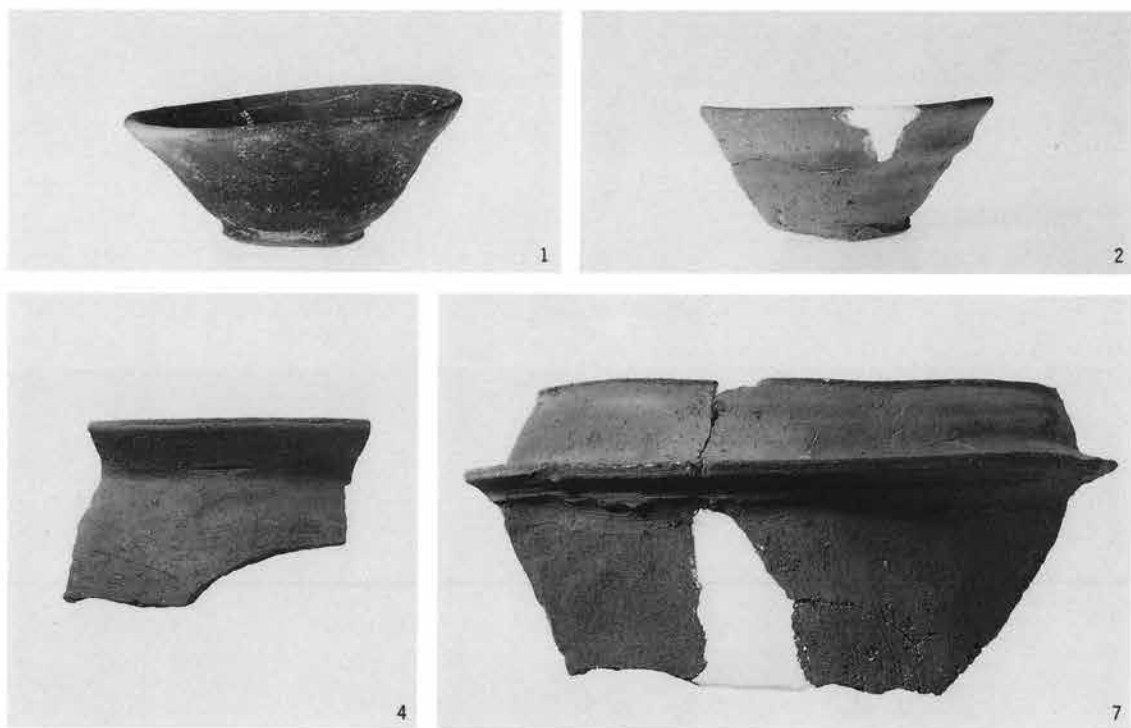


3

田端地区B区115号住居跡出土遺物



田端地区B区116号住居跡出土遺物



田端地区B区118号住居跡出土遺物

田 端 遺 跡

(第2分冊)

—上越新幹線関係埋蔵
文化財発掘調査報告第9集—

印 刷 1988年3月25日

発 行 1988年3月31日

編 集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
(0279) 52-2511(代)

発 行 群 馬 県 考 古 資 料 普 及 会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
(0279) 52-2511(代)

印 刷 朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社
